

全世界 2025 年度テーマ別評価 タイ国第三国研修に関する合同評価

最終報告書

2026 年 2 月

独立行政法人
国際協力機構（JICA）

株式会社国際開発センター

評価
JR
26-07

目 次

1. 業務の概要	1
1.1 背景と目的	1
1.2 評価対象	1
1.3 実施方法と業務フロー	2
2. 評価結果	9
2.1 対象コース別評価結果の概要	9
2.2 対象コースの総括的評価	16
2.3 評価基準別の対象コースの横断的評価	16
3. 評価結果を踏まえた改善提案	21
3.1 TCTP の実施に関する改善提案	21
3.2 TCTP のモニタリング・評価実施に関する改善提案	24
4. 結論：TCTP 事業の意義の総括と今後に向けた示唆	27
4.1 TCTP の成果を生み出した主要な要因	27
4.2 TCTP がステークホルダーに与えた影響	27
4.3 TCTP 事業の今後に向けた示唆	28

別添資料

1. TCTP 実施による変化の道筋の仮説（Theory of Change: TOC）
2. コース別概要表
3. コース別評価結果表（10 コース）
4. コース別帰国研修員サーベイ結果報告書・包括報告書
5. サクセスケースメソッドに基づく深堀インタビュー結果（No. 7, No. 10）
6. タイ研修実施機関調査報告書（非公開）
7. 多変量解析の結果
8. TCTP フォローアップ評価ガイドライン案

1. 業務の概要

1.1 背景と目的

日本は 1954 年にタイ国（以下「タイ」という。）への協力を開始した。以来、協力の範囲は、初期の電力・保健・農業といった基盤分野から、タイの発展に伴い地域インフラ・産業基盤・農村開発・水と衛生・人材育成など幅広い分野へと拡大し、日本は最大の援助国の一つとしてタイの経済・社会発展に大きく貢献してきた。1980 年代後半以降、タイは高い経済成長を達成し、1993 年には一般無償資金協力の受取国から卒業した。1994 年には日本とタイが共同で他の開発途上国への支援（第三国支援）を行う「日タイ・パートナーシップ・プログラム（Japan Thailand Partnership Program: JTPP）」が締結され、その一つの形態として、日本はタイとの間で第三国研修の実施を進めてきた。同第三国研修の開始は 1975 年にさかのぼり、以来、2025 年で 50 年を迎えるが、これまで同研修の評価は部分的に留まり、総括的な評価は実施されていない。以上の背景の下、本テーマ別評価は以下を目的として実施される。

- ① タイにおける第三国研修がもたらした成果を総括すること
- ② タイにおける第三国研修事業または他国で第三国研修事業の形成・実施監理・事後フォローを実施する際に参考となり得る教訓を導出すること
- ③ 広報資料の作成を含め、同協力の成果について対外発信を行うこと
- ④ 第三国研修の評価手法について体系化を図ること

また、本評価は、同第三国研修の過去の報告書等の文献レビュー及び参加後に一定年数が経過した帰国研修員や受入れ関係者へのインタビューをタイ外務省国際協力局（Thailand International Cooperation Agency: TICA）と共同で実施する。

1.2 評価対象

第三国研修プログラム（Third Country Training Program: TCTP）とは、ドナー国または国際機関が「ホスト」となる開発途上国に資金と専門知識を提供し、そのホスト国が他の開発途上国からの参加者向けに研修プログラムを実施する国際協力の枠組みである。TCTP は、特定の分野で優れた実績を持つ開発途上国が他の開発途上国の支援を行う「南南協力」の取組みの形態の一つとしても位置づけられる。

日本とタイの関係においては、JTPP の下で、JICA と TICA は開発パートナーとして、タイの他の機関と協力し他国の人材育成を支援しており、TCTP は、特定の国々を戦略的に支援する三角協力や、タイ人専門家の他国への派遣と並んで JTPP の主要な協力手段のひとつである。

JICA がタイとの間で初の TCTP を開始した 1975 年以来、2025 年までに、保健、農業、社会保障、経済政策などの分野において、JICA とタイの協力機関との連携により計 99 の TCTP コースが実施され、日本とタイの経験をアジア及び他の地域の途上国に普及させてきた。

本業務においては、そのうち最近終了した研修コースの中から、JICA と TICA の協議により選定された表 1 に示す 10 件のコースを分析・評価の対象とした。このうち、2 コースを対象として、帰国研修員の所在国での現地調査を含む詳細な事例分析を行うこととし、業務開始後に「Rice Production Technologies for Food Security and Sustainability of African Countries」（現地調査国：モザ

ンビーク)と「Modernization of Power Distribution System in ASEAN Countries」(現地調査国:ベトナム)が選定された。

表 1 : 評価対象 TCTP コース

No.	コース名	研修実施機関	実施期間
1	Modernization of Power Distribution System in ASEAN Countries	Metropolitan Electricity Authority (MEA)	JFY2021-2024
2	Renewable Energy Technologies and Knowledge Transfer for Strengthening and Achieving ASEAN's Sustainable Development Goals	Thailand Institute of Scientific and Technological Research (TISTR)	JFY2022-2024
3	Energy Resilience Assessment: Towards Climate Adaptable Energy Systems	National Energy Technology Center (ENTEC)	JFY2023-2025
4	Practice in Innovation and Digital Technology for Sustainable Water Management	Metropolitan Waterworks Authority (MWA)	JFY2024-2025
5	Emergency Medical Services (EMS) Medical Director Training for Pre-Hospital Emergency Care in CLMV	National Institute for Emergency Medicine (NIEM)	JFY2022-2024
6	International Road Infrastructure Development for ASEAN and BIMSTEC Networks (Phase 2)	Department of Highways (DOH)	JFY2021-2023
7	Rice Production Technologies for Food Security and Sustainability of African Countries	Kasetsart University (KU)	JFY2021-2023
8	Skill Development for Material Processing for Mekong Countries	Division of Innovation and Industrial Technology (DIIT), Department of Industrial Promotion, Ministry of Industry	JFY2015-2019
9	Workshop on Investment Promotion Policy and Enhancing Industrial Competitiveness for Mekong and South-Asian Countries	Thailand Board of Investment (BOI)	JFY2021-2023
10	Strengthening Disability inclusive Risk Reduction in the ASEAN Region	The Asia-Pacific Development Center on Disability (APCD)	JFY2021-2023

1.3 実施方法と業務フロー

(1) 調査・分析方法

本業務では、TCTP の計画・実施に関与する主体が多岐にわたることを踏まえつつ、対象とする 10 コースの成果を多面的に分析・評価するために、様々な調査方法を組み合わせて、定量・定性の両面から幅広く検証を実施した。表 2 に各調査と主な分析方法を示す。

表 2 : 調査・分析方法

調査方法	収集情報	調査モード	主な分析方法
文献レビュー	各コースの基本情報、実施実績・データ	机上調査	定性分析、データの定量分析
帰国研修員追跡サーベイ	各コース (8 コース) の	質問票調査 (オンラ	定量分析

	成果の現況	イン)	
帰国研修員追跡サーベイ＋詳細インタビュー（サクセスケース・メソッド）	各コース（事例分析対象2コース）の成果の現況、個別研修員の現状と貢献・阻害要因	質問票調査（オンライン）＋現地調査（モザンビーク）	定量分析、貢献・阻害要因の定性分析
関係者インタビュー（TICA、JICA タイ事務所、研修実施機関、送り出し国の帰国研修員・所属機関・タイ大使館、JICA 事務所）	TCTP コースの計画・実施の状況、実施プロセスにおける成功事例や課題認識	現地調査（タイ、モザンビーク、ベトナム）	定性分析

上記の調査方法のうち、対象コース研修員の帰国後の知識活用状況や所属組織への影響等の把握を目的として実施した「帰国研修員追跡サーベイ」と、同サーベイに加えて特定の帰国研修員への個別インタビューを実施した「サクセスケース・メソッド」による調査の実施概要を以下に述べる。「帰国研修員追跡サーベイ」の結果報告書は別添資料 4、「サクセスケース・メソッド」に基づく詳細インタビューの結果は、別添資料 5 に示した。

【帰国研修員追跡サーベイの実施概要】

目的：	研修員の帰国後の研修効果の発現状況の把握
調査方法：	Google Forms によるウェブ回答
調査対象：	対象 10 コースの全帰国研修員（ミャンマーを除く）
主な質問内容：	習得した知識・スキルの活用、所属組織への普及、TCTP 関係者とのネットワーク、昇進の状況等
質問票構成：	選択式回答（2～5 段階）及び記述式回答
実施期間：	2025 年 6 月～8 月
回収率：	33%

【サクセスケース・メソッドを適用した帰国研修員の追跡調査】

サクセスケース・メソッドとは、研修効果の評価において、平均的な効果向上ではなく成功事例に注目して、そこから成功要因や成功の拡大再生産のための提言を得るというアプローチである。同メソッドでは、まずは成功事例を特定するために全数サーベイを実施した上で、特定された成功事例について深堀インタビューを実施する手順を取る。本業務における実施概要は以下のとおりである。

目的：	帰国研修員の成功事例（サクセスケース）から成功の要因・拡大再生産のための提言を得ること
調査方法：	Google Forms によるウェブ回答＋現地調査における深堀インタビュー
調査対象：	対象 2 コースの帰国研修員（ミャンマーを除く）の中から、サクセスケースと特定された帰国研修員
主な質問内容：	【質問票サーベイ】成功事例の有無と概要（8 コースの帰国研修員追跡サーベイと同じ質問票を使用） 【深堀インタビュー】1) 成功事例の詳細、2) 成功要因、3) 成功拡大のための提言案

実施期間：	【質問票サーベイ】2025 年 6 月～8 月
	【深掘インタビュー】（注）
	1) 2025 年 10 月 (Rice Production Technologies for Food Security and Sustainability of African Countries コースの帰国研修員 3 名：モザンビーク)
	2) 2026 年 1 月 (Strengthening Disability inclusive Risk Reduction in the ASEAN Region コースの帰国研修員 2 名：フィリピン、ベトナム)
（注）当初は、本業務で事例分析コースとして選定された 2 コースについて、サクセスケース・メソッドを適用することを意図していたが、Modernization of Power Distribution System in ASEAN Countries コースでは追跡サーベイの回答結果から深掘インタビューの候補者となった帰国研修員の所属国における現地調査を実施することができなかったため、同コースについては同メソッドを適用した調査は行わなかった。その代替として、Strengthening Disability inclusive Risk Reduction in the ASEAN Region コースについて同メソッドを適用して選定したフィリピン及びベトナムの帰国研修員に、オンラインで深掘インタビューを実施した。	

（2）評価方法及び基準

本業務の対象 10 コースの分析・評価においては、JICA の事後評価制度の趣旨を踏まえつつ、DAC 評価 6 項目（妥当性、整合性、有効性、インパクト、効率性、持続性）に沿った評価グリッドを基本として体系的な評価を実施した。評価グリッドにおける評価設問については、特記仕様書に示された評価グリッドの参考案を基に、タイ側の事業実施の視点を反映した項目や、特に効果発現状況の把握に重点を置いて関連項目を追加するなどの修正を行った。更に、各コースの分析・評価の実施過程において、各設問の評価可能性や、効率的に TCTP 事業評価を行うための簡便化という観点から、一部見直しを行った。最終的に採用した評価グリッド（評価項目毎の評価設問）は以下のとおりである。

表 3：評価グリッド（評価設問）

評価項目	評価設問
妥当性	(1) 開発政策との整合性 ● 研修内容は相手国の開発政策及び開発計画との整合性はあるか（国・地域・セクター等の各レベル）
	(2) 開発ニーズとの整合性 ● 研修は相手国のターゲットグループのニーズに合致していたか
	(3) 手段としての適切性 ● 研修員のニーズに対して研修内容は妥当であったか ● 効果的な研修内容となるように日本側とタイ側の投入の役割分担が行われていたか。 ● アウトカム／事業目的の達成につながるようにインプット、アウトプットのロジックが適切に計画されていたか。
整合性	(1) 日本の援助政策との整合性 ● 日本の援助政策・外務省の国別援助方針との整合性はあるか
	(2) JICA 内外の事業・機関との連携 ● JICA の他事業や日本、他の開発協力機関等との連携は行われたか

評価項目	評価設問
	(3) タイの援助政策との整合性 ● タイの援助政策・方針との整合性はあるか
有効性	アウトカムの内容 ● 研修参加時に立てた目標は達成されたか。研修員は研修内容を習得したか 研修の満足度 ● 研修内容にどの程度満足したか 因果関係 ● 目標達成にどのような点が貢献/阻害要因となったか
インパクト	発現の見込み／因果関係 ● 事業実施の結果としてインパクトの発現が見られるか、あるいは見込まれるか ● 特に他の参加国や他コースの模範・参考になる成功事例が生まれたか（事例数は問わない） ● アウトカムからインパクトに至るまでの外部条件は適切に認識されているか。外部条件が満たされる可能性は高いか ● インパクト発現を阻害する要因はあるか ● プラスの影響が想定されるか？マイナスの影響についてはそれを軽減するための対策は取られているか ● 日本、タイ、対象国へのインパクト発現が見込まれるか その他インパクト ● （研修実施機関やインストラクターに与えたインパクトの有無など）
効率性	事業計画 ● アウトプットを産出するために必要な量・質の投入が計画されていたか 期間、タイミング ● 事業期間は事業計画に見合った設定となっていたか（事業の完了は計画以内であったか） ● 前提条件、インプットのタイミング・方法（調達方法を含む）は適切に計画されていたか。 ● JICA/TICA がそれぞれ実施している他の研修事業と比較して、アウトプットに照らした投入の内容・方法について優位性があるか。 実施プロセス ● 上記の効率性を高める上でどのような点が貢献/阻害要因となったか
持続性	体制面 ● ネットワークは構築されているか（帰国研修員と JICA・TICA や研修講師とのネットワーク等） ● 帰国研修員同士のネットワークは構築されているか 財政面 ● 研修の効果の持続性の観点から、予算措置は十分に講じられているか 技術面 ● 研修に伴い導入される技術は研修員やその所属先により受容され、継続的に実行されるものか アクションプラン ● アクションプランを作成した研修員は、それを実施・継続しているか 促進/阻害要因 ● 研修の成果を持続・波及するにあたってどのような点が促進/阻害要因と

評価項目	評価設問
	なったか

上記の各項目の検証結果を踏まえて評価項目別および研修コース全体に対する評価判断を示す際においても、JICA 事後評価におけるレーティングの考え方に従った。但し、後述のとおり、本業務が対象とする TCTP コースは、通常 JICA 事後評価の対象となる技術協力プロジェクト等とは異なり、JICA 外部事後評価レファレンスで規定される評価方法の全面的な採用が困難であることから、簡便化を図った。具体的なレーティングの考え方は以下のとおりである。

表 4：レーティングの考え方

【レーティングの段階数と表記】

- ・ 各評価基準のレーティングとサブレーティングは、④：「非常に高い」、③：「高い」、②：「やや低い」、①：「低い」
- ・ 総合評価は、A：「非常に高い」、B：「高い」、C：「一部課題がある」、D：「低い」

【各評価基準について】

- ・ 妥当性のサブレーティング：以下に従い、①～④で付す。
 - ④： (1), (2), (3)に対応し、他案件に示唆を与える内容である。
 - ③： (1), (2), (3)に対応している。
 - ②： (1), (2), (3)のいずれかに課題がある。
 - ①： (1), (2), (3)のいずれかに課題があり、かつ問題が生じている。
- ・ 整合性のサブレーティング：以下に従い、①～④で付す。
 - ④： (1), (2), (3)に整合している。
 - ③： (1)および(3)に整合している。
 - ②： (1)または(3)のいずれかに整合していない。
 - ①： (1)および(3)のいずれにも整合していない。

⇒「妥当性・整合性」は上記の結果の組み合わせから、①～④を付す。

「妥当性・整合性」の レーティング	組合せ [妥当性のサブレーティング・整合性のサブレーティング]
④ 非常に高い	[4, 4] [4, 3] [4, 2] [3, 4]
③ 高い	[3, 3] [3, 2]
② やや低い	[2, 4] [2, 3] [2, 2]
① 低い	[4, 1] [3, 1] [2, 1] [1, 4] [1, 3] [1, 2] [1, 1]

「有効性・インパクト」： 以下にしたがい、①～④で付す。

- ・ プロジェクト目標（初期アウトカム）がどれだけ達成されたか（但し計画値との比較ではない）を基本とするが、インパクト発現（の見込み）があるか、サクセスケースがあるかで加減点。

「効率性」： 以下にしたがい、①～④で付す。

- ・ 評価設問の「投入・アウトプットの量・質」、「実施期間・タイミング」、「プロセス」の各要素を総合的に判断する（計画値－実績値の機械的な計算はしないが、計画に満たなかった・超過した要因なども考慮して判断する）

「持続性」： 以下にしたがい、①～④で付す。

- ・ 評価設問の各要素を総合的に判断する。

【総合評価について】

以下を考慮し、A～D で付す。

- ・ 「妥当性・整合性」、「有効性・インパクト」、「効率性」、「持続性」のうち、いずれか 1 つでも「1」がある場合 ⇒総合レーティングは「D」
- ・ 上記以外の場合には、各基準のレーティング結果を総合的に判断し、総合レーティングを付す。
- ・ 但し、「有効性・インパクト」において特筆すべき成功事例が認められる場合には、総合レーティング判断で考慮する（加点的に判断する）。

(3) 評価の制約・留意点

本評価の実施においては、主に以下の制約があった。

1) 入手可能データ・情報の不足

評価チームは、評価対象とした TCTP の 10 コースの実施計画や内容、実施状況などの関連情報やデータの収集に努めたが、これらの情報・データは統一された内容、形式で一元的に保管されているわけでない。各コースは異なる時期にそれぞれの研修実施機関により実施されており、入手できる情報・データの範囲や質にはばらつきがあった。

帰国研修員追跡サーベイに必要となる各コース参加者のコンタクト先についても、入手した研修実施時の E メールアドレスが現在では使用されていない等の理由で、サーベイの依頼通知を届けられない帰国研修員がいた。

2) 研修実施により期待される成果に至るロジックが明示されていない

TCTP 各コースの計画時の R/D や募集前の GI には、そのコースの研修目標とともに研修プログラムの概要が示される。一方、JICA の技術協力プロジェクトで利用されているような Project Design Matrix (PDM) に基づく投入からアウトプット、更にアウトカム（プロジェクト目標や上位目標）に至る一連のロジック、あるいはそれに類する形で、研修の実施から期待される成果に至る道筋が必ずしも明示されていないことから、研修実施が意図した変化をもたらすことで成果が達成されたのか、そうでない場合にはどこに理由があったのかを検証・評価することが難しい。その対応として、本評価では、評価チームが、TCTP による効果発現を期待する短期から中長期までの変化の道筋をモデル化したセオリーオブチェンジ（TOC）を仮説として設定し、それ念頭に置きながら、質問票の設計やアウトカムの確認、貢献・阻害要因の検証等における作業枠組として利用した（仮説 TOC は別添資料 1 参照）。

3) 成果目標にかかる基準値や目標値、指標の未設定

上記の 2) と関連して、TCTP においては、コース計画時にアウトカム（プロジェクト目標や上位目標）の基準値や目標値、指標が一般に設定されておらず、目標値と実績値の確認・比較により定量的に成果達成度を判断することができない。本評価においても、JICA の事後評価の基本的な評価手法である「事前一事後比較」を基本的方針とするが、こうした制約があることを考慮した上で、既述のとおり多様な調査・分析方法から得られた情報を踏まえて評価判断を行った。

(4) 作業スケジュールと成果品

本業務では、上述のとおり、TCTP10 コースの成果を多面的に把握・評価するとともに、調査の過程で収集した関連情報を踏まえて、TCTP 事業の成果の広報や今後の評価実施に資するべく、広報マテリアルおよび第三国研修フォローアップ評価ガイドライン（別添資料 8）を取りまとめた。また、各研修実施機関の TCTP コースの評価・フォローアップの現状を分析した報告書（別添資料 6：非公開）を別途作成した。更に、帰国研修員へのサーベイ結果から得たデータを利用して、第三国研修の有効性・インパクトを定量的に説明するための多変量解析の試行を追加的に行った（別添資料 7）。本業務において実施した主要な作業と実施時期を以下に示した。

表 5：作業スケジュール

			2025年										2026年	
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	
国内文献・分析・評価業務	(1)	業務計画書の作成												
	(2)	基本文献レビュー、データ収集・整理												
	(3)	評価手法の検討、マテリアル(ツールキット)作成												
	(4)	研修コース(8件)の分析・評価												
	(5)	研修コース(2件)の事例分析・評価												
	(6)	【追加提案】多変量解析の試行												
現地調査	(7)	現地調査(タイ)												
	(8)	現地調査(事例分析2か国:モザンビーク、ベトナム)												
国内整理	(9)	広報マテリアルの作成												
	(10)	最終報告書・第三国研修評価ガイドラインの作成												
		報告会・協議												

(5) 業務実施体制

本合同評価は、JICA 評価部、JICA タイ事務所、TICA の連携の下で行われた。これらの関係者は、対面やオンラインでの協議を逐次実施し、評価方針や調査進捗を確認するとともに、モザンビークでは JICA と TICA が合同現地調査を行った。

本評価の具体的な業務実施においては、以下のメンバーで構成する（株）国際開発センターのチームが受託、実施した。

長谷川祐輔 （株）国際開発センター 評価部主任研究員

佐々木亮 （株）国際開発センター 評価部主任研究員

末吉由起子 （株）国際開発センター 評価部主任研究員

2. 評価結果

2.1 対象コース別評価結果の概要

表 6 に、本業務が対象とした 10 コースの評価結果の概要を示す。各コース内容の概要表は別添資料 2、評価結果の詳細を記載した評価結果表は別添資料 3 を参照のこと。

表 6：各コースの評価結果の概要

	(No.1) Modernization of Power Distribution System in ASEAN Countries	(No.2) Renewable Energy Technologies and Knowledge Transfer for Strengthening and Achieving ASEAN's Sustainable Development Goals	(No.3) Energy Resilience Assessment: Towards Climate Adaptable Energy Systems	(No.4) Practice in Innovation and Digital Technology for Sustainable Water Management	(No.5) Emergency Medical Services (EMS) Medical Director Training for Pre-Hospital Emergency Care in CLMV
妥当性	④ 参加国の政策・ニーズに合致。 幅広い研修テーマの中で、先進技術紹介の一部を日本企業関係者が担う	④ 参加国の政策・ニーズに合致。 日本の専門家を活用した最先端技術および実務的な内容となるような工夫	④ 参加国の政策・ニーズに合致。 JICA はコース設計に参画、日本企業・専門家の紹介等により関係者の相互学習の機会を創出。	④ 参加国の政策・ニーズに合致。 気候変動という新たな課題に対応したコース内容、日本企業への訪問等。	④ 参加国の政策・ニーズに合致。 JICA と NIEM が実施したニーズ調査を基礎に、技プロと並行して TCTP を計画した。日本の専門家を講師で招へい。
整合性	③ 日本・タイ側の開発協力政策と整合。 過去の TCTP の実施経験を踏まえたコース設計だが、日本との直接の連携は認められない	③ 日本・タイ側の開発協力政策と整合。 過去の実施コースを踏まえたコース計画	③ 日本・タイ側の開発協力政策と整合。 日本の事業との直接の連携は認められない	④ 日本・タイ側の開発協力政策と整合。 日系企業への訪問・講師招請による連携	③ 日本・タイ側の開発協力政策と整合。 日本の事業との直接の連携は認められない
妥当性・整合性	④	④	④	④	④

有効性・インパクト	③ 研修科目および一般的知識・スキルの両者について、9割以上の研修員が向上。 帰国後の知識・スキル適用事例も多数挙げられたが、業務内容との不一致や、予算・機材等の制約から実践が難しいとの指摘も見られる。	④ 知識・スキルの習得を着実に達成。帰国研修員は、それを実務・研究・教育活動に活用しており、具体的な成功事例も確認された。 研修運営を通じた実施機関や講師陣の能力強化といった副次的効果も認められる。	④ 知識・スキルの習得を着実に達成。帰国研修員による具体的な成功事例も確認された。 講師にとっても、気候変動適応という比較的新しいテーマで専門性を高めることで、キャリア形成の機会になっている。	③ 研修員の知識・スキルの習得はおおむね達成され、多くが同僚との共有や自身の業務への適用を図っているものの、アクションプランの実施状況の回答などからインパクト発現の見込みは中程度。	③ 研修員が一定の知識・スキルを確実に習得した。サーベイ回答者全員が帰国後に知識を活用し、NIEMのネットワーク強化という波及効果も確認されるが、回答率が低く情報は限定的である。
効率性	③ 参加人数は計画どおり、コロナ禍による遅れがあったものの、計画に沿った回数が実施された。研修期間が計画より短縮されたことにより研修成果に多少の影響を及ぼした可能性があるが、投入の質を高める工夫が見られた。	② 参加人数は計画を下回ったが、研修期間・回数等はおおむね計画どおり実施されている。十分な募集期間の確保、日程調整負担が大きいなどの点で改善余地が認められる。	② 参加人数は2年次までは計画を大きく下回った。まだ全研修が完了していないため、計画と実績の比較からの効率性の分析には一定の制約あり。研修員募集段階でのTICAから研修実施機関への情報共有などで改善余地がある。	③ 参加人数は計画にやや満たなかったが、計画どおりの期間で実施された。研修実施機関の外部資金受け入れの明確な規定がないこと、TICAやJICAとの支出規則が異なっているなど財務管理上の課題が指摘された。	② 参加人数が計画を下回り、予算実績データが入手できなかったため、検証に制約あり。研修員選定の調整、財務管理、英語でのコミュニケーション、関係機関間の調整など運営面の課題が指摘された。

持続性	② 体制面では研修員の自発的なネットワークが形成されているが、積極的な関係維持の仕組みはない。財政面では持続性確保のため特段の予算の裏付けはない。技術面では、帰国研修員レベルでは知識活用の継続は見込まれるものの、所属先の組織レベルで活用の見込みを判断する十分な情報は得られなかった。	② 体制面では研修実施機関による体系的なフォローアップ体制が未整備。財政・技術面ではフォローアップ専用予算の不足、機材・技術的能力の制約により、帰国後アクションプラン実践率は低く、研修成果の継続的活用に課題が認められる。	② 帰国研修員間に一定のネットワークは存在するものの、日本人講師を含む関係者との継続的なネットワークや体系的なフォローアップは限定的。アクションプランの実施にも予算不足や所属組織からの支援欠如など制約が指摘されている。	③ 帰国研修員の間でネットワークが形成されている。また、2年間の研修終了後に、フォローアップ研修が計画されており、体制面・技術面での持続性を高めている。フォローアップ研修後の資金面や技術面での持続性については、現段階では判断ができない。	② 少数の帰国研修員については一部のコミュニケーションが確認されたものの、回答者数が限られており、帰国後ネットワーク形成の実態を十分に把握できなかった。研修後の体系的なフォローアップの仕組みはなく、入手情報に限界があった。
総合評価	B	B	B	A	B

	(No.6) International Road Infrastructure Development for ASEAN and BIMSTEC Networks (Phase 2)	(No.7) Rice Production Technologies for Food Security and Sustainability of African Countries	(No.8) Skill Development for Material Processing for Mekong Countries	(No.9) Workshop on Investment Promotion Policy and Enhancing Industrial Competitiveness for Mekong and South-Asian Countries	(No.10) Strengthening Disability inclusive Risk Reduction in the ASEAN Region
妥当性	④ 参加国の政策・ニーズに合致。 第3バッチよりトンネル機材の講師を日本人専門家が務めた。	④ 参加国の政策・ニーズに合致。 事前のニーズ調査を実施（過去のTCTP実績あり）	③ 参加国の政策・ニーズに合致。 日タイの特段の役割分担は認められなかった。	④ 参加国の政策・ニーズに合致。 ターゲットのニーズ：GIで具体的に研修員を絞り込み	④ 参加国の政策・ニーズに合致。 役割分担：日本の資金支援に加えて、リソースパーソンによる技術的支援
整合性	④ 日本・タイ側の開発協力政策と整合。 本コースと並行して道路アセットマネジメントに係るTCTPを実施中であり、内容面で相互補完を意図している。	④ 日本・タイ側の開発協力政策と整合。 JICA等による国際イニシアティブであるCARDに沿った研修コースと位置付けられている。	④ 日本・タイ側の開発協力政策と整合。 JICA事業との連携は認められないが、ドイツ政府と共同で設立された技術研修機関が研修を提供。	④ 日本・タイ側の開発協力政策と整合。 日本メーカーの視察あり。	④ 日本・タイ側の開発協力政策と整合。 日本のスキーム連携：JOCV派遣、過去のTCTPの実績あり
妥当性・整合性 SR	④	④	④	④	④

有効性・インパクト	④ 大多数の研修員が知識・スキルを顕著に向上させた。帰国後に多くが同僚との共有や、自身の業務への適用を図っており、いくつかの効果発現事例が見られる。研修実施機関（DOH）の国際研修の運営経験とネットワーク拡大にも寄与している。	③ 研修員は知識・スキルの習得を達成した。その適用についても多数のサクセスケースが確認されたが、予算制約等によりアクションプランの実行率は低い。報告されたサクセスケースから、最終アウトカムと想定されるマクロレベルでのアフリカ・地域の生産向上への貢献は明らかではない。	③ 受講終了時の知識習得度および研修員サーベイの自己評価からおおむね知識・スキル習得を達成した。帰国後に、多くの回答者が同僚との共有や自身の業務への適用を図っている。しかし、回答数が限定的であることや、具体的な適用事例の情報が得られなかったことから、インパクト発現の見込みを判断できない。	③ 知識・スキルの習得を達成した。帰国後の業務への知識適用や同僚への共有が行われているが、回答者が少数にとどまり、具体的事例の情報は入手できなかった。副次的インパクトとして、研修内容とは別に研修員が参加したタイの投資家とのマッチングセッションにより、研修員の所属国への投資につながる事例があった。	④ 帰国後多くの研修員が知識・スキルを職場や地域に還元し、DIRR の視点を組織計画に取り入れたり、知識共有や普及活動、教材制作、更にはドナー支援を得た具体的な事業展開につなげたりするなど、実践的な成果が確認された。本研修はほぼ同一の研修員に対し 3 年間継続的に実施したことで、研修員間に信頼関係が構築された。
効率性	③ 各バッチの研修員数は計画数に満たなかった。一方、参加者中心の視点に立ったカリキュラム設計が取り入れられるなど、投入の質を高める工夫が見られた。	③ 参加人数はおおむね計画どおりで、研修費用も計画どおり支出された。各バッチの実施タイミングはコロナ等の影響を受けつつも計画どおりの回数が実施された。一方、最適といえない季節の実施と	③ 参加人数は一部バッチで計画に最大 3 割満たないことがあったが、おおむね計画数に近かった。各バッチの研修予算の支出実績は計画額の範囲内であった。研修機関では、より十分な募集期間の必要性	③ 支出実績は計画額を大幅に下回ったが、東ティモールからの研修生派遣が中止されたことがその一因と考えられる、一方、研修機関は十分な準備期間をかけて、国内関係省庁との連携の下で予定ど	③ 参加人数は計画を下回り、研修費は計画を上回ったが、コロナ下でもオンライン開催を活用し、おおむね計画どおり実施された。募集手続に時間を要するなど制約はあるが、障がい者とそうでない者が

		なった年があった。	を度々指摘していた。	おりの期間で実施された。	共同で運営に関わるなど、投入の質を高める工夫がある。
持続性	② 帰国研修員の自発的なネットワークが形成されているが、特段の関係維持の仕組みはない。財政面では持続性確保のため特段の予算の裏付けはない。技術面では、帰国研修員レベルでは知識活用の継続は見込まれ、所属先の組織レベルでも施策を推進している事例が一部見られるものの、技術活用の見込みを全体的に判断する十分な情報は得られなかった。	③ 帰国研修員の自発的なネットワークが形成されており、研修実施機関はバッチ毎にソーシャルメディアでグループを作りネットワークを維持している。過去のTCTP 実施時と、2025年にフォローアップ調査を実施し、帰国後活動の持続性を高める取り組みを行った。一方、財政面の制約を抱える帰国研修員が多く、フォローアップの経常的な予算はない。	② 研修実施機関と帰国研修員とのネットワーク手段はあるが、積極的なフォローアップの仕組みはない。財政面では、持続性を確保するための活動の予算の裏付けはない。技術面では、帰国研修員レベルでの知識活用の継続は一定程度見込まれるものの、組織レベルにおける活用見込みを判断する十分な情報が得られなかった。	② 少数の回答によると、帰国研修員間で頻繁にコミュニケーションが図られている。帰国研修員が自国への研修実施機関の代表団訪問をホストする形でのネットワーク維持が確認された。他方、研修実施機関による体系的なネットワーク確立やフォローアップシステムがない。回答者数の制約から、技術面、財政面での十分な情報が得られなかった。	② 同じ研修員への3年間の連続研修とGoogle Spaceを通じた交流により、帰国研修員間の強い信頼関係が形成され、DIDRRの重要性や障がい者をパートナーと捉える意識が定着しつつある。一方で、研修後のネットワーク維持やフォローアップは予算や人事異動に左右されており、制度化が今後の課題である。
総合評価	A	A	B	B	A

注 ④：「非常に高い」、③：「高い」、②：「やや低い」、①：「低い」

A：「非常に高い」、B：「高い」、C：「一部課題がある」、D：「低い」

2.2 対象コースの総括的評価

評価対象コースの総合評価は総じて高く、4 コースが「非常に高い」、6 コースが「高い」と判断された。すなわち、TCTP 全体として、プログラムの計画・実施に十分に高い評価が与えられる。「非常に高い」および「高い」と判断されたグループ間では、必ずしもコースの計画・実施状況に顕著な差異が見出されたわけではないが、前者のグループについては、研修員帰国後の知識・スキルの実践的な活用例が報告されていたり、質の高い投入が行われているなどの要素が関わっているものが比較的多い。一方、情報入手の制約から判断を留保せざるを得なかった項目があることにも注意が必要である。次項で、評価基準別に対象コースの横断的評価の結果を示す。

2.3 評価基準別の対象コースの横断的評価

(1) 妥当性・整合性

「妥当性・整合性」については、全てのコースについて「非常に高い」と判断した。

このうち妥当性については、いずれのコースも、R/DやGIにおいて対象国や地域の開発政策等を踏まえ、開発ニーズに応じたターゲットが設定されている。また、TCTP の特質である日本とタイの共同プログラムであることを反映して、日本側は資金支援のみならず、コース設計や先進技術分野の講師派遣などの役割分担が考慮されていることがほぼ全てのコースで確認された。

整合性については、JTPP の下で、両国がパートナーとして近隣諸国や ASEAN、更にそれ以外の国・地域への支援を進めるという政策に則って各 TCTP コースは行われている。JICA 内外の他事業との連携という点では、当該コースとの連携の意図が明示された文書や情報は認められなかったが、対象コースと並行して別の TCTP コース（実施中。今回評価の対象外）を実施し、内容面で相互補完を図っている事例（No.6 International Road）や、研修実施機関に派遣された海外協力隊員がコースのフォローアップを担っていた事例（No.10 Disability inclusive Risk Reduction）が確認された。また、研修実施機関の中には本評価対象のコースの実施以前より、長年にわたり TCTP を実施してきた機関、あるいは過去に JICA の技術協力プロジェクト等の協力経験がある機関も多く、過去の協力経験が当該コースの実施に役立っている、という声が聞かれた。

(2) 有効性・インパクト

「有効性・インパクト」については、4 コースについて「非常に高い」、6 コースについて「高い」と判断した。帰国研修員サーベイより、研修科目および一般的な知識・スキルの習得については、全てのコースにおいて大多数の研修員が達成し、自身の業務への適用や同僚への共有を図っている。しかし、帰国後の予算制約や異動等による業務内容との不一致などにより、活動継続に困難を抱える者が多いことが窺われ、アクションプランの実行率が押しなべて低いこともそれを裏付けている。また、いくつかのコースでは、回答数の制約から、具体的な成功事例の確認や、所属組織へのインパクトの発現状況やその見込みが判断できなかった。

一方、顕著な成功事例も確認することができた。いくつかの例として、No.6（International Road）では、教育機関の講師として道路インフラの理論に加えて、研修で学んだ実践的事例や国際的視点を加えて自身の講義内容の質を高めた。No.7（Rice Production Technologies）では、タイ

で学んだ知識・技術を適用して、担当地区における米生産を増加させた。No.10（Disability inclusive Risk Reduction）では、DIDRR の視点を帰国後に州レベルの計画に取り入れたり、他のドナー支援を得て具体的な事業展開につなげた。

また、その他のインパクトとして、研修実施機関の研修運営能力の強化やネットワークの拡大、新たな開発課題に対応したテーマに取り組むことによる講師の専門性向上、などが確認された。

有効性に関して、研修目標（初期アウトカム）である研修員の知識・スキルの習得を達成する上で、その貢献要因と阻害要因として、帰国研修員サーベイの回答や研修実施機関の報告書およびインタビュー、現地調査における情報収集などから得られた主な点は以下のとおりである。

表 7：研修目標達成の貢献要因・阻害要因

貢献要因
● 講師の高い専門性 ➤ 基本的原理から個別分野、新技術分野まで幅広いコース内容に対応して、研修実施機関で実務に携わる技術者に加えて、日本企業や大学のリソースなどを講師陣とした ➤ 講師は、日本、台湾、タイなどの国から参加するこの分野の第一線の医師や講師であり、通常では受講が困難なコースを体験できる貴重な機会であった ➤ カリキュラムは研修プログラムの目的と応募書類の事前確認などから得た参加者のニーズに基づき、学習者中心の視点に立って設計された ● コース設計 ➤ 実践的なデモンストレーションや現地視察の組み込みが学習体験を強化し、参加者の理解を一層深めた ➤ 研修員同士の絆や信頼感を高めるコース設計。例えば、あるコースは 2 週間の研修を 3 回、3 年間にわたり継続することで、研修中には研修員同士が朝から晩まで共に過ごし、アサインメントなどにも共同で熱心に取り組んでいる。そのことが、強いコミットメントと後のネットワーク強化に繋がっている。 ➤ 参加国の一つとしてタイ人研修員を受け入れたコースでは、それらの研修員が、現地視察等における研修運営のサポートや、他国参加者がタイの文化や社会をより身近に感じられるよう支援する案内役としての役割を果たした。 ● 充実した研修施設と活動内容 ● 研修生の高い意欲 ● スケジューリングに沿った準備・実施 ● 研修の内容（AI などデジタル技術の利用）の魅力 ● 研修の目的が明確であること、地域の近接性や気候条件の類似性がある中で開発状況が先行するタイというサクセスケースから実例を学べること
阻害要因
● 研修員によっては言語（英語）に問題がある ● 一部の参加者は専門的な研修内容を十分に理解・活用するための学術的または技術的背景を持ち合わせておらず、その結果、関与度の低下や研修後の知識移転に困難を生じている ● 研修員の所属する各国の状況の違いが、研修内容の理解や効果的な応用を妨げる要因となった ● 幅広い研修内容に対して研修期間が短すぎる、また個別の講義内容の量が多すぎるために講

師が全てを説明できないことなどから、研修員の十分な理解が阻害された可能性がある

- 参加各国毎に人数枠が決まっており、各国間での調整ができないことから、結果的に募集人数に満たないことがあった

(3) 効率性

「効率性」は 7 コースが「高い」、3 コースが「一部課題がある」とした。本評価対象の 10 コースのうちの多くは、コロナ禍で国際移動に大きな制約があった時期に計画・実施されたことなどから、当初計画から年次が変更・延長されたものが散見される。そうした状況においても、計画どおりの参加人数を確保したコースと、そうでないコースの両者があった。その一方で、研修実施回数や内容については、オンライン開催の活用などを通じておおむね計画どおりに実施された。研修費用の支出実績額の詳細情報が入手できなかったコースが多いが、JICA と TICA のコスト負担は実行されており、上述のとおり実施回数や内容に大きな差異があったコースはないことから、計画額から大幅な支出超過は生じなかったと推察される。

また、いくつかのコースにおいて、投入の質を高める工夫が見られた。例えば、No.6 (International Road) では、研修実施機関が外部講師を招く際に、研修員の多様な学びが促進されるような研修方法を使用するようにガイダンスを行った。

以下に、TCTP コースの効率的な実施に影響を与えると考えられる一連の実施プロセスについて、主に研修実施機関や現地調査での関連機関等から得た現状認識や課題に関する主要なコメントを「実施全般」、「募集・選考プロセス」、「モニタリング・評価・フォローアップ」に分けて整理した。

表 8 : TCTP コースの実施プロセスに関する現状・課題

実施全般
1. プロセス全体及び資金取扱いに関するガイドラインや作業手順の明確化の必要性 ● TCTP の手続きはしばしば複雑で時間がかかる。例えば、GI や資金準備に関する明確なガイドラインがない。研修開始前に、JICA、TICA、研修実施機関が集まり、プロセス全体に関する共通理解を確認・共有する機会があれば有益だろう。 ● TICA は、研修員募集・選考プロセス全体に関する具体的なフォーマットや標準作業手順 (SOP) を提供していない。例えば、General Information の内容範囲や、どの予算を JICA または TICA が担当するかについての明確な指示がない。 ● TICA および JICA からの財政支援は、TICA の財務規則 (財務省の規則を含む) に従っているが、政府機関や国営企業ではなく法人格を有する国家機関は異なる規則を有するため、JICA や TICA の予算を管理することは職員にとって困難であった。特に、TICA に対して具体的なガイドラインの提供を要請したものの、提示されなかった。 2. 事務処理の体制や規定について ● 実施全般における TICA との調整について、TICA では経理関連の担当者、書類関係の担当者など分担が細分化されており、若干不便を感じる。また、細かい事務処理の決まりがある。例えばロジスティクス面で、研修終了後の研修員の帰国日のフライト時間が早い便でなければならないことから、研修員は早朝にホテルを出発しなければならない点など、改善が可能と思われる。

3. その他

- コース開催時期の日程調整に苦勞することが多い。研修実施機関と TICA の希望する時期の調整や、JICA の会計年度に合わせる必要から、調整負担が大きい。
- TCTP は国際協力の取り組みであるため、英語でのコミュニケーションが必須であり、これが研修実施機関の職員にとって大きな負担となった。初回コースでは、他部局の職員を参加させることに大変苦勞した。その後は、当初から積極的に働きかけ、説得する必要があった。

募集・選定プロセス

1. 外交ルートを通じた募集・選定プロセスに係る現状、利点、課題

- 募集段階において、TCTP ではタイの外交チャンネルを利用できるため、研修実施機関が直接各国の大使館に依頼状を送る必要がないことはメリットである。
- TICA は外交ルートを通じて研修生を募集し、航空券、送迎、保険など、研修生の受け入れプロセスの資金援助と管理を行う。こうした TICA のサポートは重要である。
- 一方、各国のタイ大使館を通じた外交ルートに則った募集・選定プロセスを経るため、対象となる研修員に到達するまで時間を要する。一部の参加者は応募書類をオンタイムで出していない。研修参加者がコースの情報を知るタイミングが遅く、所属組織の許可を短期間で得ることに苦勞したことも報告されている。GI の発出時期を少なくとも研修開始の 3 か月前に早めるべき。
- タイ大使館経由で通知された募集情報が研修実施機関が期待する適格な人材に届かない場合があることを多くの研修機関が指摘している。その対策として、複数の研修機関が過去の研修参加者など独自のネットワークを通じて非公式な募集奨励を行っている。TICA がタイ大使館に GI を送付する際にターゲット機関を明確化しておく必要性も指摘された。
- 研修員の募集・選定プロセスでは、TICA は各国のタイ大使館宛の通知文書や、その後の各省庁や関係者への通知文書を研修実施機関に共有していない。大使館から各省庁宛の通知文書が TICA から共有されれば、研修実施機関は自らのネットワークを通じて適切な人物に情報を伝えることが可能。
- 一部の国ではタイ大使館が存在しないため、潜在的な参加者へのアプローチの課題が生じる可能性がある。JICA タイ事務所によると、過去の第三国研修実施の際にそのようなケースがあり、現地の JICA 事務所がタイ側から問い合わせを受けて対応したことがある。上記のようなアプローチの課題に加えて、ビザ手続きなどの遅延が生じる可能性もある。

2. その他

- 選定プロセスにおいて、各国 5 名ずつの募集であるところ、国によってはそれに満たない一方で、別の国では 6 名の応募があっても全員を選定できない。より柔軟な選定方法を採用することができれば、質の高い参加者を得ることが可能かもしれない。
- TCTP の参加資格は極めて厳格である。適切な研修員の人数や知識レベルを設定することはコース設計に不可欠であるが、TICA は候補者の資格審査を支援し、なぜ特定の候補者が不適格かの理由を提供しており、有益だった。
- 一方、GI に応募者の資格を記載していても、対象国政府の中で何らかの内部力学があって、ノミネートされる人がそれに合致していないケースがある。
- TCTP という名称が Third World Country をイメージさせるので、GI を受け取った一部の国の窓口機関が対象機関に配布しようとしめない問題があり、名称を変えるべきであるとのコメントが研修実施機関から挙げられた。

モニタリング・評価・フォローアップ

- 研修終了時の評価は、①各トピックの終了時の評価、②研修最終日に行う全体評価、の 2 種類

を実施している。評価フォーマットは JICA が設計したものである。

- 各バッチの終了時には、研修員に対してフィードバック（満足度、知識習得の自己評価、活用見込み等）を求めるとともに、今後の同研修において必要な技術分野についての意見を求めた。それを踏まえて、次回バッチ以降の研修分野の検討・調整が図られた。
- 各コースで新しいテーマを導入し、前回の研修参加者や同じ機関・組織からの参加者を受け入れて継続的な関与を促している。この方法により、元研修員が自国で達成した成果を把握するなど、ある程度のフォローアップが可能。
- ほぼ全ての研修実施機関では、重大な課題として、研修員帰国後のフォローアップ体制の不在を認識している。これによりプログラムの長期的な成果や研修生が母国で習得した知識を応用している状況、具体的な成功事例を評価・特定することが困難となっている。
- いくつかの研修実施機関では帰国研修員の状況調査など事後フォローアップを行っているが、予算確保次第であるなど単発で実施されている。
- 研修員が帰国後に所属部門から異動になり、研修内容の活用ができないことがある。
- 本 TICA-JICA 合同事後評価について：本コース（No.8）は 2020 年に終了しており、現在はそこから 5 年が経過している。プロジェクト完了から 5 年後の評価では、データ収集に困難が生じる。当時関与した主要な担当者は退職または異動している可能性があり、関連データは分散していることが多い。今後事後評価を実施する場合にはより早期に実施すべきである。

(4) 持続性

「持続性」では、2 コースについて「高い」、8 コースについて「一部課題がある」と判断した。帰国研修員間でメールや LINE、WhatsApp 等を通じて自発的にコミュニケーションを継続していたり、研修実施機関の講師などとの間で必要に応じて連絡を取っているケースは一般的であるが、全てのコースで共通して、研修実施機関による体系的なネットワークやフォローアップの体制がなく、フォローアップ活動のための定常的な予算も確保されていない。研修員の帰国後の状況を全体として把握する仕組みがないことが大きな課題であることが、多くの研修実施機関から示された。他方、コースの実施計画の中で 2 年の研修終了後にフォローアップセッションの実施を組み込んでいる事例（No.4）や、単発でのフォローアップ調査実施（No.7）などの例が見られる。

持続性に関連して、研修員の帰国後も研修効果を持続させるための貢献要因と阻害要因について、帰国研修員サーベイの結果や研修実施機関や現地調査での関連機関等から得た主要なコメントを以下に示した。

表 9：研修効果持続の貢献要因・阻害要因

貢献要因
● コース設計として、3 年間にわたる継続研修であったことと、研修期間中からの Google Space での交流の継続により、帰国研修員間で強い絆と学びの継続が生まれていることが、各自の DIDRR へのコミットメントを高め、効果持続の貢献要因となり得る。研修実施機関は帰国研修員に対して Google Space に月 1 回程度の投稿を促すなど、関係性が途切れないように継続的な働きかけを行っている。 ● コース設計として、年次毎に新規モジュールを含めつつ、研修員が学びを継続できるように新年次では既存参加者の受入れも行われた。それにより、参加者が研修内容を踏まえて継続的に活動を実践することが可能である。1～2 年目の参加者の一部と研修外で共同プロジェクトを実施し、その成果を踏まえて 3 年目にはそれらの人たちをリソースパーソンとして招へい

し、講義をしてもらっている。それにより、実践知の共有とネットワークの維持を両立している。
阻害要因
● 上記のとおり、研修成果の持続・波及のためには、帰国後の研修員の継続的な状況把握やアクションプラン実施支援などのフォローアップが必要であるが、現状では研修実施機関において体系的なフォローアップ活動が行われていない。 ● 帰国研修員サーベイ結果からは「アクションプランの実施のための予算制約や機材不足」、「組織の理解や支援不足」という回答が多い。

3. 評価結果を踏まえた改善提案

本評価の結果や評価の実施過程を通じて得られた情報を踏まえて、今後タイ・日本が TCTP を実施・運営していく際の改善提案と、TCTP のモニタリング・評価を実施する場合の改善提案を順に述べる。

3.1 TCTP の実施に関する改善提案

(1) TCTP 実施全般

- **運営・財務ガイドラインの整備・明確化**：TCTP に関わる運営および財務管理に関して、JICA・TICA・研修実施機関間で共通理解を形成するための明確なガイドラインを整備することが必要である。特に、予算分担ルール、財務処理、契約、支出管理に関する具体的な手順書（SOP）や説明資料、承認フローを明文化し、事前に共有することで、各機関の担当者がより円滑かつ透明性の高い形で業務を遂行できるようになる。

(2) コース設計

- **研修設計の工夫**：研修の成果を持続的に高めるためには、各フェーズ（バッチ）を同一参加者が継続して受講できる仕組みを整えることが望ましい。こうした方法が全ての研修分野において常に最適とは限らないが、研修員が 3 年間などの期間中に断続的に研修に参加することにより、学んだ専門知識やスキルの実践経験を重ねるとともに、研修員相互や研修実施機関等との間で強固なネットワークを築くことにより、研修終了後も高いコミットメントが継続することが期待できる。No.3（Energy Resilience）や No.10（Disability inclusive Risk Reduction）ではこうした考えに立った発展的なコース設計が取り入れられており、グッドプラクティスといえる。
- **研修員募集の工夫**：研修員が帰国後に異動・転職するなどして、成果が定着しないという課題に対応して、同一組織から複数名の参加を可能とするなど募集・選定時の柔軟性を確保することで、研修員の所属組織として継続的な学びを確保することが期待できる。
- **アクションプラン実現促進の工夫**：帰国研修員サーベイの結果からは、アクションプランを実施していると回答した帰国研修員は少なく、予算制約や所属組織の理解不足などの理由が挙げられた。このような状況の緩和するために、TCTP コースの応募者の選定条件と

して、応募者が想定するアクションプランの内容について、研修実施前に所属組織との間で協議・検討することを義務づけるなどの工夫を講じることが考えられる。

- **層別研修の実施検討**：帰国研修員サーベイの自由記載から、研修員の所属組織や各国の制度レベルでの研修内容の活用・普及を図るために、参加者を現在の対象レベルに加えて、各組織の経営層や局長レベルを対象とした別途の TCTP 研修を提案する回答があった。TCTP の長期的効果発現という観点から、TCTP 全般において検討し得るものと考えられる。
- **研修効果の質向上を考慮した対象国選定**：参加国が多数のコースでは、研修テーマに関する各国間の開発レベルや受容能力に大きな差が生じている場合があることが想定され、本評価において、参加者の技術レベルの統一や対象国の限定を要望するコメントがあった。特に先進分野を含む技術的要素を対象とした研修を計画する場合には、参加者の多様性のメリットと研修効果の質向上のバランスを十分に考慮して、参加対象国選定やプログラム構成を決定する必要がある。
- **研修員選考とコース設計の連動**：参加する研修員の人数・知識レベルがコース設計に直結するため、事前情報の精度が重要であり、応募があった時点で候補者の知識レベルと職務内容を把握できるよう、TICA と研修実施機関で情報共有を図ることが望ましい。
- **各バッチ実施後の関係機関協議**：TCTP の各バッチの研修実施後に、研修運営上の課題や各機関間の調整に関する情報共有を行うフォローアップの場を設けることが望ましい。特に、研修運営機関、TICA および JICA 間で、研修の進捗・課題・改善点を定期的に確認し合うことにより、実務上の課題を早期に特定し、次回バッチの改善につなげることが可能となる。

(3) 募集・選定

- **外交チャンネルの効率化**：TCTP においてタイの外交チャンネルを活用できることは、研修実施機関が各国大使館に直接依頼を行う必要がない点で大きな利点である。一方で、各種システムや手続きに従う必要があるため、募集通知から選定までに長い時間を要する傾向がある。これを改善するために、タイ側において、研修実施機関や関係省庁との調整を早期に開始し、応募者が検討・書類準備・業務の調整等を行う十分な期間を確保するとともに、必要に応じて手続きを簡素化する仕組みを検討することが望ましい。
- **募集・選考プロセスの運用改善**：TICA から送られる各国のタイ大使館や省庁への案内文が研修実施機関に十分に共有されておらず、適切な対象者に情報が届いていない可能性が指摘された。TICA が公式案内文のテンプレートや配布経路を整備し、研修実施機関に共有することを提案する。研修実施機関は、それを確認した上で、独自ネットワークを通じて関連機関に周知することが可能になる。公式チャンネルを基本としつつも、研修実施機関は、TICA や JICA、その他の関係機関と連携し、より幅広い候補者層から適格な人材を選出できる仕組みを整えることが望まれる。
- **候補者選考の透明性と適格性の確保**：応募資格は GI に明記されているものの、対象国政府の内部事情により必ずしもその基準に沿った人材が派遣されない場合がある。このよう

な不一致を防ぐために、タイ側には、ノミネート段階における基準遵守の重要性を対象国政府に強調するとともに、必要に応じて研修実施機関と共同で候補者の適格性を確認するプロセスを設けることが望ましい。

- **国別募集人数枠の柔軟化**：募集段階では対象国別に募集人数枠が設定されているが、ある国で基準を満たす合格者が枠に満たない場合に、他国で基準を満たす応募者の追加選定を可能にするプロセスの制度的導入について検討すべきである。
- **応募がなかった対象国の状況調査の実施**：TCTP は一般に ASEAN やアフリカなど地域レベルの課題に対して対象国を特定し募集を行うが、No.6 (International Road) や No.7 (Rice Production Technologies) では、GI において対象国とされていても、全バッチを通して応募者がいない国が見られた。その理由が、ニーズが無いことによるのか、あるいは募集プロセスに問題があったのかなど、個別状況を確認することによって、今後同種の TCTP コース実施を検討する際に有益な情報が得られると考えられる。TICA と関係研修実施機関はそのような個別状況調査の実施を提案する。

(4) 実施管理

- **講師・研修実施機関への運営支援**：コース担当者や講師に対する英語でのコミュニケーション能力や研修運営に関する継続的な能力強化支援が行われることが望ましい。
- **ハラール食提供にかかる十分な考慮**：ムスリムが主体である国を対象国に含む TCTP コースにおいては、滞在中のハラール食の利用可能性や利便性（複数オプションの提供など）を十分に考慮した上で、宿泊場所やスケジュールを計画することが重要である。
- **研修実施機関職員の旅費負担**：研修実施機関職員の旅費が TCTP の全体予算に含まれておらず、その予算制約により地方訪問を行うことができなかったコースがあった。職員の同行旅費を予算に追加することを検討すべきである。

(5) 研修後の活動

- **体系的なフォローアップの仕組みの整備**：研修後の知識や経験を実務や政策に十分に反映させるためには、フォローアップとネットワーク構築の強化が不可欠である。参加者自身は政策決定に直接関与する権限を持たない場合も多いものの、研修で得られた知見を共有し、広めていく意欲を持っている。そのため、TCTP として、研修終了後も参加者が議論を継続し、各国における実践状況を共有し、専門家の助言を得られるようなプラットフォームの設立を求める声もあった。このようなオンラインプラットフォームにおいて、新技術や政策動向、資金調達機会などの情報を参加者間で継続的に交換できる仕組みを整えることで、研修効果の持続性を高めると考えられる。他方、このようなプラットフォームの構築・運用は、研修実施機関が単独で行い得るものではないため、TICA 及び JICA が TCTP のフォローアップ活動予算を確保した上で、研修実施機関と協力しつつ行われることが望ましい。
- **研修後活動予算の組み込み**：帰国後研修員の活動継続を促進する試みとして、TCTP 各コースの予算に、帰国研修員による共同研究や現地活動の機会提供を組み込むというアイデアが聞かれた。

- **対象国におけるタイ大使館と JICA の連携強化**：現地調査の結果からは、TCTP 研修員の送出し国において研修効果の拡大を図るためには、タイ大使館と JICA の間の連携を強化する余地があることが明らかになった。具体的には、募集段階における有望な候補者に関する事前の情報共有、研修員の選定・帰国の状況、作成されたアクションプランの共有、その後のアクションプランの実行状況のモニタリング、モニタリング結果を踏まえた現地での追加支援の検討など、各段階で連携を深めることにより、TCTP 研修員の質が向上し、帰国後の知識・技能の継続的かつ効果的な活用が促進されることが期待される。また、特に JICA の協力事業が活発に実施されている国においては、TCTP 研修員の状況がタイムリーに共有されることによって、JICA がその帰国研修員との連携を視野に入れて新たな協力事業を検討するなど、TCTP の戦略的価値を高めることが可能になる。
- **対象国における TCTP の広報と他協力との連携強化**：No.7 (Rice Production Technologies) におけるアフリカのコメ生産増加のように、多くの TCTP は地域レベルでの大きな開発目標に沿って人材育成を行っているが、TCTP 単独で育成した研修員による最終的な成果への貢献には限界がある。TICA および JICA は、自らの他の協力事業や、外部パートナーとの連携により、対象国・地域の政策・制度や国家予算等に反映させることを目指す必要がある。一方、そのような大きな開発目標に沿って TCTP が実施されていたとしても、政府関係者からの TCTP の認知度が低いことが本評価で実施したモザンビーク現地調査において指摘された。TCTP 対象国においては、TCTP の実施により TICA と JICA がその国において何を達成することを目指しているのか、それぞれの開発協力活動における位置づけとともに、積極的に説明、広報を推進することが望まれる。

(6) その他

- **TCTP の呼称検討**：研修参加国（窓口機関）によっては Third Country Training Program という名称に心理的抵抗があることが明らかになった。Third Country が Third World を連想させるなどの理由が推察される。TCTP という名称は、JICA や TICA のみならず、シンガポールなどの他国や国際機関が実施する同様の研修などで一般的に使用されている。一方で、TCTP への参加経験が浅い国や機関にとってより直接的にタイと日本の共同研修であることが理解されるような通称や説明の追記を検討する余地がある。例えば、TCTP の略称を維持する一方で、正式名称を Trilateral Cooperation Training Program (TCTP) とすることが考えられる。

3.2 TCTP のモニタリング・評価実施に関する改善提案

(1) 実施の仕組み構築、工夫

- **実施期間中のコース見直しの工夫**：No.3 (Energy Resilience) で見られた、各回の研修終了時に研修員が参加するラウンドテーブルディスカッション等を通じて研修内容を柔軟に見直す仕組みは、参加者のニーズを的確に反映し、研修の質と実務適用性を継続的に高める上で有効であるといえる。

- **実施期間中のモニタリング**：体系的なモニタリング・評価制度がなくとも、No.3（Energy Resilience）や No.10（Disability inclusive Risk Reduction）のように、過去の参加者を次回研修に再度受け入れ、実践経験を共有する機会を設けることで、研修成果の活用状況を把握する非公式なモニタリング手法として機能し得る点は、他の研修プログラムにとっても参考となる。
- **帰国研修員の追跡調査の仕組み構築**：上述のとおり、TCTP 各コースでは体系的なフォローアップが実施されておらず、本評価で実施した帰国研修員の追跡調査は実施されたことがなかった。研修員受入時の条件の一つとして、修了後一定期間後に Google Forms 等を利用したオンラインの追跡調査への回答を義務付けることを提案する。これにより、TICA 及び JICA は TCTP コースの成果・影響を把握できるほか、帰国研修員とのネットワーク維持にもつながる。なお、追跡評価の実施主体として、実施機関による自己評価にとどまらず、一定の客観性を確保する観点から、複数の研修コースおよび研修実施機関を横断的に把握できる立場にある TICA のような TCTP 調整機関が行うことが望ましい。
- **追跡調査の視点**：本評価では、研修コースごとの成果の確認にとどまらず、研修実施機関において、国際研修の企画・運営能力の向上、講師や職員のスキル向上、他国・他機関とのネットワークの拡大など、研修を通じて生じた組織面での変化が確認された。TCTP は研修員個人の能力向上のみならず、研修実施機関の組織能力強化にも寄与するプログラムであることから、このような視点を追跡評価に取り入れ、TCTP の実施意義として確認することは有効である。また、帰国研修員に対する追跡調査においては、いくつかの好事例（サクセスケース）が確認された。これらのサクセスケースを継続的に蓄積・分析することで、研修成果が帰国後にどのように活用され、どのような条件の下で成果が生まれやすいのかといった成功要因を整理し、他の研修コースの制度改善や研修改善に生かすことが可能となる。
- **適切なタイミングでの追跡評価実施**：本評価の対象コースの一つであった No.8（Material Processing）は、2020 年に完了しており、本事後評価調査の一環として実施した帰国研修員サーベイにおいて全帰国研修員（90 名）のうち回答を得た人数（5 名）は極めて限定的であった。また、研修実施機関においても人事異動等により、当時の同コース担当者から直接情報収集することはできなかった。こうした状況を避けるために、今後 TCTP 帰国研修員の追跡調査実施を検討する際には、コース終了後半年～3 年程度のタイミングを設定することが望ましい。また、帰国研修員の追跡評価への回答率を高める手段として、研修参加の際の誓約書フォームに、フォローアップ調査（サーベイ）に協力することを参加条件のひとつとして明記することが考えられる。更に、追跡調査の実施システムとして、コース終了後に 1 回実施するのではなく、定期的な実施とすることによって、帰国研修員との継続的なコンタクトを確保しつつ状況把握を図ることも考え得る。
- **所属機関からの意見聴取の仕組みの検討**：本評価では帰国研修員の追跡調査と並行して、帰国研修員の所属機関における監督者を対象としたオンライン調査（Google Forms）を企画・実施したが、対象者の特定は必ずしも容易ではなく、回答率も低かった。帰国研修員自身が回答する追跡調査に加えて、所属機関の監督者の見解を確認することによって、研

修効果の拡大状況をより客観的に把握することが可能になる。それを踏まえて、研修開始時点において研修員本人と併せて監督者の連絡先を含むリストを作成し、監督者には将来オンライン調査の実施が予定されていることを告知するなど、回答率を高める仕組みを講じることが考えられる。

(2) 評価手法および評価視点別の検討点

- **レーティング方式の検討**：現状では、各研修実施機関が、研修内容の改善を主たる目的として、研修員の理解度や満足度を把握するための評価を研修期間中に個別に実施している。一方で、TCTP 全体としての成果を総合的に評価する仕組みはない。今後、タイに限らず他国における TCTP の評価を行う場合、共通の視点や評価項目に基づき、研修間・国間の比較が可能となる枠組みが必要である。その点において、DAC 評価基準を用いることは、横断的な分析や比較を行う上で有効な方法であると考えられることから、本評価では OECD DAC の評価 6 基準に沿って検証を行い、対象コースの総合的な評価判断（レーティング）を行った。このように、一般的に、レーティングは、各研修の評価判断を分かりやすく示すだけでなく、複数の研修を横断的に比較する際に有効なツールである。研修ごとの成果や課題を共通の視点で整理することにより、相対的に優良な案件を抽出し、その成功要因を他の研修に共有・展開することで、中長期的には研修全体の質の向上に活用できる可能性がある。他方、そのように評価基準に従い、比較可能な総合評価（レーティング）を付すには、設定された評価基準において評価判断を可能とする十分な情報が収集される仕組みが確保されなければならない。本評価においては、レーティングを行うに際し、帰国研修員の帰国後の情報が十分に収集できない研修も一定数存在した。その場合、特にインパクトや持続性についての評価判断は難しく、保留付きの判断とならざるを得ないケースもあった。また、評価計画時に設定していた一部の評価項目については、情報収集の困難や評価可能性の観点から、評価視点から除外した。一般に、直接ターゲットである研修員が世界各国に分散している TCTP において、その直接・間接の変化を把握するために実施可能な情報収集の範囲や詳細度には制約がある。そうした要素を考慮の上、総合評価方式の在り方を、具体的な表示方法（スコアの段階数やレーティングに対応した評文の提示など）と併せて検討すべきである。
- **TCTP のアディショナリティに注目した評価視点別の評価**：上記のとおり、TCTP の評価においては、一般的なプロジェクトのような目標値や指標の一律の設定が難しいことから定量的に成果達成度を判断することが難しいことなどから、各評価視点の設定において工夫が必要になる。本合同評価実施の経験から、TCTP を実施することにより期待されるメリット、すなわち TCTP のアディショナリティに注目し、それを各評価視点に取り入れることによって、より TCTP の特性を反映した評価判断につなげることができると考える。例えば、妥当性においては「タイと日本の効果的な役割分担が計画されていたか（手段の適切性）」、効率性においては「TCTP として両者の協力による投入やアウトプットに比較優位はあったか」、インパクトにおける「タイや日本の関係機関への研修実施の影響」などの評価設問が考えられる。評価実施前に実施計画者が関係機関と協議を行い、当該研修の内容やニーズに応じて、柔軟に評価視点を選択することを可能とすることも一案である。また、アディショナリティに類する考えとして、OECD では三角協力により開発協力を実

施する場合の「付加価値」を把握し、プロジェクト設計やモニタリング・評価に利用するための項目や指標例をツールキットとして取りまとめている。TCTP の評価項目を検討するには、これらの情報を参照することも考えられる。同ツールキットの概要は「別添資料 8 TCTP フォローアップ評価ガイドライン案」を参照のこと。

4. 結論：TCTP 事業の意義の総括と今後に向けた示唆

本章では、本評価調査の実施過程において収集した情報や、日本、タイの関係機関との意見交換、分析及び評価結果から TCTP の意義を総括し、今後の同事業の方向性に関する示唆を述べる。

4.1 TCTP の成果を生み出した主要な要因

TCTP は、タイと日本の緊密な協力関係のもと、南南協力に日本の先進的な技術・知見を組み合わせた独自の研修モデルを確立してきた点に大きな特徴がある。TICA と JICA の連携は、単なる費用分担にとどまらず、研修の質の向上に実質的に寄与してきた。

具体的には、日本の技術やベストプラクティスを反映したコース設計、日本人専門家や企業・関連機関の講師派遣や視察受入れ、さらにはアクションプラン作成やコース終了時評価といった JICA の標準的な研修手法の導入などが挙げられる。これらの取組により、研修の実践性や発展性、並びに体系性が強化された。

また、タイと参加国との間に見られる気候、発展経路、技術水準などの相対的な類似性も、TCTP の有効性を高める重要な要因となっている。タイの確立された研修実施機関や各分野の専門家から学ぶこと、さらに ASEAN 地域におけるタイの先進的な開発事例に直接触れることは、他国からの参加者にとって実践的かつ応用可能性の高い学習機会となっている。

加えて、TCTP の実施形態を反映して、複数国からの研修員がタイに集合し研修の場を共有することにより、相互学習や知識交換、地域的ネットワークの構築が促進された。更に、TCTP は、ASEAN やベンガル湾多分野技術経済協力イニシアティブ（BIMSTEC）等の地域的枠組みに沿った研修分野や対象国を設定したコースの実施を通じて、それらの推進に貢献し得る協力プラットフォームとして機能している。

4.2 TCTP がステークホルダーに与えた影響

TCTP は、研修員、研修実施機関、各対象国、そして TICA・タイ及び JICA・日本に対して様々な影響をもたらしており、TCTP の多面的な意義が明らかになった。

まず研修員にとっては、自国の所属組織で活用可能な実践的知識・技術の習得、地域および国際的な動向に関する理解の深化及び共通課題の共有、更には専門的ネットワークの拡大等が主な成果として確認された。

研修実施機関においては、研修マネジメント能力の向上、講師の専門性および教授スキルの強化、ならびに国際的な連携の拡大が見られた。TCTP への継続的な関与を通じて、国際研修を実施する組織としての機能強化につながっている機関も見られる。

各対象国のレベルにおいては、研修で得られた知識・技能が、帰国後に研修員によって組織内外へ適切に共有・普及されることによって、TCTP はその国の組織レベルや政策レベルへの波及効果を生む潜在力を有している。その意味において、TCTP は、タイおよび日本との将来的な協力に向けた戦略的な入口（エントリーポイント）として機能する可能性がある。すなわち、TCTP は単発的な研修事業にとどまらない、高い戦略性を持つ協力プラットフォームとしての役割を果たすことが期待できる。

TICA にとっては、TCTP の実施による協力対象国・地域の拡大や、研修実施機関をはじめとした新たなパートナーとのネットワーク構築が進展した点が意義として挙げられる。一方、JICA にとっても、タイ国内において長期にわたり技術協力を行ってきたカウンターパート機関との TCTP を通じた協力関係の強化など、これまでに蓄積された二国間の技術・資金協力の資産の活用・発展や、日本の関係機関・専門家との連携拡大といった効果が確認された。

また、タイの新興ドナー国としての成長という点からの TCTP の意義も指摘することができる。第一に、既に述べたとおり、新興国としてタイが歩んだ経済社会発展の比較的新しい経験・知見を他の途上国へ共有することで、他の途上国にとってより実現性の高い政策モデルを提供することができる。第二に、日本とのコストシェアにより、とりわけ自国リソースをメインとして TCTP を実施することにより、タイの開発援助へのオーナーシップの高まりが期待できる。第三に、タイの援助国としての国際的なプレゼンスと評価の向上、またソフトパワーの普及が期待できる。第四に、タイの各実施機関レベルでの国際ネットワークの拡大・拡充による、当該分野におけるタイの主導的役割の増大が期待できる。

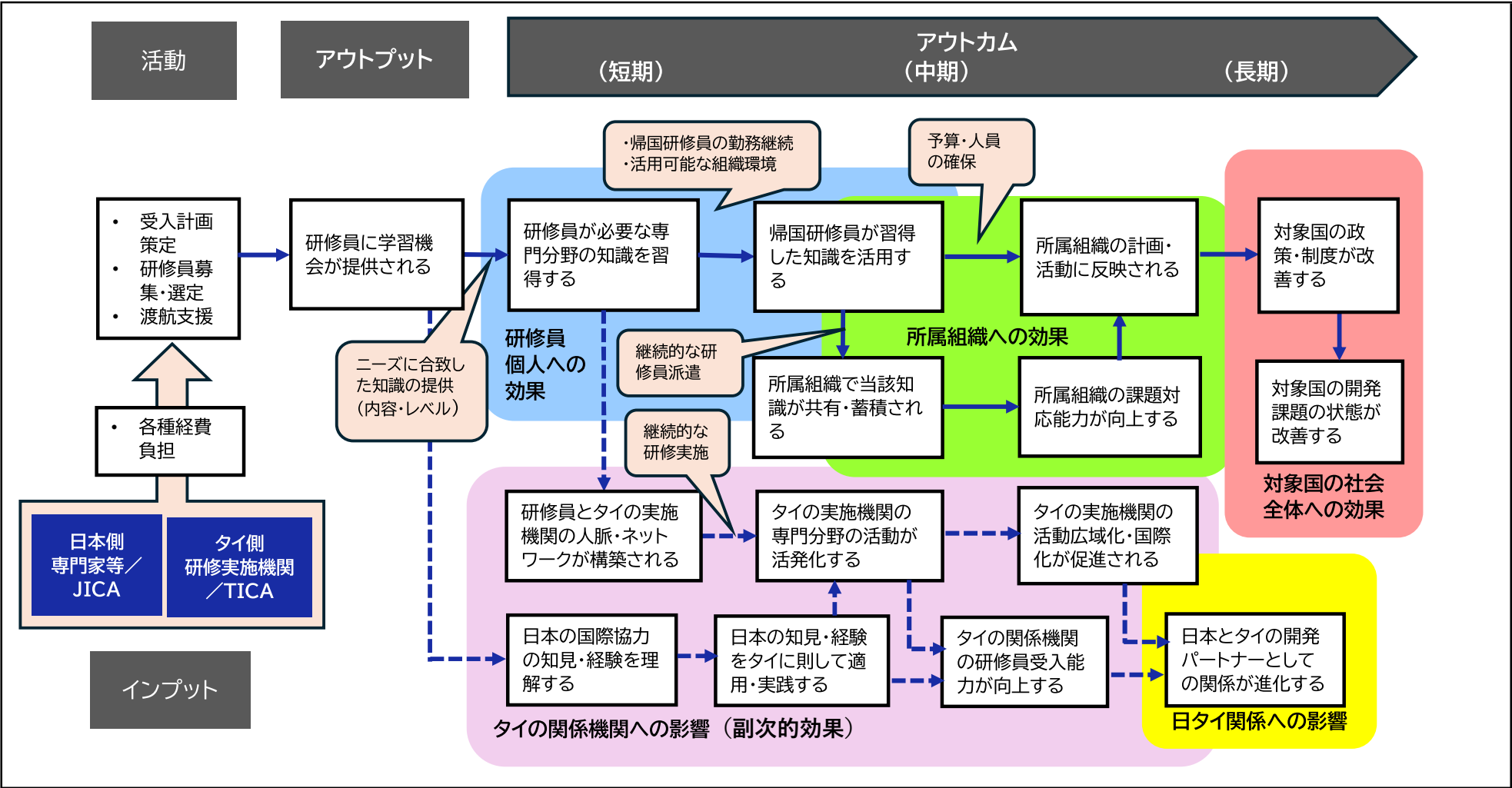
更に、より俯瞰的な視点で TCTP を捉えた場合、個々の研修の実施により発現を期待する開発効果に加えて、日本とタイが共同で同事業に取り組む意義が見出される。日本国内では、昨今、対外援助を行う意味やその支出規模を改めて問い直す議論が活発化している。そうした議論に対して、TCTP は、コストや知見を他国と分担することにより、単独で協力を実施するよりも効率的に開発課題に対処する手段であるとともに、JTTP の下での継続的な協働を通じてタイの援助国としての成長に寄り添い、ASEAN 地域や世界の開発協力を共に担う同志国の育成に貢献する重要な役割を果たすものであると説明することが可能である。タイにおいても、今後日本と同様に、対外協力の意味や効率を問う議論が活発化する可能性があり、国際協力分野における第三国研修の先駆者である日本・JICA との連携強化及びそのアピールの手段としての TCTP の重要性を同様に指摘することが可能である。

4.3 TCTP 事業の今後に向けた示唆

TCTP は、タイと日本の協働による高度な南南・三角協力の実践モデルとして、今後も発展的に展開していくことが期待される。本評価において明らかになった、各コースの研修実施後の持続性が課題であることや、TCTP 単独では対象国における開発効果の拡大に限界があることも踏まえつつ、TCTP 事業全体の価値および戦略的意義をさらに高めるために、タイ・日本間の協力体制を一層強化することが望まれる。具体的な協力強化の方法として、以下の 6 点を挙げる。

- 研修員の選定段階から実施、帰国後フォローアップに至る研修サイクル全体を通じて、TICA と JICA が一貫して関与する体制を強化する。
- オンライン調査や重点的インタビュー等を活用した体系的なフォローアップ・メカニズムを制度化し、研修成果や波及効果を継続的に把握する仕組みを構築する。これにより、研修の実効性を客観的に検証するとともに、改善に向けたフィードバックを行うことが可能となる。
- 帰国研修員のネットワーク構築および活性化を通じて、知識共有や好事例の横展開を促進する。
- 日本やタイ、あるいは両国の連携により実施を計画する大きな協力枠組みの中に TCTP を明確に位置付ける。それを踏まえて、例えば研修員の選定段階において協力実施中案件の実施機関から参加候補者を推薦することや、研修員帰国後のフォローアップの結果を活用して新規案件の形成に TCTP の成果を効果的に接続することなどの手段を講じることによって、TCTP の戦略的インパクトの最大化を図る。
- 日本・タイ及び対象国各国、及び国際レベルの会合等において、TCTP の取組みや成果の発信を強化する。評価を通じて TCTP の具体的な成果やインパクトを可視化し、特に各国政府のハイレベル層に対して、それらの成功事例とともに地域や世界の開発課題解決に向けた両国の取組みに対する認知度の向上を図る。TCTP の認知度の向上は、日本とタイの 70 年にわたる二国間協力関係を基礎にした両国のパートナーシップを対外的にアピールするとともに、タイの新興ドナーとしての国際的なプレゼンスの拡大にも寄与することが期待される。また TCTP の実施レベルにおいても、対象国における認知度の向上は、応募者数の増加や質の高い研修員確保といった効果につながることを期待できる。
- 更に、これまで述べたような TCTP の質を高め、その成果をアピールする努力に加えて、今後の目指す方向として、タイと日本の TCTP モデルの進化を図ることが望まれる。開発パートナーが共同で実施する研修事業である TCTP は、その特徴を活かして、実施枠組みや方法などの面においても従来型の研修事業とは異なる付加価値を提供することが期待される。例えば、上述した両国が有する他の協カスキームとの組み合わせや、座学のみではないネットワーク構築型研修、よりニーズ・ドリブンな案件形成や発展的实施手法の開発、などの可能性が考えられる。このような取組みにより、日本とのパートナーシップの下で第三国研修を実施している他の中進国に対して新たな「モデル」を提供し、ひいてはタイが第三国研修のハブ、特に ASEAN における研修人材育成のハブとして機能することにつながることを期待される。

別添1. TCTP実施による変化の道筋の仮説（Theory of Change: TOC）



出所：評価チーム作成

FY2025 Joint Evaluation of Third Country Training Programme (TCTP) in Thailand
Outline of the Training Course

No. in JICA-TICA List:	1
Training Course Title:	Modernization of Power Distribution System in ASEAN Countries
Total Batches:	3 batches
Period (plan and actual):	2023-2025 (Original plan: JFY2021-2023)
Implementation Agency:	Metropolitan Electricity Authority (MEA)
Sector:	Environment and Climate Change
Status:	Completed

【I. Background】 (should be 2-3 lines)

ASEAN society is predicted to become more urbanized in the future. In order to accommodate urbanization, power distribution networks need to be modernized through the application of modern management and smart technology. This would support foster the ASEAN Economic Community (AEC).

【II. Outline of the training course】

1.Implementation period

Plan (RD)	Actual
4 weeks each year during JFY2021-2023, on-site.	26 days_ 4-29 September 2023 (exclusive of travelling dates); On-site
Extended to JFY2024	19 days_ 17 June - 5 July 2024 (exclusive of travelling dates); On-site
	19 days_ 3-21 February 2025 (exclusive of travelling dates); On-site

2. Countries Invited and Total Number of Participants

• **Countries invited:**

ASEAN member countries with Cambodia, Lao PDR, Myanmar, and Vietnam as the main target countries

• **Total number of participants:**

	Plan (GI)	Actual
2023	25 persons at maximum	25 persons
2024	25 persons at maximum	25 persons
2025	25 persons at maximum	25 persons

3. Input (Total cost, (1) JICA (2) TICA (3) Implementation agency if any)

- **R/D Estimate for the first course:** Total THB 3,612,501 (JICA: 1,841,500; TICA: 1,771,001)

- **Estimate before implementation and actual expense of each course:**

(Unit: THB)

		Plan	Actual
2023	JICA	2,007,100	1,763,740
	TICA	1,270,524	-
	MEA	433,880	-
	Total	3,711,503	-
2024	JICA	1,472,400	1,339,130
	TICA	1,094,758	-
	MEA	422,880	-
	Total	2,990,038	-
2025	JICA	1,347,780	1,254,600
	TICA	1,301,187	-
	MEA	370,880	-
	Total	3,019,847	-

4. Completion report of the training course (yes/no)

Yes. 2 annual evaluation reports are available (for 2023 and 2024 courses).

5. Others/ Memo

- **Training sites:**

[2023] Bangkok and Chiang Mai province

[2024] Bangkok and Chonburi province

[2025] Bangkok and Nakhonratchasima province

【Theory of Change (TOC)】

Output =>	Initial Outcome =>	Intermed.Outcome =>	Final Outcome =>	(Further)
e.g) # certified Participants completed the training course with certificate	e.g.) Skills obtained Knowledge is obtained on the principles of power distribution systems and recent techniques and technologies.	e.g.) Application of skills • Gained knowledge and experiences are applied to modernizing the participant countries' power distribution systems. • Best practices on power distribution system modernization are shared among (ex-)participants	e.g.) Production ↑ &Income ↑ Power distribution systems are modernized in ASEAN countries.	e.g.) Life ↑ ASEAN Economic Community (AEC) is nurtured.

(Source) developed by IDCJ team

ANNEX 1 Design of the Training Course

【1.Goal】

To enhance the knowledge of managers/engineers who work for participating utilities in ASEAN countries on power distribution system modernization principles, techniques, and technologies; develop a knowledge network among participants to facilitate the best practices sharing on power distribution system modernization and nurture ASEAN Economic Community towards the end.

【2. Objective 】

To expose managers/engineers from the ASEAN countries to the principle as well as the recent development in techniques and technologies for modernization of power distribution system and encourage them to apply the knowledge and experiences gained from the training to modernizing their power distribution systems and countries.

- (1) Power distribution system principle
- (2) Smart power distribution grid
- (3) Power distribution asset management
- (4) Emerging technologies
- (5) Workshops, discussion, presentations

【3. Language】

English

【4. Training Methods】

[2023] Lecture 59% (Local lecturer 46% & Japanese 13%), Field Study 20.5%, Workshop & presentation 20.5%

[2024] Lecture 69% (Local lecturer 54% & Japanese 15%), Field Study 12%, Workshop & presentation 19%

[2025] N/A

(Source: Annual evaluation reports)

【5. Course Contents】 ★: Conducted by Japanese experts

Module # and title	Content (2023)	Content (2024)	Content (2025)
Module 1 Power distribution system principle	1) Overview PDS Revolution (past and future) 2) Power Distribution System Principle: Classic Planning and Criteria and Loss reduction 3) Power distribution system design: Classic Components (UG system) 4) Power distribution system Protection	1) Overview PDS Revolution (past and future) 2) Power Distribution System Principle: Classic Planning and Criteria and Loss reduction 3) Power distribution system design: Classic Components (UG system)	1) Overview of power distribution system revolution 2) Classic Planning and Criteria 3) Power distribution system design 4) Protection and Loss reduction
Module 2 [2023,2024] Smart power distribution grid [2025] Smart Grid	1) Smart Grid Overview and MEA Smart Metro Grid 2) Smart Meters and Advanced Metering Infrastructure 3) Automation Technology (A New Era of SCADA Technology, DMS / FRTU, Substation Automation) 4) MEA Smart Grid Project: DER Principle Technology (P V E V E S S) / Grid Requirement 5) Distributed Energy Resource (DER) Management Platform Pilot Project (MEA	1) Smart Grid Overview and MEA Smart Metro Grid 2) Smart Meters and Advanced Metering Infrastructure 3) Distributed Energy Resource (DER) Management Platform Pilot Project (MEA Energy Trading Platform/ Demand Response) 4) DER Principle Technology: PV Modernization PDS and DERs: Impact of PV 5) DER Principle Technology: EV Modernization PDS and DERs: Impact of EV	1) Smart Grid Overview and MEA Energy Landscape 2) Smart Meter 3) Smart Meter and Advanced Metering Infrastructure

	Energy Trading Platform/ Demand Response)	6) Automation Technology: A New Era of SCADA Technology	
Module 3 [2023,2024] Power distribution asset management	1) Asset Management 2) Project Management 3) Engineering Economics 4) Digitalization in Business Process	1) Asset Management 2) Project Management 3) Engineering Economics 4) Digitalization in Business Process	
Module 4 Emerging technologies	1) Energy Policy, Electric Power System and Industry in Japan: History & Current Transform (JAPAN)★ 2) Power System Operation and Management under Much Renewable Energy (JAPAN) ★ 3) Practical example of mass introduction of Smart Meter in Japan (JAPAN) ★ 4) Emerging Applications: Principle, Case Studies and Demonstrations in MEA Grid 5) IoT and Data Management Technique 6) Cyber Security 7) Smart Grid Landscape in the USA 8) Modeling EV Impacts (USA) 9) Forecasting EV Infrastructure Needs (USA) W: UG Substation Technology Concept, technology, key equipment, safety, sharing experience and lessons learned project reference in JAPAN. (JAPAN) ★	1) Power System Operation and Management under Much Renewable Energy (JAPAN) ★ 2) Development of Grid- interconnection code in Japan (JAPAN) ★ 3) Distribution Simulation and SCADA Systems (JAPAN) ★ 4) UG Substation Technology: Concept, technology, key equipment, safety, sharing experience and lessons learned project reference in JAPAN (JAPAN) ★ 5) Social innovation & co- creation activities of Smart Resilience Network to enhance society's carbon neutral resilience (JAPAN) ★ 6) Smart Substation Automation 7) Emerging Applications: Principle, Case Studies and Demonstrations in MEA Grid 8) IoT and Data Management Technique 9) Cyber Security ★	1) New Era of SCADA Technology 2) DER Principle Technology (PV EV ESS) / Grid Requirement 3) Modernization PDS and DERs High Penetrations 4) IoT and Data Management Technique 5) UG Substation Technology★ 6) Power System Operation with High Renewable Energy Penetration★ 7) Development of Grid- interconnection code in Japan★ 8) Distribution Simulation and SCADA Systems★ 9) Social innovation & co- creation activities of Smart Resilience Network to enhance society's carbon neutral resilience★
Module 5 Workshops, discussion, presentations	1) Workshops (Course Introduction, RE Economics, Project Management) 2) Presentations (Country Report Presentation, Group Presentation, Individual Presentation)	1) Workshops (Course Introduction, RE Economics, Project Management) 2) Presentations (Country Report Presentation, Group Presentation, Individual Presentation)	1) Workshops (Course Introduction, RE Economics, Project Management) 2) Presentations (Country Report Presentation, Group Presentation, Individual Presentation)
Module 6 Field Study	Site visits (8 places)	Site visits (9 places)	Site visits (9 places)
Module 7 [2025] Digitalization Transformation			1) Distributed Energy Resource (DER) Management Platform Pilot Project 2) Digitalization in Business Process

【6. Course Evaluation (method and result)】

• Evaluation method

(1) Course evaluation by participants (participant satisfaction)

- 1) Topic evaluation: 5 point-scale (1-5) questions to assess effectiveness, efficiency and prospective impact
- 2) Overall evaluation: 5 point-scale (1-5) questions to assess relevance, effectiveness, efficiency, impact and sustainability

(2) Evaluation of participants by the implementing agency

A pre/post test (of 20 points) to cover all subjects was conducted on the first and last day of the course.

• Evaluation result

[2023]

(1) 5-point results were converted into percentage scale (100%: highest). Average marks are as follows:

- 1) Effectiveness: 86.68 (75.20-92.00 across subjects); Efficiency: 86.54 (69.60-92.80); Impact: 86.54 (75.20-90.80)
- 2) Relevance: 88.80-94.40(across questions); Effectiveness: 91.20; Efficiency: 86.40-92.00; Impact: 91.20-96.00; Sustainability: 76.00-92.00

(2) Average score: Pre-test 9.36; Post-test 15.00

[2024]

(1) 5-point results were converted into percentage scale (100%: highest). Average marks are as follows:

- 1) Effectiveness: 85.70 (82.50-90.83 across subjects); Efficiency: 84.83 (73.33-90.83); Impact: 86.23 (83.33-91.67)
- 2) Relevance: 85.42-90.83(across questions); Effectiveness: 86.67; Efficiency: 84.17-92.50; Impact: 88.33-89.17; Sustainability: 75.00-92.50

(2) Average score: Pre-test 7.88; Post-test 19.00

[2025] N/A

【7. Comments and suggestions from annual/evaluation reports】

Main recommendations from Annual Evaluation Reports 2023 and 2024 are as follows:

- Application Process Complexity: Despite an extended submission period, the application process remains complex and time-consuming, causing delays; MEA had to personally contact potential applicants via email.
- Application Form Submission: Applicants are advised to type their information instead of handwriting it to ensure clarity and expedite processing.
- Cross-Cultural Interaction: Encourage inter-country engagement among participants through group activities, mixed seating, and team-building exercises.
- Program Enhancements: Include more visits to power distribution sites to enrich technical knowledge, while maintaining effective cultural visit components.
- Travel and Visa Issues: Cambodian participants face visa delays; ticket confirmations were also slow, and early return flight schedules were inconvenient—afternoon departures are recommended for better planning.

FY2025 Joint Evaluation of Third Country Training Programme (TCTP) in Thailand
Outline of the Training Course

No. in JICA-TICA List:	2
Training Course Title:	Renewable Energy Technologies and Knowledge Transfer for Strengthening and Achieving ASEAN's Sustainable Development Goals
Total Batches:	3 batches
Period (plan and actual):	Plan:2022-2024(three years) Actual:JFY2023-2025
Implementation Agency:	Thailand Institute of Science and Technological Research (TISTR)
Sector:	Renewable Energy
Status:	Completed

【I. Background】

ASEAN Member States (AMS) face rapidly growing energy demand due to population and economic growth. Most of their energy supply depends on fossil fuels, leading to increased imports, energy security risks, and rising CO₂ emissions. While AMS aim to shift toward sustainable energy through efficiency and renewables, technology gaps remain in utilizing indigenous resources like biomass. TCTP provides a platform to share knowledge and technologies, supporting AMS in promoting renewable energy, improving energy security, and advancing a Low Carbon Society aligned with SDGs.

【II. Outline of the training course】 (Source: RD, Annual Evaluation Report 2023-2025)

1. Implementation Period

Plan	Actual
3 weeks each year	19 days 15 May– 2 Jun 2023
	19 days 10 – 28 Jun 2024
	19 days 20 Jan – 7 Feb 2025

2. Countries Invited and Total Number of Participants (source: RD, Annual Evaluation Report 2023-2025)

• **Countries invited:**

Cambodia, Indonesia, Lao PDR, Malaysia, Myanmar, the Philippines, Vietnam and Thailand

Plan	Actual
24 participants (+2 Thai participants)	15 persons
	14 persons
	15 persons

3. Input (source: Estimate Expense 2023-202,)

- Estimate before implementation and actual expense of each course:

Unit:THB

		Plan(RD)	Actual
2023	JICA	844,300	771,564
	TICA	821,270	-
	TISTR	173,400	-
	Total	1,838,970	-
2024	JICA	771,450	655,205
	TICA	796,632	-
	TISTR	96,400	-
	Total	1,664,482	-
2025	JICA	912,504	793,433
	TICA	789,480	-

	TISTR	174,400	-
	Total	1,875,384	-
Total	JICA	2,528,254	2,220,202
	TICA	2,407,382	-
	TISTR	444,200	-
	Total	5,379,836	-

4. Completion report of the training course (yes/no)

Yes.

5. Others/ Memo

【Theory of Change (TOC)】

Output =>	Initial Outcome =>	Intermed.Outcome =>	Final Outcome =>	(Further)
e.g.) # certified Participants completed the training course with certificate	e.g.) Skills obtained -Participants gain knowledge on renewable energy policies, biomass conversion technologies, biodiesel production technology, standards and utilization, carbon capture concepts, life cycle assessment, and sustainability assessment.	e.g.) Application of skills -Participants apply the knowledge and skills learned in the training to research, policy making, and technology development in their countries, reflecting them in concrete projects and initiatives.	e.g.) Production ↑ & Income ↑ Energy policies are being strengthened, and technologies are improving in ASEAN countries.	e.g.) Life ↑ Contributing to the achievement of SDG Goal 7 in ASEAN countries.

(Source) developed by IDCJ team

ANNEX 1 Design of the Training Course

【1.Goal, Purpose and Objective】 (source: Annual Evaluation Reports)

Goal	To transfer the knowledge and share experience of renewable energy technologies to ASEAN members for their strength and achievement for SDGs
Purpose	To transfer technology and knowledge of renewable policies and implementation, biomass conversion technologies to electricity, biodiesel production technology, standard and utilization, carbon capture concept, and life cycle assessment and sustainable assessment to researcher and related personals in ASEAN countries.
Objective	At the end of the course the participants are expected to gain benefits via the followings. 1. To enhance the understanding on related policy and implementation, technologies and practices of processing, standardization, and commercial applications of renewable energy. 2. To encourage researchers to gain more understanding on sustainability assessment of renewable energy and its utilization in environmental and sustainable context.

【2. Language】

English

【3. Training Methods】 (Source: Annual Evaluation Reports)

[2023] Lecture 42% (Local lecturer 23% & Japanese 18%), Field Study 15%, Hands-on 36%

[2024] Lecture 48% (Local lecturer 29% & Japanese 20%), Field Study 13%, Hands-on 28%

[2025] Lecture 51% (Local lecturer 29% & Japanese 19%), Field Study 17%, Hands-on 20%

【4. Course Topic】 (source: Annual Evaluation Reports)

Sub-course	Main Contents
1. Renewable energy policy and EV implementation	- Sustaining SDG through Energy Resilience (#2,3) - Thailand's Alternative Energy Development Plan and Power Development Plan - Achieving SDG through Electric Vehicle (EV) Technology - Outline of renewable energy policy in Japan, and challenges and measures to be taken towards the massive introduction of variable renewable energy (#2)
2. Biomass conversion technologies to electricity	- Pyrolysis and gasification technology (#1,2) - Black pellet utilization project in Thailand (#1) - Biogas Technology and Properties Analysis - Biogas production process and properties analysis: Hands-on - Raw Material Properties and Analysis: Hands-on - Application of CFB (Circulating Fluidized Bed) System for Efficient Biomass Gasification and CCU (#3) - 3-stage Gasification Technology - 2-stage ABR Biogas Production Technology
3. Biodiesel production technologies, standard and utilization	- Biodiesel Production and Properties Analysis (#2,3) - Biodiesel Production and Properties Analysis: Hands-on - Biodiesel Pilot Plant and Upgrading Unit - Biodiesel Pilot Plant and Upgrading Unit: Hands-on (#2,3) - Biodiesel Utilization in Engine & Materials Compatibility - Overview of Bioethanol (#2,3) - Pyrolysis Technology (#3) - Overview of Biodiesel Standard – Utilization - Biodiesel Engine Test

4. Carbon capture concept and frontier technology	- Carbon Capture Concept : Recent Trends and Carbon Recycling Technologies (#1) - Hydrogen project in Yamanashi (#1) - Carbon Capture Concept: Chemical Looping Technology - Carbon Capture Concept: Biomethanol Technology - Carbon Capture Concept: Algae cultivation and utilization - Hydrogen and Ammonia from Renewable - OTEC (Ocean Thermal Energy Conversion) Project in Kumejima Island in Okinawa
5. Life cycle assessment and sustainable assessment	Principle of Life Cycle Assessment Life cycle assessment of clean energy (#1,2) The Sustainability Research of Alternative Energy to Support Smart City(#2,3) The Japanese Technology Readiness Assessment (J-TRA) Methodology(#2,3) LCA Applications: Carbon Footprint(#2,3) The Sustainability Research of Alternative Energy to Support Smart City(#2,3)

Numbers in () show the course; no () means all courses.

【5. Course Evaluation (method and result)】 (Source: Annual Evaluation Reports, Terminal Evaluation Sheet)

• **Evaluation method**

Evaluation by Participants

- Topic Evaluation: Conducted at the end of each subject using TISTR-designed questionnaires.
- Overall Evaluation: Conducted on the last day of the course using a separate TISTR-designed questionnaire.

Evaluation of Participants by instructors and used by TISTR and NSTDA

- Pre-test: Conducted on the first day of the course (January 20, 2025) to assess participants' initial knowledge.
- Post-test: Conducted on the final day (February 7, 2025) to measure knowledge gained.

• **Evaluation result**

Evaluation by Participants

● Effectiveness (Understanding of Course Content)

Participants' understanding of course content improved steadily over the three years. Evaluation scores for "Level of Understanding" increased year by year, indicating enhancements in course delivery and clarity of instruction. By 2025, participants demonstrated the highest levels of comprehension, reflecting well-structured sub-courses and effective teaching methods.

● Efficiency (Quality of Lecturers and Materials)

While overall efficiency scores were positive, there was room for improvement in earlier years, particularly in the usefulness of documents and lecturer performance. These aspects saw significant progress by 2025, with consistently high scores for training materials, lecturer appropriateness, and training facilities, showing enhanced preparation and instructional quality.

● Prospective Impact (Application of Knowledge)

The "Level of Application" consistently received the highest average scores each year, highlighting the training's strong relevance and applicability in participants' home countries. The increasing trend in this area demonstrates that the courses effectively equipped participants with practical skills and knowledge aligned with real-world needs and sustainable development goals.

Evaluation of Participants by instructors and used by TISTR and NSTDA

Over the three fiscal years (2023–2025), a total of 44 participants underwent pre- and post-training evaluations. Among them, 84.00% demonstrated significant knowledge improvement, with posttest scores increasing by more than 10%. These results indicate that the training program has been effective in enhancing participants' understanding and technical capacity in renewable energy technologies, thereby contributing to the program's objectives and supporting the achievement of sustainable development goals.

【7. Comments and suggestions from annual/evaluation reports】 (Source: Annual Evaluation Report 2025)

- Well-prepared documents and a structured learning protocol are essential for effective knowledge transfer and experience sharing.
- Comprehensive materials such as textbooks, handouts, and hands-on guides should be provided to accommodate participants' diverse English skills, backgrounds, and responsibilities.
- Emphasis should be placed on sustainability assessment and CO₂ emissions management through carbon capture technology as key tools for achieving sustainable development goals.
- The learning process should follow a step-by-step approach, progressing from fundamental concepts to advanced topics, and culminating in hands-on practice to reinforce practical application.

FY2025 Joint Evaluation of Third Country Training Programme (TCTP) in Thailand
Outline of the Training Course

No. in JICA-TICA List:	3
Training Course Title:	Energy Resilience Assessment: Towards Climate Adaptable Energy Systems
Total Batches:	3 batches (two batches completed, one ongoing)
Period (plan and actual):	JFY2023-2025
Implementation Agency:	National Energy Technology Center (ENTEC)
Sector:	Energy / Climate Change Mitigation
Status:	Ongoing

【I. Background】

Climate change poses a serious global threat, with energy infrastructure increasingly vulnerable to its impact. While renewable energy helps reduce greenhouse gas emissions, low-income countries like Cambodia, Laos, Myanmar, and Vietnam (CLMV) face challenges in ensuring infrastructure resilience. To address this, the concept of energy resilience has gained importance. ENTEC, supported by Thailand's MHESI, has promoted this through ASEAN and APEC frameworks. A joint training by Japan and Thailand aims to share knowledge and practices to strengthen energy resilience in ASEAN, especially CLMV, contributing to global climate goals.

【II. Outline of the training course】

1.Implementation period

Plan (RD)	Actual
one week each year during 2023-2025, on-site	5 days_ 19 - 23 Feb 2024; On-site
	10 days_ 18-27 Nov 2024; On-site
	To be implemented

2. Countries Invited and Total Number of Participants

• **Countries invited:**

Brunei Darussalam, Cambodia, Indonesia, Lao PDR, Malaysia, Myanmar, the Philippines, Singapore, Thailand, Vietnam, and Timor Leste. Singapore and Brunei Darussalam will be self-funded for international travel expenses and related costs.

• **Total number of participants:**

	Plan (GI)	Actual
2023	27 persons	17 persons
2024	27 persons	13 persons
2025	-	-

3. Input (Total cost, (1) JICA (2) TICA (3) Implementation agency if any)

- R/D Estimate for the first course: Total THB 1,276,192 (There is no information regarding cost-sharing)
- Estimate before implementation and actual expense of each course:

(Unit: THB)

		Plan	Actual
2023	JICA	656,464	494,847
	TICA	649,000	-
	ENTEC	50,000	-
	Total	1,354,464	-
2024	JICA	713,560	446,545
	TICA	765,780	-

	ENTEC	90,000	-
	Total	1,479,400	-

4. Completion report of the training course (yes/no)

Two Annual Evaluation Reports (2023,24) are available.

5. Others/ Memo

【Theory of Change (TOC)】

Output =>	Initial Outcome =>	Intermed.Outcome =>	Final Outcome =>	(Further)
e.g) # certified Participants completed the training course with certificate.	e.g.) Skills obtained Participants learn the concept of energy resilience and how to assess it, and gain practical skills to use them.	e.g.) Application of skills Participants regularly conduct energy resilience assessments in CLMV countries based on the knowledge gained from the training.	e.g.) Production ↑ & Income ↑ Resilience assessments are institutionalized within national energy policies and infrastructure plans. Collaboration on climate-resilient energy policies is strengthened across ASEAN.	e.g.) Life ↑ Contributing to the achievement of the Sustainable Development Goals, specifically SDG 7 (Affordable and Clean Energy) and SDG 13 (Climate Action).

(Source) developed by IDCJ team

ANNEX 1 Design of the Training Course

【1.Overall Goal】

The project aims to enable the realization of energy resilience concept as a means to enhance energy infrastructure adaptability against climate change and promote actual implementation of energy resilience assessment in ASEAN Member States, with a focus on CLMV, in order to leverage the efforts towards the Sustainable Development Goals.

【2. Objective 】

1. To disseminate knowledge on energy resilience concept and provide hands-on training on energy resilience assessment to ASEAN countries and Timor Leste, with a focus on CLMV countries.
2. To facilitate pilot energy resilience assessments in ASEAN countries, in particular CLMV countries.
3. To facilitate the development of energy resilience assessment hubs of knowledge in interested ASEAN countries.

【3. Language】

English

【4. Training Methods】

[2023] Lecture 40% (Local lecturer 50% & Japanese 50%), Practice 50%, Field Study 10%

[2024] Lecture 50% (Local lecturer 60% & Japanese 40%), Practice 40%, Field Study 10%

[2025] to be implemented

(Source: Annual evaluation reports)

【5. Course Outline】

Title (GI)	Content (GI)
General Course:	1.1 Country report presentations on national alternative and renewable energy policy and national climate change policy 1.2 Climate change and energy infrastructure 1.2.1 Climate change adaptation in energy sector 1.2.2 Climate resilience and disaster resilience 1.3 Related national and regional policy landscape 1.3.1 Japan Green Transformation 1.3.2 ASEAN Energy Outlook 1.3.3 ASEAN State of Climate Change Report 1.3.4 ASEAN Strategy for Carbon Neutrality
Specific Course	2.1 Energy resilience concept 2.1.1 Energy resilience concept and its interpretation 2.1.2 APEC Energy Resiliency Principle 2.2 Energy resilience assessment 2.2.1 ASEAN Energy Resilience Assessment Guideline 2.2.2 Case studies of energy resilience assessment 2.2.3 Energy resilience assessment hands-on training 2.2.4 Energy resilience assessment tabletop exercise 2.3 Discussion and presentations

【6. Course Evaluation (method and result)】

- **Evaluation method**
 - a. Qualitative Evaluation after Hands-on Training

A reflection-based qualitative evaluation was conducted at the end of the hands-on session using the case study of CMRU's 702 kW solar power plant. This aimed to gather feedback to improve the training methods for future sessions.

b. Qualitative Evaluation after Tabletop Exercise

Another qualitative evaluation was implemented after the tabletop exercise involving the Pha Dan community solar facility. The purpose was to assess participant reactions to the adjusted training methods.

c. Qualitative Evaluation on Final Day

A third qualitative evaluation was conducted on the last day of the course to understand each country's overall impressions and perspectives regarding the entire training.

d. Quantitative Evaluation (Online Survey)

A quantitative evaluation was conducted via an online questionnaire. The survey link was distributed using a QR code, and all participants were encouraged to complete the survey before the course ended.

• **Evaluation result**

[2023]

The evaluation of the training course indicated a high level of overall participant satisfaction across all assessed areas. Key findings are as follows:

- Contribution to Learning: 3.87
- Instructor's Skills and Responsiveness: 4.69
- Course Content: 4.69

Change of knowledge and skill levels:

- At the start of the course: 3.20
- Required level to complete the course: 3.80
- At the end of the course: 4.13

These results suggest that participants not only met the required level of knowledge and skills but also improved significantly throughout the course. The increase in post-course scores compared to pre-course levels indicates the training's effectiveness in enhancing participants' understanding, particularly on the concept and assessment of energy resilience. Overall, the evaluation highlights that:

- The training successfully facilitated learning on energy resilience assessment.
- The instructors demonstrated strong expertise and responsiveness.
- The course content was highly relevant and well-received

[2024]

Both training courses received high average scores across all evaluation criteria, indicating a high level of participant satisfaction. Key findings are as follows:

- Contribution to Learning: 3.97 and 3.98
- Instructor Skills & Responsiveness: 4.67 and 4.70
- Course Content: 4.38 and 4.36

Participants' self-assessed knowledge levels improved significantly:

- Start of course: 2.62 and 3.14
- End of course: 3.77 and 3.93
- Knowledge required to complete the course: 3.69 and 3.79

The training successfully enhanced participants' understanding of energy resilience, resilience assessment, and climate finance. The results also reflect the instructors' strong competence and effective contribution to learning.

【7. Comments and suggestions from annual/evaluation reports】

[2023]

- Course Preparation SOP: ENTEC will work with TICA and JICA Bangkok to create a standard procedure to prepare the FY2024 training, ensuring enough time for all countries to join.
- More Focus on Energy Resilience Concept: More time will be given to explain the energy resilience concept and the ASEAN Energy Resilience Assessment Guideline.
- New Module on Financial Aspects: ENTEC will design a new module on the financial aspects of energy resilience, with support from Japanese experts (IEEJ and Sompo Risk Management).

[2024]

- Application Process: ENTEC will use the SOPs to streamline applications and encourage more participation from all countries.
- New Short Course: A 3-day course for past participants will focus on energy resilience, climate finance, and future collaboration.
- Extended Module II: Climate finance sessions will be extended to 5 days to deepen understanding of investment-related issues.
- Future Plan (TCP): ENTEC plans to propose a Technical Cooperation Project to establish a regional training center and strengthen Japan–ASEAN collaboratio

FY2025 Joint Evaluation of Third Country Training Programme (TCTP) in Thailand

Outline of the Training Course

No. in JICA-TICA' List:	4
Training Course Title:	Practice in Innovation and Digital Technology for Sustainable Water Management
Total Batches:	2 batches
Period (plan and actual):	Plan: 2024 – 2025 Actual: On-going
Implementation Agency:	Metropolitan Waterworks Authority (MWA), Ministry of Interior.
Sector:	Environment and Climate Change
Status:	On-going

【I. Background】 (should be 2-3 lines)

The world is currently experiencing many changes, including climate change and digital transformation which play an important role in living and working more and more. MWA recognizes the importance of these changes, and is ready to respond to the Thailand 4.0 policy, including creating innovations to solve these problems. MWA also hopes to share and exchange working experiences in dealing with these through a training program, especially with CLMV countries and ASEAN countries where a landscape and environment are similar to Thailand, in order to make water supply staff in these countries be able to cope with climate change in an advanced way and that will benefit the organization and people.

【II. Outline of the training course】 (from R/D. Remarks added any change from R/D)

1. Duration and Mode (Total days) (Online or On-site)

On-site only.

2. Schedule by year

Year	Schedule
2024	7 - 20 JULY 2024
2025	(not yet done)

3. Countries Invited and total Number of Participants

2024: 5 countries. Cambodia, Lao PDR, Myanmar, Vietnam and Thailand. 17 participants.

4. Input (Total cost, (1) JICA, (2) TICA. (3) Implementation agency if any)

<7-12 July 2024>	JICA	TICA
Planned (%)	867,000 (52.60%)	780,353 (47.40%)
Actual (%)	616,075 (53.50%)	535,429 (46.50%)

5. Completion report of the training course (yes/no)

Yes. 1 annual report is available.

6. Others/ Memo

【Theory of Change (TOC)】

Output =>	Initial Outcome =>	Intermed.Outcome =>	Final Outcome =>	(Further)
e.g) # certified - Participants completed the training course with certification	e.g.) Skills obtained - Useful knowledge, best practices and experiences are equipped.	e.g.) Application of skills - Useful knowledge, best practices and experiences are applied for water management in each country.	e.g.) Production ↑ & Income ↑ - Each country will cope with climate change in an advanced way	e.g.) Life ↑ - People will be benefitted in each country.

(Source) developed by IDCJ team

ANNEX 1 Design of the Training Course

【1.Goal】

To develop and increase human resource capacity by internationally exchanging knowledge and experiences which leads to sustainability in water management with interesting technologies and innovations in Cambodia, Lao PDR, Myanmar, Vietnam, Timor-Leste, and Thailand including other Asian countries where water supply needs technology transformation.

【2. Objective】 E.g.) #1. ~ #5.etc.

<Purpose> 1. To let participants gain useful knowledge, best practices and experiences that MWA uses for technology and innovation management; and 2. To let participants have an opportunity to fruitfully exchange waterworks knowledge, best practices and experiences among each other to be able to compatibly adapt to their organization's context.

<Objectives> At the end of the course, the participants are expected to have;

- 1) Gain useful knowledge, best practices and experiences that MWA and its partners use for technology and innovation management;
- 2) Gain fruitful insights/ideas from the experience exchange in waterworks among the participants;
- 3) Apply the knowledge or ideas learnt from the training course to their own organization.

【3. Language】 E.g.) English only; National Language, Hybrid

English.

【4. Training Methods】

<2024> Lecture 55% (Japanese expert 17%), Practice 6%, Field Study 23%, Workshop 17%.

【5. Course Contents】

Day	Morning	Afternoon
1	- Arrival -	
2	Opening Ceremony, Course Orientation, Self-intro.	Overview of water supply management
3	Raw Water Source Management	Water Treatment (guest speaker from KU)
4	Water Treatment & Water Quality	Incident Management
5	Network Management	Site Visit at Yokogawa Thailand
6	Digital Transformation	Digital MWA
7-8	<Day off>	
9	Knowledge & Innovation Management	Travel to Rayong (+ Cultural visit)
10	Study Visit - WHA Utilities and Power PCL	(+ Cultural visit)
11	Non-Revenue Water Management (1)	Non-Revenue Water Management (2)
12	Online session with JICA HQ	Pipeline Management
13	Workshop:- Group Presentation Preparation	Workshop: Group Presentation Closing Ceremony

【6. Course Evaluation (Method & result)】 E.g.) Participants' rating average; PrePost test score; Comments.

(Method> This course used two levels of evaluation;

- 1) evaluating participant satisfaction (Course Evaluation by Participants)
- 2) evaluating learning of participants (Evaluation of Participants by the implementing agency)

<Result>

A. Course Evaluation by Participants

The overall average rating across all items (4.33 out of 5); Satisfaction with the Site Visit at Yokogawa (Thailand) Co., Ltd. (4.49 out of 5); Satisfaction with the Site Visit at WHA Utilities and Power Public Co., Ltd, Rayong Province (4.46 out of 5); Course Management (4.68 out of 5); and Satisfaction with Allowance (88.2%).

B. Evaluating the Learning of Participants

By doing the pre-test and post-test, the result is analyzed as follows: The pre-test scores range from 7 to 16, whereas the post-test scores range from 13 to 19. The average pre-test score is 10.75 and the average post-test score is 16.75. The overall improvement across all participants is approximately 37.89%.

【 Other (7. PR Activities) 】

Yes/ media = Facebook (JICA, M-WIT), MWA Website and Press Release

(1) <https://www.mwa.co.th/tica-jica-09-07-67/> (2) <https://today.line.me/th/v2/article/0Mn5B1P>

FY2025 Joint Evaluation of Third Country Training Programme (TCTP) in Thailand
Outline of the Training Course

No. in JICA-TICA List:	5
Training Course Title:	Emergency Medical Service (EMS) Leadership and Management Training Course for Regional Training for Pre-Hospital Emergency Care in CLMV
Total Batches:	3 batches
Period (plan and actual):	JFY2022-2024(Plan), 2023-2024(Actual)
Implementation Agency:	National Institute for Emergency Medicine (NIEM)
Sector:	Health / Emergency Medical Services
Status:	Completed

【I. Background】

This training program is jointly organized by the Government of Japan (through JICA), the Government of Thailand (through TICA), and the National Institute for Emergency Medicine (NIEM), with the aim of strengthening emergency medical service (EMS) systems in Cambodia, Lao PDR, Myanmar, and Vietnam (CLMV countries). The Regional Training for Pre-Hospital Emergency Care is designed to enhance the capacity of health personnel in CLMV countries and to support the development of a solid foundation for EMS in each country.

【II. Outline of the training course】

1.Implementation period

Plan (RD)	Actual
Approximately 4 days each year during JFY2022-2024, on-site	4days 8-11 May 2023(exclusive of travelling dates); On-site
	16 days 4-24 February 2024 (exclusive of travelling dates); On-site
	10 days 16-27 September 2024 (exclusive of travelling dates); On-site

2. Countries Invited and Total Number of Participants

- **Countries invited:**
Cambodia, Lao PDR, Myanmar, Vietnam (CLMV)
- **Total number of participants:**

	Plan (RD)	Actual
2023(1)	24 persons	16 persons
2023(2)	24 persons	16 persons
2024	24 persons	20 persons

3. Input (Total cost, (1) JICA (2) TICA)

- **Estimate before implementation and actual expense of each course:**

(Unit: THB)

		Plan	Actual
2023(1)	JICA	481,100	-
	TICA	498,850	-
	Total	979,950	-
2023(2)	JICA	373,314	-
	TICA	342,000	-
	Total	715,314	-
2024	JICA	931,088	-
	TICA	865,300	-
	Total	1,796,388	-

4. Completion report of the training course (yes/no)

Three Annual Evaluation Reports are available. The Final Course Report is not yet available.

5. Others/ Memo

【Theory of Change (TOC)】

Output =>	Initial Outcome =>	Intermed.Outcome =>	Final Outcome =>	(Further)
e.g) # certified Participants completed the training course with certificates.	e.g.) Skills obtained Participants acquire EMS knowledge and the necessary skills to become instructors.	e.g.) Application of skills Participants conduct EMS training as instructors.	e.g.) Production ↑ &Income ↑ EMS training is becoming widely adopted in each CLMV country. Regional collaboration among these countries is strengthened.	e.g.) Life ↑ A reliable EMS system is established in the CLMV countries, strengthening the healthcare sector across the region.

(Source) developed by IDCJ team

ANNEX 1 Design of the Training Course

【1. Goal】

Emergency Medical Service System in CLMV countries is strengthened through ability to have professionally trained personnel.

【2. Objective】

- (1) To introduce various aspects concerning emergency medicine to CLMV participants;
- (2) To prepare CLMV trainees with specific skills and knowledge required for EMS instructors in their respective countries;
- (3) To provide essential knowledge as basis for EMS medical direction for key personnel and decision-makers in EMS development of each respective country;
- (4) To share knowledge and experience for EMS in health emergencies i.e. COVID19 outbreak

【3. Language】

English

【4. Training Methods】

[2023(1)] Lecture 68% (Local lecturer 72% & Japanese 4%), Practice 20%, Field Study 12%

[2023(2)] Lecture 63% (Local lecturer 62% & Japanese 39%), Practice 37%, Field Study 13%

[2024] Lecture 68% (Local lecturer 72% & Japanese 4%), Practice 20%, Field Study 12%

(Source: Annual evaluation reports)

【5. Course Contents】

[2023(1): EMS Medical Director Training Course] source: RD

- Principles of EMS system
- Clinical leadership and oversight
- Human resources in EMS system
- Formulation and presentation of action plan

[2023(2): EMS Leadership and Management Training Course] source: RD

Training subject	Contents
Learning style	Way to Improved Information Retention Learning style exercises Motivation / Maslow Communicating skill in the classroom Learner Reinforcement Assignment of Teaching
Presentation strategies	Learning environment Public speaking Presentation style Audiovisual
Evaluation	Lesson plan and Development syllabus Type of evaluation Create and interpreting text Test constructing exercise Student MINI presentation and conclusion of each presentation
Assessment	Scene sizes up Primary assessment Secondary assessment: Unstable / unsure

	Secondary assessment: Stable/ History taking Immobilization
Immobilization	Primary assessment Immobilization Triage
Airway management / ACLS	Airway and Breathing management ACLS guideline Station Practice
Practical teaching	Public Speaking: Learner teaching and teacher debrief presentation EMS Topic: Disaster management EMS Topic: Orientation for continuous planning for EMS instructor Program
Review	Lecture: Patient assessment/ Cardiac/ Airway Practical Skill: Patient assessment / Cardiac/ Airway
Examination	Competency testing (ACLS and Trauma Skill) Writing testing

[2024: Emergency Medical Technician Instructors Course] source: RD

Training subject	Contents
Emergency medical service system	Introduction to Emergency Medical Service System Introduction of EMS Medical Director Legal issues of Emergency Medical Service Management and Operation Workshop Ground Medical Transportation
Special EMS	Mass Casualty Incident Aeromedical Transportation Marine Medical Transportation Basic Disaster Life Support Sport Medicine
Clinical management	Basic Life Support (BLS) Advanced Cardiovascular Life Support (ACCLS) Basic Life Trauma Support Advanced Trauma Life Support EMS and Medical Equipment
Education and training	-
Study visit	Ambulance Station and Trauma Excellence Center Dispatch Center NGO EMS operation

【6. Course Evaluation (method and result)】

• Evaluation method

The evaluation used questionnaires developed by NIEM, covering four main areas: general information, course structure, lecturers, and medical knowledge. Questions addressed participants' background, course design and delivery, lecturer performance, and participants' understanding after the training. Responses were rated on a 5-point scale (1 = Strongly Disagree, 5 = Strongly Agree), and analyzed using basic statistical methods such as percentages.

• Evaluation result

[\[2023\(1\)\]](#)

- Participants in the 2023 training understood the content well and found the course useful. Materials were rated highly, but lectures were considered too long, making it hard to stay focused. Some suggested more practical, step-by-step instruction, especially for action plan topics.
- Lecturers were well-prepared, though communication and teaching methods could improve. The venue was appropriate, but the 4-day schedule felt too short. This showed participants were eager to learn more and highlighted the need for more time on unfamiliar topics.

[2023(2)]

- Some participants noted that 3-hour lectures were sometimes too long, affecting focus. Practical, step-by-step instruction was recommended for better understanding, especially for action plan topics.
- The training venue (NIEM) was appropriate, and time allocation was satisfactory. However, participants requested more variety and larger portions for lunch and refreshments. The limited training time was seen as a sign of participants' eagerness to learn, highlighting the need for longer sessions on unfamiliar topics.

[2024]

- The Emergency Medical Technician Instructors Training Course attracted a diverse group of trainees, including rescue personnel, fire rescue corps, medical doctors, and nurses with EMS experience. The course's education theories and teaching methods were well received, especially since medical education opportunities are limited in Thailand.
- Practical sessions, including APCLS and PHTLS training with hands-on stations and scenarios, were a key feature and considered both challenging and valuable by trainees. Most participants felt the course was beneficial but suggested it should be longer and less rushed to allow for more detailed learning.

【7. Comments and suggestions from annual/evaluation reports】

Main recommendations from Annual Evaluation Reports:

- Some sessions are too long and densely packed with information, which can make them boring and cause fatigue, reducing participants' ability to absorb the material.
- More practical exercises, problem-solving sessions, and field studies should be included to enhance engagement and understanding.
- Some lecturers teach for long periods without exercise, leading to participants feeling sleepy.
- Occasionally, sessions went overtime, but this was generally acceptable.
- Increase the number of participants from CLMV countries. Besides emergency doctors, emergency nurses should also be encouraged to attend, as EMS is a team effort.
- Consider extending the course duration by adding more days to avoid overloading participants in a single day

FY2025 Joint Evaluation of Third Country Training Programme (TCTP) in Thailand
Outline of the Training Course

No. in JICA-TICA List:	6
Training Course Title:	International Road Infrastructure Development for ASEAN and BIMSTEC Networks (Phase 2)
Total Batches:	3 batches
Period (plan and actual):	JFY2021-2023
Implementation Agency:	Department of Highways (DOH)
Sector:	Transport and Urban/Regional Development
Status:	Completed

【I. Background】

Japan is collaborating with the Association of Southeast Asian Nations (ASEAN) and the Bay of Bengal Initiative for Multi-Sectoral Technical and Economic Cooperation (BIMSTEC) countries to strengthen connectivity in those regions, thereby supporting sustainable development. As part of the efforts, based on a proposal from the Thailand Department of Highways (DOH), the TCTP course on International Road Infrastructure Development for ASEAN and BIMSTEC Network (phase 1) was conducted during JFY2017 and JFY2019. Following this, the next phase of the training course was formulated.

【II. Outline of the training course】

1.Implementation period

Plan (RD)	Actual
3 weeks each year during JFY2021-2023, on-site	19 days 16 Jan - 3 Feb 2023 (exclusive of travelling dates); On-site
	19 days 3-21 July 2023 (exclusive of travelling dates); On-site
	19 days 15 Jan - 2 Feb 2024 (exclusive of travelling dates); On-site

2. Countries Invited and Total Number of Participants

• **Countries invited:**

Cambodia, Indonesia, Lao PDR, Malaysia, The Republic of the Union of Myanmar, The Philippines, Vietnam, Thailand, Bangladesh, Bhutan, Nepal, Sri Lanka

• **Total number of participants:**

	Plan (GI)	Actual
2023(1)	25 persons	18 persons
2023(2)	25 persons	20 persons
2024	25 persons	21 persons

3. Input (Total cost, (1) JICA (2) TICA (3) Implementation agency if any)

- **R/D Estimate for the first course:** Total THB 3,259,700 (JICA: 1,627,800; TICA(Thailand): 1,631,900)
- **Estimate before implementation and actual expense of each course:**

(Unit: THB)

		Plan	Actual
2023(1)	JICA	1,095,200	1,041,876
	TICA	1,081,422	-
	Total	2,176,622	-
2023(2)	JICA	1,076,450	966,426
	TICA	1,060,160	-
	Total	2,136,610	-
2024	JICA	1,129,484	1,118,717

	TICA	1,051,300	-
	Total	2,180,784	-

4. Completion report of the training course (yes/no)

Yes. 3 Annual Evaluation Reports and Draft Terminal Evaluation Sheet are available.

5. Others/ Memo

【Theory of Change (TOC)】

Output =>	Initial Outcome =>	Intermed.Outcome =>	Final Outcome =>	(Further)
e.g) # certified Participants completed the training course with certificate.	e.g.) Skills obtained Knowledge and understanding is obtained on international road networks; issues related to planning, management and maintenance of road projects; and highway and bridge design, road safety and other engineering issues.	e.g.) Application of skills • Gained knowledge and experiences are applied to the participant countries' road development projects. • Knowledge sharing and collaboration in international road development projects are promoted among the participant countries.	e.g.) Production ↑ &Income ↑ International road network development is promoted/improved in ASEAN and BIMSTEC countries.	e.g.) Life ↑ (Mobility and economic activity in the regions become more active.)

(Source) developed by IDCJ team

ANNEX 1 Design of the Training Course

【1.Goal】

Transferring and exchanging best practices and knowledge including new technology on road infrastructure development to ASEAN and BIMSTEC as well as formulating road network and collaboration among relevant road authorities in the regions.

【2. Objective 】

- (1) To develop knowledge and understanding on international road infrastructure networks development among ASEAN and BIMSTEC countries.
- (2) To develop knowledge and understanding on planning for road projects funded by overseas loans and grants.
- (3) To exchange best practices and experiences on road construction problems and solutions, highway and bridge design, road safety and other engineering issues.
- (4) To facilitate the exchange of knowledge and experiences among participants in order to promote mutual cooperation on road engineering issues.
- (5) To recommend new technology for road infrastructure development (if any)

【3. Language】

English

【4. Training Methods】

[2023(1)] Lecture 76% (Local lecturer 76% & Japanese 0%), Field Study 18%, Cultural Visit 6%

[2023(2)] Lecture 86% (Local lecturer 86% & Japanese 0%), Field Study 10%, Cultural Visit 3%

[2024] Lecture 76% (Local lecturer 75% & Japanese 1%), Field Study 18%, Cultural Visit 6%

(Source: Annual evaluation reports)

【5. Course Contents】

Module # and title (R/D)	Content (R/D)	Note
Module 1 International Road Network Development & Road Management and Administrative System	1) Infrastructure Development of Thailand: Land, Air and Water Transportation Modes 2) DOH's Road Management and Administration 3) ASEAN and BIMSTEC Networks 4) Land Transport Regulations for International Vehicles and Truck Loads 5) International Bridge Management System: Border Control, ICQ System, Management of Traffic Safety 6) Road Maintenance and Management & New Maintenance Technologies Transferred from Japan	6) was renamed to "Bridge Construction and Maintenance Technologies Transferred from Japan" in Batch 3 (GI).
Module 2 Planning for Road Projects	1) Feasibility Study for Road Project 2) Environmental Impact Assessment & Public Involvement and Resettlement Plan 3) Public Private Partnership (PPP) for Road Project 4) Overseas Loan Projects: International Procurement Guideline, Bidding 5) Procurement Flow for Civil Works and Construction Supervision Consulting Services and Condition of Contract	2) was renamed to "Sustainable Highway Development" in Batch 3 (GI).
Module 3 Highway Design	1) Geometric Design of Highway 2) Highway Bridge Design 3) Highway Materials and Pavement Structure Design	
Module 4 Road Construction Project Administration	1) Construction Contract Management 2) Cost Estimation for Road Construction 3) Highway Material Quality Control and Testing 4) Problems and Resolutions for Road Construction	4) was changed to "Road Safety Audit and Work Zone Safety" in Batch 3 (GI).

Module 5 Slope Engineering for Highway	1) Embankment Design for Highways 2) Highway Slope Failures: Case Studies 3) Ground Improvement Techniques 4) Earth Reinforcement System 5) Problematic Issues on Subsurface Water in Road System	
Module 6 Road Traffic Safety	1) Road Safety Management 2) Intelligent Transport System 3) Road Safety Devices for Highways	
Module 7 Technical Visits on Road Engineering and Cultural Heritage	1) Technical Visits on International Bridge Projects 2) Technical Visit on Road Construction Project funded by Overseas Loan 3) Technical Visit on Overpass Construction Project at Bo Win Industrial Estate/ Eastern Sea Board/ Amata City and Pak Ruam Intersection 4) Technical Visit on DOH Road Human Resource Development Center 5) Cultural Visits	(Some of the specific visit destinations varied depending on the batch.)

Note: A Japanese expert gave a lecture on the subject “Equipment and Operation in Tunnel Section” in the Batch 3 training according to Terminal Evaluation Sheet (draft). No information is available on which module the lecture belonged to.

【6. Course Evaluation (method and result)】

• Evaluation method

(1) Course evaluation by participants (participant satisfaction)

- 1) Topic evaluation: 5 point-scale (1-5) questions to assess effectiveness, efficiency and prospective impact
- 2) Overall evaluation: 5 point-scale (1-5) questions to assess relevance, effectiveness, efficiency, impact and sustainability

(2) Evaluation of participants by the implementing agency

The post test was conducted at the end of every subject. Pre-test was not conducted.

• Evaluation result

[2023(1)]

(1) 5-point results were converted into percentage scale (100%: highest). Average scores are as follows:

- 1) Effectiveness: 88.9 (81.1-95.6 across subjects); Efficiency: 88.4 (77.8-95.6); Impact: 88.8 (83.3-97.8)
- 2) Relevance: 91.9; Effectiveness and Efficiency: 87.9; Impact: 92.8; Sustainability: 84.4 (All criteria were rated as “achieved.”)

(2) The post-tests’ average score of all subjects (100%: highest): 79.8

[2023(2)]

(1) 5-point results were converted into percentage scale (100%: highest). Average marks are as follows:

- 1) Effectiveness: 91.9 (88.0-99.0 across subjects); Efficiency: 93.0 (82.4-99.0); Impact: 93.6 (87.4-99.0)
- 2) Relevance: 95.2; Effectiveness and Efficiency: 93.0; Impact: 95.0; Sustainability: 92.0 (All criteria were rated as “achieved.”)

(2) The post-tests’ average score of all subjects (100%: highest): 84.0

[2025]

(1) 5-point results were converted into percentage scale (100%: highest). Average marks are as follows:

- 1) Effectiveness: 92.9 (85.7-98.1 across subjects); Efficiency: 93.4 (82.0-98.8); Impact: 94.4 (85.6-98.1)
- 2) Relevance: 89.8; Effectiveness: 84.0; Efficiency: 84.4; Impact: 84.4; Sustainability: 76.3 (All criteria were rated as “achieved.”)

(2) The post-tests’ average score of all subjects (100%: highest): 79.0

[Terminal Evaluation Sheet (draft)]

Achievement of Objectives: Both Objectives (1&2) are achieved.

Achievement of Purpose: Achieved

【7. Comments and suggestions from annual/evaluation reports】

Main recommendations from Annual Evaluation Reports:

- The course period should be longer.
- Time and places for technical visits should be increased.
- It would be better to include a variety of works in technical visits, such as construction sites.

Main points from lessons learned indicated in Terminal Evaluation Sheet (draft):

- Initially, it was considered to conduct this training online due to the spread of COVID-19. However, there were very few applicants interested in the online training sessions. Part of this may be due to the engineering content not being suitable for solely online lectures. Engineering work often requires practical learning, accompanied by teaching or supplementary theoretical lectures.
- In terms of applying procedure, it was found that sometimes the transmission of information between countries through official channels, such as sending applications through embassies, could be slow. Information about scholarship applications in some countries did not reach the relevant agencies in time. To cope with this issue, for the last batch, DOH promoted the scholarship application by sending emails to ex-trainees individually and also providing information directly to the public sectors within the ASEAN and BIMSTEC groups that collaborate with DOH.

FY2025 Joint Evaluation of Third Country Training Programme (TCTP) in Thailand
Outline of the Training Course (No. #7)

No. in JICA-TICA' List:	#7
Training Course Title:	Rice Production Technologies for Food Security and Sustainability of African Countries
Total Batches:	3 batches
Period (plan and actual):	1st RD (Mar.23,2021) JFY2021– 2023 (3years) 2nd RD (Aug. 8, 2024): JFY2024-2026 (3 years)
Implementation Agency:	Kasetsart University (KU)
Sector:	Agricultural Development
Status:	3 years completed an ongoing in 2025

【I. Background】 (should be 2-3 lines)

In accordance with the Coalition for African Rice Development (CARD) phase 2 that aims to double the rice production in Sub-Saharan Africa by 2030., JICA, TICA and Kasetsart University (KU) agreed to develop the courses for African countries, expecting that the result will contribute to the CARD's goal.

【II. Outline of the training course】 (from R/D. Remarks added any change from R/D)

1. Schedule by year

↓ 1st RD (Mar.23,2021)	
Year	Schedule
2022	Online: 5-26 Sep. 2022.
2023	Pre-Onesite: 5-14 Aug, 2023; Onsite: 15 Aug. – 19 Sep, 2023.
2024	Onsite: 17 Jan. – 20 Feb.2024 (French African countries)
↓ 2nd RD (Augt.2024)	
Year	Schedule
2024	8 Jan. – 14 Feb. 2025
2025	Not yet done
2026	Not yet done.

2. Countries Invited and total Number of Participants

2022 (Online): 15 African countries : Angola, Ethiopia, Gambia, Ghana, Guinea-Bissau, Kenya, Liberia, Mozambique, Malawi, Sierra Leone, Rwanda, Sudan, Tanzania, Uganda, Zambia.

2023(Pre & Onsite): 18 African countries: Angola, Ethiopia, Gambia, Ghana, Guinea-Bissu, Kenya, Liberia, Mozambique, Malawi, Nigeria, Sierra Leone, Rwanda, Sudan, Tanzania, Uganda, Zambia.

2024 (Onsite -Francophone) : 6 French African countries: Benin, Burkina Faso, Burundi, Cote d'Ivoire, Gabon, Senegal.

3. Input (Total cost, (1) JICA, (2) TICA. (3) Implementation agency if any) Unit: Thai Bath

↓ 1st RD (Mar.23,2021)	
Plan (Mar.23, 2022)	16,286,260 ((1) Japan:8,242,800 (50.61%); (2) Thailand 8,043,460(49.39%))
Plan (2023 Pre- & Onsite)	8,433,227 ((1) 4,271,060 (50.65%); (2) 3,749,567 (44.46%), (3)412,600 (4.89%))
Plan (Jan.8,2024 Onsite)	9,545,686 ((1)5,041,060 (52.81%), (2)4,333,626 (45.40%), (3) 171,000(1.79%)
↓ 2nd RD (Augt.2024)	
Plan (7 Jan.-15 Feb.2025)	5,179,349 ((1) JICA 2,751,860 (53.13%); (2) TICA 2,284,989 (44.12%); (3) KU 142,500(2.75%)

4. Completion report of the training course (yes/no)

Yes. 3 annual reports are available.

5. Others/ Memo

It is observed that the training course is extended to the subsequent year (FY2025).

【Theory of Change (TOC)】

Output =>	Initial Outcome =>	Intermed.Outcome =>	Final Outcome =>	(Further)
e.g) # certified Participants completed the training course with certification	e.g.) Skills obtained The technology and management of rice production (from planting to harvesting) obtained.	e.g.) Application of skills Skills applied in their work and diffused to the farmers and related workers.	e.g.) Production ↑ & Income ↑ -Farmers apply the skills. - Rice production increased (doubled).	e.g.) Life ↑ -Famers' income increased. -Famer's life become better.

(Source) developed by IDCJ team

ANNEX 1 Design of the Training Course

【1.Goal】

Subsistence of rice production aims to reduce cost in rice production that gain yield and grain quality are not decrease. The technology and management of rice production from planting to harvesting include; seed testing, seed preparation, land preparation, planting methods, water management, nutrition management, prevention of rice pests by through alternative methods for proper decision making in safety rice production and also postharvest technology. Moreover, the alternative technologies for rice production including bio-fertilizer, Trichoderma, integrate Pests Management (IPM) and Alternate Wet and Dry (AWD) water management are added on this course. Furthermore, the financial analysis to estimate the budget of rice production is included.

【2. Objective】 E.g.) #1. ~ #5.etc.

1. To address the important roles of rice production of local and new rice varieties in Africa.
2. To identify problems in practices, processes, distribution, and regulation of rice production in each participating African Countries.
3. To understand the processes, management and technology of rice production in centralized and decentralized farmer's participatory approaches for effective rice production and distribution.
4. To gain experiences and understanding of pre- and post- harvest rice production technologies for effective implementation.
5. To develop the action plan to implement rice production in participants' countries after returning home to the practical improvement of rice production.

【3. Language】 E.g.) English only; National Language, Hybrid

The course were conducted in English. In FY2024, French and English were used.

【4. Training Methods】

Lecture 35%, Field & laboratory practices 35%, Study visit 15%, Discussion & presentation 15%

【5. Course Contents】

Module # and title	Content
Module 1: Introduction of rice production and price policy	- Overview of rice production in Thailand - Rice Policy in Thailand: Economic and Production Issue
Module 2: Technology and Management for Rice (Pre-) Planting	2.1 Rice varieties 2.2 Seed quality 2.3 Land preparation
Module 3: Technology and Management of Rice Production	3.1 Planting; 3.2 Water management; 3.3 Weed management; 3.4 Soil fertility; 3.5 Pest and diseases
Module 4: Technology and Management of Rice Post-Harvest	- Rice harvesting and postharvest technology - Practice for rice harvesting - Practice for grain quality - Rice Logistic and <u>Value Chain System</u> - Cropping system in Paddy field
Module 5: Economic and Financial Analysis for Rice Production	- <u>Cost-Benefit Analysis (CBA)</u> in Rice Production
Module 6: Country report, Presentation and Discussion	-Country report: presentation -Summarize and Discussion for policy of rice production -Action plan presentation -The writing project on " <u>Individual Action Plan</u> "
Module 7: Study Visit <Onsite program>	-Upland rice; -Rice farmer community; - Bid paddy field project; - Rice Science Center, etc. Centers, Musiums, Farm, Rice Mills are visited.

【6. Course Evaluation (Method & result)】 E.g.) Participants' rating average; PrePost test score; Comments.

↓ 1st RD (Mar.23,2021)

1st year (Online, 2022)) -Evaluation format and questionnaires: 1) evaluating participants and 2) learning achievement of participants

-Topic evaluation : 5 point-scale (1-5) and 8 topics: content; Applicability to your work; the period; training materials; Knowledge ability of the lecturer; Ability to convey knowledge to listeners; Ability to answer questions; Goodness of presentation. **Average 4.77 - 4.91 (Very Good).**

- Comment: Poor internet connectivity and the cost coverage for connecting internet/purchasing data is necessary.

2nd year (Pre & Onsite 2023) "Very good": Relevance, Effectiveness, Efficiency, Impact, Usefulness, Expectation, and Applicability, "Good": Sustainability.

- Comment: Well planned. Learned much.
- 3rd year (Onsite-Francophone 2024) All modules are evaluated as “Very good”.
- Comment: Very good practices.

↓ 2nd RD (Augt.2024)

- On average, all topics were rated **“very good” with 93.46 %**. The average percentage rating score from 88.00 % to 96.40 %.
- Aspects of evaluation: (1) importance, (2) interest, (3) appropriateness of content, (4) relevance to participants works, (5) applicability to participants’ works and (6) goodness of presentation.
- Topic of evaluation: (1) Introduction to rice production and rice policy; (2) Technology and Management for Rice Pre-Planting; (3) Technology and Management of Rice Production; (4) Technology and Management of Rice Post-Harvest; Module 5 Economic and Financial analysis for rice production.
- Study visit: 11 centers and places.
- The information presented in table 5 demonstrated the result of participants’ assessment that related to aspects of average percentage rating score of each item in overall. On average, Overall evaluation were rated “very good” with 90.79%. The average percentage rating score from 70.00 to 97.50%. Usefulness got the highest average score in overall with 97.50% while sustainability got the lowest score with 70.00%

FY2025 Joint Evaluation of Third Country Training Programme (TCTP) in Thailand
Outline of the Training Course

No. in JICA-TICA List:	8
Training Course Title:	Skill Development for Material Processing for Mekong Countries
Total Batches:	5 batches
Period (plan and actual):	JFY2015-2019
Implementation Agency:	Division of Innovation and Industrial Technology Development, Department of Industrial Promotion, Ministry of Industry (Until 2016: Bureau of Supporting Industries Development (BSID))
Sector:	Industrial Advancement
Status:	Completed

【I. Background】

With the realization of ASEAN Economic Community (AEC) in 2015, it was expected that more companies would establish a new production base in CLMV countries with their main factory remaining in Thailand. To be ready for the increasing investment as well as to prepare for the future expansion of production base, it is an urgent issue for CLMV countries to upgrade the capacity and skill level of responsible organizations for supporting industry development.

【II. Outline of the training course】

1.Implementation period

Plan (RD)	Actual
3 weeks each year during JFY2015-2019	21 days 13 Sep - 3 Oct 2015; On-site
	21 days 6-26 Nov 2016; On-site
	21 days 5-25 Nov 2017; On-site
	14 days 10-23 Feb 2019; On-site
	18 days 28 Jan - 14 Feb 2020; On-site

2. Countries Invited and Total Number of Participants

- **Countries invited:**
Cambodia, Lao PDR, Myanmar and Vietnam
- **Total number of participants:**

	Plan (GI)	Actual
2015 (JFY2015)	20 persons	14 persons
2016 (JFY2016)	20 persons	19 persons
2017 (JFY2017)	20 persons	25 persons
2019 (JFY2018)	20 persons	17 persons
2020 (JFY2019)	20 persons	20 persons

3. Input (Total cost, (1) JICA (2) TICA (3) Implementation agency if any)

- **R/D Estimate for the first course:** Total THB 2,241,498 (JICA: 1,524,958; TICA: 716,540)
- **Estimate before implementation and actual expense of each course:**

(Unit: THB)

		Plan	Actual
2015	JICA	1,524,958	1,109,218
	TICA	716,540	-
	Total	2,241,498	-
2016	JICA	1,863,000	1,736,874
	TICA	-	-

	Total	-	-
2017	JICA	1,763,600	1,583,518
	TICA	-	-
	Total	-	-
2019	JICA	1,024,580	656,758
	TICA	-	-
	Total	-	-
2020	JICA	1,071,300	1,065,300
	TICA	-	-
	Total	-	-

4. Completion report of the training course (yes/no)

Annual evaluation reports for 2015 and 2020 are available. Other annual reports (for 2016, 2017 and 2019) are unavailable.

5. Others/ Memo

【Theory of Change (TOC)】

Output =>	Initial Outcome =>	Intermed.Outcome =>	Final Outcome =>	(Further)
e.g) # certified Participants completed the training course with certificate.	e.g.) Skills obtained Participants' skills and techniques in Material processing are upgraded.	e.g.) Application of skills - Capacity and skills of organizations responsible for skill development for supporting industries are improved. - Supporting industries' skill level is improved in CLMV.	e.g.) Production ↑ & Income ↑ - Investment in production bases is increased in CLMV. - Development gaps among ASEAN member countries are reduced.	e.g.) Life ↑ Sustainable economic development in Mekong Region is realized.

(Source) developed by IDCJ team

ANNEX 1 Design of the Training Course

【1.Goal】

Sustainable economic development in Mekong Region is realized through developing skills for supporting industries.

【2. Objective】

- (1) Capacity and skills of organizations responsible for skill development for supporting industries will be improved.
- (2) Participants' skills and techniques in Material processing are upgraded so that they are able to help promote investment climate and narrow development gap among ASEAN member countries. (GI)

【3. Language】

English

【4. Training Methods】

- [2015] Lecture and workshop, Factory visit
[2016] Lecture and workshop, Factory visit
[2017] Lecture and workshop, Factory visit
[2019] Lecture and workshop, Factory visit
[2020] Lecture and workshop, Factory visit

【5. Course Contents】

Module	Content	Note
General course (Common module)	Didactics for Technical training	
Specific course (Module by group)	Plastic Injection Mould Design	JFY2015, JFY2016, JFY2019
	Plastic Injection Process and Mould Technology	
	PLC Programming	JFY2015, JFY2016, JFY2017
	CNC Programming and Operation	JFY2015, JFY2016, JFY2017,
	CNC Machining and Cutting Technology	JFY2018(2019), JFY2019(2020)
	Welding Technology	JFY2016, JFY2017
	Textile Processing of Dyeing and Finishing	JFY2016, JFY2017
	Agricultural Machinery	JFY2018(2019)
	Ceramic Processing	JFY2018(2019)
	Lean Automation System Integration	JFY2019(2020)

Note: Trainees were divided into several (3-5) groups at each batch to learn specific course contents.

【6. Course Evaluation (method and result)】

- **Evaluation method** (from JFY2019 report)
Evaluation of curriculum and trainers by trainees (five-point scale: Best; Good; Moderate; Fair; Poor)
- **Evaluation result**
 - 1) 18 or more trainees out of 20 answered “Best” or “Good” for “Knowledge gained after trained”, “Location”, “Technique and method of training”, “skillful and intelligence of trainers”, and “On time behavior”.
 - 2) 8 trainees out of 20 answered “Best” or “Good”, while 10 answered “Moderate” for “Time and duration”.

【7. Comments and suggestions from annual/evaluation reports】

FY2025 Joint Evaluation of Third Country Training Programme (TCTP) in Thailand

Outline of the Training Course (No. #9)

No. in JICA-TICA' List:	#9
Training Course Title:	Workshop on Investment Promotion Policy and Enhancing Industrial Competitiveness for Mekong and South Asian Countries
Total Batches:	2 batches
Period (plan and actual):	Plan: 2021 – 2022 Actual: 2022-2023, due to COVID19
Implementation Agency:	Thailand Board of Investment (BOI)
Sector:	Industrial Advancement
Status:	Completed

【I. Background】 (should be 2-3 lines)

With the realization of the ASEAN Economic Community (AEC) in 2015, the promotion of Foreign Direct Investment (FDI) is one of the most prioritized challenges of the Mekong countries in order to maintain sustainable economic growth in light of strong competition. Mitigating the development gap among ASEAN member states is also an important obligation of Thailand. Having achieved remarkable economic growth through the successful implementation of an FDI promotion policy, Thailand is the best resource country to contribute in this regard. As a result, JICA, TICA and BOI agreed to organize two more workshops in order to continue to contribute to the economic and industrial promotion and the development in the Mekong and South Asian countries.

【II. Outline of the training course】 (from R/D. Remarks added any change from R/D)

1. Duration and Mode (Total days) (Online or On-site)

On-site only.

2. Schedule by year

Year	Schedule
2021&2022	No (Due to COVID 19)
2023	6 - 17 February 2023
2024	5 - 14 February 2024

3. Countries Invited and total Number of Participants

2023: 6 countries. Cambodia, Lao PDR, Myanmar, Bangladesh, Sri Lanka and Nepal. 18 participants.

2024: 5 countries. Cambodia, Myanmar, Nepal, Sri Lanka, Bangladesh. 17 participants.

4. Input (Total cost, (1) JICA, (2) TICA. (3) Implementation agency if any)

JFY2022 (6-17 Feb. 2023) Estimate: 505,900B; Actual: 277,002.80B(74.52%); Balance: 128,897.20(25.48%)

JPF2023 (5-15 Feb.2024) Estimate: 439.178B; Actual 345,562.20B (78.68%); Balance: 93,615.80 (21.32%)

5. Completion report of the training course (yes/no)

Yes. 2 annual reports are available.

6. Others/ Memo

【Theory of Change (TOC)】

Output =>	Initial Outcome =>	Intermed.Outcome =>	Final Outcome =>	(Further)
e.g) # certified - Participants completed the training course with certification	e.g.) Skills obtained - Skills and knowledge on Foreign Direct Investment (FDI) is obtained	e.g.) Application of skills -Skills and knowledge on (FDI) is and applied for national or sector policy and legislation.	e.g.) Production↑ &Income ↑ - FDI is increased (# and total amount) in each country	e.g.) Life ↑ - Production and trade increased in each country -Income level in each country is increased

(Source) developed by IDCJ team

ANNEX 1 Design of the Training Course

【1.Goal】

Sustainable economic development in Mekong and South Asian Countries are realized through appropriate implementation of investment promotion policies and measures

【2. Objective】 E.g.) #1. ~ #5.etc.

Appropriate and effective policies on investment promotion are to be shared among the Mekong and South Asian Countries, in order to facilitate FDI, and linkage formation with local supporting industries which respond to the current and future needs of sustainable regional economic growth.

【3. Language】 E.g.) English only; National Language, Hybrid English.

【4. Training Methods】

<2023 (JFY2022)> Lecture 13 sessions and Field trip 9 sessions.

<2024 (JFY2023)> Lecture 7 sessions and Field trip 7 sessions.

【5. Course Contents】

2.1 Part I: Lecture

Session # and Topic (2022)	Session # and Topic (2023)
1. Economic Development of Thailand: Psst, Present and Future	1. Thailand Economic Outlook and the Linkage between ASEAN and South Asia
2. Introducing BOI and Investment promotion policy	2. Introducing BOI (Part 1); - Investment Promotion Policy - How to get investment Promotion & Incentives
3. How to get investment promotion and incentives, Pre and Post approval process, Services and facilitation to investor	3. Introducing BOI (Part 2); - Thai Overseas Investment Promotion - BOI Unit for Industrial Linkage Development (BUILD) - Domestic Direct Investment
4. Activities and services to enhance investor competitiveness	4. Thailand's Customs Regulations, Procedures, and Import Tariffs
5. Investment facilitation/ Work permit and visa approval	5. Thailand's Import-Export Procedures and Trade under FTA
6. International advertising campaign for image enhancement and public relation strategy	6. IEAT's Investment Promotion : Privileges, Incentives, and Facilitation
7. Impacts of Government Subsidies on Foreign Investment Promotion	7. Thailand's Long-term Resident (LTR) Visa Program, Work Permit and Visa Approval Process
8. Regional Infrastructure Connectivity	
9. Foreign company registration process	
10. Investment promotion and facilitation	
11. Labor policy and measure and social welfare	
12. SMEs promotion policy, activities and services for SMEs enhancement	
13. Experience sharing from the perspective of multinational companies who invest in ASEAN & more	

2.2 Part II: Field trip

Session # and Organization / Agency (2022)	Session # and Organization / Agency (2023)
14. Thai Chamber of Commerce (TCC) and Board of Trade of Thailand	14. Thai Chamber of Commerce (TCC) and Board of Trade of Thailand
15. Federation of Thai Industries (FTI)	15. Federation of Thai Industries (FTI)
16. Grand Palace Visit	16. Grand Palace Visit
17. Thailand Science Park, Pathum Thani	17. Amata City, Chonburi
18. BOI's Regional Investment and Economic Center 4 at Laemchabang and Laemchabang Port	18. Techman Electronics Thailand co.,ltd, Chonburi
19. Investor Club	19. Laemchabang Port
20. Digital Economy Promotion Agency	20. Siam Kubota Corporation, Chonburi
21. Geo-Informatics and Space Technology Development Agency (Public Organisation)	
22. Eastern Seaboard Industrial Estates (WHA) & factory visit	
23. EECi Wangchan Valley	

【6. Course Evaluation (Method & result)】 E.g.) Participants' rating average; PrePost test score; Comments.

<Plan> JICA and BOI jointly conducted the following evaluation of each course.

<Result 2023> Rated utmost satisfaction (55.56%), followed by 44.44% for the satisfaction level.

<Result 2024> Rated utmost satisfaction (94.12%), followed by 5.88% for the satisfaction level.

Participants' satisfaction level of BOI topics in both years includes "Introducing BOI (Part 1) Investment Promotion Policy and How to Get".

FY2025 Joint Evaluation of Third Country Training Programme (TCTP) in Thailand
Outline of the Training Course

No. in JICA-TICA List:	10
Training Course Title:	Strengthening Disability Inclusive Disaster Risk Reduction in the ASEAN Region
Total Batches:	3 batches
Period (plan and actual):	Plan:2021-2023 Actual:JFY2022-2024
Implementation Agency:	Asia-Pacific Development Center on Disability (APCD)
Sector:	Disability Inclusive Disaster Risk Reduction
Status:	Completed

【I. Background】

This training course focuses on Disability-Inclusive Disaster Risk Reduction (DIDRR) in the ASEAN region, prioritizing long-term risk reduction over emergency aid. People with disabilities are more vulnerable in disasters, but their needs and views are often overlooked in disaster planning. The course aims to teach inclusive methods and help participants build stronger and fairer disaster risk reduction systems in the region.

【II. Outline of the training course】 (Source: RD, TCTP Activity Report Course 1-3¹⁾)

1. Implementation Period

Plan	Actual
14 days each year (On-site)	14days 23-29 Jul 2022(Online), 5-11 Feb 2023(On-site)
	13 days 9-22 Jul 2023(On-site)
	13days 14-27 Jan 2024(On-site)

2. Countries Invited and Total Number of Participants (source: RD, TCTP Activity Report Course 1-3)

• **Countries invited:**

Brunei, Cambodia, Indonesia, Lao PDR, Malaysia, Myanmar, Philippines, Singapore, Thailand and Vietnam * Nominations from Brunei and Singapore are invited for self-sponsored international travel.

Plan	Actual
40 persons at maximum	23 persons
	16 persons
	21 persons

3. Input (source: RD)

- Estimate before implementation and actual expense of each course:

Unit:THB

		Plan(RD)	Actual
2022 (on-site)	JICA	1,039,500	-
	TICA	964,748	-
	APCD	67,000	-
	Total	2,071,248	-
2023	JICA	1,505,250	-
	TICA	963,636	-
	APCD	558,720	-

¹ Course1 [AW_TCTP Activities Report 2023_on Web.pdf](#)
Course2 [AW_TCTP Activities Report 2023 Course 2.pdf](#)
Course3 [AW_TCTP Activities Report 2024 Course 3 Final 21032024.pdf](#)

	Total	3,037,606	-
2024	JICA	1,910,700	-
	TICA	1,257,994	-
	APCD	578,200	-
	Total	3,746,994	-
Total	JICA	2,220,700	-
	TICA	2,041,880	-
	APCD	113,000	-
	Total	THB4,375,580	-

4. Completion report of the training course (yes/no)

Yes

5. Others/ Memo

【Theory of Change (TOC)】

Output =>	Initial Outcome =>	Intermed.Outcome =>	Final Outcome =>	(Further)
e.g.) # certified Participants completed the training course with certificate	e.g.) Skills obtained -Participants gain knowledge on DIDRR in the ASEAN region. -Participants understand the DIDRR trainer knowledge and procedures	e.g.) Application of skills -Participants share the knowledge on DIDRR with their workplaces, families, and communities. -Participants act as DIDRR trainers in their home countries	e.g.) Production ↑ & Income ↑ Disaster management plans and policies reflecting the DIDRR will be developed.	e.g.) Life ↑ DIDRR becomes a standard and persons with disabilities and their families can participate in all disaster risk reduction activities and live safely in their communities.

(Source) developed by IDCJ team

ANNEX 1 Design of the Training Course

【1.Goal】 (source: RD)

To empower persons with disabilities and their families' capabilities to live in safe environment in their community when any disasters occur and to ensure that they can fully participate in every process of Disaster Risk Reduction.

【2. Expected Outcome】 (source: RD)

- 1) Disability Inclusive Disaster Risk Reduction (DIDRR) will be strengthened in ASEAN Member States;
- 2) Awareness and preparedness on climate change, Disaster Risk Reduction (DRR) and Disability Inclusive Disaster Risk Reduction (DIDRR) will be raised and made in the ASEAN community level;
- 3) Collaboration on making a peaceful, secure, stable and resilient region by ASEAN Member States, Thailand and Japan will be strengthened;
- 4) Update good practices on DIDRR in ASEAN and Japan will be exchanged;
- 5) The gap on DIDRR awareness among ASEAN Countries and Japan, particularly; Mekong countries will be reduced and;
- 6) Potential trainers on DIDRR will be emerged in ASEAN countries.

【3. Objectives for Each Course】 (source: RD)

Course 1	➤ Participants could learn about basic concepts of DRR and DIDRR. ➤ Participants could develop mutual understandings and knowledge of situation on DIDRR in the ASEAN region. ➤ Participants could share and learn about good practices of DIDRR in the ASEAN region. ➤ Documentation on situations and good practices of DIDRR in the ASEAN region.
Course 2	➤ Participants could provide inputs on recommendations for strengthening DIDRR in ASEAN countries. ➤ Participants could develop a manual on Training of Trainers (TOT) on DIDRR. ➤ Documentation on strengthening DIDRR for policy makers in the ASEAN and Asia-Pacific regions. ➤ Developing a manual on TOT on DIDRR.
Course 3	➤ Develop trainers and facilitators in DRR activities towards inclusions ➤ Promote an inclusive development approach to DRR programs ➤ Develop DRR program and inclusive development strategies in accordance with each situation and the needs

【4. Language】

English

【5. Training Methods】

-

【6. Course Contents (Main Sessions)】 (source: TCTP Activity Report Course 1-2)

[2021] Theme: Basic Principle on DIDRR, Mapping Situation and Sharing Good Practices

Main Session	Main Topics
1 Understanding about Disability and Persons with Disabilities	- Human and Disability Diversity - Empowerment of Persons with Disabilities • Disability Rights and Protection
2 Different Approaches working with Persons with Disabilities and Community	- APCD's approaches for working with persons with disabilities • Community-based Inclusive Development (CBID)
3 International Instruments on Disability Development and DIDRR including introduction of ESCAP DIDRR E-learning tool ★	- International, regional and subregional mandates on Disability Inclusive Disaster Risk Reduction (DiDRR) - ESCAP work on DiDRR

4Disability-inclusive Disaster Risk Reduction & Humanitarian Action: Key Pillars & Actions★	-Convention on the Rights of Persons with Disabilities -Different models for understanding disability (Charity, Medical, Social)
5Understanding more about disability	- The 4 Barriers: (1) Attitudinal, (2) Physical, (3) Communication, Technological, and Digital, and (4) Systemic Barriers
6APCD's regional activities and DIDRR experience	- APCD's approaches on working with persons with disabilities. -Best practices in disability inclusion from APCD's experience.
7Basic Information on DRR	-Timeline and revolution of the disaster risk management system in Thailand -National DRM Policy: Smart Digital Transformation, Smart Resilience, Smart Man
8The Thai policy on DIDRR	-Government policies and guidelines on disaster management for PWDs -Roles and responsibilities of the Department of Empowerment of Persons with Disabilities in disaster management
9Field visit Community and office of Pathumthani Center for Independent Living (PCIL)	-PCIL's history, mission, and vision for promoting the rights and independence of people with disabilities -Services offered by PCIL, including information and documentation services, on-site work, and assistive technology loan and maintenance services
10Good practices on DIDRR - Asia-Pacific and Thailand: ESCAP actions on promoting DiDRR	-Brief recap and introduction to the UN-ESCAP -ESCAP's efforts in promoting disability rights -The 4th Asian and Pacific Decade of Persons with Disabilities (2023-2032)
11Good practices on DIDRR - Asia-Pacific and Thailand	-Civil service history -Experience with the Department of Disaster Prevention and Mitigation -Shared perspectives, stories, experience and other training
12Good practices on DIDRR - Asia-Pacific and Thailand	-Overview of ADPC's approach to DIDRR (Disability Inclusive Disaster Risk Reduction) -Importance of understanding the risk environment for PWDs using evidence-based and scientific methods
13Good practices from Japan (Policy and management at country level) ★	-The relationship between disaster risk reduction and social work -How disasters are socially manufactured and are social phenomena ^The disaster risk equation: Disaster Risk
14Good practices from Japan (Case Study and Implementing process: pre, during, post)★	-Fundamental Issues -Root Cause of Vulnerabilities -Empowering People with Disabilities in Times of Disaster
15Good practices from Japan (Tools, equipment and application) ★	-The importance of disaster risk reduction (DRR) literacy, which includes the strength of persons with disabilities (PWD). -"Bosai literacy" as the ability to appropriately understand and act on disaster information.
16 Future Plan of DiDRR Japan ★	-The Beppu ordinance, which aims to accommodate the needs of people with disabilities during disasters, is an administrative responsibility of the city. -Legal undertakings to eliminate discrimination.

★: Conducted by Japanese experts

[2022] Theme: Recommendation and Training of Trainers (TOT) Manual Development

Main Session	Topic
1. Basic concepts of DRR and DiDRR	-Introduction to Disaster Risk Reduction (DRR) and its evolution over time, highlighting the shift from focusing on disaster management to comprehensive risk reduction strategies.
2Workshop on Practical DRR and DiDRR implementation and participation of community: Thailand lesson learned	-Department of Disaster Prevention and Mitigation and how they work to enforce laws in the broader society. In developing and creating a strategy plan, the following are included
3Lesson Learned of ADPC as training organization	-ADPC's principles for inclusion in DiDRR: Non-discrimination, Accessibility, and Participation. • Challenges faced in promoting DiDRR
4UNESCO: Learning Tools Update from ESCAP and Collect Comments from the Participants★	-ESCAP-Learning Tool -The Social Model and Barriers • Accessibility and Universal Design
5Visiting the DDPM office in Phuket and participation on workshop	-To learn about the challenges and opportunities of individuals with disabilities in the DIDRR context in Phuket Province.
6Visiting the sites which were attacked by Tsunami in 2004	-Tour of Patong, Karon, Kata and Yanui Beach(o share how the tsunami affected these locations and the lessons learned.)
7Development of handbook of DiDRR, TOT outlines of Handbook and Timeframe & presentations ★	-Background of disability inclusion in UN DRR Strategy -History of universal design in UN materials, traced its roots back to the WSIS
8Field Visit to Thai Red Cross Society	-Introduction to the Thai Red Cross Society and its mission, showcasing their achievements and contributions to society. -The collaboration between the public and private sectors to promote employment for persons with disabilities through the 1 per 100 (Disability Act)
9Drafting and finalization of recommendations for "Bangkok Recommendations on	-Background and context of the Third Country Training Program (TCTP) on Strengthening DiDRR in the ASEAN Region, highlighting the diversity of

Strengthening Disability-inclusive Disaster Risk Reduction in ASEAN Countries 2023★	participants from Cambodia, Indonesia, Lao PDR, the Philippines, Myanmar, Vietnam, and Thailand.
---	--

★: Conducted by Japanese experts

[2023] Theme: Training of Trainers on DIDRR Production of media and materials
To be confirmed

【6. Course Evaluation (method and result)】 (Source: TCTP Activity Report Course 3)

- **Evaluation method**

Participants evaluated (1) the daily training program and (2) operational aspects (time, facilities, staff, and logistics) on a 5-point scale. Results are available only for the second and third batches.

- **Evaluation result**

High Satisfaction: 90% of participants rated the training as "Excellent" (5/5), highlighting the quality of content, facilitation, and overall experience.

Gratitude to Organizers: Participants expressed appreciation to TICA, JICA, and APCD for the well-organized and intensive training, as well as opportunities for networking.

Suggestions for Improvement:

- Share training presentations and materials post-course.
- Increase practical sessions (e.g., content production following theory).
- Include more field-based training in future courses.

【7. Comments and suggestions from annual/evaluation reports】

2025 年度テーマ別評価 タイ国第三国研修に関する合同評価
コース別評価結果表

1	Modernization of Power Distribution System in ASEAN Countries
---	---

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
妥当性	(1) 開発政策との整合性 ● 研修内容は相手国の開発政策及び開発計画との整合性はあるか(国・地域・セクター等の各レベル)	● GI では、ASEAN 経済共同体(AEC)における域内の社会・経済発展には、電力網の拡充が一層重要になっていることが述べられている。ASEAN レベルでは、AEC におけるエネルギー分野の協力枠組みである APAEC(ASEAN エネルギー協力行動計画) が 5 年毎に策定されており、重点分野として、域内送電網の接続促進や、再生可能エネルギーの効率的活用等が掲げられている。 ● 本コースの対象国各国の電力セクターの開発計画には電力網の整備・近代化推進が掲げられており、そのうち一部の国ではスマートグリッド推進を明示した計画が策定されている。(例: Thailand Smart Grid Development Master Plan 2015-2036; Cambodia Power Development Master Plan 2022-2040; Lao PDR's National Power Development Strategy 2021-2030; Vietnam's Smart Grid Development Roadmap (2012-))	ASEAN 地域レベル及び参加各国の政策・開発計画と一致している。	● R/D、GI ● ASEAN 及び各国政策文書
	(2) 開発ニーズとの整合性 ● 研修は相手国のターゲットグループのニーズに合致していたか	● GI によると、GMS において Power Distribution System (PDS)整備は満足できるレベルまで進んできたものの、社会・経済開発や人々の生活水準に直接的な影響を及ぼす程度という点では、ASEAN メンバー国間で未だ格差がある、とされている。例えば、2023 年の電化率はタイでは 100%であるが、カンボジアは 95%、ミャンマーは 77%であった(World Bank, World Development Indicators)。送配電の信頼性や品質を表す年間平均停電時間や送配電損失率等の指標においても、対象国間で格差が見られる。 ● また、GI では、ASEAN 地域では今後も都市化が進むことが予測されており、それに対応するには、送配電ネットワークを最新の運用方法やスマート技術を適用して高度化(modernize)する必要があると述べられている。	対象地域内の各国間の電力アクセスや品質面での格差は依然存在しており、開発ニーズに合致している。	● GI ● 世界銀行等統計データ

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源										
	(3) 手段としての適切性 ● 研修員のニーズに対して研修内容は妥当であったか ● 効果的な研修内容となるように日本側とタイ側の投入の役割分担が行われていたか。 ● アウトカム／事業目的の達成につながるようにインプット、アウトプットのロジックが適切に計画されていたか。	● 帰国研修員サーベイ(1.e)において、「研修内容は業務内容との程度整合していたか」という問いに対し、回答者の 37%が「非常に高い」、57%が「ある程度高い」と回答しており、大多数の研修員が本研修が自身の業務のニーズに合致していると認識している。 ● プログラム構成として、配電システムの原理・概要等の他に、「新たな技術」についての講義群が毎回組み込まれている。その中で、TEPCO などの日本企業が自社や日本の実践例について講義を行っており、先進技術を紹介する枠割を果たしている。プログラムのトピック選定や人選においては、JICA も支援を行っている。 ● 評価者が RD 等を基に作成した本コースのロジックは以下のとおり。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>Output =></th><th>Initial Outcome =></th><th>Intermed.Outcome =></th><th>Final Outcome =></th><th>(Further)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Participants completed the training course with certificate</td><td>Knowledge is obtained on the principles of power distribution systems and recent techniques and technologies.</td><td> • Gained knowledge and experiences are applied to modernizing the participant countries' power distribution systems. • Best practices on power distribution system modernization are shared among (ex-)participants </td><td>Power distribution systems are modernized in ASEAN countries.</td><td>ASEAN Economic Community (AEC) is nurtured.</td></tr> </tbody> </table>	Output =>	Initial Outcome =>	Intermed.Outcome =>	Final Outcome =>	(Further)	Participants completed the training course with certificate	Knowledge is obtained on the principles of power distribution systems and recent techniques and technologies.	• Gained knowledge and experiences are applied to modernizing the participant countries' power distribution systems. • Best practices on power distribution system modernization are shared among (ex-)participants	Power distribution systems are modernized in ASEAN countries.	ASEAN Economic Community (AEC) is nurtured.	本コースの帰国研修員の 94 % が業務内容と高い整合性を認めている。また、研修内容の計画時には、タイ側と日本側の両者が投入を行う役割分担が行われていた。上述のとおり参加各国間で送配電システムの進展状況が異なる中で、日本側の講義内容は先進的技術の紹介の一部を担っており、参加者の国の多様性に対応したプログラムが提供されていたといえる。習得した知識や他国の事例を自国で適用することにより配電システム近代化を目指すというロジックも適切であった。	● GI ● 帰国研修員(追跡)サーベイ ● TICA/JICA 事務所/研修実施機関インタビュー
Output =>	Initial Outcome =>	Intermed.Outcome =>	Final Outcome =>	(Further)										
Participants completed the training course with certificate	Knowledge is obtained on the principles of power distribution systems and recent techniques and technologies.	• Gained knowledge and experiences are applied to modernizing the participant countries' power distribution systems. • Best practices on power distribution system modernization are shared among (ex-)participants	Power distribution systems are modernized in ASEAN countries.	ASEAN Economic Community (AEC) is nurtured.										
整合性	(1) 日本の援助政策との整合性 ● 日本の援助政策・外務省の国別援助方針との整合性はあるか	● 「対タイ王国 国別開発協力方針」では、基本方針として、「包括的・戦略的パートナーシップに基づく現代的課題への対処及び地域開発を牽引する協力の推進」を掲げ、重点分野として、ASEAN・メコン地域における連結性強化を含む域内共通課題への対応、第三国研修の実施を挙げている。	本コースが目指す地域の電力供給やネットワークの強化は、日本の対タイ開発協力方針	● R/D, GI ● 対タイ国別開発協力方針 ● 対 ASEAN 協力関連文書										

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
		● タイと日本は、1994 年に立ち上げられた日タイ間の第三国協力の枠組みである日タイ・パートナーシッププログラム(JTPP)(現在はフェーズ 3)の下で、JICA 及び TICA との間で ASEAN 諸国等第三国に対する研修を実施することになっている。 ● 2023 年発表の「日 ASEAN 包括的連結性イニシアティブ」における主要支援分野として電力連結性向上を掲げ、増大する電力需要を満たすための安定的な電力供給を確保し、地域の経済発展に貢献することを目指している。	及び対 ASEAN の両者と整合している。	
	(2) JICA 内外の事業・機関との連携 ● JICA の他事業や日本、他の開発協力機関等との連携は行われたか	● 本コースの実施に直接連携している他事業はない。 ● MEAでは、本研修の実施以前に、2009 年以降、配電システムに関する研修を 3 コース×各 3 年(JFY2009-11, 2012-14, 2015-17)実施してきた。2019 年に MEA の講師たちは日本で 1 週間のスタディーツアーに実施し、スマートグリッド技術の視察等を実施。その結果を踏まえ、新たなニーズを考慮して、今回の研修コースの内容が計画された。(MEA ヒアリングより)	過去の TCTP コースの実施経験を踏まえて本コースが計画されており、連携が取られていると言える。	● 研修実施機関インタビュー
	(3) タイの援助政策との整合性 ● タイの援助政策・方針との整合性はあるか	● 「日本の援助政策との整合性」で記載のとおり、JTPP の枠組みの下で TCTP は実施されている。 ● TICA はミッションとして、タイの外交政策及び「足るを知る経済(SEP)」に基づく開発協力を推進し、外国、特に近隣諸国との良好な関係を築くことを掲げている。また、目的の一つとして、タイの新興ドナーとしての地位とともに、持続可能な開発に関する学びとベストプラクティス共有の拠点としての役割を強化することを挙げている。	TCTP はタイと日本の協力枠組み及びタイの外交・開発協力政策と整合している。	● TICA ウェブサイト
妥当性サブレーティング： 手段としての適切性においてはタイ側と日本側で役割分担が考慮されており、サブレーティングは④と判断した。 整合性サブレーティング： (1)及び(3)で整合している一方で、(2)JICA 内外の事業との直接的な連携は認められないため、サブレーティングは③と判断する。 妥当性・整合性レーティング： 上記より、妥当性・整合性のレーティングを④と評価する。				
有効性	アウトカムの内容 ● 研修参加時に立てた目標は達成されたか 研修員は研修内容を習得したか	● 研修開始日と終了日に実施された事前テストと事後テストにおいて、以下のとおり全研修員の平均スコアは著しく上昇した。 2023 年(20 点満点):Pre-test 9.36; Post-test 15.00 2024 年(20 点満点):Pre-test 7.88; Post-test 19.00 2025 年(25 点満点):Pre-test 11.60; Post-test 24.48 ● 「修了証」(帰国研修員サーベイ 1.b)に関して、1 名(無回答)を除くサーベイ回答者(97%)が獲得したと答えている。 ● 「研修を通じた知識・スキルの向上度合い」(帰国研修員サーベイ 1.c)に関して、「配電システムの原理」「スマート配電グリッド」「新たな技	本コース受講前後の研修員の知識習得度、及び帰国研修員自身の知識・スキル向上の評価の点から研修目標(初期アウトカム)は達成されたと判断さ	● Annual Eval. Report ● 追跡サーベイ ● 研修実施機関インタビュー

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
		術」「デジタルトランスフォーメーション」の全てのテーマについて、9割以上の帰国研修員が非常にあるいはある程度向上した、と高く評価した。 ● 「一般的知識・スキルの向上度合い」(帰国研修員サーベイ 1.d)に関して、全般的に高い評価であり、「戦略策定」「プログラム／プロジェクト開発」「運営管理・実施」「リーダーシップ」「ネットワーキング」では 9割以上の帰国研修員が非常にあるいはある程度向上した、と回答した。	れる。	
	研修の満足度 ● 研修内容にどの程度満足したか	● 帰国研修員サーベイ 1.f より、「研修施設・運営(移動手段、宿泊、食事)」「研修内容」「講師の知識とスキル」が特に満足度が高く、「研修方法(講義・グループ討議・OJT など)」「研修後のフォロー・サポート」についても高い評価であった。一方、「研修の長さ」については 3 割の回答者が「あまり満足しなかった」と答えた。 ● 研修員サーベイの自由回答からは、実際の研修期間(実施年度により 19 日間から 23 日間)に対して、提供されたコースの内容を十分に習得するには 1 ヶ月あるいは 2 ヶ月程度が必要とのコメントが見られた。また、一部の講義科目は時間に比してボリュームが過大であったため、講義の進行が速すぎたとのコメントがあった。	全般的に帰国研修員は高い満足度を示した。一方、相当割合の回答者があまり満足しなかった研修期間については、研修内容のボリュームとのバランスを含めて考慮する余地があったと考えられる。	● 追跡サーベイ
	因果関係 ● 目標達成にどのような点が貢献/阻害要因となったか	● 貢献要因として、①コース構成と講師の専門性、②研修施設と活動内容、③研修員のキャパシティ、④研修の準備・実施におけるスケジュール管理が挙げられた。特に③については、参加研修員は総じて熱心で、他の研修員との知識共有に積極的であることが挙げられた。(MEA ヒアリングより) ● 一方で、阻害要因として、研修員によっては言語(英語)に問題があることが挙げられた。また、選定プロセスにおいて、各国 5 名ずつの募集であるところ、国によっては応募者がその人数に満たない一方で、別の国では 6 名の応募があってもその全員を選定できない事例や、応募者の所属機関が明らかに GI で規定した資格を満たしていないケースがあるとの指摘があった。(MEA ヒアリングより)	上述のとおり研修目標(初期アウトカム)は達成されたと判断されるが、更に達成度を高めるために選定段階における阻害要因が影響した可能性がある。	● 研修機関ヒアリング

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
インパクト	発現の見込み／因果関係 ● 事業実施の結果としてインパクトの発現が見られるか、あるいは見込まれるか ★ 特に他の参加国や他コースの模範・参考になる成功事例が生まれたか(事例数は問わない) ● アウトカムからインパクトに至るまでの外部条件は適切に認識されているか。外部条件が満たされる可能性は高いか ● インパクト発現を阻害する要因はあるか ● プラスの影響が想定されるか？マイナスの影響についてはそれを軽減するための対策は取られているか ● 日本へのインパクト発現が見込まれるか ● タイへのインパクト発現が見込まれるか ● 対象国へのインパクト発現が見込まれるか	● 「帰国後に研修からの学びを活用したか」(帰国研修員サーベイ 1.g)という質問に対し、約 93%が「はい」、残りは「分からない／回答しない」と記入した。何を活用したかについて、全般的な知識を挙げた者がいる一方で、個別的なテーマや知識を業務で活用しているとコメントする者も多く見られた(具体的な適用事例は後述)。 ● 「研修で得た学びをどのように活かしたか」(帰国研修員サーベイ 1.h)という質問に対しては、「同僚に共有」が 90%、「新しい戦略や業務方法の開発」が 67%と高い割合であった。 ● 「研修参加後、昇進したか、また TCTP は昇進にどの程度貢献したか」(帰国研修員サーベイ 4.a)という質問に対しては、回答者の 70%が「昇進していない」と回答し、20%が何らかの程度「昇進した」と回答した。昇進した回答者の一人は研修に参加して得られた人的なつながりと知識が昇進に貢献した、とコメントしている。一方、本研修の参加は昇進にむすびつかない、と記述した回答者もいた。 ● 帰国研修員サーベイの自由記載より、習得した知識の主な適用例は以下のとおり。 1) 自国で取り組み中の電気自動車向け充電ステーションの開発に、研修で学んだタイの例を活用している。(カンボジア) 2) 自国の低電圧システムのプロジェクトに、研修で学んだ過去のタイの同様のパイロットプロジェクトの経験を取り入れている。(カンボジア) 3) 他国研修員と共に研修を受けた経験を通じてチームワーク、リーダーシップのスキルを得た。(ベトナム) 4) 所属組織が開始予定の Grid Visibility Project のスマートグリッドチームに参加した。(タイ) 5) 問題分析、コスト管理等の習得した知識を業務の効率化に活用している。(タイ) 6) 現在、電力インフラの脱炭素化(SF6 ガスの排出最小化)のプロジェクトに取り組んでいる。その中で、排出済の SF6 の再利用プロセスを実行した結果、現在まで新たな SF6 調達を行っていない。(タイ) 7) 研修で得た知識を活用して、他の機関との業務上の調整や連携をより円滑に行えるようになった。(タイ) 8) 近隣諸国とタイ(MEA)の送配電システムを比較して、近隣国のベストプラティスを MEA の行動計画や維持管理業務に適用でき	知識・スキルの習得後に、多くの帰国研修員が同僚との共有や自身の業務への適用を図っているといえる。但し、知識活用を実践できるかどうかは、所属組織のサポートがあるかどうかを含め、現在の業務範囲やミッション(プロジェクト参加など)と研修内容がどれだけ合致しているかに影響を受けるものと考えられる。	● 追跡サーベイ

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源												
		る。(タイ) 9) マイクログリッドシステムに、AI の活用など研修で学んだ知識が活用可能である。(タイ) 他方、帰国研修員サーベイの自由記載や現地調査(ベトナム)におけるインタビューからは、知識やスキルの活用が難しいとのコメントも見られた。その理由としては、現在の業務内容が習得した内容と関連していない、予算や機材などの面での所属組織からのサポートの不足、実際に適用する際のスキルの不足、等である。														
	その他インパクト (研修実施機関やインストラクターに与えたインパクトの有無など)	- MEA がこれまでに実施してきた本研修コースの前身の TCTP コースの参加者の中には、その後各国の電力会社で高いポジションに昇進した人が複数いると MEA は述べている。(MEA ヒアリングより) - 上述のとおり、MEA では本コースの以前に配電システム関連研修を継続的に実施してきており、各国の電力組織の帰国研修員と人的なネットワークが形成されている。ASEAN における各国電力組織のグループである HAPUA(Heads of ASEAN Power Utilities/Authorities)の会合の機会等に帰国研修員と情報交換や交流を行うこともある。(MEA ヒアリングより)、そうしたより高次のネットワークにおける活動の円滑化にもつながっている。	研修実施機関が継続的に研修を実施することによって、各国の参加機関と間の人的ネットワークの形成・強化が促進されている。	● 研修機関ヒアリング												
有効性・インパクトレーティング： 本事業の実施により、プロジェクト目標である研修員の知識獲得はおおむね達成され、多くの帰国研修員がそれらの知識の同僚との共有や自身の業務への適用を図っているものの、所属組織の支援不足など制約を抱えている者も一定数いることから、上位目標の発現の見込みは中程度である。以上より、有効性・インパクトのレーティングは③(高い)と判断する。																
効率性	事業計画 アウトプットを産出するために必要な量・質の投入が計画されていたか	- 参加人数については、RD では年間 25 名とされ、各コースにおいても同様の募集人数であった。募集人数に沿った実績人数であった。<table><tr><th></th><th>Plan (GI)</th><th>Actual</th></tr><tr><td>2023</td><td>25 persons at maximum</td><td>25 persons</td></tr><tr><td>2024</td><td>25 persons at maximum</td><td>25 persons</td></tr><tr><td>2025</td><td>25 persons at maximum</td><td>25 persons</td></tr></table> - 予算の計画/実績の比較： RD では初年度のコースの支出計画(暫定)として、THB 3,612,501、うち JICA 分 THB1,841,500 (51%); TICA 分 THB1,771,001(49%)とされていた。各コース		Plan (GI)	Actual	2023	25 persons at maximum	25 persons	2024	25 persons at maximum	25 persons	2025	25 persons at maximum	25 persons	参加人数は計画通りであった。研修予算についてはタイ側では毎回 MEA が 12-14%程度を負担している(計画ベース)。但し、全体実績が入手でき	● 終了時評価報告書 ● 研修実施機関、JICA 資料
	Plan (GI)	Actual														
2023	25 persons at maximum	25 persons														
2024	25 persons at maximum	25 persons														
2025	25 persons at maximum	25 persons														

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源																																											
		の実施時における計画額は以下のとおり。 - RD に記載された計画は以下のとおり。実績額は一部を除いて現時点では入手できていない。 <table><tr><th></th><th></th><th>Plan</th><th>Actual</th></tr><tr><td rowspan="4">2023</td><td>JICA</td><td>2,007,100</td><td>1,763,740</td></tr><tr><td>TICA</td><td>1,270,524</td><td>To be confirmed</td></tr><tr><td>MEA</td><td>433,880</td><td>To be confirmed</td></tr><tr><td>Total</td><td>3,711,503</td><td>To be confirmed</td></tr><tr><td rowspan="4">2024</td><td>JICA</td><td>1,472,400</td><td>1,339,130</td></tr><tr><td>TICA</td><td>1,094,758</td><td>To be confirmed</td></tr><tr><td>MEA</td><td>422,880</td><td>To be confirmed</td></tr><tr><td>Total</td><td>2,990,038</td><td>To be confirmed</td></tr><tr><td rowspan="4">2025</td><td>JICA</td><td>1,347,780</td><td>1,254,600</td></tr><tr><td>TICA</td><td>1,301,187</td><td>To be confirmed</td></tr><tr><td>MEA</td><td>370,880</td><td>To be confirmed</td></tr><tr><td>Total</td><td>3,019,847</td><td>To be confirmed</td></tr></table> - 投入の質に関して、MEAは、本研修の実施以前に、2009 年以降、配電システムに関する研修を 3 コース×各 3 年(JFY2009-11, 2012-14, 2015-17)実施してきた。2019 年に MEA の職員 10 名が JICA の支援により日本で 1 週間のスタディーツアーを実施し、日本企業や大学を訪問し、スマートグリッド技術の視察等を行った。その結果を踏まえ、新たなニーズを考慮して、本研修コースの内容が計画された。また、各回コースの計画時には、JICA が日本人講師やトピックの選定を支援している。(MEAヒアリングより)			Plan	Actual	2023	JICA	2,007,100	1,763,740	TICA	1,270,524	To be confirmed	MEA	433,880	To be confirmed	Total	3,711,503	To be confirmed	2024	JICA	1,472,400	1,339,130	TICA	1,094,758	To be confirmed	MEA	422,880	To be confirmed	Total	2,990,038	To be confirmed	2025	JICA	1,347,780	1,254,600	TICA	1,301,187	To be confirmed	MEA	370,880	To be confirmed	Total	3,019,847	To be confirmed	ず分析ができない。 投入の質については、ニーズ調査の実施や、JICA の支援も踏まえてコース内容や講師が計画・実施されており、質を高める工夫が見られる。	
		Plan	Actual																																												
2023	JICA	2,007,100	1,763,740																																												
	TICA	1,270,524	To be confirmed																																												
	MEA	433,880	To be confirmed																																												
	Total	3,711,503	To be confirmed																																												
2024	JICA	1,472,400	1,339,130																																												
	TICA	1,094,758	To be confirmed																																												
	MEA	422,880	To be confirmed																																												
	Total	2,990,038	To be confirmed																																												
2025	JICA	1,347,780	1,254,600																																												
	TICA	1,301,187	To be confirmed																																												
	MEA	370,880	To be confirmed																																												
	Total	3,019,847	To be confirmed																																												
	期間、タイミング - 事業期間は事業計画に見合った設定となっていたか(事業の完了は計画以内であったか) - 前提条件、インプットのタイミング・方法(調達方法を含む)は適切に計画されていたか。 - JICA/TICA がそれぞれ実施している他の研修事業と比較して、アウトプットに照らした投入の内容・方法について優	- 実施時期・回数について、当初計画(RD):JPY2021-2023(3 年間で 3 回)に対し、JPY2024 まで期間が延長され、実績:JPY2023-2024(3 回)の実施であった。なお、本 RD の計画前の JPY2020-2022 に(コロナ禍の発生により)同研修のオンライン実施が計画されていたが、応募者数が定員に大きく満たなかったため、実施は中止された。本研修の開始時期が遅れたのもコロナ禍の影響による。(MEAヒアリングより) - 実施期間について、RD では 1 回当り 4 週間と計画されたが、実績は、1 回目が 3 週間、2 回目と 3 回目が 2 週間であった。それぞれの回で期間が短縮された理由は不明であるが、上述のとおり、コース	コロナ禍の影響により実施時期が遅れたが、当初予定通り 3 回の研修が実施された。 但し、2 回目と 3 回目の実施期間が当初計画から短縮された。それ	- 終了時評価報告書 - 研修実施機関、JICA 資料																																											

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
	位性があるか。	内容を十分に習得するには開催期間が短すぎるとの研修員からのコメントが複数見られた。	が参加者が感じる研修内容の難易度や習得度に影響を与えた可能性がある。	
	実施プロセス	[募集・実施プロセス] ● 募集・選定プロセスに関して、TCTP は政府間の公式ルートを経なければならないものの、もっと時間を短くできればよい。(MEA ヒアリング、以下同) ● 一部の参加者は応募書類をオンタイムで出してこない。TICA からタイ大使館、それから相手国省庁に募集通知、という流れであるが、相手国省庁からその国の適切な Institution に通知を出さなかったりする。その対策として、過去の研修参加者を通じて MEA が非公式に直接募集を奨励したりする。 ● また、一部の国からは、TCTP の名称が Third World Country をイメージさせるので、GI を受け取った窓口機関が対象機関に配布しようとしなないなどの問題が生じている。名称を変えるべきである。 ● 選定プロセスにおいて、各国 5 名ずつの募集であるところ、国によってはそれに満たない一方で、別の国では 6 名の応募があっても全員を選定できない。また、所属機関が明らかに GI の資格を満たしていない応募者もいる。より柔軟な選定方法を採用することができれば、もっと質の高い参加者を得ることが可能かもしれない。 ● 実施全般における TICA との調整について、TICA では経理関連の担当者、書類関係の担当者など分担が細分化されており、若干やりにくい面がある。また、細かい事務処理の決まりがある。例えばロジスティクス面で、研修終了後の研修員の帰国日のフライト時間が早い便でなければならないことから、研修員は早朝にホテルを出発しなければならない点など、改善が可能と思われる。 [モニタリング・評価・フォローアップ] ● 研修終了時の評価は、①各トピックの終了時の評価、②研修最終日に行う全体評価、の 2 種類を実施している。評価フォーマットは JICA が設計したものである。 ● コース実施後のフォローアップは実施していない。季節の挨拶や、技術的な質問をやり取りする程度。ただし研修実施中にLINEでグルー	政府間ルートによる募集・選定プロセスに時間がかかること指摘されている。厳格な制度・運用規則等の柔軟化によりより最適な候補者の選定につながる可能性が示唆される。 帰国研修員に対する明確な仕組みとしてのフォローアップは行われていない。	● 終了時評価報告書 ● 研修実施機関ヒアリング

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
		プを作っており、それを研修後も使うことができる(持続性・体制面で後述)。 ● 前身コースの終了後の 2019 年、アドホックに JICA の委託でフォローアップ調査を実施。キングモングット大学のチームがベトナムを訪問した。		
効率性 レーティング: 当初計画から実施期間が短縮されたことにより研修の成果(プロジェクト目標)に多少の影響を及ぼした可能性があるものの、投入の質を高める工夫が見られ、計画されたアウトプット(提供した研修の修了)はほぼ達成された。上記より、効率性のレーティングは③(高い)と判断する。				
持続性	体制面 ● ネットワークは構築されているか(帰国研修員と JICA・TICA や研修講師とのネットワーク等) ● 帰国研修員同士のネットワークは構築されているか	● ASEAN では各国の電力関連事業体がメンバーとなってワーキンググループを形成している。研修機関(MEA)も配電関連のワーキンググループに参加しているが、Course Director が毎年の WG 会合に出席した時には、他国から TCTP の元研修員が参加しており、情報交換や交流を図る機会になっていた。(MEA ヒアリングより) ● MEA では、研修実施中に LINE で研修員のグループを作っている。それを引き続き研修後も使うことが可能。但し、MEA によると、研修員への帰国後のフォローアップの調査は行っておらず、季節の挨拶や、技術的な質問を時々やり取りする程度である。(MEA ヒアリングより) ● 研修生サーベイ(3.a)からは、帰国研修員は、「同国出身の他の研修員」、「タイ研修機関の講師」、「他国研修員も含めた同バッチの研修員」の順で高い頻度でコミュニケーションを取っている。日本人講師との連絡は、全くないとの回答も含め相対的に頻度は少ない。 ● 同サーベイによると、上記のコミュニケーションの手段としては、日常的に利用しているのはオンラインや SNS が主体であり、その内容としては業務関連の技術情報等の交換にとどまらず、友人としての日常生活のやり取りが行われている。	研修機関(MEA)と研修員の間では SNS によるネットワークがあるが、特段のフォローアップの仕組みはない。その一方で、MEA が 2009 年以降、継続的に TCTP コースを実施していることにより、それらの帰国研修員と長期的な人的ネットワークが生まれている。SNS 等の手段により、帰国研修員の間では自発的なコミュニケーションが比較的活発に行われている。	● 追跡サーベイ ● 終了時評価報告書 ● 研修実施機関ヒアリング
	財政面 ● 研修の効果の持続性の観点から、予算措置は十分に講じられているか	● 研修実施機関は事後に研修員に対する特段のフォローアップ活動を行っていない。 ● 帰国研修員サーベイ(自由記載)からは、帰国研修員を対象としたより	研修後の特段の活動は行われていない。	

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
		詳細な研修コースの開催を求めるコメントがあった。本コースに関する現地調査(ベトナム)における帰国研修員へのインタビューからも同様の回答があった。		
	技術面 ● 研修に伴い導入される技術は研修員やその所属先により受容され、継続的に実行されうるものか	● 「インパクト」で述べた通り、帰国研修員サーベイでは 93%が帰国後に学んだことを自身で活用しており、多くの具体的事例も挙げられている。同僚への共有、新しい戦略策定、上司への提言など所属先への知識の還元も多くの帰国研修員により図られている。 ● 一方、現在の業務内容との不一致などの理由で知識の活用が困難と回答した帰国研修員も一定数存在する。所属組織での継続的活用の状況については十分な情報を収集することができなかったが、本コースに関するベトナムの現地調査における研修員派遣元機関へのインタビューからは、組織レベルでの技術活用状況について組織内で確認・フォローする仕組みが必ずしも整備されていない、また研修派遣者数が限定的であるため組織全体へのインパクトを明確に把握することは困難であるとのコメントがあった。	帰国研修員レベルにおいては、総じて習得した知識活用の今後の継続が見込まれる(但し人事異動などにより活用継続が困難になる可能性もある)。所属先の組織レベルにおける技術の継続見込みを判断する十分な情報は得られなかった。	
	アクションプラン ● アクションプランを作成した研修員は、それを実施・継続しているか	● 「アクションプランを実践したか」という質問(帰国研修員サーベイ 1.i)に対し、約 57%が「はい」、17%が「いいえ」、残りが「わからない」と回答した。具体的には、「インパクト」で述べた個別の活動や、業務の効率化の取り組みなどが挙げられる。一方、実践できない理由として、「予算や組織の支援の不足」「機材や技術スキルの制約」「学習した内容(スマートグリッド技術)と業務範囲の関連が薄い」等が挙げられた。	約 6 割の参加者が帰国後にアクションプランを実践している一方で、実施困難である理由の回答からは、所属組織と研修員が研修前にアクションプランの内容について協議・検討を行うなど、組織的支援につながる仕組みや調整の必要性が示唆される。	

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
	促進/阻害要因 ● 研修の成果を持続・波及するにあたってどのような点が促進／阻害要因となったか	● 貢献要因として、研修実施機関からのヒアリングでは、1) コースの構成と講師の高い専門性、2) 研修施設と活動内容、3) 研修生の高い意欲、4) スケジュールに沿った準備・実施が挙げられた。特に 1) については、本コースは各セッションで基本的原理から個別分野、新技術分野まで幅広いコース内容を提供しており、MEA で実務に携わる技術者に加えて、日本企業や大学のリソースなどを講師陣とすることによりそれに対応している。 ● 阻害要因として、研修実施機関からのヒアリングでは言語(英語)能力を挙げている。帰国研修員サーベイからは、全般的な研修期間の短さや講義時間の(内容に比した)短さによって研修員の十分な習得が阻害された可能性が示唆される。 ● また、同サーベイでは、各国参加者の知識レベル(経験年数やランク)を統一すべきとのコメントがあった。現地調査(ベトナム)における所属機関へのインタビューでは、ベトナムの参加者に特化した研修実施の要望が挙げられた。これらはいずれも、本コースが多数かつ技術レベルが多様な国から参加者が集まる本コースの性格を反映しており、本コースの研修成果を実際に阻害したとまでは判断できないが、効果的な知識提供を図るためのターゲット選定について、TCTP 全般において留意すべき点と考えられる。 ● 研修成果の持続・波及のためには、帰国後の研修員の継続的な状況把握やアクションプラン実施支援などのフォローアップが必要であるが、現状では特段のフォローアップ活動が行われていないことは阻害要因となり得る。		
持続性 レーティング: 体制面において自発的なネットワークが形成されているものの、積極的な関係維持の仕組みはない。財政面では、持続性を確保するための活動を担保する特段の予算の裏付けはない。技術面では、帰国研修員レベルでは知識活用の継続は見込まれるものの、所属先の組織レベルにおける技術活用の見込みを判断する十分な情報は得られなかった。以上より、持続性のレーティングは②(一部課題がある)と判断する。				
総合評価結果: 以上より、本コースの「妥当性・整合性」は非常に高く、「有効性・インパクト」は高い。「効率性」は高く、「持続性」には一部課題がある。帰国研修員の知識活用に関する多数の成功事例が見られるが、組織レベルでの活用継続が大いに見込まれる事例は確認されなかった。よって、総合レーティングは B(高い)と評価する。 総合レーティング: B				

教訓:

- MEA は 2009 年以降、前身の TCTP コースから本コースまで延べ 12 年にわたり配電システムにする TCTP を実施してきており、その過程で当初は配電システムのデザインに焦点を当てていたプログラムの内容を、技術の進歩に合わせて新技術の紹介を含めるなど、ニーズに応じて変化させてきた。JICA はその間に、MEA 職員の日本でのスタディーツアー実施の支援や、前身コースのフォローアップ調査をタイの大学に委託し実施するなど、MEA のニーズや研修効果の把握に大きな役割を果たしてきた。また、JICA は各年度のコース実施時に、日本企業による講義や講師の検討に関与するなど、プログラム作成段階でも積極的に協力している。タイ側と日本側の共同事業である TCTP コースを継続的に実施する際にはこれらのグッドプラクティスを参照し、JICA とタイ側のリソースを持ち寄り積極的に協力することによって、不断にプログラム改善や効果向上を図ることが望ましい。
- TCTP は、複数の国からの参加者が一同に会して、新たな学びや互いの経験を共有する形態を基本的な仕組みとしており、帰国後も他国の研修員と自発的にネットワークを継続している研修員も多い。こうした特徴は TCTP の大きな魅力である一方で、参加国が多数である場合に、研修テーマに関する各国間の開発レベルや受容能力に大きな差が生じている場合があることが想定される。それを反映して、本コースの帰国研修員サーベイや現地調査では、参加者の技術レベルの統一や対象国の限定を要望するコメントがあった。特に先進分野を含む技術的要素を対象とした研修を計画する場合には、参加者の多様性のメリットと研修効果の質向上のバランスを十分に考慮して、参加対象国選定やプログラム構成を決定する必要がある。
- 募集段階では対象国別に募集人数枠が設定されているが、ある国で基準を満たす合格者が枠に満たない場合に、他国で基準を満たす応募者の追加選定を可能にするプロセスの制度的導入について検討すべきである。
- 本コースの帰国研修員サーベイの結果からは、一定程度の帰国研修員がアクションプランを実施・継続できない理由として、「予算や組織からの支援不足」「機材や技術の制約」などが挙げられた。TCTP コースの応募者の選定条件として、所属組織との間で研修前に想定されるアクションプランの内容について協議・検討を行うことを求めるなど、組織的な支援を促進する仕組みを検討することが考えられる。
- 研修参加国(窓口機関)によっては Third Country Training Program という名称に心理的抵抗があることが明らかになった。TCTP という名称は、JICA や TICA のみならず、シンガポールなどの他国や国際機関が実施する同様の研修などで一般的に使用されている。一方で、TCTP への参加経験が浅い国や機関にとってより直接的にタイと日本の共同研修であることが理解されるような通称や説明の追記を検討する余地がある。

提言:

- 本コースは配電システムの概論から個別テーマの講義、更に先進技術の紹介まで幅広いプログラムで構成された。各研修員の多様なニーズに対応可能なプログラムであったことが、習得した知識の高い活用率の一因と考えられる。他方、研修期間や講義時間の短さを指摘するコメントが多数あったことから、広範なプログラム構成であったことが限られた時間に多くの学習内容を詰め込まざるを得ない状況につながり、研修員が習得した知識の質に影響した可能性も否定できない。また、上記の「教訓」で述べたように、帰国研修員サーベイや現地調査では、参加者の技術レベルの統一や対象国の限定を要望するコメントがあったことから、プログラムの中には研修員間で理解度に差が生じていた可能性がある。本コースの基本的なプログラムと対象国を維持しつつ、より高い研修効果の発現を目指すならば、(1)研修内容に見合った研修期間の調整、(2)参加国のニーズやレベルに沿ったグループ別の講義実施などプログラム構成の調整、を検討する余地がある。
- プログラムの内容に関して、帰国研修員サーベイや現地調査では、ケーススタディーや多様なサイト視察など、より実践的に活用可能なプログラムの比重を高める多くの要望が寄せられた。上述のプログラム構成の調整と併せて、想定される参加者の属性や技術レベルをより詳細に判別した上で、各参加者にとって満足度の高いプログラム内容を検討することが望まれる。
- 上述のとおり、MEA は 2009 年以降、前身の TCTP コースから本コースまでを実施してきており、その経験を通じて組織としての運営ノウハウを蓄積するとともに、プログラムの内容も当初は配電システムのデザインに焦点を当てていたが、技術の進歩に合わせて新技術の紹介を含めるなど、ニーズに応じて変化させてきた。また、帰国研修員との積極的なネットワーク活用は行っていないものの、昔の帰国研修員が所属組織で昇進し重要なポジションに就くなど、長期的な関与から得られた組織内外の人的資産は大きいと考えられる。今後 TCTP を継続する際には、研修効果の更なる向上のために、こうした資産をより積極的に活用することが期待される。但し、帰国研修員のネットワーク機能の強化やフォローアップ活動の実施は MEA 単独で行い得るものではないため、TICA 及び JICA がそれぞれの事業活動との将来的連携などフォローアップ活動を実施する目的を共有した上で支援することが望ましい。

--

2025 年度テーマ別評価 タイ国第三国研修に関する合同評価
コース別評価結果表

2	Renewable Energy Technologies and Knowledge Transfer for Strengthening and Achieving ASEAN's Sustainable Development Goals
---	--

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
妥当性	(1) 開発政策との整合性 ● 研修内容は相手国の開発政策及び開発計画との整合性はあるか(国・地域・セクター等の各レベル)	● ASEAN PLAN OF ACTION FOR ENERGY COOPERATION (APAEC) 2016-2025 では、ASEAN 全体のエネルギー政策の中核となる行動計画で、再生可能エネルギーの導入拡大に関する具体的な活動や数値目標が明記されている。	ASEAN アクションプランの一部に再生エネルギーの拡充が位置付けられていることから、本研修は開発政策と一致している。	● ASEAN ウェブサイト
	(2) 開発ニーズとの整合性 ● 研修は相手国のターゲットグループのニーズに合致していたか	● ASEAN 加盟国(AMS)は、人口増加や経済成長に伴い、急速に拡大するエネルギー需要に直面している。エネルギー供給の大部分を化石燃料に依存しているため、輸入の増加、エネルギー安全保障上のリスク、そして CO₂排出量の増大を招いている。AMS はエネルギー効率や再生可能エネルギーの導入を通じて持続可能なエネルギーへの移行を目指しているものの、バイオマスなどの自国資源を活用するための技術的なギャップが依然として存在している。(RD より) ● TCTP は、知識や技術を共有するためのプラットフォームを提供し、ASEAN 加盟国が再生可能エネルギーを推進し、エネルギー安全保障を改善し、SDGs に整合した低炭素社会の実現を進めることを支援している。(RD より) ● タイと ASEAN 諸国は、類似した背景や資源を有しており、自国のエネルギーを開発することで外部エネルギー源への依存を減らすという共通のニーズを抱えている。(TISTR ヒアリングメモ)	ASEAN 各国はエネルギーの持続的な確保のため再生エネルギーの導入・拡大の推進が喫緊の課題であることを鑑み、本研修の実施は妥当である。	● R/D ● 研修実施機関インタビュー
	(3) 手段としての適切性 ● 研修員のニーズに対して研修内容は妥当であったか ● 効果的な研修内容となるように日本側とタイ側の投入の役割分担が行われていたか。 ● アウトカム／事業目的の達成につなが	● 「研修内容は業務内容とどの程度整合していたか(Ex-trainee survey Question 1 e)」という問いに対し、回答者の約 5 割が「非常に高い」、5 割が「ある程度高い」と回答しており、自身の業務や組織にとって本研修との関連性が高く、有益であったと評価した。参加者の多くは、再生可能エネルギー、バイオマス、バイオマテリアル、持続可能性、都市計画・環境といった自身の専門分野に直接関連する知識・技術を求めている、本研修の内容と高い一致が見られた。(研修	再生可能エネルギーやバイオマス等に関する実務的な知識習得に適した研修手段であった。また、日本からの資金	● 研修実施機関インタビュー ● 研修員追跡サーベイ

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源										
	るようにインプット、アウトプットのロジックが適切に計画されていたか。	員向け google survey より) ● 日本からは主に、資金支援と専門家派遣の面で協力を得ている。JICA 職員の遠藤氏は、海洋温度差発電(OTEC)のような先端技術の日本人専門家を招くことを提案した。OTEC は、海面と深層の温度差を利用して発電を行う技術である。こうした最先端技術は、研修員に貴重な新しいアイデアや知識を提供している。(TISTR ヒアリングメモ) ● TICA は資金面での支援に加え、航空券、送迎、健康保険などを含む研修員受け入れ管理している。(TISTR ヒアリングメモ) ● RD 等を基に評価者が作成したロジックは下表のとおり。研修を通じて参加者は、再生可能エネルギー政策やバイオマス転換技術、バイオディーゼル生産、カーボンキャプチャー、ライフサイクル評価などの知識を習得し、帰国後、各国での研究、政策立案、技術開発に応用し最終的には ASEAN 諸国におけるエネルギー政策の強化や技術の向上に貢献することを目指していた。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>Output =></th><th>Initial Outcome =></th><th>Intermed.Outcome =></th><th>Final Outcome =></th><th>(Further)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Participants completed the training course with certificate</td><td>-Participants gain knowledge on renewable energy policies, biomass conversion technologies, biodiesel production technology, standards and utilization, carbon capture concepts, life cycle assessment, and sustainability assessment.</td><td>-Participants apply the knowledge and skills learned in the training to research, policy making, and technology development in their countries, reflecting them in concrete projects and initiatives.</td><td>Energy policies are being strengthened, and technologies are improving in ASEAN countries.</td><td>Contributing to the achievement of SDG Goal 7 in ASEAN countries.</td></tr> </tbody> </table>	Output =>	Initial Outcome =>	Intermed.Outcome =>	Final Outcome =>	(Further)	Participants completed the training course with certificate	-Participants gain knowledge on renewable energy policies, biomass conversion technologies, biodiesel production technology, standards and utilization, carbon capture concepts, life cycle assessment, and sustainability assessment.	-Participants apply the knowledge and skills learned in the training to research, policy making, and technology development in their countries, reflecting them in concrete projects and initiatives.	Energy policies are being strengthened, and technologies are improving in ASEAN countries.	Contributing to the achievement of SDG Goal 7 in ASEAN countries.	支援や専門家派遣により、OTEC などの先端技術に触れる機会が提供され、手段として適切であった。	
Output =>	Initial Outcome =>	Intermed.Outcome =>	Final Outcome =>	(Further)										
Participants completed the training course with certificate	-Participants gain knowledge on renewable energy policies, biomass conversion technologies, biodiesel production technology, standards and utilization, carbon capture concepts, life cycle assessment, and sustainability assessment.	-Participants apply the knowledge and skills learned in the training to research, policy making, and technology development in their countries, reflecting them in concrete projects and initiatives.	Energy policies are being strengthened, and technologies are improving in ASEAN countries.	Contributing to the achievement of SDG Goal 7 in ASEAN countries.										
整合性	(1) 日本の援助政策との整合性 ● 日本の援助政策・外務省の国別援助方針との整合性はあるか	● 「対タイ王国 国別開発協力方針」では、ASEAN・メコン地域及び国際社会の課題に関するタイとの協議を通じて、両国が連携すべき第三国協力案件を展開することが明記されており、その主要なスキームとして第三国研修が掲げられている。 ● タイと日本は、1994 年に立ち上げられた日タイ間の第三国協力の枠組みである日タイ・パートナーシッププログラム(JTPP)(現在はフェーズ 3)の下で、JICA 及び TICA との間で ASEAN 諸国等第三国に対する研修を実施することになっている。	● 日本の援助政策との整合性が認められる。	● 対タイ国別開発協力方針										

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
	(2) JICA 内外の事業・機関との連携 ● JICA の他事業や日本、他の開発協力機関等との連携は行われたか	● TISTR では、TCTP プログラムを 2 つのフェーズで実施しており、第 1 フェーズ(2016～2018 年)は主にバイオ燃料に焦点を当て、現在のフェーズ(2023～2025 年)は、その範囲を拡大し、バイオ燃料に加えて他のエネルギー資源も対象としている。	●過去の TCTP コースの実施経験を踏まえて本コースが計画されており、連携が取られていると言える。	●研修実施機関インタビュー
	(3) タイの援助政策との整合性 ● タイの援助政策・方針との整合性はあるか	● 「日本の援助政策との整合性」で記載のとおり、JTPP の枠組みのもので TCTP は実施されている。 ● TICA のミッションは「タイの外交政策および『足るを知る経済(SEP)』に基づく開発協力の推進」であり、その目的の一つとして「タイを新興ドナーとしての地位を強化するとともに、持続可能な開発に関する学習とベストプラクティス共有の拠点としての役割を強化する」ことが掲げられている。TCTP は、こうしたミッションおよび目的の下で実施されていると考えられる。	●TCTP はタイと日本の協力枠組み及びタイの外交・開発協力政策と整合している。	●TICA ウェブサイト
妥当性サブレーティング: ASEAN 地域の開発課題と整合しており、手段としての適切性において日本の専門家を活用した最先端および実務的な内容となるよう工夫されており、サブレーティングは④と判断する。 整合性サブレーティング: (1)及び(3)で整合している一方で、(2)JICA 内外の事業との直接的な連携は認められないため、サブレーティングは③と判断する。 妥当性・整合性レーティング: 上記より、妥当性・整合性のレーティングを④と評価する。				
有効性	アウトカムの内容 ● 研修参加時に立てた目標は達成されたか ● 研修員は研修内容を習得したか	● 「修了証」はすべての回答者が獲得したと回答した。(Ex-trainee survey Question 1b) ● 「研修を通じた知識・スキルの向上度合い」に対し、全体の進捗レベルの平均値は 3.5 であり、これは「非常に進展した(4)」と「ある程度進展した(3)」の中間に位置する。これは、各専門分野の知識や技能が十分に習得されたことを示している。(Ex-trainee survey Question 1c) ● 「一般スキル」に関しては、全体の進捗レベルの平均値は 3.4 であり、これは「ある程度進展した(3)」をやや上回っている。これは、各分野の一般的な知識や技能が十分に進展していることを示している。全般的に「ある程度進展した」「大きく進展した」という回答は「職場内外のネットワーキング」において最も多かった。一方、「それほど進展していない」と回答があったのは「予算」「人事・研修」「組織でのリーダーシップ」であった。(Ex-trainee survey Question 1d) ● 再生可能エネルギーに関する政策、技術、持続可能性評価を体系的に学ぶ機会を提供し、参加者の理解と実務的能力の向上に有効であっ	本コース受講前後の研修員の知識習得度、及び帰国研修員自身の知識・スキル向上の評価の点から研修目標(初期アウトカム)は達成されたと判断される。	● 研修員追跡サーベイ ● Terminal Eva.Report

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
		た。講義と実習を組み合わせた研修構成により、学んだ知識は帰国後の業務や政策検討への応用可能性が高く、研修の有効性が確認された。以上より、実施機関が実施した自己評価では、当初計画された目標は「達成された」と判断されている。		
	研修の満足度 ● 研修内容にどの程度満足したか	● 研修の満足度に関し、全体の進捗レベルの平均値は 3.7 であり、これは「非常に満足(4)」に近い水準である。特に、リソースパーソンの知識と技能、および研修の施設(交通、宿泊、食事)については高い満足度が示された。その他の全ての側面についても平均値は高い水準となっている。(Ex-trainee survey Question 1f) ● 研修実施機関が実施したアンケート調査によると、研修員の80%以上が研修に満足したと回答した。	本調査及び研修終了時に実施されたアンケート調査でも高い満足度が確認された。	● 帰国研修員追跡サーバイ ● Terminal Eva.Repor t
	因果関係 ● 目標達成にどのような点が貢献/阻害要因となったか	● 研修成果に寄与した要因: 本研修は、経験豊富な講師陣、充実した研修施設、そして理論的知識を実際の場面に適用することを可能にする実習型のラボセッションに支えられている。さらに、実践的なデモンストレーションや現地視察の組み込みが学習体験を強化し、参加者の理解を一層深める効果をもたらした。 ● 十分な成果が得られなかった要因: 主な制約の一つは、体系的なフォローアップや研修後の支援メカニズムが欠如していたことである。参加者は貴重な知識を得たものの、自国における組織的な支援、資金、あるいはパートナーシップが不足していたため、それを実践に移す能力が制限された。加えて、一部の参加者は高度に専門的な研修内容を十分に理解・活用するための学術的または技術的背景を持ち合わせておらず、その結果、関与度の低下や研修後の知識移転に困難を生じる場合があった。さらに、言語の壁や各国の状況の違いも、効果的な応用を妨げる要因であった。(TISTR ヒアリングより)	左記のとおり	研修実施機関インタビュー
インパクト	発現の見込み/因果関係 ● 事業実施の結果としてインパクトの発現が見られるか、あるいは見込まれるか ★ 特に他の参加国や他コースの模範・参考になる成功事例が生まれたか(事例数は問わない) ● アウトカムからインパクトに至るまでの外部条件は適切に認識されているか。外部条件が満たされる可能性は高いか ● インパクト発現を阻害する要因はあるか	● 「帰国後に研修からの学びを活用したか」という質問に対し、約 96%が「はい」と回答した。参加者からのコメントを総合すると、TCTP プログラムで得られた知識や経験は、実務や教育活動において多様な形で活用されていることがうかがえる。例えば、他国との協力による水素分野のプロジェクト提案において、研修で得た知識が議論を深め、より良いアイデアを提示する助けとなった、研修での経験や知識を日常業務の支援に活用している、研修中に作成したノートを大学での教材として使用するなどのコメントが挙げられた。(Ex-trainee survey Question 1g) ● 「研修で得た学びをどのように活かしたか」という質問に対しては、「同僚に共有」が約 82%、「より良い意思決定での活用」が約 64%であっ	研修修了後、約 96%の参加者が研修で得た学びを帰国後に活用しており、本研修の実務的有用性は高い。学んだ知識は、同僚との共有や意思決定の改善、教育・研究	● 帰国研修員追跡サーバイ

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
	● プラスの影響が想定されるか？マイナスの影響についてはそれを軽減するための対策は取られているか ● 日本へのインパクト発現が見込まれるか ● タイへのインパクト発現が見込まれるか ● 対象国へのインパクト発現が見込まれるか	た。(Ex-trainee survey Question 1h) ● 「研修参加後、昇進したか、という質問に対しては、22 名の回答者のうち、半数(n=11)は昇進し、一方でほぼ半数にあたる 8 名が昇進したと回答した。TCTP は昇進にどの程度貢献したか」という質問に対しては、22 名の回答のうち 15 名は貢献したと回答したが、残りの 7 名は貢献は(ほぼ)無いと回答した。(Ex-trainee survey Question 4a,4b) ● 成功事例としては次の事例が挙げられた。 ① 国際協力・プロジェクト提案への活用 - 研修で学んだ OTEC 技術を活用し、APEC-ACABT YES Challenge 2024 にて「沿岸・農村電化促進プロジェクト」を提案し、優勝。 - マレーシアの大学研究者として、水素利用に関する国際共同助成申請を提案。研修で得た知識をチームのブレインストーミングで共有。 - 他国との協力を視野に入れたプロジェクトに参画し、サステナビリティ目標達成に貢献。 ② 技術・研究活動への応用 - 水素エネルギー、バイオディーゼルの品質・エンジン適合性、二段階バイオマスガス化の知識を活用し、技術スカウティングやロードマップを策定。 - 微細藻類の研究を研修の知見を基に拡大。 - 再生可能エネルギー需要をプロジェクトや検討事項に組み込み、意思決定を改善。 ③ 教育・知識共有活動 - UKM で研修ノート教材として活用。 - 部署内でデータリテラシー・分析スキル向上のための新たな研修を企画・実施。チームのスキル強化や継続学習の文化を促進し、他部署へも拡大。 - 学生として、帰国後に仲間や講師と非公式の共有セッションを実施し、再生可能エネルギーを学術研究や地域活動に取り込み始めた。 (Ex-trainee survey Question 2a,2b)	活動などに幅広く活用され、組織内への波及効果も確認された。 成功事例としては、OTEC 技術を活用した国際コンペでの受賞や、水素・バイオマス分野での国際共同研究・プロジェクト形成、大学や職場での教材化・研修実施などが挙げられ、研修成果が具体的な行動と成果につながっている。	

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源																				
	その他インパクト (研修実施機関やインストラクターに与えたインパクトの有無など)	- TCTP の運営を通じて、TISTR のスタッフは国際プログラムの企画・管理能力を向上させている。具体的には、3 週間に及ぶコース運営を通じて、宿泊・食事手配や宗教的配慮(例:ハラール食対応)など多様なロジスティクスを効果的に管理するスキルを習得している。 - TISTR の研究者は、自らの研究を終えた後、その知識移転を担う責任を負っている。研修コースを運営するにあたっては、自らの研究内容を振り返り、それを他者に明確に説明することが求められる。TCTP は、研究者が多様な国からの研修員と英語でコミュニケーションを図ることを支援するとともに、研修員や他のプロジェクト関係者とのネットワークを拡大する役割を果たしている。 - 講師陣は、TISTR、国立科学技術開発庁(NSTDA)、カセサート大学(KU)などの大学、さらには日本人専門家から選ばれており、大きな恩恵を受けている。彼らは研修員に伝達したい知識を見直し、洗練させることで、自らの研究や専門性を英語で発表する自信を高めることができる。TISTR の研究者は主に研究室で活動しているが、TCTP コースの運営に携わることで、異なる文化、宗教、言語を持つ人々と交流する機会を得ている。(TISTR ヒアリングメモ)	その他のインパクトとして、TCTP の運営を通じて、TISTR および関係機関のスタッフ・研究者の能力強化が図られた事例が報告された。	研修実施機関インタビュー																				
有効性・インパクトレーティング： 本研修は、研修員の満足度が高く、計画された学習内容に関する知識・スキルの習得が着実に達成されている点で、有効性が高いと評価できる。加えて、帰国後に研修で得た学びを実務・研究・教育活動に活用しており、同僚との知識共有や意思決定の改善、国際協力プロジェクトへの発展など、具体的な成功事例も確認された。さらに、研修運営を通じた実施機関や講師陣の能力強化といった副次的効果も認められることから、本研修は研修員個人のみならず、所属組織や関係機関に対してもプラスのインパクトをもたらしたといえる。以上より、有効性・インパクトのレーティングは④(非常に高い)と判断する。																								
効率性	事業計画 アウトプットを産出するために必要な量・質の投入が計画されていたか	- 参加人数については、RD では最大24名だったが、実績は以下のとおり15名程度であった。<table><tr><th>Plan</th><th>Actual</th></tr><tr><td rowspan="3">24 participants (+2 Thai participants)</td><td>16 persons</td></tr><tr><td>21 persons</td></tr><tr><td>17 persons</td></tr></table> - 予算の計画/実績の比較 RD に記載された計画は以下のとおり。事業費については日本の事業負担は全体の約 57%であり、総事業費は概ね計画通りであった(計画比102%)。 Unit:THB<table><tr><th></th><th></th><th>Plan(RD)</th><th>Actual</th></tr><tr><td rowspan="3">Total</td><td>JICA</td><td>2,528,254</td><td>3,159,336</td></tr><tr><td>TICA</td><td>2,407,382</td><td>2,349,429</td></tr><tr><td>TISTR</td><td>444,200</td><td></td></tr></table>	Plan	Actual	24 participants (+2 Thai participants)	16 persons	21 persons	17 persons			Plan(RD)	Actual	Total	JICA	2,528,254	3,159,336	TICA	2,407,382	2,349,429	TISTR	444,200		研修参加人数は計画を下回った。予算について日本側は計画内に収まったが、それ以外のデータは入手できなかった。	- R/D, G/I - 実施機関提供資料
Plan	Actual																							
24 participants (+2 Thai participants)	16 persons																							
	21 persons																							
	17 persons																							
		Plan(RD)	Actual																					
Total	JICA	2,528,254	3,159,336																					
	TICA	2,407,382	2,349,429																					
	TISTR	444,200																						

評価項目	評価設問	確認結果				差異・要因分析 /判断	情報源						
			Total	5,379,836	5,508,765								
	期間、タイミング ● 事業期間は事業計画に見合った設定となっていたか(事業の完了は計画以内であったか) ● 前提条件、インプットのタイミング・方法(調達方法を含む)は適切に計画されていたか。 ● JICA/TICA がそれぞれ実施している他の研修事業と比較して、アウトプットに照らした投入の内容・方法について優位性があるか。	● 実施期間について、計画では3年間で各コース3週間とされていた。実績は、3年間で各コース19日であった。 <table><thead><tr><th>Plan</th><th>Actual</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="3">3 weeks each year</td><td>19 days 15 May– 2 Jun 2023</td></tr><tr><td>19 days 10– 28 Jun 2024</td></tr><tr><td>19 days 20 Jan – 7 Feb 2025</td></tr></tbody></table> ● TCTP コースの特徴は 3 週間と比較的長期間で実施される点である。他の単一テーマの典型的な研修コースは 1～2 日間である。(TISTR ヒアリングメモ)				Plan	Actual	3 weeks each year	19 days 15 May– 2 Jun 2023	19 days 10– 28 Jun 2024	19 days 20 Jan – 7 Feb 2025	研修実施期間は概ね計画通りであった。	● R/D, G/I ● 実施機関提供資料
Plan	Actual												
3 weeks each year	19 days 15 May– 2 Jun 2023												
	19 days 10– 28 Jun 2024												
	19 days 20 Jan – 7 Feb 2025												
	実施プロセス	● 予算執行の改善:初年度は TICA の予算配分がコース開始直前となり調整が困難であったが、フィードバックを経て現在は予算がより早期に配分されるようになり、円滑な準備が可能となった。 ● 他方で課題としては、①募集プロセスの非効率性:応募者募集に時間を要するうえ、必ずしも適格な人材が集まらない場合がある。②日程調整の困難さ:TISTR の希望するコース時期と TICA の繁忙期が重なることがあり、その場合は JICA・TICA との協力を通じて JICA 会計年度に合わせる必要が生じ、調整負担が大きい。(TISTR ヒアリングメモ)				今後は募集プロセスおよび全体のスケジュール調整の面において改善が望まれる。	● 研修実施機関インタビュー						
効率性 レーティング: 研修参加人数は計画を下回り、また総事業費は概ね計画どおりであった。一方、研修自体は概ね計画どおり実施されており、今後は募集プロセスおよび全体のスケジュール調整の面での改善が望まれる。したがって効率性のレーティングは②(やや低い)と判断する。													
持続性	体制面 ● ネットワークは構築されているか(帰国研修員と JICA・TICA や研修講師とのネットワーク等) ● 帰国研修員同士のネットワークは構築されているか	● 帰国研修員とは LINE や email で個別に連絡を取り合うことはあるが、体系的なフォローアップを行っていないことが最大の課題である。(TSTIR ヒアリングより) ● 帰国後の研修員同士のつながりは、多様な形で維持されている。17名の回答者のうち、ほぼ全員がオンラインでの交流を行っており、LINE や Facebook、その他の SNS を通じた非公式な連絡が主流である。特に国をまたいだ交流では、オンライン会議や SNS が主要な手段となっており、国境を越えたつながりを継続させている。一方で、同じ国や同じ機関に所属する研修員は、日常的に顔を合わせる機会が多く、同部局での業務や類似のプロジェクトを通じて頻繁に会っている。このため、対面とオンラインの双方を組み合わせたハイブリッ				● 研修後、帰国研修員同士のつながりは主に LINE や SNS、オンライン会議を通じて非公式に維持されており、特に同国・同機関の研修員間では対面とオンライン	● 帰国研修員追跡サーベイ ● 研修実施機関インタビュー						

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
		ド型の交流も多数報告されている。(Ex-trainee survey Question 3a) ● ネットワーキングの理由としては、「知識や情報の共有」という回答が複数見られた(5 名程度)。再生可能エネルギー(RE)に関する最新動向や研修で得た知識の確認、研究上の相談、卒業生へのスキルニーズ調査などが含まれ、ネットワークは専門性向上のための学び合いの場として機能している。続いて「共同研究や学術活動での協働」という回答もあった(4 名程度)。具体的には、タイの講師や他国の研修員との研究相談、共同プログラム・イベントへの参加、調査や実務での連携など、研修後も具体的な協働の機会が生まれている。(Ex-trainee survey Question 3b)	を組み合わせた交流が継続している。一方で、研修実施機関による体系的なフォローアップは行われていない。	
	財政面 ● 研修の効果の持続性の観点から、予算措置は十分に講じられているか	● 予算制約:TISTR は研究機関であり、フォローアップ専用の予算を持たないため、活動経費を確保できない。(TISTR ヒアリングメモ) ● 複数の回答者(4 名程度)は「限られた予算が行動計画の実施を妨げている」と明言しており、機材の不足や技術的スキルの不足とも重なって、アクションプランの着手や継続が困難になっていることが強調されている。一方で、予算制約を乗り越えて部分的に行動計画を実施している例も見られた(2 名程度)。ある回答者は、帰国後に組織内で研修会やワークショップを開催し、習得したスキルやツールを部門横断的に共有することで、費用をかけずに知識移転を進めていると述べている。また、大学教育や研究の一部に研修で得た知見を組み込み、持続的に活用しているとの報告もあった。(研修員向け google survey より)	フォローアップ専用の予算が確保されていないことが、研修成果の継続的な活用を制約する主要な要因となっている。一方で、限られた資源の中でも、組織内研修や教育・研究活動への組み込みといった工夫により成果を維持している事例もある。	● 帰国研修員追跡サーベイ ● 研修実施機関インタビュー
	技術面 ● 研修に伴い導入される技術は研修員やその所属先により受容され、継続的に実行されうるものか	● 受入国の協力確保の困難さ: フォローアップの実施には受入国政府の同意が必要であるが、各国の政策や状況が異なるため、各研修員の所属組織からの協力を確保することは限界がある。(TISTR ヒアリングメモ)	所属先の組織レベルにおける技術の継続見込みを判断する十分な情報は得られなかった。	● 研修実施機関インタビュー
	アクションプラン ● アクションプランを作成した研修員は、それを実施・継続しているか	● 「アクションプランを実践したか」という質問に対し、約 23%が「はい」、残り 27%が「いいえ」、約 50%が「わからない」と回答した。(Ex-trainee survey Question 1i)	帰国後のアクションプラン実践率は総じて低いと言	● 帰国研修員追跡サーベイ

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
	促進/阻害要因 ● 研修の成果を持続・波及するにあたってどのような点が促進／阻害要因となったか	● 複数の回答者(4 名程度)は「限られた予算が行動計画の実施を妨げている」と明言している。加えて「組織の理解や支援不足」や「既存の専門家による活動の重複」といった要因から、行動計画の実施が停滞しているとの回答もあった(3 名程度)(Ex-trainee survey Question 1i)	える。 左記のとおり	● 帰国研修員 追跡サーベイ
持続性 レーティング: 体制面では研修実施機関による体系的なフォローアップ体制が未整備であり、受入国政府や所属組織からの継続的な協力確保にも限界が見られる。また、財務・技術面ではフォローアップ専用予算の不足や機材・技術的能力の制約により、帰国後のアクションプラン実践率は低く、研修成果の継続的活用に課題が認められる。以上より、持続性のレーティングは②(一部課題がある)と判断する。				
総合評価結果:以上より、本コースの「妥当性・整合性」は非常に高く、「有効性・インパクト」は非常に高い。「効率性」は一部課題があり、「持続性」にも一部課題がある。よって、総合レーティングは B(高い)と評価する。				
総合レーティング: B(高い)				

教訓:

- 研修員の人選プロセス:研修の成果をより確実に高めるためには、研修員の人選プロセスを改善することが不可欠である。これまでの実施状況では、応募者募集に時間がかかるうえ、必ずしも研修内容に適した人材が集まらないという課題があった。その結果、専門的な内容を十分に理解・活用できない参加者が含まれ、研修中の関与度が低下したり、研修後の知識移転に困難を生じたりするケースが見られた。さらに、参加者の所属機関や国において組織的支援や資金、パートナーシップが不足している場合には、せっかく得られた知識が十分に実務に活かされない傾向も指摘されている。また、言語の壁や各国事情の違いも、成果の実用化を妨げる要因となっている。このため、今後は研修員の選抜にあたり、研修内容に対応可能な学術的・技術的背景を有する人材を優先的に確保することが重要である。その際、TICA や関係機関と連携し、より幅広い候補者層から適格な人材を選出できる仕組みを整えることが望まれる。
- 体系的なフォローアップの必要性:研修員からのコメントによれば、研修後の知識や経験を実務や政策に十分に反映させるためには、フォローアップとネットワーク構築の強化が不可欠であることが示されている。参加者自身は政策決定に直接関与する権限を持たない場合も多いものの、研修で得られた知見を共有し、広めていく意欲を持っている。そのため、TCTP として、研修終了後も参加者が議論を継続し、各国における実践状況を共有し、専門家の助言を得られるようなフォローアッププラットフォームを設立することを期待する声もある。さらに、TCTP 同窓ネットワークやオンラインプラットフォームを通じて、新技術や資金調達の機会、政策動向などを参加者間で継続的に交換できる仕組みを整えることが、研修効果の持続性を高めると考えられる。

提言:

- 官民連携を見据えた研修設計:再生可能エネルギーの普及を実務レベルで促進するためには、研修や知識共有の機会を一層拡充することが重要である。多くの企業はすでに再生可能技術への移行を始めていることから、政府機関や教育機関と連携しつつ企業への働きかけを強化することで、導入がさらに進展すると期待される。こうした取り組みにより、TCTP は地域協力の枠組みとしての価値をさらに高め、持続可能なエネルギー利用の推進に一層寄与することが可能となる。

2025 年度テーマ別評価 タイ国第三国研修に関する合同評価
コース別評価結果表

3	Energy Resilience Assessment: Towards Climate Adaptable Energy Systems							
評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源				
妥当性	(1) 開発政策との整合性 ● 研修内容は相手国の開発政策及び開発計画との整合性はあるか(国・地域・セクター等の各レベル)	● ASEAN PLAN OF ACTION FOR ENERGY COOPERATION (APAEC) 2016-2025 では、ASEAN 全体のエネルギー政策の中核となる行動計画で、気候変動・災害に強いエネルギーシステム構築の必要性を明記している。	本研修は ASEAN の政策の一部と一致している。	● ASEAN ウェブサイト				
	(2) 開発ニーズとの整合性 ● 研修は相手国のターゲットグループのニーズに合致していたか	● 気候変動は深刻な世界的脅威であり、エネルギーインフラはその影響に対してますます脆弱になっている。再生可能エネルギーは温室効果ガスの排出削減に役立つ一方で、カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム(CLMV)のような低所得国は、インフラの強靱性を確保する上で課題に直面している。(GI より)	気候変動対応と持続可能なエネルギー開発は対象国のみならず世界各国に共通する課題であり、開発ニーズに的確に合致している。	● GI				
	(3) 手段としての適切性 ● 研修員のニーズに対して研修内容は妥当であったか ● 効果的な研修内容となるように日本側とタイ側の投入の役割分担が行われていたか。 ● アウトカム／事業目的の達成につながるようにインプット、アウトプットのロジックが適切に計画されていたか。	● 「研修内容は業務内容とどの程度整合していたか(Ex-trainee survey Question 1 e)」という問いに対し、回答者はわずか3名であったが、すべての回答者が整合していたと回答した。 ● JICA は、関係者間での相互学習の機会を創出するため、コースの共同設計に参画した。加えて、日本企業(東京電力(TEPCO)バンコク事務所)・専門家の紹介や TICA との調整など、追加的な支援も行った(ENTEC ヒアリングメモ) ● RD 等を基に評価者が作成したロジックは下表のとおり。本研修を通じて、参加者がエネルギー・レジリエンスの概念およびその評価方法を学び、実践的なスキルを習得することを通じて、CLMV 諸国におけるエネルギー・レジリエンス評価の定着化や、気候変動に強いエネルギー政策に関する ASEAN 域内での協働強化を目指していた。 <table border="1" data-bbox="801 1300 1626 1353"> <tr> <td>Output =></td><td>Initial Outcome =></td><td>Intermed.Outcome =></td><td>Final Outcome =></td><td>(Further)</td></tr> </table>	Output =>	Initial Outcome =>	Intermed.Outcome =>	Final Outcome =>	(Further)	研修内容が自身の業務と整合していたと回答している点、JICA を通じた日本企業や専門家の活用があった点などを踏まえ、研修の手段は概ね適切であったと考えられる。ただし、回答者数が限られている点には留意が必要である。
Output =>	Initial Outcome =>	Intermed.Outcome =>	Final Outcome =>	(Further)				

評価項目	評価設問	確認結果					差異・要因分析 /判断	情報源
		e.g.) # certified Participants completed the training course with certificate.	e.g.) Skills obtained Participants learn the concept of energy resilience and how to assess it, and gain practical skills to use them.	e.g.) Application of skills Participants regularly conduct energy resilience assessments in CLMV countries based on the knowledge gained from the training.	e.g.) Production ↑ & Income ↑ Resilience assessments are institutionalized within national energy policies and infrastructure plans. Collaboration on climate-resilient energy policies is strengthened across ASEAN.	e.g.) Life ↑ Contributing to the achievement of the Sustainable Development Goals, specifically SDG 7 (Affordable and Clean Energy) and SDG 13 (Climate Action).		
整合性	(1) 日本の援助政策との整合性 ● 日本の援助政策・外務省の国別援助方針との整合性はあるか	● 「対タイ王国 国別開発協力量針」では、ASEAN・メコン地域及び国際社会の課題に関するタイとの協議を通じて、両国が連携すべき第三国協力案件を展開することが明記されており、その主要なスキームとして第三国研修が掲げられている。 ● タイと日本は、1994 年に立ち上げられた日タイ間の第三国協力の枠組みである日タイ・パートナーシッププログラム(JTPP)(現在はフェーズ 3)の下で、JICA 及び TICA との間で ASEAN 諸国等第三国に対する研修を実施することになっている。					ASEAN 諸国における第三国研修の実施は日本の援助政策及び外交方針と一致している。	● R/D ● 対タイ国別開発協力量針
	(2) JICA 内外の事業・機関との連携 ● JICA の他事業や日本、他の開発協力機関等との連携は行われたか	● 日本の他事業との連携は特になし。					具体的な連携は報告されなかった。	—
	(3) タイの援助政策との整合性 ● タイの援助政策・方針との整合性はあるか	● 「日本の援助政策との整合性」で記載のとおり、JTPP の枠組みのもので TCTP は実施されている。 ● TICA のミッションは「タイの外交政策および『足るを知る経済(SEP)』に基づく開発協力の推進」であり、その目的の一つとして「タイを新興ドナーとしての地位を強化するとともに、持続可能な開発に関する学習とベストプラクティス共有の拠点としての役割を強化する」ことが掲げられている。TCTP は、こうしたミッションおよび目的					TCTP は、タイと日本の協力枠組みの一環として実施されており、タイの外交政策とも整合している。	● TICA ウェブサイト

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
		の下で実施されていると考えられる。		
妥当性サブレティング: ASEAN 地域の開発課題と整合しており、手段としての適切性の観点から、JICA は関係者間における日本企業・専門家の紹介を通じて相互学習の機会を創出するなどの工夫を行っていることから、サブレティングは④と判断する。 整合性サブレティング: (1)及び(3)で整合している一方で、(2)JICA 内外の事業との直接的な連携は認められないため、サブレティングは③と判断する。 妥当性・整合性レーティング: 上記より、妥当性・整合性のレーティングを④と評価する。				
有効性	アウトカムの内容 ● 研修参加時に立てた目標は達成されたか 研修員は研修内容を習得したか	● 「修了証」はすべての回答者が獲得したと回答した。(ただし、回答者は3名のみ)(Ex-trainee survey Question 1b)) ● 「研修を通じた知識・スキルの向上度合い」と「一般スキル」に関しては、に対し、全体的に「ある程度向上した」という結果であり、項目間でも大きな差異は見られなかった。(Ex-trainee survey Question 1c,1d) ● 研修終了時の知識・スキル水準(3.77 および 3.93)は、研修開始時の水準(2.62 および 3.14)および研修修了に必要とされる水準(3.69 および 3.79)をいずれも上回っており(5段階中)、研修を通じて参加者の能力が明確に向上したことが示されている。これらの結果は、本研修がエネルギー・レジリエンスの概念、エネルギー・レジリエンス評価、ならびに気候ファイナンスに関する知識習得において高い成果を上げたことを示すものである。	修了証の取得および自己評価結果から、参加者は一定の知識と技能を習得したと考えられる。	● Annual Eval. Report ● 帰国研修員追跡サーベイ
	研修の満足度 ● 研修内容にどの程度満足したか	● 研修の満足度に関し、「講師の知識とスキル」「研修方法(講義・グループ討議・OJT など)」「研修施設」については全員が大変満足と回答した一方、「研修後のフォローアップ体制」については一部の回答者から「あまり満足しない」という回答があった。(Ex-trainee survey Question 1d) ● 研修終了時の各評価項目の平均点はいずれも高く、「学習への貢献」はそれぞれ 3.97 および 3.98、「講師の技能・対応力」は 4.67 および 4.70、「研修内容」は 4.38 および 4.36 であった(5段階中)。本コースの評価結果から、総じて満足度の高い水準を達成していることが確認された。	全体として高い満足度が示された。	● Annual Eval. Report ● 帰国研修員追跡サーベイ
	因果関係 ● 目標達成にどのような点が貢献/阻害要因となったか	ENTEC は各コースで新しいテーマを導入し、前回の研修参加者や同じ機関・組織からの参加者を受け入れて継続的な関与を促している。この方法により、ENTEC は元研修員が自国で達成した成果を把握するなど、ある程度のフォローアップが可能。しかし、研修員が帰国後に特定のフォローアップや評価を実施することはなく、ケーススタディとして取り上げたい国との連絡のみを維持している。(ENTEC ヒアリングメモ)	有効性を検証するためのフォローアップの仕組みが不在であることが阻害要因となっている。	● 実施機関インタビュー

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
インパクト	発現の見込み／因果関係 ● 事業実施の結果としてインパクトの発現が見られるか、あるいは見込まれるか ★ 特に他の参加国や他コースの模範・参考になる成功事例が生まれたか(事例数は問わない) ● アウトカムからインパクトに至るまでの外部条件は適切に認識されているか。外部条件が満たされる可能性は高いか ● インパクト発現を阻害する要因はあるか ● プラスの影響が想定されるか？マイナスの影響についてはそれを軽減するための対策は取られているか ● 日本へのインパクト発現が見込まれるか ● タイへのインパクト発現が見込まれるか ● 対象国へのインパクト発現が見込まれるか	● 「帰国後に研修からの学びを活用したか」という質問に対し、全ての回答者が活用したと答えた。活用方法については、「同僚に共有」、「より良い意思決定での活用」が最も多く、続いて「新しい戦略・業務への適応」という順であった。(Ex-trainee survey Question 1g,1h) ● 「研修参加後、昇進したか、また TCTP は昇進にどの程度貢献したか」という質問に対しては、回答者 3 名のうち 2 名は昇進し、TCTP が貢献したと回答している。(Ex-trainee survey Question 4a,4b) ● 成功事例として研修員から具体例は挙げられなかった。(研修員向け google survey より) ● サクセスケースの一例として、マレーシアの UiTM ソーラー研究所 (SRI) の研修員が挙げられる。コース終了後に学んだ内容を自国の研究所で実践し、予算を提供するとともに、さらなる協力促進のために ENTEC 職員を招へいした。また、評価の実施が難しいことから、参加者が容易に関与できるよう WhatsApp を活用したデジタル評価プラットフォームを開発した。さらに、前回の研修参加者は第 2 回コースにも参加し、メンターとして実施を支援した。(ENTE C ヒアリングメモ) ● 本コースは、気候変動適応に関する意識を高めることに貢献している。本事業の実施開始から 2 年が経過し、この課題に関する議論はタイ国内にとどまらず、ASEAN 諸国全体で活発化している(ENTE C ヒアリングより)。	研修終了後、全員が学んだ知識・スキルを職場で活用した。また、TCTP 参加が昇進の一因となったケースも報告された。ただし、体系的なフォローアップが実施されていないため、全体的な傾向や持続的な効果を把握するには限界がある。	● 実施機関インタビュー ● 帰国研修員追跡サーベイ
	その他インパクト (研修実施機関やインストラクターに与えたインパクトの有無など)	● TCTP への参加は、ENTE C が気候変動適応を重要な手段の一つとして普及させる助けとなった。しかし現段階では、研修コースは主に参加者の意識向上を目的としており、完全な能力向上には至っていない。TCTP は第三者機関との協力を伴う新しい形態の連携であり、通常は ENTEC と他の一機関のみで行う協力とは異なる取り組みとなっている。(ENTE C ヒアリングメモ) ● 講師は、担当分野の知識を深めることでキャリアを強化できる。まだ広く理解されていない比較的新しいテーマについては、講師自身が先駆者となり専門性を高めることが可能であり、気候変動適応は、講師にとって新たな挑戦であると同時に、キャリア形成の機会となっている。(ENTE C ヒアリングメモ)	TCTP への参加を通じて ENTEC の講師の能力強化に貢献した。	● 実施機関インタビュー
有効性・インパクトレーティング： 本研修は、研修員の満足度が高く、計画された学習内容に関する知識・スキルの習得が着実に達成されている点で、有効性が高いと評価できる。加えて、帰国後に研修で得た学びを活用した具体的な成功事例も確認された。さらに、研修運営を通じた実施機関や講師陣の能力強化といった副次的効果も認められることから、本研修は研修員個人のみならず、所属組織や関係機関に対してもプラスのインパクトをもたらしたといえる。以上より、有効性・インパクトのレーティングは④(非常に高い)と判断する。				

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源																							
効率性	事業計画 ● アウトプットを産出するために必要な量・質の投入が計画されていたか	- 参加人数については、RD では最大 40 としていたが、実績は以下のとおり各年 16～23 名であった。 <table><tr><th>Plan</th><th>Actual</th></tr><tr><td rowspan="3">40 persons at maximum</td><td>23 persons</td></tr><tr><td>16 persons</td></tr><tr><td>21 persons</td></tr></table> - 予算の計画/実績の比較 RD に記載された計画は以下のとおり。本評価時点では 2 年次の研修コースまでの実施であり最終的な実績額は確定していない。 <table><tr><th></th><th></th><th>Plan(RD) THB</th><th>Actual</th></tr><tr><td rowspan="4">Total</td><td>JICA</td><td>2,220,700</td><td>To be confirmed</td></tr><tr><td>TICA</td><td>2,041,880</td><td>To be confirmed</td></tr><tr><td>ENTEC</td><td>113,000</td><td>To be confirmed</td></tr><tr><td>Total</td><td>4,375,580</td><td>To be confirmed</td></tr></table>	Plan	Actual	40 persons at maximum	23 persons	16 persons	21 persons			Plan(RD) THB	Actual	Total	JICA	2,220,700	To be confirmed	TICA	2,041,880	To be confirmed	ENTEC	113,000	To be confirmed	Total	4,375,580	To be confirmed	参加人数は計画を下回った。予算についてはすべての研修が完了していないため比較はできない。	● R/D・G/I
Plan	Actual																										
40 persons at maximum	23 persons																										
	16 persons																										
	21 persons																										
		Plan(RD) THB	Actual																								
Total	JICA	2,220,700	To be confirmed																								
	TICA	2,041,880	To be confirmed																								
	ENTEC	113,000	To be confirmed																								
	Total	4,375,580	To be confirmed																								
	期間、タイミング ● 事業期間は事業計画に見合った設定となっていたか(事業の完了は計画以内であったか) ● 前提条件、インプットのタイミング・方法(調達方法を含む)は適切に計画されていたか。 ● JICA/TICA がそれぞれ実施している他の研修事業と比較して、アウトプットに照らした投入の内容・方法について優位性があるか。	実施期間について、計画:2023-2025 年(3 年間)に対し、実績:2024 年に 2 回、2025 年度は実施予定であった。RD では、各年 7 日間の実地(オンサイト)研修が計画されており、実績は 5～10 日で実施されている。	期間・タイミングともに概ね計画通りであった。	● R/D ● Annual Eval. Report																							
	実施プロセス	以下、ENTEC ヒアリングメモより - 計画段階では、ENTEC はコース調整方法などについて JICA と協議した。実施段階では、ENTEC が講師を準備し、コース運営を担当した。実施後には、参加者からアイデアやフィードバックを収集し、次回コースの改善に活用している。例えば、研修員が投資の妥当性を判断できるよう、費用便益分析(CBA)が導入された。 - 他の研修コースと異なり、TCTP は約 1 週間の研修であり、ENTEC にとっては長期間の研修と位置づけられる。初年度のコースは 1 モジュールで約 5 日間、2 年目のコースは 1・2 モジュールを含めて約 8 日間実施された。既存の参加者は第 2 モジュールのみ、または両方のモジュールに参加することが可能で、ENTEC TCTP では学びを継続できるよう既存参加者の受け入れも行われた。初回コース終了後に	TICA からの明確な SOP や案内体制の不足により、研修員募集・選考に課題があり、適切な人材確保や承認手続きの効率化のために関係者間の情報共有の改善が必要である。	● 実施機関インタビュー																							

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
		は、次回コース改善のためのラウンドテーブルディスカッションが開催し、モジュールの修正を行うなど参加者のニーズに対応する取り組みを行っている。 ● TICA は、研修員募集・選考プロセス全体に関する具体的なフォーマットや標準作業手順(SOP)を提供していない。例えば、General Information (GI) 文書の内容範囲や、どの予算を JICA または TICA が担当するかについての明確な指示がない。 ● 現状では、TICA 担当者が ENTEC と協議して報告書を作成し、TICA 委員会の承認を受ける。委員会の会議日は固定されているため、報告書が会議日までに完成しない場合、承認は延期される。委員会が報告書に同意しない場合、担当者は再度 ENTEC と協議する必要がある。時間を短縮するには、関係者全員でオンライン会議を行い、直接議論する方が効率的だと考える。 ● 研修員の募集・選考プロセスでは、TICA は各国のタイ大使館宛の案内文や各省庁から関係者への案内文を共有していない。ENTEC は、各国のタイ大使館が案内を関連省庁に転送すると考えているが、期待していた研修員に情報が届かないことがある。ENTEC の海外ネットワークがあるが、これらの組織に研修プログラムの情報が届かないこともある。そのため、ENTEC は適切な研修員や期待される人数を確保できないことがある。したがって、TICA が各省庁から ENTEC 宛の案内文を提供できれば、ENTEC は自らのネットワークを通じて適切な人物に情報を伝えることが可能。 ● 研修員の人数や期待される知識レベルはコース設計に不可欠。そのため、人数や知識レベルが適切でない場合、ENTEC は研修員のプロフィールに合わせてコース内容を調整する必要がある。一方で、TICA は候補者の資格審査を支援し、なぜ特定の候補者が不適格かの理由を提供しており、これは有益だった。場合によっては、候補者が資格不足であっても、他の条件が適切であれば ENTEC が選考を提案することも可能である。		
効率性 レーティング: 研修参加人数は研修 2 年次までは計画を下回り、また全研修が完了していないため計画と実績の比較はできず、効率性の分析には一定の制約があった。一方、研修自体は概ね計画どおり実施されており、今後は研修員募集・選考手続きの効率化の改善が望まれる。したがって効率性のレーティングは②(やや低い)と判断する。				
持続性	体制面 ● ネットワークは構築されているか(帰国研修員と JICA・TICA や研修講師との	● TCTP(第三国研修)終了後の関係者とのネットワーキング・コミュニケーションは全体として限定的であり、特に日本人講師に対しては殆ど無い。(Ex-trainee survey Question 3a)	帰国研修員間のネットワークはあるものの、全体と	●

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
	ネットワーク等) ● 帰国研修員同士のネットワークは構築されているか	● マレーシアの SRI など、一部の研修員とパートナーシップを継続するために、メールや Line アプリを通じて連絡を取っている。(ENTEC ヒアリングメモ)	しては限定的である。	
	財政面 ● 研修の効果の持続性の観点から、予算措置は十分に講じられているか	特になし	—	
	技術面 ● 研修に伴い導入される技術は研修員やその所属先により受容され、継続的に実行されるものか	特になし	—	
	アクションプラン ● アクションプランを作成した研修員は、それを実施・継続しているか	● ENTEC は自らの研修プログラムのモニタリングや評価は行っていないが、前回の研修参加者が次回の研修に参加できるため、彼らの実施経験を ENTEC と共有することが可能である。ENTEC が彼らとパートナーとしてさらに協力したい場合(例: ケーススタディの作成)、連絡を維持する。例えば、インドネシアに関するケーススタディはまだ存在しないため、ENTEC ではインドネシアを優先的な連絡先として設定している。(ENTEC ヒアリングメモ) ● 「アクションプランを実践したか」という質問に対しては、全ての回答者が実践したと回答したが、コメント欄を見ると、予算不足、同僚・組織の同意・支援が得られないという課題が挙げられている。(Ex-trainee survey Question 1i)	フォローアップが行われていないため全体の実施状況については把握が困難である。アンケート回答者はアクションプランを実践するためには、予算確保と組織からの協力が不可欠である、と回答した。	● 実施機関インタビュー ● 帰国研修員追跡サーベイ
	促進/阻害要因 ● 研修の成果を持続・波及するにあたってどのような点が促進／阻害要因となったか	一部の研修員は、予算不足、組織や同僚の理解・協力が得られないことがアクションプラン実践する上での課題であることを指摘している。(Ex-trainee survey Question 1i)	左記に同じ	● 帰国研修員追跡サーベイ
持続性 レーティング: 持続性の観点では、帰国研修員間に一定のネットワークは存在するものの、日本人講師を含む関係者との継続的なネットワーキングや体系的なフォローアップは限定的であり、全体像を把握するための十分な情報は得られていない。また、アクションプランの実施については、予算不足や所属組織からの支援欠如といった制約が指摘されており、研修成果の持続的活用には体制面・財務面での課題が残されている。以上より、持続性のレーティングは②(一部課題がある)と判断する。				
総合評価結果: 以上より、本コースの「妥当性・整合性」は非常に高く、「有効性・インパクト」は非常に高い。「効率性」は一部課題があり、「持続性」にも一部課題がある。よって、総合レーティングは B(高い)と評価する。				
総合レーティング: B(高い)				

教訓:

- 研修終了時に研修員が参加するラウンドテーブルディスカッション等を通じて研修内容を柔軟に見直す仕組みは、参加者のニーズを的確に反映し、研修の質と実務適用性を継続的に高める上で有効であるといえる。
- 体系的なモニタリング・評価制度がなくとも、過去の参加者を次回研修に再度受け入れ、実践経験を共有する機会を設けることで、研修成果の活用状況を把握する非公式なモニタリング手法として機能し得る点は、他の研修プログラムにとっても参考となる。

提言:

- TICA の手続・指示体系の明確化:TICA は募集・選考・報告プロセスに関する標準手順書(SOP)や明確なフォーマットがないことから、TICA が General Information 文書、予算分担ルール、承認フロー等を明文化し、実施機関に共有することが望ましい。
- 研修員募集・選考プロセスの改善:各国のタイ大使館や省庁への案内文が ENTEC に十分に共有されておらず、適切な対象者に情報が届いていない可能性を指摘している。TICA が公式案内文のテンプレートや配布経路を整備し、ENTEC にも共有して情報伝達を補完するとともに、ENTEC が独自ネットワークを通じて関連機関に周知できる仕組みを導入することも検討する。
- 研修員選考とコース設計の連動:研修員の人数・知識レベルがコース設計に直結するため、事前情報の精度が重要であり、応募があった時点で候補者の知識レベルと職務内容を把握できるよう、TICAと研修実施機関で情報共有を図る。

2025 年度テーマ別評価 タイ国第三国研修に関する合同評価
コース別評価結果表

4	Practice in Innovation and Digital Technology for Sustainable Water Management
---	--

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 ／判断	情報源
妥当性	(1) 開発政策との整合性 ● 研修内容は相手国の開発政策及び開発計画との整合性はあるか(国・地域・セクター等の各レベル)	● 対象となった ASEAN 各国は気候変動の影響を受け、メコン川流域諸国を筆頭に治水は大きな課題となっている。この気候変動への対応はASEAN各国の開発政策および開発戦略の中でも重要課題として掲げられている。 ● 一方で、タイ政府が掲げる広範な国家戦略である「タイランド 4.0」の中でデジタル技術の適用が掲げられており、タイ政府が掲げるASEAN諸国との協力という政策とも合致している。	事前よりも、デジタル技術の適用が世界的に進んだことが大きな状況変化と言える。またそれが妥当性の強化につながっている。	● R/D・GI ● 国別開発協力方針・事業展開計画
	(2) 開発ニーズとの整合性 ● 研修は相手国のターゲットグループのニーズに合致していたか	● GIにも記載されているように、タイの気候は周辺のASEAN諸国と類似しており、治水および水管理管理について類似のニーズを有しており、タイの有する先進技術や経験を適用可能であり、研修送り出し国の開発ニーズとの整合性は高いと言える。 ● また、水管理全般の向上というニーズの中でも、AIなどデジタル技術を適用した先進的な水管理の新しいニーズを先取りした研修の企画であったと言える。		● R/D・GI ● 現地調査メモ
	(3) 手段としての適切性 ● 研修員のニーズに対して研修内容は妥当であったか ● 効果的な研修内容となるように日本側とタイ側の投入の役割分担が行われていたか。 ● アウトカム／事業目的の達成につながるようにインプット、アウトプットのロジックが適切に計画されていたか。	● GIに実施手順と各機関の役割分担が明記されている。 ● GIやコースレポートから作成したロジックモデルの検証によると、水管理の向上がASEAN各国の経済社会開発に貢献するという介入理論(介入と成果の関係)が適切だったと言える。 ● 帰国研修員サーベイ(Q1e)の「研修はあなたの仕事(Work)にとってどれくらい適切(relevant)だったか?」という質問に対する回答の平均値は 3.1 で、「適度に適切」をわずかに上回った。「たいへん適切」には届かないが、AI など先進技術を先取りした内容が含まれており、ASEAN 各国の水管理の現状に照らし合わせると、これから適切になっていく内容に触れたことが影響したと考えられる。		● Annual Eval. Report ● 貴国研修員サーベイ ● TICA/JICA 事務所/研修実施機関インタビュー
整合性	(1) 日本の援助政策との整合性 ● 日本の援助政策・外務省の国別援助方針との整合性はあるか	● 「対タイ王国 国別開発協力方針」では、大目標として「包括的・戦略的パートナーシップに基づく現代的課題への対処及び地域開発を牽引する協力の推進」と記載あり。また中目標のひとつとして、「(3)第三国協力の実施 ASEAN・メコン地域及び国際社会の課題に関するタ	日本とタイの援助政策に変化なし	● R/D ● 対タイ国別開発協力方針

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 ／判断	情報源
		イとの協議を通じて、両国 が連携すべき第三国協力案件を展開する。」という記載あり。		
	(2) JICA 内外の事業・機関との連携 ● JICA の他事業や日本、他の開発協力機関等との連携は行われたか	● タイの Yokogawa Co., Ltd.を訪問してサイト視察を行ったが、複数のサイト視察で当該訪問が最高の評価(研修生のレーティング平均 4.49(5.0 が満点)を得ており、日系企業との連携が効果を生んでいる。 ● また、AI 技術の研修では、日本企業のアメリカ支社から講師を招請して講義をしており、アメリカの最新の AI 技術に触れる機会も提供している。		● TICA/JICA 事務所/研修実施機関インタビュー
	(3) タイの援助政策との整合性 ● タイの援助政策・方針との整合性はあるか	● JICA TCTP の実施により、TICA やタイの研修機関にどのような影響があったか？という質問に関して以下の回答あり。 ・TICA が新興ドナーとして国際機関や開発プロジェクトを実施する能力が強化された。 ・タイの研修機関が農業や保健などの分野で地域レベルでの拠点の役割を果たすようになった。		● TICA 事務所/研修実施機関インタビュー
妥当性サブレーティング: (1)気候変動という新しい課題に最新の技術で対応、(2)地域としての関連性も明確、(3)タイ側と日本側で役割分担が考慮されており、サブレーティングは④と判断した。 整合性サブレーティング: (1)日本の政策、(2)日本側の事業・機関との連携、(3)タイの政策とも整合性を確保しており、サブレーティングは④と判断する。 妥当性・整合性レーティング: 上記より、妥当性・整合性のレーティングを④(非常に高い)と評価する。				
有効性	アウトカムの内容 ● 研修参加時に立てた目標は達成されたか 研修員は研修内容を習得したか ★ 特に他の参加国や他コースの模範・参考になる成功事例が生まれたか(事例数は問わない)	<アウトプットレベル> ● 参加実績:20名の研修員枠に対して17名の参加を得ており十分と言える。ただし、東チモールからの参加予定者3名が最終的に不参加となった点に注意を要する。理由は、必要書類の提出が間に合わなかったためとされるが、JICAとTICAの対応及びそのスピードに懸念が表明されている。 ● 修了証の実績:17名全員が無事に研修コースを修了して修了証を授与された。今回の研修生事後サーベイの回答者(n=7)でも100%が修了証の取得を報告しており、高い有効性を示している。 <初期的アウトカムレベル> ● 分野知識・技術の習得:帰国研修員サーベイの回答の平均値 3.1 で「ある程度の進捗があった」(progressed by some degree)を上	このTCTPコースは2024年度に初めて実施されたコースである。事前段階のアウトカム指標は研修員ゼロということ、事後段階では着実な帰国研修員の育成とということになる。その際の要因はTCTP研修の実施であ	● 帰国研修員サーベイ ● 研修実施機関インタビュー

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 ／判断	情報源
		回った。項目別では以下のとおりであった(n=7) - Raw Water source management (水管理) 3.1 - Water management & quality (水管理と質) 3.1 - Network management (ネットワーク管理) 3.3 - Digital transformation (デジタル移行) 3.1 - Knowledge & innovation mngmt (知識革新管理) 2.9 - Non-revenue water management (非収入水管理) 3.0 ● 一般的知識・技術の習得: 帰国研修員サーベイの回答の平均値は2.8で「ある程度進捗があった」(progressed by some degree)をわずかに下回った。戦略策定、プログラム・プロジェクト開発、人材配置・研修、予算策定、一般管理・執行、個別事業のリーダーシップ、組織全体(省庁)におけるリーダーシップの回答平均値が 2.7~2.9 であった一方、組織内外の人々のネットワーキングが 3.1 で最も高かった。 ● 分野知識・技術の習得に比べて、マネジメント系の一般知識・技術の習得はやや低い評価となった。これはそもそも本研修が、水管理の管理という技術的な知識の習得に焦点を当てているので当然とも言える。	る。	
	研修の満足度 ● 研修内容にどの程度満足したか	● 帰国研修員サーベイによると、回答の平均値 3.4 で「大変満足」と「ある程度の満足」の中間の満足度であり、これは総じて高い満足度を示していると言える。個別の回答平均は以下のとおりであった。研修施設等(移動、宿泊施設、食事)が最も高く(3.6)、研修後のフォローアップ・支援に課題があるようである(3.0) - 講師の知識・技術 3.4 - 研修の内容 3.1 - 研修の方法 3.4 - 研修施設等(移動・宿泊施設・食事) 3.6 - 研修の期間 3.1 - 研修後のフォローアップ・支援 3.0	要因として研修施設等(移動、宿泊施設、食事)の満足度が大きかったことがあげられる。	● 帰国研修員サーベイ ● 研修実施機関インタビュー
	因果関係 ● 目標達成にどのような点が貢献/阻害要因となったか	研修の内容が水管理全般に及びその中でもAIなどデジタル技術の利用の研修があることは一般に好評のようだが、それに加えて、研修施設等の評価が際立って高いことが、コース全体の高評価につながっていると言える。		

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 ／判断	情報源
インパクト	発現の見込み／因果関係 ● 事業実施の結果としてインパクトの発現が見られるか、あるいは見込まれるか ★ 特に他の参加国や他コースの模範・参考になる成功事例が生まれたか(事例数は問わない) ● アウトカムからインパクトに至るまでの外部条件は適切に認識されているか。外部条件が満たされる可能性は高いか ● インパクト発現を阻害する要因はあるか ● プラスの影響が想定されるか？マイナスの影響についてはそれを軽減するための対策は取られているか ● 日本へのインパクト発現が見込まれるか ● タイへのインパクト発現が見込まれるか ● 対象国へのインパクト発現が見込まれるか	<中間アウトカムレベル> ● 帰国研修員サーベイによると、回答者全員が習得した知識・技術を帰国後に仕事に適用していると回答している(100%)、極めて高い適用の度合いと言える。 ● ではどのように適用しているかに関しては、帰国研修員サーベイによると、「同僚と共有した」が最も高く(86.5%)、次いで「より良い意思決定に使用した」と「新しい戦略や仕事の仕方を開発した」が 57.1%で続いた一方で、「管理者や上司に変化を即した」(42.9%)、「内外で講師を務めた」(28.6%)であり、「新しいツールや製品やサービスを開発した」(0%)であった。新しい技術である AI の利用やスマホによる水質検査などは、帰国後すぐには適用は難しいと思われる。 ● 帰国研修員サーベイによると「Action Plan は実行されたか？」という質問に対しては 42.9%が「わからない／回答したくない」と回答している。研修実施機関インタビューによると、2024-25 年の研修実施の後、2026 年に特定の国でフォローアップセッションを実施することが計画されており、研修実施機関もそこで実施状況を確認するとしている。 <最終アウトカムレベル> ● 帰国研修員サーベイによると、「良い協働:ビジネスパーソンや地元の人たちとも協働の実現」と回答した率が 66%で最も高く、次いで「新しいアイデア:得られた知識を利用して新アイデアを形成および主導」(同 50%)と「生産性の向上:仕事の改善」(同 50%)と続いている。が 50%で続いている。ただし、「サクセスケース」と呼べる具体的な事例は報告されなかった。 <追加:個人レベルの昇進> ● 帰国研修員サーベイによると、回答者 7 名のうち、2 名が 1 等級以上の昇進を経験した一方で、4 名が変化なし(研修参加前と同じレベル)と回答している。昇進した 2 名は TCTP 研修への参加が大きな貢献となったと回答している。	得られた知識が AI を含むデジタル技術であり、今後長期的なニーズが見込まれる技術であることが、インパクト発現の要因としてあげられる。	● 帰国研修員サーベイ ● 研修実施機関インタビュー

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析／判断	情報源
	その他インパクト ●（研修実施機関やインストラクターに与えたインパクトの有無など）	● 研修実施機関のインタビュー結果によると、TCTP の実施によって、プロフェッショナルなネットワークを構築することができたという回答があった。WHA グループ(タイの物流と産業施設の供給会社)や Yokogawa Co.,Ltd. (サブコントラクター)、タイにおける AI やビッグデータのリーディング会社などと協力関係を築けたことがあげられる。これらのネットワークを利用して、研修生に水管理分野の全体像を解説することができるようになったとのこと。		● 研修実施機関インタビュー
本事業の実施により、アウトプットはおおむね計画通りに達成され、プロジェクト目標である研修員の知識獲得もおおむね達成され、多くの帰国研修員がそれらの知識の同僚との共有や自身の業務への適用を図っているものの、アクションプランの実施状況の回答などから上位目標の発現の見込みは中程度である。以上より、有効性・インパクトのレーティングは③(高い)と判断する。				
効率性	事業計画 ● アウトプットを産出するために必要な量・質の投入が計画されていたか	● 上記のとおり、20 名の枠に対して研修員の参加人数は 17 名にとどまった。 ● Summary of TCTP によると、当初計画と実績は以下のとおりであった。当初計画どおりに支出されたことが確認できた。 JICA TICA 計画値((%)) 867,000(52.60%) 780,353 (47.40%) 実績値((%)) 616,075 (53.50%) 535, 429 (46.50%) 執行率(計画値対実績値)は、JICA (71.58%)、TICA(68.61%)で、全体は69.90%と計算される。この差は、東チモールからの研修員3名の参加が最終的に見送りになったことが一番の要因である。	予算と実績の差異は、東チモールからの研修員(3名)の参加が最終的に見送りになったことが大きな要因である。	● G I、Letter of Payment, Letter Budget、Summary of TCTP などの提供資料
	期間、タイミング ● 事業期間は事業計画に見合った設定となっていたか(事業の完了は計画以内であったか) ● 前提条件、インプットのタイミング・方法(調達方法を含む)は適切に計画されていたか。 ● JICA/TICA がそれぞれ実施している他の研修事業と比較して、アウトプットに照らした投入の内容・方法について優位性があるか。	事業期間:十分な準備期間を取り、計画通りに実施された。ただし課題あり。 タイミング・方法について ● 本コースでは 3 年次にフォローアップセッションが組み込まれており、全体としてアウトプットの質を高める投入の工夫がなされているといえる。		● 研修実施機関インタビュー ● 実施機関が作成した Evaluation Report
効率性 レーティング: 研修参加者が当初計画通りに満たなかった部分があるものの、計画されたアウトプット(提供した研修の修了)はほぼ達成された。上記より、効率性のレーティングは③(高い)と判断する。				

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析／判断	情報源
持続性	体制面 ● ネットワークは構築されているか(帰国研修員と JICA・TICA や研修講師とのネットワーク等) ● 帰国研修員同士のネットワークは構築されているか	● 帰国研修員サーベイの結果を見ると、同じ国からの帰国研修生同士とのコミュニケーションが最も頻繁に行われている。コミュニケーション手段はオンラインや対面が主流。コミュニケーションの主な目的は、新しいアイデアの交換であった。	AIを含むデジタル技術による持続的水管理のニーズは今後も増大することはあっても減ることはないだろうことが持続性の要因となる。	● 帰国研修員サーベイ
	財政面 ● 研修の効果の持続性の観点から、予算措置は十分に講じられているか	● 帰国研修員サーベイでは、資金面での問題に関するコメントはなかったが、これは、AI やスマホによる水質測定など新しい技術の適用がそもそも実現していないことが要因と考えられる。		● 帰国研修員サーベイ
	技術面 ● 研修に伴い導入される技術は研修員やその所属先により受容され、継続的に実行されうるものか	● フォローアップ研修の要望のコメントがあったが、特定国について3年次に研修員へのフォローアップセッションが計画されている。 ● 一方で、社会経済的な効果を把握するには、帰国後のフォローアップが必要という指摘があった。3年間の研修が終わるまでにフォローアップシステムの構築が期待される。		● 帰国研修員サーベイ ● 実施機関インタビュー
	アクションプラン ● アクションプランを作成した研修員は、それを実施・継続しているか	、最終的なアクションプランはまだ作成されていない。ただし、同じ国から派遣される研修員同士のコミュニケーションは頻繁であり、それがアクションプランの実行に貢献すると見込まれる。		● 帰国研修員サーベイ ● TICAインタビュー結果
	促進/阻害要因 ● 研修の成果を持続・波及するにあたってどのような点が促進／阻害要因となったか	促進要因としては、AI などデジタル技術による持続的な水管理というこれからの時代に合ったテーマだったことがあげられる。AIやビッグデータの利用などの新技術の利用は、ASEAN 各国の水分野で今後ますますニーズが高まっていくであろう。そのニーズを先取りしてコースとして仕上げて提供したことは称賛に値する。 阻害要因としては、これらの技術がまだまだ新しくASEAN各国が自力で使いこなすほどのキャパシティがないと思われることがまず挙げられる(ただし将来的に必須になっていくことは確実とも思われる)。さらに、MWAとTICAのコミュニケーションに若干の制約があったことも指摘されねばならない。		● TICAインタビュー結果
持続性レーティング: 帰国研修員の間でネットワークが形成されている。また、2年間の研修終了後に、フォローアップ研修が計画されており、体制面・技術面での持続性を高めている。フォローアップ研修後の資金面や技術面での持続性については、現段階では判断ができない。したがって、持続性は③(高い)と判断する。				

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 ／判断	情報源
総合評価結果： 以上より、本コースの「妥当性・整合性」は非常に高く(④)、「有効性・インパクト」は高く(③)、「効率性」は高く(③)、「持続性」は高い(③)。帰国研修員の知識活用に関する多数の成功事例が見られるが、組織レベルでの活用継続が大いに見込まれる事例は確認されなかった。よって、総合レーティングは A(非常に高い)と評価する。				

教訓:

1. MWAとTICAのコミュニケーションに制約があることが指摘できる。TICAスタッフが常に忙しいため、MWSからの打診に対してタイムリーに回答できなかったことがあり、その結果、東ティモールからの研修員(3名)の参加が実現しなかった。東ティモールはASEANの正式加盟国となったので、他のASEAN加盟国と同様の取り扱いをすることが重要である。
2. デジタル技術の活用という新しいTCTPコースであり、今後のTCTPのモデルケースになるであろう。デジタル技術の適用ということでは、分野によっては日本よりもタイの方が進んでいる分野もあると思われ(例:顔認証による自動化サービスなど)、TICAがJICAをリードできる余地がある。
3. 研修生は様々な国から来ているため、1か国のみのフォローアップでは不十分な可能性があるため、今後のプロジェクトでは、成果をモニタリングするためのより強固なフォローアップ体制を導入する必要がある。また、フォローアップ調査の対象国を増やすことで、より包括的な情報を収集し、その後の第三国研修コースに役立てることができまる。

提言:

この TCTP 研修自体は、先進的なテーマを一つの研修に仕上げたと言え、今後も需要が高まると思われるので、今後も継続すべき。ただし、AIやビッグデータやデジタル機器(スマホによる水質測定など)を各国の状況に即して使用する個別の研修が必要という意見があり、対応の可能性が検討されるべきである。

2025 年度テーマ別評価 タイ国第三国研修に関する合同評価
コース別評価結果表

5	Emergency Medical Service (EMS) Leadership and Management Training Course for Regional Training for Pre-Hospital Emergency Care in CLMV
---	---

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
妥当性	(1) 開発政策との整合性 ● 研修内容は相手国の開発政策及び開発計画との整合性はあるか(国・地域・セクター等の各レベル)	● 2004 年、インドネシアのスマトラ沖で発生した巨大地震と未曾有の被害を契機に、東南 アジア諸国連合(ASEAN)は、域内の防災及び災害対応強化のため、地域を挙げた取り組みを開始した。2005 年に「ASEAN 防災・緊急対応協定」が合意され、2011 年には ASEAN 防災人道支援調整センターが設立された。さらに、2013 年に「防災協力強化にかかる ASEAN 宣言」、2016 年に ASEAN 宣言「One ASEAN, One Response: ASEAN Responding to Disasters as One」が採択されるなど、効果的な災害対応に向けた域内連携を強化している。	ASEAN 位置内協力枠組みとの整合性が認められる。	● ARCH プロジェクト事前評価表
	(2) 開発ニーズとの整合性 ● 研修は相手国のターゲットグループのニーズに合致していたか	● CLMV 諸国では、救急医療の現場を担う医療技術者が不足しており、限られた訓練を受けた人材によってプレホスピタルケアが提供されているのが現状である。こうした状況を踏まえ、JICA とタイ政府は 2016 年に「ASEAN 地域における災害保健管理能力強化プロジェクト(ARCH Project)」を開始し、EMS における能力格差の是正と人材育成を通じた体制強化を図った。国家救急医療研究所(NIEM)は、10 年以上にわたり国内外の関係機関と連携してプレホスピタルケア研修を実施しており、本研修は、基本的な EMS 知識と指導力を有する人材を育成し、各国における EMS 体制の中核的担手の育成を目指している。(RD より) ● NIEM は各対象国のニーズを把握するために基本調査(Basic Survey)を参照している。この基本調査は、おそらく 2015 年頃に JICA と NIEM により実施され、ASEAN 諸国における災害時の緊急医療課題のギャップを明らかにした。この結果、ARCH プロジェクトが開始されました。当時の JICA タイ事務所所長で ARCH の専門家である池田氏と、ARCH スタッフとして採用された Dangfun 氏は、ARCH プロジェクトと並行して CLMV 諸国を対象とした EMS 研修(TCTP)を計画した。	本研修は、CLMV 諸国における救急医療人材の不足という課題を踏まえ、各国の緊急医療体制強化に対する明確なニーズに基づいて企画されたものであり、相手国の開発ニーズと整合していた。	● R/D ● 研修実施機関インタビュー

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源										
		(NIEM ヒアリングメモ)												
	(3) 手段としての適切性 ● 研修員のニーズに対して研修内容は妥当であったか ● 効果的な研修内容となるように日本側とタイ側の投入の役割分担が行われていたか。 ● アウトカム／事業目的の達成につながるようにインプット、アウトプットのロジックが適切に計画されていたか。	● 「研修内容は業務内容とどの程度整合していたか(Ex-trainee survey Question 1e)」という質問に対しては、3名の回答者すべてが「整合していた」と回答した。(研修員向け google survey より) ● RD等を基に評価者が作成したロジックは下表のとおり。参加者がEMS研修コースを修了し、指導者として必要な知識と技能を習得することを通じて、参加者が自国で研修を展開し、CLMV諸国全体でのEMSの普及と定着を促進し、ひいては地域間の連携と協力の強化を目指した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>Output =></th><th>Initial Outcome =></th><th>Intermed.Outcome =></th><th>Final Outcome =></th><th>(Further)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Participants completed the training course with certificates.</td><td>Participants acquire EMS knowledge and the necessary skills to become instructors.</td><td>Participants conduct EMS training as instructors.</td><td>EMS training is becoming widely adopted in each CLMV country. Regional collaboration among these countries is strengthened.</td><td>A reliable EMS system is established in the CLMV countries, strengthening the healthcare sector across the region.</td></tr> </tbody> </table>	Output =>	Initial Outcome =>	Intermed.Outcome =>	Final Outcome =>	(Further)	Participants completed the training course with certificates.	Participants acquire EMS knowledge and the necessary skills to become instructors.	Participants conduct EMS training as instructors.	EMS training is becoming widely adopted in each CLMV country. Regional collaboration among these countries is strengthened.	A reliable EMS system is established in the CLMV countries, strengthening the healthcare sector across the region.	研修内容が自身の業務と整合していたと回答していることから、研修の実施手段(講義・実習・教材構成・対象者選定など)は概ね適切であったと考えられる。ただし、回答者数が限られている点には留意が必要である。	● Annual Eval. Report ● 送出し機関サーベイ ● TICA/JICA 事務所/研修実施機関インタビュー
Output =>	Initial Outcome =>	Intermed.Outcome =>	Final Outcome =>	(Further)										
Participants completed the training course with certificates.	Participants acquire EMS knowledge and the necessary skills to become instructors.	Participants conduct EMS training as instructors.	EMS training is becoming widely adopted in each CLMV country. Regional collaboration among these countries is strengthened.	A reliable EMS system is established in the CLMV countries, strengthening the healthcare sector across the region.										
整合性	(1) 日本の援助政策との整合性 ● 日本の援助政策・外務省の国別援助方針との整合性はあるか	● 「対タイ王国 国別開発協力方針」では、ASEAN・メコン地域及び国際社会の課題に関するタイとの協議を通じて、両国が連携すべき第三国協力案件を展開することが明記されており、その主要なスキームとして第三国研修が掲げられている。 ● タイと日本は1994年に立ち上げられた日タイ間の第三国協力の枠組みである日タイ・パートナーシッププログラム(JTPP)(現在はフェーズ3)の下で、JICA及びTICAとの間でASEAN諸国等第三国に対する研修を実施することになっている。 ● 2013年日ASEAN特別首脳会議で採択された「日ASEAN友好協力に関するビジョン・ステートメント」において、「貧困を撲滅し、気候変動、災害、都市化及び高齢化社会に起因する問題に対処するために協力を強化する」ことを通じて、人材育成を促進し、社会経済及び環境問題を克服することに貢献することを表明している。	ASEAN諸国における第三国研修の実施は日本の援助政策及び外交方針と一致している。	● R/D ● 対タイ国別開発協力方針 ● ARCH プロジェクト事前評価表										

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
	(2) JICA 内外の事業・機関との連携 ● JICA の他事業や日本、他の開発協力機関等との連携は行われたか	● JICA は、TCTP コースに対して資金および専門家を提供。例えば、EMS 専門家である田中英治教授(当初、招聘費用は含まれていなかったため、NIEM が自費で負担)。(NIEM ヒアリングメモ)	具体的な連携は報告されなかった。	● 実施機関インタビュー
	(3) タイの援助政策との整合性 ● タイの援助政策・方針との整合性はあるか	● 「日本の援助政策との整合性」で記載のとおり、JTPP の枠組みのもので TCTP は実施されている。 ● TICA のミッションは「タイの外交政策および『足るを知る経済(SEP)』に基づく開発協力の推進」であり、その目的の一つとして「タイを新興ドナーとしての地位を強化するとともに、持続可能な開発に関する学習とベストプラクティス共有の拠点としての役割を強化する」ことが掲げられている。TCTP は、こうしたミッションおよび目的の下で実施されていると考えられる。	TCTP は、タイと日本の協力枠組みの一環として実施されており、タイの外交政策とも整合している。	● TICA ウェブサイト
妥当性サブレーティング: 手段としての適切性においてはタイ側と日本側で役割分担が考慮されており、サブレーティングは④と判断した。 整合性サブレーティング: (1)及び(3)で整合している一方で、(2)JICA 内外の事業との直接的な連携は認められないため、サブレーティングは③と判断する。 妥当性・整合性レーティング: 上記より、妥当性・整合性のレーティングを④と評価する。				
有効性	アウトカムの内容 ● 研修参加時に立てた目標は達成されたか。研修員は研修内容を習得したか	● 「修了証」は 3 名の回答者すべてが取得した(Ex-trainee survey Question 1b)。 ● 「研修を通じた知識・スキルの向上度合い」及び「一般スキル」に対しては、全体として「ある程度進展した」と回答した。(Ex-trainee survey Question 1c,1d) ● 研修員のコース成果は、コース終了後の評価を通じて測定しており、研修員が得た知識や習得した自信といった統計的な結果が明らかになっている。(NIEM ヒアリングメモ) ● NIEM が研修後に実施したアンケート調査によると、参加者は研修を通じて知識と技能を習得した。講義時間や期間の配分、実践的演習の充実などは改善が必要と回答した。	修了証の取得および自己評価結果から、参加者は一定の知識と技能を習得したと考えられる。	● Annual Eval. Report ● 追跡サーベイ ● 研修実施機関インタビュー
	研修の満足度 ● 研修内容にどの程度満足したか	● 研修の満足度に関し、「講師の知識とスキル」「研修内容」「研修施設」については3名の回答者すべてが「非常に満足」と回答した。研修全体への満足度については、「概ね満足」という結果であった。(Ex-trainee survey Question 1d) ● 研修員の満足度を見ると、いずれの年度においても研修内容や教材に対して高い評価が示されている。	全体として高い満足度が示された。	● 追跡サーベイ
	因果関係 ● 目標達成にどのような点が貢献/阻害	コース成果の達成に寄与する主な要因は、講師。講師は、日本、台湾、タイなどの国から参加する EMS 分野の第一線の医師や講師であり、	十分な専門知識を有した講師の配置が貢献	研修実施機関インタビュー

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源									
	要因となったか	通常では受講が困難なコースを TCTP では研修員が体験できる貴重な機会として提供している。(NIEM ヒアリングメモ)	要因となっている。阻害要因については報告されなかった。										
インパクト	発現の見込み／因果関係 ● 事業実施の結果としてインパクトの発現が見られるか、あるいは見込まれるか ★ 特に他の参加国や他コースの模範・参考になる成功事例が生まれたか(事例数は問わない) ● アウトカムからインパクトに至るまでの外部条件は適切に認識されているか。外部条件が満たされる可能性は高いか ● インパクト発現を阻害する要因はあるか ● プラスの影響が想定されるか？マイナスの影響についてはそれを軽減するための対策は取られているか ● 日本へのインパクト発現が見込まれるか ● タイへのインパクト発現が見込まれるか ● 対象国へのインパクト発現が見込まれるか	● 「帰国後に研修からの学びを活用したか」という質問に対し、3名の回答者すべてが「活用した」と回答した。具体的には、「同僚に共有」「新しいツールの開発」「新規戦略の策定」が挙げられた。(Ex-trainee survey Question 1g,1h) ● 「研修参加後、昇進したか、という質問に対しては、2名が「変更なし」1名が「昇進」と回答し、昇進に対しては TCTP 参加による貢献があったと回答した。(Ex-trainee survey Question 4a,4b) ● 成功事例:初回コース終了後には、一部の元研修員が第 2 回コースに戻って参加したり、Pre-Hospital Trauma Life Support (PHTLS)研修のような専門コースを友人や同僚に推薦してくれることがあった。PHTLS は高度に専門化されたコースで、タイではプラモンクットクラオ病院と連携して一部の機関のみが TCTP 研修員向けに提供している。研修費用は 1 名あたり約 1 万バーツで、修了すると修了証が発行される。さらに、元研修員は受講したコースを評価・比較することができ(例:あるコースの方が別のコースより良かったと指摘)、研修内容を真に理解して学んでいることがうかがえる。(NIEM ヒアリングメモ)	研修終了後、全員が学んだ知識・スキルを職場で活用した。また、TCTP 参加が昇進の一因となったケースも報告された。ただし、体系的なフォローアップが実施されていないため、全体的な傾向や持続的な効果を把握するには限界がある。	● 追跡サーベイ									
	その他インパクト (研修実施機関やインストラクターに与えたインパクトの有無など)	● TCTP への参加により、NIEM は看護や医療分野のネットワーク構築能力を強化している。(NIEM ヒアリングメモ)	研修実施機関のネットワーク強化に貢献した。	実施機関インタビュー									
有効性・インパクトレーティング: 本研修は、修了証の取得状況や自己評価結果、ならびに高い満足度から、参加者が一定の知識・技能を確実に習得した点で有効性が認められる。また、全員が帰国後に学びを職場で活用し、昇進への貢献や研修実施機関(NIEM)のネットワーク強化といった波及効果も確認されていることから、一定のインパクトが生じていると評価できるが、体系的なフォローアップが行われておらず、帰国研修員の回答率も低く、情報も限定的である。以上より、有効性・インパクトのレーティングは③(高い)とする。													
効率性	事業計画 ● アウトプットを産出するために必要な量・質の投入が計画されていたか	● 参加人数については、RD では最大24としていたが、実績は以下のとおり各年 16～20名であった。 <table><tr><th></th><th>Plan (RD)</th><th>Actual</th></tr><tr><td>2023(1)</td><td>24 persons</td><td>16 persons</td></tr><tr><td>2023(2)</td><td>24 persons</td><td>16 persons</td></tr></table>		Plan (RD)	Actual	2023(1)	24 persons	16 persons	2023(2)	24 persons	16 persons	参加人数は計画を下回った。予算については実績が入手できなかった。	● R/D ● Annual Eval. Report
	Plan (RD)	Actual											
2023(1)	24 persons	16 persons											
2023(2)	24 persons	16 persons											

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源																				
		<table><tr><td>2024</td><td>24 persons</td><td>20 persons</td></tr></table> ● 予算の計画/実績の比較 RD に記載された計画は以下のとおり。実績については現時点では入手できていない。 <table><tr><td></td><td></td><th>Plan(RD)</th><th>Actual</th></tr><tr><td rowspan="4">Total</td><td>JICA</td><td>2,220,700</td><td>To be confirmed</td></tr><tr><td>TICA</td><td>2,041,880</td><td>To be confirmed</td></tr><tr><td>APCD</td><td>113,000</td><td>To be confirmed</td></tr><tr><td>Total</td><td>THB4,375,580</td><td>To be confirmed</td></tr></table>	2024	24 persons	20 persons			Plan(RD)	Actual	Total	JICA	2,220,700	To be confirmed	TICA	2,041,880	To be confirmed	APCD	113,000	To be confirmed	Total	THB4,375,580	To be confirmed		
2024	24 persons	20 persons																						
		Plan(RD)	Actual																					
Total	JICA	2,220,700	To be confirmed																					
	TICA	2,041,880	To be confirmed																					
	APCD	113,000	To be confirmed																					
	Total	THB4,375,580	To be confirmed																					
期間、タイミング	● 事業期間は事業計画に見合った設定となっていたか(事業の完了は計画以内であったか) ● 前提条件、インプットのタイミング・方法(調達方法を含む)は適切に計画されていたか。 ● JICA/TICA がそれぞれ実施している他の研修事業と比較して、アウトプットに照らした投入の内容・方法について優位性があるか。	● 実施期間について、計画:2022-2024 年(3 年間)に対し、実績:2023-2024 年の間に予定どおり3回実施された。RD では、各年4日間の実地(オンサイト)研修が計画されており、実績は4～16日の実地研修が行われた。 <table><tr><th>Plan (RD)</th><th>Actual</th></tr><tr><td rowspan="3">Approximately 4 days each year during JFY2022-2024, on-site</td><td>4days_ 8-11 May 2023(exclusive of travelling dates); On-site</td></tr><tr><td>16 days_ 4-24 February 2024 (exclusive of travelling dates); On-site</td></tr><tr><td>10 days_ 16-27 September 2024 (exclusive of travelling dates); On-site</td></tr></table>	Plan (RD)	Actual	Approximately 4 days each year during JFY2022-2024, on-site	4days_ 8-11 May 2023(exclusive of travelling dates); On-site	16 days_ 4-24 February 2024 (exclusive of travelling dates); On-site	10 days_ 16-27 September 2024 (exclusive of travelling dates); On-site	実施回数については計画どおりであり、研修期間については計画より長い期間で実施された。	● R/D ● Annual Eval. Report														
Plan (RD)	Actual																							
Approximately 4 days each year during JFY2022-2024, on-site	4days_ 8-11 May 2023(exclusive of travelling dates); On-site																							
	16 days_ 4-24 February 2024 (exclusive of travelling dates); On-site																							
	10 days_ 16-27 September 2024 (exclusive of travelling dates); On-site																							
実施プロセス		以下、NIEM ヒアリングメモ ● 各国のタイ大使館を通じた外交ルートで候補者に連絡を取るため、適格または対象となる研修員に到達するのは困難かつ時間を要する場合がある。 ● TICA および JICA からの財政支援は、TICA の財務規則(財務省の規則を含む)に従っているが、NIEM は政府機関や国営企業ではなく法人格を有する国家機関であるため、こうした規則のもとで JICA や TICA の予算を管理することは職員にとって困難であった。特に、TICA に対して具体的なガイドラインの提供を要請したものの、提示されなかった。 ● TCTP は国際協力の取り組みであるため、英語でのコミュニケーションが必須であり、これが職員にとって大きな負担となった。初回コースでは、他部局の職員を参加させることに大変苦労した。その後のコースでは、当初から積極的に働きかけ、説得する必要があった。 ● NIEM の講師は、財務面の管理を自ら担当しなければならな	NIEM からは、研修員選定の調整プロセスや財務管理、英語でのコミュニケーション、関係機関間の調整などの面で課題が報告された。																					

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
		ったため、他の講師との円滑なコミュニケーションが困難となり、TICA/JICA から講師への支援内容についても把握できていなかった。 TCTP のコンセプト自体は優れているが、その手続きはしばしば複雑で時間がかかる。例えば、一般情報(GI)や財務準備に関する明確なガイドラインがない。プロジェクト開始前に、JICA、TICA、NIEM が集まり、ガイドラインに関する共通理解を確認・共有する機会があれば有益だろう。(NIEM ヒアリングメモ)		
効率性 レーティング: 本研修は、参加人数が計画を下回り、また予算実績データが入手できなかったため、効率性の定量的な検証には制約があった。一方、実施回数は計画どおり確保され、研修期間も計画以上に設定されたが、研修員選定の調整、財務管理、英語でのコミュニケーション、関係機関間の調整といった運営面での課題が指摘された。以上より、効率性のレーティングは②(やや低い)と判断する。				
持続性	体制面 - ネットワークは構築されているか(帰国研修員と JICA・TICA や研修講師とのネットワーク等) - 帰国研修員同士のネットワークは構築されているか	3名の回答者のうち3名が「タイの講師」と「同国の研修員」との定期的なコミュニケーションを図っていると回答した。(Ex-trainee survey Question 3a)	-回答者が少ないため帰国後のネットワークについては詳細不明である。	●
	財政面 研修の効果の持続性の観点から、予算措置は十分に講じられているか	● 特になし	-	
	技術面 研修に伴い導入される技術は研修員やその所属先により受容され、継続的に実行されるものか	● 特になし	-	
	アクションプラン アクションプランを作成した研修員は、それを実施・継続しているか	- コース終了後のフォローアップの仕組みがないため、NIEM は研修員が自国でアクションプランを実施したかどうかを確認することはできない。(NIEM ヒアリングメモ) 「アクションプランを実践したか」という質問に対し、2 名が「実践した」1名は「分からない」と回答した。帰国後、国内で研修を実施したというコメントが挙げられた。(Ex-trainee survey Question 1i)	体系的なフォローアップが行われておらずアクションプランの実施状況については詳細不明である。	
	促進/阻害要因 研修の成果を持続・波及するにあたってどのような点が促進／阻害要因となったか	特になし	-	

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
持続性 レーティング:	結論として、少数の研修員についてはタイ人講師や同国研修員との継続的なコミュニケーションが確認されたものの、回答者数が限られているため、帰国後のネットワーク形成の実態を十分に把握することはできなかった。また、研修終了後の体系的なフォローアップの仕組みが存在しないことから、アクションプランの実施状況や研修成果の持続的活用については、得られた情報に限界があった。以上より、持続性のレーティングは暫定的に②(一部課題がある)とする。			
総合評価結果:以上より、本コースの「妥当性・整合性」は非常に高く、「有効性・インパクト」は高い。「効率性」は一部課題があり、「持続性」にも一部課題がある。よって、総合レーティングはB(高い)と評価する。				
総合レーティング: B(高い)				

教訓:

- TCTP の実施後に、研修運営上の課題や各機関間の調整に関する情報共有を行うフォローアップの場を設けることが望ましい。特に、研修運営機関(NIEM)、実施支援機関(TICA)、および JICA 間で、研修の進捗・課題・改善点を定期的に確認し合うことにより、実務上の課題を早期に特定し、次回コースへの改善につなげることが可能となる。また、コース担当者や講師に対する英語でのコミュニケーション支援・研修運営支援を含めた継続的な能力強化が有効である。
- TCTP に関わる運営および財務管理に関して、JICA・TICA・実施機関(NIEM)間で共通理解を形成するための明確なガイドラインを整備することが必要である。特に、財務処理、契約、支出管理に関する具体的な手順書や説明資料を事前に共有することで、各機関の担当者がより円滑かつ透明性の高い形で業務を遂行できるようになる。

提言:

- 特になし

2025 年度テーマ別評価 タイ国第三国研修に関する合同評価
コース別評価結果表

6	International Road Infrastructure Development for ASEAN and BIMSTEC Networks (Phase 2)
---	--

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
妥当性	(1) 開発政策との整合性 ● 研修内容は相手国の開発政策及び開発計画との整合性はあるか(国・地域・セクター等の各レベル)	● BIMSTEC (Bay of Bengal Initiative for Multi-Sectoral Technical and Economic Cooperation)は、ベンガル湾周辺の7か国(インド、バングラデシュ、スリランカ、ネパール、ブータン、ミャンマー、タイ)による経済・技術協力の枠組みで、現在、タイが主導する連結性分野を含む13セクターについて協力を進めている。 ● ASEAN では、域内の格差を是正し、ASEAN 共同体の統合深化を後押しするために、道路網などの物理的連結性及び制度的な連結性の強化を推進しており、2010 年以降、「ASEAN 連結性マスタープラン(MPAC)」を策定している。	ASEAN 及び BIMSTEC の地域レベルの政策・計画と一致している。	● ASEAN 及び BIMSTEC 政策文書
	(2) 開発ニーズとの整合性 ● 研修は相手国のターゲットグループのニーズに合致していたか	● BIMSTEC 加盟国は世界貿易の 3.8%を占め、GDP 合計の 60%を貿易から獲得している。しかし、BIMSTEC の貿易額全体のうち、地域内の貿易は 5%を占めるに過ぎない。道路ネットワークの整備は地域内の物流促進のための重要な手段であるが、インドとタイのみがアジアハイウェイのクラス 1 ネットワークを保有するなど、加盟国間で整備状況に大きな格差が存在する。(BIMSTEC Master Plan for Transport Connectivity, 2022) ● ASEAN では、MPAC 2010 で掲げていた物理的連結性を促進するインフラプロジェクトのうち、ASEAN ハイウェイネットワークの整備については著しい進捗があった。しかし、加盟各国の生活水準向上や都市化が進む中で、引き続きインフラ投資のニーズは大きく、また環境を損なわない持続可能なインフラ整備の必要性が顕著になっている。(MPAC 2025)	ASEAN 及び BIMSTEC のそれぞれの地域内で道路インフラを整備するニーズは大きく、本研修コース内容と合致している。	● ASEAN 及び BIMSTEC 政策文書
	(3) 手段としての適切性 ● 研修員のニーズに対して研修内容は妥当であったか ● 効果的な研修内容となるように日本側とタイ側の投入の役割分担が行われて	● 帰国研修員サーベイ(1.e)において、「研修内容は業務内容とどの程度整合していたか」という問いに対し、回答者の 65%が「非常に高い」、30%が「ある程度高い」と回答しており、大多数の研修員が本研修が自身の業務のニーズに合致していると認識している。 ● プログラム設計は、JICA、ITCA などとの協議を踏まえて、	本コースの帰国研修員の 95%が業務内容と高い整合性を認めている。また、研	● 帰国研修員(追跡)サーベイ ● Annual Eval.

評価項目	評価設問	確認結果					差異・要因分析 /判断	情報源										
	いたか。 ● アウトカム／事業目的の達成につながるようにインプット、アウトプットのロジックが適切に計画されていたか。	Department of Highway (DOH)が取りまとめた。講師の主体は DOH 職員が務め、テーマによってタイ運輸省、大学、民間企業から講師を招いた。第 1 バッチ、第 2 バッチでは日本人講師はいなかったが、第 3 バッチの一部セクション(トンネル機材・運用)で JICA 専門家が講師を務めた。(Terminal Evaluation Sheet (Draft)) ● 評価者が RD 等を基に作成した本コースのロジックは以下のとおり。 <table><tr><th>Output =></th><th>Initial Outcome =></th><th>Intermed.Outcome =></th><th>Final Outcome =></th><th>(Further)</th></tr><tr><td>Participants completed the training course with certificate.</td><td>Knowledge and understanding is obtained on international road networks; issues related to planning, management and maintenance of road projects; and highway and bridge design, road safety and other engineering issues.</td><td> - Gained knowledge and experiences are applied to the participant countries' road development projects. - Knowledge sharing and collaboration in international road development projects are promoted among the participant countries. </td><td>International road network development is promoted/improved in ASEAN and BIMSTEC countries.</td><td>(Mobility and economic activity in the regions become more active.)</td></tr></table>					Output =>	Initial Outcome =>	Intermed.Outcome =>	Final Outcome =>	(Further)	Participants completed the training course with certificate.	Knowledge and understanding is obtained on international road networks; issues related to planning, management and maintenance of road projects; and highway and bridge design, road safety and other engineering issues.	- Gained knowledge and experiences are applied to the participant countries' road development projects. - Knowledge sharing and collaboration in international road development projects are promoted among the participant countries.	International road network development is promoted/improved in ASEAN and BIMSTEC countries.	(Mobility and economic activity in the regions become more active.)	修内容の計画時には、必要に応じて日本側の投入が検討・実施された。各国間の連結性促進のために、各国参加者の知識共有・連携を目指すというロジックは適切であった。	Report
Output =>	Initial Outcome =>	Intermed.Outcome =>	Final Outcome =>	(Further)														
Participants completed the training course with certificate.	Knowledge and understanding is obtained on international road networks; issues related to planning, management and maintenance of road projects; and highway and bridge design, road safety and other engineering issues.	- Gained knowledge and experiences are applied to the participant countries' road development projects. - Knowledge sharing and collaboration in international road development projects are promoted among the participant countries.	International road network development is promoted/improved in ASEAN and BIMSTEC countries.	(Mobility and economic activity in the regions become more active.)														
整合性	(1) 日本の援助政策との整合性 ● 日本の援助政策・外務省の国別援助方針との整合性はあるか	「対タイ王国 国別開発協力方針」では、基本方針として、「包括的・戦略的パートナーシップに基づく現代的課題への対処及び地域開発を牽引する協力の推進」を掲げ、重点分野として、ASEAN・メコン地域における連結性強化を含む域内共通課題への対応、第三国研修の実施を挙げている。 - タイと日本は、1994 年に立ち上げられた日タイ間の第三国協力の					本コースが目指す地域の道路ネットワークを含む連結性の強化は、日本の対タイ開発協力方針及び	- 対タイ国別開発協力方針 - 対 ASEAN 協力関連文書										

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
		枠組みである日タイ・パートナーシッププログラム(JTPP)(現在はフェーズ 3)の下で、JICA 及び TICA との間で ASEAN 諸国等第三国に対する研修を実施することになっている。 ● 日本は BIMSTEC 及び ASEAN の加盟メンバーではないが、「自由で開かれたインド太平洋(FOIP)」の実現に向けた取り組みの一環としてインド洋と太平洋にまたがる連結性の実現を重視しており、両組織の取り組みを二国間 ODA 等を通じて支援している。ASEAN との間では、「日 ASEAN 包括的連結性イニシアティブ」を通じて ASEAN への支援を継続している。	BIMSTEC 並びに ASEAN に対する支援方針の両者と整合している。	
	(2) JICA 内外の事業・機関との連携 ● JICA の他事業や日本、他の開発協力機関等との連携は行われたか	● 本コースの実施と直接連携している他の事業は下記を除き確認されなかった。 ● DOH では、本コースの実施以前に、2017-19 年に同コース(フェーズ 1)を実施した。また、本コースと並行して、2024 年から Road Asset Management (RAM) に係る TCTP コースが DOH により実施されている。両コースともに ASEAN と BIMSTEC 地域を対象としつつ、本コースは道路のインフラ整備に、RAM コースは道路資産の維持管理に焦点を当てており、内容面での補完を意図している。(DOH ヒアリングより)	同時期に実施中の別の TCTP コースとの連携を意図して研修内容が計画されている。	● 研修実施機関インタビュー
	(3) タイの援助政策との整合性 ● タイの援助政策・方針との整合性はあるか	● 「日本の援助政策との整合性」で記載のとおり、JTPP の枠組みの下で TCTP は実施されている。 ● TICA はミッションとして、タイの外交政策及び「足るを知る経済(SEP)」に基づく開発協力を推進し、外国、特に近隣諸国との良好な関係を築くことを掲げている。また、目的の一つとして、タイの新興ドナーとしての地位とともに、持続可能な開発に関する学びとベストプラクティス共有の拠点としての役割を強化することを挙げている。 ● タイは ASEAN 及び BIMSTEC の両者の正式加盟国であり、両者が掲げる連結性強化を推進している。	TCTP はタイと日本の協力枠組み及びタイの外交・開発協力政策と整合している。本コースの内容もタイの政策と整合している。	● TICA ウェブサイト ● ASEAN 及び BIMSTEC 政策文書
妥当性サブレーティング: 手段としての適切性においてはタイ側と日本側で役割分担が考慮されており、サブレーティングは④と判断した。 整合性サブレーティング: (1)及び(3)で整合しており、(2)では本コースとの連携を想定した他 TCTP コースが実施されている。以上よりサブレーティングは④と判断する。 妥当性・整合性レーティング: 上記より、妥当性・整合性のレーティングを④と評価する。				
有効性	アウトカムの内容 ● 研修参加時に立てた目標は達成された	● 本コースでは各科目の終了直後に達成度確認テストが実施された。各テストの合格基準点は 60 点であった。全バッチの全研修員がそ	本コース受講後の研修員の知識	● Terminal Evaluation

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
	か 研修員は研修内容を習得したか	の基準点を超える結果であった。(Terminal Evaluation Sheet (Draft)) ● 「修了証」(帰国研修員サーベイ 1.b)に関して全回答者(100%)が獲得したと答えている。 ● 「研修を通じた知識・スキルの向上度合い」(帰国研修員サーベイ 1.c)に関して、「道路整備プロジェクトの管理」「国際道路ネットワーク整備と管理システム」「道路交通安全」「道路プロジェクト計画」の各テーマについて、9 割以上の帰国研修員が非常にあるいはある程度向上した、と高く評価した。 ● 「一般的知識・スキルの向上度合い」(帰国研修員サーベイ 1.d)に関して、全般的に高い評価であり、「プログラム／プロジェクト開発」「運営管理・実施」「リーダーシップ」「ネットワーキング」「戦略策定」の各項目で 9 割以上の帰国研修員が非常にあるいはある程度向上した、と回答した。	習得度、及び帰国研修員自身の知識・スキル向上の評価の点から研修目標(初期アウトカム)は達成されたと判断される。	Sheet (Draft) ● 追跡サーベイ
	研修の満足度 ● 研修内容にどの程度満足したか	● 帰国研修員サーベイ 1.f より、「講師の知識とスキル」「研修内容」「研修方法(講義・グループ討議・OJT など)」において特に満足度が高く、次いで「研修施設・運営(移動手段、宿泊、食事)」「研修の長さ」の評価が平均的に高かった。一方、「研修後のフォロー・サポート」については、約 35%の回答者があまりあるいは全く満足しなかった、と答えた。研修員サーベイの自由回答からも、帰国後のフォローアップ支援がないことを指摘するコメントが複数あった。 ● その他に特筆すべきコメントとして、研修会場の近くにハラルフードを提供する店がないために昼食時に不便が生じたことや、研修会場とホテルの距離が遠かったなど、運営面での指摘が見られた。	全般的に帰国研修員は高い満足度を示した。一方、何らかのフォローアップ支援を期待する帰国研修員が一定割合いることが示されている。	● 追跡サーベイ
	因果関係 ● 目標達成にどのような点が貢献/阻害要因となったか	● 研修実施機関では主要な貢献要因として、カリキュラム、講師、参加者の意欲の 3 つを挙げている。第一に、カリキュラムは研修プログラムの目的と参加者のニーズに基づき、学習者中心の視点に立って設計された。第二に、専門知識を持つ有能な講師が複雑な概念や難しい理論を分解し、理解しやすく学習効率を高める簡潔な形で伝えた。第三に、本コースでは、多数の関心を持つ応募者が確認され、実際に参加者たちは研修期間を通じて強い関心を示していた。(Terminal Evaluation Sheet (Draft))		● 研修実施機関インタビュー ● Evaluation Report
インパクト	発現の見込み／因果関係	● 「帰国後に研修からの学びを活用したか」(帰国研修員サーベイ 1.g)	知識・スキルの習	● 送出し機関サ

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
	● 事業実施の結果としてインパクトの発現が見られるか、あるいは見込まれるか ★ 特に他の参加国や他コースの模範・参考になる成功事例が生まれたか(事例数は問わない) ● アウトカムからインパクトに至るまでの外部条件は適切に認識されているか。外部条件が満たされる可能性は高いか ● インパクト発現を阻害する要因はあるか ● プラスの影響が想定されるか？マイナスの影響についてはそれを軽減するための対策は取られているか ● 日本へのインパクト発現が見込まれるか ● タイへのインパクト発現が見込まれるか ● 対象国へのインパクト発現が見込まれるか	という質問に対し、86%が「はい」、残りは「分からない／回答しない」と記入した。(具体的な適用事例は後述)。 ● 「研修で得た学びをどのように活かしたか」(帰国研修員サーベイ 1.h)という質問に対しては、「同僚に共有」が 90%、「より良い意思決定」が 68%と高い割合であった。 ● 「研修参加後、昇進したか、また TCTP は昇進にどの程度貢献したか」(帰国研修員サーベイ 4.a)という質問に対しては、回答者の52%が「昇進していない」、26%が何らかの程度「昇進した」、22%が「回答しない／分からない」と回答した。回答者の自由記載からは、研修への参加は昇進に直接関連しないが、習得した知識は専門家としてのキャリアの開発に貢献した、などのコメントがあった。 ● 帰国研修員サーベイの自由記載より、習得した知識の主な適用例は以下のとおり。 1) 教育機関の講師として、同僚との学術的な議論、教材の作成、実践的なケーススタディや国際的視点を取り入れた新たなコース内容の検討に活用した。自身の講義の内容の質も高まり、道路インフラの理論に加えて実践的な適用例を生徒によく理解させることができるようになった。(インドネシア) 2) 研修参加により私の知識は大きく広がり、築いたネットワークによって他国の状況を知り、比較するとともに、分野によっては将来自国でどのようなことが起こるかを理解することに役立っている。(マレーシア) 3) 帰国後に PE(Professional Engineer)の地位を獲得することができた。(マレーシア) 4) 道路走行時の障害物の除去や、建設作業員への安全の重要性に関するブリーフィングを行った。(ブータン) 5) 道路や橋梁の構造舗装設計 (Structural Pavement Design)、斜面の安定化、形状デザイン、標識への適用が成功事例である。(ブータン) 6) 私の主な業務は国際契約管理である。多くの建設プロジェクトの契約は FIDIC フォームを基礎にしているため、研修で学んだ関連知識により私の業務能力を著しく向上した。(タイ)	得後に、多くの帰国研修員が同僚との共有や自身の業務への適用を図っている。	ーベイ ● 追跡サーベイ

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源																																				
	その他インパクト (研修実施機関やインストラクターに与えたインパクトの有無など)	- TCTP の研修実施を担うことによって、DOH は外部講師や研修員とのネットワークを拡大することができた。DOH のスタッフは国際研修プログラムの運営、予算管理、新しい知識・技術を身に付ける経験を得た。スタッフは 3 週間にわたるコースの実施を管理し、問題を解決するスキルを学ぶ必要がある。また、多様な言語、文化、伝統を背景とする研修員とやり取りする能力も向上させた。(DOH ヒアリング) - DOH の講師は自分の知識を効果的にまとめて研修員に伝えることを学び、コミュニケーション能力を高めることができた。また、英語の運用能力の改善にもつながっている。(DOH ヒアリング)	研修実施機関の外部人材とのネットワーク拡大や、スタッフや講師の様々なスキル向上に正の影響を与えている。																																					
有効性・インパクトレーティング: 本事業の実施により、プロジェクト目標である研修員の知識獲得は達成されたといえる。上位目標について、多くの帰国研修員がそれらの知識の同僚との共有や自身の業務への適用を図っており、いくつかの効果発現事例が見られる。DOH にとっても、国際研修プログラムの運営経験とネットワーク拡大を達成した。以上より、有効性・インパクトのレーティングは④(非常に高い)と判断する。																																								
効率性	事業計画 アウトプットを産出するために必要な量・質の投入が計画されていたか	- 参加人数については、RD では年間 25 名とされ、各コース(GI)においても同様の募集人数であった。参加者数の実績は、18～21 人であった。対象国 12 カ国のうち、バングラデシュとフィリピンは全バッチを通じて応募者がなかった。(Annual Evaluation Reports)<table><tr><th></th><th>Plan (GI)</th><th>Actual</th></tr><tr><td>2023 (Batch 1)</td><td>25 persons</td><td>18 persons</td></tr><tr><td>2023 (Batch 2)</td><td>25 persons</td><td>20 persons</td></tr><tr><td>2024 (Batch 3)</td><td>25 persons</td><td>21 persons</td></tr></table> - 予算の計画/実績の比較: RD では初年度のコースの支出計画(暫定)として、THB3,259,700、うち JICA 分 THB1,627,800 (50%); TICA 分 THB1,631,900 (50%)とされていた。各コースの実施時における計画額と実績額は以下のとおり(単位:THB)。<table><tr><th></th><th></th><th>Plan</th><th>Actual</th></tr><tr><td rowspan="3">2023 (Batch1)</td><td>JICA</td><td>1,095,200</td><td>1,041,876</td></tr><tr><td>TICA</td><td>1,084,422</td><td>370,103</td></tr><tr><td>Total</td><td>2,179,622</td><td>1,411,979</td></tr><tr><td rowspan="3">2023 (Batch 2)</td><td>JICA</td><td>1,076,450</td><td>966,426</td></tr><tr><td>TICA</td><td>1,060,160</td><td>539,150</td></tr><tr><td>Total</td><td>2,136,610</td><td>1,505,576</td></tr></table>		Plan (GI)	Actual	2023 (Batch 1)	25 persons	18 persons	2023 (Batch 2)	25 persons	20 persons	2024 (Batch 3)	25 persons	21 persons			Plan	Actual	2023 (Batch1)	JICA	1,095,200	1,041,876	TICA	1,084,422	370,103	Total	2,179,622	1,411,979	2023 (Batch 2)	JICA	1,076,450	966,426	TICA	1,060,160	539,150	Total	2,136,610	1,505,576	参加人数は各バッチで計画された募集人数に 4～7 人満たなかった。COVID-19 によるコース開始時期が遅れたことが一部影響した可能性があるが、一部対象国ではニーズ程度が高くなかったことが示唆される。研修予算については、各バッチでタイ側負担分に関して実績額が計画額を 50%程度下回っていたが、参加人数が計	
	Plan (GI)	Actual																																						
2023 (Batch 1)	25 persons	18 persons																																						
2023 (Batch 2)	25 persons	20 persons																																						
2024 (Batch 3)	25 persons	21 persons																																						
		Plan	Actual																																					
2023 (Batch1)	JICA	1,095,200	1,041,876																																					
	TICA	1,084,422	370,103																																					
	Total	2,179,622	1,411,979																																					
2023 (Batch 2)	JICA	1,076,450	966,426																																					
	TICA	1,060,160	539,150																																					
	Total	2,136,610	1,505,576																																					

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源										
		<table><tr><td rowspan="3">2024 (Batch 3)</td><td>JICA</td><td>1,129,484</td><td>1,113,882</td></tr><tr><td>TICA</td><td>1,051,300</td><td>520,930</td></tr><tr><td>Total</td><td>2,180,784</td><td>1,634,811</td></tr></table> (Source: JICA, DOH) 投入の質に関して、上記の「有効性:因果関係」で述べたとおり、参加者中心の視点に立ってカリキュラムが設計され、各トピックに適切な講師が選定された。また、DOH が外部講師を招待する場合、期待される研修成果を理解してもらうよう努めるとともに、参加型学習の場を醸成するため多様な研修手法の活用を推奨した。(Terminal Evaluation Sheet (Draft))	2024 (Batch 3)	JICA	1,129,484	1,113,882	TICA	1,051,300	520,930	Total	2,180,784	1,634,811	画人数に満たなかったことの影響があったものと考えられる。 投入の質については、カリキュラム設計や研修方法に関して、質を高める工夫が見られる。	
2024 (Batch 3)	JICA	1,129,484		1,113,882										
	TICA	1,051,300		520,930										
	Total	2,180,784	1,634,811											
	期間、タイミング - 事業期間は事業計画に見合った設定となっていたか(事業の完了は計画以内であったか) - 前提条件、インプットのタイミング・方法(調達方法を含む)は適切に計画されていたか。 - JICA/TICA がそれぞれ実施している他の研修事業と比較して、アウトプットに照らした投入の内容・方法について優位性があるか。	- 実施時期・回数について、当初計画(RD)では JPY2021-2023(3年間で 3 回)であったが、コロナ禍の影響で JPY2021 には実施されず、JPY2022 に 2 回、JPY2023 に 1 回の合計 3 回実施された。 - 各バッチ研修期間について、RD では 1 回当たり 3 週間と計画されたが、実績(移動日を含む全体期間)も計画と合致していた。	コロナ禍の影響により実施時期が遅れたが、当初予定の実施期間内に、予定通り 3 回の研修が実施された。 各回の研修期間も計画通りであった。											
	実施プロセス	[全体プロセス(DOH)] - 外務省の TCTP の枠組みの調整を受けて、DOH 内の国際道路協力局が、人材開発協力グループ(HRDCG)に研修の提案書を提出する。HRDCG は、カリキュラムの設計、チーム計画、講師の選定、会場やホテルなどの手配を担当する。HRDCG チームがプログラムを実施し、コース期間中の講師とのやり取りを管理する。終了後、HRDCG は JICA、TICA、および国際道路協力局向けに評価報告書を作成する。 [募集・実施プロセス] - TCTP 以外に DOH が提供する研修と比較して、TCTP の参加資格は極めて厳格である。HRDCG は研修生向けの資格テンプレートを作成し、全ての応募データを入力する。不一致が生じた場合、申請者	募集・選定段階では潜在的な応募者へのアクセスに課題が生じるケースがある。 帰国研修員に対するフォローアップの仕組みがなく、帰国後の各研修員の活動状況が把握されていない。											

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
		の資格が指定基準を満たしていないことを示す。その他の研修コースについては、HRDCG は TCTP コースほど厳格に資格を確認する必要はない。 ● タイ大使館経由で提出された応募書類が適切な人材に届かない場合がある。そのような場合、DOH は過去の研修生とのネットワークを活用し、関係者に直接情報を伝達する。ただし、TICA からタイ大使館への公式文書はタイ語で作成されているため、言語を理解しない人に送付するのは困難である。 ● 募集段階において、一部の国では潜在的な参加者へのアプローチに課題が生じている。その際に JICA は現地ネットワークを活用して支援を行う。さらに、一部の国ではタイ大使館が存在しないため、ビザ手続きなどの遅延が生じる可能性がある。 ● TICA と JICA の両者が TCTP に資金を提供している。DOH は JICA と TICA から約 200 万バーツの予算を受け取り、これを管理・執行している。TICA は各国にあるタイ大使館を通じて研修生の募集を支援している。TICA は航空券や空港往復送迎などの手配を担当する。 [モニタリング・評価・フォローアップ] ● 上述のとおり、HRDCG は 3 年間の研修終了後に、JICA がフォームを提供する最終評価書を作成し、プロジェクトの成果をまとめる。 ● しかし、研修員帰国後の継続的なフォローアップの仕組みは存在しない。したがって、帰国研修員の成功事例を把握することも困難である。		
効率性 レーティング: 研修員数が計画数に満たなかったものの、産出されたアウトプットに対してインプットは適切な範囲であったと考えられる。また、投入の質を高める工夫が見られ、アウトプットである研修修了はほぼ達成された。上記より、効率性のレーティングは③(高い)と判断する。				
持続性	体制面 ● ネットワークは構築されているか(帰国研修員と JICA・TICA や研修講師とのネットワーク等) ● 帰国研修員同士のネットワークは構築されているか	● DOH では、LINE や Facebook で一部の研修員とコンタクトを維持している。但し、上述のとおり、研修員への帰国後のフォローアップ調査は行っていない。(DOH ヒアリングより) ● 研修生サーベイ(3.a)からは、帰国研修員は、「同国出身の他の研修員」とのコミュニケーション頻度が高いとの回答が最も多く、次いで「他国研修員も含めた同バッチの研修員」とコミュニケーション頻度が平均的に高かった。対照的に、「日本人講師」、「タイ人講師」、「タイの研修機関」とのコミュニケーションについては、全くあるいはほとんど	研修機関(DOH)と研修員の間では SNS によるネットワークがあるが、積極的なネットワーキングやフォローアップの仕組みはない。	●

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
		連絡を取っていないとの回答が最多であり、連絡頻度は平均的に低かった。 ● 帰国研修員同士のコミュニケーションの手段は、オンラインや WhatsApp や Facebook などの SNS が主体である。コミュニケーションのトピックは、日常の話題から、業務に関連した情報交換や議論まで様々である。 ● 帰国研修員同士のコミュニケーションの特筆すべき事例として、サーベイ回答から以下が挙げられた。 1) タイとマレーシア国境で建設中の友好橋に関して、昨年(2024年)両国間で会合を開催した際に、双方の責任者が本コースの修了生であった。(マレーシア) 2) また、ブータンで導入が予定されている道路維持管理システムと同様の方法で実践されているネパールの道路維持システムに関する情報を得ることができた。(ブータン)	一方、帰国研修員の間では SNS 等を通じて自発的なコミュニケーションが比較的活発に行われている。	
	財政面 ● 研修の効果の持続性の観点から、予算措置は十分に講じられているか	● 研修実施機関は事後に研修員に対する特段のフォローアップ活動を行っていない。 ● 帰国研修員サーベイ(自由記載)からは、帰国研修員の同窓会ネットワークの設立を要望する回答があった。また、研修プログラムの中にフォローアップ活動や帰国研修員による共同研究の機会を組み込む提案があった。	研修後の特段の活動は行われていない。	
	技術面 ● 研修に伴い導入される技術は研修員やその所属先により受容され、継続的に実行されるものか	● 「インパクト」で述べた通り、帰国研修員サーベイでは 86%が帰国後に学んだことを自身で活用しており、多くの具体的事例も挙げられている。同僚への共有により所属先への知識の還元も多くの帰国研修員により図られている。 ● 帰国研修員の国や所属組織での継続的活用の状況については、サーベイ回答の一部から、道路維持管理方法などの習得内容がその国で実践されている事例が挙げられた。但し、参加国全体としての状況を判断する十分な情報を収集することができなかった。	帰国研修員レベルにおいては、総じて習得した知識活用の今後の継続が見込まれる。 所属先の組織レベルにおける技術の継続見込みを判断する十分な情報は得られなかった。	
	アクションプラン	● 「アクションプランを実践したか」という質問(帰国研修員サーベイ	アクションプラン	

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
	アクションプランを作成した研修員は、それを実施・継続しているか	1.i)に対し、約 41%が「はい」、14%が「いいえ」、残りが「わからない」と回答した。「はい」の具体例としては、「インパクト」で述べた個別の活動の他、有料道路の料金ゲートに関する施策の導入推進、道路安全監査の導入などが挙げられた。一方、「いいえ」の理由としては予算の制約が挙げられた。	を実践していると回答した帰国研修員は約 4 割にとどまるが、具体的な施策実施につながっている事例が挙げられている。 実践できない理由として限定された回答からは予算の制約が挙げられた。	
	促進/阻害要因 研修の成果を持続・波及するにあたってどのような点が促進／阻害要因となったか	「有効性:因果関係」で述べた通り、研修目標達成の貢献要因として、研修実施機関ではカリキュラム、講師、参加者の意欲の 3 つを挙げている。(Terminal Evaluation Sheet (Draft)) - 一方、研修の成果を持続するためには、まずは研修員の帰国後の業務状況を把握することが不可欠であるが、帰国研修員サーベイとDOH ヒアリングからは、本コースにおけるネットワーキング活動やフォローアップが行われていないことが、今後の阻害要因になると考えられる。		
持続性 レーティング: 体制面において主に帰国研修員間で自発的なネットワークが形成されているものの、関係維持の仕組みはない。財政面では、持続性を確保するための活動を担保する特段の予算の裏付けはない。技術面では、帰国研修員レベルで知識活用の継続は見込まれ、所属先の組織レベルでも施策を推進している事例が一部見られるものの、技術活用の見込みを全体的に判断する十分な情報は得られなかった。以上より、持続性のレーティングは②(一部課題がある)と判断する。				
総合評価結果: 以上より、本コースの「妥当性・整合性」は非常に高く、「有効性・インパクト」は非常に高い。「効率性」は高く、「持続性」には一部課題がある。よって、総合レーティングは A(非常に高い)と評価する。 総合レーティング: A				

教訓:

- 本コースの帰国研修員サーバイの結果からは、アクションプランを実施していると回答した帰国研修員は約 4 割にとどまった。実施・継続できない理由について、「予算制約」という一部回答以外には具体的回答が得られなかったが、TCTP コースの応募者の選定条件として、所属組織との間で研修前に想定されるアクションプランの内容について協議・検討を行うことを求めるなど、組織的な支援を促進する仕組みを検討することが考えられる。
- 本コースのようにムスリムが主体である国を対象国に含む TCTP コースにおいては、滞在中のハラール食の利用可能性や利便性(複数オプションの提供など)を十分に考慮した上で、宿泊場所やスケジュールを計画することが重要である。
- 帰国研修員サーバイの自由記載から、研修員の所属組織や各国の制度レベルでの研修内容の活用・普及を図るために、参加者を現在の対象レベルに加えて、各組織の経営層や局長レベルを対象とした別途の TCTP 研修を提案する回答があった。2025 年現在、本コースと並行して実施されている Road Asset Management に関する TCTP コースが継続中である。本コースと RAM コースはともに BIMSTEC 及び ASEAN 地域での道路連結性向上を目的としつつ、インフラ建設と運営維持管理という重要な二つの課題で棲み分けを図ったものと言えるが、提案のような対象者の層別研修についても TCTP の長期的効果発現という観点から、TCTP 全般において検討し得るものと考えられる。

提言:

- 本コースの 3 年間の実施期間の全バッチにおいて、研修参加者数は募集人数を満たさなかった。また、対象国 12 カ国のうち 2 カ国については全く応募者がいなかった。全 12 カ国のそれぞれにおけるニーズ状況について、TICA 及び DOH は改めて確認することが望ましい。また、TICA は、本コースの募集段階において当該 2 国で具体的にどのようなプロセスで募集活動が行われていたのか、改善すべき点はなかったかについて、TICA が確認することを提案する。
- 本コースで習得した知識を帰国研修員が活用し、そのうち一部については施策として推進されているケースも確認された。一方で、帰国研修員サーバイや DOH ヒアリングから、DOH と帰国研修員との間の積極的なネットワーク継続のための活動は行っておらず、その他のフォローアップ活動も行われていない。今後 TCTP を継続する際には、研修効果の更なる向上のために、こうしたフォローアップ活動を強化することが期待される。同サーバイでは、同窓会ネットワークの設立や、研修プログラムの中に帰国研修員による共同研究の機会提供を組み込むなどの提案があった。但し、帰国研修員のネットワーク機能の強化やフォローアップ活動の実施は必ずしも DOH 単独で行い得るものではないため、TICA 及び JICA がそれぞれの事業活動との将来的連携などフォローアップ活動を実施する目的を共有した上で支援することが望ましい。

2025 年度テーマ別評価 タイ国第三国研修に関する合同評価
コース別評価結果表

7	Rice Production Technologies for Food Security and Sustainability of African Countries
---	--

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 ／判断	情報源
妥当性	(1) 開発政策との整合性 ● 研修内容は相手国の開発政策及び開発計画との整合性はあるか(国・地域・セクター等の各レベル)	研修員の送り出し国の開発政策及び開発計画と整合性がある。 ● 対象となったアフリカ各国の国別開発協力方針・事業展開計画にはほぼ必ず農業開発の支援の小目標とプログラムが記載されている。 ● GIによると以下の記載がある。 「米生産による自給自足は、生産者と消費者にとって安全な、米生産を完全なプロセスとして統合することと捉えられています。代替技術の適用は、食品の安全性を確保するための米生産と収穫後の管理を支援するでしょう。」(GI Onsite 2023)	アフリカ諸国が主食である米の生産性向上を開発政策上の重点課題に掲げているという地域的な要因が大きい。	● R/D・GI ● 国別開発協力方針・事業展開計画 ● 送出し機関サーベイ
	(2) 開発ニーズとの整合性 ● 研修は相手国のターゲットグループのニーズに合致していたか	今期の TCTP 開始前に、アフリカの開発ニーズの調査を実施しており、特定された開発ニーズと整合性がある。 ● 2022-24 年の TCTP の開始以前に、同様の TCTP コースを 2014 年より実施してきたが、その時にはアフリカの農家の生活様式について知らなかった。そこで我々は、種子技術から収穫後まで、各トピックで非常に多数の生産技術や生産方法をコースに盛り込み、アフリカの国々が適用可能なものを選択できるようにすることを目的として開始した。(研修実施機関インタビューメモ) ● 研修実施前には詳細なトピックについて TICA、JICA と議論を行った。いくつかのトピックについては TICA や JICA から提案があり、会計やロジスティクス、サプライチェーンなどの研修を追加した。(研修実施機関インタビューメモ)	事前の綿密な調査が、高い整合性実現のための大きな要因になっている。	● 現地調査メモ ● 送出し機関サーベイ ● 帰国研修員サーベイ
	(3) 手段としての適切性 ● 研修員のニーズに対して研修内容は妥当であったか ● 効果的な研修内容となるように日本側とタイ側の投入の役割分担が行われていたか。 ● アウトカム／事業目的の達成につながるようにインプット、アウトプットのロジ	事前にこの TCTP の目的を明確化して、目的実現までの道筋を検討したところ、手段と目的の関係は適切であった。 ● ロジックモデルを作成して検討した結果、介入理論(介入と成果の関係)が適切だったことを説明できる。 ● GI に実施手順と各機関の役割分担が明記されている。 ● 帰国研修員サーベイの結果を見ると、「TCTP 研修はどの程度あなたの業務にとって適切ですか？」(Q1e)の回答は4段階スケールで 3.9 で「高度に適切」と言える回答だった。	日本及びタイに、コメの生産性向上や増産の知識や技術があったことが大きな要因である。	● Annual Eval. Report ● 帰国研修員サーベイ ● TICA/JICA 事務所/研修実施機関インタビュー

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 ／判断	情報源
	ックが適切に計画されていたか。	直近ではケニア CARD 事務局の日本人専門家一コマ程度講義を担当している。(JICA ヒアリング)		
整合性	(1) 日本の援助政策との整合性 日本の援助政策・外務省の国別援助方針との整合性はあるか	日本の援助政策とは高い整合性を有していると言える。「対タイ王国国別開発協力量針」では、大目標として「包括的・戦略的パートナーシップに基づく現代的課題への対処及び地域開発を牽引する協力の推進」と記載あり。また中目標のひとつとして、「(3) 第三国協力の実施 ASEAN・メコン地域及び国際社会の課題に関するタイとの協議を通じて、両国が連携すべき第三国協力案件を展開する。」という記載あり。	日本の途上国援助の方針にもともと食料増産などが掲げられていることが、高い整合性に貢献している。	- R/D - 対タイ国別開発協力量針
	(2) JICA 内外の事業・機関との連携 JICA の他事業や日本、他の開発協力機関等との連携は行われたか	JICA と TICA が共同でフォローアップ調査団を対象のアフリカ諸国へ送って調査しており(2025 年後期)、関係機関との協力と整合的である。	JICA および TICA ともさらなる協力の深化に関心があった。	TICA/JICA 事務所/研修実施機関インタビュー
	(3) タイの援助政策との整合性 タイの援助政策・方針との整合性はあるか	TICA インタビューにおいて、「TICA やタイの研修機関に全体的なインパクトとしてどのような影響があったか？」を確認して以下の回答があったことから、タイの援助政策と TCTP は整合的であったと言える。 - TICA が新興ドナーとして国際機関や開発プロジェクトを実施する能力が強化された。 - タイの研修機関が農業や保健などの分野で地域レベルでの拠点の役割を果たすようになった。	タイが振興ドナーとして貢献できる伝統的な分野がコメ増産だったことが大きい。	TICA 事務所/研修実施機関インタビュー
妥当性サブレーティング: (1)各国の開発計画に明記あり、(2)事前にニーズ調査を行って現地のニーズを適切に把握、(3)タイ側と日本側で役割分担が考慮されており、サブレーティングは④と判断した。 整合性サブレーティング: (1)日本の政策、(2)日本側の事業・機関との連携、(3)タイの政策とも整合性を確保しており、サブレーティングは④と判断する。 妥当性・整合性レーティング: 上記より、妥当性・整合性のレーティングを④(非常に高い)と評価する。				
有効性	アウトカムの内容 研修参加時に立てた目標は達成されたか 研修員は研修内容を習得したか ★ 特に他の参加国や他コースの模範・参考になる成功事例が生まれたか(事例数は問わない)	<アウトプットレベル> 十分な研修員の参加実績と修了証取得の実績が示されている。 - 参加実績は過去 3 年間(2022-2024)で合計 65 人であり、十分に想定どおりの実績を記録している。また帰国員サーベリの回答数は 23 人であって高い回答率となった(35%)。 - 帰国研修員サーベリの回答によると、修了証の実績は 100%で高い有効性を裏付けている。 <初期的アウトカムレベル> 研修による直接的な成果である知識・技術の習得は、高い有効性を	研修の内容は適切だったことが高い有効性の認識に貢献していると言える。	- 帰国研修員サーベイ - 研修実施機関インタビュー

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 ／判断	情報源
		占めていると判断できる。 ● 帰国研修員サーベイによると、「分野知識・技術の習得」の回答の平均値は4段階スケールで 3.7 であり、「とても高い進捗した」(Very much progressed)に近く、高い有効性を示したと判断できる。個別のトピックでは以下のとおりであった。 - 導入知識 3.7 - 米の田植え(planting) 3.9 - 米の育成(Production) 3.8 - 米の収穫(Post-harvesting) 3.8 - 経済財務分析 3.5 ● 帰国研修員サーベイによると、「一般的知識・技術の習得」の回答の平均値は4段階スケールで 3.6 あり、「とても高い進捗した」(Very much progressed)に近く、高い有効性を示したと判断できる。個別のトピックで見ても、戦略作衛、プログラム/プロジェクト管理、人員配置・研修、財務、一般的管理、事業レベルのリーダーシップ、組織レベルのリーダーシップ、組織内外のネットワークづくり、その他、がいずれも4段階スケールで 3.4～3.8 の平均値になっている。		
	研修の満足度 ● 研修内容にどの程度満足したか	帰国研修員サーベイ(n=22)によると、研修員の満足度は4段階スケールで平均値 3.5 で「大変満足」と「ある程度の満足」の中間の値であり、総じて高い有効性を示していると言える。個別項目の平均値は次のとおりであり(4段階スケール)、「研修後のフォローアップ」(平均値 3.1)と「研修の期間(日数)」(平均値 3.3)に改善の余地があるようである。 - 講師の知識と技術(4.0) - 研修内容(3.9) - 研修方法(座学、グループ討議、OJT)(3.9) - 研修ファシリティ(移動、宿泊、食事)(3.8) - 研修の期間(日数)(3.3) - 研修後のフォローアップ(3.1)	研修のフォローアップが十分ではないことが制約要因になっている	● 帰国研修員サーベイ ● 研修実施機関インタビュー
	因果関係 ● 目標達成にどのような点が貢献/阻害要因となったか	研修の有効性に関しては、研修の内容や講師や方法について高い満足が示されており、これが研修目標の達成に貢献した最大の要因と言える。一方、研修後のコミュニケーションや支援などのフォローアップ体制について課題があり、そのことが有効性の実現の一つの阻害要因に		

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析／判断	情報源
		なっているようである。		
インパクト	発現の見込み／因果関係 ● 事業実施の結果としてインパクトの発現が見られるか、あるいは見込まれるか ★ 特に他の参加国や他コースの模範・参考になる成功事例が生まれたか(事例数は問わない) ● アウトカムからインパクトに至るまでの外部条件は適切に認識されているか。外部条件が満たされる可能性は高いか ● インパクト発現を阻害する要因はあるか ● プラスの影響が想定されるか？マイナスの影響についてはそれを軽減するための対策は取られているか ● 日本へのインパクト発現が見込まれるか ● タイへのインパクト発現が見込まれるか ● 対象国へのインパクト発現が見込まれるか	<中間アウトカムレベル> 習得した知識が帰国後にそれぞれの現場で適用されるという状況(それが中間アウトカム)に関しては、何らかの形で適用が行われている一方で、研修の最後に作成したアクションプランの実現率は低位にとどまっていることがわかる。 ● 帰国研修員サーベイ(Q1g)によると、「習得した知識・技術の帰国後の適用」については、96%が適用していると回答しており、高い適用率と言える。 ● 帰国研修員サーベイ(Q1h)によると、「どのように適用したか？」という質問に対して、「同僚と共有した」と回答した率は 100%であった。一方、「意思決定に利用」(52.2%)、「新しい戦略や仕事の仕方を開発」(47.8%)、「組織内外で講師として活躍」(52.2%)とおおよそ 50%に留まっている。 ● 帰国研修員サーベイ(Q1i)によると、「Action Plan は実行されたか？」という質問に対しえ、「実行された」と回答したのは 21.7%となっており、「実行していない」が 73.9%と回答しており、低い実行率にとどまっている。その理由は、研修で習得した技術・知識だけではなく、財政資源が必要だという意見多数であった。 <最終アウトカムレベル> 習得した知識が帰国後にそれぞれの現場で適用され、その後に長期的な効果を発揮する(いわば最終アウトカム)が実現することが期待される。この TCTP では米の生産性向上や増産が究極的なアウトカムとして想定されるが、それに至るまでのいくつかの最終アウトカムが実現していることが分かった。 ● 帰国研修員サーベイ(Q2b)によると、サクセスケース(グッドプラクティス)として、回答者の 80%が「生産性の向上」と 85%が「新しいアイデア」と回答している。 ● 具体的なサクセスケースとして、多数の事例(13 件)が報告された。農業実務への適用も報告された事例のほか、灌漑の実施、そしてコメの生産性の向上が実現したという報告もあった。 ● マクロレベルでのアフリカのコメ生産量は以下の通り微増。 年度 2021/22 2024/25 増減	中間アウトカムに関しては、得られた知識は何らかの形で現場で適用されている一方で、アクションプランを実現するには研修で得た知識だけではなく、予算が必要で、その予算が確保できないのがもっとも大きな制約要因になっていると言える。 一方で、最終アウトカムでは、予算制約を工夫して乗り越えて、灌漑の実現やコメの増産を実現しており、それらのサクセスケースに見られる帰国研修員のやる気や工夫や上司の支援が促進要因になっていることがわかる。	● 帰国研修員サーベイ ● 送出し機関サーベイ

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 ／判断	情報源												
		アフリカ全体 24,120 25,423 +5.4% (サブサハラ) 20,078 21,778 +8.4% (出所) https://www.statista.com/statistics/1294234/production-volume-of-rice-in-africa/ <追加:個人レベルの昇進> 初期的・中間・最終アウトカムの実現と並んで、帰国研修員の個人的な組織内昇進も重要な有効性の発言と言える。帰国研修生で昇進を経験した者は多く、昇進の理由としてTCTPへの参加が影響したと回答しているものも多い。 ● 帰国研修員サーベイ(Q4a)によると、回答者 23 名のうち、半数以上(n=25)が 1 等級以上の昇進を経験した。約 4 分の 1 (n=6)は昇進していない。 ● 帰国研修員サーベイ(Q4b)によると、昇進した回答者の多くは、TCTP 研修への参加が昇進に「非常に貢献した」または「かなり貢献した」と回答した。一方で、今回得られた定性的コメントは昇進していない回答者によるもので、現在の地位に対する不満が伺える。	昇進に TCTP が大きく影響しており、TCTP 参加（および得た知識・技術）が昇進の促進要因になっていることわかる。													
	その他インパクト (研修実施機関やインストラクターに与えたインパクトの有無など)	● 研修実施機関では、過去 10 年間 TCTP に携わってきた経験を、KOICA と共同で研修プログラムを実施したときに活用することができた。 ● また、TCTP の研修員の視察のために、種子生産会社や大規模な精米会社など、国内のいろいろな農業関連組織とネットワークを形成、維持することができている。 ●		● 研修実施機関インタビュー												
有効性・インパクト レーティング: アウトプットレベル、初期的アウトカムレベル、中間アウトカムレベルともたいへん高い有効性を判断できる。一方で、マクロレベルの最終アウトカムは、アフリカ全体およびサブサハラ地域のコメ生産量は微増であり、帰国研修員サーベイに回答されたコメの生産性向上のサクセスケースとの因果関係は明らかではなくレーティング不可と判断する。したがって、有効性・インパクトのレーティングは③(高い)と判断するが、最終アウトカムである全体としての米の生産性向上・増産への貢献は明らかではない点に留意が必要。																
効率性	事業計画 ● アウトプットを産出するために必要な量・質の投入が計画されていたか	(1) Letter of Payment, Letter Budget で確認した。当初計画どおりに支出されたことが確認できた。 <table><tr><td></td><td>Japan(JICA)</td><td>Thailand(TICA)</td><td>KU</td></tr><tr><td>2022</td><td>610,700 (49.79%)</td><td>615,825 (50.21%)</td><td>-</td></tr><tr><td>2023</td><td>4,271,060</td><td>3,749,567</td><td>412,600</td></tr></table>		Japan(JICA)	Thailand(TICA)	KU	2022	610,700 (49.79%)	615,825 (50.21%)	-	2023	4,271,060	3,749,567	412,600	促進要因は、JICA、TICA の規則に従った正確な会計処理。制約要因は、JICA、TICAで会計年度	● G I、Letter of Payment, Letter Budget などの提供資料
	Japan(JICA)	Thailand(TICA)	KU													
2022	610,700 (49.79%)	615,825 (50.21%)	-													
2023	4,271,060	3,749,567	412,600													

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 ／判断	情報源
		(50.65%) (44.46%) (4.89%) 2024 2,751,860 2,284,989 142,500 (53.13%) (44.12%) (2.75%) (2) TICA インタビュー結果によると、研修実施機関である KU は TCTP 以外の研修プログラムも実施しているが、それらの比較から言える JICA・TICA の TCTP の特徴は次のとおり。 ● ECDP という組織を通じて、インドネシアやバングラデシュ、スリランカの政府から委託を受けたコンサルタント会社が研修提供を依頼してきている。カリキュラムを作成し送っている。各国が研修を受けに当センターにやって来る。JICA との TCTP とそれ以外の研修プログラムの違いは、TCTP の場合は明確な計画があり、いつどの程度の予算で実施するのか分かっている。それに対して、オンデマンドの研修の場合は、空いているタイミングがあれば実施するなど、予め見通しが立っていないものが多い。」	の期間が違うことと、会計処理の規則が違うこと。	
	期間、タイミング ● 事業期間は事業計画に見合った設定となっていたか(事業の完了は計画以内であったか) ● 前提条件、インプットのタイミング・方法(調達方法を含む)は適切に計画されていたか。 ● JICA/TICA がそれぞれ実施している他の研修事業と比較して、アウトプットに照らした投入の内容・方法について優位性があるか。	事業期間: 十分な準備期間を取り、計画通りに実施された。 タイミング・方法について ● ● 直近で実施したバッチでは、実施時期を遅らせた結果、2025 年 1 月となった。タイは乾期で圃場の準備が非常に難しかった。外部に視察に行っても何も見るものがなかった。研修参加者にとってベストの時期は雨期である 6～10 月である。遅れた理由は予算計画の決定や、募集のアナウンスに時間がかかったことによる。 ●	KUによる十分に時間をかけた準備が促進要因。	● 研修実施機関インタビュー ● 実施機関が作成した Evaluation Report
効率性 レーティング: 参加人数はおおむね計画どおりで、研修費用も計画どおり支出された。各バッチの実施タイミングはコロナ等の影響により調整を余儀なくされたが、計画された回数の研修が実施された。一方、予算調整等の影響で必ずしも最適といえない時期の開催を余儀なくされた年があった。以上より、効率性は③「高い」と判断する。				
持続性	体制面 ● ネットワークは構築されているか(帰国研修員と JICA・TICA や研修講師とのネットワーク等) ● 帰国研修員同士のネットワークは構築されているか	● 帰国研修員サーベイ(Q3a～c)によると、同じ国出身の研修生や元研修生とのコミュニケーションが最も頻繁に行われている。コミュニケーション手段はオンライン、つまり WhatUp や Facebook が主流。コミュニケーションの主な目的は、新しいアイデアの交換と挨拶だった。(平均値は計算していない。以下の3質問への回答を分析する)	●	● 帰国研修員サーベイ

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 ／判断	情報源
		- 過去に実施した TCTP について一度だけフォローアップを実施した。2015 年に、帰国後の状況をフォローするために 3 カ国を訪問した。しかしその後は予算はなく、フォローアップは行っていない。いくつかの国のアクションプランは素晴らしいものであった。2025 年度に JICA タイ事務所とケニア、モザンビークのフォローアップ訪問を実施した。本評価でも、モザンビークの帰国研修員による実際の適用事例が確認され、サクセスケースとして報告されている。		
	財政面 ● 研修の効果の持続性の観点から、予算措置は十分に講じられているか	帰国研修員サーベイによると、持続性のためには、研修で習得した技術・知識だけではなく、財政資源が必要だという意見が多数出されている。		● 帰国研修員サーベイ
	技術面 ● 研修に伴い導入される技術は研修員やその所属先により受容され、継続的に実行されるものか	帰国研修員サーベイ：フォローアップ研修の要望が出た。		● 帰国研修員サーベイ
	アクションプラン ● アクションプランを作成した研修員は、それを実施・継続しているか	アクションプランの実現状況の把握の一部として以下の情報があった。 - 帰国研修員サーベイ(Q2b)によると、サクセスケースとして、多数の事例(13 件)が報告された。農業実務への適用も報告されている。灌漑の実施、そしてコメの生産性の向上が実現したという報告もあり。 一方、研修実施機関インタビュー結果として以下の解説があった。 <TCTP のモニタリング・評価> 事後の評価の実施は難しい。しかし、2025 年末頃に、アフリカのどこかの国にフォローアップとしてアクションプランの確認を行うことがを検討され、ケニアとモザンビークにおいて実施された。 <TCTP 帰国研修員とのコンタクト> 先述のとおり、いくつかの国とはある程度のコンタクトがあり、オンライン会議を行ったり、帰国研修員から何か相談があるときにメールでのやり取りをしている。また、バッチ毎に Social media でグループを作りネットワークを維持している。同窓会は行っていない。		● 帰国研修員サーベイ ● 研修実施機関インタビュー結果
	促進/阻害要因 ● 研修の成果を持続・波及するにあたってどのような点が促進／阻害要因となったか	研修実施機関インタビュー結果において、以下の情報があった。 10 年間のアフリカ TCTP 経験(その間、6～7 コースを実施)で分かってきたアフリカの課題は以下のとおり。①種子生産の問題。アフリカではコメの種子の純度に問題がある。②米の品種がアフリ		● 研修実施機関インタビュー結果

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 ／判断	情報源
		力に適していない。もっと改善する必要がある。③機械化。主にヨーロッパの支援で大規模農業向けの機械が導入されてきたが、スベアパーツがないこともある。クボタのような会社のアフリカに合った農機が導入されるべき。		
持続性 レーティング： 体制面において自発的なネットワークが形成されているし、実施機関によるフォローアップ(現地調査)も実施された実績があり、技術面では多数のサクセスケースが報告されている。ただし財政面では、アクションプランを実施するための財政資金に課題ある。以上より、持続性のレーティングは③(高い)と判断する。				
総合評価結果： 以上より、本コースの「妥当性・整合性」は非常に高く(④)、「有効性・インパクト」は高く(③)、「効率性」も高く(③)。「持続性」も高い(③)。よって、総合レーティングはA(非常に高い)と評価する。 総合レーティング： A				

教訓：

1. TICA インタビュー結果：実施プロセスにおける課題や改善点

- タイの予算年度は10月からで日本と異なるため、当初は計画を立てるのが難しかった。
- 選定段階に関しては、東アフリカにはタイの大使館がない国もあり、アナウンスが難しく、時間がかかる。
- GIにおいて10カ国を対象としても、応募がない国がある。

2. 帰国研修員サーベイの結果からの教訓

- 農業(コメ)というセクター全体に関わる話であり、TCTP単独では効果拡大に限界がある。国全体の政策や国家予算への反映を目指す、研修とは別の取組が必要。

提言：

このTCTP研修自体は目的も妥当で、計画されたとおりに実施されており、研修員の確実な知識・技術向上が見られるので、今後も継続すべき。セクターが農業なので、継続的な地道な研修が長期的なアウトカムを実現すると信じて実施するべき。

一方で、CARDのようなブレークスルーとなる技術を重点的に取り上げて、一気に状況を変えることを目指すという方向性も考えられ、短期集中的に大量の人材育成を目指す研修をタイだけではなく、帰国研修員が各国で講師となって実施する、そのための財政予算を支援するというアイデアもあり得る。

2025 年度テーマ別評価 タイ国第三国研修に関する合同評価
コース別評価結果表

8	Skill Development for Material Processing for Mekong Countries
---	--

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
妥当性	(1) 開発政策との整合性 ● 研修内容は相手国の開発政策及び開発計画との整合性はあるか(国・地域・セクター等の各レベル)	● RD では、ASEAN 経済共同体(AEC)が始動するにあたり、域内投資が加速化する中で、CLMV 諸国に新たな生産基盤を設立する動きが進むと述べている。ASEAN レベルでは、加盟国間の経済・開発格差を是正し、特に CLMV の能力向上を支援するための枠組みである IAI(Initiative for ASEAN Integration) が進められている。IAI は ASEAN Strategic Action Plan for SME Development 2016-2025)などの計画と連携しつつ、地域の中小企業の生産性向上、技術導入支援等を行っている。 ● 本コースの対象国各国においても地域のサプライチェーンへの統合を目指した裾野産業育成を進めている。例えばベトナムでは、裾野産業発展のための税制優遇、重点産業育成、技術・人材育成など各種の支援策を整備している。	ASEAN 地域レベル及び参加各国の政策・開発計画と一致している。	● R/D、GI ● ASEAN 及び各国政策文書
	(2) 開発ニーズとの整合性 ● 研修は相手国のターゲットグループのニーズに合致していたか	● CLMV 諸国の裾野産業がバリューチェーンや高度な製造分野に統合される際のボトルネックの一つが人材・技術不足であり、職業訓練(TVET)の強化や企業と教育機関の連携、技術教育の拡充が課題となっている。製造業の労働者 1 人当たり付加価値額の比較からも、2020 年の CLMV 各国は USD4,000-9,500 程度で、ASEAN 平均(ASEAN 平均は USD10,000-12,000)を下回っている(2015 年価格ベース、WDI)。	ASEAN 域内において CLMV では製造業発展のニーズが以前高く引き続き課題を抱えていることから、開発ニーズに合致している。	● 世界銀行等統計データ
	(3) 手段としての適切性 ● 研修員のニーズに対して研修内容は妥当であったか ● 効果的な研修内容となるように日本側とタイ側の投入の役割分担が行われていたか。 ● アウトカム／事業目的の達成につなが	● 帰国研修員サーベイ(1.e)において、「研修内容は業務内容とどの程度整合していたか」という問いに対し、回答者は 5 名に限定されるものの、20%が「非常に高い」、80%が「ある程度高い」と回答しており、全員が自身の業務のニーズに合致していると認識している。 ● プログラム構成として、本コースでは各バッチで「技術訓練の教授法」に係る共通講義を実施した後に、研修員を個別技術分野別に 3-5 のグループに分け、並行して研修を進行するデザインであった。技術	回答した帰国研修員全員が業務内容と高い整合性を認めているが、回答数は少数であったことに留意が必要である。	● GI ● 帰国研修員(追跡)サーベイ ● Annual Eval. Report

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源										
	るようにインプット、アウトプットのロジックが適切に計画されていたか。	分野は第 1 バッチは「Plastic Injection Mould Design」「PLC Programming」「CNC Programming and Operation」であったが、以降のバッチで「Welding Technology」や「Agricultural Machinery」など適宜分野の追加、入れ替えが行われた。 ● 本コースの実施は BSID(後に DIIT)と Thai-German Institute (TGI)の協力により行われ、各分野の講師は TGI の講師が務めた。日本側のプログラム内容に関する投入は確認されなかったが、日系企業が工場訪問先となることがあった。 ● 評価者が RD 等を基に作成した本コースのロジックは以下のとおり。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>Output =></th><th>Initial Outcome =></th><th>Intermed. Outcome =></th><th>Final Outcome =></th><th>(Further)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Participants completed the training course with certificate.</td><td>Participants' skills and techniques in Material processing are upgraded.</td><td>Capacity and skills of organizations responsible for skill development for supporting industries are improved.</td><td>Supporting industries' skill level is improved in CLMV. Investment in production bases is increased in CLMV.</td><td>Sustainable economic development in Mekong Region is realized.</td></tr> </tbody> </table>	Output =>	Initial Outcome =>	Intermed. Outcome =>	Final Outcome =>	(Further)	Participants completed the training course with certificate.	Participants' skills and techniques in Material processing are upgraded.	Capacity and skills of organizations responsible for skill development for supporting industries are improved.	Supporting industries' skill level is improved in CLMV. Investment in production bases is increased in CLMV.	Sustainable economic development in Mekong Region is realized.	研修内容は、それぞれの分野の技術習得に特化した構成であることを踏まえて、技術訓練機関である TGI が各分野の研修を担った。各国の裾野産業支援を担う機関の職員を対象とした本コースにおいて、同支援機関のキャパシティ改善を直接アウトカムとするロジックも適切である。	
Output =>	Initial Outcome =>	Intermed. Outcome =>	Final Outcome =>	(Further)										
Participants completed the training course with certificate.	Participants' skills and techniques in Material processing are upgraded.	Capacity and skills of organizations responsible for skill development for supporting industries are improved.	Supporting industries' skill level is improved in CLMV. Investment in production bases is increased in CLMV.	Sustainable economic development in Mekong Region is realized.										
整合性	(1) 日本の援助政策との整合性 ● 日本の援助政策・外務省の国別援助方針との整合性はあるか	● 「対タイ王国 国別開発協力方針」では、基本方針として、「包括的・戦略的パートナーシップに基づく現代的課題への対処及び地域開発を牽引する協力の推進」を掲げ、重点分野として、ASEAN・メコン地域における連結性強化を含む域内共通課題への対応、第三国研修の実施を挙げている。 ● タイと日本は、1994 年に立ち上げられた日タイ間の第三国協力の枠組みである日タイ・パートナーシッププログラム(JTPP)(現在はフェーズ 3)の下で、JICA 及び TICA との間で ASEAN 諸国等第三国に対する研修を実施することになっている。 ● 本コースの実施中の 2018 年には、日本とメコン諸国の協力枠組みである日本・メコン地域諸国首脳会議において「日メコン協力のための東京戦略 2018」が採択された。この中では、ハード連結性、ソフト連結性とともに産業連結性を柱に据え、メコン圏の産業への投資や、日系企業とのビジネスマッチング等の取組み推進を表明した。	本コースが目指すメコン地域の製造業の強化は、日本の対タイ開発協力方針及び対メコン政策方針の両者と整合している。	● R/D, GI ● 対タイ国別開発協力方針 ● 対メコン協力関連文書										

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
	(2) JICA 内外の事業・機関との連携 ● JICA の他事業や日本、他の開発協力機関等との連携は行われたか	● 本コースの実施に直接連携している JICA の他事業の情報は得られなかった。 ● DIIT と連携して本コースを実施する TGI は、ドイツ政府とタイ政府の共同事業として設立された職業訓練や技術研修のための機関である。タイの産業開発を担う教育機関の一つとしても位置づけられ、基礎技術にとどまらず先進技術分野の取り込みや、民間企業との連携促進を図るなど活動を展開している。	JICA の他事業との直接の連携についての情報は得られなかった。	● 研修実施機関インタビュー
	(3) タイの援助政策との整合性 ● タイの援助政策・方針との整合性はあるか	● 「日本の援助政策との整合性」で記載のとおり、JTPP の枠組みの下で TCTP は実施されている。 ● TICA はミッションとして、タイの外交政策及び「足るを知る経済 (SEP)」に基づく開発協力を推進し、外国、特に近隣諸国との良好な関係を築くことを掲げている。また、目的の一つとして、タイの新興ドナーとしての地位とともに、持続可能な開発に関する学びとベストプラクティス共有の拠点としての役割を強化することを挙げている。	TCTP はタイと日本の協力枠組み及びタイの外交・開発協力政策と整合している。	● TICA ウェブサイト
妥当性サブレーティング: (1)(2)(3)に対応しているが、タイと日本の特段の役割分担は認められず、サブレーティングは③と判断する。 整合性サブレーティング: (1)及び(3)で整合している一方で、(2)ではドイツ政府と共同で設立された技術研修機関が研修を提供しており、サブレーティングは④と判断する。 妥当性・整合性レーティング: 上記より、妥当性・整合性のレーティングを④と評価する。				
有効性	アウトカムの内容 ● 研修参加時に立てた目標は達成されたか 研修員は研修内容を習得したか	● 各バッチの終了時に研修実施機関が作成した評価報告書によると、研修員の平均的な習得度は以下のとおりであった。 第 1 バッチ(JFY2015): 各分野グループ毎に Pre-test と Post-test が実施され、全てのグループで著しくスコアが上昇した。 第 3 バッチ(JFY2017): 自己評価により77%が知識習得度が「非常に高い」あるいは「高い」と回答し、残りは「中程度」であった。 第 4 バッチ(JFY2018): 自己評価により全研修員が知識習得度が「非常に高い」あるいは「高い」と回答した。 第 5 バッチ(JFY2019): 自己評価により 90%が知識習得度が「非常に高い」あるいは「高い」と回答し、残りは「中程度」であった。 *第 2 バッチの評価報告書は入手できなかった。 ● 「修了証」(帰国研修員サーベイ 1.b)に関して、サーベイ回答者全員が獲得したと答えている。 ● 「研修を通じた知識・スキルの向上度合い」(帰国研修員サーベイ 1.c)	本コース受講前後の研修員の知識習得度、及び帰国研修員自身の知識・スキル向上の評価の点から研修目標(初期アウトカム)は達成されたと判断される。	● Annual Eval. Report ● 追跡サーベイ

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
		に関して、研修員がそれぞれ参加した技術分野について、回答者全員が非常に高いあるいはある程度向上した、と高く評価した。 「一般的知識・スキルの向上度合い」(帰国研修員サーベイ 1.d)に関して、全般的に高い評価であり、「運営管理・実施」「人材配置・内部研修」をはじめとして「戦略策定」「リーダーシップ」「ネットワーキング」「プログラム／プロジェクト開発」の全ての項目で回答者が非常に高いあるいはある程度向上した、と回答した。		
	研修の満足度 研修内容にどの程度満足したか	帰国研修員サーベイ 1.f より、「講師の知識とスキル」「研修内容」「研修施設・運営(移動手段、宿泊、食事)」が特に満足度が高く、「研修方法(講義・グループ討議・OJT など)」「研修後のフォロー・サポート」についても高い評価であった。一方、「研修の長さ」については一部(2割)の回答者が「あまり満足しなかった」と答えた。回答者の総合的な満足度も非常に高かった。	サーベイの回答者数は限定的であったものの、全般的に帰国研修員は高い満足度を示した。	● 追跡サーベイ
	因果関係 目標達成にどのような点が貢献/阻害要因となったか	- 貢献要因として、①効果的なカリキュラム設計、②講師の的確かつ専門的知識、③研修員の高い意欲と熱心さ、が挙げられた。③については、参加研修員の中には研修参加後に別のバッチに異なる分野で再び研修に参加する者も見られた。(DIIT ヒアリングより) - 明確な阻害要因とは認められないものの、研修員に包括的知識を提供するとともに、研修員間のネットワークを強化するために、少なくとも 1 か月の研修期間を確保することが望ましいとのコメントがあった。(DIIT ヒアリングより)	上述のとおり研修目標(初期アウトカム)は達成されたと判断される。更に達成度を高めるために、研修期間を延長することを検討する余地がある。	● 研修実施機関インタビュー
インパクト	発現の見込み／因果関係 - 事業実施の結果としてインパクトの発現が見られるか、あるいは見込まれるか ★ 特に他の参加国や他コースの模範・参考になる成功事例が生まれたか(事例数は問わない) - アウトカムからインパクトに至るまでの外部条件は適切に認識されているか。外部条件が満たされる可能性は高いか - インパクト発現を阻害する要因はあるか	「帰国後に研修からの学びを活用したか」(帰国研修員サーベイ 1.g)という質問に対し、80%が「はい」、残りは「分からない／回答しない」と記入した。サーベイの自由記載欄において具体的な適用事例の記載はなかった。 「研修で得た学びをどのように活かしたか」(帰国研修員サーベイ 1.h)という質問に対しては、「同僚に共有」が 100%、「新しい戦略や業務方法の開発」と「トレーナーとして内外の研修に活用」がともに 80%と高い割合であった。 「研修参加後、昇進したか、また TCTP は昇進にどの程度貢献したか」(帰国研修員サーベイ 4.a)という質問に対しては、回答者の	知識・スキルの習得後に、多くの回答者が同僚との共有や自身の業務への適用を図っている。但し、回答者数が限定的であることや、具体的な適用事例の情報が得ら	● 追跡サーベイ

評価項目	評価設問	確認結果				差異・要因分析 /判断	情報源																																																					
				<table><thead><tr><th></th><th></th><th>Plan</th><th>Actual</th></tr></thead><tbody><tr><td rowspan="3">Batch 1 (JFY 2015)</td><td>JICA</td><td>1,524,958</td><td>1,109,218</td></tr><tr><td>TICA</td><td>716,540</td><td>n.a.</td></tr><tr><td>Total</td><td>2,241,498</td><td>n.a.</td></tr><tr><td rowspan="3">Batch 2 (JFY 2016)</td><td>JICA</td><td>1,863,000</td><td>1,736,874</td></tr><tr><td>TICA</td><td>n.a.</td><td>n.a.</td></tr><tr><td>Total</td><td>n.a.</td><td>n.a.</td></tr><tr><td rowspan="3">Batch 3 (JFY 2017)</td><td>JICA</td><td>1,477,520</td><td>1,383,820</td></tr><tr><td>TICA</td><td>1,176,400</td><td>1,149,780</td></tr><tr><td>Total</td><td>2,653,920</td><td>2,533,600</td></tr><tr><td rowspan="3">Batch 4 (JFY 2018)</td><td>JICA</td><td>614,500</td><td>469,739</td></tr><tr><td>TICA</td><td>818,120</td><td>728,811</td></tr><tr><td>Total</td><td>1,432,620</td><td>1,198,550</td></tr><tr><td rowspan="3">Batch 5 (JFY 2019)</td><td>JICA</td><td>1,061,220</td><td>1,055,222</td></tr><tr><td>TICA</td><td>655,500</td><td>607,700</td></tr><tr><td>Total</td><td>1,716,720</td><td>1,665,920</td></tr></tbody></table> (Source: JICA, DIIT)			Plan	Actual	Batch 1 (JFY 2015)	JICA	1,524,958	1,109,218	TICA	716,540	n.a.	Total	2,241,498	n.a.	Batch 2 (JFY 2016)	JICA	1,863,000	1,736,874	TICA	n.a.	n.a.	Total	n.a.	n.a.	Batch 3 (JFY 2017)	JICA	1,477,520	1,383,820	TICA	1,176,400	1,149,780	Total	2,653,920	2,533,600	Batch 4 (JFY 2018)	JICA	614,500	469,739	TICA	818,120	728,811	Total	1,432,620	1,198,550	Batch 5 (JFY 2019)	JICA	1,061,220	1,055,222	TICA	655,500	607,700	Total	1,716,720	1,665,920		
		Plan	Actual																																																									
Batch 1 (JFY 2015)	JICA	1,524,958	1,109,218																																																									
	TICA	716,540	n.a.																																																									
	Total	2,241,498	n.a.																																																									
Batch 2 (JFY 2016)	JICA	1,863,000	1,736,874																																																									
	TICA	n.a.	n.a.																																																									
	Total	n.a.	n.a.																																																									
Batch 3 (JFY 2017)	JICA	1,477,520	1,383,820																																																									
	TICA	1,176,400	1,149,780																																																									
	Total	2,653,920	2,533,600																																																									
Batch 4 (JFY 2018)	JICA	614,500	469,739																																																									
	TICA	818,120	728,811																																																									
	Total	1,432,620	1,198,550																																																									
Batch 5 (JFY 2019)	JICA	1,061,220	1,055,222																																																									
	TICA	655,500	607,700																																																									
	Total	1,716,720	1,665,920																																																									
期間、タイミング ● 事業期間は事業計画に見合った設定となっていたか(事業の完了は計画以内であったか) ● 前提条件、インプットのタイミング・方法(調達方法を含む)は適切に計画されていたか。 ● JICA/TICA がそれぞれ実施している他の研修事業と比較して、アウトプットに照らした投入の内容・方法について優位性があるか。	● 事業期間は計画どおり、JFY2015-2019 の 5 年間に 5 バッチの研修が実施された。	事業期間及び研修回数は、計画に沿って実施された。																																																										
実施プロセス	[募集・実施プロセス] ● 協力枠組み:TCTP は、JICA、TICA、DIIT が署名した覚書(MOU)に基づき運営される。JICA と TICA が予算を提供し、DIIT がプログラムの計画立案とモニタリングを担当する。(DIIT ヒアリング) ● TICA は外交ルートを通じて研修生を募集し、各コースの適格者を選抜するために DIIT にリストを提供する。また、航空券、送迎、保険な	GI 発出タイミングを早めて十分な募集期間を確保すべきと研修実施機関により度々指摘されて																																																										

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
		ど、研修生の受け入れプロセスの資金援助と管理を行う。募集・選定プロセスには時間がかかるが、TICA のサポートは重要である。(DIIT ヒアリング) ● JICA は、資金援助を行うほか、開会式、研修生の最終発表会、修了式に出席している。JICA の関係者は、時折、研修セッションにも出席していた。(DIIT ヒアリング) ● 各バッチ終了後の評価報告書では、募集段階において、本コースの参加者が研修の情報を知るタイミングが遅く、所属組織の許可を短期間で得ることに苦労した。GI の発出時期をもっと早めるべき(少なくとも研修開始の3カ月前)。(各バッチの終了時レポート) ● GI が本コースの内容と無関係な機関に送られたケースがあったため、TICA がタイ大使館に GI を送付する際にターゲット機関を明確化しておく必要性が示唆された。(終了時レポート) [モニタリング・評価・フォローアップ] ● 各バッチの終了時には、研修員に対する評価のフィードバック(満足度、知識習得の自己評価、活用見込み等)が求められた。また、今後の研修において必要な技術分野についても回答が求められており、研修実施機関等による次回バッチ以降の研修分野の検討に利用されたものと推察される。 ● 研修実施機関では、重大な課題として、フォローアップ体制の不在を認識している。これによりプログラムの長期的な成果や研修生が母国で習得した知識を応用している状況、具体的な成功事例を評価・特定することが困難となっている。ミャンマー、ラオス、ベトナムからの研修生の中には、LINE アプリや Facebook を通じて知識を移転した事例を共有している者もいるが、正式なシステムが必要である。(DIIT ヒアリング) ● 本コースは 2020 年に終了しており、現在はそこから 5 年が経過している。プロジェクト完了から 5 年後の評価では、データ収集に困難が生じる。当時関与した主要な担当者は退職または異動している可能性があり、関連データは分散していることが多い。今後事後評価を実施する場合にはより早期に実施すべきである。(DIIT ヒアリング)	いた。バッチによって参加者数が定員を満たさなかったことにも影響を与えていた可能性がある。帰国研修員に対するフォローアップ活動が行われておらず、研修後の状況を把握していないことが課題となっている。	

効率性 レーティング: アウトプット(修了者数)について十分な募集期間が確保されなかったことが一部影響した可能性があるが、計画値はおおむね達成されており、投入もそれに見合った実績であったと考えられる。研修全体の実施期間及び実施回数についても計画どおりであった。上記より、効率性のレーティングは③(高い)と判断する。

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
持続性	体制面 ● ネットワークは構築されているか(帰国研修員と JICA・TICA や研修講師とのネットワーク等) ● 帰国研修員同士のネットワークは構築されているか	● 上述のとおり、研修実施機関は一部の帰国研修員と LINE や Facebook を通じて連絡を取っているが、ネットワーキングを利用したフォローアップのシステムはない。(DIIT ヒアリング) ● 帰国研修員サーベイ(3.a)からは、5 名中 2 名の回答者は、「タイ人の講師」「タイ研修機関」「自国出身の他の研修員」との間に頻繁にコミュニケーションを取っていると答えた。その他のグループや個人との連絡の頻度は相対的に少ない。コミュニケーションの手段はオンラインが主体である。	研修機関(DIIT)と研修員の間では SNS によるネットワーク手段があるが、定められた活用の仕組みやフォローアップ活動はない。帰国研修員の研修機関との間や、同国出身の研修員間で自発的なコミュニケーションが行われているが、回答者数が限定的であることに留意が必要である。	●
	財政面 ● 研修の効果の持続性の観点から、予算措置は十分に講じられているか	● 研修実施機関は事後に研修員に対するフォローアップ活動を行っていない。	研修後の活動は行われておらず、TCTP 実施に関わる機関において特段の予算措置が講じられていない。	
	技術面 ● 研修に伴い導入される技術は研修員やその所属先により受容され、継続的に実行されうるものか	● 「インパクト」で述べた通り、帰国研修員サーベイでは回答者 5 名のうち 4 名が帰国後に学んだことを自身で活用していると回答した。「同僚に共有」が 100%、「新しい戦略や業務方法の開発」と「トレーナーとして内外の研修に活用」がともに 80%と高い割合であった。具体的事例についての情報は得られなかった。 ● 各バッチの終了時の報告書からは、複数の研修生が帰国後に知識を同僚と共有すること、またトレーナーとして自身が行う研修に活用し	帰国研修員レベルにおいては、習得した知識活用の今後の継続が一定程度見込まれる。所属先の組織レ	

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
		たいとコメントしている。(各バッチの終了時レポート) 一方、上述のとおり、研修実施機関では、帰国研修員の習得した知識の適用状況や、具体的な成功事例を把握するフォローアップの仕組みがないことを課題と認識している。(DIIT ヒアリング)	ベルにおける技術の継続見込みを判断する十分な情報は得られなかった。	
	アクションプラン アクションプランを作成した研修員は、それを実施・継続しているか	「アクションプランを実践したか」という質問(帰国研修員サーベイ 1.i)に対し、回答者 5 名中、全員が「はい」と回答した。具体的内容は回答に記載がなく不明である。	サーベイの回答からは、所属組織においてアクションプランを実施することに大きな制約がないものと理解される。但し、回答者数が全研修参加者数のごく一部に限られることに留意が必要である。	
	促進/阻害要因 研修の成果を持続・波及するにあたってどのような点が促進／阻害要因となったか	- 研修効果発現の貢献要因と阻害要因については、「有効性：因果関係」の記載を参照。 - 成果の持続・波及に関しては、帰国研修員及び所属組織における現在の活用状況について十分な情報を得られなかったため、その要因の判断は困難である。但し、間接的な影響要因として、現在の状況を把握するフォローアップ調査等が行われていないことにより、成果持続のための何らかの追加支援の検討・実施や、将来のコース実施におけるプログラム設計の改善などの対応につながる仕組みがないことが指摘できる。		
持続性 レーティング： 体制面においては研修機関と帰国研修員との間のネットワーク手段はあるものの、積極的な関係維持を含めたフォローアップの仕組みはない。財政面では、持続性を確保するための活動を担保する特段の予算の裏付けはない。技術面では、帰国研修員レベルでは知識活用の継続は一定程度見込まれるものの、所属先の組織レベルにおける技術活用の見込みを判断する十分な情報は得られなかった。以上より、持続性のレーティングは②(一部課題がある)と判断する。				
総合評価結果： 以上より、本コースの「妥当性・整合性」は高く、「有効性・インパクト」は高い。「効率性」は高く、「持続性」には一部課題がある。よって、総合レーティングは B (高い)と評価する。				

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
総合レーティング: B				

教訓:

- 本コースは 2020 年の完了後、5 年が経過しており、本事後評価調査の一環として実施した帰国研修員サーベイにおいて全帰国研修員(90 名)のうち回答を得た人数(5 名)は極めて限定的であった。また、研修実施機関においても人事異動等により、当時の本コース担当者から直接情報収集することはできなかった。今後、TCTP 帰国研修員の現況調査や事後評価の実施を検討する際の教訓として、事後評価の適切な実施タイミングの検討(例えば、バッチにより研修受講年が異なることにも留意しつつ、研修終了からあまり時間を置かずに 1~2 年後とするなど)、事後評価時の回答率向上も目的として帰国研修員との定期的な連絡やネットワーク活動の実施検討、が挙げられる。
- 本コースの各バッチの終了報告書からは、募集段階において GI の対象機関への通知をより早いタイミングで行うべきことが度々提案されている。潜在的对象者が TCTP 研修コースへの応募を十分に検討し、所属機関の許可を得て、応募書類を準備できるように、適切な期間(研修開始の少なくとも 3 ヶ月前など)を確保することが重要である。また、コースの内容に合致した適切な対象機関に GI が迅速に届けられるように、研修実施機関と TICA、JICA が予め検討し、対象国のタイ大使館に確実に伝達することが望ましい。

提言:

- 本コースでは、DIIT と帰国研修員との間の積極的なネットワーク継続のための活動や、その他のフォローアップ活動も行われておらず、DIIT でもそれが課題と認識されている。今後 TCTP を継続する際には、研修効果の更なる向上のために、こうしたフォローアップ活動を強化することが期待される。但し、帰国研修員のネットワーク機能の強化やフォローアップ活動の実施は必ずしも研修実施機関単独で行い得るものではないため、TICA 及び JICA がそれぞれの事業活動との将来的連携などフォローアップ活動を実施する目的を共有した上で支援することが望ましい。

2025 年度テーマ別評価 タイ国第三国研修に関する合同評価
コース別評価結果表

9	Workshop on Investment Promotion Policy and Enhancing Industrial Competitiveness for Mekong and South Asian Countries
---	---

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 ／判断	情報源
妥当性	(1) 開発政策との整合性 ● 研修内容は相手国の開発政策及び開発計画との整合性はあるか(国・地域・セクター等の各レベル)	● 対象となったメコン・南アジア諸国にとって外国直接投資(FDI)の促進は持続的な経済成長のために最優先課題である。同時に、ASEAN 地域内のメンバー国の経済格差を縮小することはタイの責務でもある。 ● 一方で、FDI の促進により先に経済成長を実現したタイは、メコン・南アジア諸国にとって、FDI の促進のモデルケースおよび情報提供ソースとして最適である。 ● メコン・南アジア諸国の開発政策及び開発計画はいずれも FDI の促進による持続的な経済成長を重要課題の一つとして掲げており、本研修の実施の整合性は高い。なお、研修対象者の枠は、8 か国×3名＝18名であった(カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム、バングラデシュ、パキスタン、スリランカ)。	FDI の促進について先に成功したタイから学ぼうというニーズが高かった。	● R/D・GI ● 国別開発協力方針・事業展開計画
	(2) 開発ニーズとの整合性 ● 研修は相手国のターゲットグループのニーズに合致していたか	● GIにも記載されているように、招請された研修員は、FDI 関連業務に 10 年以上の経験があるディレクターレベルの政府職員であり、まさにタイ投資庁(BOI)の政策誘導から学ぶニーズは大きかった。	民間企業ではなく、政策官庁の職員を対象としたことが成功要因であった。	● R/D・GI ● 現地調査メモ
	(3) 手段としての適切性 ● 研修員のニーズに対して研修内容は妥当であったか ● 効果的な研修内容となるように日本側とタイ側の投入の役割分担が行われていたか。 ● アウトカム／事業目的の達成につながるようにインプット、アウトプットのロジックが適切に計画されていたか。	● GIに実施手順と各機関の役割分担が明記されており、適切だったと言える。 ● GIやコースレポートから作成したロジックモデルの検証によると、各国の投資庁に相当する官庁の誘導政策により、BOIを促進し、ひいては貿易とGDPの拡大を実現し、最終的に国民福祉を増進するというロジックは大変妥当であったと言える。 ● 帰国研修員サーベイの回答数はわずか(n=3)であり少数にとどまった理由は不明だが、帰国研修員サーベイ(Q1e)の「研修はあなたの仕事(Work)にとってどれくらい適切(relevant)だったか?」という質問に対する回答の平均値は 4.0(回答は1～4の4段階)で、「たいへん適切」となった。自由記載のコメントはなかったが、終了時評価の結果から、講義とサイト訪問を組み合わせた総合的なカリキュラ		● Annual Eval. Report ● 貴国研修員サーベイ ● TICA/JICA 事務所/研修実施機関インタビュー

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 ／判断	情報源
		ムが評価されたと推察される。		
整合性	(1) 日本の援助政策との整合性 ● 日本の援助政策・外務省の国別援助方針との整合性はあるか	● 「対タイ王国 国別開発協力方針」では、大目標として「包括的・戦略的パートナーシップに基づく現代的課題への対処及び地域開発を牽引する協力の推進」と記載あり。また中目標のひとつとして、「(3)第三国協力の実施 ASEAN・メコン地域及び国際社会の課題に関するタイとの協議を通じて、両国 が連携すべき第三国協力案件を展開する。」という記載がある。本研修はまさに、メコン・ASEAN諸国を対象とした研修であり、同方針に大変合致している。	タイを拠点としてメコン・ASEAへの支援を拡大するという意向がダイレクトに反映された研修になっていたことが成功要因と言える。	● R/D ● 対タイ国別開発協力方針
	(2) JICA 内外の事業・機関との連携 ● JICA の他事業や日本、他の開発協力機関等との連携は行われたか	● 日本の農機具メーカーのクボタを訪問してサイト視察を行って、最先端の機械化農業を視察する機会を設けている。		● 終了時サーベイ ● 研修実施機関インタビュー
	(3) タイの援助政策との整合性 ● タイの援助政策・方針との整合性はあるか	● タイ政府の外交政策に基づき外国政府と協力して、途上国を支援するというTICAの目的と合致している。		● GI ● TICA 事務所/ 研修実施機関インタビュー
妥当性サブレティング： (1)各国の開発計画に明記あり、(2)ターゲットとする参加者の参加条件も非常に適切で、(3)タイ側と日本側で役割分担が考慮されており、サブレティングは④と判断した。 整合性サブレティング： (1)日本の政策、(2)日本側の事業・機関との連携、(3)タイの政策とも整合性を確保しており、サブレティングは④と判断する。 妥当性・整合性レーティング： 上記より、妥当性・整合性のレーティングを④(非常に高い)と評価する。				
有効性	アウトカムの内容 ● 研修参加時に立てた目標は達成されたか 研修員は研修内容を習得したか	<アウトプットレベル> ● 参加実績：18名の研修員枠に対して2023年は6か国から18名(カンボジア、ラオス、ミャンマー、バングラデシュ、スリランカ、ネパール)、2024年は5か国から17名(カンボジア、ミャンマー、バングラデシュ、スリランカ、ネパール)の参加を得ており十分と言える。ただし、ASEANのいくつかのメンバー国からの参加者がいないことを指摘するコメントもある。 ● 修了証の実績：研修参加者全員が無事に研修コースを修了して修了証を授与された。今回の研修生事後サーベイの回答者(n=3)でも100%が修了証の取得を報告しており、高い有効性を示していると言える。 <初期的アウトカムレベル>	このTCTPコースは2024年度に初めて実施されたコースである。事前段階のアウトカム指標は研修員ゼロということ、事後段階では着実な帰国研修員の育成とことになる。その際の要因はTCTP研修の実施であ	● 帰国研修員サーベイ ● 研修実施機関インタビュー

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 ／判断	情報源
		● 分野知識・技術の習得: 帰国研修員サーベイの回答の平均値 3.4で「ある程度の進捗があった」(progressed by some degree)を大きく上回った。項目別では以下のとおりであった(n=3) - タイ経済の概要とASEAN・メコンとの連携 3.3 - BOI 導入(i)-投資誘致政策 3.7 - BOI 導入(ii)-投資誘致とインセンティブを獲得するには 3.7 - BOI 導入(iii)-国内直接投資 3.3 - 税関規制・手続きと輸入関税 3.0 - 自由貿易合意(FTA)のもとでの輸出入手続き 3.0 - IEAT の投資促進: 特権・優遇・促進 3.0 - 長期滞在ビザ・労働許可・その手続き 3.7 - ASEAN に投資する多国籍企業の経験 3.0 ● 一般的知識・技術の習得: 帰国研修員サーベイの回答の平均値は3.0で「ある程度進捗があった」(progressed by some degree)であった。戦略策定、プログラム・プロジェクト開発、人材配置・研修、予算策定、一般管理・執行、個別事業のリーダーシップ、組織全体(省庁)におけるリーダーシップの回答平均値が 2.71~3.0 であった一方、政策形成、組織内外の人々のネットワークの二つが 3.7 で最も高かった。	る。	
	研修の満足度 ● 研修内容にどの程度満足したか	● 終了時評価のコース評価では、「大変満足」(Utmost satisfaction)が 2023 年は55.56%、2024 年度が94.12%でたいへん高かつ2年目の方が大幅に向上した値となっている。研修終了時には、研修にに対して高い満足度が示されたと言える。 ● 帰国研修員サーベイ(n=3)によると、回答の平均値 3.3 で「ある程度の満足」を上回った。個別の回答平均は以下のとおりであった。研修施設等(移動、宿泊施設、食事)と研修期間が最も高く、研修後のフォローアップ・支援に課題があるようである。 - 講師の知識・技術 3.7 - 研修の内容 3.7 - 研修の方法 3.7 - 研修施設等(移動・宿泊施設・食事) 4.0 - 研修の期間 4.0 - 研修後のフォローアップ・支援 3.0 ● 終了時評価のサーベイでは講師に内容と英語が十分ではない人がい	要因として研修施設等(移動、宿泊施設、食事)の満足度が大きかったことがあげられる。	● 帰国研修員サーベイ ● 研修実施機関インタビュー

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析／判断	情報源
		たとのコメントがあった。慎重な人選が望まれる。		
	因果関係 ● 目標達成にどのような点が貢献/阻害要因となったか	研修の目的が明確であること、タイというサクセスケースから実例を学べるのが貢献要因となっていると言える。		
インパクト	発現の見込み／因果関係 ● 事業実施の結果としてインパクトの発現が見られるか、あるいは見込まれるか ★ 特に他の参加国や他コースの模範・参考になる成功事例が生まれたか(事例数は問わない) ● アウトカムからインパクトに至るまでの外部条件は適切に認識されているか。外部条件が満たされる可能性は高いか ● インパクト発現を阻害する要因はあるか ● プラスの影響が想定されるか？マイナスの影響についてはそれを軽減するための対策は取られているか ● 日本へのインパクト発現が見込まれるか ● タイへのインパクト発現が見込まれるか ● 対象国へのインパクト発現が見込まれるか	<中間アウトカムレベル> ● 帰国研修員サーベイによると、回答者全員(n=3)が習得した知識・技術を帰国後に仕事に適用していると回答している(100%)、極めて高い適用の度合いと言える。 ● ではどのように適用しているかに関しては、帰国研修員サーベイによると、「同僚と共有した」が最も高く(100%)、次いで「管理者や上司に変化を促した」(66.7%)となっている。FDIの促進には上司の理解が重要という認識がこの活用の結果に表れている。 ● 帰国研修員サーベイによると「Action Planは実行されたか？」という質問に対しては、回答した3人中2人が「はい」と答え、一人が「若からぬ／答えたくない」と回答している。定性的コメントとしては、「通常の活動はしている一方、普及には予算が限られている」「SEZ(特別経済特区)のコンセプトを適用して、新しい SEZ の建設を計画している(ドラフト段階)」というコメントがあった。 <最終アウトカムレベル> ● 研修機関へのインタビュー結果によると、タイの投資家との一対一マッチングセッションにより、研修参加者の送り出し国への投資に結びついた事例があるとのことである。これは本研修の研修内容とは別の話ではあるが、アウトカムのひとつと言える。 ● 帰国研修員サーベイの「サクセスケース」を問う質問に対して、回答した3名中2名が「新しいアイデア:得られた知識を利用して新アイデアを形成および主導」と「生産性の向上:仕事の改善」があったと回答しているが、「サクセスケース」と呼べる具体的な事例は報告されなかった。 <追加:個人レベルの昇進> ● 帰国研修員サーベイによると、回答者3名のうち、2名が「回答したくない／知らない」と答え、1名が「変化なしと回答している。ただし昇進に関して TCTP 研修への参加が大きな貢献となった(1名)と「ある程度貢献した」(2名)と回答している。	得られた知識がAIを含むデジタル技術であり、今後長期的なニーズが見込まれる技術であることが、インパクト発現の要因としてあげられる。	● 帰国研修員サーベイ ● 研修実施機関インタビュー

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 ／判断	情報源
	その他インパクト (研修実施機関やインストラクターに与えたインパクトの有無など) ●	● 研修実施機関へのインタビューによると、TCTP の実施により参加各国とのネットワークを拡大するとともに、ウェブサイトには載っていないような各国の市場の最新の状況を常に知ることができる。 ●		● 研修実施機関インタビュー
研修員は知識・スキルの習得を達成し、帰国後の業務への知識適用や同僚への共有が行われているが、回答者数が少数にとどまり、具体的事例の情報は入手できなかった。副次的インパクトとして、研修内容とは別に研修員が参加したタイの投資家とのマッチングセッションにより、研修員の所属国への投資につながる事例があった。以上より、有効性・インパクトのレーティングは③(高い)と判断する。				
効率性	事業計画 ● アウトプットを産出するために必要な量・質の投入が計画されていたか	● Settlement for Training Expenses によると、当初計画と実績は以下のとおりであった。当初計画内の支出で実施されたことが確認できた。計画では COVID19関連を含む予備費を積んでいたが、それがあまり支出されなかったことが理由であると言える。なお、JICA と TICA の支出分担に関する情報は無い。 計画値 実績値((%) 2023(JFY2022) 649,900. ⁰⁰ 474,584. ²⁰ (73.02%) 2024(JFY2023) 439,178. ⁰⁰ 345,562. ²⁰ (78.68%)	予算と実績の差異は、東チモールからの研修員(3名)の参加が最終的に見送りになったことが大きな要因である。	● Settlement for Training Expenses などの提供資料
	期間、タイミング ● 事業期間は事業計画に見合った設定となっていたか(事業の完了は計画以内であったか) ● 前提条件、インプットのタイミング・方法(調達方法を含む)は適切に計画されていたか。 ● JICA/TICA がそれぞれ実施している他の研修事業と比較して、アウトプットに照らした投入の内容・方法について優位性があるか。	● 十分な準備期間を取り、計画通りに実施された。 ● とくにタイ国内の関連省庁との連携が充実していた。また、BOI の地方支局との連携もスムーズだったようである。	コース内容など事前の準備に十分な時間をとったことが主な要因である。	● 研修実施機関インタビュー ● 実施機関が作成した Evaluation Report

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 ／判断	情報源
効率性 レーティング: 研修員数が計画より少なかったことを反映して支出も計画額を下回った。事前の準備もスムーズで予定通りの期間で実施できたので、効率性は高い(③)と判断する。				
持続性	体制面 - ネットワークは構築されているか(帰国研修員と JICA・TICA や研修講師とのネットワーク等) - 帰国研修員同士のネットワークは構築されているか	- 帰国研修員サーベイ(n=3)の結果を見ると、同じ国からの帰国研修生同士とのコミュニケーションが頻繁に行われている。方法は email とのことであった。 - さらに、タイBOIの代表団の訪問をホストする機会があったという回答もあった。 - またBOIとしては、TCTPを通じて、参加国それぞれのFDIを含む最新の情報を把握する機会を持つことができたという解説もあった。	BOIの代表団が派遣されたことが研修機関とのネットワーキングの実績となっている。	●帰国研修員サーベイ
	財政面 研修の効果の持続性の観点から、予算措置は十分に講じられているか	帰国研修員サーベイ(n=3)では、得られた知識の普及のための資金に制約があることが報告されている。		●帰国研修員サーベイ
	技術面 研修に伴い導入される技術は研修員やその所属先により受容され、継続的に実行されるものか	FDI の促進がもたらす社会経済的な効果を把握するには、帰国後のフォローアップが必要という指摘があった。3年間の研修が終わるまでにフォローアップシステムの構築が期待される。		●帰国研修員サーベイ ●実施機関インタビュー
	アクションプラン アクションプランを作成した研修員は、それを実施・継続しているか	帰国研修員サーベイ(n=3)の結果を見ると、アクションプランの実行への取り組みは行われている。ただし、繰り返しになるが、正式なフォローアップの仕組みがないことが課題となっている。		●帰国研修員サーベイ ●TICAインタビュー結果
	促進/阻害要因 研修の成果を持続・波及するにあたってどのような点が促進／阻害要因となったか	促進要因としては、FDI の促進というテーマであること。促進策や制度など具体的な講義が組みやすかったと思われる。また、サイト訪問などで民間企業の協力が得られやすかったことも挙げられる。 阻害要因としては、非常に特殊な例だが、講師の英語力が不足していたケースがあったことで、慎重な人選が今後望まれる。		●TICAインタビュー結果
持続性 レーティング: 少数のサーベイ回答からは、帰国研修員間で頻繁にコミュニケーションが図られている。帰国研修員が自国への研修実施機関の代表団訪問をホストする形でのネットワーク維持が確認された。他方、研修実施機関による体系的なネットワーク確立やフォローアップシステムがない。また、回答者数の制約から、技術面、財政面での十分な情報が得られなかった。以上より、持続性は一部課題がある(②)と判断する。				
総合評価結果: 妥当性は非常に高く(④)、有効性・インパクト、効率性はともに高い(③)。持続性には一部課題がある(②)。以上から総合レーティングは高い(B)と評価する。				
総合レーティング: B				

教訓:

1. One on one meeting(各国からの研修員とタイ企業とのマッチング会合)はニーズが高いことがわかった。これはTCTPの研修内容とは直接関係がないが、まさに研修で得られた知識・経験を母国に帰国後にすぐに適用する実践的機会を提供することになる。
2. ASEANメンバー国で、本研修に参加者を出していない国がある。ベトナムやインドネシアなどだがこれらの国は、FDI促進の研修は今更特に必要ないという判断ならそれでいいが、ASEANの域内投資促進をはじめとするASEANの地域的結束を保つためにも一度確認が必要と思われる。
3. 帰国研修員サーベイの回答数が、研修参加者 14 名に対して 3 名ということで、他のTCTPのコースに比べて、極めて低かった。この回答数の少なさが本分析結果に影響した可能性があるため、なぜ少なかったのかの検討が必要と思われる。

提言:

1. この TCTP 研修自体は、先進的なテーマを一つの研修に仕上げたと言え、今後も需要が高まると思われるので、今後も継続すべき。
2. One on one meeting(各国からの研修員とタイ企業とのマッチング会合)はニーズが高く、時間と回数を拡大すべき。
3. 研修生の帰国後のフォローアップシステム(帰国後に得られた知識・経験を実際に利用しているか)を確立すべき。年一回のオンラインの懇親会などが考えられる。また、予算上可能なら物理会合も検討に値する。
4. 研修実施機関のコメントによると、参加者の募集・申請期間は、1～2 か月など、もっと長くすべきだ。研修生が研修期間中の休暇を調整し、ビザを申請するには、2～3 週間では短すぎる。
5. 同様に、研修実施機関のコメントによると、JICA と TICA の職員は、現在、彼らは開会式と閉会式にしか出席していないが、研修にもっと頻繁に出席し、フィードバックや改善のためのアドバイスを提供することを要望している。
6. BOI 職員の予算(旅費など)は、全体予算に含まれておらず、そのおかげで現地訪問や調査の機会が限られている。BOI はバンコクだけでなく、タイの南部と北部にも事務所を置いているので、BOI としては研修生にチェンマイなどの北部の現地訪問をしてほしいと考えているが、職員を同行させる予算の制約によりそれができていないので、職員の予算が追加されるべきだ。

2025 年度テーマ別評価 タイ国第三国研修に関する合同評価
コース別評価結果表

10	Strengthening Disability Inclusive Risk Reduction in the ASEAN Region
----	---

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
妥当性	(1) 開発政策との整合性 ● 研修内容は相手国の開発政策及び開発計画との整合性はあるか(国・地域・セクター等の各レベル)	● GI によると以下の国際的な政策枠組みにおいて DIDRR の必要性が示されている。“Sustaina Development Goals (SDGs)”, “Sendai framework”, “UNCRPD Article 11”, “Incheon Strategy Goal 7” and the latest one, “ASEAN Enabling Masterplan 2025”	ASEAN 地域や DIDRR に関する国際的な枠組みと一致している。	● R/D
	(2) 開発ニーズとの整合性 ● 研修は相手国のターゲットグループのニーズに合致していたか	● 国連が実施した 2013 年の調査では、障害者の 71%が個人の防災計画を持たず、13%は避難を手助けする人がいないと回答していた。また、地域の防災計画への参加経験がある人はわずか 14%にとどまり、障害者の声が計画に反映されていないという課題が指摘されていた	ASEAN 地域における災害リスク軽減(DRR)に障害者を包摂する体制づくりは喫緊の課題であり、本研修のニーズは高い。	● R/D
	(3) 手段としての適切性 ● 研修員のニーズに対して研修内容は妥当であったか ● 効果的な研修内容となるように日本側とタイ側の投入の役割分担が行われていたか。 ● アウトカム／事業目的の達成につながるようにインプット、アウトプットのロジックが適切に計画されていたか。	● 「研修内容は業務内容とどの程度整合していたか(Ex-trainee survey Question 1e)」という問いに対し、回答者の約 7 割が「非常に高い」、2 割が「ある程度高い」と回答しており、自身の業務や組織にとって本研修との関連性が高く、有益であったと評価した。特に、障害者を含む防災(Disability-Inclusive DRR: DIDRR)に関する知識の習得が実務に直結しているとのコメントが複数あった。(研修員向け google survey より) ● 日本からは資金的な支援に加えて、リソースパーソンによる技術的支援が提供されており、研修の質の向上に大きく寄与している。また、TICA は資金支援のみならず、外交チャンネルを活用した研修員募集や、研修準備・内容に関する一定のインプットを行うことで、研修の効果的な実施を支えている。さらに、タイ側においても障害者支援局(Dept. of Empowerment of Persons with Disabilities)、防災局(Dept. of Disaster Prevention and Mitigation)などから研修員に対する知識の共有が行われている(APCD ヒアリングメモ) ● RD 等を基に評価者が作成したロジックは下表のとおり。ASEAN 各	本研修は、参加者の業務内容と一致し有益であると評価していた。また、日本からの技術的支援や TICA による研修員選定・運営支援、さらにタイ国内関係機関の協力体制がとられていた。これらの支援体制を通じ、研修員は知識とトレーナーとしてのスキルを習得	● Annual Eval. Report ● 帰国研修員追跡サーベイ ● TICA/JICA 事務所/研修実施機関インタビュー

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源															
		国から参加した研修員が DIRR に関する知識とともにトレーナーとしてのスキルを習得することにより、帰国後、防災計画や政策への反映が想定されていた。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>Output =></th><th>Initial Outcome =></th><th>Intermed.Outcome =></th><th>Final Outcome =></th><th>(Further)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>e.g.) # certified</td><td>e.g.) Skills obtained</td><td>e.g.) Application of skills</td><td>e.g.) Production ↑ & Income ↑</td><td>e.g.) Life ↑</td></tr> <tr> <td>Participants completed the training course with certificate</td><td> -Participants gain knowledge on DIDRR in the ASEAN region. -Participants understand the DIDRR trainer knowledge and procedures </td><td> -Participants share the knowledge on DIDRR with their workplaces, families, and communities. -Participants act as DIDRR trainers in their home countries </td><td> Disaster management plans and policies reflecting the DIDRR will be developed. </td><td> DIDRR becomes a standard and persons with disabilities and their families can participate in all disaster risk reduction activities and live safely in their communities. </td></tr> </tbody> </table>	Output =>	Initial Outcome =>	Intermed.Outcome =>	Final Outcome =>	(Further)	e.g.) # certified	e.g.) Skills obtained	e.g.) Application of skills	e.g.) Production ↑ & Income ↑	e.g.) Life ↑	Participants completed the training course with certificate	-Participants gain knowledge on DIDRR in the ASEAN region. -Participants understand the DIDRR trainer knowledge and procedures	-Participants share the knowledge on DIDRR with their workplaces, families, and communities. -Participants act as DIDRR trainers in their home countries	Disaster management plans and policies reflecting the DIDRR will be developed.	DIDRR becomes a standard and persons with disabilities and their families can participate in all disaster risk reduction activities and live safely in their communities.	し、帰国後に防災計画や政策へ反映することが期待されており、研修は手段として適切であったと言える。	
Output =>	Initial Outcome =>	Intermed.Outcome =>	Final Outcome =>	(Further)															
e.g.) # certified	e.g.) Skills obtained	e.g.) Application of skills	e.g.) Production ↑ & Income ↑	e.g.) Life ↑															
Participants completed the training course with certificate	-Participants gain knowledge on DIDRR in the ASEAN region. -Participants understand the DIDRR trainer knowledge and procedures	-Participants share the knowledge on DIDRR with their workplaces, families, and communities. -Participants act as DIDRR trainers in their home countries	Disaster management plans and policies reflecting the DIDRR will be developed.	DIDRR becomes a standard and persons with disabilities and their families can participate in all disaster risk reduction activities and live safely in their communities.															
整合性	(1) 日本の援助政策との整合性 ● 日本の援助政策・外務省の国別援助方針との整合性はあるか	「対タイ王国 国別開発協力方針」では、ASEAN・メコン地域及び国際社会の課題に関するタイとの協議を通じて、両国が連携すべき第三国協力案件を展開することが明記されており、その主要なスキームとして第三国研修が掲げられている。 - タイと日本は、1994 年に立ち上げられた日タイ間の第三国協力の枠組みである日タイ・パートナーシッププログラム(JTPP)(現在はフェーズ 3)の下で、JICA 及び TICA との間で ASEAN 諸国等第三国に対する研修を実施することになっている。	ASEAN 諸国における第三国研修の実施は日本の援助政策及び外交方針と一致している。	● R/D ● 対タイ国別開発協力方針															
	(2) JICA 内外の事業・機関との連携 ● JICA の他事業や日本、他の開発協力機関等との連携は行われたか	- APCD に派遣されている JOCV が帰国研修員フォローを実施。日本からは資金的な支援だけでなく、リソースパーソンからの技術的な支援を得ている。(APCD ヒアリングより)。 - APDC としては今回の TCTP は第3回目。第一回目は「若手リーダー育成(2014-2016 年)」、第二回目は「障害者スポーツによる社会参加と自立支援(2017-2019 年)」。(RD より)	APCD に派遣されている JOCV による帰国研修員のフォローアップや過去の TCTP を含め、日本の支援スキームと連携している。	● R/D ● 研修実施機関インタビュー															

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
	(3) タイの援助政策との整合性 ● タイの援助政策・方針との整合性はあるか	「日本の援助政策との整合性」で記載のとおり、JTPP の枠組みのもので TCTP は実施されている。 - TICA のミッションは「タイの外交政策および『足るを知る経済(SEP)』に基づく開発協力の推進」であり、その目的の一つとして「タイを新興ドナーとしての地位を強化するとともに、持続可能な開発に関する学習とベストプラクティス共有の拠点としての役割を強化する」ことが掲げられている。TCTP は、こうしたミッションおよび目的の下で実施されていると考えられる。	TCTP は、タイと日本の協力枠組みの一環として実施されており、タイの外交政策とも整合している。	● TICA ウェブサイト
妥当性サブレーティング： ASEAN 地域の開発課題と整合しており、手段としての適切性においてはタイ側と日本側で役割分担が考慮されており、サブレーティングは④と判断する。 整合性サブレーティング： (1)及び(3)で整合している一方で、(2)APCD に派遣されている JOCV が帰国研修員フォローを実施する具体的な連携が認められることから、サブレーティングは④と判断する。 妥当性・整合性レーティング： 上記より、妥当性・整合性のレーティングを④と評価する。				
有効性	アウトカムの内容 研修参加時に立てた目標は達成されたか。研修員は研修内容を習得したか	「修了証」はすべての回答者が獲得したと回答した(Ex-trainee survey Question 1 b)。 「研修を通じた知識・スキルの向上度合い」に対し、「ASEAN 諸国における DIDRR の概念と状況」「ASEAN および日本における DIDRR の優良事例」「DIDRR のファシリテーションと SNS 活用スキル」については多くの研修員が高く評価した一方で、「DIDRR トレーナーとしての知識と手順」については、一部の参加者にとっては内容が難しかった、あるいは業務との関連が薄かった可能性がある。(Ex-trainee survey Question 1c) 「一般スキル」に関しては、全般的に「ある程度進展した」「大きく進展した」という回答が多く、主に戦略策定、プログラム／プロジェクト開発、人的配置・研修、予算編成、実施管理などの分野で、多くの参加者が一定以上のスキル向上を実感していることが示された。他方で、「リーダーシップ」に関しては、多くが向上したと回答した一方、一部の回答者からは「それほど進展していない」「まったく進展していない」との回答もあった。(Ex-trainee survey Question 1d)	本研修は、全員が修了証を取得し、計画された学習課程を修了した点で一定の成果を上げた。多くの研修員は、DIDRR の概念や優良事例、ファシリテーションなどの分野で知識・スキルの向上を実感している。	● 帰国研修員追跡サーベイ
	研修の満足度 研修内容にどの程度満足したか	研修の満足度に関し、「講師の知識とスキル」「研修内容」「研修方法(講義・グループ討議・OJT など)」については大半が大変満足と回答した。研修全体への満足度については、約 94%が満足と回答し、ネットワーキングの構築や異文化交流の機会が提供されたことが挙げられた。他方で「空港送迎の時間を事前に案内してほしい」、「研修期間を少し長くし、ケーススタディなどを深掘りできるとより良い」、「研修後のネットワーク継続支援があると望ま	アンケート調査より高い満足度が示された。	● 帰国研修員追跡サーベイ

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
		しい」などの改善案も挙げられた。(Ex-trainee survey Question 1d)		
	因果関係 ● 目標達成にどのような点が貢献/阻害要因となったか	①ヒューマンネットワーク。研修終了後も障がい者に関して良い態度で働きかけを続けている。②DIDRR において障がい者は単に支援を受ける側ではなく、他者を助け、チームにおいて共に働くパートナーであるという信念。③DIDRR の考えが誰にとっても喫緊の 이슈 になってきていること。コミュニティにおける誰もが守られ、安全でなければならないということを、今やライフスキルとして学ぶべきものである。④研修後も Google Space を通じて強い絆が築かれていること。このコースは 2 週間の研修を 3 回、3 年間にわたり継続するが、研修中には研修員同士が朝から晩まで共に過ごし、アサインメントなどにも共同で熱心に取り組んでいる。そのことが、研修終了後の強いコミットメントに繋がっている。他方で阻害要因としては、帰国研修員の異動、フォローアップ予算・システムの不在が挙げられた。(APCD ヒアリングより)	本研修の成功要因としては、3 年間にわたり継続的に実施された研修では、共同作業や交流を通じて信頼関係が築かれていた点が挙げられる。一方で、帰国後の人事異動や、フォローアップのための予算・制度的仕組みが十分に整備されていないことが、学びの持続とネットワークの活用を阻害する要因である。	研修実施機関インタビュー
インパクト	発現の見込み／因果関係 ● 事業実施の結果としてインパクトの発現が見られるか、あるいは見込まれるか ★ 特に他の参加国や他コースの模範・参考になる成功事例が生まれたか(事例数は問わない) ● アウトカムからインパクトに至るまでの外部条件は適切に認識されているか。外部条件が満たされる可能性は高いか ● インパクト発現を阻害する要因はあるか ● プラスの影響が想定されるか？マイナスの影響についてはそれを軽減するた	●「帰国後に研修からの学びを活用したか」という質問に対し、約 70%が「はい」、20%「いいえ」と回答した。複数の参加者は、研修で得た知見を上司や同僚に共有し、組織の計画に DiDRR の視点を組み込むことを提案するなど、組織内での制度化に向けた働きかけを行っている。また、ドナーからの支援を受け「障害者気候変動対応プロジェクト」の実施につなげた例も挙げられた。他方で、「いいえ」と回答した理由は、人事異動により実践機会を得られなかったという内容であった。(Ex-trainee survey Question 1g) ●「研修で得た学びをどのように活かしたか」という質問に対しては、「同僚に共有」が 100%、「より良い意思決定での活用」「上司への提言」がそれぞれ 60%であった。(Ex-trainee survey Question 1h) ●「研修参加後、昇進したか、また TCTP は昇進にどの程度貢献したか」という質問に対しては、回答者の約 70%が昇進したと回答した。昇進への貢献については、20%が「あまり無い・分からない」と回答したが、それ以外はある程度の貢献があったことがわかる。(Ex-trainee survey	帰国後、多くの研修員が学びを職場や地域に還元し、上司や同僚への知識共有や組織計画への DIDRR 視点の導入を進めている。中には、ドナー支援を得て「障害者気候変動対応プロジェクト」を立ち上げるなど、具体的な事業展開につなげた	●帰国研修員追跡サーベイ ●研修実施機関インタビュー

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源						
	めの対策は取られているか ● 日本へのインパクト発現が見込まれるか ● タイへのインパクト発現が見込まれるか ● 対象国へのインパクト発現が見込まれるか	Question 4a,4b) ● 成功事例としては次の 3 事例が挙げられた。①フィリピンの National Commission of Senior Citizens に所属する帰国研修員からの報告では、TCTP 受講後に、フィリピンの政府部門で DIDRR を推進するリソースパーソンとして知識普及の活動を行っている。②ベトナムの例では、帰国研修員が同国の障がい者団体のチーフとして、コミュニティにおける DIDRR の考え方の共有に努めており、彼の所属組織も Center for Technical and Disaster Prevention Policy(農業・農村開発省傘下の機関)と連携して必要な情報やデータの収集を行った。③インドネシアの例では、YAKKUM Emergency Unit という NGO に所属する帰国研修員が適切な準備をすることで災害時のインパクトを最小化することができることを訴え、DIDRR の考え方を普及と意識向上活動を行っている。(APCD ヒアリングより) YEU と中部スラウェシの障害者団体との協働による取り組み。研修で得た知識と視点を活かし、障害のある人々やその家族に向けた、地震災害への備えを紹介するイノベーション動画の共同制作が実現。 https://youtu.be/8VPn34CnTP4?si=3sUuGbdPZSfpMbQO (Ex-trainee survey Question 2a,2b)	例も見られた。また、フィリピン・ベトナム・インドネシアなどでは、帰国研修員が DIDRR の普及活動や教材制作を通じて、障がい者を含む地域社会の防災力強化に貢献している。							
	その他インパクト (研修実施機関やインストラクターに与えたインパクトの有無など)	特になし								
有効性・インパクトレーティング： 本研修は、ほぼ同一の研修員に対し 3 年間にわたり継続的に実施したことで、研修員間に信頼関係が構築された点は有効であった。帰国後、多くの研修員が学んだ知識やスキルを職場や地域に還元し、DIDRR の視点を組織計画に取り入れたり、知識共有や普及活動、教材制作、さらにはドナー支援を得た具体的な事業展開につなげたりするなど、実践的な成果が確認されたことから、有効性・インパクトのレーティングは④(非常に高い)と判断する。										
効率性	事業計画 ● アウトプットを産出するために必要な量・質の投入が計画されていたか	● 参加人数については、RD では最大 40 としていたが、実績は以下のとおり各年 16～23 名であった。 <table><tr><th>Plan</th><th>Actual</th></tr><tr><td rowspan="3">40 persons at maximum</td><td>23 persons</td></tr><tr><td>16 persons</td></tr><tr><td>21 persons</td></tr></table> ● 予算の計画/実績の比較 RD に記載された計画は以下のとおり。財務資料からは APCD の支出については確認できなかった。 Unit:THB	Plan	Actual	40 persons at maximum	23 persons	16 persons	21 persons	参加人数は計画を下回った。研修予算については実績が入手できず分析ができない。	● RD・GI ● 研修実施機関提供資料
Plan	Actual									
40 persons at maximum	23 persons									
	16 persons									
	21 persons									

評価項目	評価設問	確認結果			差異・要因分析 /判断	情報源
			Plan(RD)	Actual		
		JICA	2,220,700	4,288,450		
		TICA	2,041,880	No data		
		APCD	113,000	1,596,311		
		Total	4,375,580	5,884,761		
	期間、タイミング ● 事業期間は事業計画に見合った設定となっていたか(事業の完了は計画以内であったか) ● 前提条件、インプットのタイミング・方法(調達方法を含む)は適切に計画されていたか。 ● JICA/TICA がそれぞれ実施している他の研修事業と比較して、アウトプットに照らした投入の内容・方法について優位性があるか。	● 実施期間について、計画：2021-2023 年(3 年間)に対し、実績：2022-2024 年であった。RD では、各年 14 日間の実地(オンサイト)研修が計画されており、実績は 13~14 日の実地研修・初年度のみ一部オンラインであり、コロナ禍のため若干の変更はあったが、おおむね計画通りといえる。 ● TCTP コースの意義は、3 年プロジェクトとして継続性を確保できることである。各年で 2 週間の研修を 3 年間実施するものだが、参加する研修員は同じであった。それによって研修員が互いに強いコミットメントとネットワークを持ちつつそれぞれの国で活動を行っている。これは TCTP の特別な性質であり、他の研修では得られないものである。加えて、TCTP では障がい者とそうでない者が共に意思決定に関わり、研修を実施・参加する点も大きな特徴である。多くの研修では、障がい者の「ために」、障がいのない者だけが企画・運営を担う形になりがちである。しかし TCTP は、障がいの有無にかかわらず、両者が対等に関わり合うことを重視している。(APCD ヒアリングより)			コロナ禍の影響があったもののオンライン開催も組み入れて概ね計画通りに実施された。また TCTP は、3 年間にわたり継続的に実施されることで参加者間の信頼関係と学びの深化を促す点において、他の研修にはない比較優位性を有している。	● RD・GI ● 研修実施機関提供資料 ● 研修実施機関インタビュー
	実施プロセス	● 募集段階において、TCTP はタイの外交チャンネルを利用できるため、我々が直接各国の大使館に依頼状を送る必要がないことはメリットである。一方、そうした正式ルートはいろいろなシステムに則る必要があるため、時間がかかる。 ● GI に応募者の資格を記載するが、対象国政府の中で何らかの内部力学があって、ノミネートされる人がそれに合致していないケースがある。一例として、ミャンマーについて、我々が最適と思う障害をもつ候補者がいたが、結局別の政府職員が送られてきた。 ● 研修員が帰国後に所属部門から異動になり、研修内容の活用ができないことがある。(APCD ヒアリングメモ)			TCTP は外交ルートを通じた公的な募集体制により信頼性が高い一方、手続きに時間を要し、必ずしも最適な候補者が選出されない場合がある。	● 研修実施機関インタビュー
効率性 レーティング： 本研修は、参加人数が計画を下回り、研修費は計画を上回った(計画比134%)。また、JICA:TICA 事業費比率は約7:3であった。コロナ禍においてもオンライン開催を活用し、概ね計画どおり実施され、3 年間、継続して実施された募集手続きに時間を要するなど制約もあるが、障がい者とそうでない者が共にコース運営に関わるなど、投入の質を高める工夫がある。したがって効率性のレーティングは③と(高い)と判断する。						
持続性	体制面 ● ネットワークは構築されているか(帰国	● TICA は資金支援の他、外交チャンネルを使った募集などの研修準備、研修内容についてある程度のインプットを行う。タイ側では、他に			体制の持続性の観点から見ると、	● 帰国研修員追跡サーベ

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
	研修員と JICA・TICA や研修講師とのネットワーク等) ● 帰国研修員同士のネットワークは構築されているか	Dept. of Empowerment of Persons with Disabilities と Dept. of Disaster Prevention and Mitigation の 2 つの政府機関や、非政府機関からのリソース調達も図り、研修員への新しい知識の共有を図っている (APCD ヒアリングより) ● 帰国研修員とのネットワークとしては、google space によるクラウドのオンラインコミュニティがある (APCD ヒアリングより)。 ● TCTP (第三国研修) 終了後の関係者とのネットワーキング・コミュニケーションが全体として限定的といえる。多くの回答者が「必要時のみ (Rare)」または「年に 1～2 回 (Annually or biannually)」と答えており、研修後も日常的・継続的に交流しているケースは少数にとどまっている。特に、日本人講師やタイ人講師、さらには研修実施機関 (タイ) とのネットワークが限定的であった。一方で、「同じ国の研修参加者」とのつながりは比較的保たれており、地域や言語の近さがネットワークの維持に影響を与えていることが考えられる。(Ex-trainee survey Question 3a) ● 研修員からは、こうした状況を受けて、さまざまな改善提案が寄せられている。「講師や他の研修員ともっと交流したいと思っているが、きっかけがない。定期的なオンラインミーティングや、経験共有の場があるとありがたい。」「研修後も知識のアップデートを続けるために、研修講師によるウェビナーや Q&A セッションを開催してほしい。」「同じ国や地域の参加者同士で勉強会を開く機会があれば、実務での課題共有や情報交換がしやすくなると思う。」「現場での成功事例や活動報告を紹介する機会があれば、自分自身も励まされるし、他の参加者にも参考になるはず。」「(Ex-trainee survey Question 3b)	TICA が資金支援や外交チャンネルを通じた募集、関係機関・NGO との連携により一定の制度的基盤を確立している点は強みである。一方で、研修終了後のネットワーク維持や知識共有の仕組みが十分に制度化されておらず、講師や他国参加者との継続的な交流が限定的である。	● 研修実施機関インタビュー
	財政面 ● 研修の効果の持続性の観点から、予算措置は十分に講じられているか	● 事後フォローアップを行うケースはあるが、予算が確保されていないければならず、その時次第で実施している状況である。UNESCAP と連携した DIDDR の研修プロジェクトでフィリピンに事後訪問し、3 名の研修員のその後の状況を確認した。(APCD ヒアリングメモ)	研修後のフォローアップ予算の必要性が指摘されている。	● 研修実施機関インタビュー
	技術面 ● 研修に伴い導入される技術は研修員やその所属先により受容され、継続的に実行されうるものか	● 研修で得られた知見は、多くの参加者によって組織内で共有され、計画や意思決定の改善、上司への提言といった形で制度化に向けた働きかけにつながっている。他方で、人事異動など外的要因により活用機会が制限されるケースも見られるため、知見の定着をより確実にするには、組織全体での研修成果の共有・制度化の仕組みづくりが重要といえる。	技術面の持続性の観点では、多くの研修員が得た知見を組織内で共有し、計画や意思決定の改善につなげている点	● 帰国研修員追跡サーベイ ● 研修実施機関インタビュー

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
			が評価できる。一方で、人事異動などにより知識が十分に定着しない場合もあり、組織的な知見共有の仕組みづくりが今後の課題である。	
	アクションプラン ● アクションプランを作成した研修員は、それを実施・継続しているか	● 帰国後、Google Space を通じてモニタリングを行っており、帰国研修員にそれぞれの国での活動状況を送るよう依頼する。帰国研修員のモチベーションを高めるために、送られてきたどんな活動であっても、APCD のウェブサイトで紹介する。そうすると、より積極的に活動を紹介してくれる。しかしおそらく皆忙しいので、我々ももっと働きかけを行う必要がある。(APCD ヒアリングより) ● (2～3 年後のフォローアップは行っているか?) 行うケースはあるが、予算が確保されていなければならず、その時次第で実施している状況である。UNESCAP と連携した DIDRR の研修プロジェクトでフィリピンに事後訪問し、3 名の研修員のその後の状況を確認した。(APCD ヒアリングより) ● 「アクションプランを実践したか」という質問に対し、約 60%が「はい」、残り 40%が「いいえ」「わからない」と回答した。研修修了後、参加者の多くは帰国直後から行動計画の実施に着手し、具体的には防災関係者を対象としたトレーナーズ・トレーニング(ToT)の実施、スタッフ向けの研修を通じた障害包摂の理解促進に取り組んだ。アクションプランのすべてを実施できていないという研修員もいるが、日常業務の中で障害のある同僚への適切な配慮や、活動への積極的な参画を促すなど、日々の実践に DiDDR の考え方を反映させている。(Ex-trainee survey Question 1i)	研修修了後、約 6 割の参加者がアクションプランを実践し、防災関係者向け研修や職員研修を通じて障害包摂の促進に取り組んでいる。一方で、業務多忙や予算制約により実施が限定的なケースもあり、継続的なフォローアップ体制の強化が課題である。	● 帰国研修員追跡サーベイ ● 研修実施機関インタビュー
	促進/阻害要因 ● 研修の成果を持続・波及するにあたってどのような点が促進／阻害要因となったか	① 継続するネットワーク 研修後も障がい者への前向きな働きかけが継続され、強固なヒューマンネットワークが形成されている。 ② DIDRR における障がい者の役割理解 障がい者を支援対象にとどめず、他者を支え合うパートナーと捉える意識が浸透している。	左記のとおり	

評価項目	評価設問	確認結果	差異・要因分析 /判断	情報源
		③ DIDRR の重要性の認識 災害時に誰もが守られるべきという考えが広まり、DIDRR の知識がライフスキルとして認識されている。 ④ 強い絆とコミットメント 3 年間にわたる連続研修と Google Space での交流により、参加者間に強い絆と学びの継続が生まれている (APCD ヒアリングより)		
持続性 レーティング: 3 年間の連続研修と Google Space を通じた交流により、参加者間の強い信頼関係が形成され、DIDRR の重要性や障がい者をパートナーと捉える意識が定着しつつある。一方で、研修後のネットワーク維持や事後フォローアップは予算や人事異動に左右されており、成果の継続的活用に向けた制度化が今後の課題である。以上より、持続性のレーティングは②(一部課題がある)と判断する。				
総合評価結果: 以上より、本コースの「妥当性・整合性」は非常に高く、「有効性・インパクト」は非常に高い。「効率性」は高く、「持続性」には一部課題がある。よって、総合レーティングは A(非常に高い)と評価する。				
総合レーティング: A(非常に高い)				

教訓:

- 外交チャンネルの効率化: TCTP においてタイの外交チャンネルを活用できることは、各国大使館に直接依頼を行う必要がない点で大きな利点である。しかし、こうした正式ルートは各種システムや手続きに従う必要があるため、応募からノミネート確定までに時間を要する傾向がある。これを改善するために、タイ側において、研修実施機関や関係省庁との調整を早期に開始し、必要に応じて手続きを簡素化する仕組みを検討することが望ましい。
- 候補者選考の透明性と適格性の確保: 応募資格は GI に明記されているものの、対象国政府の内部事情により必ずしもその基準に沿った人材が派遣されない場合がある。たとえば、障害を持つ候補者が本来最適であったにもかかわらず、別の政府職員が派遣された事例があった。このような不一致を防ぐために、タイ側には、ノミネート段階における基準遵守の重要性を対象国政府に強調するとともに、必要に応じて研修実施機関と共同で候補者の適格性を確認するプロセスを設けることが望ましい。
- 研修設計の工夫: 研修の成果を持続的に高めるためには、各フェーズを同一参加者が継続して受講できる仕組みを整えることが望ましい。また、研修員が帰国後に異動・転職するなどして、成果が定着しないという課題も見られた。このことから、各国から最大 3 名まで参加可能とする柔軟性を確保することで、研修員の所属組織として継続的な学びを確保することができる。
- ネットワークとフォローアップ: 修了生ネットワークの強化(共同プロジェクト、定期的なフォローアップ、ピアラーニングの場など)を通じて、地域ごとの長期的なインパクトを可視化することが重要である。しかし、現状では APCD のフォローアップは予算に依存しており、体系的に実施されていない。今回のアンケートで有益な研修員コメントが得られたことから、計画的かつ継続的なフォローアップの導入が望ましい。

提言: APCD が実施する研修事業に対する提言

- 実践的なツールや事例紹介を充実させ、コミュニティや政策レベルで応用できる内容を強化することが重要である。さらに、気候変動に対応した防災対策など新しいトピックや各国の最新動向・好事例の共有を通じて学びを深める必要がある。
- 今後の研修には政府関係者や障害者団体も対象に含めることで、政策と実践の連携が促進される。また、日本での DiDRR 活動の現地視察や文化交流の機会を提供することは、学びの深化だけでなく国際的なネットワーク形成にも資する。

FY2025 Joint Evaluation of Third Country Training Programme (TCTP) in Thailand

Ex-trainees Survey Result Report

**#1 Modernization of Power Distribution System
in ASEAN Countries**



(Source) <https://image.mfa.go.th/mfa/0/GH2PYnujXi/%E0%B8%82%E0%B9%88%E0%B8%B2%E0%B8%A7/412A4169.jpg>

Basic statistics of this survey

Target participants (trainees)	75 (60 except Myanmar)
Number of participants filled the survey	30 (Response rate 50%)
Date of notification to the participants	1_A request email sent : July 26, 2025 2_Follow-up email1 : July 03, 2025 3_Follow-up email with personal name : July09 Due date: July 11, 2025

Complied date: Aug 20, 2025 by RS

Update date 1 : Aug 26, 2025 by RS

1. Knowledges and skills you obtained and satisfaction

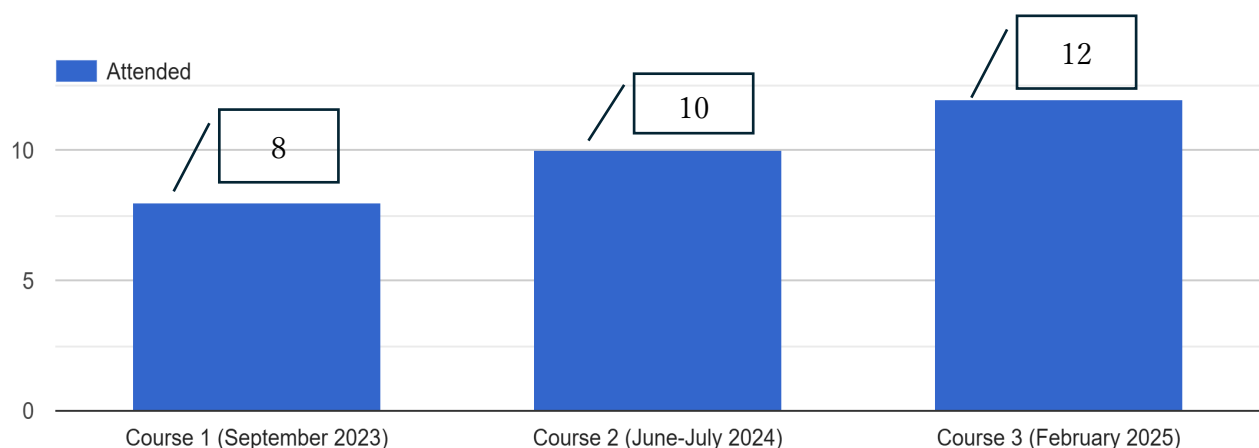
Question 1 a. Please indicate the sessions of the training program you attended.

Course 1 (September 2023)

Course 2 (June-July 2024)

Course 3 (February 2025)

Question 1 a. Please indicate the sessions of the training program you attended.



Please share your comment. (10 comments)

- I attended the course 2 (June-July 2024).
- The training was conducted in a warm and welcoming atmosphere. It provided valuable opportunities to build connections between organizations, which I take great pride in. It was an honor to participate in this program.
- Course take 1 month and full time which is a bit long for those who far from family. Overall is great and well organized. I prefer the course to take place at Nov or Feb for cooler weather during site visit
- The good training program to share knowledge about transmission & distribution systems and technologies from each country.
- I got many knowledge to develop in my job
- Good lectures
- helpful and fantastic course
- The course offered a comprehensive curriculum covering power system basics to modern grid operations, particularly SCADA, EMS, and DMS, directly aligned with your interest areas.

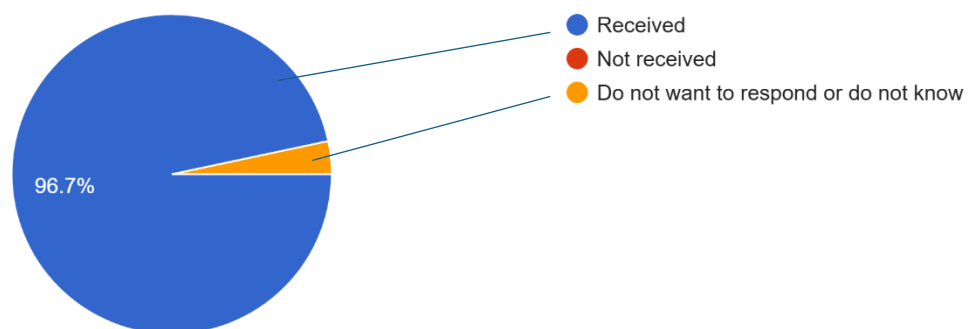
Moreover, the participants diversity promoted regional knowledge sharing, helping ASEAN utilities learn best practices from each other and from Thailand's MEA.

- This training is considered a training in various engineering fields in the field of electrical engineering. It is considered that it should be continued because it is a training to create knowledge and understanding of new technologies in engineering, including the exchange of cultures from abroad.
- This course has provided me more knowledge and enjoyable.
- I participated in the face-to-face course on the aforementioned subject in 2023 for a period of 45 days

Question 1 b. After completion of the training, did you receive a certificate (Certificate of Completion) from the Thai side (TICA, the training implementing agency, or JICA Thailand Office)?"

Question 1 b. After completion of the training, did you receive a certificate (Certificate of Completion) from the Thai side (TICA, the training implementing agency, or JICA Thailand Office)?"

30 件の回答

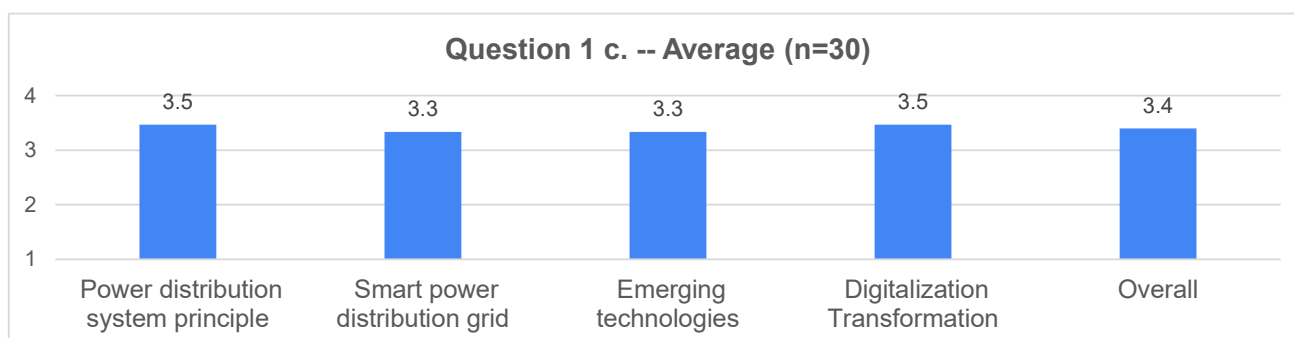
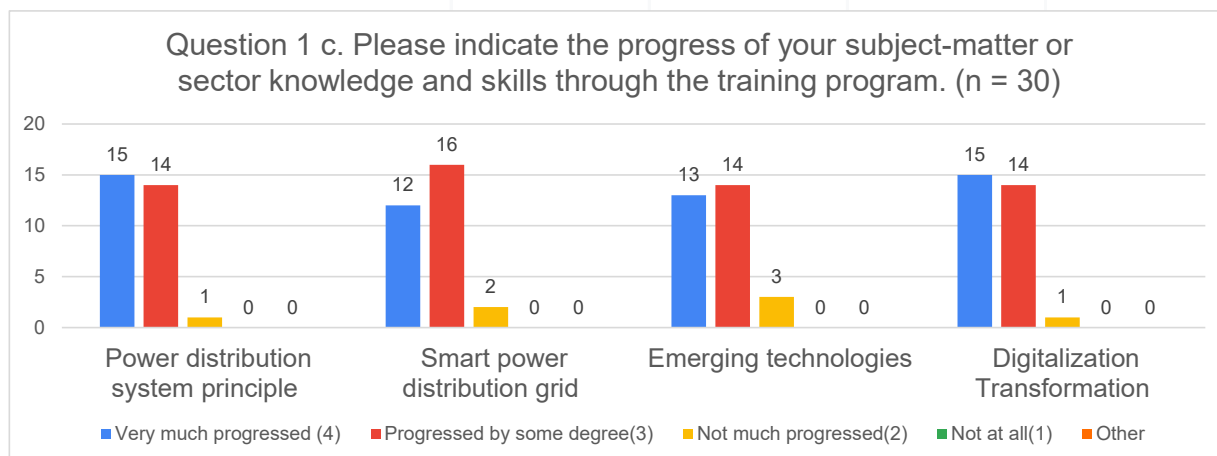


If you did not receive it, please explain the reason. (n=2)

- -

Question 1 c. Please indicate the progress of your subject-matter or sector knowledge and skills through the training program.

Subject-matter or setor -> knowledge & skills ↓Level of progress	Power distribution system principle	Smart power distribution grid	Emerging technologies	Digitalization Transformation
Very much progressed (4)	15	12	13	15
Progressed by some degree(3)	14	16	14	14
Not much progressed(2)	1	2	3	1
Not at all(1)	0	0	0	0
Other	0	0	0	0
n	30	30	30	30
Average	3.5	3.3	3.3	3.5
Stdev	0.6	0.6	0.7	0.6



Please share your comment. (n=5)

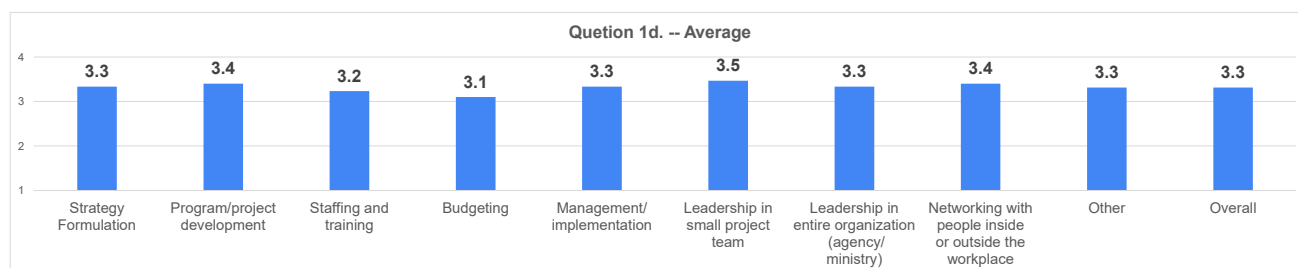
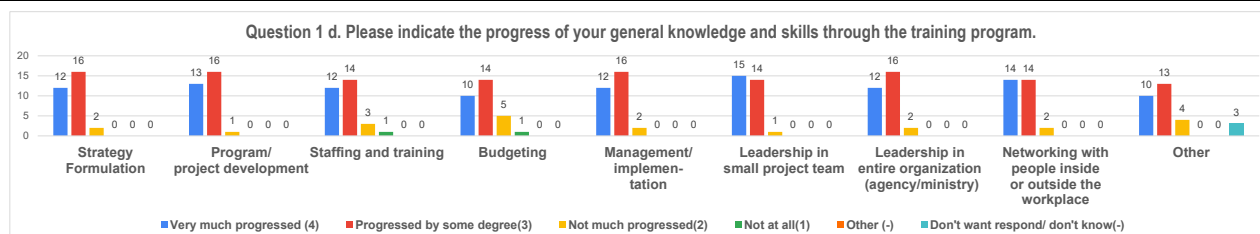
-
- Power distribution system principle should have more sites visiting such as visiting some HV substations and HV sky lines, MV cables.
- The courses are good. But the schedule is very tight. The schedule is too much for 2 weeks.
- Some topics take a long time to understand in depth, such as: Digitalization Transformation
- I learned quite a lot in terms of experience sharing but not the technology advancement and adoption.

Analysis of the study team

The overall average of the level of progress is 3.4, which is between “very much progressed (4)” and “Progressed by some degree (3)”. It indicates each subject-matter knowledge and skills are well progressed. The narrative comments also show general progress of their knowledge.

Question 1 d. Please indicate the progress of your general knowledge and skills through the training program.

General knowledge &-> skills Level of progress	Strategy Formulation	Program/ project development	Staffing and training	Budgeting	Management/ implemen- tation	Leadership in small project team	Leadership in entire organization (agency/ministry)	Networking with people inside or outside the workplace	Other
Very much progressed (4)	12	13	12	10	12	15	12	14	10
Progressed by some degree(3)	16	16	14	14	14	16	14	14	13
Not much progressed(2)	2	1	3	5	2	1	2	2	4
Not at all(1)	0	0	1	1	1	0	0	0	0
Other (-)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Don't want respond/ don't know(-)	0	0	0	0	0	0	0	0	3
n	30	30	30	30	30	30	30	30	267
Average	3.3	3.4	3.2	3.1	3.3	3.5	3.3	3.4	3.3
Stdev	0.6	0.6	0.8	0.8	0.6	0.6	0.6	0.6	0.7



Please share your comment. (n=2)

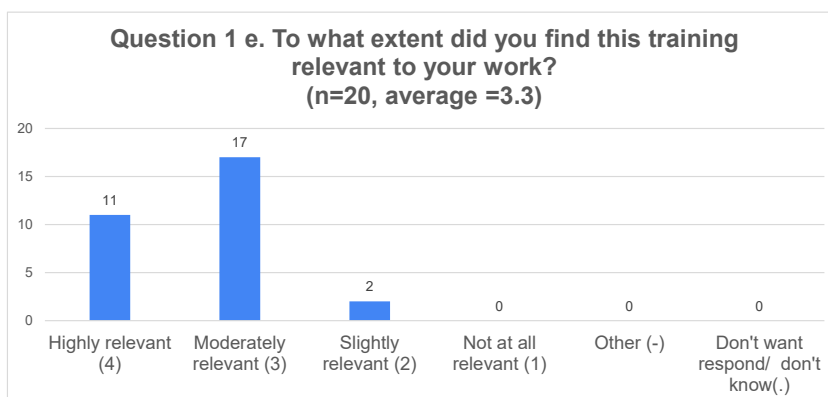
-
- Networking with neighboring countries is the great part. I am now still in touch with some of them to share our knowledge, experience and friendship.

Analysis of the study team

The overall average of the level of progress is 3.3, slightly more than “Progressed by some degree (3)”. It indicates each general knowledge and skills are well progressed. It is noted that the narrative comments show great appreciation for networking with participants from neighboring countries.

Question 1 e. To what extent did you find this training relevant to your work?

	Question 1 e. To what extent did you find this training relevant to your work?
Highly relevant (4)	11
Moderately relevant (3)	17
Slightly relevant (2)	2
Not at all relevant (1)	0
Other (-)	0
Don't want respond/ don't know(.)	0
n	30
Average	3.3
Stdev	0.6



Please share your comment. (n=5)

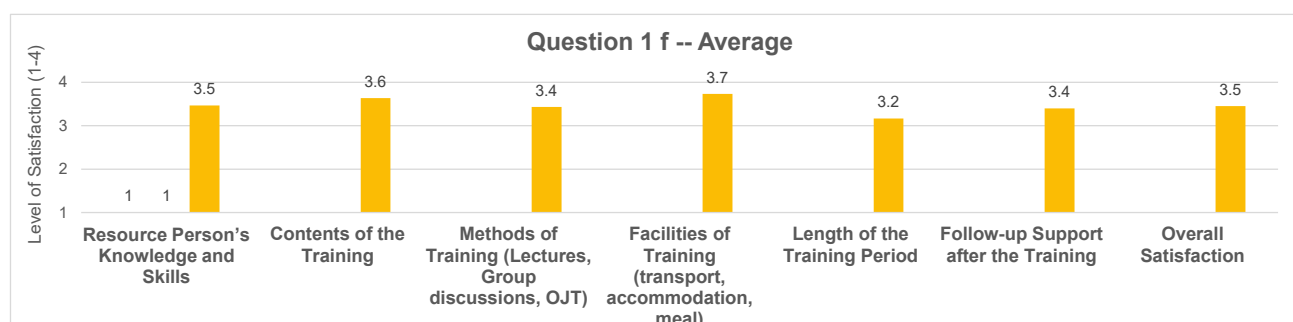
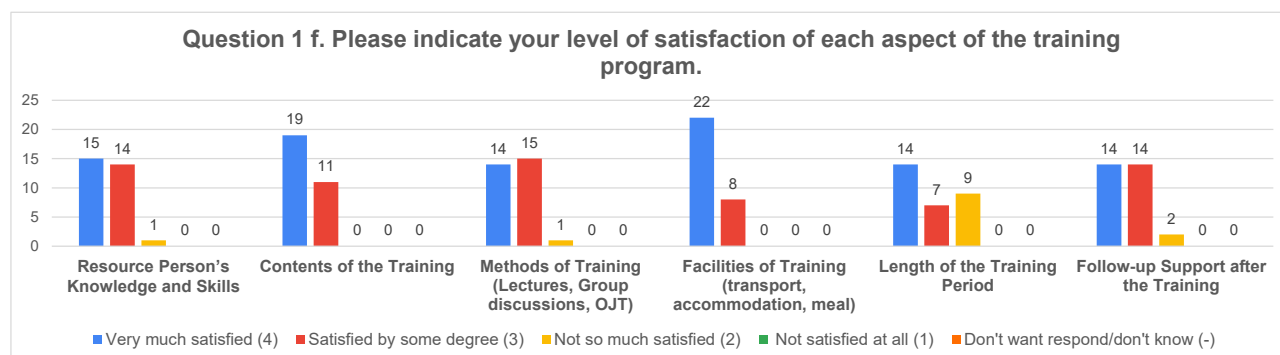
- This is the only abroad course that provide for my country relevant to my work.
- -
- I've learnt a lot from this training, but it would be great if there were a participant from the regulator side.
- This training is directly related to the work under care and can be used to develop further activities very well.
- This training provide me to explore deeply in technical and management skill.

Analysis of the study team

The average is 3.3, which is more than “Moderately relevant” but below “Highly satisfactory”. Nearly 60 % respondents marked that TCTP is highly relevant to their work and nearly 40 % marked moderately relevant. The narrative comments, although the number of comments are not many, indicate no problem indicated. The survey result is evaluated that the training is generally relevant.

Question 1 f. Please indicate your level of satisfaction of each aspect of the training program.

Aepect of the training-> prpgram ↓Level of progress	Resource Person's Knowledge and Skills	Contents of the Training	Methods of Training (Lectures, Group discussions, OJT)	Facilities of Training (transport, accommodation, meal)	Length of the Training Period	Follow-up Support after the Training
Very much satisfied (4)	15	19	14	22	14	14
Satisfied by some degree (3)	14	11	15	8	7	14
Not so much satisfied (2)	1	0	1	0	9	2
Not satisfied at all (1)	0	0	0	0	0	0
Don't want respond/don't know (-)	0	0	0	0	0	0
n	30	30	30	30	30	30
Average	3.5	3.6	3.4	3.7	3.2	3.4
Standard Deviation	0.6	0.5	0.6	0.4	0.9	0.6



Please share your comment. (n=6)

-
- This training is good, but 2 weeks is very short for catch up all the training courses.
- Some subject are too long that make the lecturers go quickly to complete
- The training should last approximately 1 month so that the observers can learn the entire course.
- Im very satisfied.
- The training period should be extend to 2 months

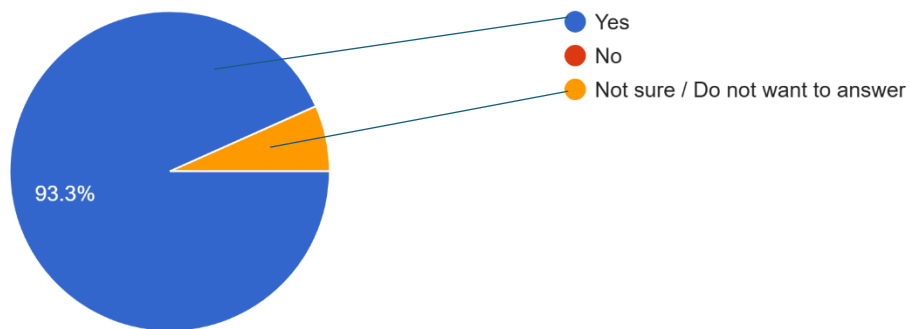
Analysis of the study team

The overall average of the level of setistaction is 3.5, which is more than “Satisfied by some degree (3)” but less than “Satisfied very much (4)”. The facilities of Training (transport, accommodation, meal) are highly satisfied. The narrative comments indicate the length of the training should be longer, which is suggested by multiple participants.

Question 1 g. Have you been able to apply the knowledge and skills learnt from the training courses in your work?

Question 1 g. Have you been able to apply the knowledge and skills learnt from the training courses in your work?

30 件の回答



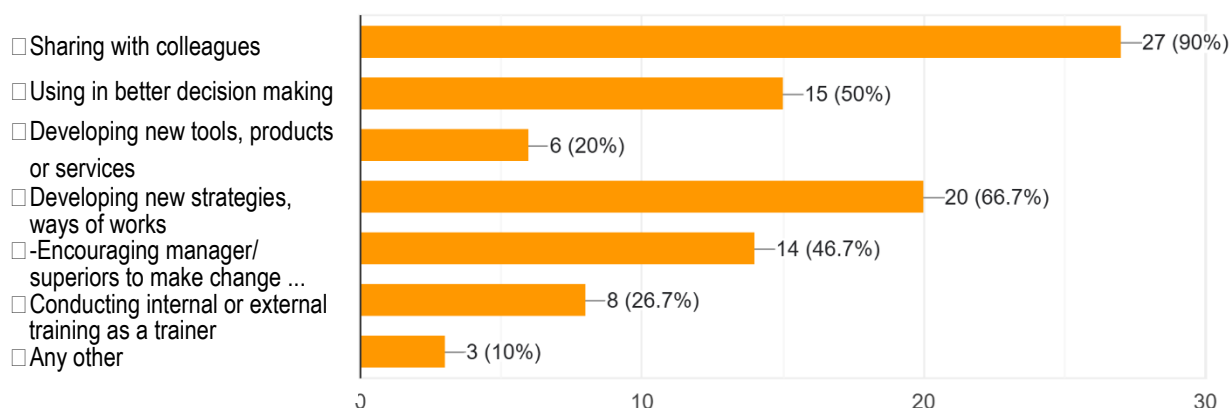
Please share your comment. (n=8)

- Especially in project-related tasks
- We won't get much understand all at once, but this course provides overall view of the knowledge. When we get the training again somewhere else, we get familiar and understand the concept.
- Yes of course, some of my colleges hadn't joint. So I had shared to them.
- -
- Currently, we are working on the development of EV charging stations to accommodate the growing number of EVs in my country, so it is very helpful to learn about what is being implemented in Thailand.
- The knowledge in SCADA, Strategy and foundation of smart network future in section
- Definitely use the knowledge that learned from this triaing course.
- I have applied Economic engineering in my current work

Question 1 h. How have you applied the gained knowledge and skills learnt from the training ? (Multiple answers allowed)

Question 1 h. How have you applied the gained knowledge and skills learnt from the training ?
(Multiple answers allowed)

30 件の回答



Please share your comment. (n=1)

• -

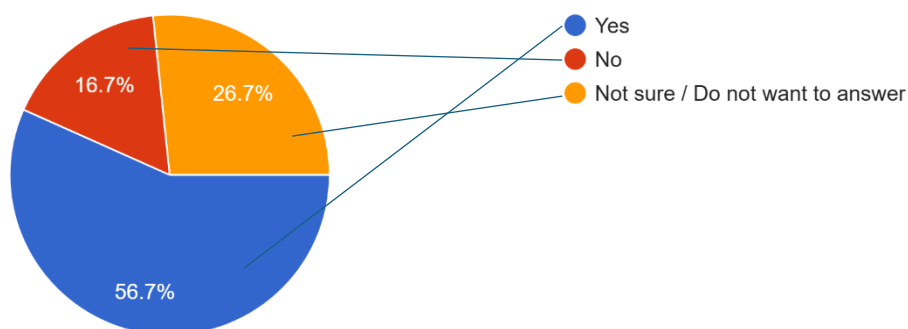
Analysis of the study team

Most participants (90 %) have shared their knowledges and skills with their colleagues. It is a good outcome after the outputs, i.e., knowledge and skills are obtained, are achieved. It indicates the Theory of Change (ToC) set before this study is well followed. The further outcome, i.e., more efficient and effective power distribution and the final outcome, improvement of life of the customers, should be closely monitored.

Question 1 i. Did you implement your action plan after returning to your country?

Question 1 i. Did you implement your action plan after returning to your country?

30 件の回答



If you answered 'Yes', please describe the implementation status. If you answered 'No', please explain the reasons (e.g. lack of equipment, limited budget, insufficient technical skills or knowledge, or lack of understanding/support from your organization). (n=17)

- My Organization will implement the Grid Visibility project. I have joined the smart grid team to evaluate the hosting capacity of the grid.
- Yes, I have applied the knowledge gained to improve work processes, making them more efficient. For example, I have used the training to analyze problems, manage costs, and enhance project management.
- Limited budget and support from my organization.
- lack of equipment and some limit technical skills
- Operation & Maintenance are proceeding according to the action plan.
- I need to study more about smart RMU , FRTU that had install in power system in MEA.
- -
- Well preparation before starting new projects
- lack of support from my organization – my scope of work is not closely related to smart grid technology, so I rarely use it in my work.
- I noted main points of each lesson and reported to my manager. I also planned new methods, new ideas from lesson to improve our works.
- Currently, I've implemented the knowledge from the EVs course in my organization, which is very helpful.
- Achieve
- แผนดำเนินการ ต้องรออนุมัติจากฝ่ายบริหารขององค์กร
- I shared my knowledge within the organization.
- In progress.
- I have shared the knowledge that I have gained from training to my colleague
- I am currently conducting a project focused on minimizing SF₆ gas leakage and losses during maintenance activities.

Analysis of the study team

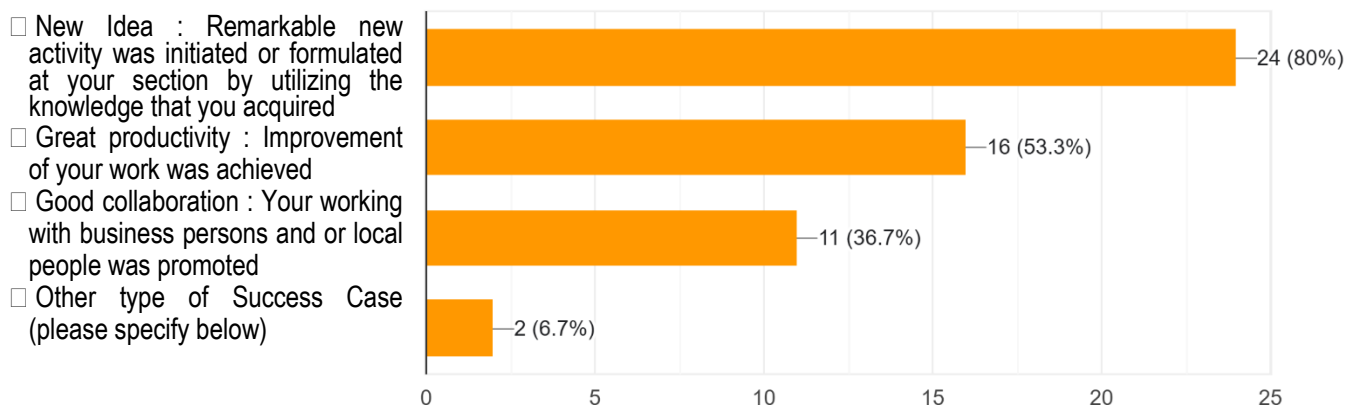
Nearly 60 % of participants have implemented their Action Plan. It can be evaluated that this is high ratio of implementation. The narrative comments indicate some of them have chances to apply their skill and knowledge, and lack of support and limited funds are mentioned.

2. "Success Case" (Good practice)

Question 2 a: Please indicate the type of "Success Case" (good practice) in which TCTP contributed to your work. (Multiple choices acceptable)

Question 2 a: Please indicate the type of "Success Case" (good practice) in which TCTP contributed to your work. (Multiple choices acceptable)

30 件の回答



Question 2 b: Please explain your "Success Case" (Good practice) in detail. (n=13)

- The training course helped me better understand the development level of countries in Southeast Asia, and at the same time helped me gain more skills in teamwork, team leadership as well as general information exchange.
- After I shared my experience of the training with my colleagues, they can see the necessity of the grid visibility.
- I have been able to apply the knowledge gained from the training in my work, which has helped improve coordination with relevant agencies. This has led to smoother communication and more effective collaboration in project implementation.
- Benchmark MEA transmission & distribution systems with those of neighboring countries and be able to apply the best practices of neighboring countries to MEA action plan and O&M work.
- In Thailand had pilot project about Low Voltage Management, after in Cambodia also have that project too. From experience in Pilot project in Thailand, I got better work for this sector.
- -
- Project planning

- I don't have any successful cases
- changing the ways of planning.
- For solar rooftop, it has already been achieved. However, it's beneficial to learn more about Thailand and other countries' perspectives. For EV, it's a new idea. So it's very helpful.
- A remarkable new initiative was implemented in my section by applying the knowledge and skills acquired through the training. This idea introduced a more efficient workflow, which addressed an existing challenge and brought noticeable improvement in team performance. As a result of the new approach, I achieved a significant increase in work efficiency by reducing processing time, lowering errors, and increasing output. This improvement has helped my section deliver results more effectively and within shorter timeframes.
- Knowledge can be applied to design microgrid systems in the power distribution area, including the application of new technologies with AI in decision making.
- As part of the SF₆ gas leakage reduction project, I have implemented an SF₆ regeneration process that enables the reuse of old SF₆ gas in the system. As a result, I have not needed to purchase any new SF₆ gas to date.

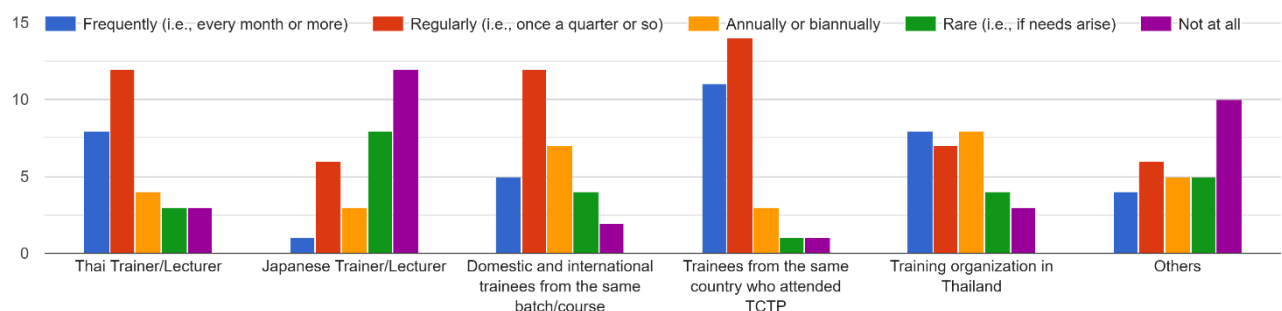
Analysis of the study team

New idea (80%), great productivity (53%), and good collaboration (37%) are reported. We can say it is a great result of applications. The narrative comments include some good detailed “success cases”, which we can examine and identify the “success factors” to contribute to make the application and further outcomes, in addition to the training contents.

3. Networking/communication after the training program

Question 3 a: Please indicate the level of your networking/communication with stakeholders of the training program.

Question 3 a: Please indicate the level of your networking/communication with stakeholders of the training program.



Please share how do you usually network with others? (e.g., face-to-face, online, formal events, informal meetings). (n of comments=14)

- I often keep in touch with old friends from the course via the Line app.
- Online
- I had the opportunity to meet colleagues from various countries such as Laos, Myanmar, Cambodia, and Vietnam. We continue to stay in touch and communicate online regularly.
- We meet face to face and work together via any media with trainees from the same country. and usually keep contact online with Thai Lecture/Organizer and international participant.
- Online thru FB or Line
- On-Line
- Normally I work face to face and online (Telegram, WhatsApp..).
- Online
- face-to-face and informal meetings
- we discuss on class and text messages online
- It's online networking
- Online meeting and chat with LINE App.
- On communication chat
- Line App
-

Question 3 b: Please explain the reason why you have communicated with other stakeholders after the training program. (n of comments =17)

- Because after 1 month of studying together, we all considered each other as close friends, so we still keep in touch.
- In Thailand, the utilities may share some experience on the impact Distributed Energy Resources (DERs) that now exponential growth.
- To exchange information on various work-related matters.
- In this field people have work together both daily job and international event like HAPUA annually.
- To discuss technical issues in the related field
- Exchange data & information
- For cooperation and exchange ideas.
- Friends
- asking for more information
- It's useful for me to discuss details about the same problems and solutions, new knowledges that we have on work. And it's a good relationship.
- To keep in touch and sharing the updated information in each countries.
- Facilitate applicants for the newly provided training course
- Friendship and exchange some information
- Chatting casually about life and various projects that have been implemented after the training.
- Ask something about work
- Friendship
- Communication helps me understand how other trainees apply their knowledge to their work.

Question 3 c: Please share the remarkable or good events that happened due to maintaining the communication with other stakeholders (e.g., exchange the new knowledge or experience). (n of comments =16)

- Recently when Myanmar had an incident in their country, we kept in regular contact and exchanged necessary information.
- In Thailand, EGAT MEA & PEA arrange the annual meeting to make a collaboration for the grid planning.
- We exchanged knowledge about the electrical systems of each country, as the infrastructure varies between nations. This communication also helped us stay updated on the latest technologies used in each country.
- Exchange Good Practices or Troubleshooting.
- Very nice and friendly
- Share experiences with each other.
- New environment training

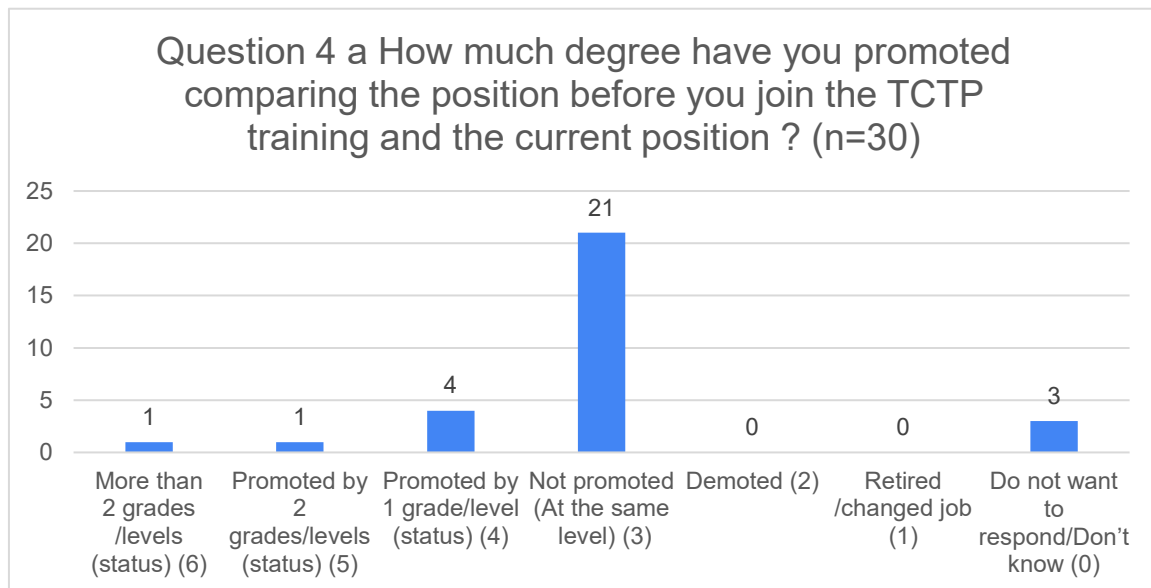
- I gained new knowledge from them
- some good ideas and experiences we have.
- We get the reliable and updated information
- Training for applicants has been newly announced
- Culture, lifestyle, experiences and Knowledge
- The participants' projects encountered problems such as needing to refer to the installation locations of various systems and they contacted us to inquire and provided answers until the problem was solved.
- Share experience about new ideas for work
- Knowledge and experience sharing
- We just sharing a little about work, family not too much about knowledge

Analysis of the study team

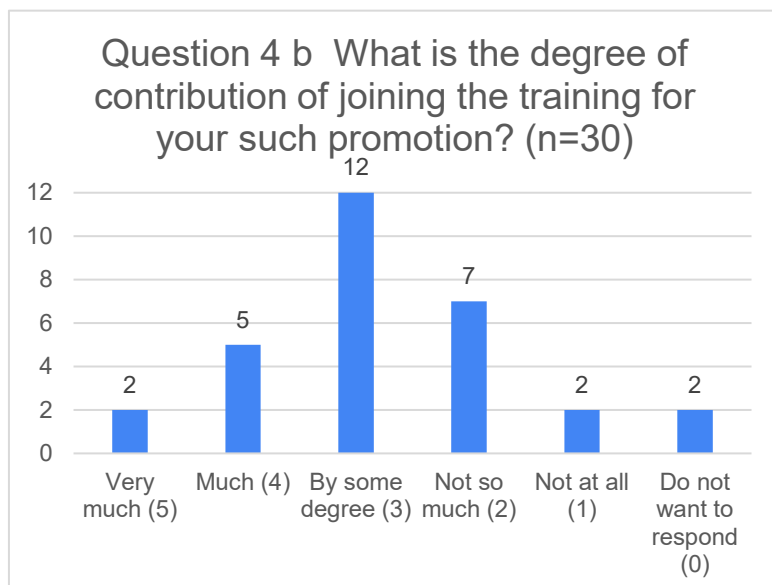
Frequent communication and useful exchange of information have been made among trainees. It is not only among the trainees from the same country but also internationally wide communication and exchange among ASEAN countries have been held and continued. It would be the best practice of communication after training. They exchange problems and issues they face daily that are similar among the neighboring counties in the region.

4. Promotion and contribution of the training program

Question 4 a How much degree have you promoted comparing the position before you join the TCTP training and the current position ? (n=30)



Question 4 b What is the degree of contribution of joining the training for your such promotion? (n= 30)



Please share your comment (n=4)

- The training helped increase my connections and knowledge, which contributed to my promotion.
- -

- i am still same level.
- Promotion does not refer to this training.

Analysis of the study team

According to 30 respondents, almost two third (n=21) have not received promotion. Only 6 (n=6) have been promoted. Participants responded the degree of contribution is some degree. The narrative comments indicate the purpose of and benefit they gained from training are not promotion.

5. Your comments and suggestions

Question 5: To further promote modernization of power distribution system in your country and in the ASEAN countries, please share your comments or suggestions about TCTP. (n=21)

- There should be more in-depth training courses for those who have attended TCTP, possibly organized in some other Southeast Asian countries.
- This training is a good opportunity to learn about a smart grid implementation in ASEAN and also Japan.
- The TCTP program has been highly effective in enhancing technical knowledge and fostering regional cooperation. To further advance the modernization of power distribution systems in our country and across ASEAN, I recommend increasing practical workshops, promoting more knowledge exchange among participating countries, and incorporating emerging technologies such as smart grids and renewable energy integration. Additionally, continuous support and follow-up after the training would be beneficial to ensure sustainable implementation of the knowledge gained.
- Participant from all country should the same level of knowledge or rank in their organization. 2-5 years of experience is the best for them. English Proficiency is needed for all participant and Trainer.
- Please add more real practical and I would suggest for more assignments
- Good
- It is a good course, and I have gained more knowledge about distribution. In my opinion, if possible, this course should also include content about the transmission system and perhaps invite participants from more countries to join.
- Smart meters should be fully implemented.
- The course is great for sharing experiences with countries and countries.
- -
- Distribution protection, improved efficiency on distribution line

- add more details about smart meter and how to implement it technically
- i think it's better to have more visiting MV-HV lines, MV-HV subs and reviewing distribution networks energy for large customers.
- I have only one comment, which is to increase the training duration, because two weeks are very short for all these courses.
- Should include electricity regulatory and policy framework in the training course
- Time should be more longer to complete the program normally, or some subject should be cut to fit with program duration. Anyways, EV is increasing in many ASEAN countries, and Energy management of EV should be a part of program.
- I would like to see more and more diverse off-site training.
- I would like to apply AI technology to assist in the analysis of power sytem faults.
- It is a great program to share knowledge and experience from neighboring utilities
- The training should provide more case study and actual work to the trainee
- Training topics should be focused and detail-oriented with more practical implementation content than theory.

Analysis of the study team

The comments and suggestions on TCTP for the implementation agencies (TICA and JICA), can be summarized as follows.

- Include practical workshops and off site training more.
- Participants should be the same level of knowledge or rank in their organization.
- English proficiency is needed for all participant and Trainers.
- Include trainees from some other Southeast Asian countries.
- Two weeks are very short and it should be longer, like one or two months.
- AI component should be included.

Final question: Contact information

- **Your name (n=30)**
- **Your phone number (mobile or landline) * (n=30)**
*The study team may contact you directly by phone if your case is selected as the best "Success Case".
- **Your email address (n=30)**
- **Name and contact information of the person responsible for sending you to TCTP (n=30)**
- **(b) E-mail address of the person (n=19)**

***** Confidentiality is strictly secured. Thank you very much for your cooperation for this survey!! *****

FY2025 Joint Evaluation of Third Country Training Programme (TCTP) in Thailand

Ex-trainees Survey Result Report

#2 Renewable Energy Technologies and Knowledge Transfer for Strengthening and Achieving ASEAN's Sustainable Development Goals

Renewable Energy Technologies and Knowledge Transfer for Strengthening and Achieving ASEAN's Sustainable Development Goals



Basic statistics of this survey

Target participants (trainees)	38 (37 except Myanmar)
Number of participants filled the survey	22 (Response rate 59%)
Date of notification to the participants	1_A request email sent : July 17, 2025 2_Follow-up email1 : July 23, 2025 3_Follow-up email with personal name : July30 Due date: Aug 01, 2025

Complied date: Aug 20, 2027 by RS

1. Knowledges and skills you obtained and satisfaction

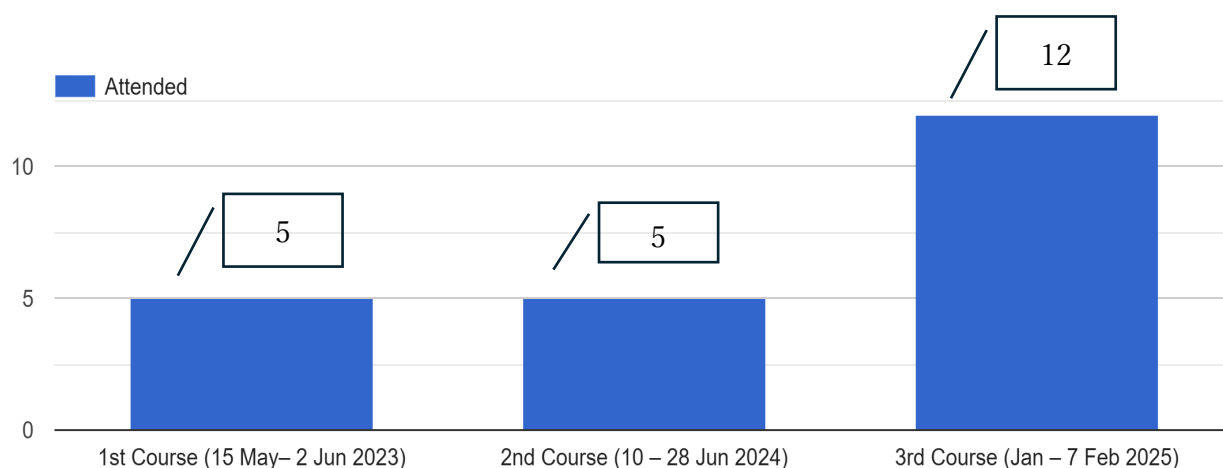
Question 1 a. Please indicate the sessions of the training program you attended.

1st Course (15 May– 2 Jun 2023)

2nd Course (10 – 28 Jun 2024)

3rd Course (Jan – 7 Feb 2025)

Question 1 a. Please indicate the sessions of the training program you attended.



Please share your comment. (10 comments)

- Biodiesel production technologies, standard and utilization
- I am attending the 3rd course early of this year and have such a great experience in this 3 week program.
- I like the module and training provided by the organizers. Thank you for this great opportunities!
- comprehensive training, supported by wonderful local hospitality, I have enjoyed my visit to Thailand
- It is a very good topic and useful for use in work.
- As a postgraduate student, I may not hold a formal professional position yet, but participating in the TCTP training has significantly increased my understanding of renewable energy technologies, policy frameworks, and international collaboration. I would say my knowledge and readiness to contribute to policy discussions or future implementation efforts have improved by at least 70–80% compared to before I joined the program. The training gave me

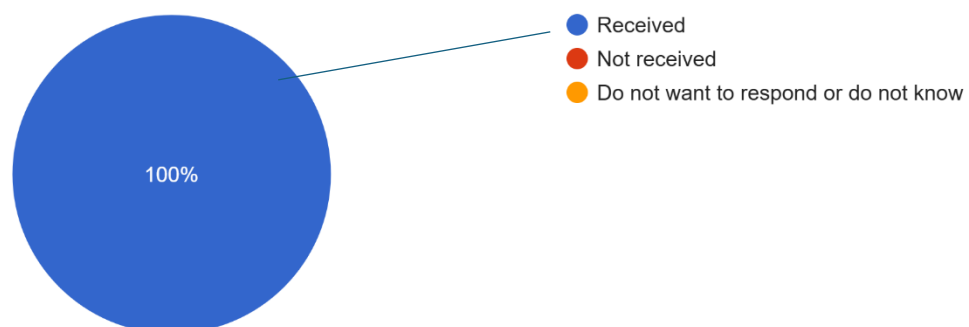
exposure to real-world applications and connected me with professionals across Asia-Pacific, which has greatly broadened my perspective.

- Good Informative Training
- The organization of the program is excellent, the team invited speakers from reputable institutions
- Great introduction to the renewable energy that is actually have high potential in our ASEAN region. Meeting with the delegates from various country in this region give a wider insights to the potential and factor and challenges that happened for the country that is already apply the renewable energy initiatives. Some renewable energy need to have a intercountry solution to make it more encouraging out citizens to switch to the renewable energy technology usage. Apart from that, maybe a few module could be made more specific and deeper understanding to give a applicable solution to the delegates, not just the surface one.
- This is an excellent program that offers knowledge transfer in a diverse renewable energy areas and sustainable development goals.

Question 1 b. After completion of the training, did you receive a certificate (Certificate of Completion) from the Thai side (TICA, the training implementing agency, or JICA Thailand Office)?"

Question 1 b. After completion of the training, did you receive a certificate (Certificate of Completion) from the Thai side (TICA, the training implementing agency, or JICA Thailand Office)?"

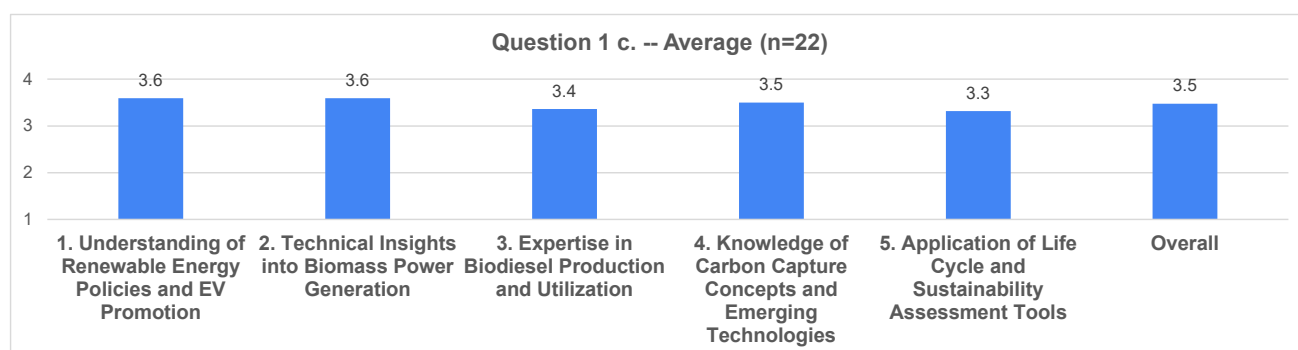
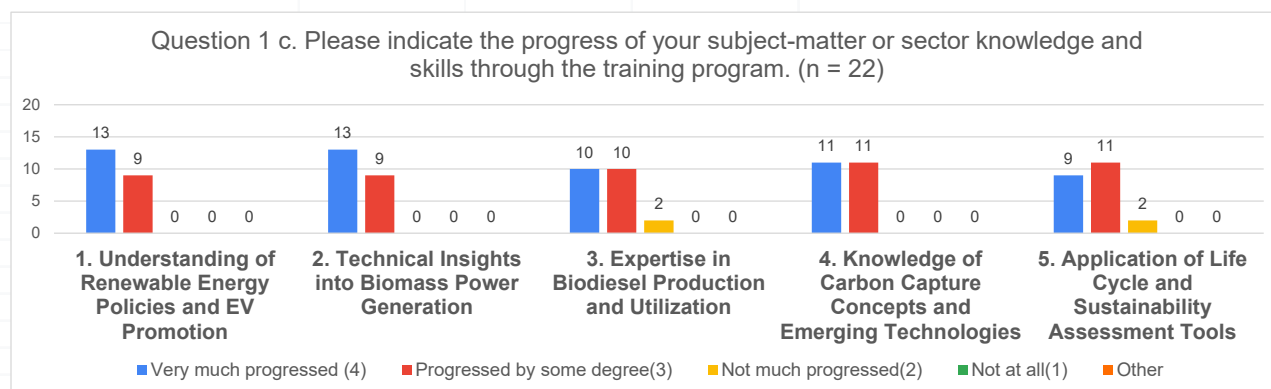
22 件の回答



If you did not receive it, please explain the reason. (n=0)

Question 1 c. Please indicate the progress of your subject-matter or sector knowledge and skills through the training program.

Subject-matter or setor -> knowledge & skills	1. Understanding of Renewable Energy Policies and EV Promotion	2. Technical Insights into Biomass Power Generation	3. Expertise in Biodiesel Production and Utilization	4. Knowledge of Carbon Capture Concepts and Emerging Technologies	5. Application of Life Cycle and Sustainability Assessment Tools	Overall
Level of progress						
Very much progressed (4)	13	13	10	11	9	56
Progressed by some degree(3)	9	9	10	11	11	50
Not much progressed(2)	0	0	2	0	2	4
Not at all(1)	0	0	0	0	0	0
Other	0	0	0	0	0	0
Average	3.6	3.6	3.4	3.5	3.3	3.5
Stdev	0.5	0.5	0.7	0.5	0.6	0.6



Please share your comment. (n=6)

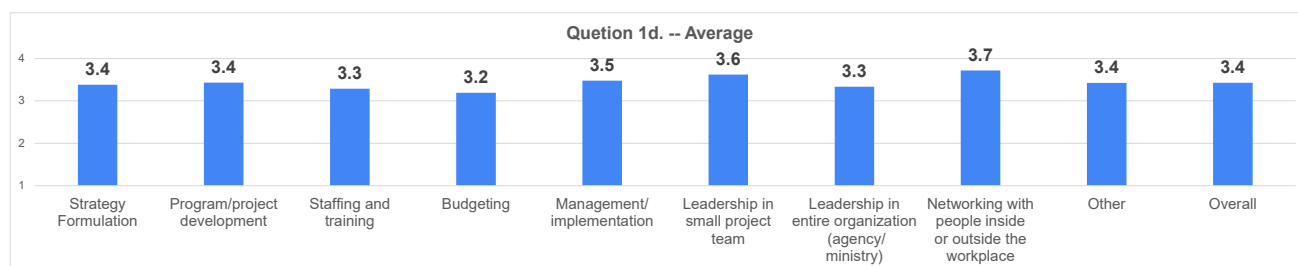
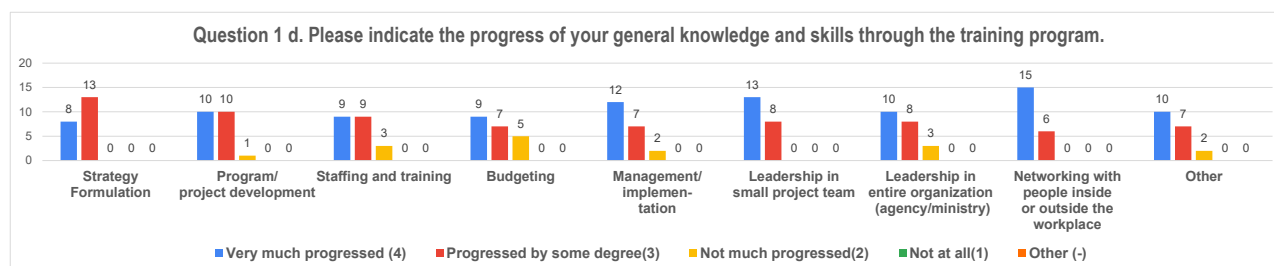
- Converting agricultural products into sustainable energy
- All the courses provided during the program have improved my knowledge to understand more on renewable energy and sustainability
- Overall the subject-matter or sector knowledge and skills has been expanding after attending the training program
- More Knowledge and idea but need more practice and implementation
- I have previous experience on these topics, but there was always new things for me during the sessions
- My knowledge have been rapidly improved from this program based on the related topic discussed especially on the usage of EV and biodiesel production.

Analysis of the study team

The overall average of the level of progress is 3.5, which is between “very much progressed (4)” and “Progressed by some degree (3)”. It indicates each subject-matter knowledge and skills are well progressed. The narrative comments also show general progress of their knowledge of renewable energy.

Question 1 d. Please indicate the progress of your general knowledge and skills through the training program.

General knowledge & skills Level of progress	Strategy Formulation	Program/ project development	Staffing and training	Budgeting	Management/ implementation	Leadership in small project team	Leadership in entire organization (agency/ministry)	Networking with people inside or outside the workplace	Other
Very much progressed (4)	8	10	9	9	12	13	10	15	10
Progressed by some degree(3)	13	10	9	7	7	8	8	6	7
Not much progressed(2)	0	1	3	5	2	0	3	0	2
Not at all(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Other (-)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
n	21	21	21	21	21	21	21	21	19
Average	3.4	3.4	3.3	3.2	3.5	3.6	3.3	3.7	3.4
Stdev	0.5	0.6	0.7	0.8	0.7	0.5	0.7	0.5	0.7



Please share your comment. (n=4)

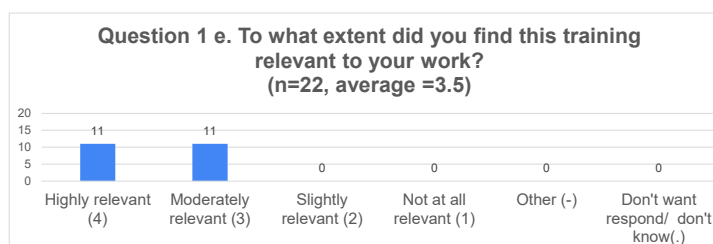
- The knowledge gained can be used to explain the importance of renewable energy in the agricultural sector.
- Not yet apply
- all good
- In overall, this training has improved some

Analysis of the study team

The overall average of the level of progress is 3.4, slightly more than “Progressed by some degree (3)”. It indicates each general knowledge and skills are well progressed. The narrative comments show some appreciation.

Question 1 e. To what extent did you find this training relevant to your work?

Question 1 e. To what extent did you find this training relevant to your work?	
Highly relevant (4)	11
Moderately relevant (3)	11
Slightly relevant (2)	0
Not at all relevant (1)	0
Other (-)	0
Don't want respond/ don't know(.)	0
n	22
Average	3.5
Stdev	0.5



Please share your comment. (n=7)

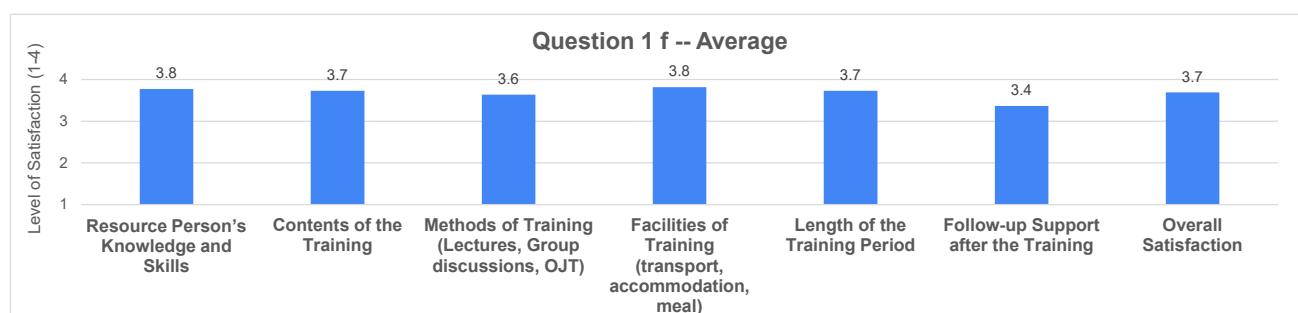
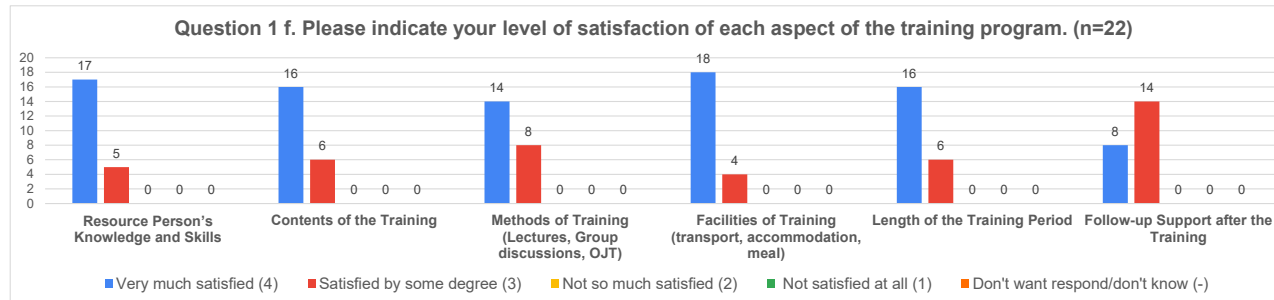
- In Thailand, there is a specific agency for renewable energy, and the Department of Agricultural Extension is the agency that supports the mission.
- I am also working in research and development focuses on sustainability and fabrication of biomaterial. This course gives a broader insight of the renewable energy and the importance of it to support the country development.
- my work is related to urban planning and environment
- I have been working on Biomass Roadmap Development for my company, SD Guthrie, for palm biomass. Hence this training learnings on biomass valorization and Renewable Energy has been very purposeful, especially insights from other SEA countries.
- Im a researcher in the biomass and bioenergy in Malaysia, so its highly relevant
- Very related to the sustainability
- My field is on the biomaterial and biotechnology. This training open up more ideas for me to dive in into more diverse field and area related to renewable energy and SDG.

Analysis of the study team

The average is 3.3, which is more than “Moderately relevant” but below “Highly satisfactory”. Nearly Exactly 50 % respondents marked that TCTP is highly relevant to their work and other 50 % marked moderately relevant. The narrative comments indicate very relevant and no negative one. The survey result is evaluated that the training is generally relevant.

Question 1 f. Please indicate your level of satisfaction of each aspect of the training program.

Aspect of the training-> prgram	Resource Person's Knowledge and Skills	Contents of the Training	Methods of Training (Lectures, Group discussions, OJT)	Facilities of Training (transport, accommodation, meal)	Length of the Training Period	Follow-up Support after the Training	Overall
Level of progress							
Very much satisfied (4)	17	16	14	18	16	8	106
Satisfied by some degree (3)	5	6	8	4	6	14	48
Not so much satisfied (2)	0	0	0	0	0	0	0
Not satisfied at all (1)	0	0	0	0	0	0	0
Don't want respond/don't know (-)	0	0	0	0	0	0	0
n	22	22	22	22	22	22	154
Average	3.8	3.7	3.6	3.8	3.7	3.4	3.7
Standard Deviation	0.4	0.5	0.5	0.4	0.5	0.5	0.5



Please share your comment. (n=5)

- I was very impressed with this training course.
- All during the training is well supported and full of knowledge transfer between all country involved.
- The entire programme has been arranged very well, with excellent hospitality from TICA and JICA.
- very good organizing team, helping and accommodative
- Everything prepared during the program so good. Big thanks to the organizer and trainers for organizing such wonderful program.

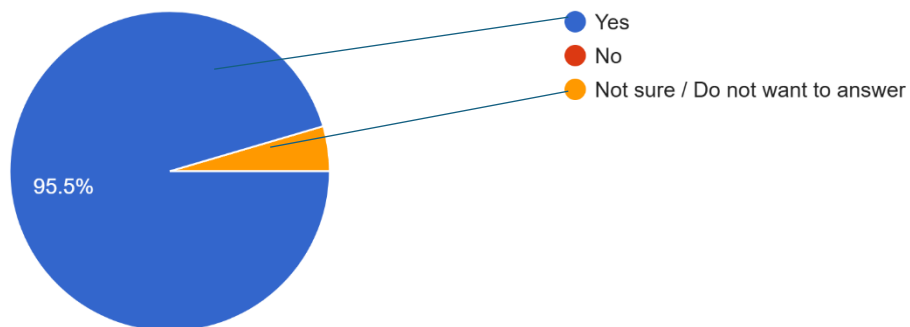
Analysis of the study team

The overall average of the level of progress is 3.7, which is nearly “Very much satisfied (4)”. Especially, the Resource Person’s Knowledge and Skills ad the facilities of Training (transport, accommodation, meal) are highly satisfied. The average of all other aspects are also high.

Question 1 g. Have you been able to apply the knowledge and skills learnt from the training courses in your work?

Question 1 g. Have you been able to apply the knowledge and skills learnt from the training courses in your work?

22 件の回答



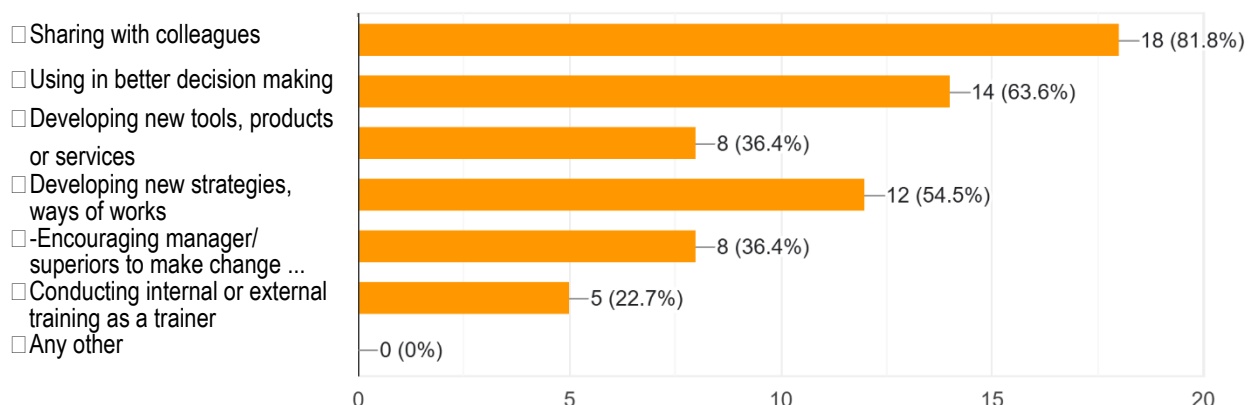
Please share your comment. (n=5)

- Can use both solar energy and palm oil energy.
- Recently, My team are proposing a project with the collaboration with others country related to hydrogen field. The knowledge gained from this TCTP program able to give me more understanding throughout the discussion and proposing a better idea.
- utilize the experience and knowledge to support my work
- Not yet apply
- I used some of the notes as my teaching materials in UKM
-

Question 1 h. How have you applied the gained knowledge and skills learnt from the training ? (Multiple answers allowed)

Question 1 h. How have you applied the gained knowledge and skills learnt from the training ?
(Multiple answers allowed)

22 件の回答



Please share your comment. (n=5)

- The importance of using palm oil in terms of renewable and clean energy
- I am sharing some knowledge related to microalgae which also being learned during the training and give some idea on the new upcoming project related to renewable energy.
- utilize it with the experience and knowledge to support my work
- I used the materials as part of my teaching especially on the bioenergy
- Yes, the knowledge can help in our discussion and brainstorming the idea for the new project. Besides, this program also improves the soft skills in interacting with others.

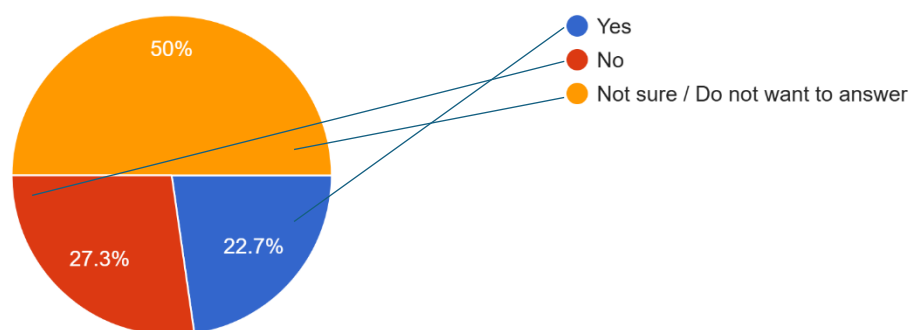
Analysis of the study team

Most participants (82 %) have shared their knowledges and skills with their colleagues. It is a good outcome after the outputs, i.e., knowledge and skills are obtained, are achieved. It indicates the Theory of Change (ToC) set before this study is well followed. The further outcome, i.e., use and ratio of renewable energy, and the final outcome, i.e., improvement of life of the customers, should be closely monitored.

Question 1 i. Did you implement your action plan after returning to your country?

Question 1 i. Did you implement your action plan after returning to your country?

22 件の回答



If you answered 'Yes', please describe the implementation status. If you answered 'No', please explain the reasons (e.g. lack of equipment, limited budget, insufficient technical skills or knowledge, or lack of understanding/support from your organization). (n=10)

- The action plan is in the collaboration with some other countries. We are lack in budget and technical skill for the implementation process, till now the action plan is still not execute yet.
- it was not mandatory, just sharing between colleagues informally
- Multi level communication with managers in charge, knowledge sharing, process improvement
- Yes, I implemented my action plan through a structured knowledge transfer process. After returning to my country, I organized internal workshops and training sessions to share the skills, tools, and insights I gained. The sessions were tailored to the needs of my team and other relevant departments, aiming to build local capacity and encourage practical

application. The knowledge transfer process is still ongoing, with plans to scale it further across the organization.

- The reasonable budget is limited to carried out the action plan.
- lack of equipment, limited budget, insufficient technical skills or knowledge, or lack of understanding/support from my organization
- Yes
- I used some of the knowledge i learnt and incorporated my research area and university teaching course.
- No. Need more time to implement. some of the renewable energy initiative has been done earlier by various expertise
- The action plan is not implemented yet due to limited budget and insufficient technical skills and knowledge.

Analysis of the study team

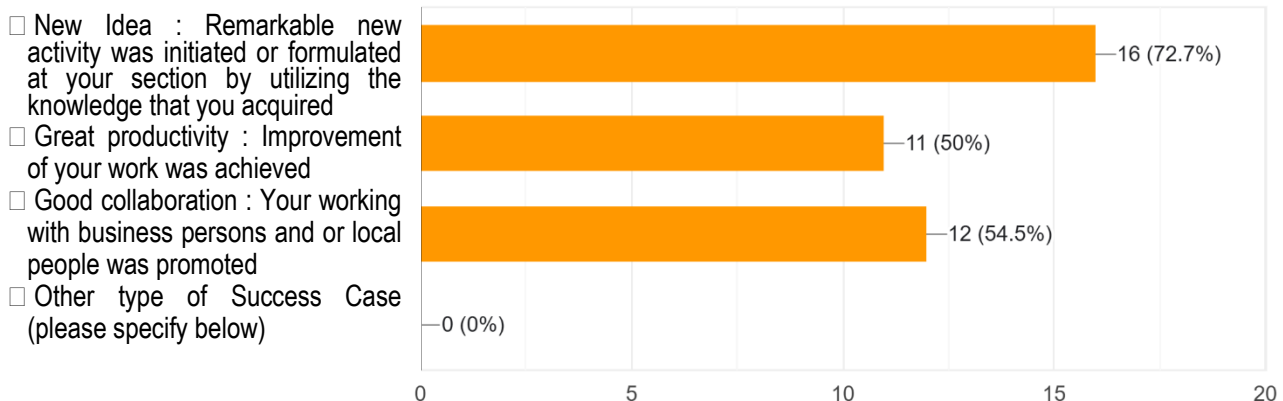
Only 23 % of participants have implemented their Action Plan. Half of participants (50%) responded “not sure / do not want to answer”. The narrative comments indicate the plan is not mandate and limitation of resources as well as need collaboration with other countries.

2. "Success Case" (Good practice)

Question 2 a: Please indicate the type of "Success Case" (good practice) in which TCTP contributed to your work. (Multiple choices acceptable)

Question 2 a: Please indicate the type of "Success Case" (good practice) in which TCTP contributed to your work. (Multiple choices acceptable)

22 件の回答



Question 2 b: Please explain your "Success Case" (Good practice) in detail. (n=10)

- I have start to collaborate and share some knowledge with other for a good project which support the sustainability goals.
- Use the idea of OTEC technology learnt during the training, as the project proposal for APEC-ACABT YES Challenge 2024 with the title of "Acceleration of Rural and Costal Electrification Process in Sabah via Implementation of Ocean Thermal Energy Conversion (OTEC) Technology". My group won the first place in that competition at Chiang Mai, Thailand.
- Knowledge gain in Hydrogen energy, quality of biodiesel and engine adequacy, 2 stage biomass gasification were used in technology scouting for my roadmap establishment.
- After participating in the TCTP program, I introduced a new knowledge-sharing initiative within my department to enhance data literacy and analytical skills. Using the knowledge and tools I acquired, I designed hands-on training sessions focused on practical data analysis, visualization techniques, and reporting best practices. This initiative not only improved the team's technical capacity but also encouraged a culture of continuous learning and peer support. As a result, several team members began applying these new skills in their day-to-

day work, leading to more insightful reports and faster decision-making. The success of this initiative has inspired further knowledge transfer activities across departments.

- Manage to expand more on microalgae study base on the exposure learnt from this course
- As a student, I have started implementing parts of my action plan within my capacity. After returning from the TCTP program, I shared what I learned with my peers and lecturers through informal discussions and a small sharing session. I also began exploring opportunities to integrate renewable energy topics into my academic research and community engagement activities. Additionally, as I am involved in startup development, I see great potential to apply the knowledge from TCTP in shaping sustainable solutions within my company. Moving forward, I am committed to expanding these efforts and contributing to real-world implementation in both academic and entrepreneurial contexts.
- Enlarge Potential of Department on Energy Field
- I can share some ideas and information from this training to colleagues.
- Improve decision making various field, to include renewable energy demand in various project and considerations
- Currently, I am working as research scientist in one of the university in Malaysia. The knowledge I gained from the training has significantly improved my understanding especially related to the biodiesel and hydrogen production. For example, this month my team are proposing a new grant for the hydrogen utilization in collaboration with some other countries and I able to share some of the knowledge gained from this program with the other during the brainstorming session. This remarks the benefit and transfer of knowledge from the TCTP program.

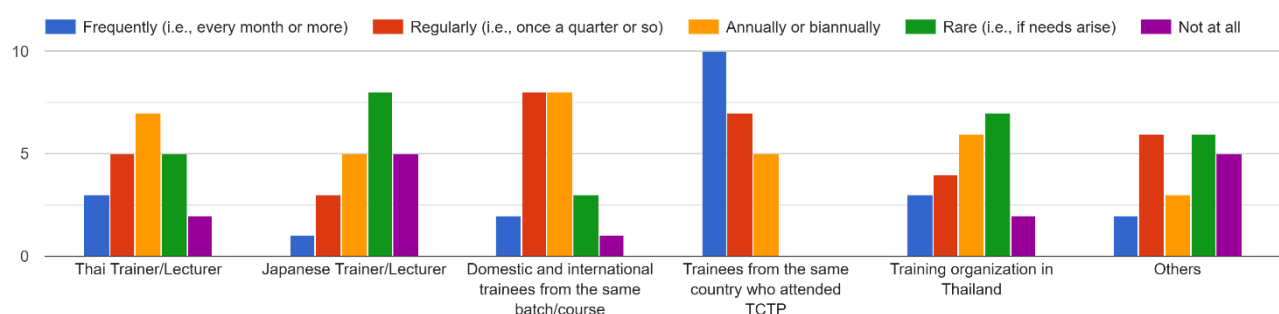
Analysis of the study team

New idea (73%), great productivity (50%), and good collaboration (54%) are reported. We can say it is a great application. The narrative comments include some good real success cases”, which we can examine and identify the “success factors” to contribute to make the application and further outcomes. One of success factor is good collaboration with colleagues in the team, as well as the opportunity available of applying new knowledge obtained the training.

3. Networking/communication after the training program

Question 3 a: Please indicate the level of your networking/communication with stakeholders of the training program.

Question 3 a: Please indicate the level of your networking/communication with stakeholders of the training program.



Please share how do you usually network with others? (e.g., face-to-face, online, formal events, informal meetings). (n of comments = 20)

- face to face
- informal meetings
- online
- face-to-face and online Informal meeting
- I am frequently meeting with the trainee from the same country since we are in the same department and conducting the similar project. With the trainee in another country, most of it in online.
- Online platforms, informal meeting
- Face-to-face and online
- the committee maintain the line group for us, the last communication is related to the Bangkok earthquake
- Online, social media
- Online
- face to face in Universiti Kebangsaan Malaysia
- Online via line application
- Online, face to face
- face-to-face and formal events
- Facebook page

- Mostly online for internationals, for other Malaysians, mixed mode
- online, events, informal meetings
- We are connecting online with the other country trainees and for the same country, we often meet for the program or event in online and face to face

Question 3 b: Please explain the reason why you have communicated with other stakeholders after the training program. (n of comments =18)

- To gain more knowledge and understanding on renewable energy
- Meet, chat and network
- For the program or ensure the connection is still ongoing.
- Build relationships, share documents, and work support.
- To keep connected
- no idea
- To know their progress, their well being, latest development in the area of RE.
- I stayed in touch with stakeholders to share implementation experiences, get feedback, and explore collaboration opportunities.
- On the research work discussion
- I have to consult about my work related with other stakeholders, particularly Thai Lecturer and trainee, to improve my responsible work.
- For create the course, Survey for the need skill from graduated student
- Involved multiple programs and events related to renewable energy
- Same field
- asked for some questions related training contents
- -
- To collaborate in research and other academic activities
- Sharing current activities
- To ensure that we are always connected to each other and become friends. This will help in future collaboration too.

Question 3 c: Please share the remarkable or good events that happened due to maintaining the communication with other stakeholders (e.g., exchange the new knowledge or experience). (n of comments =17)

- -
- exchange the new knowledge, idea on research and development
- Caring for fellow trainees upon arrival in Thailand
- Exchange some knowledge and update each other progress in work and personal
- Exchange new knowledge, work support, and collaboration
- Update current works and exchange ideas
- no idea

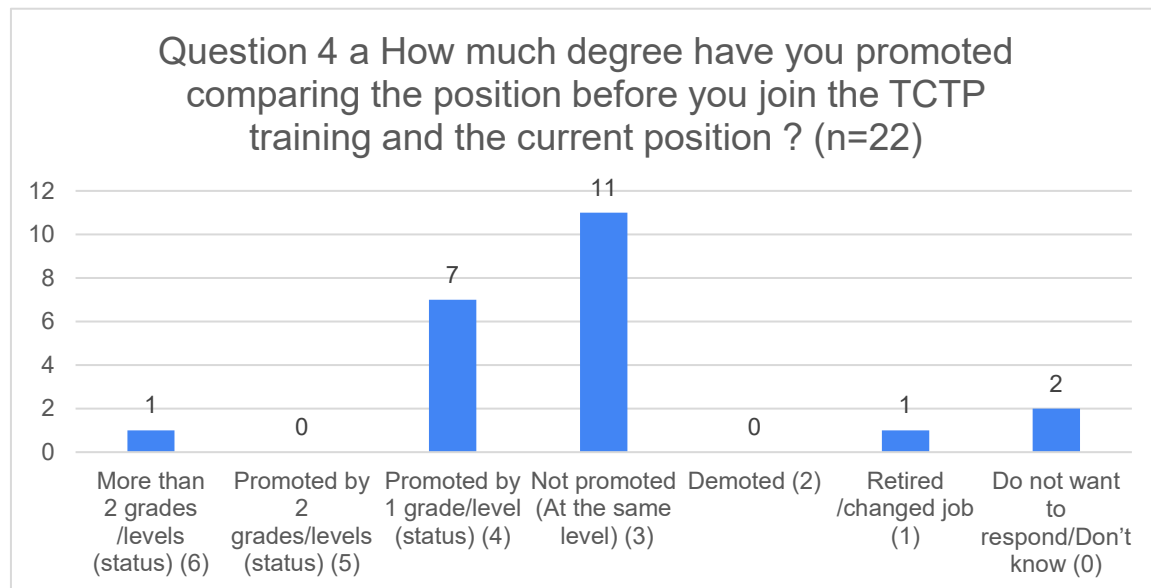
- Exchange the new knowledge or experience, collaboration
- Through ongoing communication, I learned practical tips from others—like data automation—which I adapted to improve our own process. It also helped build a strong support network.
- exploring the possibility to apply research grant together
- We have a chance to exchange the new knowledge together.
- Due to join several of their events, allowing me to actively contribute to raising awareness on renewable energy to the community
- update knowledge and idea
- exchange the new experience
- Expanding my researcher network
- Most of the time, we exchange our experience in any related work and also some knowledge that connect between each other

Analysis of the study team

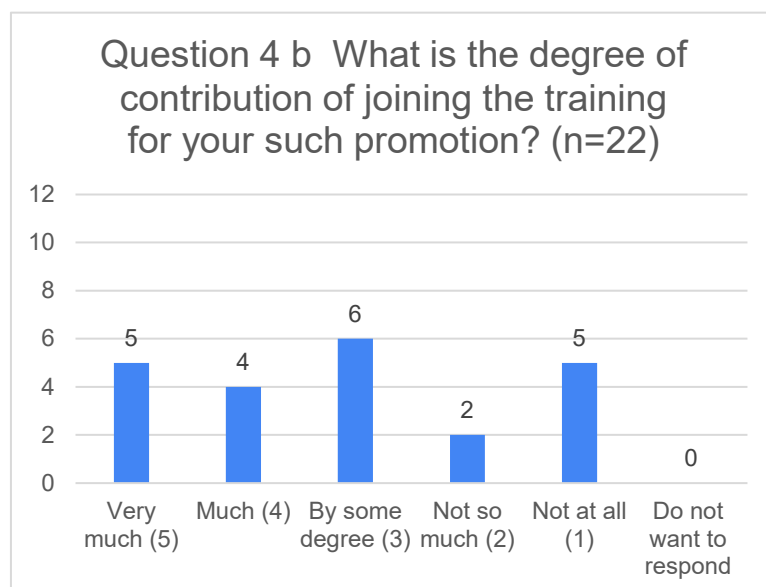
Great frequency and useful exchange of information has been made among trainees. Especially communication with the trainees from the same country reach 100%, which is very high. It indicates collaboration with colleagues in his/her country is promoted. Also, communication with participants from neighboring countries are frequent and the purpose of it is to exchange new knowledge across over the country border.

4. Promotion and contribution of the training program

Question 4 a How much degree have you promoted comparing the position before you join the TCTP training and the current position ? (n=22)



Question 4 b What is the degree of contribution of joining the training for your such promotion? (n= 22)



Please share your comment (n=3)

- understand much more on renewable energy
- I'm already in this field, having more collaboration made some of my work easier, especially from Japan.

- I join this program while I am graduate research assistant and at the end of my training in Thailand, I am officially graduated and got the offer letter for the new position.

Analysis of the study team

According to 22 respondents, exactly a half (n=11) have not receive promotion. Nearly another half, total 8 have received promotion. This is a good ratio compared with other training courses. The degree of contribution of the training on their promotion is generally good. The narrative comments indicate the purpose of and benefit they gained from training are not promotion.

5. Your comments and suggestions

Question 5: To enhance the transfer of technology and knowledge related to renewable energy policies and implementation in your country, please share your comments or suggestions about TCTP.

- Can give opportunity for the former participants to share or become speakers if they are able to do it.
- the delegation should be more than 5 countries, or it should be all ASEAN member joined this workshop to have broad understanding
- The technology is sufficient to be utilized and some technologies are more advanced and can be learned from this training.
- We don't have the direct power in the decision-making of the policy. But the most potential thing we can do is by sharing the input gained from TCTP. However, we don't have the right channel to do that yet.
- Maybe can add some more hands on on the carbon capture experiments
- To further support the transfer of technology and knowledge on renewable energy, I suggest TCTP consider establishing a post-training follow-up platform where participants can continue discussions, share local implementation updates, and access expert support.
- The module maybe need to include the latest progress/technology/new researches and methods to implement the knowledge in a business way or to the government way. How to make a potential business with the technology will drive the more interest
- TCTP arranged an excellent training course on renewable energy. This course covered the concept and challenge on various biofuel production. Moreover, they didn't only transfer the knowledge in lecture class, but they also provided a chance to us for observing the real production process through site visit in many places. Thus, I was more clearly understanding the whole technologies they taught, and saw a channel to adapt it in my work.
- the training are well prepared and fruitful with interested contents.
- More training and knowledge sharing on the importance of renewable energy will open up more chances for the implementation. Most of the company are started to shift to renewable

technology, approaching those company together with the government agencies and educator will enhance the implementation of renewable energy.

- To discuss more about real case studies, participation from industry and policy related inputs.
- TCTP is a valuable initiative for regional collaboration. To enhance its impact, I suggest including localized case studies, promoting practical sessions, and fostering post-training exchange among participants.
- It is a course that creates opportunities for access to new energy technologies.
- Creating an active TCTP alumni network and online platform can help foster continuous exchange of new technologies, funding opportunities, and policy updates among past participants
- Good Training and informative training to upgrade and create new field in the department

Analysis of the study team

The TCTP training was highly valued for its well-prepared content, effective combination of lectures and site visits, and relevance to participants' work. Suggestions for improvement include updating modules with the latest technologies, adding more hands-on experiments and real case studies, and involving industry and policymakers. Participants also emphasized the importance of broader regional participation (ideally all ASEAN members) and the creation of post-training platforms or alumni networks to share updates, policy inputs, and business opportunities. Overall, TCTP is seen as a valuable initiative for regional collaboration, with potential to enhance its impact through stronger continuity, practical applications, and linkages with business and policy.

Final question: Contact information

- Your name (n=22)
- Your phone number (mobile or landline) * (n=22)
*The study team may contact you directly by phone if your case is selected as the best "Success Case".
- Your email address (n=22)
- Name and contact information of the person responsible for sending you to TCTP (n=30)
- (b) E-mail address of the person (n=19)

***** Confidentiality is strictly secured. Thank you very much for your cooperation for this survey!! *****

FY2025 Joint Evaluation of Third Country Training Programme (TCTP) in Thailand

Ex-trainees Survey Result Report

**#3 Energy Resilience Assessment: Towards Climate
Adaptable Energy Systems**

Energy Resilience Assessment: Towards Climate Adaptable Energy Systems



Basic statistics of this survey

Target participants (trainees)	30 (25 except Myanmar)
Number of participants filled the survey	3 (Response rate 12%)
Date of notification to the participants	1_A request email sent : July 17, 2025 2_Follow-up email1 : July 23, 2025 3_Follow-up email with personal name : July 30 Due date: Aug 1, 2025

Complied date: Sep. 22, 2025 by RS

Update date Oct. 10, 2025 -

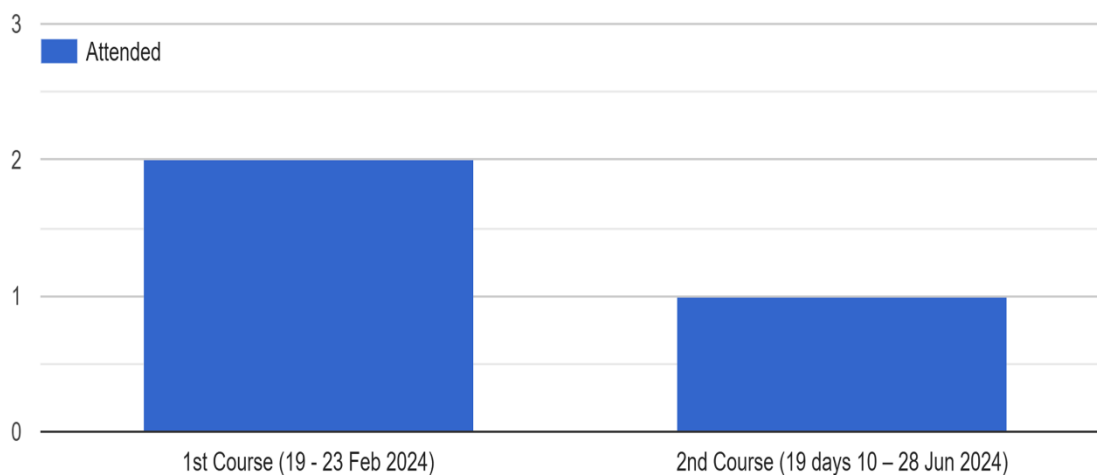
1. Knowledges and skills you obtained and satisfaction

Question 1 a. Please indicate the sessions of the training program you attended.

1st Course (19 - 23 Feb 2024)

2nd Course (19 days 10 – 28 Jun 2024)

Question 1 a. Please indicate the sessions of the training program you attended.

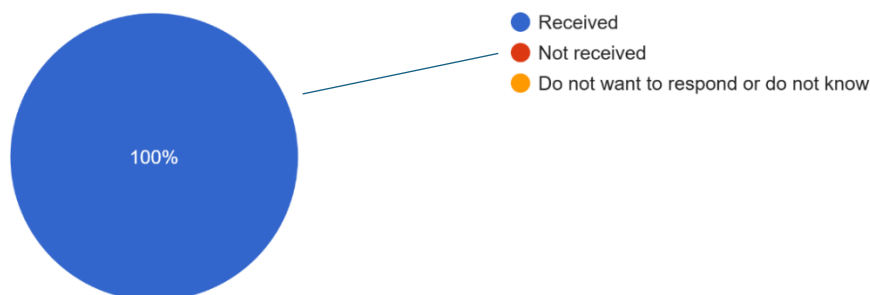


Please share your comment. (0 comments)

Question 1 b. After completion of the training, did you receive a certificate (Certificate of Completion) from the Thai side (TICA, the training implementing agency, or JICA Thailand Office)?"

Question 1 b. After completion of the training, did you receive a certificate (Certificate of Completion) from the Thai side (TICA, the training implementing agency, or JICA Thailand Office)?"

3 件の回答

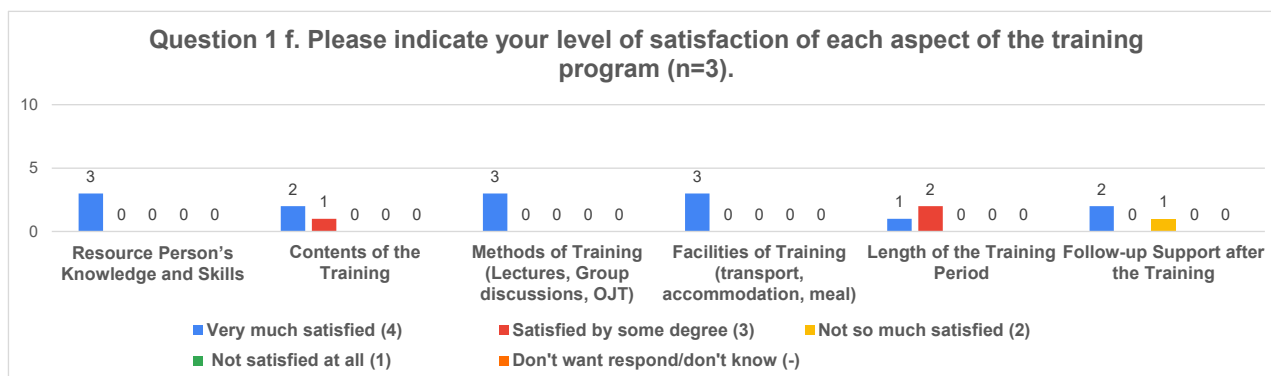


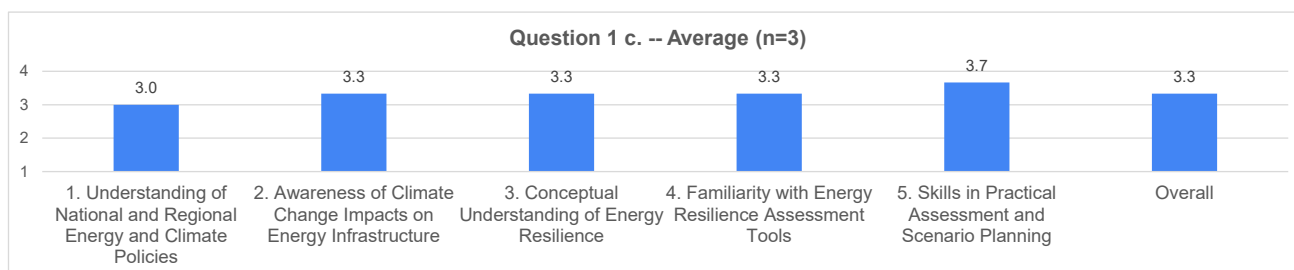
If you did not receive it, please explain the reason. (n=0)

• -

Question 1 c. Please indicate the progress of your subject-matter or sector knowledge and skills through the training program.

Aepect of the training-> prpgram ↓Level of progress	Resource Person's Knowledge and Skills	Contents of the Training	Methods of Training (Lectures, Group discussions, OJT)	Facilities of Training (transport, accommodation, meal)	Length of the Training Period	Follow-up Support after the Training	Overall
Very much satisfied (4)	3	2	3	3	1	2	1
Satisfied by some degree (3)	0	1	0	0	2	0	2
Not so much satisfied (2)	0	0	0	0	0	1	0
Not satisfied at all (1)	0	0	0	0	0	0	0
Don't want respond/don't know (-)	0	0	0	0	0	0	0
n	3	3	3	3	3	3	3
Average	4.0	3.7	4.0	4.0	3.3	3.3	3.3
Standard Deviation	0.0	0.6	0.0	0.0	0.6	1.2	0.6





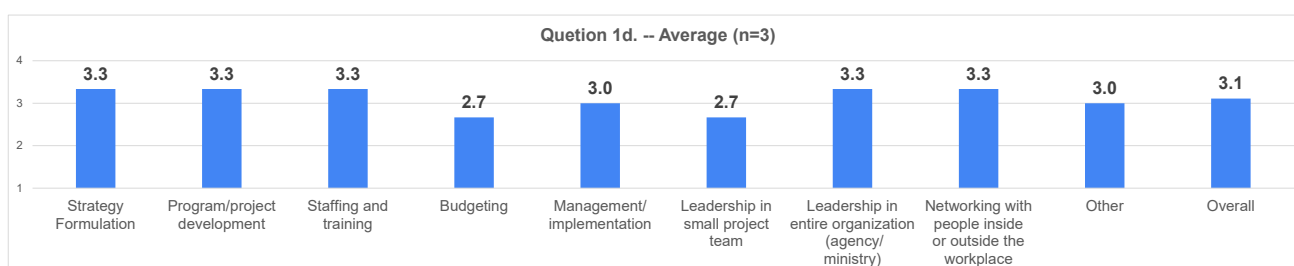
Please share your comment. (n=1)

- There are some interesting tools that need to be implemented in the existing RE system and if possible make the standard to be implemented into RE system as well as the certification scheme.

Analysis of the study team

The overall average of the level of progress is 3.3, which is slightly more than “Progressed by some degree (3)”. It indicates each subject-matter knowledge and skills are progressed by some degree.

Question 1 d. Please indicate the progress of your general knowledge and skills through the training program.



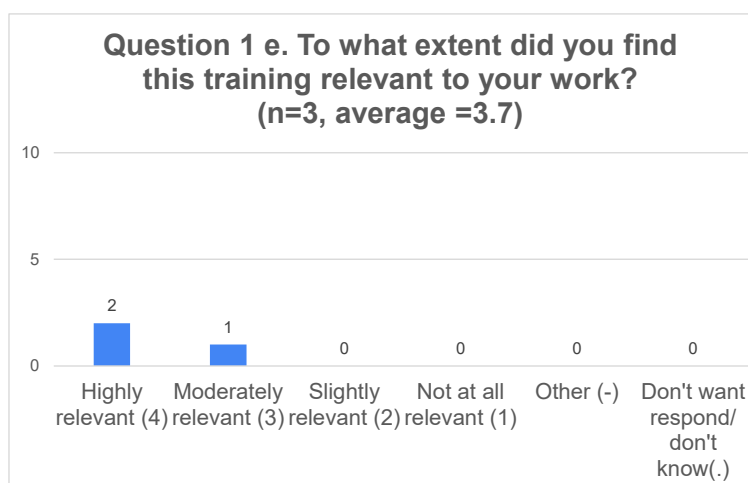
Please share your comment. (n=0)

Analysis of the study team

The overall average of the level of progress is 3.1, slightly more than “Progressed by some degree (3)”. It indicates each general knowledge, and skills are progressed by some degree.

Question 1 e. To what extent did you find this training relevant to your work?

	Question 1 e. To what extent did you find this training relevant to your work?
Highly relevant (4)	2
Moderately relevant (3)	1
Slightly relevant (2)	0
Not at all relevant (1)	0
Other (-)	0
Don't want respond/ don't know(.)	0
n	3
Average	3.7
Stdev	0.6



Please share your comment. (n=1)

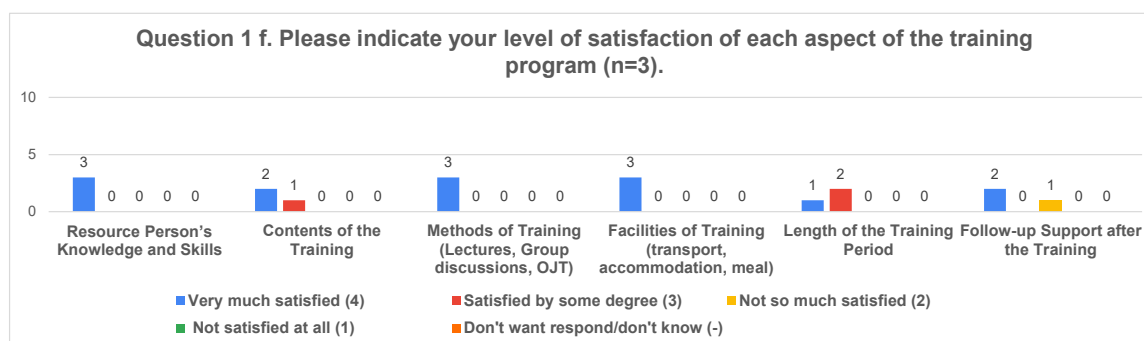
- When the RE tech is implemented then it should be monitored by these ERA tools.

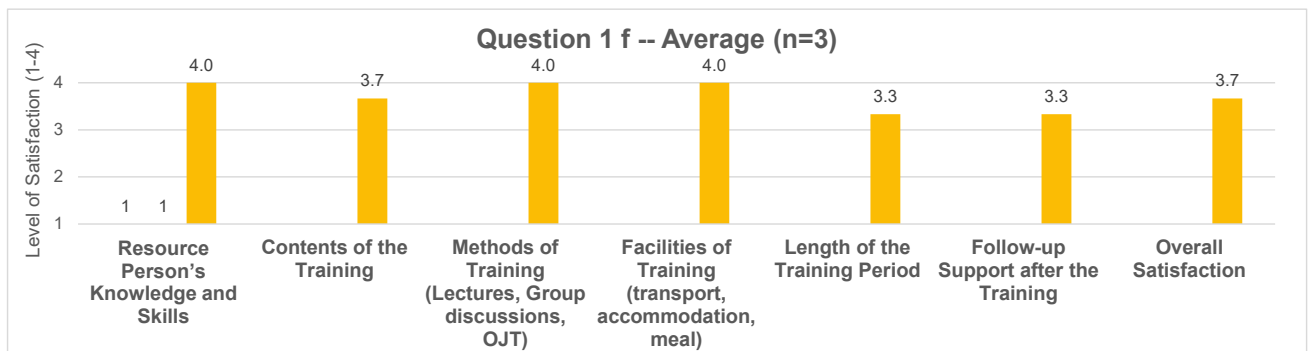
Analysis of the study team

The average is 3.7, which is more than “Moderately relevant” but below “Highly satisfactory” although n is only 3.

Question 1 f. Please indicate your level of satisfaction of each aspect of the training program.

Aspect of the training-> prpgram	Resource Person's Knowledge and Skills	Contents of the Training	Methods of Training (Lectures, Group discussions, OJT)	Facilities of Training (transport, accommodation, meal)	Length of the Training Period	Follow-up Support after the Training	Overall
↓Level of progress							
Very much satisfied (4)	3	2	3	3	1	2	15
Satisfied by some degree (3)	0	1	0	0	2	0	5
Not so much satisfied (2)	0	0	0	0	0	1	1
Not satisfied at all (1)	0	0	0	0	0	0	0
Don't want respond/don't know (-)	0	0	0	0	0	0	0
n	3	3	3	3	3	3	21
Average	4.0	3.7	4.0	4.0	3.3	3.3	3.7
Standard Deviation	0.0	0.6	0.0	0.0	0.6	1.2	0.6





Please share your comment. (n=1)

- Excellent

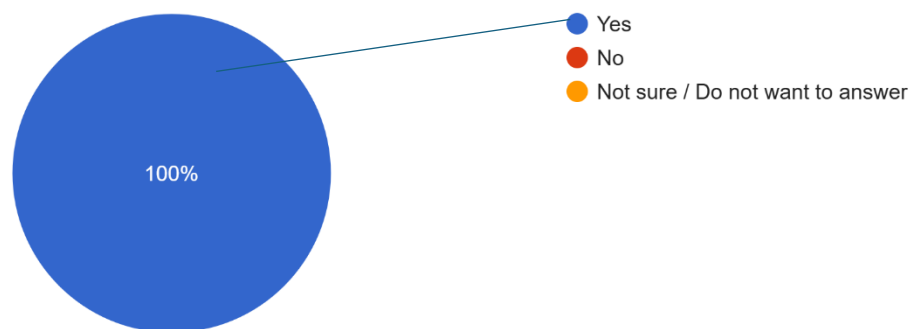
Analysis of the study team

The overall average of the level of satisfaction is 3.7, which is more than “Satisfied by some degree (3)” but less than “Satisfied very much (4)” although n is only 3.

Question 1 g. Have you been able to apply the knowledge and skills learnt from the training courses in your work?

Question 1 g. Have you been able to apply the knowledge and skills learnt from the training courses in your work?

3 件の回答



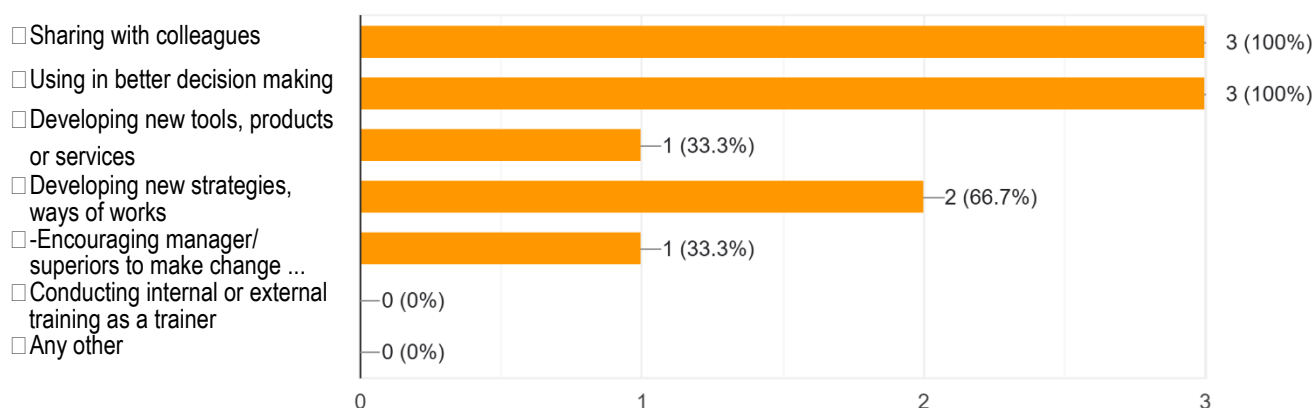
Please share your comments. (n=1)

- Sharing Knowledge and training

Question 1 h. How have you applied the knowledge gained and skills learnt from the training ? (Multiple answers allowed)

Question 1 h. How have you applied the gained knowledge and skills learnt from the training ?
(Multiple answers allowed)

3 件の回答



Please share your comment. (n=0)

• -

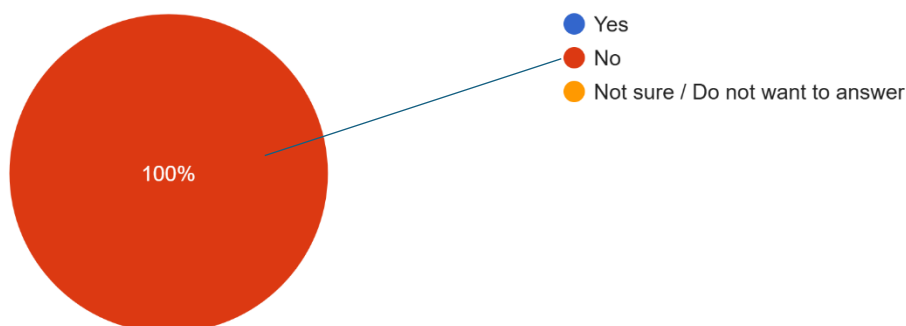
Analysis of the study team

All participants (100%) shared their knowledge and skills with their colleagues and used them in better decision making. It can be said that the outcome of acquiring knowledge and skills has been sufficiently achieved. The further outcome, i.e., more efficient, and effective power distribution and the outcome, improvement of life of the customers, should be monitored. One caution is n is only 3.

Question 1 i. Did you implement your action plan after returning to your country?

Question 1 i. Did you implement your action plan after returning to your country?

3 件の回答



If you answered 'Yes', please describe the implementation status. If you answered 'No', please explain the reasons (e.g. lack of equipment, limited budget, insufficient technical skills or knowledge, or lack of understanding/support from your organization). (n=17)

- Limited budget and lack of understanding/support from your organization
- Lack of teamwork
- Not yet met the agreement with the stakeholder, still ongoing negotiation.

Analysis of the study team

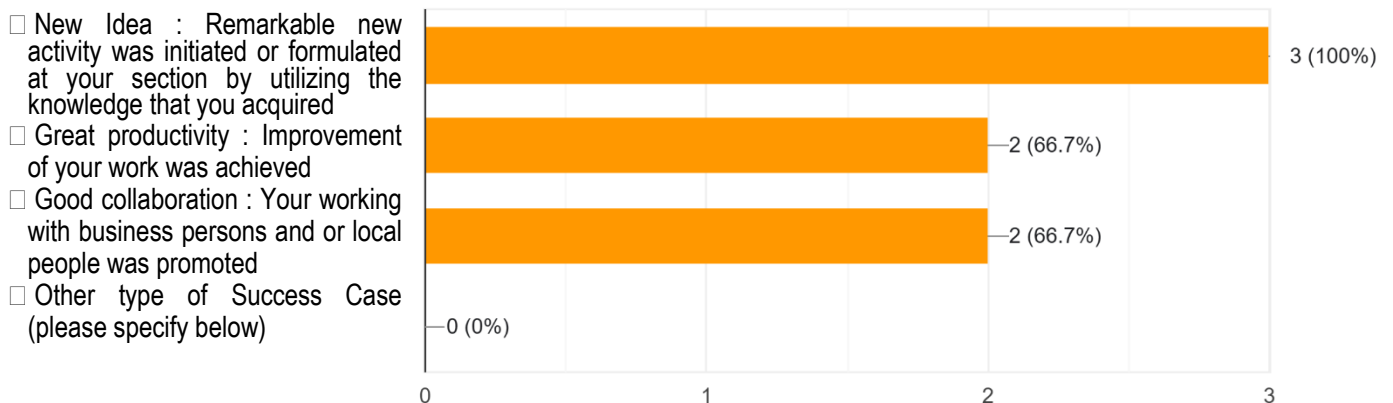
No participants have implemented their Action Plan (0%). The narrative comments indicate lack of budget, lack of teamwork, and no agreement with stakeholders.

2. "Success Case" (Good practice)

Question 2 a: Please indicate the type of "Success Case" (good practice) in which TCTP contributed to your work. (Multiple choices acceptable)

Question 2 a: Please indicate the type of "Success Case" (good practice) in which TCTP contributed to your work. (Multiple choices acceptable)

3 件の回答



Question 2 b: Please explain your "Success Case" (Good practice) in detail. (n=0)

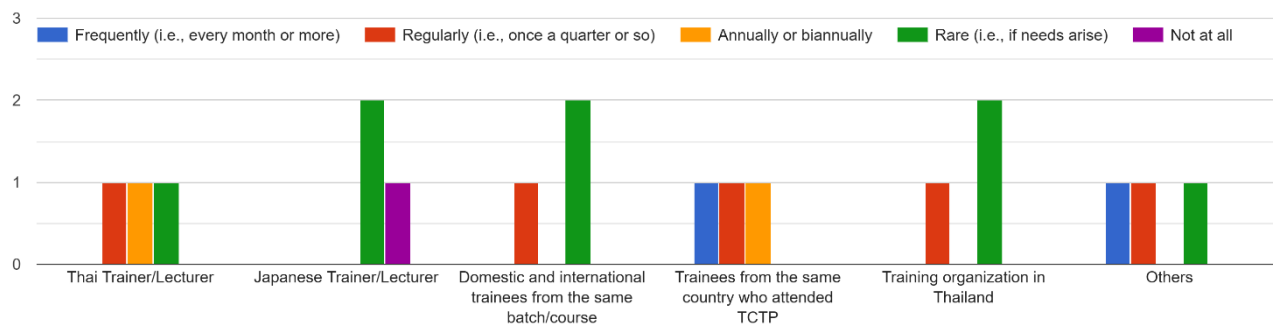
Analysis of the study team

New idea (100%), great productivity (67%), and good collaboration (67%) are reported although n is only 3. No detailed comment is provided.

3. Networking/communication after the training program

Question 3 a: Please indicate the level of your networking/communication with stakeholders of the training program.

Question 3 a: Please indicate the level of your networking/communication with stakeholders of the training program.



Please share how do you usually network with others? (e.g., face-to-face, online, formal events, informal meetings). (n of comments=1)

- Formal events

Question 3 b: Please explain the reason why you have communicated with other stakeholders after the training program. (n of comments =2)

- Need more cooperation
- To imlemneted the ERA concept into the existing RE system

Question 3 c: Please share the remarkable or good events that happened due to maintaining communication with other stakeholders (e.g., exchange the new knowledge or experience). (n of comments =2)

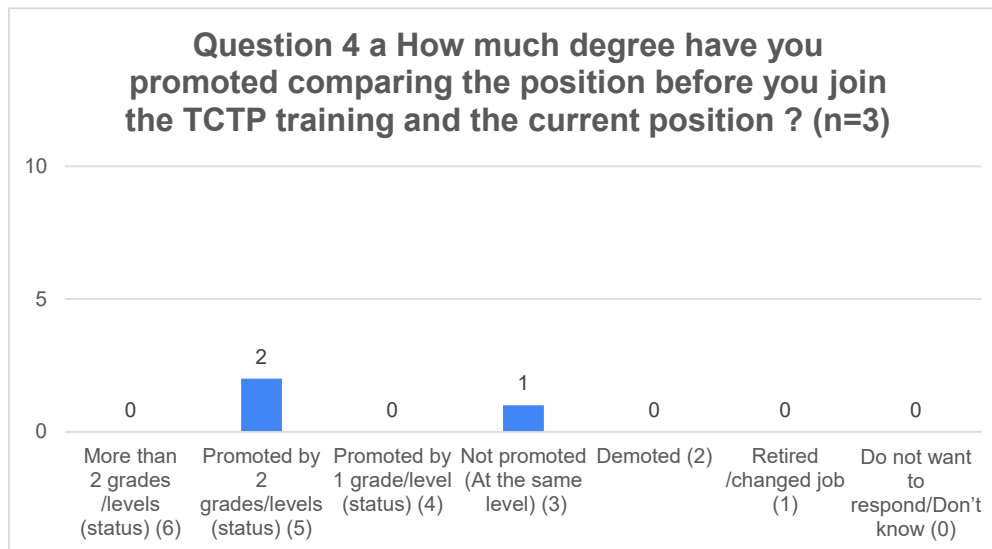
- Not yet
- Sharing knowledge within the RE enthusiast that there is a tool to measure the resiliency of the RE system.

Analysis of the study team

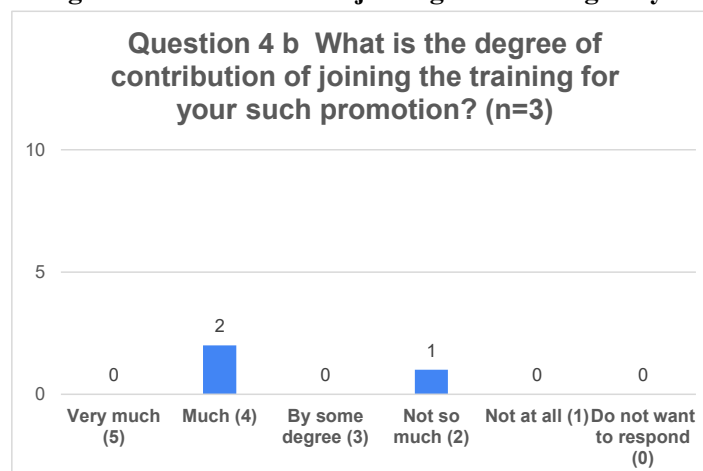
It is difficult to analyze or summarize due to the limited number of respondents (n=3).

4. Promotion and contribution of the training program

Question 4 a How much degree have you promoted comparing the position before you join the TCTP training and the current position? (n=3)



Question 4 b What is the degree of contribution of joining the training for your such promotion? (n= 3)



Please share your comment (n=1)

- Well recognized

Analysis of the study team

According to 3 respondents, two (n=2) have received two-degree promotion.

5. Your comments and suggestions

Question 5: To practically improve rice production in your country, please share your comments or suggestions about TCTP. (n=2)

- Make a demonstration project in Laos.
- Comments: TCTP provides a valuable platform for knowledge sharing and South-South cooperation. It aligns well with climate resilience goals, particularly in the energy sector, which require interdisciplinary and region-specific approaches.

Suggestions:

- (i) Promote tools such as GIS-based risk mapping and stress-testing scenarios under different climate futures.,
- (ii) Showcase successful resilience-enhancing projects from similar economies,
- (iii) Train participants to use or adapt international frameworks (e.g., IEA's energy resilience metrics, World Bank's Lifelines) to evaluate and prioritize investments for resilience,
- (iv) Expand discussions on how decentralized renewables (PV microgrids, hydrogen storage, etc.) can enhance resilience in climate-vulnerable areas,
- (v) Promote inter-agency collaboration (energy, disaster management, public works) in designing and using resilience assessments,
- (vi) Provide post-training mentorship or collaboration opportunities to support the implementation of resilience assessments,
- (vii) Create a TCTP alumni network focused on energy and climate resilience, enabling peer exchange and joint projects.

Analysis of the study team

- Well organized seven suggestions are made.

Final question: Contact information

- Your name (n=3)
- Your phone number (mobile or landline) * (n=3)
*The study team may contact you directly by phone if your case is selected as the best "Success Case".
- Your email address (n=3)
- Name and contact information of the person responsible for sending you to TCTP (n=3)
- (b) E-mail address of the person (n=3)

***** Confidentiality is strictly secured. Thank you very much for your cooperation for this survey!! *****

FY2025 Joint Evaluation of Third Country Training Programme (TCTP) in Thailand

Ex-trainees Survey Result Report

**#4 Practice in Innovation & Digital Technology for
Sustainable Water Management**

**Practice in Innovation & Digital Technology
for Sustainable Water Management**



Basic statistics of this survey

Target participants (trainees)	17 (15 except Myanmar)
Number of participants filled the survey	7 (Response rate 47%)
Date of notification to the participants	1_A request email sent : July 28, 2025 2_Follow-up email1 : Aug. 07, 2025 3_Follow-up email with personal name : Aug. 08 Due date: Aug. 14, 2025

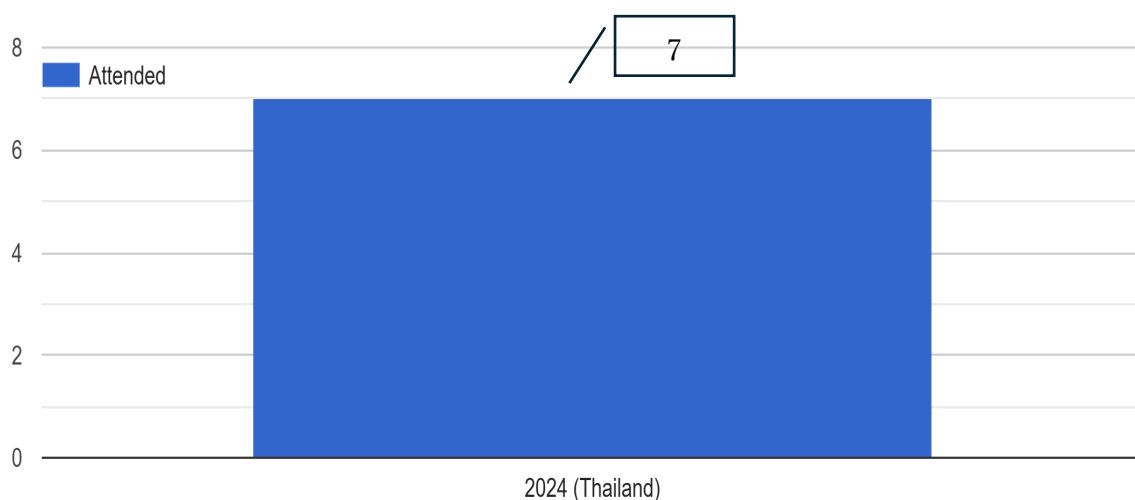
Complied date: Aug 29, 2025 by RS

1. Knowledges and skills you obtained and satisfaction

Question 1 a. Please indicate the sessions of the training program you attended.

2024 (Thailand)

Question 1 a. Please indicate the sessions of the training program you attended.



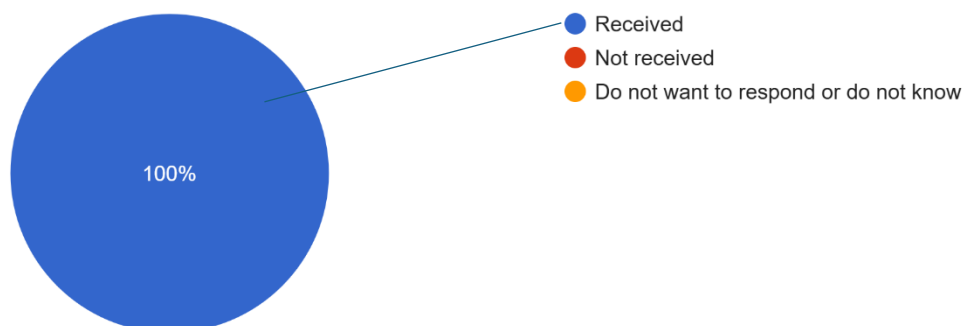
Please share your comment. (2 comments)

- 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8.
- i attended 8 sessions of training program.

Question 1 b. After completion of the training, did you receive a certificate (Certificate of Completion) from the Thai side (TICA, the training implementing agency, or JICA Thailand Office)?"

Question 1 b. After completion of the training, did you receive a certificate (Certificate of Completion) from the Thai side (TICA, the training implementing agency, or JICA Thailand Office)?"

7 件の回答

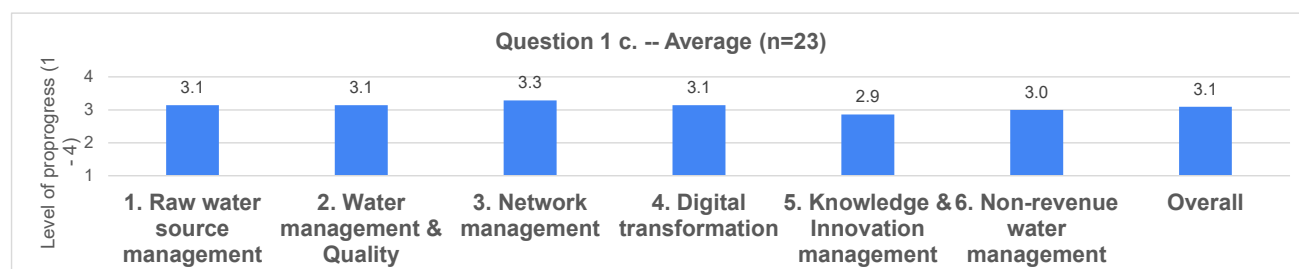
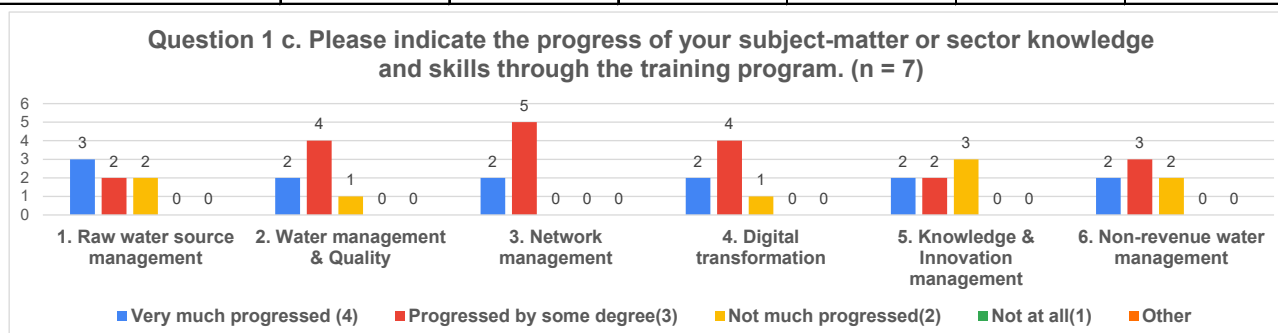


If you did not receive it, please explain the reason. (n=2)

- Not Applicable
- no comment

Question 1 c. Please indicate the progress of your subject-matter or sector knowledge and skills through the training program.

Subject-matter or sector -> knowledge & skills	1. Raw water source management	2. Water management & Quality	3. Network management	4. Digital transformation	5. Knowledge & Innovation management	6. Non-revenue water management
↓ Level of progress						
Very much progressed (4)	3	2	2	2	2	2
Progressed by some degree(3)	2	4	5	4	2	3
Not much progressed(2)	2	1	0	1	3	2
Not at all(1)	0	0	0	0	0	0
Other	0	0	0	0	0	0
n	7	7	7	7	7	7
Average	3.1	3.1	3.3	3.1	2.9	3.0
Stdev	0.9	0.7	0.5	0.7	0.9	0.8



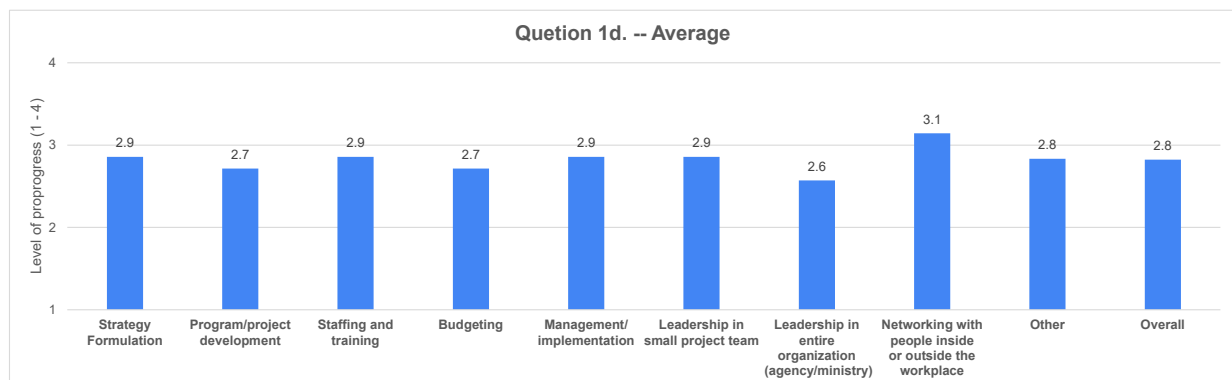
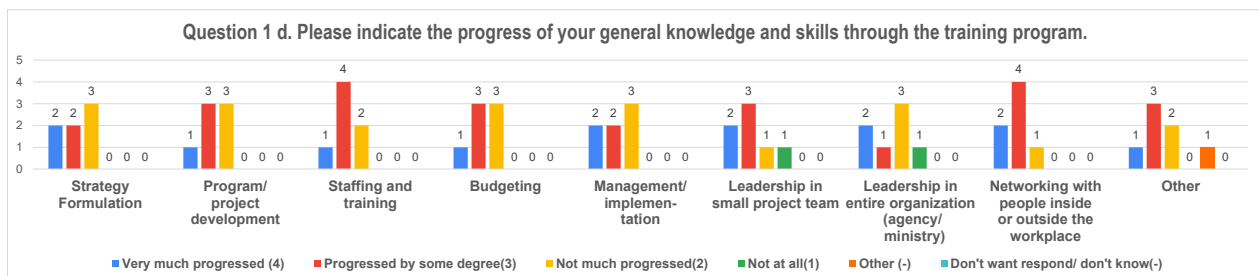
Please share your comment. (n=0)

Analysis of the study team

The overall average of the level of progress is 3.1, just slightly more than “Progressed by some degree (3)”. It indicates each subject-matter knowledge and skills are progressed by some degree. Some variation of the responses in each item.

Question 1 d. Please indicate the progress of your general knowledge and skills through the training program.

General knowledge & skills Level of progress	Strategy Formulation	Program/ project development	Staffing and training	Budgeting	Management/ implementation	Leadership in small project team	Leadership in entire organization (agency/ ministry)	Networking with people inside or outside the workplace	Other
Very much progressed (4)	2	1	1	1	2	2	2	2	1
Progressed by some degree(3)	2	3	4	3	2	3	1	4	3
Not much progressed(2)	3	3	2	3	3	1	3	1	2
Not at all(1)	0	0	0	0	0	1	1	0	0
Other (-)	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Don't want respond/ don't know(-)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
n	7	7	7	7	7	7	7	7	6
Average	2.9	2.7	2.9	2.7	2.9	2.9	2.6	3.1	2.8
Stdev	0.9	0.8	0.7	0.8	0.9	1.1	1.1	0.7	0.8



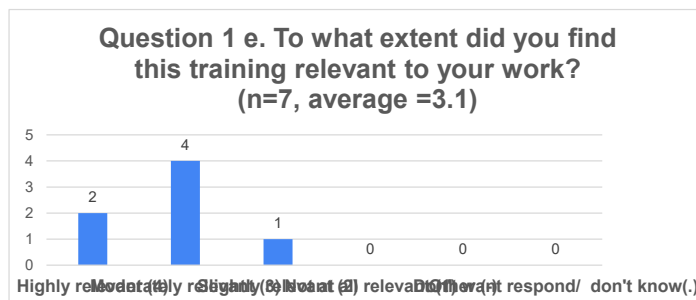
Please share your comment. (n=0)

Analysis of the study team

The overall average of the level of progress is 2.8, which is less than “Progressed by some degree (3)”. It indicates each general knowledge and skills are progressed by less than some degree. No narrative comment is provided.

Question 1 e. To what extent did you find this training relevant to your work?

	Question 1 e. To what extent did you find this training relevant to your work?
Highly relevant (4)	2
Moderately relevant (3)	4
Slightly relevant (2)	1
Not at all relevant (1)	0
Other (-)	0
Don't want respond/ don't know	0
n	7
Average	3.1
Stdev	0.7



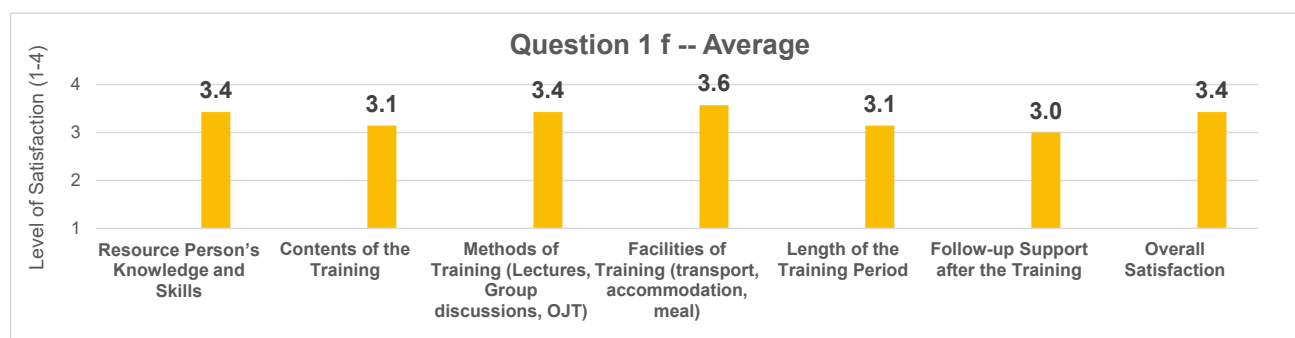
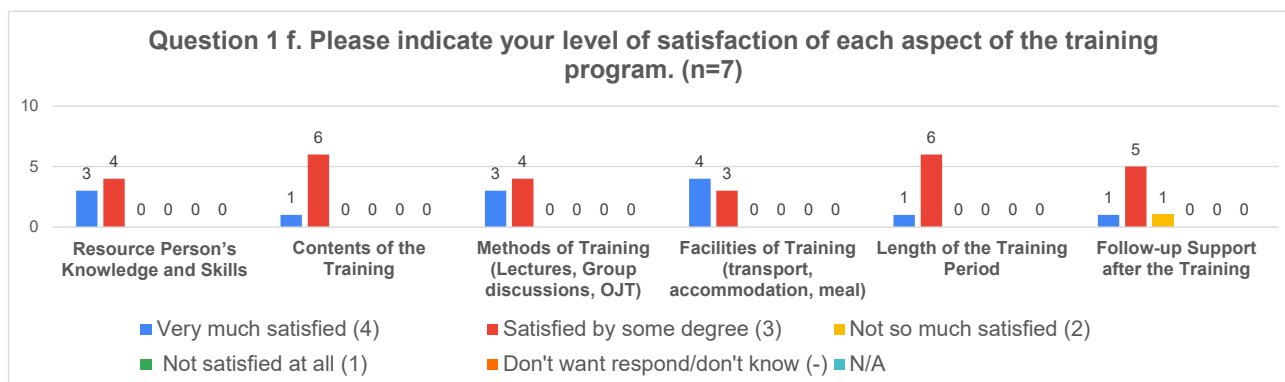
Please share your comment. (n=0)

Analysis of the study team

The average is 3.1, which is slightly higher than “Moderately relevant”. No narrative comment, is provided.

Question 1 f. Please indicate your level of satisfaction of each aspect of the training program.

Aspect of the training-> prpgram ↓ Level of progress	Resource Person's Knowledge and Skills	Contents of the Training	Methods of Training (Lectures, Group discussions, OJT)	Facilities of Training (transport, accommodation, meal)	Length of the Training Period	Follow-up Support after the Training	Overall
Very much satisfied (4)	3	1	3	4	1	1	16
Satisfied by some degree (3)	4	6	4	3	6	5	32
Not so much satisfied (2)	0	0	0	0	0	1	1
Not satisfied at all (1)	0	0	0	0	0	0	0
Don't want respond/don't know (-)	0	0	0	0	0	0	0
N/A	0	0	0	0	0	0	0
n	7	7	7	7	7	7	7
Average	3.4	3.1	3.4	3.6	3.1	3.0	3.4
Standard Deviation	0.5	0.4	0.5	0.5	0.4	0.6	0.5



Please share your comment. (n=0)

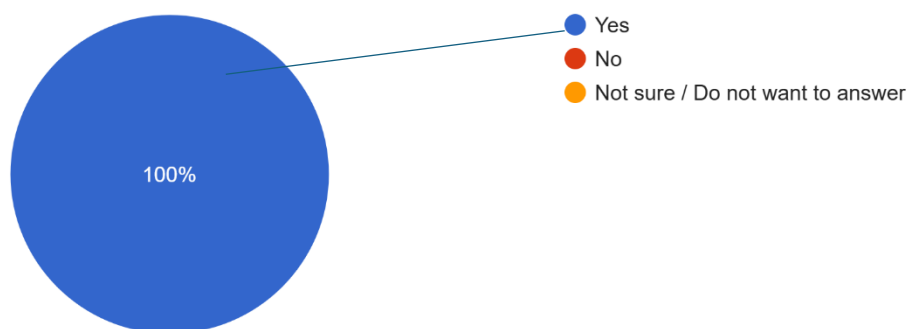
Analysis of the study team

The overall average of the level of progress is 3.4, which is more than “Satisfied by some degree (3)” but less than “Satisfied very much (4)”. The training contents, Resource persons (=lecturers), and methods (=mode) of training are generally highly satisfied. No narrative is provided.

Question 1 g. Have you been able to apply the knowledge and skills learnt from the training courses in your work?

Question 1 g. Have you been able to apply the knowledge and skills learnt from the training courses in your work?

7 件の回答

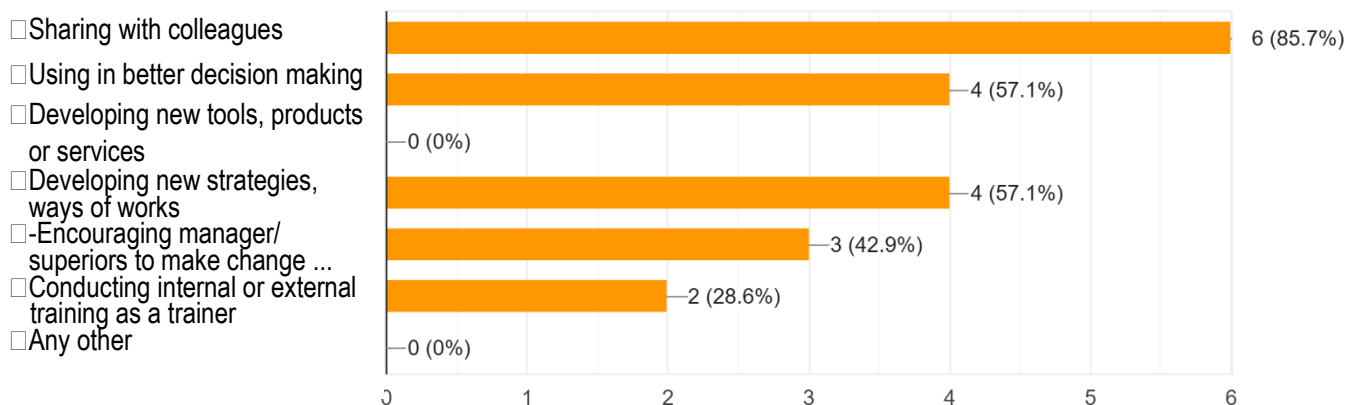


Please share your comment. (n=0)

Question 1 h. How have you applied the gained knowledge and skills learnt from the training ? (Multiple answers allowed)

Question 1 h. How have you applied the gained knowledge and skills learnt from the training ? (Multiple answers allowed)

7 件の回答



Please share your comment. (n=0)

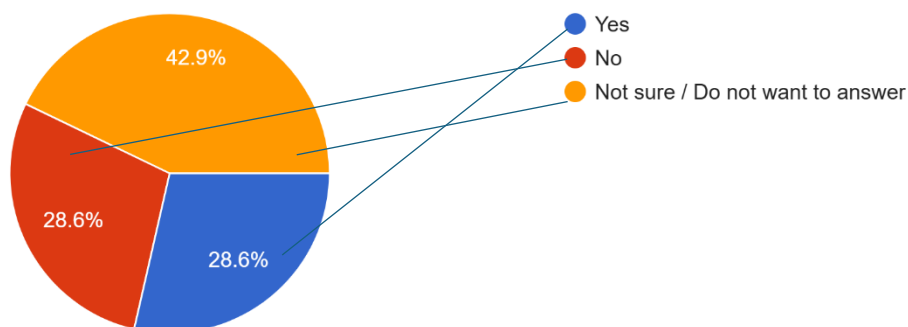
Analysis of the study team

Almost all (86 %) have shared their knowledges and skills with their colleagues. Remarkably, no one reported application for Developing new tools, products or service. It might be the reason of the nature of the course contents and their nature. No narrative comment is provided.

Question 1 i. Did you implement your action plan after returning to your country?

Question 1 i. Did you implement your action plan after returning to your country?

7 件の回答



If you answered 'Yes', please describe the implementation status. If you answered 'No', please explain the reasons (e.g. lack of equipment, limited budget, insufficient technical skills or knowledge, or lack of understanding/support from your organization). (n=2)

- 100% Complete.
- My action plan don't relate to my job positon, if having a chance, I'll share it to my co-worker.

Analysis of the study team

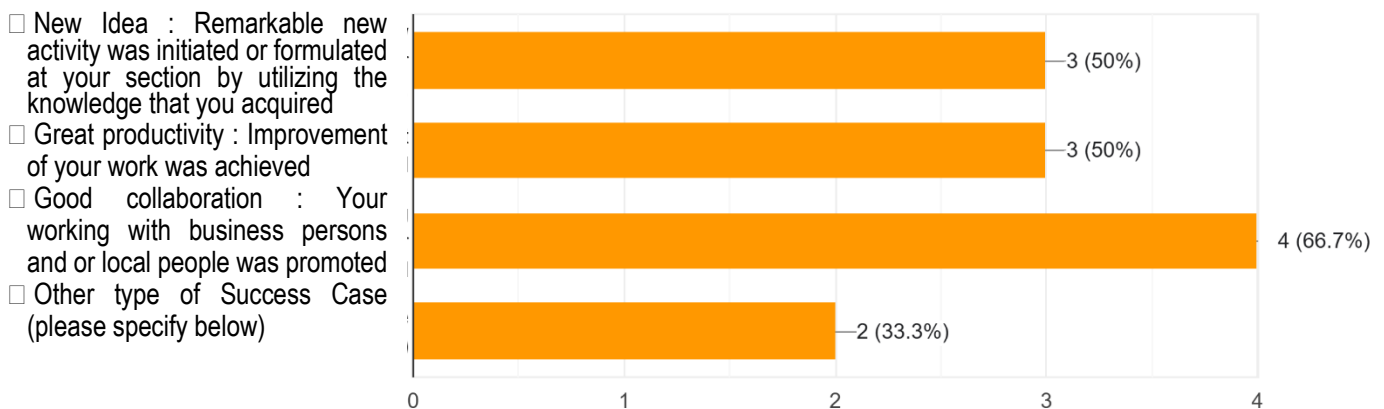
n=2 out of 7 (29 %) reported “yes” for implementation of the action plans. Another 2 (29%) reported “no” and the remaining participants (n=3) reported “not sure / Do not want to answer”. This is a mixed result.

2. "Success Case" (Good practice)

Question 2 a: Please indicate the type of "Success Case" (good practice) in which TCTP contributed to your work. (Multiple choices acceptable)

Question 2 a: Please indicate the type of "Success Case" (good practice) in which TCTP contributed to your work. (Multiple choices acceptable)

6 件の回答



Question 2 b: Please explain your "Success Case" (Good practice) in detail. (n=3)

- N/A
- no, thanks
- There are many related courses to my work and Thailand experience is the good practice with some part to follow.

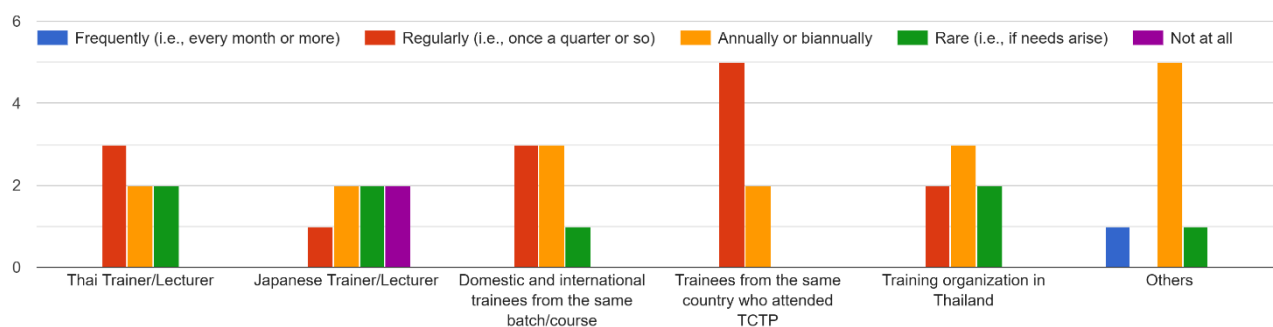
Analysis of the study team

Good collaboration (67%) is reported. The narrative comments do not show a certain success case.

3. Networking/communication after the training program

Question 3 a: Please indicate the level of your networking/communication with stakeholders of the training program.

Question 3 a: Please indicate the level of your networking/communication with stakeholders of the training program.



(Note) The average values cannot be calculated because the choices of response are not Likert-type scales.

Please share how do you usually network with others? (e.g., face-to-face, online, formal events, informal meetings). (n of comments=5)

- online
- Online social media
- Onlines, social media, email
- Offline, face to face

Question 3 b: Please explain the reason why you have communicated with other stakeholders after the training program. (n of comments =6)

- Seeking for the information and document from their countries.
- To connect, share knowledge and experiences after the training program, while also expanding and maintaining personal relationships.
- sharing knowledges, experiences
- To keep contact and exchange each other opinion or any new course
- I want to make information of solutions clear and how to apply these solutions in reality.

- During the training, a strong bond was formed with both the participants and the organizers. As a result, we have continued to stay in touch afterward, both professionally and personally, checking in on each other's well-being

Question 3 c: Please share the remarkable or good events that happened due to maintaining the communication with other stakeholders (e.g., exchange the new knowledge or experience). (n of comments =5)

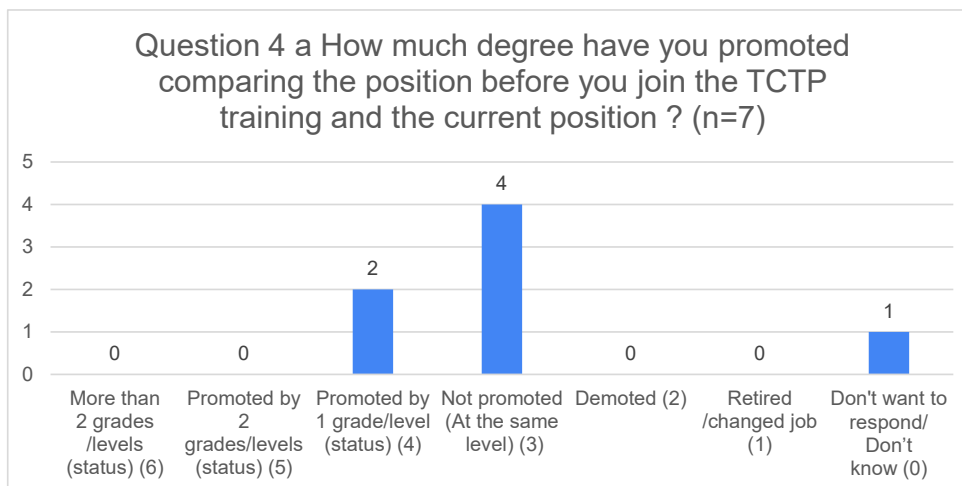
- Experience new idea and getting more information.
- I connected with a few friends who attended the training through Facebook and learned more about their lives and personalities.
- To visit Thai cultural tour
- Exchange cultures and technological information about water treatment plans among countries
- exchange the knowledge

Analysis of the study team

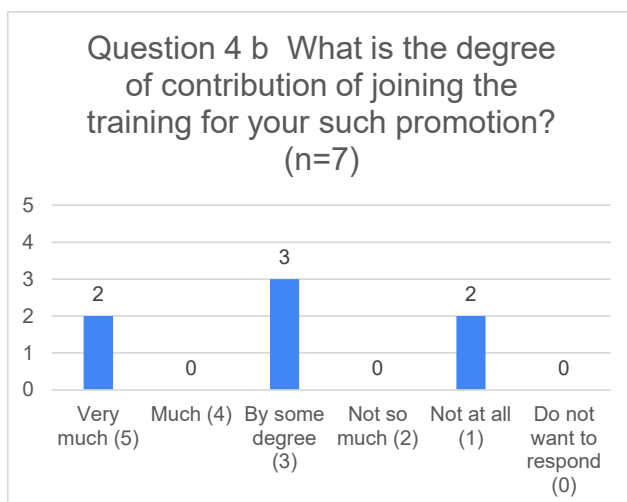
Communication with tainees and ex-traniees from the same country is most frequent. The mode is online. The main reasons of communicating are exchange of new ideas as well as greeting.

4. Promotion and contribution of the training program

Question 4 a How much degree have you promoted comparing the position before you join the TCTP training and the current position ? (n=7)



Question 4 b What is the degree of contribution of joining the training for your such promotion? (n= 7)



Please share your comment (n=0)

Analysis of the study team

According to 7 respondents, more than a half (n=4) have not made promotion. 2 respondents made 1 grade/level promotion and they evaluated the contribution of the training course on their promotion is “very much”.

5. Your comments and suggestions

Question 5: To lead to sustainability in water management with interesting technologies and innovations in your country, please share your comments or suggestions about TCTP. (n=5)

- To enhance such training, also to provide support for funding to the action plan for implementation
- Provide deep theory and practice of AI technology to apply in water supply, more theory and on-side practice of Non-revenue water work which is the crucial factor in water supply sector.
- Propose many water supply solutions to cope with climate change
- Please include more practice the course by specific subject
- Apply AI technology in water treatment plan.
- As a representative of MWA, I would like to propose the inclusion of study visits to provincial areas beyond MWA's service area, to broaden perspectives and enhance learning opportunities

Analysis of the study team

The comments and suggestions on TCTP for the implementation agencies (TICA and JICA), can be summarized as follows.

- Component on AI is necessary.
- More practical content is necessary.

Final question: Contact information

- **Your name (n=23)**
- **Your phone number (mobile or landline) * (n=23)**
***The study team may contact you directly by phone if your case is selected as the best "Success Case".**
- **Your email address (n=23)**
- **Name and contact information of the person responsible for sending you to TCTP (n=23)**
- **(b) E-mail address of the person (n=20)**

***** Confidentiality is strictly secured. Thank you very much for your cooperation for this survey!! *****

FY2025 Joint Evaluation of Third Country Training Programme (TCTP) in Thailand

Ex-trainees Survey Result Report

#5 Emergency Medical Service (EMS) Leadership and Management Training Course for Regional Training for Pre-Hospital Emergency Care in CLMV



Basic statistics of this survey

Target participants (trainees)	30 (25 except Myanmar)
Number of participants filled the survey	3 (Response rate 12%)
Date of notification to the participants	1_A request email sent : July 17, 2025 2_Follow-up email1 : July 23, 2025 3_Follow-up email with personal name : July 30 Due date: Aug 1, 2025

Complied date: Sep. 22, 2025 by RS

Update date 1 :Oct. 10, 2025 -

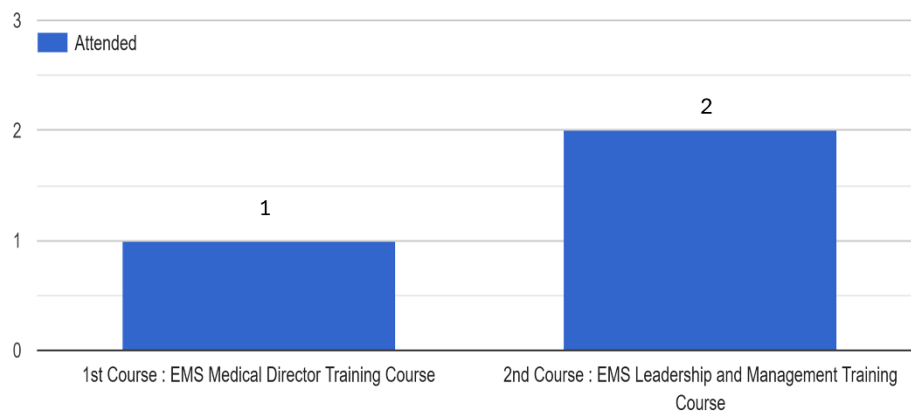
1. Knowledges and skills you obtained and satisfaction

Question 1 a. Please indicate the sessions of the training program you attended.

1st Course (19 - 23 Feb 2024)

2nd Course (19 days 10 – 28 Jun 2024)

Question 1 a. Please indicate the sessions of the training program you attended.

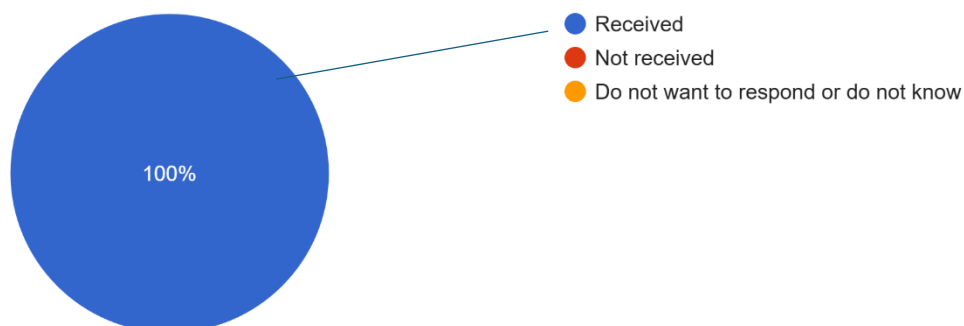


Please share your comment. (0 comments)

Question 1 b. After completion of the training, did you receive a certificate (Certificate of Completion) from the Thai side (TICA, the training implementing agency, or JICA Thailand Office)?"

Question 1 b. After completion of the training, did you receive a certificate (Certificate of Completion) from the Thai side (TICA, the training implementing agency, or JICA Thailand Office)?"

3 件の回答



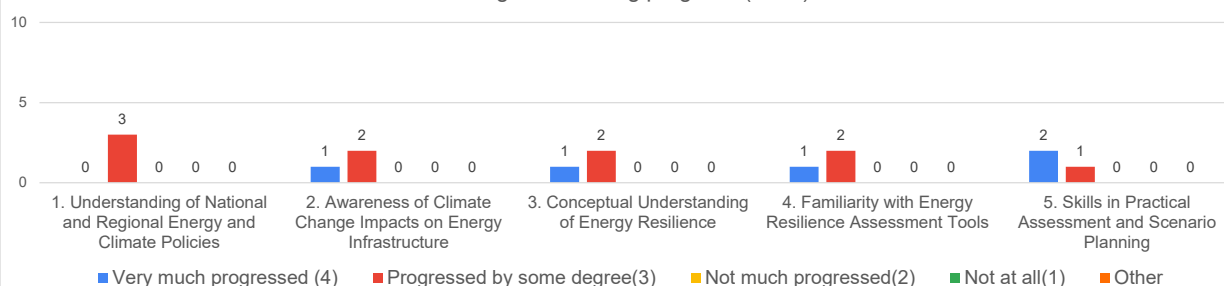
If you did not receive it, please explain the reason. (n=0)

• -

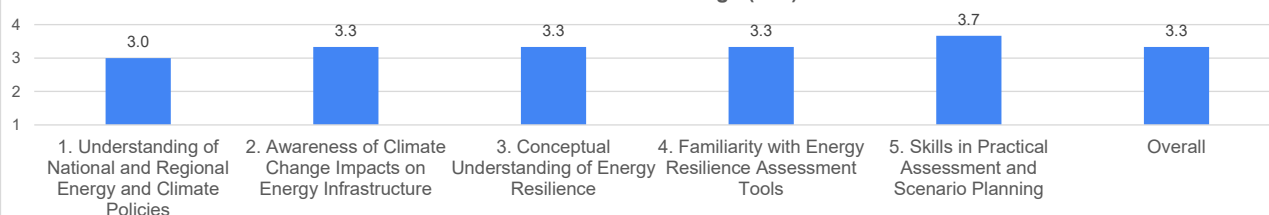
Question 1 c. Please indicate the progress of your subject-matter or sector knowledge and skills through the training program.

Subject-matter or sector -> knowledge & skills	1. Understanding of National and Regional Energy and Climate Policies	2. Awareness of Climate Change Impacts on Energy Infrastructure	3. Conceptual Understanding of Energy Resilience	4. Familiarity with Energy Resilience Assessment Tools	5. Skills in Practical Assessment and Scenario Planning	Overall
Level of progress						
Very much progressed (4)	0	1	1	1	2	5
Progressed by some degree(3)	3	2	2	2	1	10
Not much progressed(2)	0	0	0	0	0	0
Not at all(1)	0	0	0	0	0	0
Other	0	0	0	0	0	0
Average	3.0	3.3	3.3	3.3	3.7	3.3
Stdev	0.0	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5

Question 1 c. Please indicate the progress of your subject-matter or sector knowledge and skills through the training program. (n = 3)



Question 1 c. -- Average (n=3)



Please share your comment. (n=1)

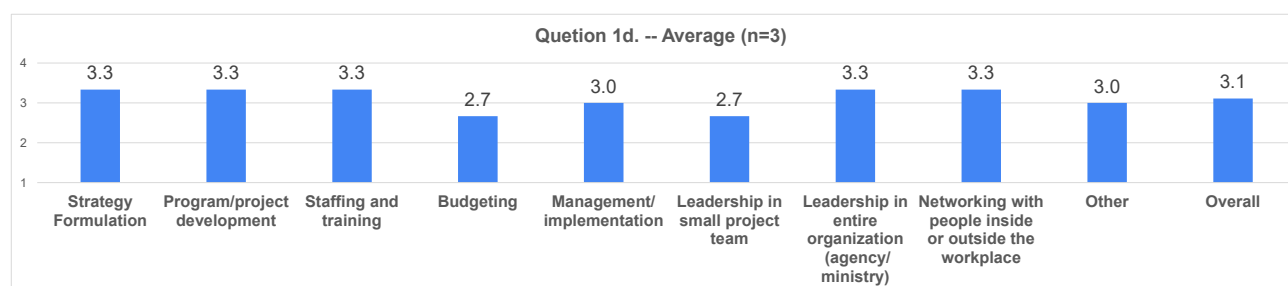
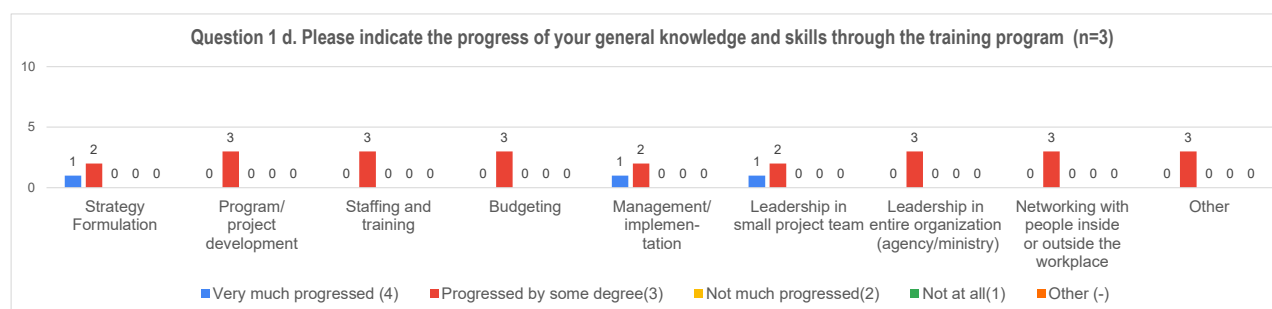
- Good

Analysis of the study team

The overall average of the level of progress is 3.3, which is slightly more than “Progressed by some degree (3)”. It indicates each subject-matter knowledge and skills are progressed by some degree.

Question 1 d. Please indicate the progress of your general knowledge and skills through the training program.

General knowledge &-> skills	Strategy Formulation	Program/ project development	Staffing and training	Budgeting	Management/ implementation	Leadership in small project team	Leadership in entire organization (agency/ministry)	Networking with people inside or outside the workplace	Other
Level of progress									
Very much progressed (4)	1	0	0	0	1	1	0	0	0
Progressed by some degree(3)	2	3	3	3	2	2	3	3	3
Not much progressed(2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Not at all(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Other (-)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
n	3	3	3	3	3	3	3	3	3
Average	3.3	3.0	3.0	3.0	3.3	3.3	3.0	3.0	3.0
Stdev	0.6	0.0	0.0	0.0	0.6	0.6	0.0	0.0	0.0



Please share your comment. (n=1)

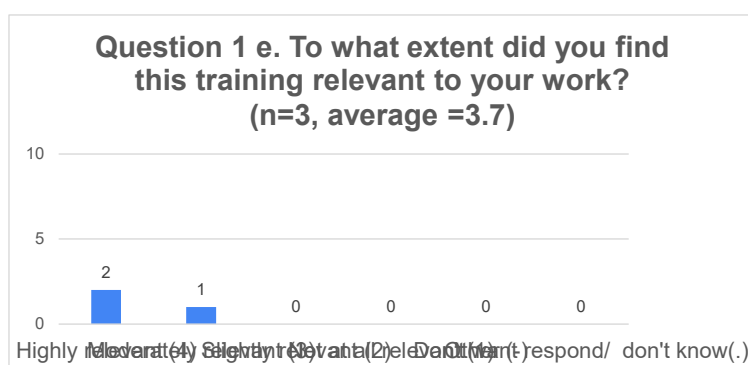
- Good

Analysis of the study team

The overall average of the level of progress is 3.1, slightly more than “Progressed by some degree (3)”. It indicates each general knowledge and skills are progressed by some degree.

Question 1 e. To what extent did you find this training relevant to your work?

	Question 1 e. To what extent did you find this training relevant to your work?
Highly relevant (4)	2
Moderately relevant (3)	1
Slightly relevant (2)	0
Not at all relevant (1)	0
Other (-)	0
Don't want respond/ don't know (-)	0
n	3
Average	3.7
Stdev	0.6



Please share your comment. (n=1)

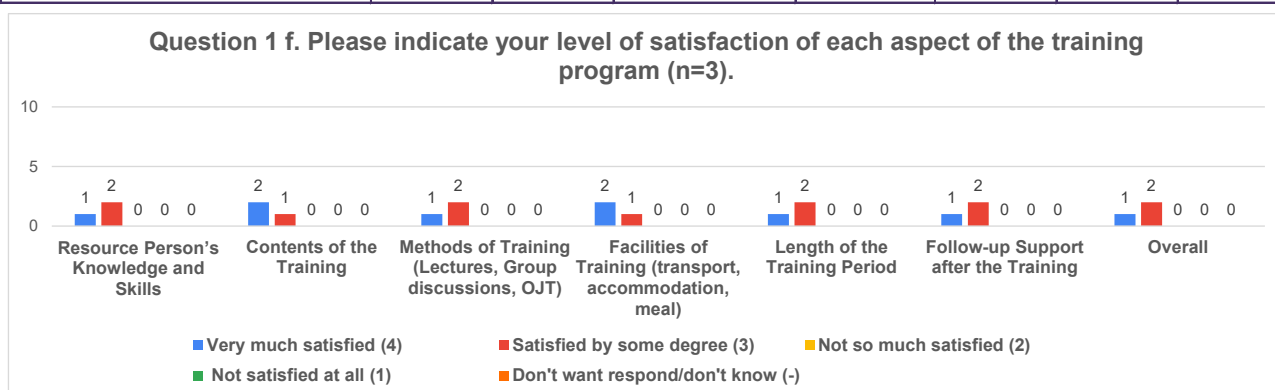
- More training is the best.

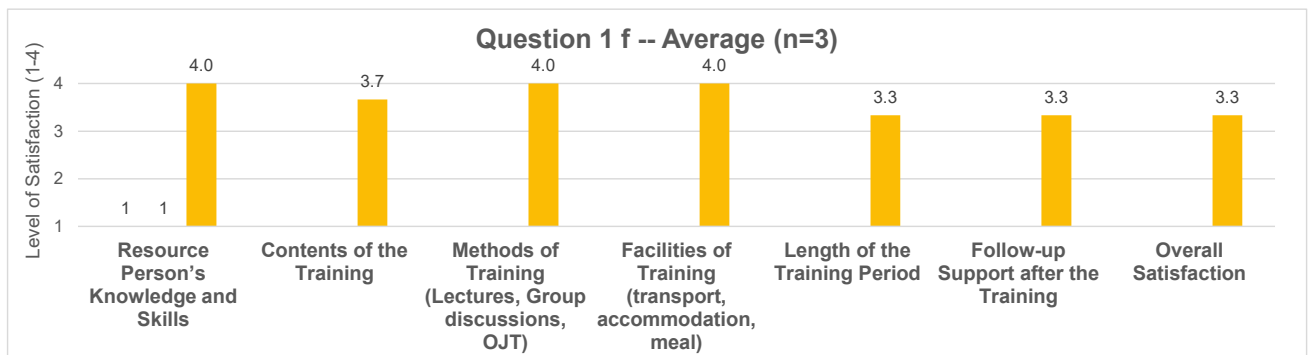
Analysis of the study team

The average is 3.7, which is more than “Moderately relevant” but below “Highly satisfactory” although n is only 3.

Question 1 f. Please indicate your level of satisfaction of each aspect of the training program.

Aspect of the training-> prpgram	Resource Person's Knowledge and Skills	Contents of the Training	Methods of Training (Lectures, Group discussions, OJT)	Facilities of Training (transport, accommodation, meal)	Length of the Training Period	Follow-up Support after the Training	Overall
↓ Level of progress							
Very much satisfied (4)	1	2	1	2	1	1	1
Satisfied by some degree (3)	2	1	2	1	2	2	2
Not so much satisfied (2)	0	0	0	0	0	0	0
Not satisfied at all (1)	0	0	0	0	0	0	0
Don't want respond/don't know (-)	0	0	0	0	0	0	0
n	3	3	3	3	3	3	3
Average	3.3	3.7	3.3	3.7	3.3	3.3	3.3
Standard Deviation	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6





Please share your comment. (n=0)

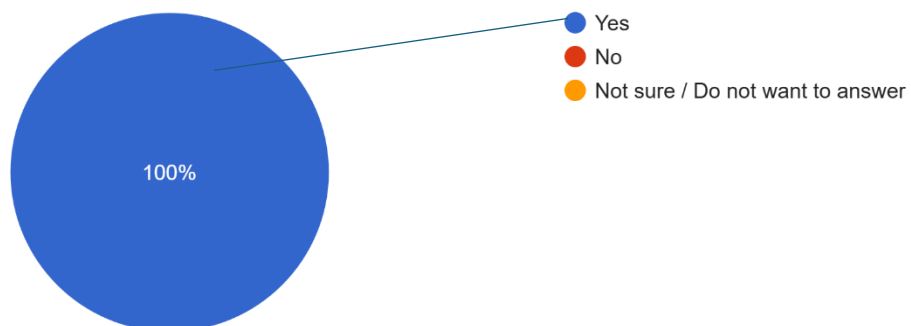
Analysis of the study team

The overall average of the level of satisfaction is 3.3, which is slightly more than “Satisfied by some degree (3)” although n is only 3.

Question 1 g. Have you been able to apply the knowledge and skills learnt from the training courses in your work?

Question 1 g. Have you been able to apply the knowledge and skills learnt from the training courses in your work?

3 件の回答

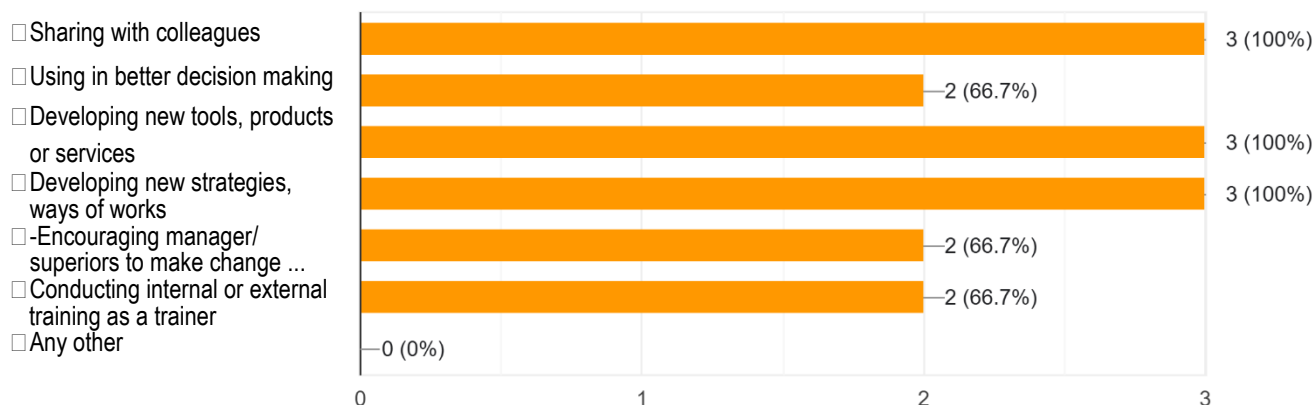


Please share your comment. (n=0)

Question 1 h. How have you applied the gained knowledge and skills learnt from the training ? (Multiple answers allowed)

Question 1 h. How have you applied the gained knowledge and skills learnt from the training ?
(Multiple answers allowed)

3 件の回答



Please share your comment. (n=0)

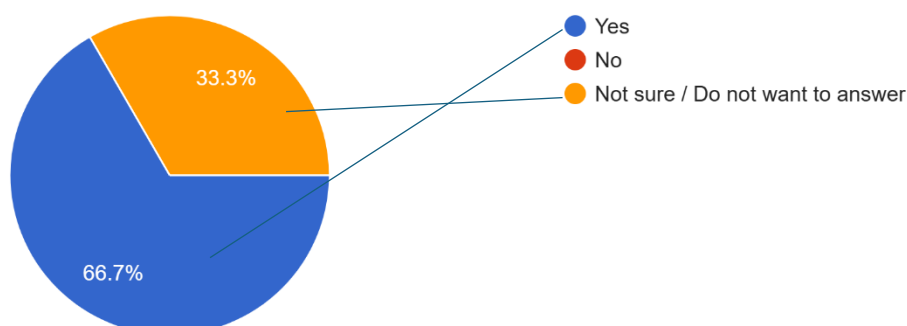
Analysis of the study team

All participants (100 %) responded (i) sharing their knowledges and skills with their colleagues, (ii) using in better decision making, and (iii) developing new tools, products or services. They are a good outcome after the outputs, i.e., knowledge and skills are obtained, are achieved. It indicates the Theory of Change (ToC) set before this study is well followed. The further outcome should be closely monitored. One caution is n is only 3.

Question 1 i. Did you implement your action plan after returning to your country?

Question 1 i. Did you implement your action plan after returning to your country?

3 件の回答



If you answered 'Yes', please describe the implementation status. If you answered 'No', please explain the reasons (e.g. lack of equipment, limited budget, insufficient technical skills or knowledge, or lack of understanding/support from your organization). (n=1)

- Make training programs in a hold country

Analysis of the study team

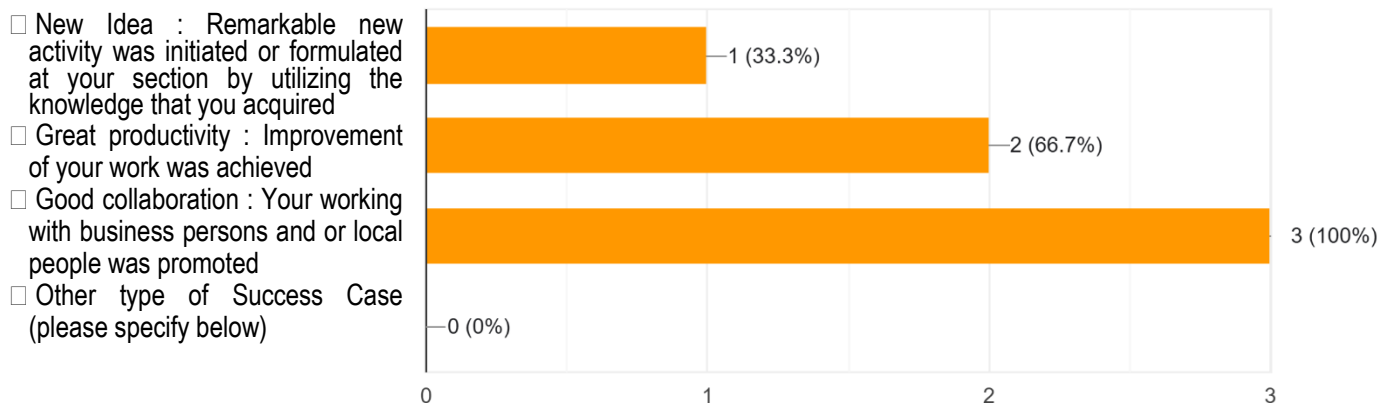
Two participants have implemented their Action Plan (67%). The narrative comments indicate training programs for a whole county has been conducted.

2. "Success Case" (Good practice)

Question 2 a: Please indicate the type of "Success Case" (good practice) in which TCTP contributed to your work. (Multiple choices acceptable)

Question 2 a: Please indicate the type of "Success Case" (good practice) in which TCTP contributed to your work. (Multiple choices acceptable)

3 件の回答



Question 2 b: Please explain your "Success Case" (Good practice) in detail. (n=1)

- Good collaborations with hospitals

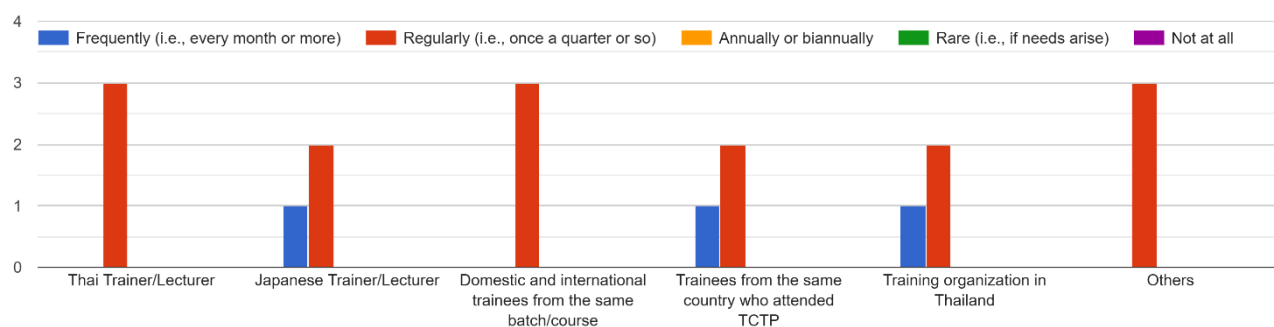
Analysis of the study team

Good collaboration (100%) is reported although n is only 3. An detailed comment indicates good collaboration with hospitals.

3. Networking/communication after the training program

Question 3 a: Please indicate the level of your networking/communication with stakeholders of the training program.

Question 3 a: Please indicate the level of your networking/communication with stakeholders of the training program.



Please share how do you usually network with others? (e.g., face-to-face, online, formal events, informal meetings). (n of comments=2)

- Online
- -

Question 3 b: Please explain the reason why you have communicated with other stakeholders after the training program. (n of comments =2)

- CCC needs to communicate to another hospital for transfers the patient
- For sharing and good relationships

Question 3 c: Please share the remarkable or good events that happened due to maintaining the communication with other stakeholders (e.g., exchange the new knowledge or experience). (n of comments =2)

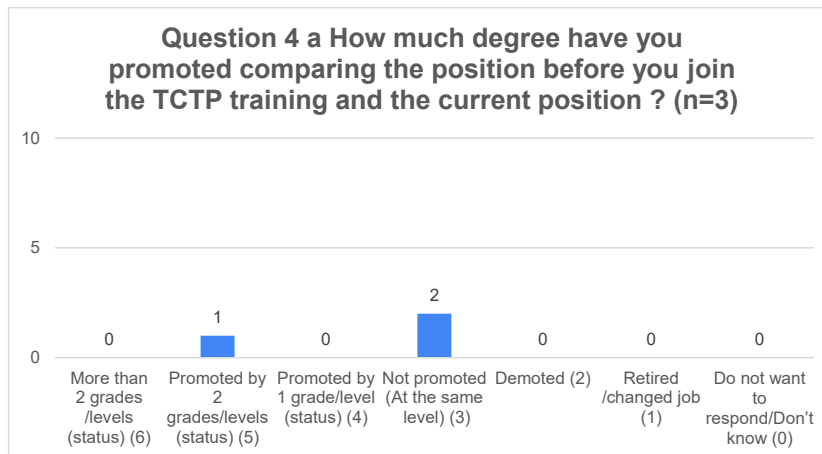
- For my hospital usually we skill practice go each other
- For sharing and good relationships

Analysis of the study team

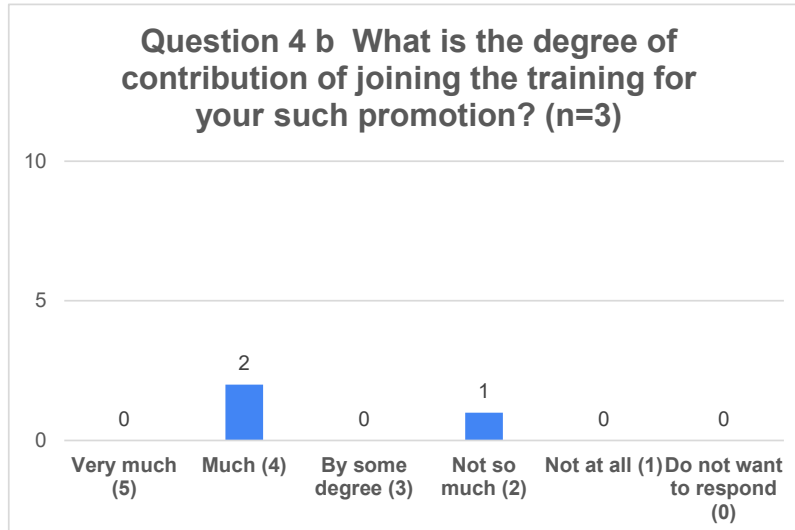
Networking and collaboration is regular conducted with other participants, especially with ex-trainees from the same country, although n is only 3.

4. Promotion and contribution of the training program

Question 4 a How much degree have you promoted comparing the position before you join the TCTP training and the current position ? (n=3)



Question 4 b What is the degree of contribution of joining the training for your such promotion? (n= 3)



Please share your comment (n=1)

- Sharing is the best

Analysis of the study team

According to 3 respondents, one (n=1) have received two degree promotion.

5. Your comments and suggestions

Question 5: To practically improve rice production in your country, please share your comments or suggestions about TCTP. (n=2)

- The EMS in my country has not been developed as it should, and there are currently many problems, we still lack of financial support, lack of man power and resources
- More shares more success

Analysis of the study team

- More resources for implementation is mentiioned.

Final question: Contact information

- **Your name (n=3)**
- **Your phone number (mobile or landline) * (n=3)**
*The study team may contact you directly by phone if your case is selected as the best "Success Case".
- **Your email address (n=3)**
- **Name and contact information of the person responsible for sending you to TCTP (n=3)**
- **(b) E-mail address of the person (n=3)**

***** Confidentiality is strictly secured. Thank you very much for your cooperation for this survey!! *****

FY2025 Joint Evaluation of Third Country Training Programme (TCTP) in Thailand

Ex-trainees Survey Result Report

**#6 International Road Infrastructure Development for
ASEAN and BIMSTEC Networks (Phase 2)**

**Third Country Training Programme
on International Road Infrastructure Development
for ASEAN and BIMSTEC Networks: Phase II**



Source: TICA website (<https://tica-scholarships.com/news/>)

Basic statistics of this survey

Target participants (trainees)	59 (52 except Myanmar)
Number of participants filled the survey	22 (Response rate 42%)
Date of notification to the participants	1_A request email sent : July 04, 2025 2_Follow-up email1 : July 07, 2025 3_Follow-up email with personal name : Aug15 Due date: Aug 17, 2025

Complied date: Aug 20, 2025 by RS

1st edit date: Aug 27, 2025 by RS

1. Knowledges and skills you obtained and satisfaction

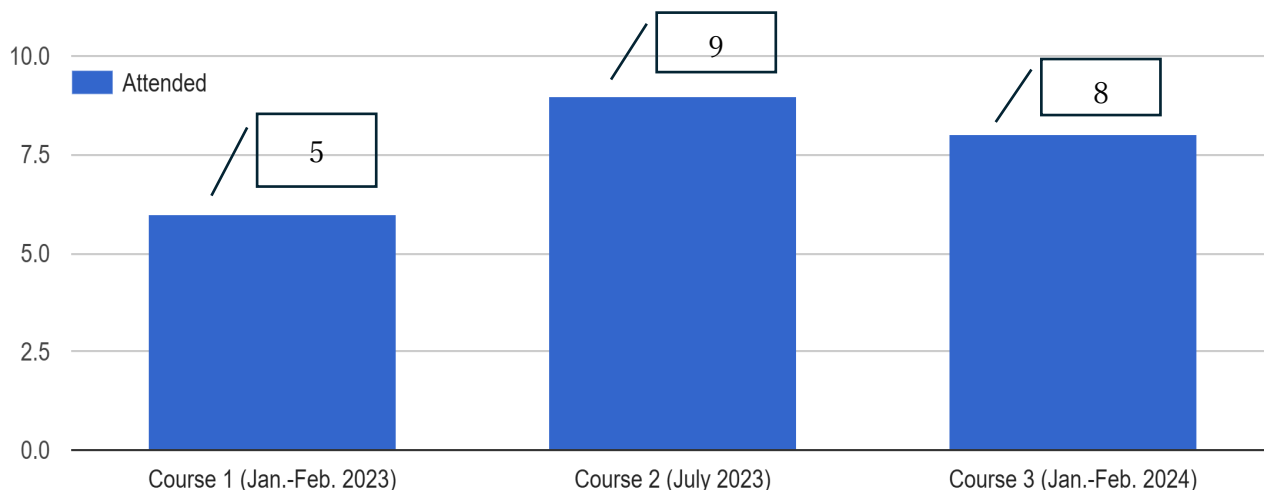
Question 1 a. Please indicate the sessions of the training program you attended.

Course 1 (Jan.-Feb. 2023)

Course 2 (July 2023)

Course 3 (Jan.-Feb. 2024)

Question 1 a. Please indicate the sessions of the training program you attended.



Please share your comment. (14 comments)

- in general the training is useful and advantage and can adopt to my works.
- Insightful course :)
- Good Training
- A very good course, where participant from different countries can share and learn the approach that has been applied in addressing road network issues
- The training was very fruitful.
- Well organized
- It's a very important course that helps to improve the knowledge and skills of engineers.
- Training was more fruitful.
- The International Road Infrastructure Development for ASEAN and BIMSTEC Networks (Phase 2) program was highly insightful and beneficial. Throughout the course, I gained valuable knowledge on international road network development, planning and design of road projects, highway safety, construction administration, and slope engineering. The training emphasized

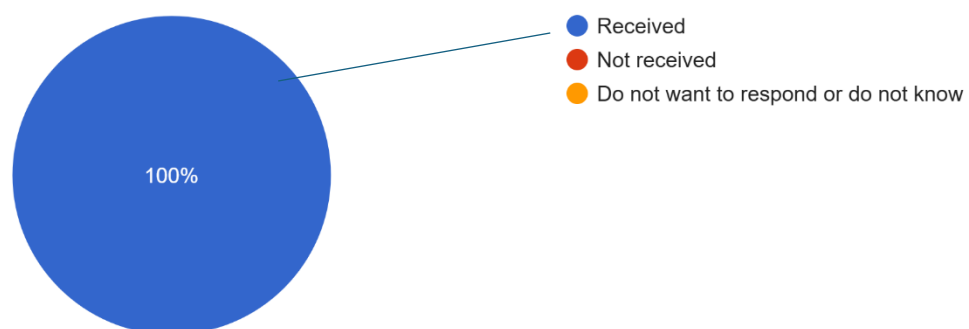
both theoretical concepts and practical applications, supported by technical visits that provided real-world perspectives. Key knowledge areas included regional connectivity frameworks, administrative systems for road management, highway geometric and structural design, and modern approaches to traffic safety and slope stability. These were complemented by sessions on road construction project administration, enhancing my understanding of project delivery, stakeholder coordination, and quality assurance. The program also improved my skills in infrastructure planning, technical analysis, and cross-border policy integration, critical for supporting sustainable and resilient road networks. The opportunity to engage with professionals from other ASEAN and BIMSTEC countries also enriched the learning experience through valuable knowledge sharing and collaboration. I am very satisfied with the overall program. The modules were well-organized, delivered by competent experts, and relevant to current infrastructure challenges. The balance between classroom instruction and technical field visits added depth to the training. This program has strengthened my capacity as a professional working in the field of transportation infrastructure and will be instrumental for future contributions in regional development.

- It was good experience and exposure for me
- The course content is relevant and informative to my profession.
- It's a very good training.
- Nil
- Training we received in Bangkok, Thailand through JICA and TICA is very useful for our day to day work and ongoing Project at field.

Question 1 b. After completion of the training, did you receive a certificate (Certificate of Completion) from the Thai side (TICA, the training implementing agency, or JICA Thailand Office)?"

Question 1 b. After completion of the training, did you receive a certificate (Certificate of Completion) from the Thai side (TICA, the training implementing agency, or JICA Thailand Office)?"

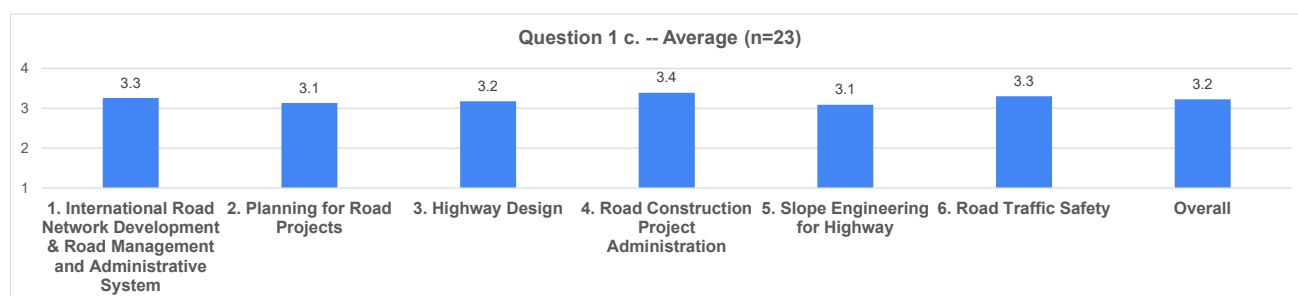
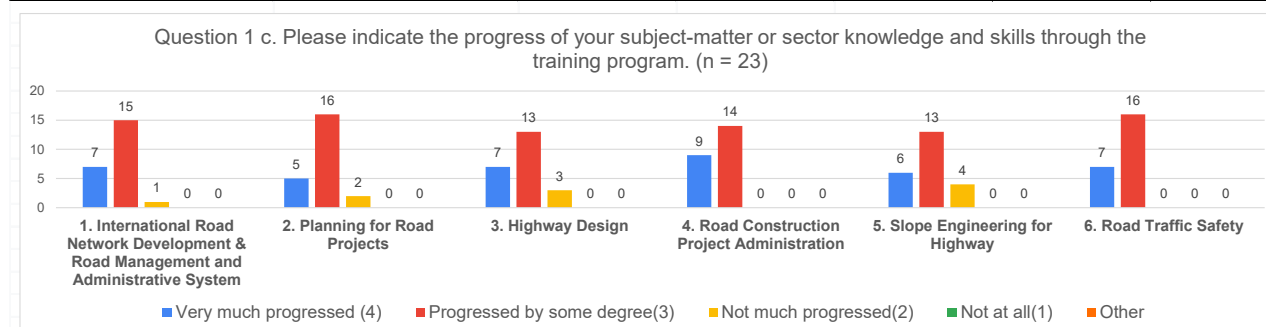
22 件の回答



If you did not receive it, please explain the reason. (n=0)

Question 1 c. Please indicate the progress of your subject-matter or sector knowledge and skills through the training program.

Subject-matter or sector -> knowledge & skills Level of progress	1. International Road Network Development & Road Management and Administrative System	2. Planning for Road Projects	3. Highway Design	4. Road Construction Project Administration	5. Slope Engineering for Highway	6. Road Traffic Safety
Very much progressed (4)	7	5	7	9	6	7
Progressed by some degree(3)	15	16	13	14	13	16
Not much progressed(2)	1	2	3	0	4	0
Not at all(1)	0	0	0	0	0	0
Other	0	0	0	0	0	0
Average	3.3	3.1	3.2	3.4	3.1	3.3
Stdev	0.5	0.5	0.7	0.5	0.7	0.5



Please share your comment. (n=7)

- Planning session was really insightful.
- Only manage to apply in a certain field of road emgineering.
- The International Road Infrastructure Development for ASEAN and BIMSTEC Networks (Phase 2) program has significantly advanced my sectoral knowledge and technical capacity. The training deepened my understanding of strategic road network development, integrated project planning, and administrative frameworks that support sustainable infrastructure across regions. My competencies in highway design, slope engineering, and road traffic safety have been strengthened through both theoretical learning and applied case discussions. The module on construction project administration provided valuable insight into managing complexity in road projects. Technical visits further enriched the experience by bridging classroom concepts with on-site realities.
- It was enrichment
- Since all the units covered during the course was relevant to my roles and responsibility, it has helped me expand my knowledge and make better decision during my profession.
- Develop new knowledge

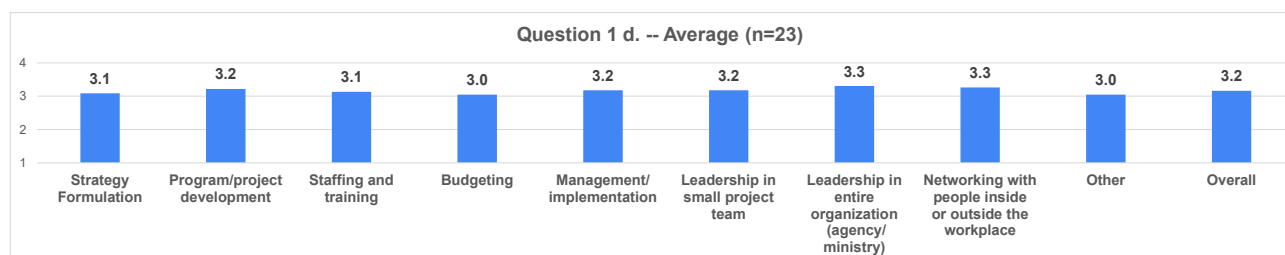
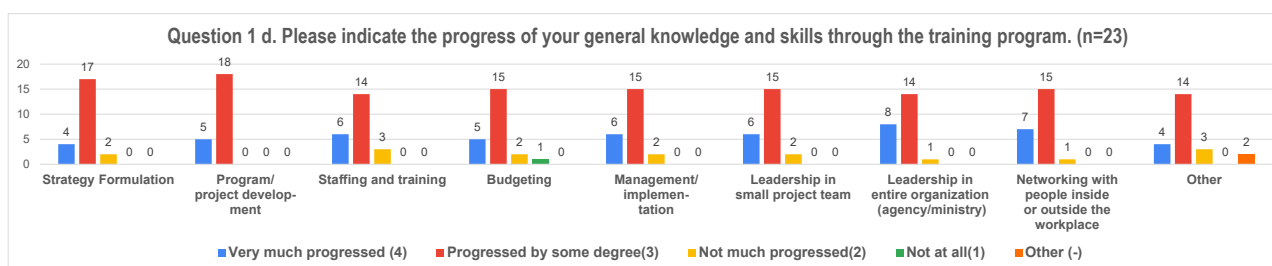
- Training was very useful the knowledge we had obtained further we shared with our younger Engineers working at our office.

Analysis of the study team

The overall average of the level of progress is 3.2, which is slightly more than “Progressed by some degree (3)”. The results also indicate each of subject-matter knowledge and skills is progressed by some degree. However, the narrative comments show the contents are very useful.

Question 1 d. Please indicate the progress of your general knowledge and skills through the training program.

General knowledge &-> skills Level of progress	Strategy Formulation	Program/ project develop- ment	Staffing and training	Budgeting	Management/ implemen- tation	Leadership in small project team	Leadership in entire organization (agency/ministry)	Networking with people inside or outside the workplace	Other
Very much progressed (4)	4	5	6	5	6	6	8	7	4
Progressed by some degree(3)	17	18	14	15	15	15	14	15	14
Not much progressed(2)	2	0	3	2	2	2	1	1	3
Not at all(1)	0	0	0	1	0	0	0	0	0
Other (-)	0	0	0	0	0	0	0	0	2
n	23	23	23	23	23	23	23	23	21
Average	3.1	3.2	3.1	3.0	3.2	3.2	3.3	3.3	3.0
Stdev	0.5	0.4	0.6	0.7	0.6	0.6	0.6	0.5	0.6



Please share your comment. (n=6)

- No comment
- The training program has significantly improved my general knowledge and skills, particularly in areas related to road project planning, highway design, and construction project administration. It has broadened my understanding of international practices and provided practical insights that enrich both my academic responsibilities and professional development. The combination of technical content and interactive learning methods has also enhanced my ability to deliver more comprehensive and updated material in teaching and research.
- The activity made us exchange views get to know people from different cultures
- The course has also provided us with general skills and knowledge through the group engagement, site visits and random involvement with international participants. Besides the

knowledge gained from the classroom lectures, I have also learned about other countries participating in the program through our country report presentation.

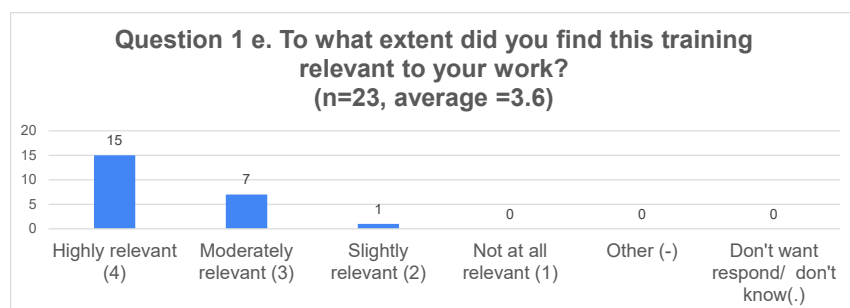
- There is a new technique.
- We really thanks to JICA and TICA for providing enlightened training opportunities.

Analysis of the study team

The overall average of the level of progress is 3.2, again slightly more than “Progressed by some degree (3)”. The results indicate each of general knowledge and skills is progressed to some extent. It should be noted that the narrative comments show great appreciation for networking with participants from neighboring countries.

Question 1 e. To what extent did you find this training relevant to your work?

	Question 1 e. To what extent did you find this training relevant to your work?
Highly relevant (4)	15
Moderately relevant (3)	7
Slightly relevant (2)	1
Not at all relevant (1)	0
Other (-)	0
Don't want respond/ don't know(.)	0
n	23
Average	3.6
Stdev	0.6



Please share your comment. (n=8)

- Some of the session is relevant to my job and can adopt to my work
- I became a very good speaker
- I found this training highly relevant to my work as an academic in the field of road and bridge engineering. The technical subjects, such as highway design, road project planning, and construction project administration, directly support my teaching and research activities. Although some managerial topics may be less applicable to my daily academic tasks, they have provided valuable context for understanding the broader scope of infrastructure development. Overall, the training has enriched my professional perspective and strengthened the quality of academic content I deliver.
- It was very relevant
- As I have been working for the the department of surface, mainly focusing on construction and maintenance of roads and bridges and procurement of works, all the units covered during the training program was very much relevant to my daily roles and responsibility that I need to perform at my organization.
- it was very fruitful and relevant and after almost 2 years, i donot exactly remember the lecture and its content but i clearly still remember are the site visits and the technological improvements i sae during the training session
- Very good

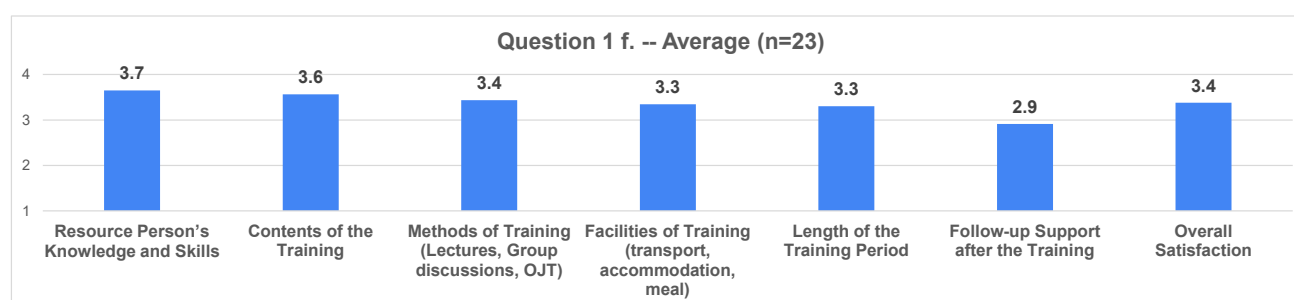
- The training provided by JICA and TICA was highly relevant for Engineers.

Analysis of the study team

The average is 3.6, which is more than “Moderately relevant” but below “Highly relevant”. Approximately 65 % of respondents marked that TCTP is highly relevant to their work and about 30 % marked moderately relevant. These indicate high relevancy even compared with other TCTP courses. The narrative comments also show high relevancy. The survey results concluded that the training is highly relevant.

Question 1 f. Please indicate your level of satisfaction of each aspect of the training program.

Aspect of the training-> prpgram ↓ Level of progress	Resource Person's Knowledge and Skills	Contents of the Training	Methods of Training (Lectures, Group discussions, OJT)	Facilities of Training (transport, accommodation, meal)	Length of the Training Period	Follow-up Support after the Training	Overall
Very much satisfied (4)	15	15	12	12	12	8	86
Satisfied by some degree (3)	8	6	9	8	7	7	54
Not so much satisfied (2)	0	2	2	2	3	6	17
Not satisfied at all (1)	0	0	0	1	1	2	4
Don't want respond/don't know (-)	0	0	0	0	0	0	0
n	23	23	23	23	23	23	161
Average	3.7	3.6	3.4	3.3	3.3	2.9	3.4
Standard Deviation	0.5	0.7	0.7	0.8	0.9	1.0	0.8



Please share your comment. (n=8)

- 1) There is no Halal food stall/ restaurant around training place and we have difficulty to get Halal food during lunch break that is only 1 hour duration. 2) The organiser is kind enough to offer 1 room as our praying room. We are thankful for the kind gesture. 3) The hotel is quite far away from the training hall and outside of the city centre. It is recommended to choose the hotel as close as possible to training place so we do not spend a lot of time to go through heavy traffic during peak hours.
- Length of the Training period was short. Minimum length 30 days is best.

- I am very much satisfied with all aspects of the training. The resource persons were highly competent, and the training contents were relevant and well-delivered. The methods used, lectures, group discussions, and OJT, were effective in enhancing understanding. Facilities including transport, accommodation, and meals were well-organized. The training period was adequate, and although follow-up support can still be improved, the overall experience was excellent and impactful.
- It was good one
- I have found the units are relevant to my profession and the length of training duration was well set. All of the resource person are knowledgeable and had worked to help us gain much knowledge as possible. Well coming to the training methods, it would be more beneficial if more technical site visits are involved and if there are few hands on trainings are incorporated. I have appreciated all the transport, meal and accommodation provided during the training session, however, it would benefit the participants if lunch and dinner was included in the package owing to very less DSA that was given to the participants.
- while there was not much follow up from the tica and i am not sure how wud it be possible for trainers to follow up but the group of student is still active on whatsapp and we communicate occasionally
- Very good
- JICA and TICA has reputed highly qualified lecturers with very experienced in Engineering field. We were fully satisfied with the knowledge we gained from the training.

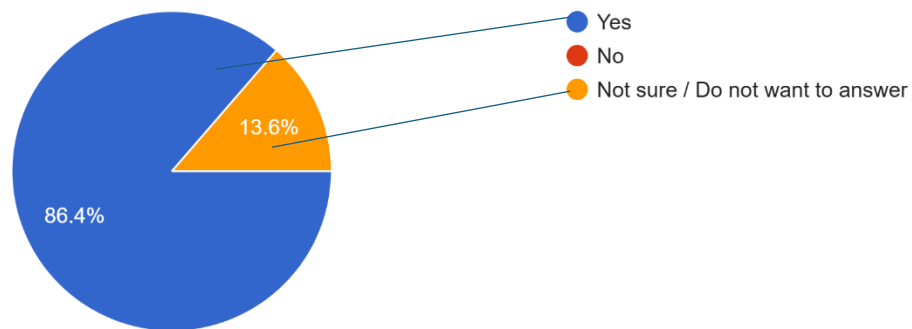
Analysis of the study team

The overall average of the level of satisfaction is 3.4, which is more than “Satisfied by some degree (3)” but less than “Satisfied very much (4)”. The respondents were highly satisfied with the resource person’s knowledge and skills (average score = 3.7). On the other hand, the follow-up and support after the training marks below 3.0 and this is relatively low score. A narrative comment indicates that no Haral food was available nearby and it made some participants in difficult situation in eating.

Question 1 g. Have you been able to apply the knowledge and skills learnt from the training courses in your work?

Question 1 g. Have you been able to apply the knowledge and skills learnt from the training courses in your work?

22 件の回答



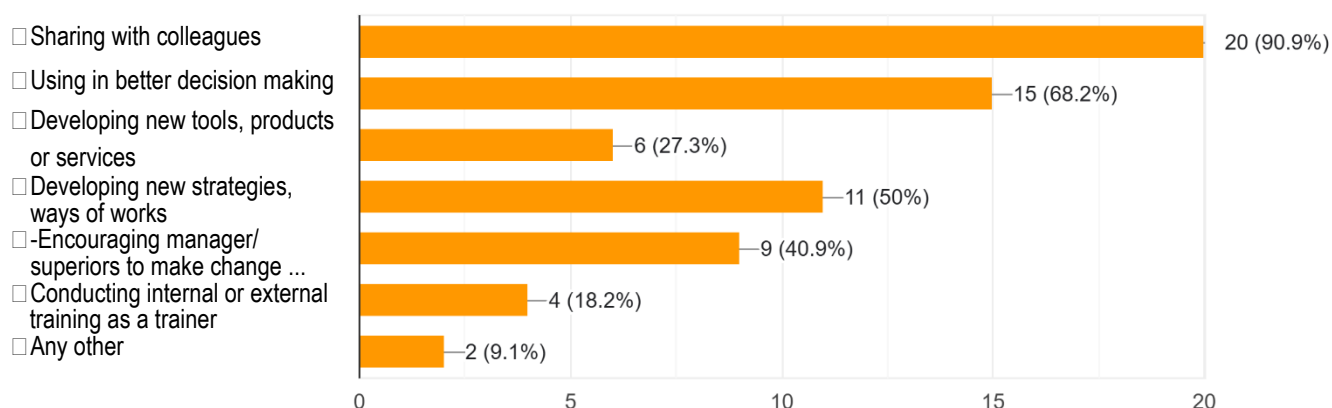
Please share your comment. (n=7)

- Currently I am in charge for road and bridge maintenance. A lot of the Japan and Thailand technology introduced during the training program is suitable to be used in our engineering practice such as the seamless toll payment at highway and pavement.
- Yes, I have been able to apply the knowledge and skills gained from the training in my academic work. Several topics, such as Planning for Road Projects, Highway Design, and Road Construction Project Administration, are highly relevant to my field. They have strengthened the substance of my teaching materials and supported the development of research topics related to road infrastructure. The training also provided practical insights that help bridge theoretical concepts with real-world applications in the classroom.
- i often use subject of International
- We have apprised our Department for Road safety Audit and now it has been initiated in the Department
- Most importantly I was able to use knowledge of road and bridge maintenance and geo technical lessons learned from the training.
- Very good
- The knowledge we had gained has been fully utilised at our ongoing project.

Question 1 h. How have you applied the gained knowledge and skills learnt from the training ? (Multiple answers allowed)

Question 1 h. How have you applied the gained knowledge and skills learnt from the training ?
(Multiple answers allowed)

22 件の回答



Please share your comment. (n=6)

- We do share the notes given to our colleague as we find it useful as reference.
- I have applied the knowledge and skills gained from the training in several ways. I have shared key insights with colleagues during academic discussions and internal meetings. The training has also supported better decision-making in the development of teaching materials and research focus, especially in the areas of road project planning and highway design. Additionally, I have adopted new strategies in delivering course content by integrating practical case studies and international perspectives. As a lecturer, I regularly conduct teaching and training sessions where I incorporate relevant concepts and examples obtained from the program to enrich students' learning experience.
- My work primarily involves the administration of international contracts. Many of the upcoming or ongoing construction projects are based on FIDIC contract forms. Therefore, the knowledge I have gained from the training has significantly enhanced my capabilities.
- I have shared the training materials and our experience from the training with my colleagues.
- Apply new knowledge to current real-world tasks
- The training we received has been shared with colleagues, better decisions making, develop new tools, new strategies, Encouraging our manager and further conducting internal training.

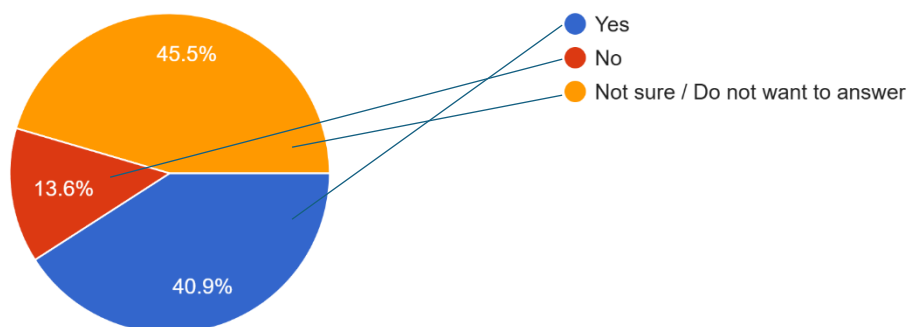
Analysis of the study team

Most participants (91 %) have shared their knowledges and skills with their colleagues. It is a good outcome after the outputs, i.e., knowledge and skills are obtained, are achieved. It indicates the Theory of Change (ToC) set before this study is well followed. Further outcomes and the final outcome, improvement of life of the customers, should be closely monitored.

Question 1 i. Did you implement your action plan after returning to your country?

Question 1 i. Did you implement your action plan after returning to your country?

22 件の回答



If you answered 'Yes', please describe the implementation status. If you answered 'No', please explain the reasons (e.g. lack of equipment, limited budget, insufficient technical skills or knowledge, or lack of understanding/support from your organization). (n=10)

- Yes
- An update knowledge for lecturing and employee sharing
- In a certain extent of emgineering, i have managed to apply the knowledge while delivering the career development course
- Yes. We are in the state to widen the toll payment option to debit/ credit card, the use of Automatic Number Plate Recognition (ANPR) at toll and also the amendment of a few of our standards which is still on-going.
- limited budget
- After returning to Indonesia, I have implemented parts of my action plan primarily through academic activities. I integrated relevant topics, such as road project planning, highway design, and construction project administration, into my teaching materials and classroom discussions. I also shared key takeaways from the training with fellow lecturers to support curriculum development in the field of road and bridge engineering. While broader institutional collaboration is still in progress, the training outcomes have already contributed to improving the quality and relevance of my academic work.
- -
- We have apprised our Department for Road safety Audit and now it has been initiated in the Department
- i am not sure of exact action plan, but i did try to implement the knowledge in my decision making and auggessations for policy enhancement.
- We had implemented the knowledge we received from the training awarded by JICA and TICA for our ongoing project.

Analysis of the study team

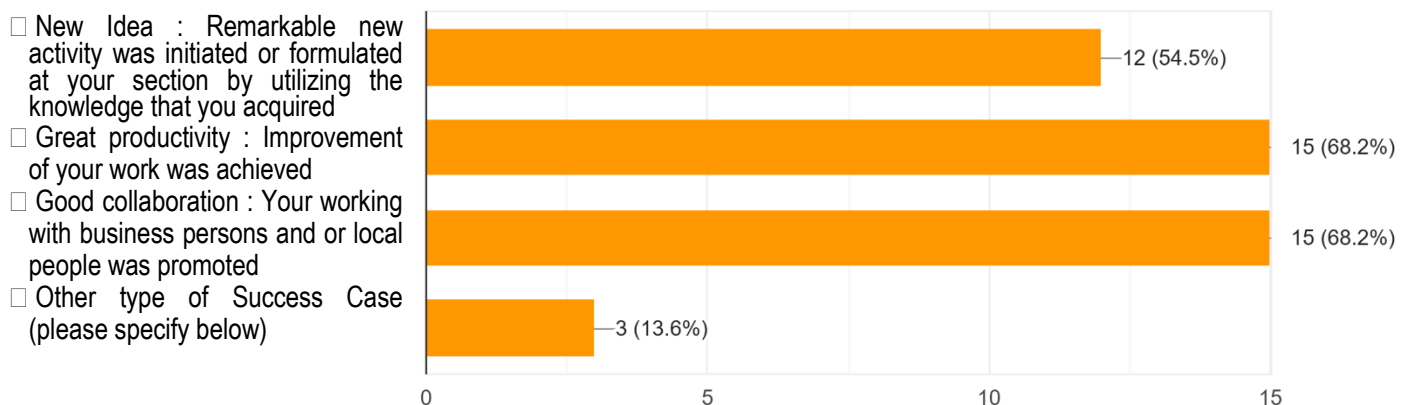
41 % of participants have implemented their Action Plan. This ratio is relatively lower than that of other TCTP training courses. However, the narrative comments indicate good implementation of the action plans. Some discrepancy is found here although any exact reason is not clear.

2. "Success Case" (Good practice)

Question 2 a: Please indicate the type of "Success Case" (good practice) in which TCTP contributed to your work. (Multiple choices acceptable)

Question 2 a: Please indicate the type of "Success Case" (good practice) in which TCTP contributed to your work. (Multiple choices acceptable)

22 件の回答



Question 2 b: Please explain your "Success Case" (Good practice) in detail. (n=11)

- Gain more knowledge
- it is very advantage
- I have managed to get my Professional Engineer status after i returned from the course, as i have become more fluent
- The experience and the opportunity boosts my knowledge at new height and the networking created during the training program helps me to see and compare what other countries are doing and what makes them ahead of us at some area.
- The training contributed to several types of success in my work. First, it inspired new ideas in developing course content and integrating practical, region-based case studies into the classroom, particularly in topics like road project planning and construction administration. Second, it led to greater productivity in my academic duties by enriching my teaching materials and helping me align them more closely with current international practices. Additionally, as another type of success, the training has strengthened the relevance and depth of my lectures, allowing students to better understand the practical application of theories in road infrastructure development.

- -
- Obstruction on sight distance were removed, worker were briefed on safety importance, helped me to loosen up a little and get along with new people which has helped me overall
- The knowledge gained from the training helped me better understand about the situation while coming to the road works, ultimately helping me with greater productivity at my work place.
- Better follow up on related technical work
- Nil
- Structural pavement design of roads and bridges, road and bridge slope stabilisation, Geometric design of roads, roads and bridges signage are some of the very success case.

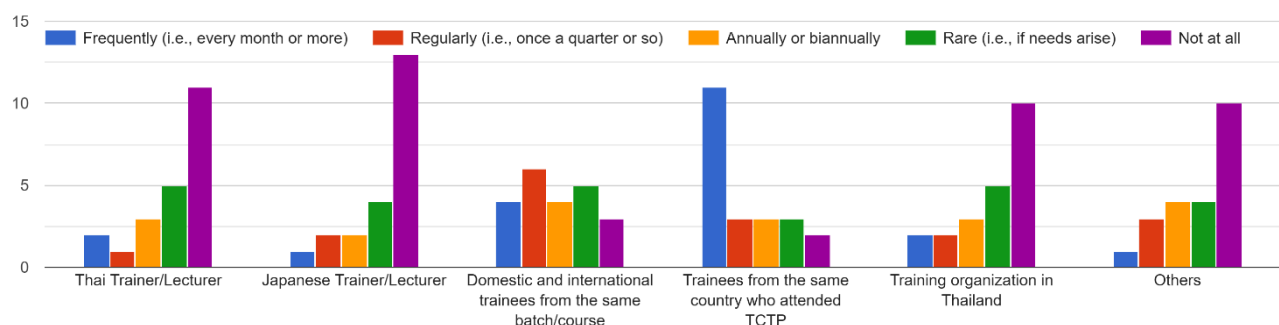
Analysis of the study team

New idea (55%), great productivity (68%), and good collaboration (68%) are reported. The productivity is relatively higher than other courses. The narrative comments include some good detailed “success cases”, which we can examine to identify the “success factors” and contribute to making the application and further outcomes, in addition to the training contents.

3. Networking/communication after the training program

Question 3 a: Please indicate the level of your networking/communication with stakeholders of the training program.

Question 3 a: Please indicate the level of your networking/communication with stakeholders of the training program.



Please share how do you usually network with others? (e.g., face-to-face, online, formal events, informal meetings). (n of comments = 11)

- online
- Face-to-face
- Through Facebook, and some of them also visited my country
- 1) We do not have Japanese trainer/ lecturer during training programme and therefore we have no access to them. All of our trainer/lecturer are from experts from Thailand. 2) We have our own chat groups among trainees and we will communicate through that.
- Informal meetings
- I usually network with others through online communication, such as messaging apps and email. Currently, I maintain regular contact with a fellow participant from the same country, who is also from the same institution and works in the same field. Although our communication is mostly informal, it has been useful for exchanging ideas, discussing academic developments, and staying connected after the training.
- -
- online in social media
- the participants are still in contact through whatsapp group and personal messenger/ whatapp.
- The training we received from JICA and TICA has helped us in our country, now we are implementing virtual meeting among with our Engineers from HQ and Regional offices.

Question 3 b: Please explain the reason why you have communicated with other stakeholders after the training program. (n of comments =12)

- Share knowledge
- Just to stay connected
- Just to keep use up to date with current news.
- none
- I have communicated with another stakeholder, specifically a colleague from the same institution and field, mainly to maintain academic collaboration and exchange ideas related to our shared interests in road and bridge engineering. Our communication helps sustain the knowledge gained from the training, supports mutual professional development, and allows us to discuss how to integrate relevant insights into teaching and research activities.
- -
- for knowing about the practice in their countries and knowing about how they are doing
- We usually discuss when we face challenges at our work place, and initiate the discussion to come up with the solutions.
- for friendship
- for research purpose/ sharing to knowledge and as a friend.
- face-to-face
- The training we obtained was very useful at our field and further enlighten among our Engineers.

Question 3 c: Please share the remarkable or good events that happened due to maintaining the communication with other stakeholders (e.g., exchange the new knowledge or experience). (n of comments =12)

- Exchange new knowledge
- Exchange the experience of how to deal with a certain issues
- Last year, Malaysia-Thailand have a closed discussion about the upcoming friendship bridge construction at our border and somehow the person in charge from both parties have attended this program.
- Exchange the new knowledge
- There is no remarkable or good events that happened
- Through ongoing communication with a colleague who also participated in the training, we have been able to exchange new knowledge and insights related to road infrastructure, particularly in planning and project administration. This exchange has enriched our teaching materials and sparked discussions on how to align our academic content with current international practices. It has also encouraged mutual support in developing ideas for future research and potential collaborative initiatives within our institution.
- -

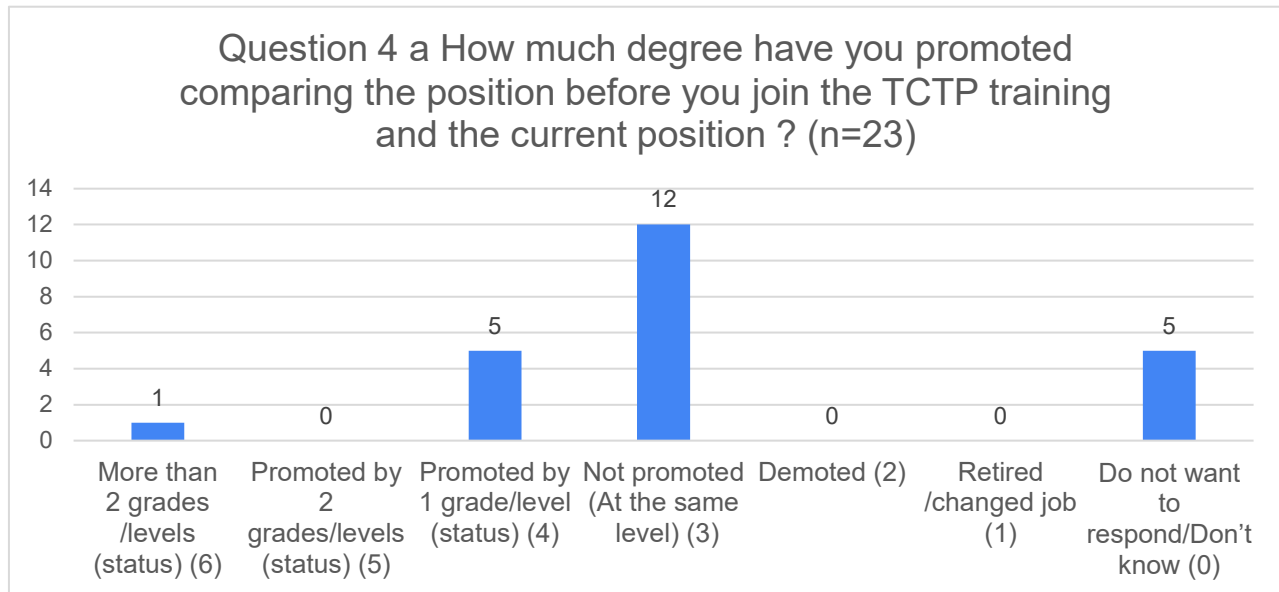
- got the idea of maintenance system being practised at Nepal, which is in similar manner going to be introduced in Bhutan
- We could share the ideas or knowledge that we have learned during the training programs, when a relevant topic comes up in meetings or at discussions.
- it helped me with my research and also to know how certain work/ practises are done in respective country
- exchange the new knowledge or experience
- We shared the knowledge gained from the training with our stakeholders implementing at field at ongoing project became easier.

Analysis of the study team

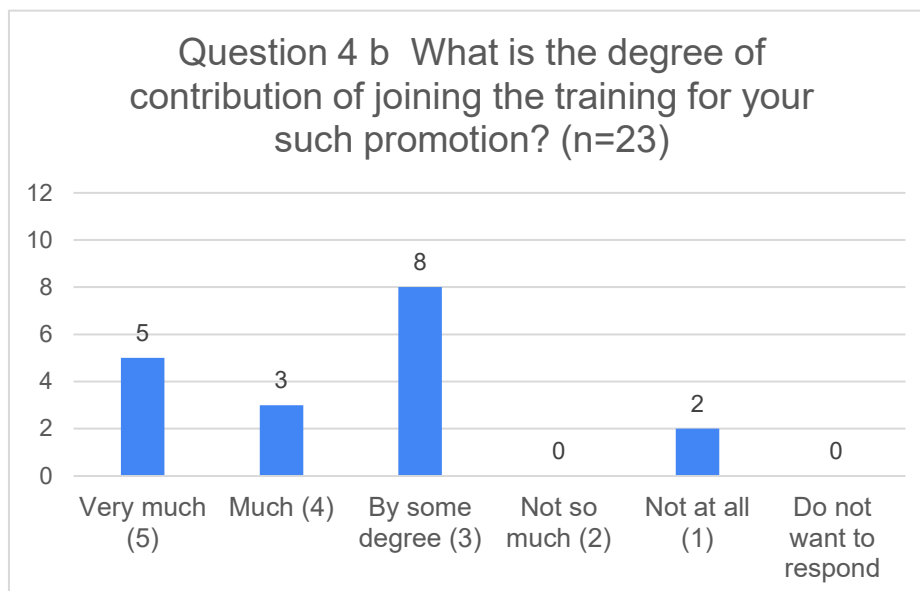
A large share of participants reported “Not at all” for communication with Japanese trainers, with Thai trainers and with the training institutions. They may indicate more follow-up and effort of communication by the training institution as well as TICA and JICA are necessary. On the other hand, communication with the trainees from the same country is very frequent, and it is a very good result of the training.

4. Promotion and contribution of the training program

Question 4 a How much degree have you promoted comparing the position before you join the TCTP training and the current position ? (n=23)



Question 4 b What is the degree of contribution of joining the training for your such promotion? (n= 23)



Please share your comment (n=5)

- I have yet to get promoted, since it is only a short time after returning from the course
- It am grateful that I was given the chance to attend the program.

- The training has contributed to my professional development by enhancing my technical knowledge and broadening my perspective on regional infrastructure issues. While it may not directly impact a specific promotion at the moment, it supports my long-term academic growth and enriches the content and context I deliver in teaching and research.
- I would say the promotion comes up based on the years served but the knowledge gained has helped me improve my working efficiency and skills.
- Working with my Engineers and stacked holder has improved very much.

Analysis of the study team

According to 23 respondents, almost a half (n=12) have not received promotion and 6 have received promotion. Participants responded its degree of contribution is “very much” (n=5) and “much” (n=3). A total of 8 participants, which is more than one third of all respondents, evaluated high contribution. It is good and rare among 11 TCTP course surveys.

5. Your comments and suggestions

Question 5: To further promote road infrastructure networks development among ASEAN and BIMSTEC countries, please share your comments or suggestions about TCTP. (n=14)

- Please provide better accommodation
- Timing of training not more than 10 days
- Very Important Training Program and need more collaboration and networking between ASEAN and BIMSTEC countries with more transport connectivity in land, water and air.
- Develop an alumni network
- 1) It is recommended to invite experts from Japan to share knowledge as they are well-known to be the best road engineer in the Asia and the global region. 2) The training may be improved if there is a hands-on session or visit to local quarries where the make special mix. 3) Some of the ASEAN and BIMSTEC countries are Muslim-majority and it is recommended to provide more options on Halal-meal on site instead depending on food delivery which will take some time and only open order after 11.00am or noon.
- Proposed that this try of training be held every year.
- Upgrade existing highways and construct missing links where connectivity gap. Reduce non tariff barriers. Share best practices and expertise in sustainable highway engineering, planning . Conduct Joint training programs, workshops etc. Strengthen institutions for implementation of highway projects

- To further promote road infrastructure network development among ASEAN and BIMSTEC countries, I believe the TCTP program should continue strengthening its role as a platform for technical knowledge exchange and regional collaboration. I suggest expanding the involvement of participants from both academic and professional backgrounds to foster integrated perspectives between theory and practice. It would also be valuable to include follow-up activities or joint research opportunities among alumni to sustain long-term engagement and collaborative innovation. Additionally, incorporating more case-based discussions and cross-country comparative studies could enhance the program's impact by showcasing diverse strategies and challenges in infrastructure development across the region.
- I hope similar training programs will continue to be organized in the future, as they provide valuable opportunities to learn new things.
- We need to have such activities more frequently and also need to have it for the Executive and Director level so that it gets sink into the system well
- The training should continue with more technical visits and hands on learning lessons incorporated.
- such training should be highly encouraged specially for growing engineers.
- Trainings are well organized and best to gain knowledge.
- The training we received from JICA and TICA will have huge impact, if implemented among ASAIN and BIMSTEC.

Analysis of the study team

The comments and suggestions on TCTP for the implementation agencies (TICA and JICA), can be summarized as follows.

- Well organized training.
- Need an alumni network
- Need provision of more Haral food options and better accommodation
- This training should continue to improve connectivity among AEAN and BIMSTEC countries.

Final question: Contact information

- Your name (n=22)
- Your phone number (mobile or landline) * (n=22)
*The study team may contact you directly by phone if your case is selected as the best "Success Case".
- Your email address (n=22)
- Name and contact information of the person responsible for sending you to TCTP (n=30)
- (b) E-mail address of the person (n=15)

***** Confidentiality is strictly secured. Thank you very much for your cooperation for this survey!! *****

FY2025 Joint Evaluation of Third Country Training Programme (TCTP) in Thailand

Ex-trainees Survey Result Report

#7 Rice Production Technologies for Food Security and Sustainability of African Countries

Rice Production Technologies for Food Security and Sustainability of African Countries



Basic statistics of this survey

Target participants (trainees)	65 (63 except Myanmar)
Number of participants filled the survey	23 (Response rate 37%)
Date of notification to the participants	1_A request email sent : July 26, 2025 2_Follow-up email1 : July 03, 2025 3_Follow-up email with personal name : July09 Due date: July 11, 2025

Complied date: Aug 22, 2025 by RS

1. Knowledges and skills you obtained and satisfaction

Question 1 a. Please indicate the sessions of the training program you attended.

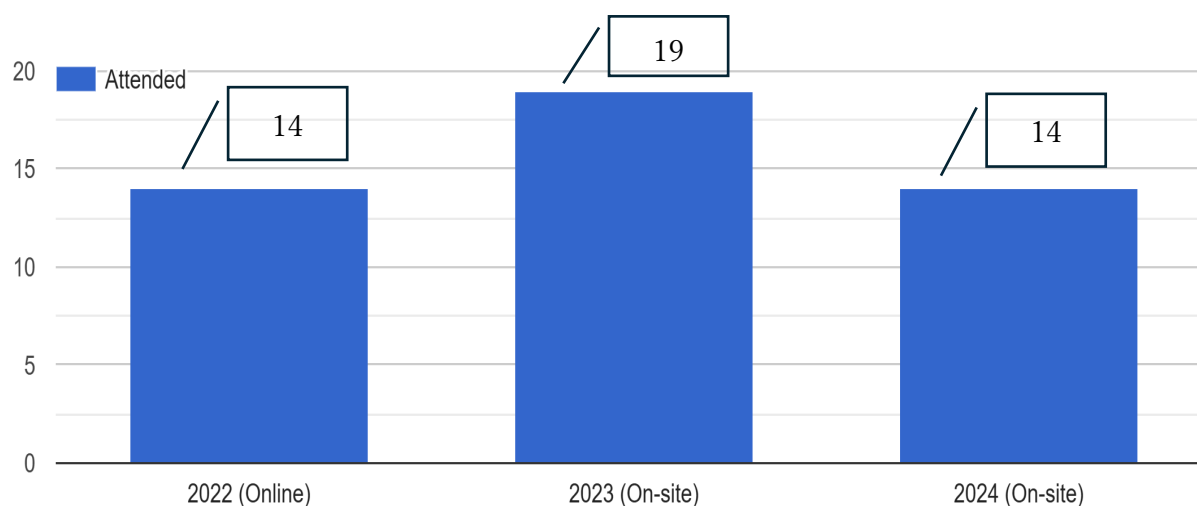
2022 (Online)

2023 (On-site)

2024 (On-site)

Please share your comment. (12 comments)

Question 1 a. Please indicate the sessions of the training program you attended.

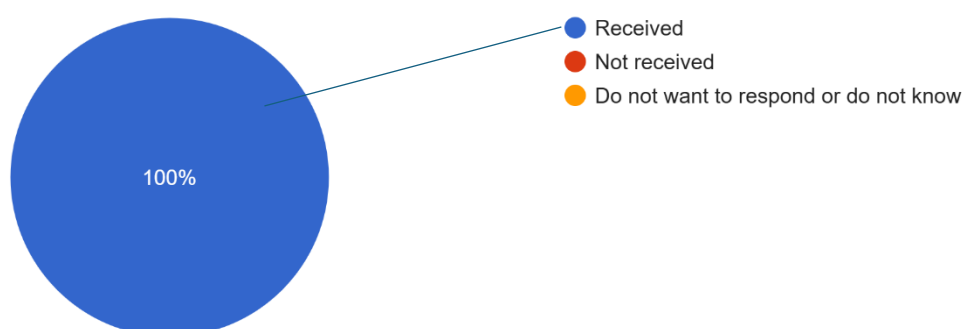


- It's a good session which has totally change my lifestyle to someone who love rice production and the training technology knowledge is helping my farmers to increase their production and productivity in yield and quality.
- 2023 onsite
- Very interesting course. It has impacted in me, a practical knowledge on Rice Production Technologies. It was indeed educative.
- I participated in a training session, it was phenomenal.
- The training was good
- Trains ware good in 2023
- No comments
- It was informing and has helped improved on my career activities back home
- I participated in 2023 on site in person.
- This training was very interesting and important because it allowed me to strengthen my skills in the knowledge needed to improve rice production in Burundi.
- Technology and Management of Rice Post-Harvest

- I participated in the face-to-face course on the aforementioned subject in 2023 for a period of 45 days

Question 1 b. After completion of the training, did you receive a certificate (Certificate of Completion) from the Thai side (TICA, the training implementing agency, or JICA Thailand Office)?"

Question 1 b. After completion of the training, did you receive a certificate (Certificate of Completion) from the Thai side (TICA, the training implementing agency, or JICA Thailand Office)?"
23 件の回答

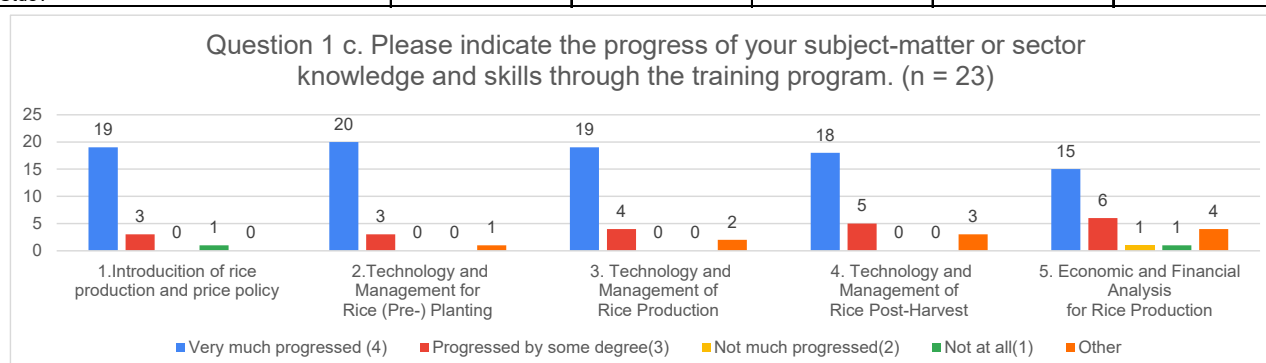


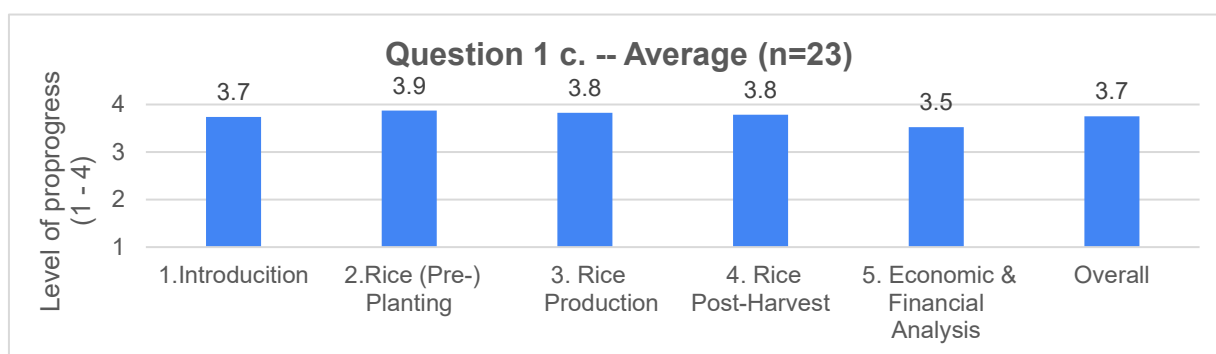
If you did not receive it, please explain the reason. (n=2)

- Not Applicable
- no comment

Question 1 c. Please indicate the progress of your subject-matter or sector knowledge and skills through the training program.

Subject-matter or sector -> knowledge & skills	1.Introduction of rice production and price policy	2.Technology and Management for Rice (Pre-) Planting	3. Technology and Management of Rice Production	4. Technology and Management of Rice Post-Harvest	5. Economic and Financial Analysis for Rice Production
↓Level of progress					
Very much progressed (4)	19	20	19	18	15
Progressed by some degree(3)	3	3	4	5	6
Not much progressed(2)	0	0	0	0	1
Not at all(1)	1	0	0	0	1
Other	0	1	2	3	4
n	23	23	23	23	23
Average	3.7	3.9	3.8	3.8	3.5
Stdev	0.7	0.3	0.4	0.4	0.8





Please share your comment. (n=10)

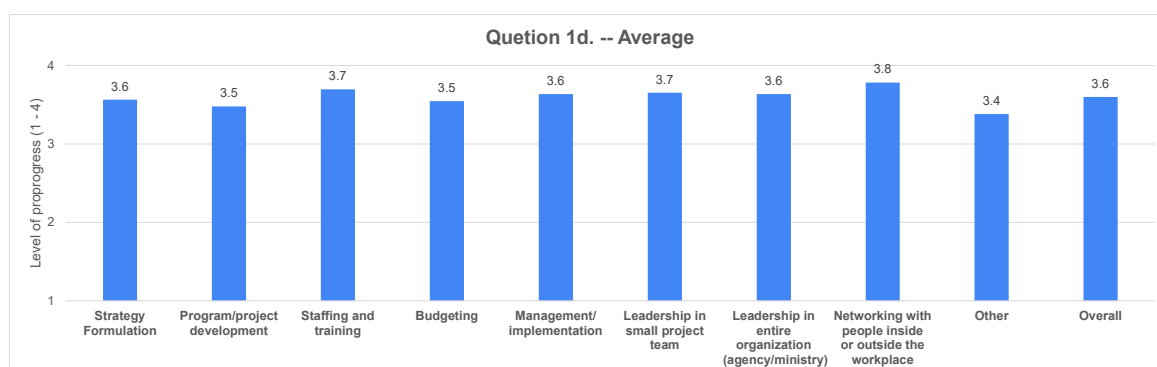
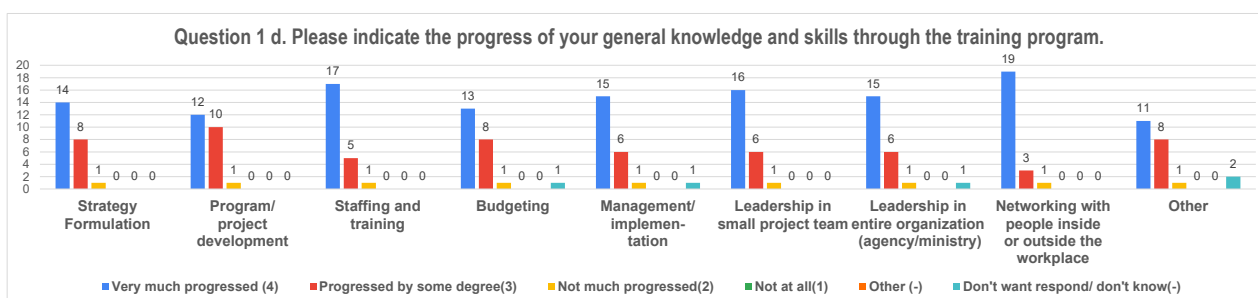
- Very interesting and is making impact in our rice production.
- Rice Production Programme is really improving in terms of overall benefits to the farmers and the nation in general on the aspect of attaining food security.
- Good
- no comment
- It has helped me in organizing training programs for my farmers and also an improvement in my agronomic field activity support to my local farmers
- It was great to have participated in the training, it opened up a lot of new vision for me.
- The training was moderately useful to me. There was not enough time to do practical work in the field and see the results of this work.
- The training was very interesting
- the lessons were well given and well outlined
- Really my knowledge is increased

Analysis of the study team

The overall average of the level of progress is 3.7, nearly “very much progressed (4)”. It indicates each subject-matter knowledge and skills are very much progressed. Some variation of the responses is observed on 5. Economic and Financial Analysis. The narrative comments also show general progress of their knowledge.

Question 1 d. Please indicate the progress of your general knowledge and skills through the training program.

General knowledge &-> skills Level of progress	Strategy Formulation	Program/ project development	Staffing and training	Budgeting	Management/ implemen- tation	Leadership in small project team	Leadership in entire organization (agency/ministry)	Networking with people inside or outside the workplace	Other
Very much progressed (4)	14	12	17	13	15	16	15	19	11
Progressed by some degree(3)	8	10	5	8	6	6	6	3	8
Not much progressed(2)	1	1	1	1	1	1	1	1	1
Not at all(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Other (-)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Don't want respond/ don't know(-)	0	0	0	1	1	0	1	0	2
n	23	23	23	22	22	23	22	23	20
Average	3.6	3.5	3.7	3.5	3.6	3.7	3.6	3.8	3.4
Stdev	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.8



Please share your comment. (n=9)

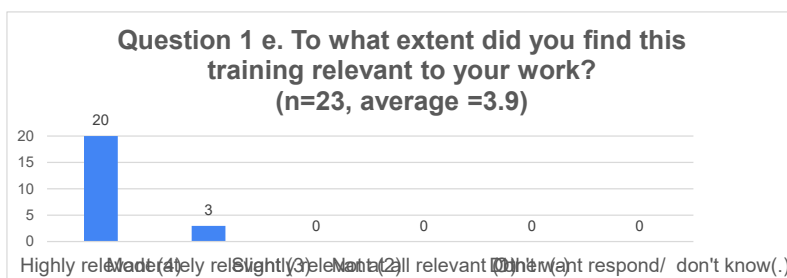
- Proper attention has being given to the Rice Value Chain in terms of capacity building programs, input and provision of machinery for the farmers both small, medium and large scale.
- The progress is good
- Beef cattle training was good
- no comments
- Improvement on my management of additional irrigation schemes
- his has allowed me to improve my rice farming skills.
- Organization and hospitality
- It was an excellent experience, I loved it a lot and I progressed a lot psychologically and professionally.
- So progress

Analysis of the study team

The overall average of the level of progress is 3.6, nearly “very much progressed (4)”. It indicates each general knowledge and skills are very much progressed. Networking inside or outside the workplace remarks the highest average. The narrative comments show some specific subject-matter items which was not expected.

Question 1 e. To what extent did you find this training relevant to your work?

	Question 1 e. To what extent did you find this training relevant to your work?
Highly relevant (4)	20
Moderately relevant (3)	3
Slightly relevant (2)	0
Not at all relevant (1)	0
Other (-)	0
Don't want respond/ don't know(.)	0
n	23
Average	3.9
Stdev	0.3



Please share your comment. (n=8)

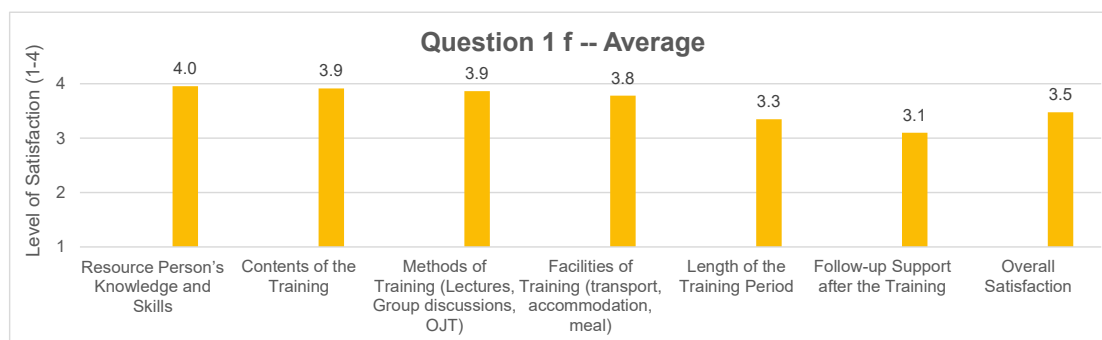
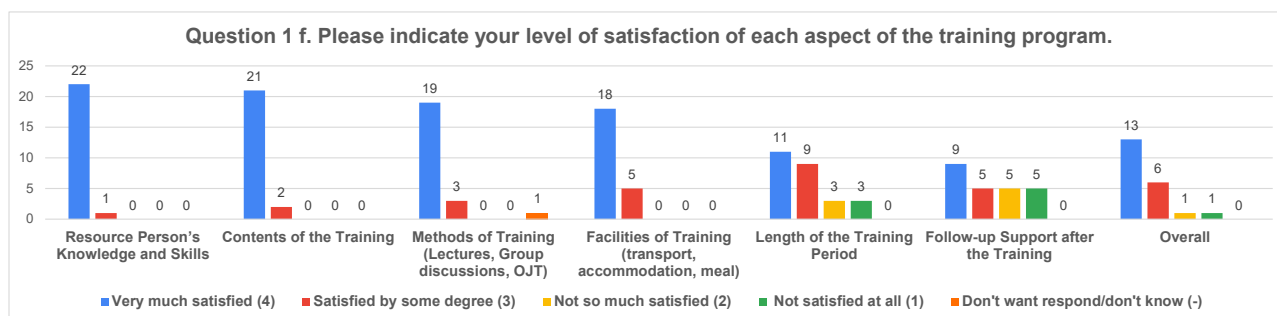
- It helps in the step down training of my subordinates and farmers generally.
- it is relevant because I am involved in teaching agricultural extension officers who go to teaching farmers rice cultivation, I am also involved in teaching farmers about rice cultivation in my area of work.
- no comments
- To a very high extent and has helped improved my managerial skills
- As a researcher at the Institute of Agricultural Sciences of Burundi (ISABU) working on rice, the topics studied were crucial.
- we were supervised by researchers from the university
- The training opened my eyes to new horizons and helped me see that it is possible to develop good results with few resources.
- This training was highly relevant with my work because I working at rice research program in my country

Analysis of the study team

The average is 3.9, which is almostly “Highly satisfactory”. This is very high average among all TCTP courses. The narrative comment, although the number of comments are not many, is no problem indicated. The survey result is evaluated that the training is highly relevant.

Question 1 f. Please indicate your level of satisfaction of each aspect of the training program.

Aspect of the training-> prpgram	Resource Person's Knowledge and Skills	Contents of the Training	Methods of Training (Lectures, Group discussions, OJT)	Facilities of Training (transport, accommodation, meal)	Length of the Training Period	Follow-up Support after the Training	Overall
Level of progress							
Very much satisfied (4)	22	21	19	18	11	9	13
Satisfied by some degree (3)	1	2	3	5	9	5	6
Not so much satisfied (2)	0	0	0	0	3	5	1
Not satisfied at all (1)	0	0	0	0	3	5	1
Don't want respond/don't know (-)	0	0	1	0	0	0	0
N/A	0	0	1	0	0	3	2
n	23	23	22	23	23	20	21
Average	4.0	3.9	3.9	3.8	3.3	3.1	3.5
Standard Deviation	0.2	0.3	0.4	0.4	0.7	1.0	0.8



Please share your comment. (n=10)

- There's a need for follow up to see what the countries that benefitted from the training are doing in terms of implementation of the knowledge gained from the training program.
- The length of training period on site should be increased to 3 months
- I don't appreciate all meal
- The training was good, but i need more training especially on economic and financial analysis
- Very satisfied with the course content
- Regarding follow-up support after the training, the Royal Thai Embassy had contacted us so that we could have a face-to-face meeting and subsequent alignment to provide feedback to associations that would be integrated into a project financed by the embassy, but until then they have not spoken out and a lot of time has passed.
- The training period was short considering the topics covered. There is no follow-up support for participants after this training.
- we were supervised by researchers from the university
- After finishing the course I had no assistance, I was only contacted by the Thai embassy talking about the possible training in Maputo but it never happened, they even entered my work area, they didn't contact me or inform me, I heard about it through gossip that was at my workplace.
- Overall this training is satisfied but if the length of the training period increase will be better.

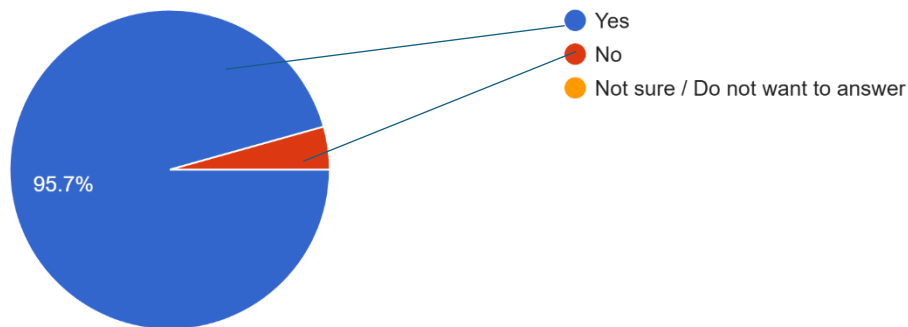
Analysis of the study team

The overall average of the level of progress is 3.5, which is more than “Satisfied by some degree (3)” but less than “Satisfied very much (4)”. The training contents, resource persons (=lecturers), and methods (=mode) of training are generally highly satisfied. The narrative comments indicate the length of the training should be longer and the more follow-up should be offered. There is a comment on meal but it is only one person wrote.

Question 1 g. Have you been able to apply the knowledge and skills learnt from the training courses in your work?

Question 1 g. Have you been able to apply the knowledge and skills learnt from the training courses in your work?

23 件の回答



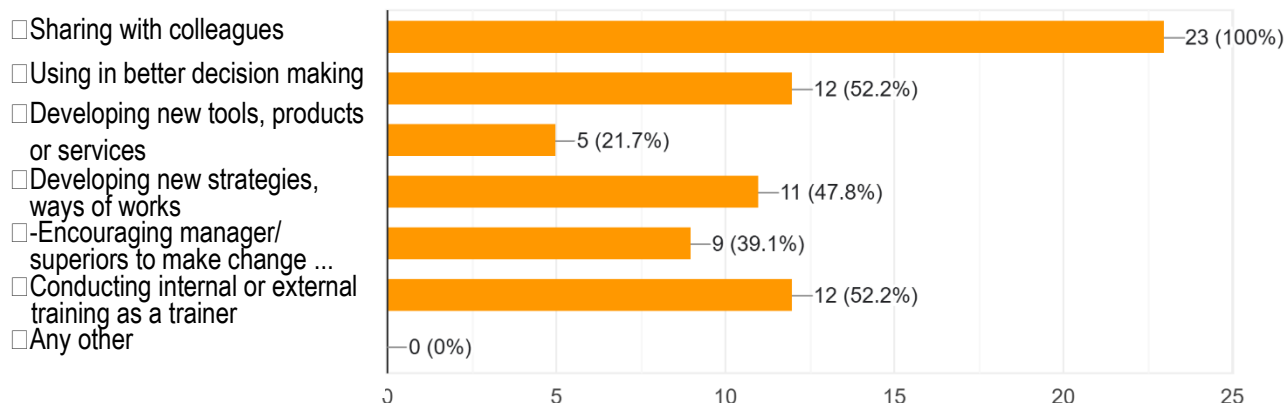
Please share your comment. (n=10)

- Helping my farmer's by giving them technical advice to improve their production and productivity and yield
- By implementing step down training for the rice farmers.
- I have been able to train farmers on cost benefit analysis and good agronomical practices for rice production
- I was selected to attend long course training outside the work area
- No comments
- In my daily field activities with the local farmers
- I only applied superficial knowledge, as there is a great lack of knowledge in that regard when it comes to machinery.
- By improving the way I conduct my rice research activities
- I share my experience with my colleagues
- I shared with colleagues, I took advantage of the days when we had meetings, gatherings to share, and I shared with farmers and associations

Question 1 h. How have you applied the gained knowledge and skills learnt from the training ? (Multiple answers allowed)

Question 1 h. How have you applied the gained knowledge and skills learnt from the training ?
(Multiple answers allowed)

23 件の回答



Please share your comment. (n=5)

- Very useful
- No comments
- I have organized training programs including rice field managements for local rice farmers
- I share my experience with my colleagues
- I shared with colleagues, I took advantage of the days when we had meetings, gatherings to share, and I shared with farmers and associations

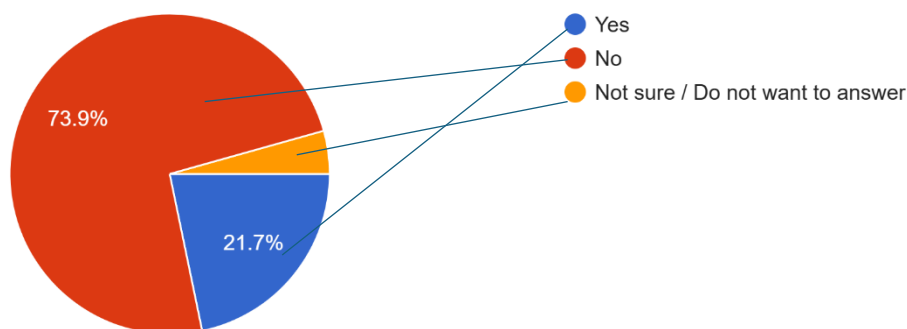
Analysis of the study team

All participants (100 %) have shared their knowledges and skills with their colleagues. It is a good outcome after the outputs, i.e., knowledge and skills are obtained, are achieved. It indicates the Theory of Change (ToC) set before this study is well followed. The further outcome, i.e., improvement of the rice production both in quantity and quality and the final outcome, improvement of life of the farmers, should be closely monitored.

Question 1 i. Did you implement your action plan after returning to your country?

Question 1 i. Did you implement your action plan after returning to your country?

23 件の回答



If you answered 'Yes', please describe the implementation status. If you answered 'No', please explain the reasons (e.g. lack of equipment, limited budget, insufficient technical skills or knowledge, or lack of understanding/support from your organization). (n=19)

- Lack of funding
- It need budget
- Completed
- Presently, farm machineries have been provided by the Federal Government of Nigeria through the Ministry for distribution to all the categories of farmers in the country.
- I could not implement it due to budget limitations; when I was in Thailand, we recognized this concern, that we would face some difficulties in implementing our plans due to the unavailability of money.
- Lack of equipment and budgets
- Limited budget, they are not financial resource
- I have been in long course training since that training,
- Due to unmobilized financial resources, the action plan has not yet been implemented. However, some areas of intervention of the plan
- Technical knowledge, understanding from superiors and support from the organization are what is needed, so I did not implement it precisely because of budget limitations and lack of appropriate equipment.
- lack of equipment and limited budget
- Limited budget
- I share my experience with my colleagues
- Lack of Financial Support
- In Burundi, we have a project of improvement techniques of rice cultivation we have opportunity to make a good practice.
- I had no resources to implement the competition and in 2024 in November I received a call from the embassy claiming that there was a plan to gather ideas and implement it but it did not materialize.
- We have a project with JICA in my SRDI company. Jica helps us to teach rice farmers on the good conduct of rice cultivator, gives agricultural inputs free in her jica

- Limited budget and war in my country
- Did not implement due to resource limitation

Analysis of the study team

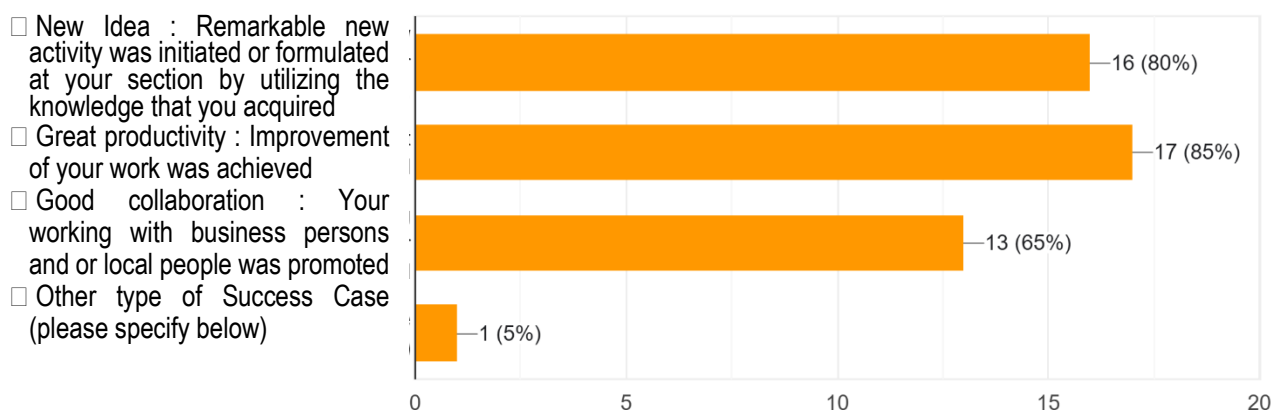
Just more than 20 % of participants have implemented their Action Plan. The dominant reason is lack of financial resources. It indicates the factors or conditions to make the action plan make true is not only the improvement of the training itself but also availability of financial resource, i.e., budget, should be accessible.

2. "Success Case" (Good practice)

Question 2 a: Please indicate the type of "Success Case" (good practice) in which TCTP contributed to your work. (Multiple choices acceptable)

Question 2 a: Please indicate the type of "Success Case" (good practice) in which TCTP contributed to your work. (Multiple choices acceptable)

20 件の回答



Question 2 b: Please explain your "Success Case" (Good practice) in detail. (n=13)

- By help us with technology in Rice production to ,and now we are improving the production of productivity in rice production
- Supplementary Irrigation
- I now use the knowledge gained from the training to carry out our rice seed production, processing, testing for quality and marketing. In several times , i have used the knowledge to train colleagues and farmers.

- There's increased productivity in production across all the production zones and recently, farm machineries were provided by the Federal Government of Nigeria as a result of collaboration with the government of other country (Belarus)
- A success case was the ecology of rice. My district has suffered a lot from floods, and with knowledge, we managed to train producers to choose the varieties (long or short cycle) according to production conditions, which allowed for a reduction in the risk of loss caused by the floods.
- Training to Farmers
- This new knowledge acquired has allowed me to position myself as a potential leader in irrigated production and the development of partnerships with the aim of intensifying rice production in Benin. the central state also relies heavily on my skills by involving myself in initiatives to promote the rice sector and in questions of resilience of rice production systems
- It has boosted my self confidence in carrying out activities
- After returning from training, my organization began efforts to recover the machinery and install a rice processing plant that had been stopped. With the good practice I gained during the training and shared with my colleagues from the technical team who provide Rural Extension services within the communities, they applied it and for some time now we have been registering improvements in production, although we lack specific machinery to increase productivity and production.
- Improvement of research activities and facilitation of training workshops for seed multipliers and municipal agronomists on quality seed production, including topics related to rice cultivation and climate change.
- I share my experience with my colleagues
- I explained one method of technology by session for example, method of sowing one day only
- in a practical way, I applied the plan in the best possible way using the resources available on a daily basis, I organized two field meetings where we exchanged ideas on how it is done in Thailand and how it is done in Mozambique, we gave practical demonstrations of results and compared yields, the quality of the rice grain, the height of the plant and the levels of development of the rice crop.

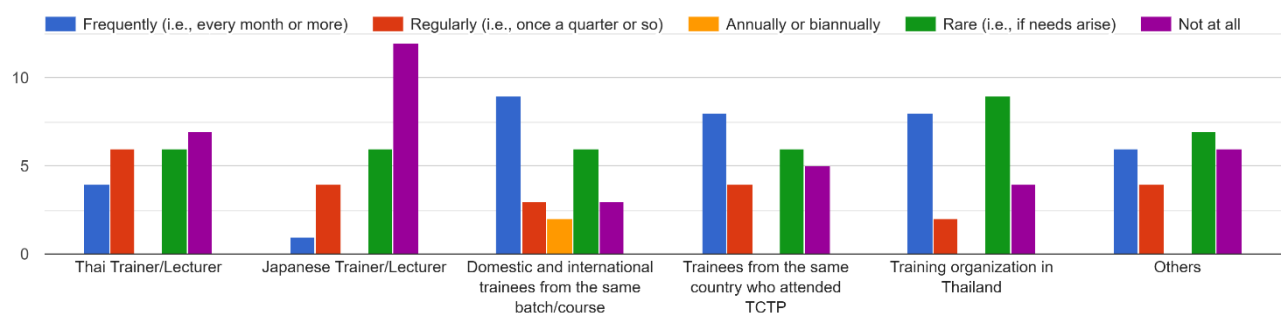
Analysis of the study team

New idea (80%), great productivity (85%), and good collaboration (65%) are reported. We can say it is a great application. The narrative comments include some good detailed “success cases”, which we can examine and identify the “success factors” to contribute to make the application and further outcomes, in addition to the training contents.

3. Networking/communication after the training program

Question 3 a: Please indicate the level of your networking/communication with stakeholders of the training program.

Question 3 a: Please indicate the level of your networking/communication with stakeholders of the training program.



(Note) The average values cannot be calculated because the choices of response are not Likert-type scales.

Please share how do you usually network with others? (e.g., face-to-face, online, formal events, informal meetings). (n of comments=18)

- Online
- We normally use to communicate through WhatsApp, and line calls
- online
- There is practically a blockage in our communication. The last time we communicated through the Thai embassy in Mozambique, they said they had a project and asked me if I was interested, to which I replied yes. Since then, we haven't spoken anymore, and I have already sent my concerns related to the continuity of studies. ...
- Online
- Through line
- we interact through the whatsapp platform.
- Online only
- Online; seminars and conferences and also through multi-actor platforms
- Formal Invents
- For the participants of the same year 2023 together with the team of the training organization in Thailand we have had Networks through the Internet via social networks (WhatsApp and Facebook), but in relation to my colleagues from the same country we have had informal meetings, telephone calls and online events.
- Face to face, via whatsapp

- Formal events
- I share my experience with my colleagues
- I didn't have Thai or Japanese classes. I don't have contact details for participants from the same country on the same course, but I received the photo that Somi shared in the group from the same year 2023
- Face to face and informal meeting

Question 3 b: Please explain the reason why you have communicated with other stakeholders after the training program. (n of comments =15)

- To share ideas and learn new things related to Rice production
- To share our progress
- to share how the knowledge is being used in my daily activities and also receive updates from other colleagues
- If there is any new development.
- Information and feedbacks
- Greetings
- To share our successes in various areas in rice production
- Sharing of the implementation of the project, new idea and issues related to rice cultivation
- TO INTERNALIZE THE ACQUIRED KNOWLEDGE AND TO IMPROVE RICE PRODUCTION
- Sharing ideas with other trainees on a social media platform
- To maintain Networking and exchange of experiences.
- To share experience
- I am interested by lecture of university of katsesart, they have good special methodologies of training and good practice. Special it is good to share knowledge of rice farming as well as in my area.
- Because our countries are French speaking countries
- Sharing and exchange the knowledge

Question 3 c: Please share the remarkable or good events that happened due to maintaining the communication with other stakeholders (e.g., exchange the new knowledge or experience). (n of comments =14)

- It's service for remembrance
- Learn from experience
- open opportunities related to rice production, share knowledge and best practices
- On the 23rd June, 2025, the Federal Government of Nigeria through the Federal Ministry of Agriculture and Food Security launched the Renewed Hope Agricultural Mechanization Programme to you ensure food security and sustainability most especially through Rice Production and other food staples.
- Exchange new experience
- Exchange experience
- I have broadened my knowledge and skills on the rice cultivation
- I was able to create a new repository of new knowledge of people. a real mix of cultures strong community integration
- The type and kind of activities we are undertaking back home after the training course

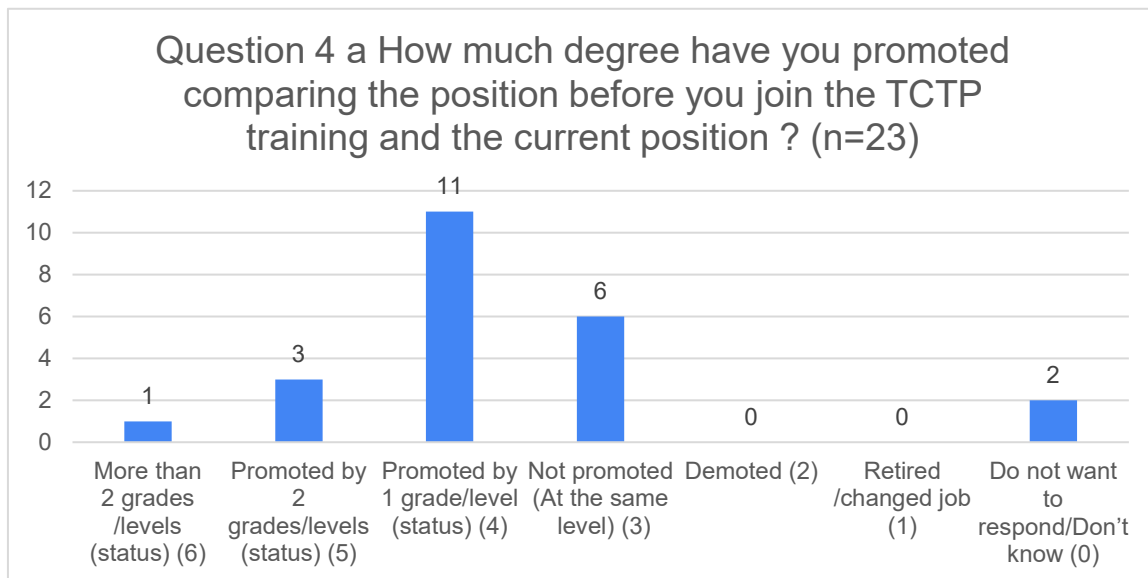
- Appreciation of the experiences of participants who managed to implement some activities in their countries, and this will further strengthen the desire to seek budget to implement my action plan and share more knowledge with more actors in the sector.
- Experience
- Through our institute other colleagues learned the information
- colleagues of the same year have a plan together so we communicate every day, and apart from that we develop friendship and brotherhood, from the year 2034 I tried to look for them to join us and work together but they were not open, I gave up
- Because it will continue to recall the importance for training of abroad

Analysis of the study team

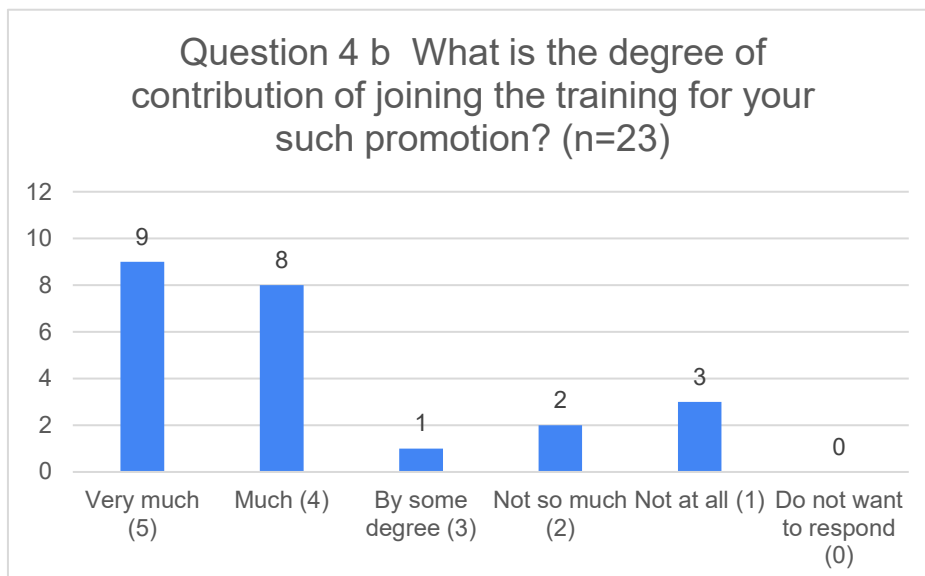
Communication with tainees and ex-traniees from the same country is most frequent. The mode is online, i.e., WhatUp or Facebook, is dominant. The main reasons of communicating are exchange of new ideas as well as greeting.

4. Promotion and contribution of the training program

Question 4 a How much degree have you promoted comparing the position before you join the TCTP training and the current position ? (n=23)



Question 4 b What is the degree of contribution of joining the training for your such promotion? (n= 23)



Please share your comment (n=6)

- Through sharing of ideas on best practices.
- Good

- In my addressing issues at a promotional interview
- I have not been promoted
- Through our institute other colleagues learned the information
- Regarding my level, nothing has changed, not even my position.

Analysis of the study team

According to 23 respondents, more than a half (n=25) made promoted by more than 1 grade/level (status). Nearly one fourth (n=6) have not made promotion. Most promoted respondents reported contribution of joining the TCTP training on promotion is “very much” or “much”. The narrative comments are made by the respondents who have not been promoted and it indicate their dissatisfaction of their current status.

5. Your comments and suggestions

Question 5: To practically improve rice production in your country, please share your comments or suggestions about TCTP. (n=19)

- To enhance such training,also to provide support for funding to the action plan for implementation
- Very help full and more experts must also get such opportunities
- more of similar trainings are needed by colleagues from my country to help improve rice production in my country
- By providing regular support for the farmers both in cash and kind (Agricultural input and machineries for production and processing), capacity building programs, improving national budgetary allocation for the Agriculture sector generally and specifically on Rice Production.
- To improve rice production, I need to use machinery to reduce human effort and increasingly enhance human training.
- TCTP should add masters program on rice production
- Offer more traing
- I want that TICA JICA finance the report plan after training
- The time for the training should be long enough (increased to at least 120 days, the whole rice growing period) for the trainee to acquire necessary knowledge and skills
- Hoping for new training and also more time for the duration of the modules. better work for interpreters
- The local country organizers should arrange for follow-up courses
- Strengthen cooperation through embassies, providing more funding for projects in the area while including our trainees so that we can actively participate in projects and disseminate the knowledge and skills acquired during training.

- Support Burundi in the sector of rice research Capacity building for researchers (certification and degree programs) through partnerships between Thai agricultural universities and the Burundi Institute of Agricultural Sciences, as well as Burundi's agricultural universities. Support for equipping these institutes and universities. Support Burundi in the sector of agricultural mechanization
- JICA and TICA should have a long term training program at masters and PhD level. Particularly from those that have already visited and had a feel of the Thai experience. Long term training particularly in Thailand will facilitate long standing relationship and a cohesive understanding of the subject matter.
- Through our institute other colleagues learned the information
- Practice rice cultivation, it is good
- To improve production and productivity, training must be extended to farmers in the field in a participatory and inclusive manner.
- TCTP is very practice
- The TCTP is very useful

Analysis of the study team

The comments and suggestions on TCTP for the implementation agencies (TICA and JICA), can be summarized as follows.

- The longer period of training is suggested. Especially, the subject is rice farming, the training should be set to cover the entire, whole rice growing seasons (from spring to fall).
- Funding for implementing the action plans should be necessary
- TCTP should be expanded to receive more trainees from their countries because TCTP is very practical and very useful !

Final question: Contact information

- **Your name (n=23)**
- **Your phone number (mobile or landline) * (n=23)**
***The study team may contact you directly by phone if your case is selected as the best "Success Case".**
- **Your email address (n=23)**
- **Name and contact information of the person responsible for sending you to TCTP (n=23)**
- **(b) E-mail address of the person (n=20)**

***** Confidentiality is strictly secured. Thank you very much for your cooperation for this survey!! *****

FY2025 Joint Evaluation of Third Country Training Programme (TCTP) in Thailand

Ex-trainees Survey Result Report

**#8 Skill Development for Material Processing
for Mekong Countries**

**The Third Country Training Program on
Skill Development for Material Processing for Mekong Countries**



Source: Report on TCTP 2020 by DIIT

Basic statistics of this survey

Target participants (trainees)	95 (61 except Myanmar)
Number of participants filled the survey	5 (Response rate 8%)
Date of notification to the participants	1_A request email sent : July 28, 2025 2_Follow-up email1 : Aug 7, 2025 3_Follow-up email with personal name : Aug 8. Due date: Aug 14, 2025

Complied date: Sep. 23, 2025 by RS

Update date 1 : -

1. Knowledges and skills you obtained and satisfaction

Question 1 a. Please indicate the sessions of the training program you attended.

Course 1 Conducted in Sept-Oct 2015

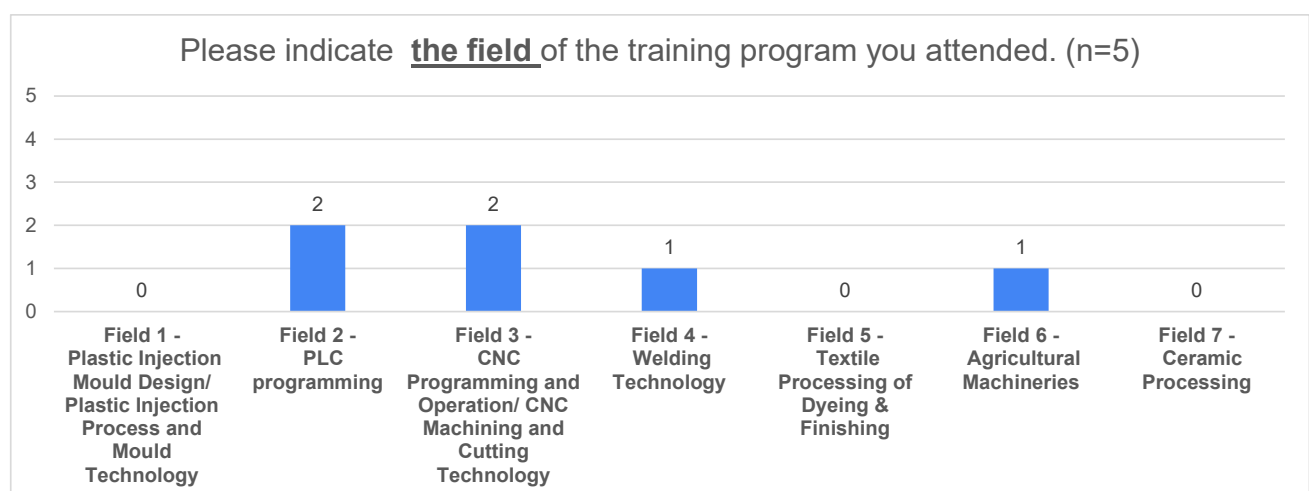
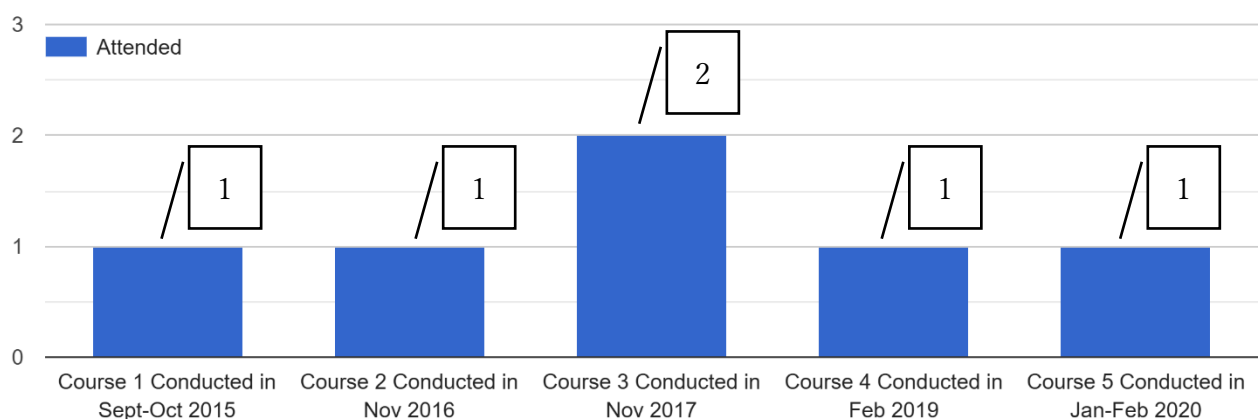
Course 2 Conducted in Nov 2016

Course 3 Conducted in Nov 2017

Course 4 Conducted in Feb 2019

Course 5 Conducted in Jan-Feb 2020

Question 1 a. Please indicate the course batch (year) of the training program you attended.



If you attend the multiple course batches (years) & multiple fields, please write each pair of course batch (year) & field. (n=2)

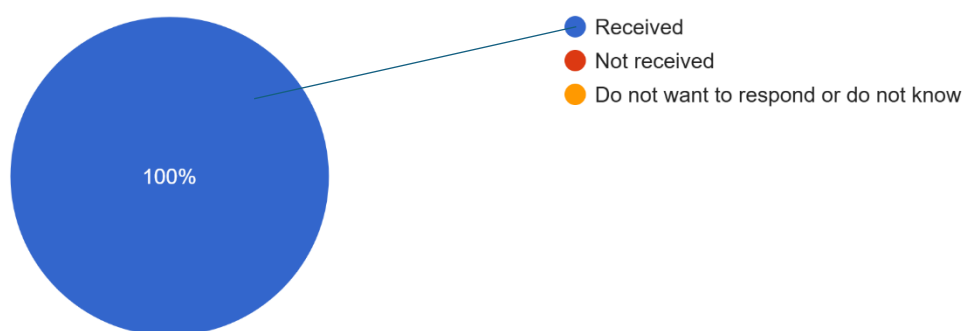
- Welding technology
- PLC is very good to implement but I do not have equipment to carry out program. And agriculture design I applied by myself to planting crop corn bean

Please share your comment. (4 comments)

- I find the course very useful for me and everyone.
- The course schedule is very suitable
- Good shared the knowledge
- By practices during training and post, we can do if we try to do with our job.

Question 1 b. After completion of the training, did you receive a certificate (Certificate of Completion) from the Thai side (TICA, the training implementing agency, or JICA Thailand Office)?"

Question 1 b. After completion of the training, did you receive a certificate (Certificate of Completion) from the Thai side (TICA, the training implementing agency, or JICA Thailand Office)?"
5 件の回答

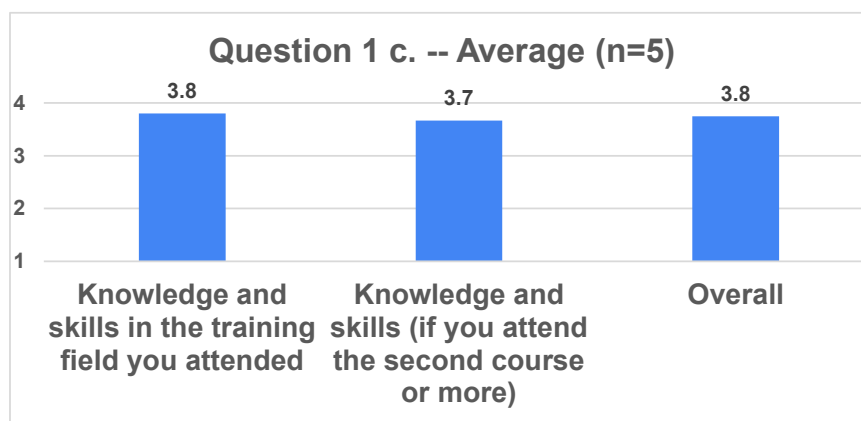
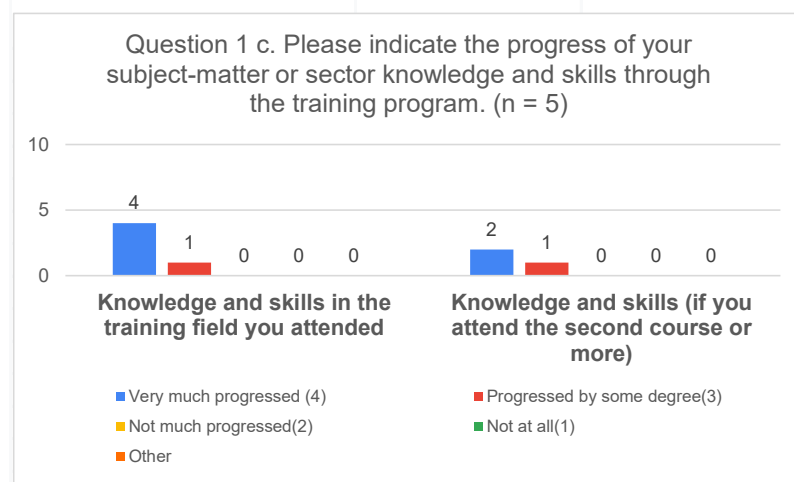


If you did not receive it, please explain the reason. (n=0)

- -

Question 1 c. Please indicate the progress of your subject-matter or sector knowledge and skills through the training program.

Subject-matter or setor -> knowledge & skills	Knowledge and skills in the training field you attended	Knowledge and skills (if you attend the second course or more)
↓Level of progress		
Very much progressed (4)	4	2
Progressed by some degree(3)	1	1
Not much progressed(2)	0	0
Not at all(1)	0	0
Other	0	0
n	5	3
Average	3.8	3.7
Stdev	0.4	0.6



Please share your comment. (n=2)

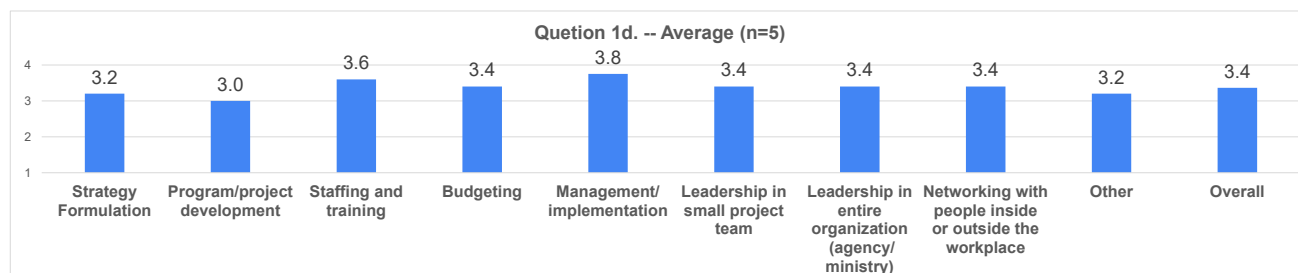
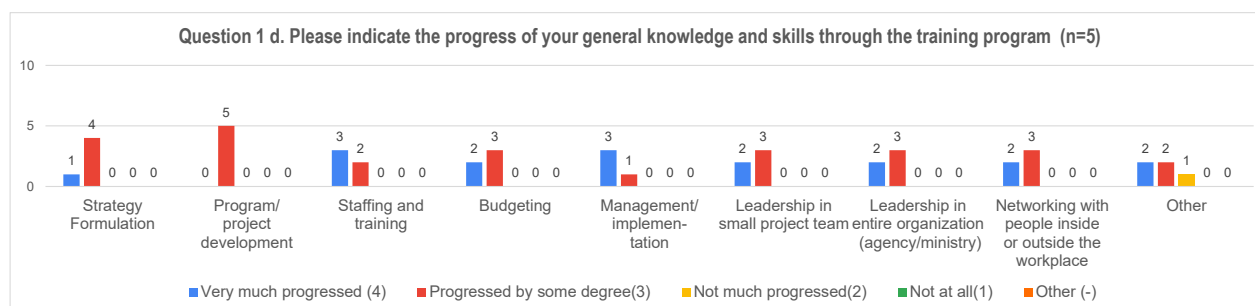
- The course was very useful, providing a lot of helpful knowledge
- Very good projects.

Analysis of the study team

The overall average of the level of progress is 3.8, which is nearly “Very much progressed (4)”. It indicates each subject-matter knowledge and skills are well progressed, although n is only 5.

Question 1 d. Please indicate the progress of your general knowledge and skills through the training program.

General knowledge &-> skills ↓Level of progress	Strategy Formulation	Program/ project development	Staffing and training	Budgeting	Management/ implementation	Leadership in small project team	Leadership in entire organization (agency/ministry)	Networking with people inside or outside the workplace	Other
Very much progressed (4)	1	0	3	2	3	2	2	2	2
Progressed by some degree(3)	4	5	2	3	1	3	3	3	2
Not much progressed(2)	0	0	0	0	0	0	0	0	1
Not at all(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Other (-)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
n	5	5	5	5	4	5	5	5	5
Average	3.2	3.0	3.6	3.4	3.8	3.4	3.4	3.4	3.2
Stdev	0.4	0.0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.8



Please share your comment. (n=2)

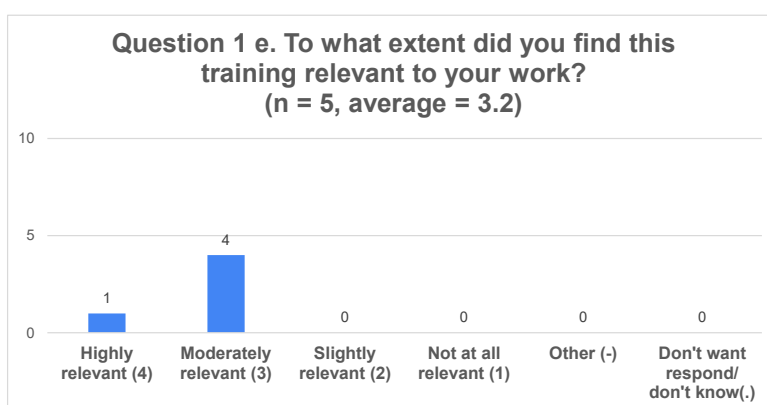
- Everything is great
- I still remember courses and lessons.

Analysis of the study team

The overall average of the level of progress is 3.4, which is between “very much progressed (4)” and “Progressed by some degree (3)”. “Management / Implementation” made the highest progress (3.8) and “Program/project development” is the lowest progress (3.0) due the characteristics of the course contents .

Question 1 e. To what extent did you find this training relevant to your work?

Question 1 e. To what extent did you find this training relevant to	
Highly relevant (4)	1
Moderately relevant (3)	4
Slightly relevant (2)	0
Not at all relevant (1)	0
Other (-)	0
Don't want respond/ don't know(.)	0
n	5
Average	3.2
Stdev	0.4



Please share your comment. (n=2)

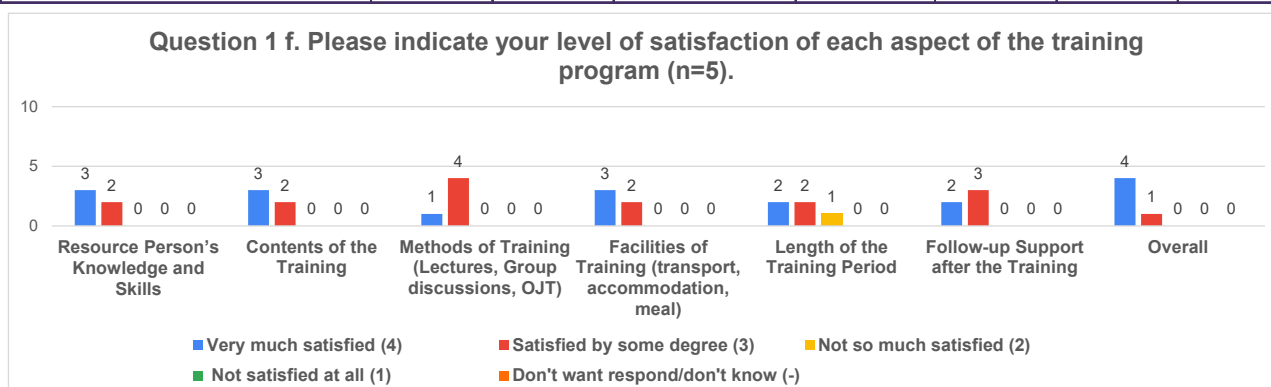
- I also provide training on operating and programming CNC machines.
- N/A

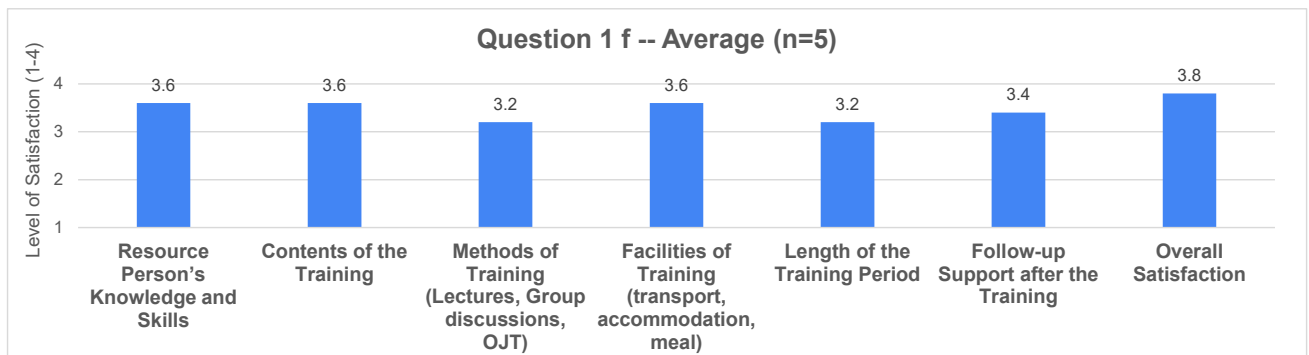
Analysis of the study team

The average is 3.2, which is just slightly more than “moderately relevant” although n is only 5.

Question 1 f. Please indicate your level of satisfaction of each aspect of the training program.

Aspect of the training-> prpgram	Resource Person's Knowledge and Skills	Contents of the Training	Methods of Training (Lectures, Group discussions, OJT)	Facilities of Training (transport, accommodation, meal)	Length of the Training Period	Follow-up Support after the Training	Overall
↓ Level of progress							
Very much satisfied (4)	3	3	1	3	2	2	4
Satisfied by some degree (3)	2	2	4	2	2	3	1
Not so much satisfied (2)	0	0	0	0	1	0	0
Not satisfied at all (1)	0	0	0	0	0	0	0
Don't want respond/don't know (-)	0	0	0	0	0	0	0
n	5	5	5	5	5	5	5
Average	3.6	3.6	3.2	3.6	3.2	3.4	3.8
Standard Deviation	0.5	0.5	0.4	0.5	0.8	0.5	0.4





Please share your comment. (n=1)

- very good

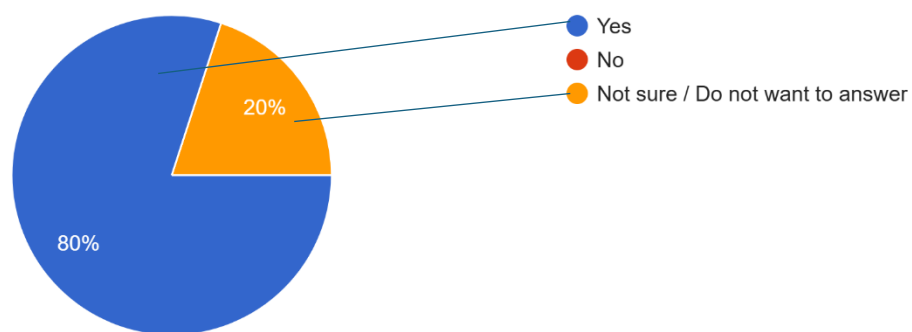
Analysis of the study team

The overall average of the level of satisfaction is 3.8, which is nearly “Very much (4)” although n is only 5.

Question 1 g. Have you been able to apply the knowledge and skills learnt from the training courses in your work?

Question 1 g. Have you been able to apply the knowledge and skills learnt from the training courses in your work?

5 件の回答



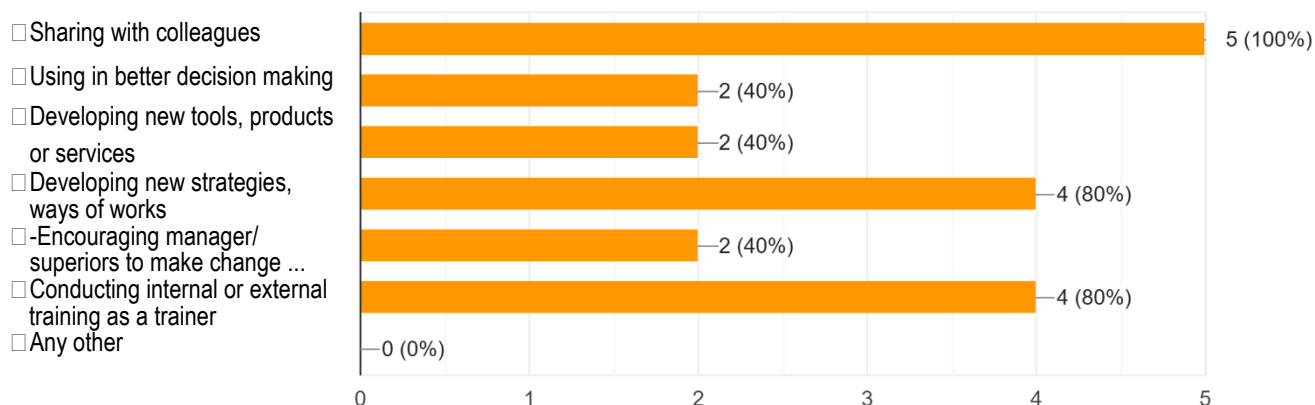
Please share your comment. (n=2)

- I'm using that knowledge in my job
- N/A

Question 1 h. How have you applied the gained knowledge and skills learnt from the training ? (Multiple answers allowed)

Question 1 h. How have you applied the gained knowledge and skills learnt from the training ?
(Multiple answers allowed)

5 件の回答



Please share your comment. (n=0)

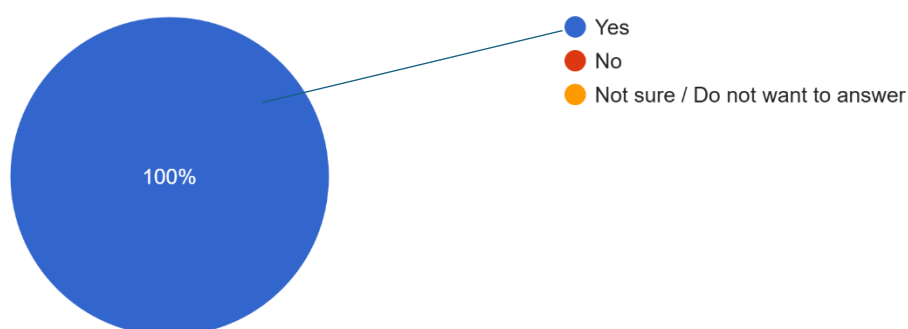
Analysis of the study team

All participants (100 %) responded (i) sharing their knowledges and skills with their colleagues. Also, “developing new strategies, ways of works” and “conducting internal or external training as a trainer” mark high ratio (four out of five participants, 80 %). It indicates the Theory of Change (ToC) set before this study is well followed. The further outcome should be closely monitored. One caution is n is only 5.

Question 1 i. Did you implement your action plan after returning to your country?

Question 1 i. Did you implement your action plan after returning to your country?

5 件の回答



If you answered 'Yes', please describe the implementation status. If you answered 'No', please explain the reasons (e.g. lack of equipment, limited budget, insufficient technical skills or knowledge, or lack of understanding/support from your organization). (n=1)

- This is for our internal team only
- I tried to practice at my home.

Analysis of the study team

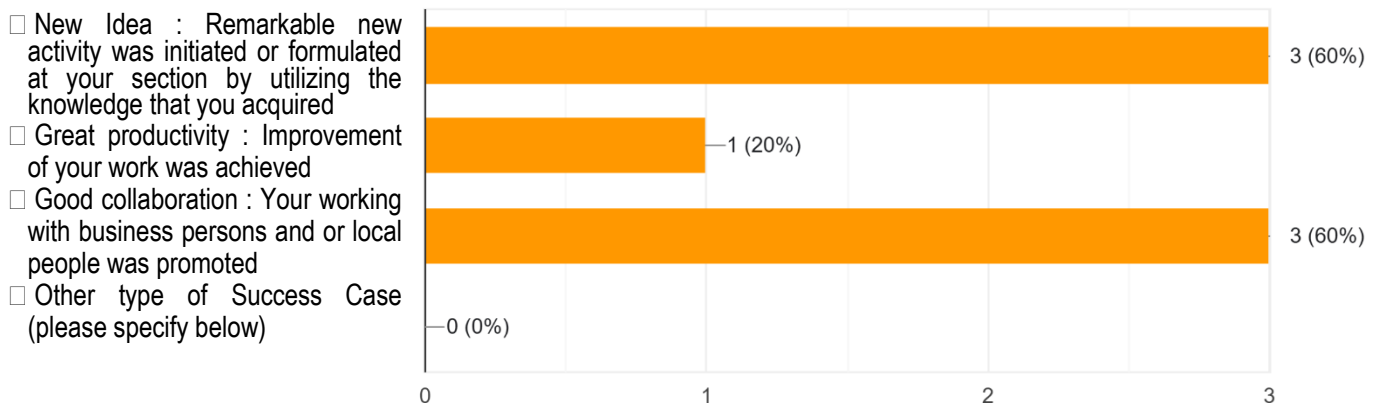
All five participants have implemented their Action Plan (100%), which is good ratio of implementation, although n is only 5.

2. "Success Case" (Good practice)

Question 2 a: Please indicate the type of "Success Case" (good practice) in which TCTP contributed to your work. (Multiple choices acceptable)

Question 2 a: Please indicate the type of "Success Case" (good practice) in which TCTP contributed to your work. (Multiple choices acceptable)

5件の回答



Question 2 b: Please explain your "Success Case" (Good practice) in detail. (n=2)

- I've applied the knowledge to my student training
- I learn from study field and in class, I always tell my friends to implement it.

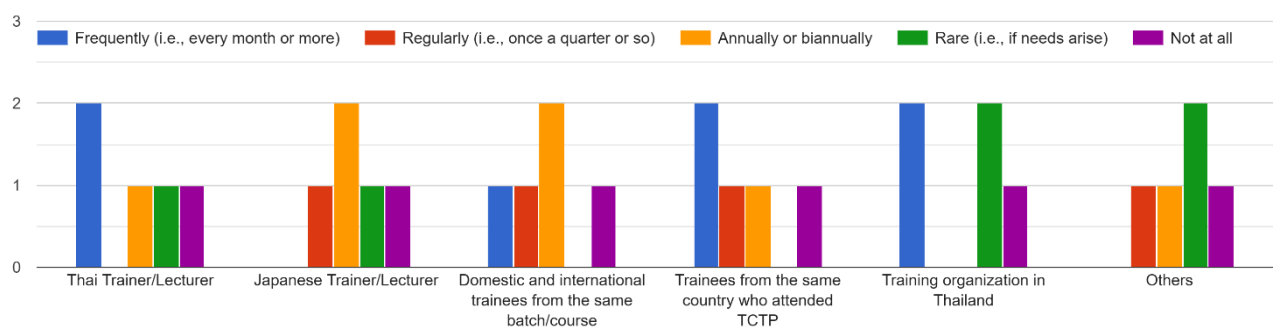
Analysis of the study team

New idea and great productivity are reported relatively high ratio (60%), and the narrative comments provide some hints of success cases.

3. Networking/communication after the training program

Question 3 a: Please indicate the level of your networking/communication with stakeholders of the training program.

Question 3 a: Please indicate the level of your networking/communication with stakeholders of the training program.



Please share how do you usually network with others? (e.g., face-to-face, online, formal events, informal meetings). (n of comments=3)

- online
- Online
- N/A

Question 3 b: Please explain the reason why you have communicated with other stakeholders after the training program. (n of comments =2)

- To build a long-term connection and grow together
- I would like to share my knowledge and receive feedback when I discussed with them.

Question 3 c: Please share the remarkable or good events that happened due to maintaining the communication with other stakeholders (e.g., exchange the new knowledge or experience). (n of comments =2)

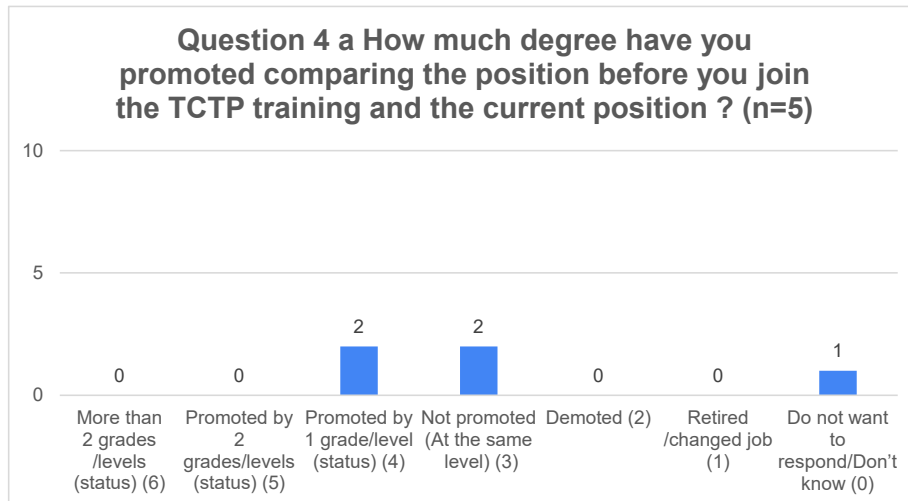
- It's just a normal greeting
- Beside lessons, field trips were very good learning from new experts.

Analysis of the study team

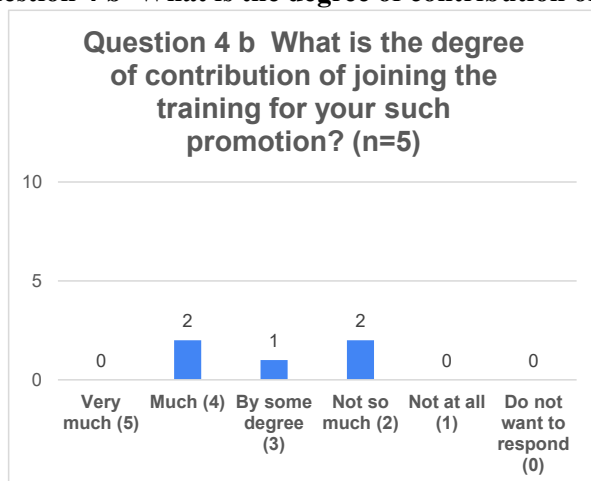
Two out of five participants responded communication with Thai trainers “frequently” and it indicates continuation with good relationship with them. This is rare and good case among all 10 TCTP training courses.

4. Promotion and contribution of the training program

Question 4 a How much degree have you promoted comparing the position before you join the TCTP training and the current position ? (n=5)



Question 4 b What is the degree of contribution of joining the training for your such promotion? (n= 5)



Please share your comment (n=1)

- N/A

Analysis of the study team

Two out of five respondents have received promotion and those respondents evaluated the degree of contribution of the training was “much” (4).

5. Your comments and suggestions

Question 5: To practically improve rice production in your country, please share your comments or suggestions about TCTP. (n=2)

- Thank you for providing me with the opportunity to participate in this very useful course. I hope you will offer many more beneficial courses in the future
- Very good job.

Analysis of the study team

- Two comments received are very positive ones.

Final question: Contact information

- Your name (n=3)
- Your phone number (mobile or landline) * (n=3)
*The study team may contact you directly by phone if your case is selected as the best "Success Case".
- Your email address (n=3)
- Name and contact information of the person responsible for sending you to TCTP (n=3)
- (b) E-mail address of the person (n=3)

***** Confidentiality is strictly secured. Thank you very much for your cooperation for this survey!! *****

FY2025 Joint Evaluation of Third Country Training Programme (TCTP) in Thailand

Ex-trainees Survey Result Report

#9. Workshop on Investment Promotion Policy and Enhancing Industrial Competitiveness for Mekong and South-Asian Countries

“Workshop on Investment Promotion Policy and Enhancing Industrial Competitiveness for Mekong and South Asian Countries”



Basic statistics of this survey

Target participants (trainees)	35 (14 except Myanmar)
Number of participants filled the survey	3 (Response rate 21%)
Date of notification to the participants	1_A request email sent : July 17, 2025 2_Follow-up email1 : July 23, 2025 3_Follow-up email with personal name : July 30 Due date: Aug 1, 2025

Complied date: Sep. 23, 2025 by RS

Update date 1 : -Oct.10, 2025

1. Knowledges and skills you obtained and satisfaction

Question 1 a. Please indicate the sessions of the training program you attended.

2022(On-site)

Part I: Lecture ; Part II: Field trip

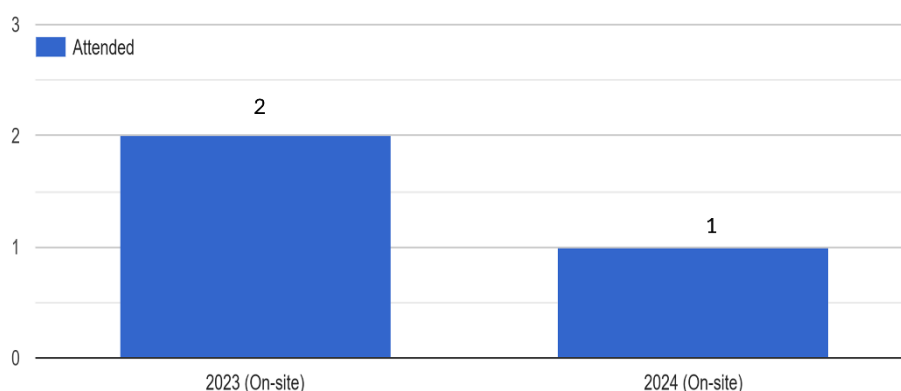
2023 (On-site)

Part I: Lecture ; Part II: Field trip

2024(On-site)

(No information)

Question 1 a. Please indicate the sessions of the training program you attended.



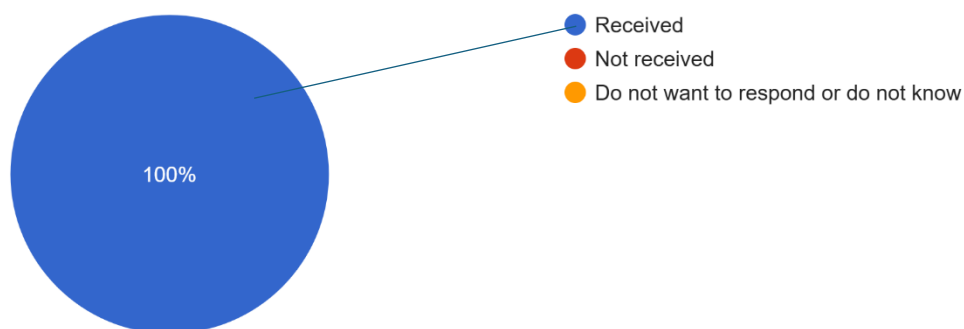
Please share your comment. (1 comments)

- The experience helps me to be exposed to Thailand's policy instruments and mechanisms to facilitate investment.

Question 1 b. After completion of the training, did you receive a certificate (Certificate of Completion) from the Thai side (TICA, the training implementing agency, or JICA Thailand Office)?"

Question 1 b. After completion of the training, did you receive a certificate (Certificate of Completion) from the Thai side (TICA, the training implementing agency, or JICA Thailand Office)?"

3 件の回答

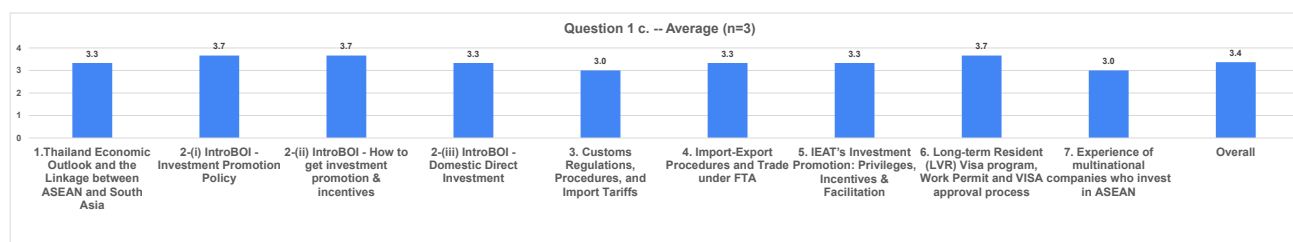
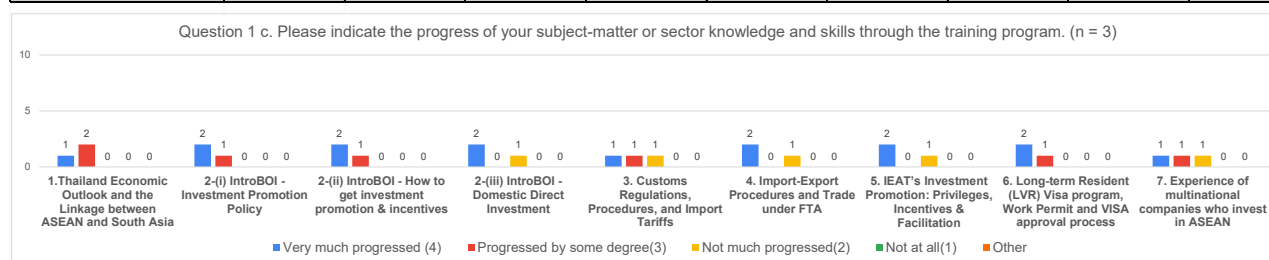


If you did not receive it, please explain the reason. (n=0)

• -

Question 1 c. Please indicate the progress of your subject-matter or sector knowledge and skills through the training program.

Subject-matter or sector -> knowledge & skills	1.Thailand Economic Outlook and the Linkage between ASEAN and South Asia	2-(i) IntroBOI - Investment Promotion Policy	2-(ii) IntroBOI - How to get investment promotion & incentives	2-(iii) IntroBOI - Domestic Direct Investment	3. Customs Regulations, Procedures, and Import Tariffs	4. Import-Export Procedures and Trade under FTA	5. IEAT's Investment Promotion: Privileges, Incentives & Facilitation	6. Long-term Resident (LVR) Visa program, Work Permit and VISA approval process	7. Experience of multinational companies who invest in ASEAN
Level of progress									
Very much progressed (4)	1	2	2	2	1	2	2	2	1
Progressed by some degree(3)	2	1	1	0	1	0	0	1	1
Not much progressed(2)	0	0	0	1	1	1	1	0	1
Not at all(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Other	0	0	0	0	0	0	0	0	0
n	3	3	3	3	3	3	3	3	3
Average	3.3	3.7	3.7	3.3	3.0	3.3	3.3	3.7	3.0
Stdev	0.6	0.6	0.6	1.2	1.0	1.2	1.2	0.6	1.0



Please share your comment. (n=2)

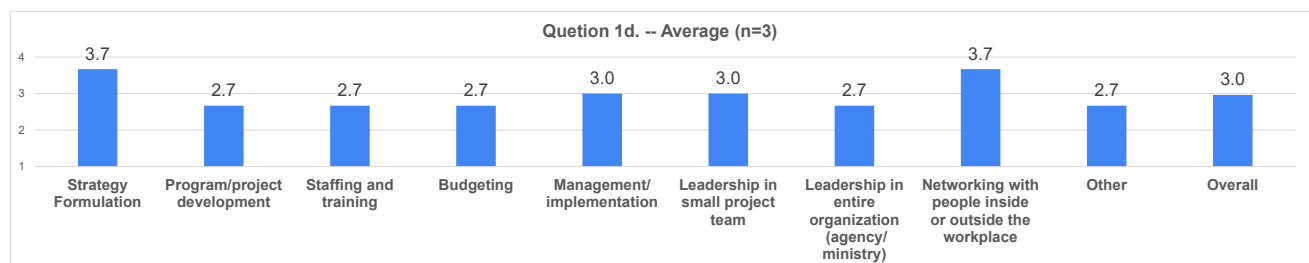
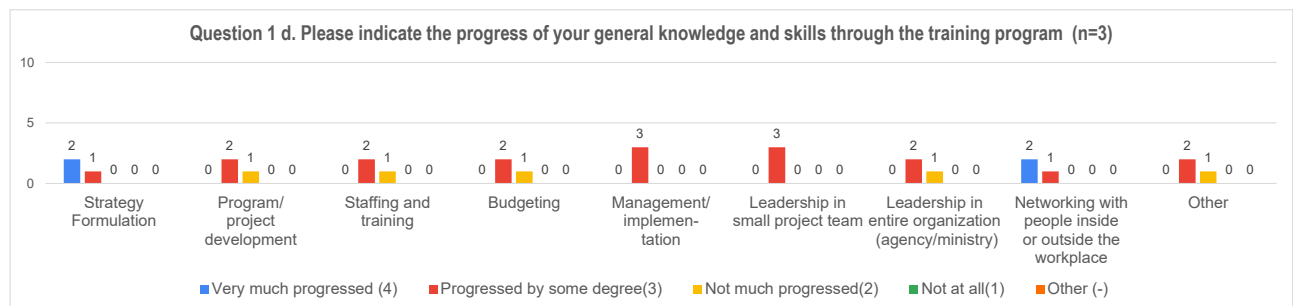
- None
- N/A

Analysis of the study team

The overall average of the level of progress is 3.7, which is nearly “Very much progressed (4)”. It indicates each subject-matter knowledge and skills are well progressed, although n is only 3.

Question 1 d. Please indicate the progress of your general knowledge and skills through the training program.

General knowledge &-> skills Level of progress	Strategy Formulation	Program/ project development	Staffing and training	Budgeting	Management/ implementation	Leadership in small project team	Leadership in entire organization (agency/ministry)	Networking with people inside or outside the workplace	Other
Very much progressed (4)	2	0	0	0	0	0	0	2	0
Progressed by some degree(3)	1	2	2	2	3	3	2	1	2
Not much progressed(2)	0	1	1	1	0	0	1	0	1
Not at all(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Other (-)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
n	3	3	3	3	3	3	3	3	3
Average	3.7	2.7	2.7	2.7	3.0	3.0	2.7	3.7	2.7
Stdev	0.6	0.6	0.6	0.6	0.0	0.0	0.6	0.6	0.6



Please share your comment. (n=1)

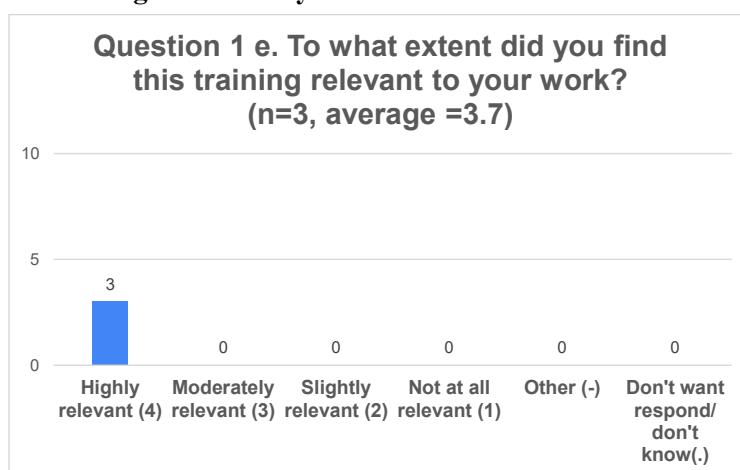
- Good

Analysis of the study team

The overall average of the level of progress is just “Progressed by some degree (3)”. “Strategy Formulation” and “Networking with people inside or outside the workplace” made highest progress (3.7) and most other knowledge and skills are less progress reported.

Question 1 e. To what extent did you find this training relevant to your work?

	Question 1 e. To what extent did you find this training relevant to your work?
Highly relevant (4)	3
Moderately relevant (3)	0
Slightly relevant (2)	0
Not at all relevant (1)	0
Other (-)	0
Don't want respond/ don't know(.)	0
n	3
Average	4.0
Stdev	0.0



Please share your comment. (n=2)

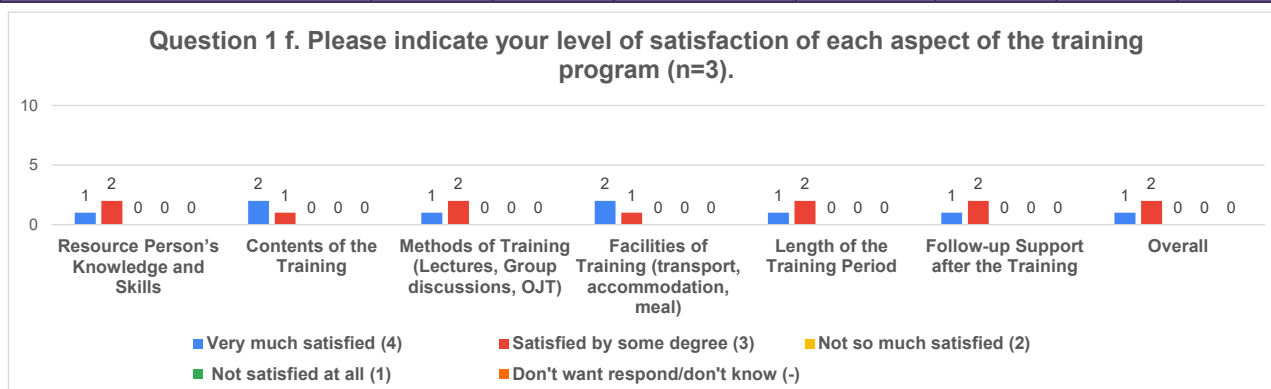
- None
- N/A

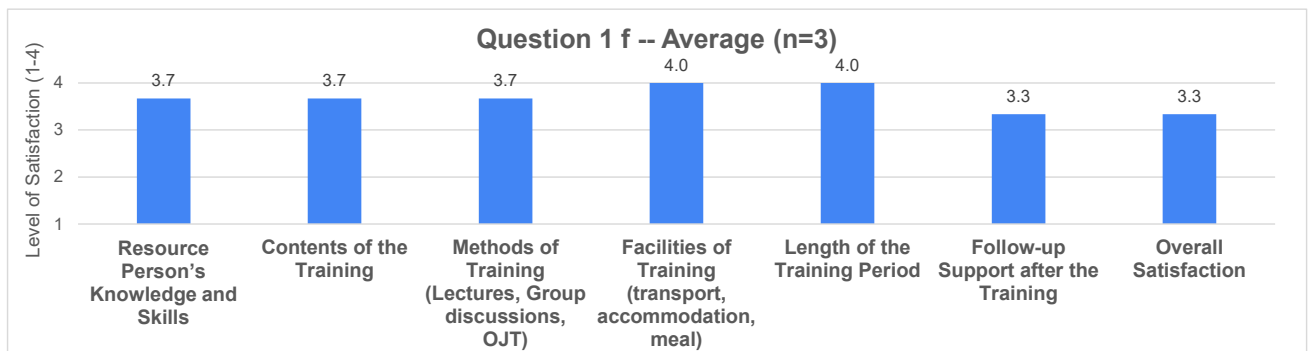
Analysis of the study team

The average is 4.0, which is “Highly satisfactory” although n is only 3.

Question 1 f. Please indicate your level of satisfaction of each aspect of the training program.

Apect of the training-> prpgram	Resource Person's Knowledge and Skills	Contents of the Training	Methods of Training (Lectures, Group discussions, OJT)	Facilities of Training (transport, accommodatio n, meal)	Length of the Training Period	Follow-up Support after the Training	Overall
↓Level of progress							
Very much satisfied (4)	1	2	1	2	1	1	1
Satisfied by some degree (3)	2	1	2	1	2	2	2
Not so much satisfied (2)	0	0	0	0	0	0	0
Not satisfied at all (1)	0	0	0	0	0	0	0
Don't want respond/don't know (-)	0	0	0	0	0	0	0
n	3	3	3	3	3	3	3
Average	3.3	3.7	3.3	3.7	3.3	3.3	3.3
Standard Deviation	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6





Please share your comment. (n=0)

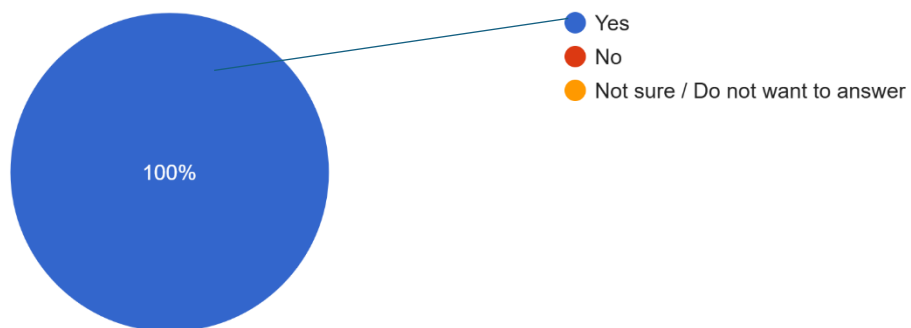
Analysis of the study team

The overall average of the level of satisfaction is 3.3, which is slightly more than “Satisfied by some degree (3)” although n is only 3.

Question 1 g. Have you been able to apply the knowledge and skills learnt from the training courses in your work?

Question 1 g. Have you been able to apply the knowledge and skills learnt from the training courses in your work?

3 件の回答

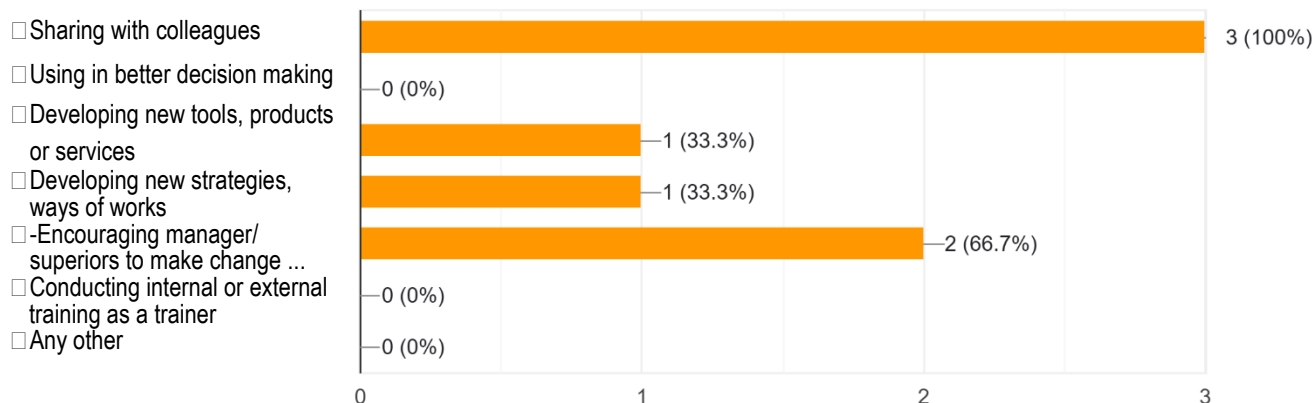


Please share your comment. (n=0)

Question 1 h. How have you applied the gained knowledge and skills learnt from the training ? (Multiple answers allowed)

Question 1 h. How have you applied the gained knowledge and skills learnt from the training ?
(Multiple answers allowed)

3 件の回答



Please share your comment. (n=0)

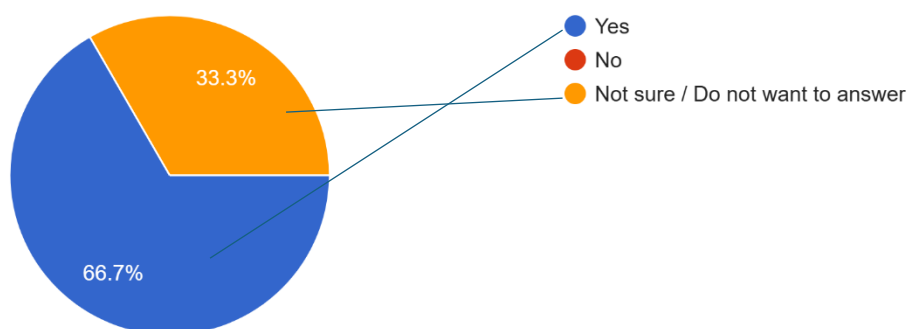
Analysis of the study team

All participants (100 %) responded (i) sharing their knowledges and skills with their colleagues. It indicates the Theory of Change (ToC) set before this study is well followed. The further outcome should be closely monitored. One caution is n is only 3.

Question 1 i. Did you implement your action plan after returning to your country?

Question 1 i. Did you implement your action plan after returning to your country?

3 件の回答



If you answered 'Yes', please describe the implementation status. If you answered 'No', please explain the reasons (e.g. lack of equipment, limited budget, insufficient technical skills or knowledge, or lack of understanding/support from your organization). (n=1)

- Implemented as usual plan but still limited budget for dissemination

- I am using the concept of model SEZs and industrial zones as an input in constructing new SEZ law, which is in drafting process.

Analysis of the study team

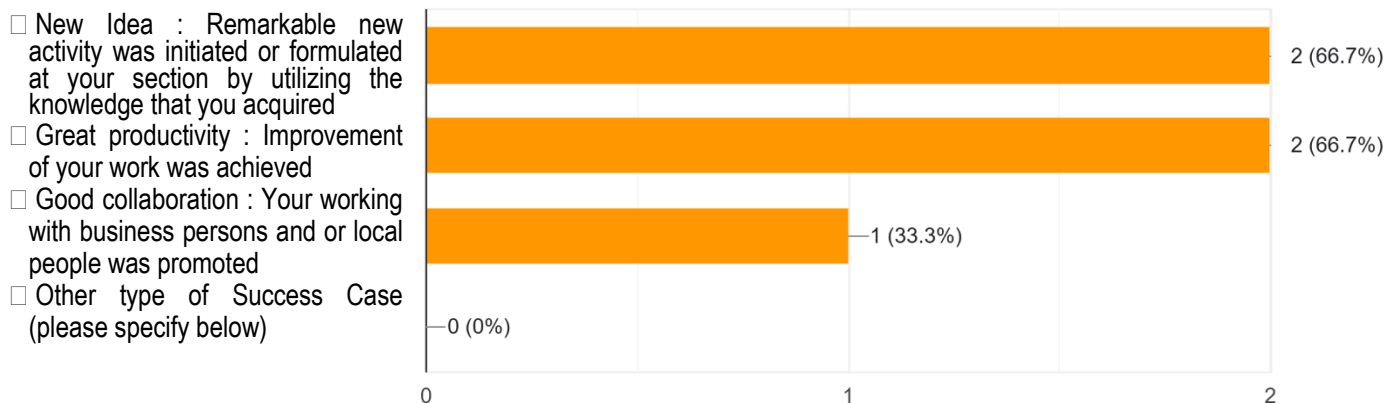
Two participants have implemented their Action Plan (67%). The narrative comments indicate great implementation, which is preparing “the industrial zones as an input in constructing new SEZ law, which is in drafting process” .

2. "Success Case" (Good practice)

Question 2 a: Please indicate the type of "Success Case" (good practice) in which TCTP contributed to your work. (Multiple choices acceptable)

Question 2 a: Please indicate the type of "Success Case" (good practice) in which TCTP contributed to your work. (Multiple choices acceptable)

3 件の回答



Question 2 b: Please explain your "Success Case" (Good practice) in detail. (n=1)

- None

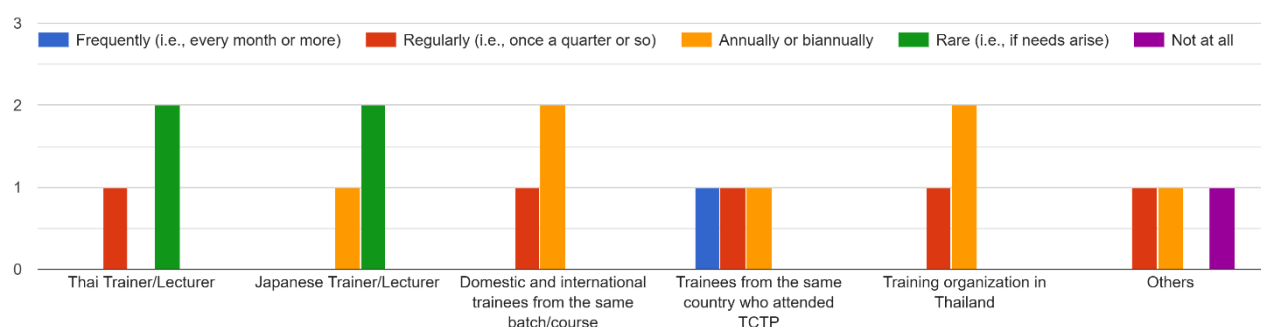
Analysis of the study team

New idea and great productivity (100%) are reported although n is only 3, and no narrative comment is obtained.

3. Networking/communication after the training program

Question 3 a: Please indicate the level of your networking/communication with stakeholders of the training program.

Question 3 a: Please indicate the level of your networking/communication with stakeholders of the training program.



Please share how do you usually network with others? (e.g., face-to-face, online, formal events, informal meetings). (n of comments=2)

- Email
- I once had the opportunity to host a BOI investment delegation from Thailand.

Question 3 b: Please explain the reason why you have communicated with other stakeholders after the training program. (n of comments =2)

- Some relevant document for work and experiences
- Investment promotion and facilitation need two-way communication.

Question 3 c: Please share the remarkable or good events that happened due to maintaining the communication with other stakeholders (e.g., exchange the new knowledge or experience). (n of comments =2)

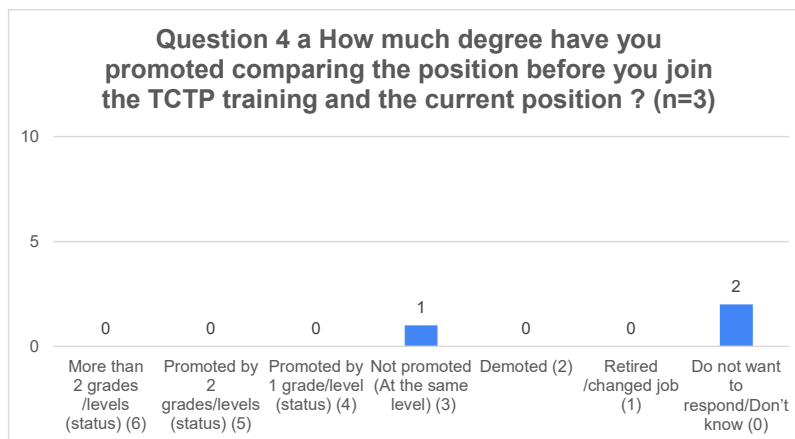
- Business and public information meeting
- BOI investment delegation visit at the Council for the Development of Cambodia

Analysis of the study team

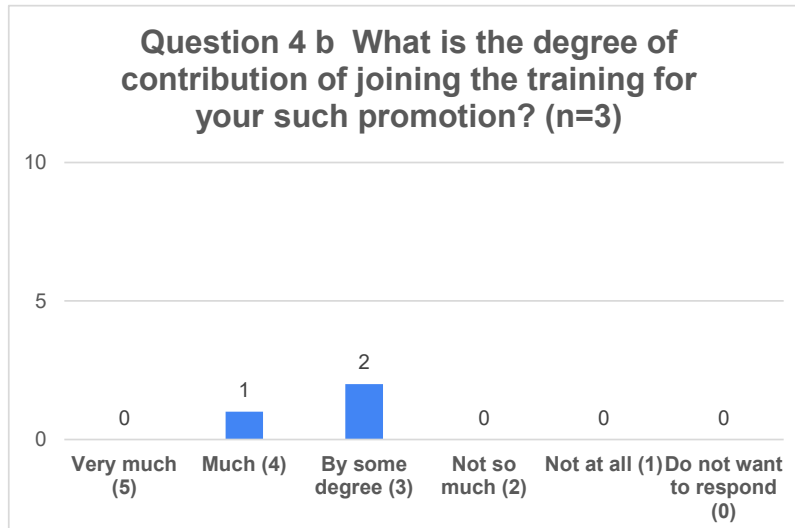
Annual or bi-annual meeting are held and it is a good example of maintaining networking and communication, although n is only 3.

4. Promotion and contribution of the training program

Question 4 a How much degree have you promoted comparing the position before you join the TCTP training and the current position ? (n=3)



Question 4 b What is the degree of contribution of joining the training for your such promotion? (n= 3)



Please share your comment (n=1)

- Nine

Analysis of the study team

Two out of three respondents do not want to share information on their promotion, and the remaining one has not been promoted.

5. Your comments and suggestions

Question 5: To practically improve rice production in your country, please share your comments or suggestions about TCTP. (n=2)

- Hotel should be near the center for convenient
- Please continue to sponsor such training programmes to exchange views and best practices among ASEAN nations. However, some ASEAN member states were absent. That would be helpful if the programme were to widen the scope to other ASEAN members.

Analysis of the study team

- One practical comment and one encouraging comment which ask to invite participants from other member countries of ASEAN.

Final question: Contact information

- Your name (n=3)
- Your phone number (mobile or landline) * (n=3)
*The study team may contact you directly by phone if your case is selected as the best "Success Case".
- Your email address (n=3)
- Name and contact information of the person responsible for sending you to TCTP (n=3)
- (b) E-mail address of the person (n=3)

***** Confidentiality is strictly secured. Thank you very much for your cooperation for this survey!! *****

FY2025 Joint Evaluation of Third Country Training Programme (TCTP) in Thailand

Ex-trainees Survey Result Report

**#10 Strengthening Disability Inclusive Disaster Risk
Reduction in the ASEAN Region**



(source)<https://kait-cdd.jp/wp-content/uploads/2023/08/08-24-2023-SomchaiEnglish.pdf>

Basic statistics of this survey

Target participants (trainees)	59 (51 except Myanmar) (cumulative number*counting multiple attendances) 26 (actual number of participants)
Number of participants filled the survey	11 (Response rate 42%)
Date of notification to the participants	1_A request email sent : July 26, 2025 2_Follow-up email1 : July 03, 2025 3_Follow-up email with personal name : July09 Due date: July 11, 2025

Complied date: Aug 29, 2025 by RS

1. Knowledges and skills you obtained and satisfaction

Question 1 a. Please indicate the sessions of the training program you attended.

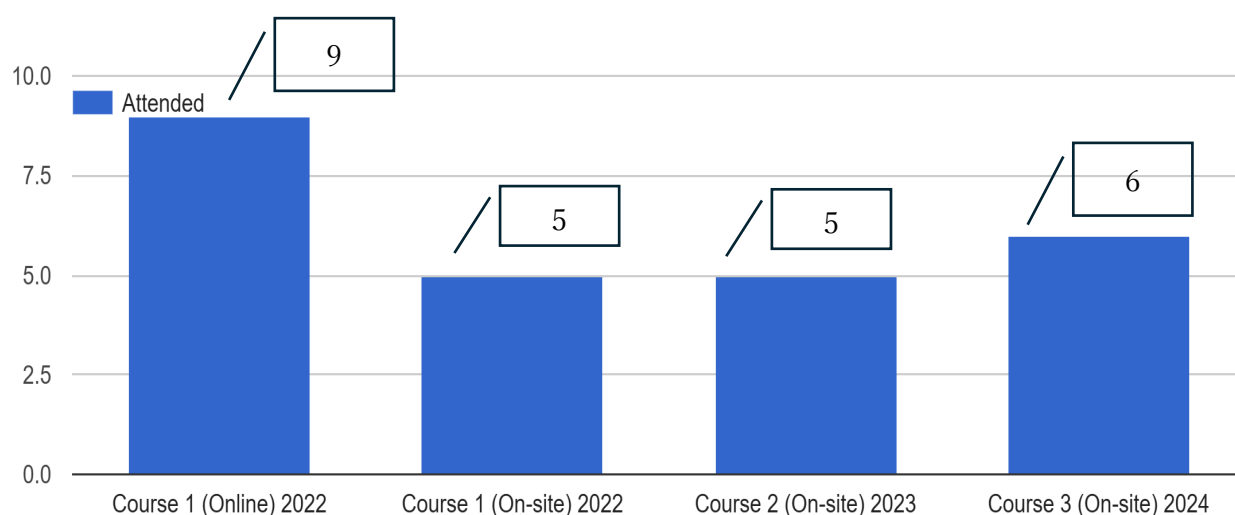
Course 1 (Online) 2022

Course 1 (On-site) 2022

Course 2 (On-site) 2023

Course 3 (On-site) 2024

Question 1 a. Please indicate the sessions of the training program you attended.



Please share your comment. (7 comments)

- Comprehensive Knowledge: • Fundamental Concepts • International Frameworks • Regional Context • Policy and Development: Knowledge required to provide inputs on recommendations for strengthening DIDRR policies for decision-makers. Practical Skills: • The ability to research, document, and present country-specific situations and good practices on DIDRR. • The skills to design and develop DRR programs and strategies that are inclusive and tailored to specific needs and situations. • Experience in developing a structured Training of Trainers (ToT) manual on DIDRR, which is a key skill for capacity building. • The capacity to act as a trainer and facilitator, promoting inclusive development approaches in DRR activities and empowering others. Potential for Satisfaction: The satisfaction derived from these courses would likely stem from a combination of personal growth, professional development, and the ability to contribute to a meaningful cause. • A participant would likely feel highly

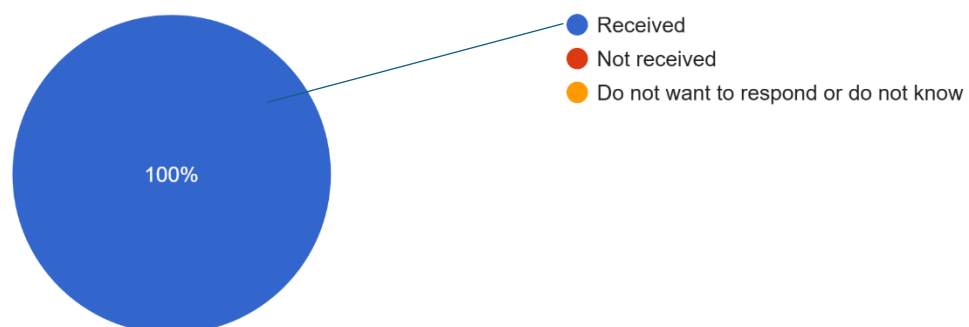
satisfied from transforming a basic understanding of DRR into specialized expertise in DIDRR, making them a valuable asset in their field. • Networking and Collaboration • Empowerment

- n/a
- I learned about the basic knowledge about the DIDRR, saw the good practices, how should we prepare beforehand in case disaster happen and how I could involve with to in order to make sure that we leave no one behind.
- All courses was attended.
- Facilitation for Change and Social Media Production focused on promoting DIDRR" is every important topic and link to my work. It is also new for me and I got a lot of experiences from this training.
- an interesting program with good enrichment from field visits, direct practice and learning best practices from each country
- I only attended Course 3, replacing Jessica, a representative from YAKKUM Emergency Unit, Indonesia.

Question 1 b. After completion of the training, did you receive a certificate (Certificate of Completion) from the Thai side (TICA, the training implementing agency, or JICA Thailand Office)?"

Question 1 b. After completion of the training, did you receive a certificate (Certificate of Completion) from the Thai side (TICA, the training implementing agency, or JICA Thailand Office)?"

11 件の回答

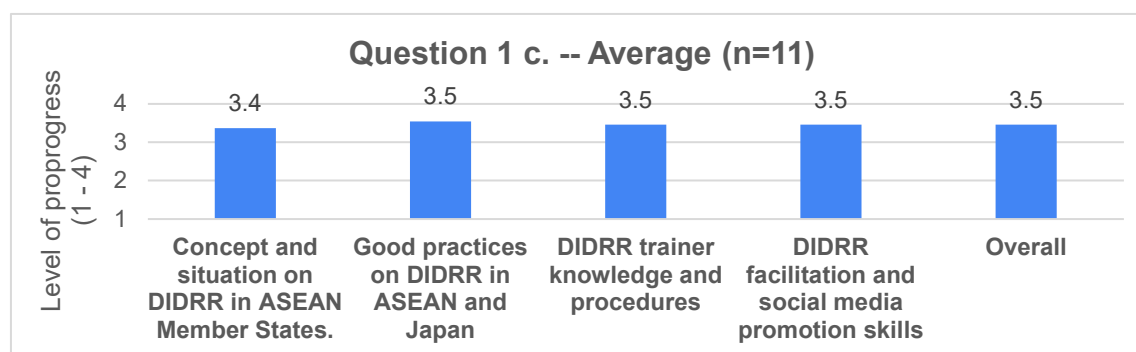
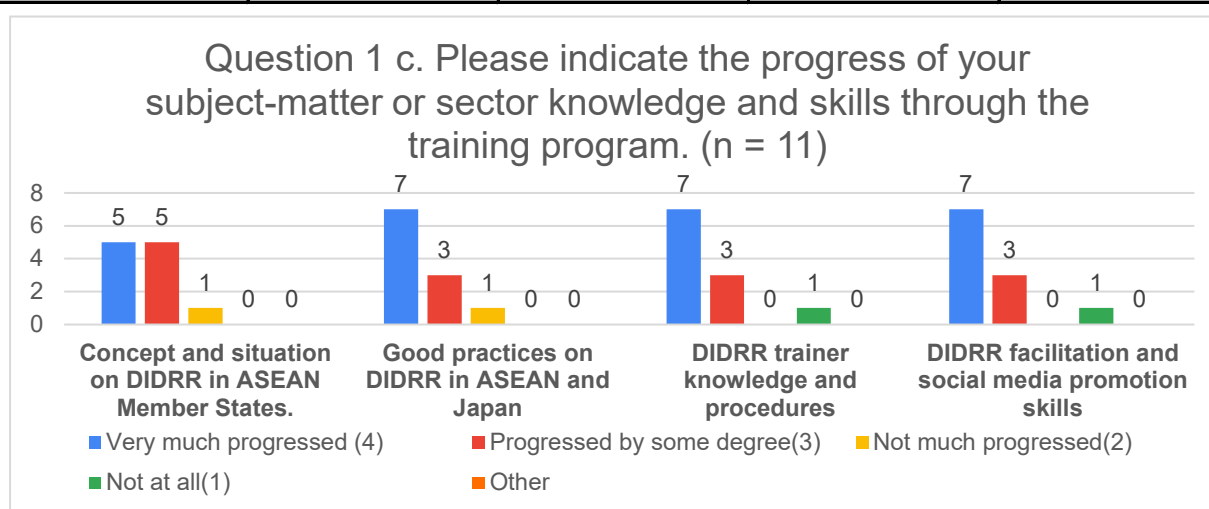


If you did not receive it, please explain the reason. (n=1)

- It would also be better if it was available in the form of an electronic certificate

Question 1 c. Please indicate the progress of your subject-matter or sector knowledge and skills through the training program.

Subject-matter or sector ->	Concept and situation on DIDRR in ASEAN Member States.	Good practices on DIDRR in ASEAN and Japan	DIDRR trainer knowledge and procedures	DIDRR facilitation and social media promotion skills
Very much progressed	5	7	7	7
Progressed by some degree	5	3	3	3
Not much progressed	1	1	0	0
Not at all(1)	0	0	1	1
Other	0	0	0	0
n	0	0	0	0
Average	3.4	3.5	3.5	3.5
Stdev	0.7	0.7	0.9	0.9



Please share your comment. (n = 6)

- The training did help me gain more knowledge about DIDRR and share it to the organization I belong.
- I appreciate the training I received, and at this time, we are sharing the knowledge we have gained with our local disaster risk reduction management officer, the persons with disability leader, and the persons with disability affairs office (PDAO).
- Knowledge gained in the courses was cascaded to my colleagues in work, co- implementer and worker
- time management
- Learning and sharing experiences among ASEAN member states (participants from ASEAN countries)

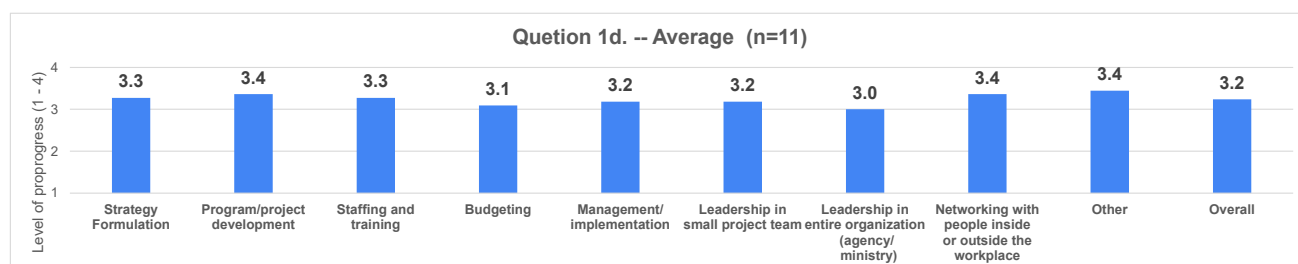
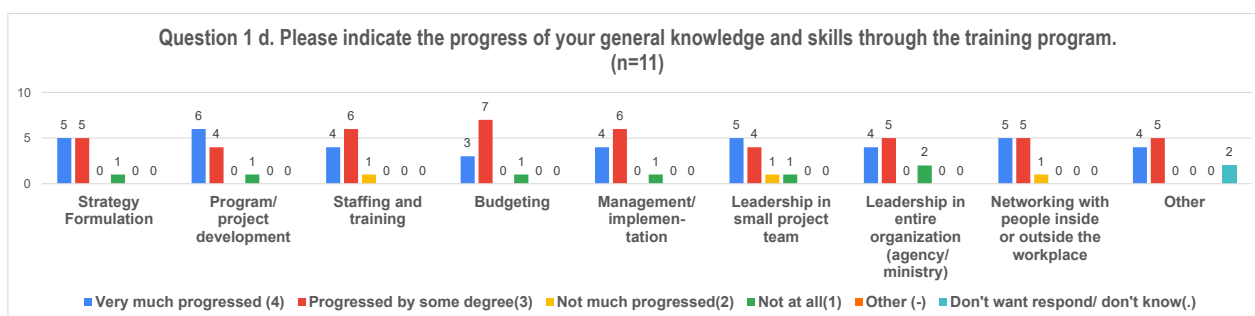
- The training subjects have helped me significantly expand my knowledge and skills, especially in the area of disability inclusion. For example, in our social media promotions, we now ensure that videos include subtitles and sign language interpreters. This insight into disability inclusion has shaped the way I create content, making it more accessible and inclusive for all audiences.
-

Analysis of the study team

The overall average of the level of progress is 3.5, which is between “very much progressed (4)” and “Progressed by some degree (3)”. It indicates each subject-matter knowledge and skills are well progressed. Some variation of the responses is observed on each topic.

Question 1 d. Please indicate the progress of your general knowledge and skills through the training program.

General knowledge &-> skills Level of progress	Strategy Formulation	Program/ project development	Staffing and training	Budgeting	Management/ implemen- tation	Leadership in small project team	Leadership in entire organization (agency/ ministry)	Networking with people inside or outside the workplace	Other
Very much progressed (4)	5	6	4	3	4	5	4	5	4
Progressed by some degree(3)	5	4	6	7	6	4	5	5	5
Not much progressed(2)	0	0	1	0	0	1	0	1	0
Not at all(1)	1	1	0	1	1	1	2	0	0
Other (-)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Don't want respond/ don't know(.)	0	0	0	0	0	0	0	0	2
n	11	11	11	11	11	11	11	11	9
Average	3.3	3.4	3.3	3.1	3.2	3.2	3.0	3.4	3.4
Stdev	0.9	0.9	0.6	0.8	0.9	1.0	1.1	0.7	0.5



Please share your comment. (n=5)

- Yes this training boost my leadership skills
- Currently, Im handling and supervising staff and programs for older person. I ensure that the older persons and persons with disability are not left behind. Inclusive disaster risk reduction is one of my priority and integrated in out plans and implementation
- None
- CDPO implemented the project name Disability Climate Action supported by USAID through Save the Children in Cambodia in two provinces, Kampong Chhnang and Koh Kong. This project finished by President Donal Trump termination of USAID funding in January 2025.
- The training subjects have helped me significantly expand my knowledge and skills, especially in the area of disability inclusion. For example, in our social media promotions, we now ensure that videos include subtitles and sign language interpreters. This insight into disability inclusion has shaped the way I create content, making it more accessible and inclusive for all audiences. In terms of strategy formulation, the training has provided me with a more inclusive lens to ensure that accessibility and participation of persons with disabilities are integrated into the early planning stages of any initiative. For program and project development, I've learned to consider diverse needs, ensuring that all activities and outputs are accessible and meaningful to various groups, especially persons with disabilities. Regarding staffing and training, I now recognize the importance of building a team that

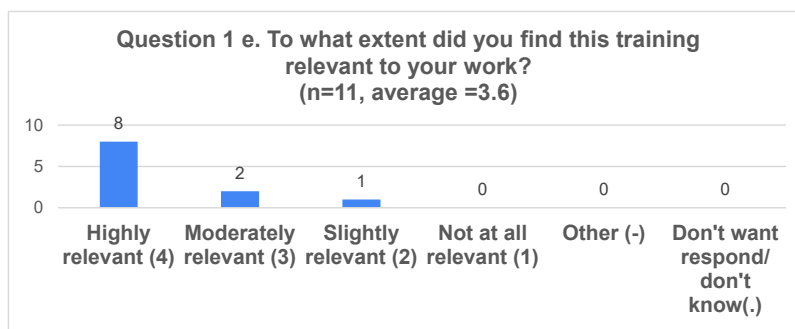
understands and practices inclusive communication. This includes sharing knowledge with colleagues and advocating for training opportunities that enhance disability awareness. In the area of budgeting, I have become more aware of the need to allocate resources specifically for accessibility, such as captioning, sign translation, or accessible venue arrangements. For management and implementation, I've gained practical insights on how to mainstream inclusion in every step—ensuring that feedback from underrepresented groups is considered and integrated. In terms of leadership in small project teams, I've developed a more collaborative approach, actively listening to different perspectives and encouraging inclusive participation from all team members. When reflecting on leadership in the wider organization, I see the importance of advocating for inclusive policies and practices that align with the organization's values and commitments to equity. Finally, in terms of networking, I've become more intentional in connecting with individuals and organizations that promote disability rights and inclusion—both within and outside of my workplace—to strengthen collaboration and collective impact.

Analysis of the study team

The overall average of the level of progress is 3.2, slightly better than “Progressed by some (3)”. It indicates each general knowledge and skills are well progressed. The narrative comments show very positive and enthusiastic gains.

Question 1 e. To what extent did you find this training relevant to your work?

	Question 1 e. To what extent did you find this training relevant to your work?
Highly relevant (4)	8
Moderately relevant (3)	2
Slightly relevant (2)	1
Not at all relevant (1)	0
Other (-)	0
Don't want respond/ don't know	0
n	11
Average	3.6
Stdev	0.7



Please share your comment. (n=6)

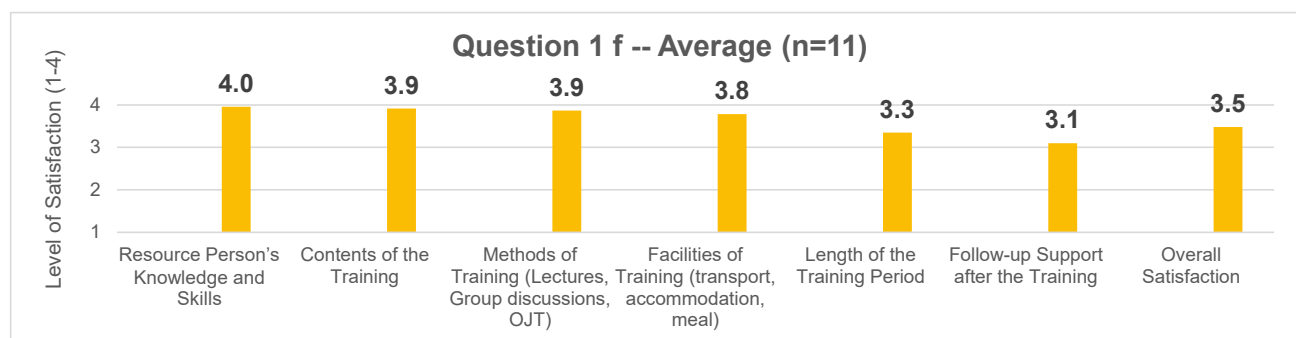
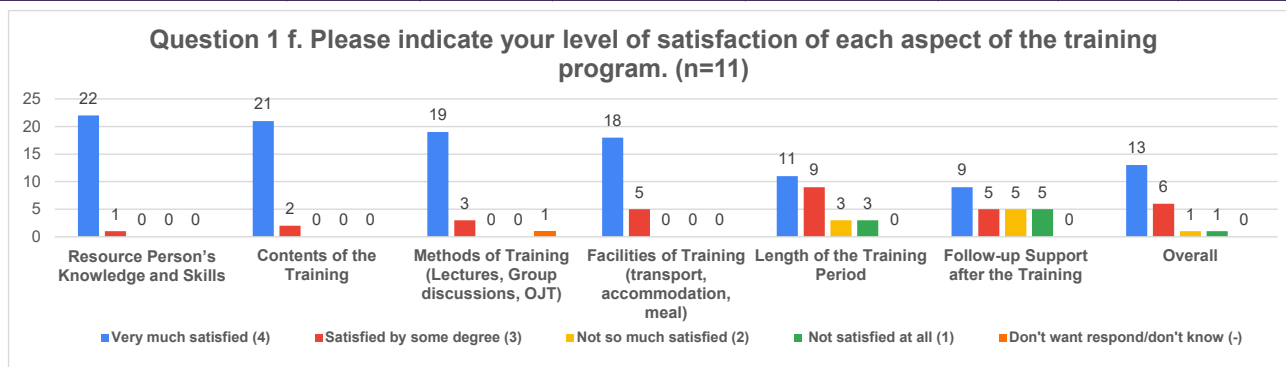
- Given the increasing frequency of natural disasters in the Philippines, it is crucial to strengthen disaster preparedness and promote inclusive Disaster Risk Reduction and Resilience (DRRR), especially among persons with disabilities (PWDs).
- As workers in the vulnerable sector, we are mandated to act on disaster and climate change adaptation. The training is highly relevant and is a significant help for me and my organization, equipping us with knowledge on Disability-Inclusive Disaster Risk Reduction and Resilience (DIDRR).
- The training is very relevant in my work. Attending the training wider my knowledge and awareness on DIDRR. I understand more the importance of inclusivity
- None
- It is crucial and relevant to my work field as it is related to vulnerable people, specifically people with disability. By understanding this matter clearly, it is beneficial to integrate and develop the ideas for the proposal that need to be submitted to the fund provider related to climate change risk reduction.
- The training is highly relevant to my work, especially in enhancing my capacity to promote inclusive and accessible communication. The sessions on disability inclusion have been particularly impactful, helping me to apply practical approaches such as using subtitles and sign language interpreters in our social media content. These insights directly support my role in developing and managing communication strategies that are inclusive, equitable, and responsive to the needs of diverse communities.

Analysis of the study team

The average is 3.6, which is between “Highly relevant (4) ” and “Moderately relevant (3)” .. The narrative comment, although the number of comments are not many, include very positive and again enthusiastic ones. The survey result is evaluated that the training is highly relevant.

Question 1 f. Please indicate your level of satisfaction of each aspect of the training program.

Aspect of the training-> prpgram ↓Level of progress	Resource Person's Knowledge and Skills	Contents of the Training	Methods of Training (Lectures, Group discussions, OJT)	Facilities of Training (transport, accommodation, meal)	Length of the Training Period	Follow-up Support after the Training	Overall
Very much satisfied (4)	9	10	10	10	9	8	9
Satisfied by some degree (3)	2	1	1	1	2	3	2
Not so much satisfied (2)	0	0	0	0	0	0	0
Not satisfied at all (1)	0	0	0	0	0	0	0
Don't want respond/don't know (-)	0	0	0	0	0	0	0
N/A	0	0	0	0	0	0	0
n	11	11	11	11	11	11	11
Average	3.8	3.9	3.9	3.9	3.8	3.7	3.8
Standard Deviation	0.4	0.3	0.3	0.3	0.4	0.5	0.4



Please share your comment. (n=7)

- Length of the Training Period
- Overall, the training was satisfactory and well-organized. The content was relevant, and the methods used—such as lectures and group discussions—were effective. While some resource speakers could have been more engaging or better prepared, the rest of the training team delivered well. Facilities like transport, accommodation, and meals were adequate, and the training duration felt appropriate. I hope there will be consistent follow-up support to reinforce what we've learned.
- The training methodology, administrative and management for the whole training duration meet my expectations.
- The methodology used is very good. Learning visit, 1st hand information, experience and seeing the good practices and sharing of visited office add more knowledge to me. Lectures, group discussion and sharing of each country is very interesting.
- All aspects of the program were very well organized. I just have a small suggestion regarding the transfer from the hotel to the airport, which is often arranged very early. We think it would be helpful to provide information in advance so that participants can better choose their flight

time and hotel departure. Simply informing participants of the scheduled hotel departure time would allow them to select a suitable flight accordingly.

- The overall of the course is very beneficial for me as I got many new experiences and understandings during the training. I was also able to share my experiences and got back new experiences from other participants from many other countries within ASEAN. It's a good program that I can interact and networking with other people from different cultures and backgrounds. The trainers in this program are very knowledgeable and share many good lessons as well as expertise.
- Resource Person's Knowledge and Skills: Very satisfied. The resource persons demonstrated strong expertise and were able to explain complex topics—especially on disability inclusion—with clarity and relevance. Contents of the Training: Very satisfied. The materials were well-structured, practical, and aligned with real-world needs in my field of work, particularly in inclusive communication and project implementation. Methods of Training (Lectures, Group Discussions, OJT): Very satisfied. The combination of lectures and interactive sessions allowed for deeper understanding, peer learning, and practical application. Facilities of Training (Transport, Accommodation, Meal): Very satisfied. All logistical arrangements were well-organized and supported a comfortable and focused learning environment. Length of the Training Period: Satisfied. The duration was sufficient to cover key topics, though a slightly longer period might allow for more in-depth practice or case studies. Follow-up Support after the Training: Satisfied. Some initial follow-up has been helpful, and I look forward to continued support or opportunities to stay connected with the trainers or network. Overall: Very satisfied. This training has made a meaningful impact on how I approach my work, particularly in making communication and program strategies more inclusive and accessible.

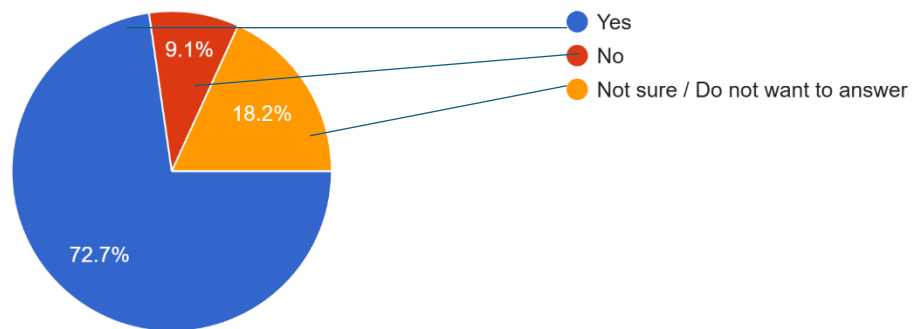
Analysis of the study team

The overall average of the level of progress is 3.5, which is more than “Satisfied by some degree (3)” but less than “Satisfied very much (the average point is 4.0)”. On the other hand, the follow-up and support after the training is evaluated the lowest (the average point is 3.1). The narrative comments indicate the more follow-up should be offered.

Question 1 g. Have you been able to apply the knowledge and skills learnt from the training courses in your work?

Question 1 g. Have you been able to apply the knowledge and skills learnt from the training courses in your work?

11 件の回答



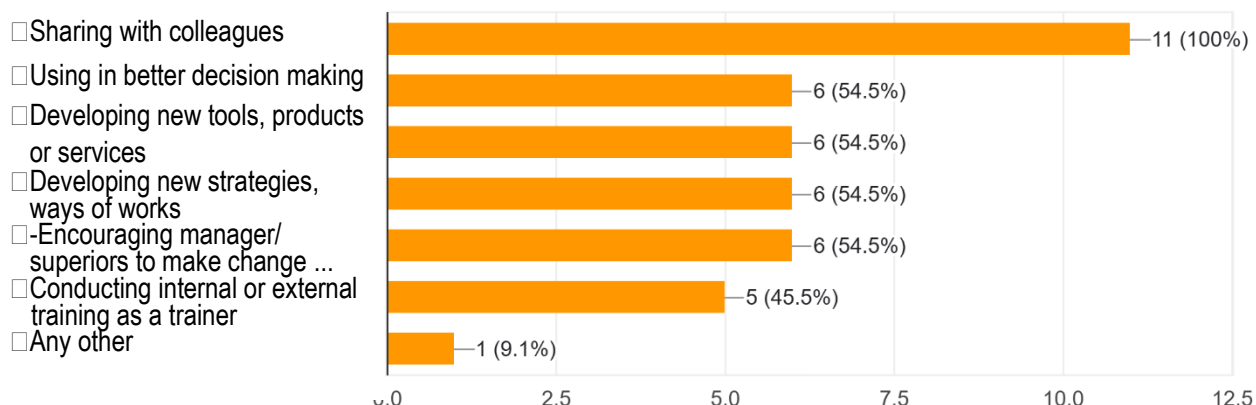
Please share your comment. (n=7)

- I am able to share it to my bosses to add this knowledge in incorporating for the program planning
- After I attended the training, I was switched to work at another institution, so I did not have chance to involve in disability issues like DiDRR as well as to implement it.
- Through my advocacy and lobbying to partners, I was able to act as Resource Speaker to 3 Conducted Training on Disability Inclusive Disaster Risk Reduction management participated by local disaster risk reduction management officer, the persons with disability leader, and the persons with disability affairs office (PDAO). In my planning in my current work i always ensure the inclusion of DiDRR in one of our program.
- After the training. I conducted training to Persons with Disability Leader, Local Disaster Risk Reduction Officer and other agency concern on persons with disability sector
- None
- CDPO implemented the project name Disability Climate Action supported by USAID through Save the Children in Cambodia in two provinces, Kampong Chhnang and Koh Kong.
- Yes, I have been able to apply the knowledge and skills gained from the course in my work. For example, I now make a conscious effort to ensure greater inclusion, particularly involving persons with disabilities in decision-making processes. I also apply inclusive communication practices in content development, making sure that our materials are accessible and representative of diverse needs.

Question 1 h. How have you applied the gained knowledge and skills learnt from the training ? (Multiple answers allowed)

Question 1 h. How have you applied the gained knowledge and skills learnt from the training ?
(Multiple answers allowed)

11 件の回答



Please share your comment. (n=4)

- Considering Disaster Inclusion and Disaster Risk Reduction (DIDRR) is crucial in every decision and program planning, particularly when preparing for disasters.
- None
- Sharing in general staff meeting and provide input during NDC 3 consultative workshop with ministry of environment
- I have applied the knowledge and skills from the training by sharing insights with my colleagues to promote inclusive practices, especially in communication and program planning. I've also developed content that incorporates accessibility features, and adapted our strategies to ensure the meaningful inclusion of persons with disabilities. Additionally, I've encouraged my supervisors to consider changes in policies and budgeting based on what I learned. I have also started to share this knowledge through internal discussions and plan to contribute as a trainer in future learning sessions.

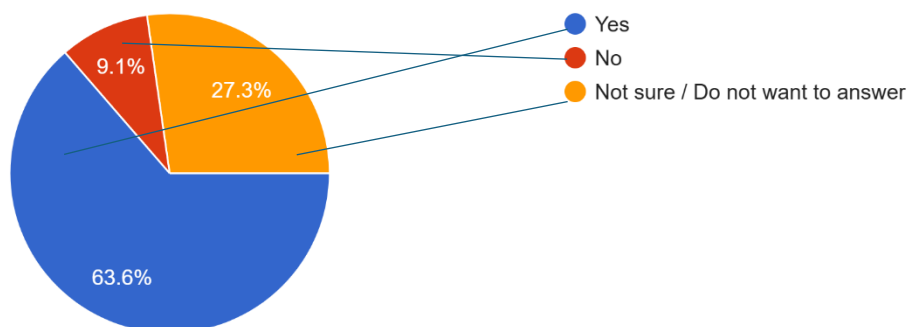
Analysis of the study team

All participants (100 %) have shared their knowledges and skills with their colleagues. It is a good outcome after the outputs, i.e., knowledge and skills are obtained, are achieved. It indicates the Theory of Change (ToC) set before this study is well followed. The further outcome and the final outcome should be closely monitored.

Question 1 i. Did you implement your action plan after returning to your country?

Question 1 i. Did you implement your action plan after returning to your country?

11 件の回答



If you answered 'Yes', please describe the implementation status. If you answered 'No', please explain the reasons (e.g. lack of equipment, limited budget, insufficient technical skills or knowledge, or lack of understanding/support from your organization). (n=8)

- Before my departure from the organization, I endorsed the initiative and provided recommendations to my superior for further consideration.
- Immediately after I returned to my country, feedbacking of the action plan were facilitated. Three (3) Trainor's Training conducted participated by local disaster risk reduction management officer, the persons with disability leader, and the persons with disability affairs office (PDAO). Presentation and reading materials shared to Persons with Disability leader, and the persons with disability affairs office (PDAO).
- Series of training, orientation were conducted. Immediately after ie prepare feedback to my agency. Conducted 6 trainings to transfer my knowledge gain.
- I have introduced my plan to relevant stakeholders. I have applied the materials and knowledge I gained to my work. I have implemented DiDRR for persons with disabilities in the areas under my responsibility. Hôi ChatGPT
- train to staff in office.
- Engage some action plan into the DCA project supported by USAID funding through Save the Children.
- Maybe right now we haven't found the right time to carry out the entire action plan that has been made (specifically). However, good practices in DiDRR are still carried out in everyday life and also work. For example, knowing good procedures in interacting and understanding friends with disabilities and also involving them actively in every activity.
- Yes, I have applied the Training of Trainers (ToT) with a disability group in Central Sulawesi, Indonesia, where I used inclusive approaches introduced during the course. I also shared the knowledge I gained with my colleagues to encourage more inclusive practices within our team and projects.

Analysis of the study team

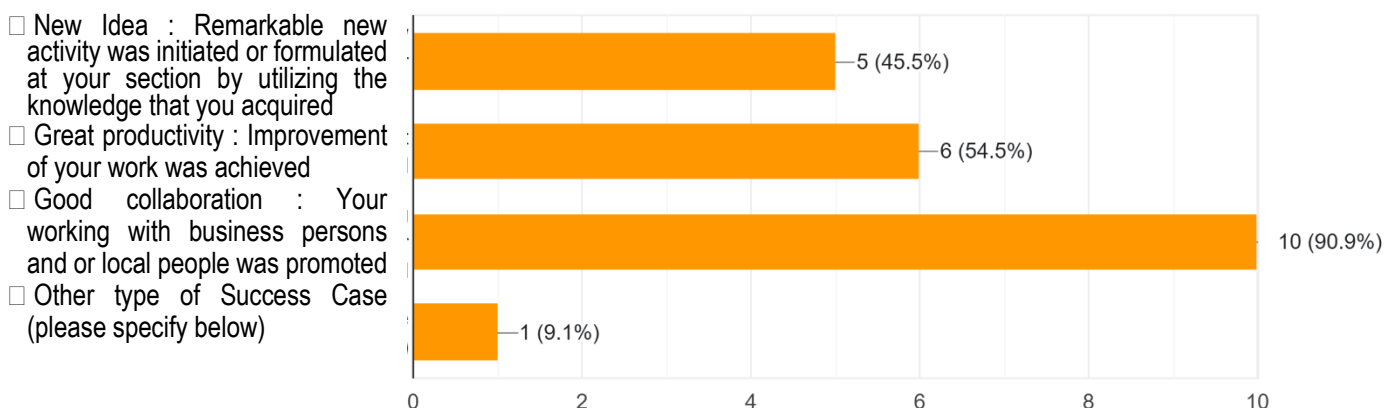
Just more than 64 % of participants have implemented their Action Plan. This ratio is the highest among all TCTP courses. Action Plans include to implement the trainings in each participant's country and also make the materials of the trainings. The narrative comments show the participants are usually eager to implement those activities.

2. "Success Case" (Good practice)

Question 2 a: Please indicate the type of "Success Case" (good practice) in which TCTP contributed to your work. (Multiple choices acceptable)

Question 2 a: Please indicate the type of "Success Case" (good practice) in which TCTP contributed to your work. (Multiple choices acceptable)

11 件の回答



Question 2 b: Please explain your "Success Case" (Good practice) in detail. (n=7)

- I collaborated with local community leaders and the church community in my area to raise awareness and educate them about Disaster Inclusion and Disaster Risk Reduction (DIDRR), especially in preparation for and response to disasters.
- I was glad to be selected to attend the trainings, since my ministry's procedure was restructure, I was not able to involve more. However, all the resources which I received from the trainings, I shared with the team. It will become principal knowledge in the future if we have enough budget to implement on DIDRR.

- Our Partners developed and localized disaster risk reduction and management preparedness and mitigation plan for person with disability. This is a big win in my part as advocates as a result of my learnings gained in the training provided by TICA, JICA and APCD.
- The relationships with my classmates have created more opportunities for collaboration.
- Guideline and handbooks
- Through implementation of DCA project, local authorities increased their knowledge related to climate change and collaboration with project implementers.
- New Idea, Great Productivity, Good Collaboration TCTP has contributed to multiple areas of my work. I have applied many aspects of the training, especially in implementing disability-inclusive disaster risk reduction (DiDRR) in my projects. The training introduced new ideas that I've integrated into my activities, improved the quality and inclusiveness of my work, and encouraged better collaboration with communities and stakeholders. I also actively share the knowledge I gained to promote broader understanding and adoption of inclusive practice.

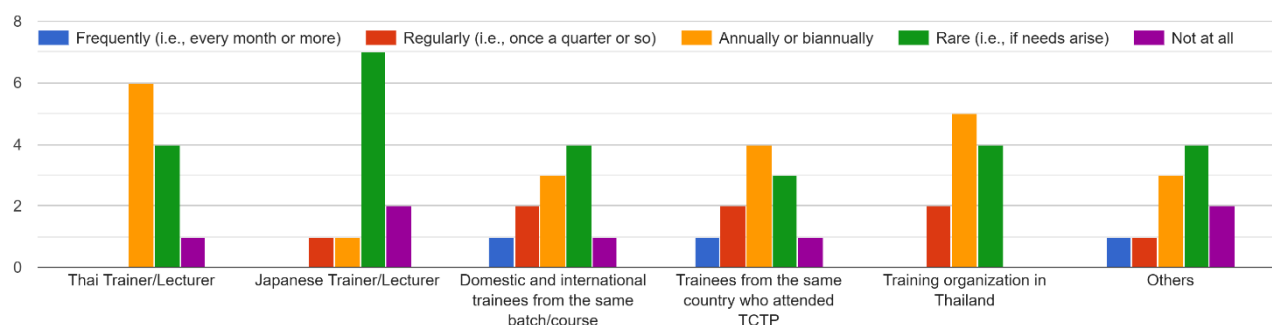
Analysis of the study team

Good collaboration (91%) are reported and it is the highest among all TCTP courses. This is a great achievement. We can say it is a great application. The narrative comments include some good detailed "success cases" of collaboration with stakeholders.

3. Networking/communication after the training program

Question 3 a: Please indicate the level of your networking/communication with stakeholders of the training program.

Question 3 a: Please indicate the level of your networking/communication with stakeholders of the training program.



(Note) The average values cannot be calculated because the choices of response are not Likert-type scales.

Please share how do you usually network with others? (e.g., face-to-face, online, formal events, informal meetings). (n of comments=18)

- Online
- sharing any info online.
- Through Online with APCD and once face to face during the Launching of Laging Handa Manual in the Philippines UNESCAP and APCD both present in the event. we are invited.
- Online due to location
- I often communicate with my APCD friends through messages on Facebook, Gmail, or Google Hangouts.
- informal meeting
- N/A
- Just asking each other how we are through social media. There has been no chance to meet again in person.
- I keep in contact with some domestic and international trainees from the same batch, as well as trainees from my country who attended TCTP. These connections have been valuable for sharing updates, collaboration opportunities, and continuing to promote inclusive practices. I have had limited but meaningful interactions with the training organization in Thailand, especially when follow-up opportunities arise.

Question 3 b: Please explain the reason why you have communicated with other stakeholders after the training program. (n of comments =10)

- N/A
- Build a Community of Practice: Ongoing communication helps build a network among participants and other relevant parties, fostering a "community of practice" where knowledge and experiences can continue to be shared long after the formal training ends.
- I am now involved in another sector of an NGO focused on providing educational support to youth. Occasionally, I still engage in catch-up meetings with fellow trainees and colleagues from other countries.
- To share current DIDRR updates in our country, our activities conducted
- To continue our sharing of what we gained and updates on our activities about the training. To maintained our established network and friendship
- I often communicate with my APCD friends through messages on Facebook, Gmail, or Google Hangouts. We also meet in person at events related to the field of persons with disabilities.
- some missing guidelines
- To expand networks, communication and job updates, especially in seeking collaboration opportunities.
- . Within my network of colleagues in Indonesia, particularly those working in government offices, I share insights from the training to help influence more inclusive practices and encourage the integration of community-based approaches into government programs. This exchange has helped bridge community experiences with policy-level discussions. Although policy-level discussions would take more time to achieve.

Question 3 c: Please share the remarkable or good events that happened due to maintaining the communication with other stakeholders (e.g., exchange the new knowledge or experience). (n of comments =10)

- N/A
- Cultural exchange of costumes and cuisine.
- During my time with the Autism Society Philippines, I had the opportunity to attend a training where I connected with fellow trainees from various countries. Now that I'm with the Erlinda Faderogao Gillespie Foundation (EFGF), I've continued to maintain communication with them. These ongoing connections have been valuable for exchanging insights and experiences, and they continue to enrich my work in the development sector.
- Keep us updated and share ideas and updates regarding our activities conducted after the event. Inform them that the shared learning from the training is cascaded and transferred to others.
- We exchange and share our knowledge. Here in the Philippines were partners in the conduct of training. We are invited as resource person on DIDRR

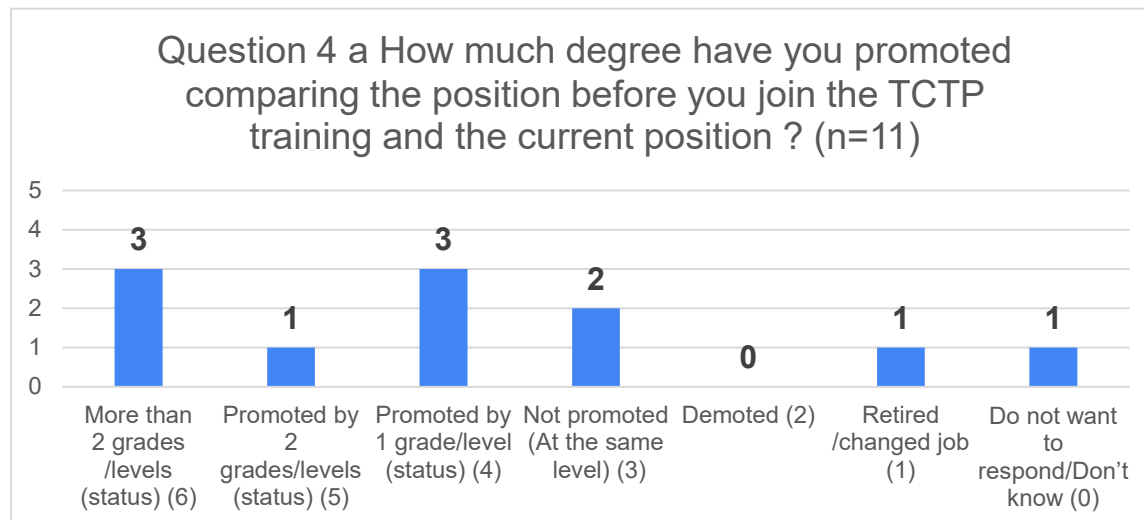
- To share how I have applied the knowledge gained from the training to my work, and to exchange useful information.
- exchange new experience
- Sharing new knowledge through each other's activities.. both working in the humanitarian and inclusion sector, but with different specific issue focuses. What was also interesting when visiting the Disaster Prevention and Mitigation Regional Center 15 Chiangrai, I learned a lot about the activities carried out and saw similarities with the same agency in my country. It turns out that what is done is not much different, it's just that there are more facilities there that can be used for public education regarding disaster preparedness.
- One remarkable outcome from maintaining communication with other stakeholders is the successful collaboration between YEU and a local organization of persons with disabilities in Central Sulawesi—our partner that focuses on promoting disability-inclusive disaster risk reduction (DiDRR). Through the knowledge I gained from the course, I was able to contribute ideas and insights that supported this initiative. As a result of continuous knowledge exchange and collaboration, we supported the production of an innovation video on earthquake disaster mitigation for families and persons with disabilities. This innovation was initiated by the Organization of Persons with Disabilities and serves as an accessible educational tool—marking an important step toward inclusive community preparedness. You can watch the video here: <https://youtu.be/8VPn34CnTP4?si=3sUuGbdPZSfpMbQO>. It is also featured on the APCD website.

Analysis of the study team

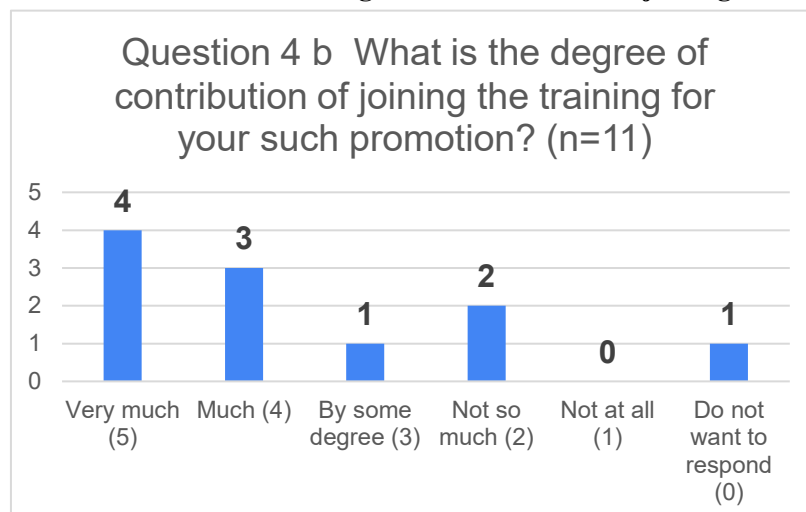
Communication with Thai trainers is frequent and its ratio would be the highest among all TCTP courses. This is a remarkable feature of this course among all TCTP courses. The mode is online, i.e., WhatUp or Facebook, is dominant. The main reasons of communicating are exchange of new ideas as well as greeting.

4. Promotion and contribution of the training program

Question 4 a How much degree have you promoted comparing the position before you join the TCTP training and the current position ? (n=23)



Question 4 b What is the degree of contribution of joining the training for your such promotion? (n= 23)



Please share your comment (n=5)

- I selected 'Not so much' because, while the training was informative and helped broaden my perspective, my promotion or change in role was primarily influenced by other factors such as organizational needs, previous performance, and personal career goals. However, I still value the knowledge and connections gained from the training.
- The training is a blessings to me. Help me a lot to understand, aware and capacitate to be DIDRR worker. My little knowledge broaden and strengthen. I am proud the my gained

knowledge from the training were shared and part of my lifestyle in work. A series of training were conducted. My knowledge gained transferred to others. I'm happy that my participants of the trainings appreciate and implemented the DIDRR. In their local development plan they included DIDRR. Some of which prepare a local DIDRR plan. Many of my partners invited me as speaker to discuss DIDRR and I'm happy that the resources given to us by TCTP is worth it because I shared and implement my knowledge gain in the training course. In my current work which directly working with older person sector and most are with disability, DIDRR is part of my work lifestyle.

- None c
- The topic of the training is interesting. By gathering all of the experiences and expertise from this training program, I am able to bring what I have learned and share it to my organization's staff member. All the relevant information I have learned, I am able to share it during the workshop as well.
- Currently, I serve as the Information and Communication Coordinator, where one of my key responsibilities is ensuring that all publications and communication materials are accessible to persons with disabilities. This role reflects the application of the inclusive principles I gained from the TCTP training, and it has strengthened my capacity to lead efforts in promoting inclusive communication within the organization.

Analysis of the study team

According to 11 respondents, more two third (n=7) made promoted by more than 1 grade/level (status). This is very high ratio, which would be the highest, among all TCTP courses. Most promoted respondents reported contribution of joining the TCTP training on promotion is "very much" or "much". The narrative comments indicate those great contribution.

5. Your comments and suggestions

Question 5: To further promote disability-inclusive disaster risk reduction (DIDRR) in your country, please share your comments or suggestions about TCTP. (n=10)

- The TCTP's design, moving from foundational concepts to advanced training-of-trainers and policy recommendations, is excellent. It addresses critical needs by fostering regional understanding, sharing good practices, and building local capacity.
- The TCTP effectively creates a rich regional DIDRR learning environment. By embedding structured, localized follow-up and toolkits—and promoting peer networks and outcome

tracking—it can significantly amplify its long-term impact in the Philippines and across ASEAN.

- For the future trainings should invite up to 3 participants (if possible) from each country so if anyone leave, there still have two to work on DIDRR.
- Continue offering free training on DIDRR to the ASEAN region. The experience and knowledge we gained from the training course significantly changed my perspectives, making me more aware and understanding. Now, I am advocating for DIDRR. I hope that another advanced and updated training will be available for us.
- Continue help us to enhance our knowledge on the progress or good practices of other country. I hope the on the next training climate adaptation topic well be included. Keep us updated on the current trends, best practices of other countries to help us. I hope we experience or visit Japan to know DIDRR activities. Im proud to say that in my region /area DIDRR are known and understand by Persons with Disability Leader, implementer and Local Disaster Officer. Im thankful for the persons with disability sector for fighting and participating in DRR. Im thankful of the commitment local disaster risk reduction officer to broaden their plan into DIDRR
- I think it's important to have connections to share new knowledge, and there should be more cultural exchange
- warning system for all
- It would be great to have second TCTP since it can enhance the knowledge on disability-inclusive disaster risk reduction. By having a deeper understanding on this matter, we are able to apply it to the new context as of now.
- It might be better if the participants are the same people at each level of training. So that the materials obtained are also aligned and in line and there are no gaps between them. I am very happy to be able to participate, but because I only participated in the third training, I feel that my understanding of the previous materials is still lacking. Even so, TCTP 3 was my first experience in an international forum, I was very happy because my friends accepted me well and were also able to help me in the learning process (especially in my communication in English which is still lacking).
- To further promote disability-inclusive disaster risk reduction (DiDRR) in my country, I suggest that TCTP continue to strengthen its focus on practical tools, case studies, and real-life applications of DiDRR at the community and policy levels. It would be highly beneficial to expand the network of alumni engagement through regular follow-ups, collaborative projects, and peer-learning platforms. Additionally, involving government representatives and local organizations of persons with disabilities (OPDs) in future trainings could help bridge the gap between policy and practice, ensuring broader and more sustainable impact.

Analysis of the study team

The comments and suggestions on TCTP for the implementation agencies (TICA and JICA), include the following key recommendations.

- For the future trainings should invite up to 3 participants (if possible)
- It might be better if the participants are the same people at each level of training
- TCTP continue to strengthen both its focus on practical tools, case studies, and real-life applications of DiDRR both at the community and policy levels.
- It would be highly beneficial to expand the network of alumni engagement through regular follow-ups, collaborative projects, and peer-learning platforms.
- Involving government representatives and local organizations of persons with disabilities (OPDs) in future trainings could help bridge the gap between policy and practice, ensuring broader and more sustainable impact.

Final question: Contact information

- **Your name (n=23)**
- **Your phone number (mobile or landline) * (n=23)**
*The study team may contact you directly by phone if your case is selected as the best "Success Case".
- **Your email address (n=23)**
- **Name and contact information of the person responsible for sending you to TCTP (n=23)**
- **(b) E-mail address of the person (n=20)**

***** Confidentiality is strictly secured. Thank you very much for your cooperation for this survey!! *****

FY2025 Joint Evaluation of Third Country Training Programme (TCTP) in Thailand

Ex-trainees Survey Result Report

Comprehensive Report of 10 Courses (#1 ~ #10)



International Development Center of Japan (IDCJ)

0. Introduction

It was calculated the total number of participants in ten TCTP courses is 499. Except the participants from Myanmar and those who email address were unknow, the study send an invitation of survey to 394 participants. The study team received 130 filled survey result by Google Survey From. The response rate was calculated as 33% ($=130 / 394$). The summary of statistics of response is in the following table.

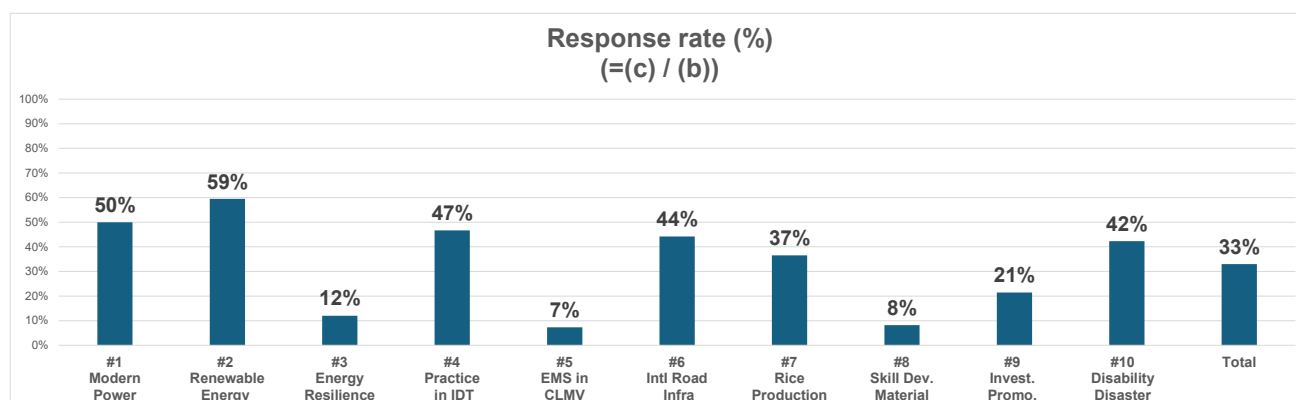
Basic statistics of responses

Course # and Course Title	Participants	Participants (except Myanmar & no email address) (a)	Response (b)	Response rate ($= (b) / (a)$)
#1 Modernization of Power Distribution System in ASEAN Countries★	75	60	30	50%
#2 Renewable Energy Technologies and Knowledge Transfer for Strengthening and Achieving ASEAN's Sustainable Development Goals	38	37	22	59%
#3 Energy Resilience Assessment Towards Climate Adaptable Energy Systems	30	25	3	12%
#4 Practice in Innovation and Digital Technology for Sustainable Water Management	17	15	7	47%
#5 Emergency Medical Services(EMS)Medical Director Training Course Regional Training for Pre-Hospital Emergency Care in CLMV	55	41	3	7%
#6 International Road Infrastructure Development for ASEAN and BIMSTEC Networks	59	52	23	44%
#7 Rice Production Technologies for Food Security and Sustainability of African Countries	65	63	23	37%
#8 Skill Development for Material Processing for Mekong Countries	95	61	5	8%
#9 Workshop on Investment Promotion Policy and Enhancing Industrial Competitiveness for Mekong and South Asia Countries	35	14	3	21%
#10 Strengthening Disability Inclusive Disaster Risk Reduction in the ASEAN Region	30	26	11	42%
Total	499	394	130	33%

Response until 24 September, 2025

Several courses made relatively higher response rates (#1, #2, #4, #6, #7, #10) and the raining courses made relatively lower rates (#3, #5, #8, #9), as follows.

Response rate of each course



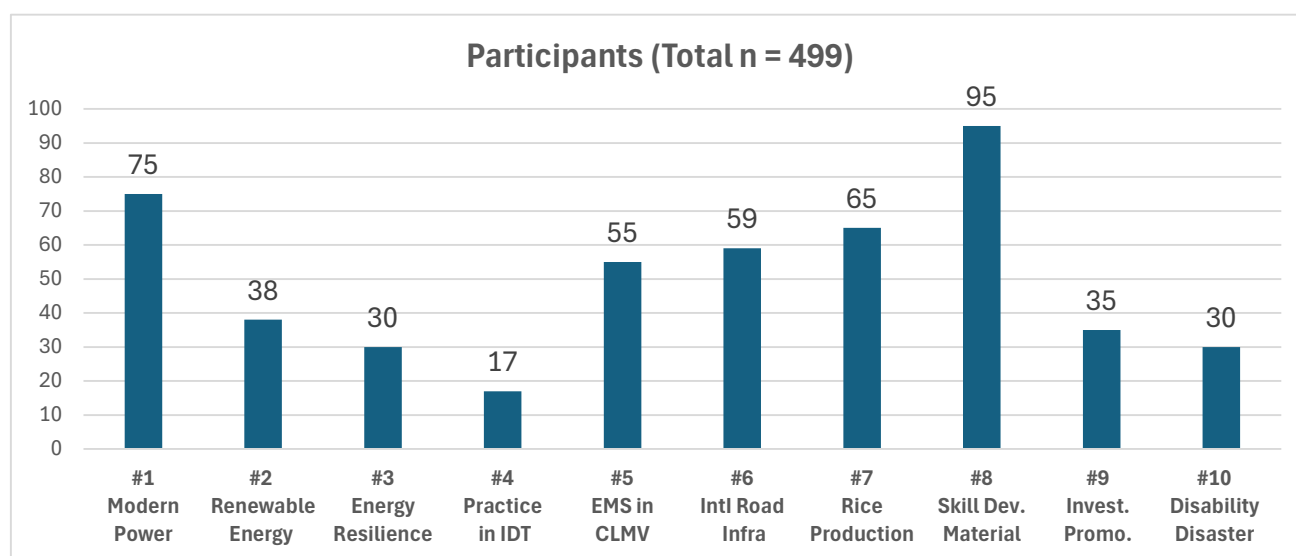
From the next page to the last page, the responses, and some representative comments for each survey item from participants are presented. Since the response numbers and rates vary among ten (10) courses, more comments were selected from the courses with frequent responses and high response rate than those with less frequent and lower response rates.

Main points of survey result

- Almost all participants completed their training courses and obtained the certificate of completion.
- They made progress the subject-matter knowledge and skills by more than degree and nearly very much on some courses. The same tendency was reported on general knowledge and skills although the degree of progress is lower than subject-matter knowledge.
- Many participants have applied their obtained knowledge and skill for their work after they came back to their home country. Some of them made remarkable “success cases” but frequently they experienced limitation of budget, human resources, and weak cooperation with and support from their stakeholders.
- Networking and communication are generally well maintained among their colleagues in the same batch and them from the same country. They enjoyed the exchange of experience among colleagues from neighboring countries. They exchange new ideas and possible solutions as well as social interaction.
- Promotion experience varies. More or less one third of participants received more than one grade promotion but the most frequent response has no promotion. One comment suggest promotion is affected by various factors and the attendance to the training program is only one of them.
- The participants appreciated well-known lecturers from Thailand and Japana. They appreciated TICA and JICA and asked for continuation of TCTP trainings.
- Suggestions include: (i) more longer period of training, (ii) conduct of follow-up trainings, (iii) provision of financial support for implementation of action plans. In addition, food consideration, including provision of Harare food, should be prepared due to the needs of participants.

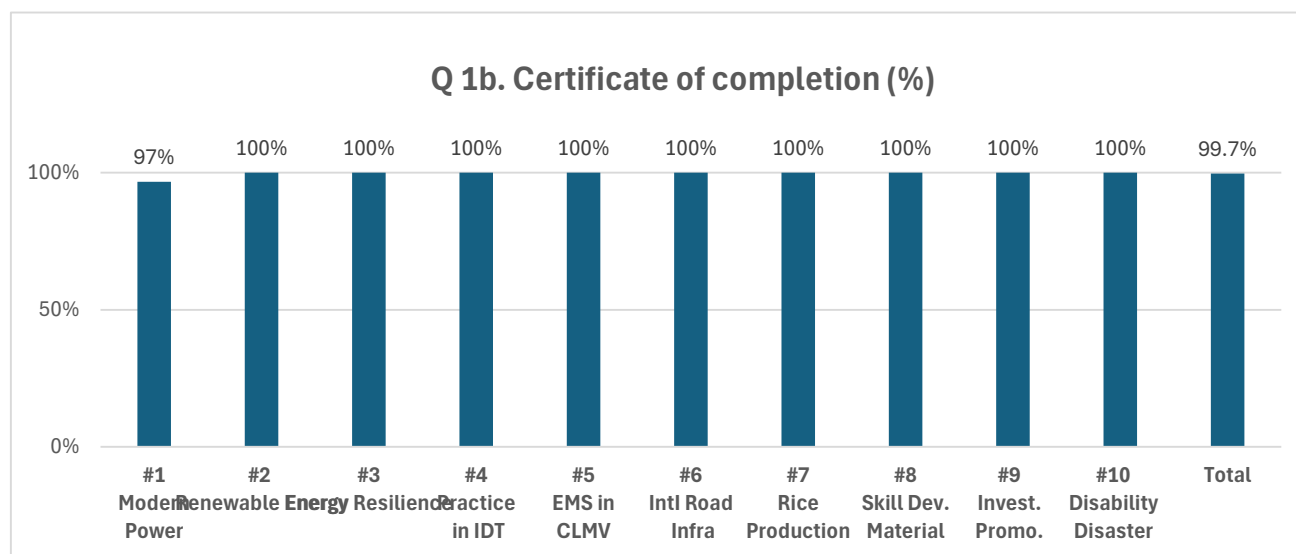
1. Knowledges and skills you obtained and satisfaction

Question 1 a. Please indicate the sessions of the training program you attended.

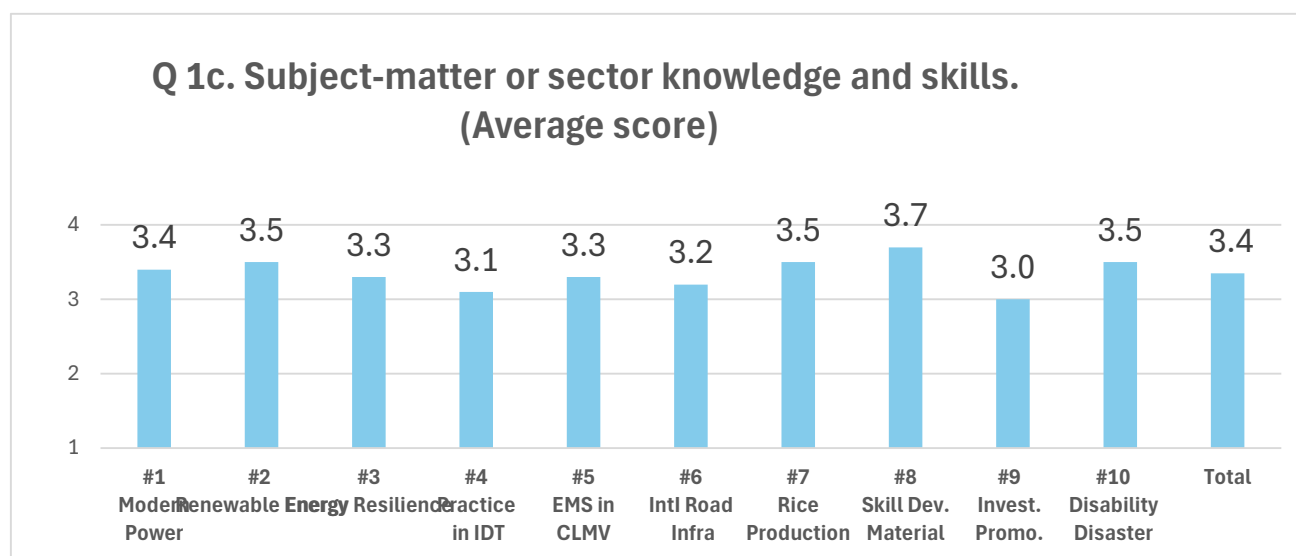


- The training was conducted in a warm and welcoming atmosphere. It provided valuable opportunities to build connections between organizations, which I take great pride in. It was an honor to participate in this program. (#1 Power)
- The organization of the program is excellent, the team invited speakers from reputable institutions. (#2 Renewable)
- A very good course, where participants from different countries can share and learn the approach that has been applied in addressing road network issues (#6 Road)
- Very interesting course. It has impacted in me, a practical knowledge of Rice Production Technologies. It was indeed educative. (#7 Rice)
- I learned about the basic knowledge about the DIDRR, saw the good practices, how should we prepare beforehand in case disaster happens and how I could involve with to in order to make sure that we leave no one behind. (#10 Disability)

Question 1 b. After completion of the training, did you receive a certificate (Certificate of Completion) from the Thai side (TICA, the training implementing agency, or JICA Thailand Office)?"



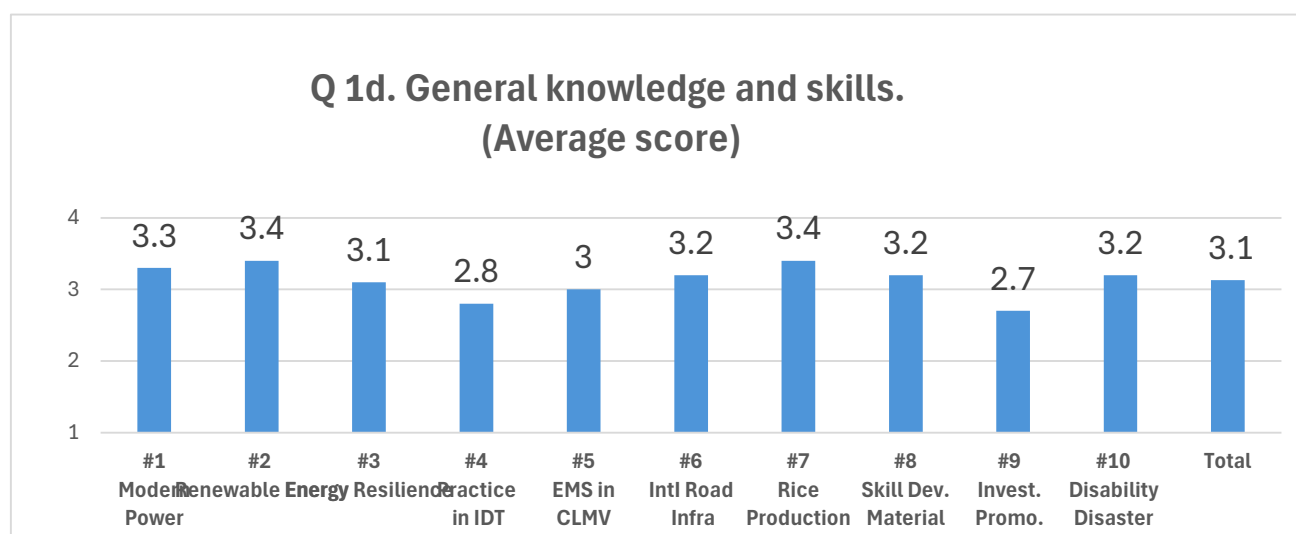
Question 1 c. Please indicate the progress of your subject-matter or sector knowledge and skills through the training program.



(Note) 4:Very much progressed, 3:Progressed by some degree, 2: Not much progressed, 1: Not at all.

- The courses are good. But the schedule is very tight. The schedule is too much for 2 weeks. (#1 Power)
- Overall, the subject-matter or sector knowledge and skills has been expanding after attending the training program (#2 Renewable)
- Since all the units covered during the course were relevant to my roles and responsibility, it has helped me expand my knowledge and make better decision during my profession. (#6 Road)
- It has helped me in organizing training programs for my farmers and also an improvement in my agronomic field activity support to my local farmers. (#7 Rice)
- The training subjects have helped me significantly expand my knowledge and skills, especially in the area of disability inclusion. (#10 Disability)

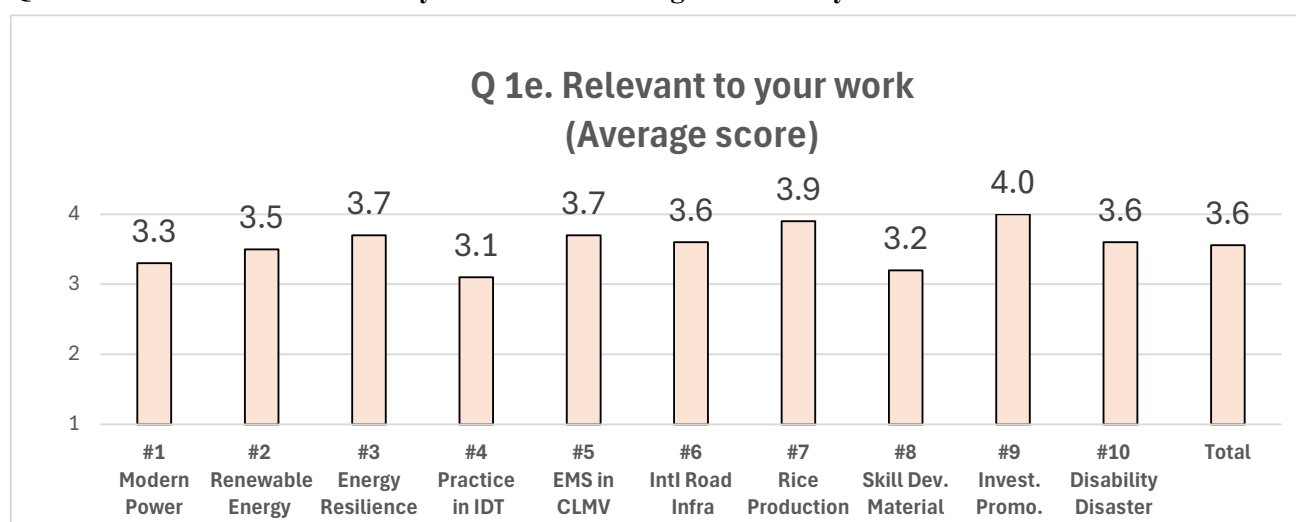
Question 1 d. Please indicate the progress of your general knowledge and skills through the training program.



(Note) 4:Very much progressed, 3:Progressed by some degree, 2: Not much progressed, 1: Not at all.

- Networking with neighboring countries is the great part. I am now still in touch with some of them to share our knowledge, experience, and friendship. (#1 Power)
- In overall, this training has improved some. (#2 Renewable)
- The training program has significantly improved my general knowledge and skills, particularly in areas related to road project planning, highway design, and construction project administration. (#6 Road)
- It was an excellent experience I loved it a lot and I progressed a lot psychologically and professionally. (#7 Rice)
- Yes, this training boost my leadership skills. (#10 Disability)

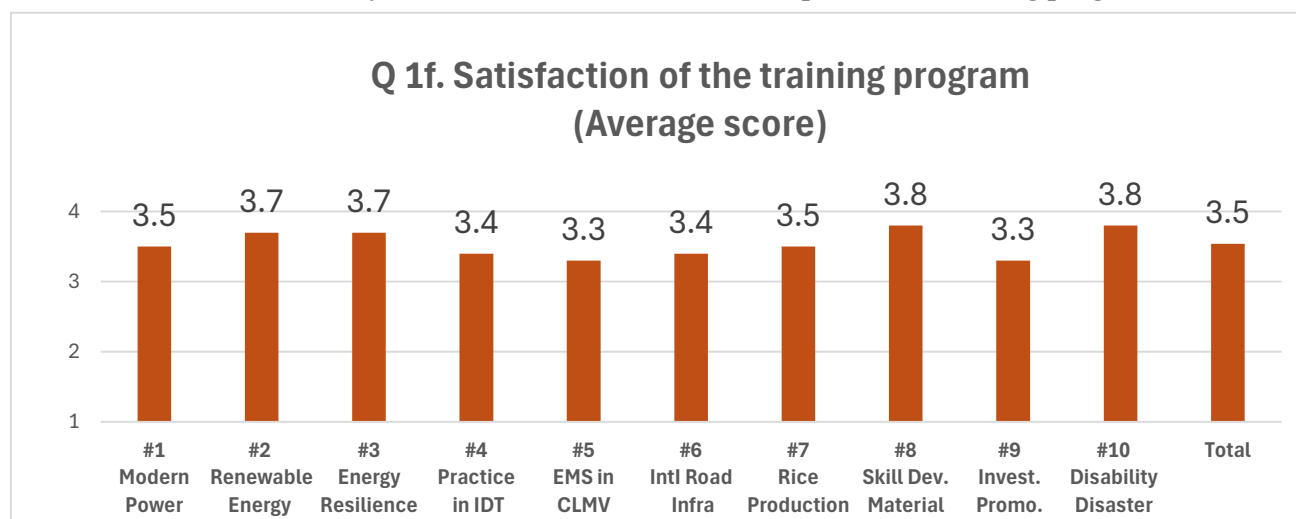
Question 1 e. To what extent did you find this training relevant to your work?



(Note) 4:Highly relevant, 3:Moderately relevant, 2: Slightly relevant, 1: Not at all relevant

- This training is directly related to the work under care and can be used to develop further activities very well. (#1 Power)
- My field is biomaterial and biotechnology. This training opens up more ideas for me to dive into more diverse field and area related to renewable energy and SDG. (#2 Renewable)
- Some of the sessions are relevant to my job and can adopt to my work (#6 Road)
- it was very fruitful and relevant and after almost 2 years, I do not exactly remember the lecture and its content but i clearly still remember the site visits and the technological improvements i saw during the training session (#6 Road)
- It is relevant because I am involved in teaching agricultural extension officers who go to teaching farmers' rice cultivation, I am also involved in teaching farmers about rice cultivation in my area of work. (#7 Rice)
- The training is very relevant in my work. Attending the training wider my knowledge and awareness on DIDRR. I understand more the importance of inclusivity. (#10 Disability)

Question 1 f. Please indicate your level of satisfaction of each aspect of the training program.

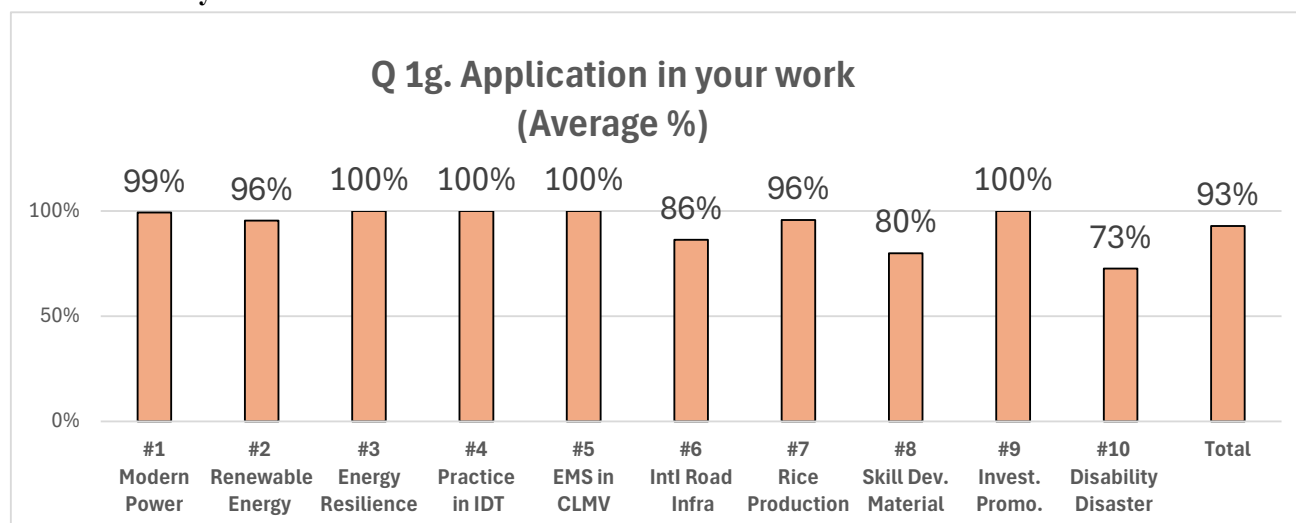


(Note) 4:Very much satisfied, 3:Satisfied by some degree, 2: Not so much satisfied, 1: Not satisfied at all.

- The training should last approximately 1 month so that the observers can learn the entire course. / The training period should be extended to 2 months. (#1 Power)
- The entire programme has been arranged very well, with excellent hospitality from TICA and JICA. (#2 Renewable)
- 1) There is no Halal food stall/ restaurant around training place and we have difficulty to get Halal food during lunch break that is only 1 hour duration. 2) The organiser is kind enough to offer 1 room as our praying room. We are thankful for the kind gesture. 3) The hotel is quite far away from the training hall and outside of the city centre. It is recommended to choose the hotel as close as possible to training place so we do not spend a lot of time to go through heavy traffic during peak hours. (#6 Road)
- JICA and TICA has reputed highly qualified lecturers with very experienced in Engineering field. We were fully satisfied with the knowledge we gained from the training. (#6 Road)

- There's a need for follow up to see what the countries that benefitted from the training are doing in terms of implementation of the knowledge gained from the training program. (#7 Rice)
- The training was good, but i need more training especially on economic and financial analysis (#7 Rice)
- Overall, the training was satisfactory and well-organized. The content was relevant, and the methods used—such as lectures and group discussions—were effective. (#10 Disability)

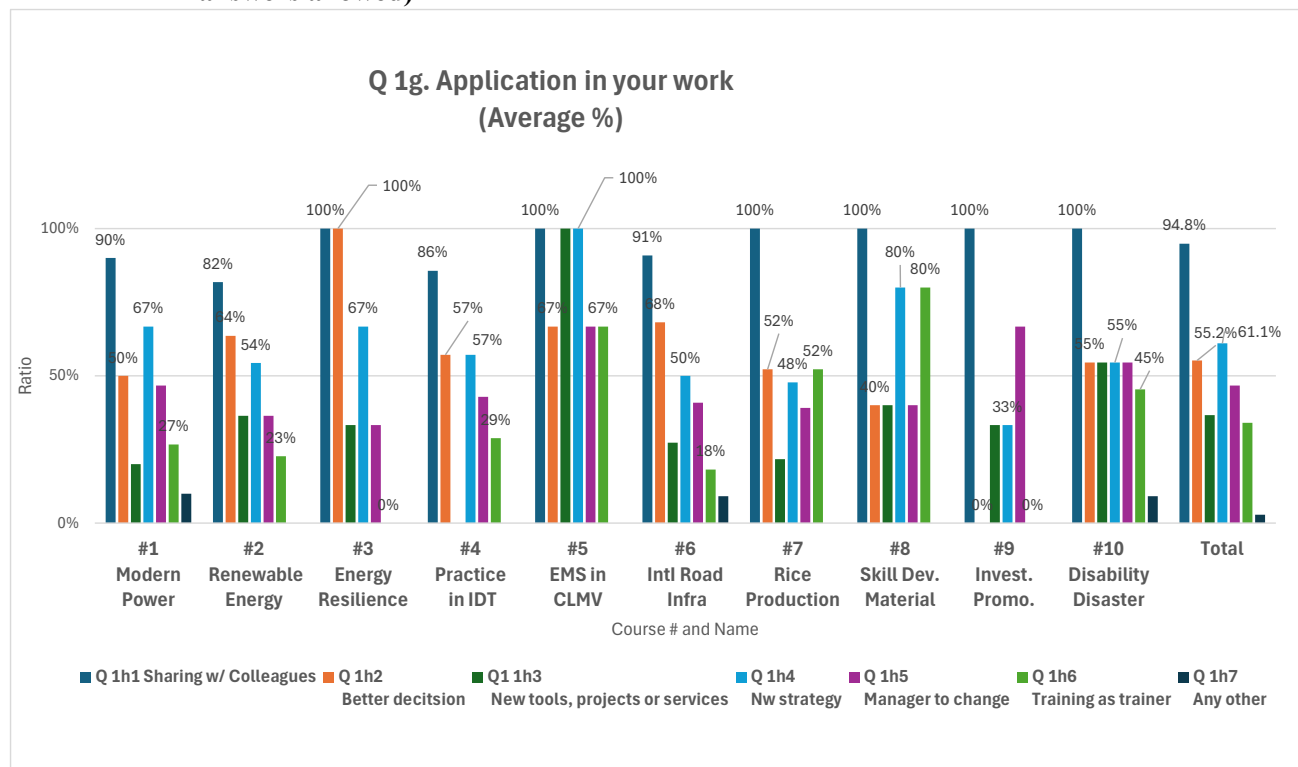
Question 1 g. Have you been able to apply the knowledge and skills learnt from the training courses in your work?



Please share your comment. (n=8)

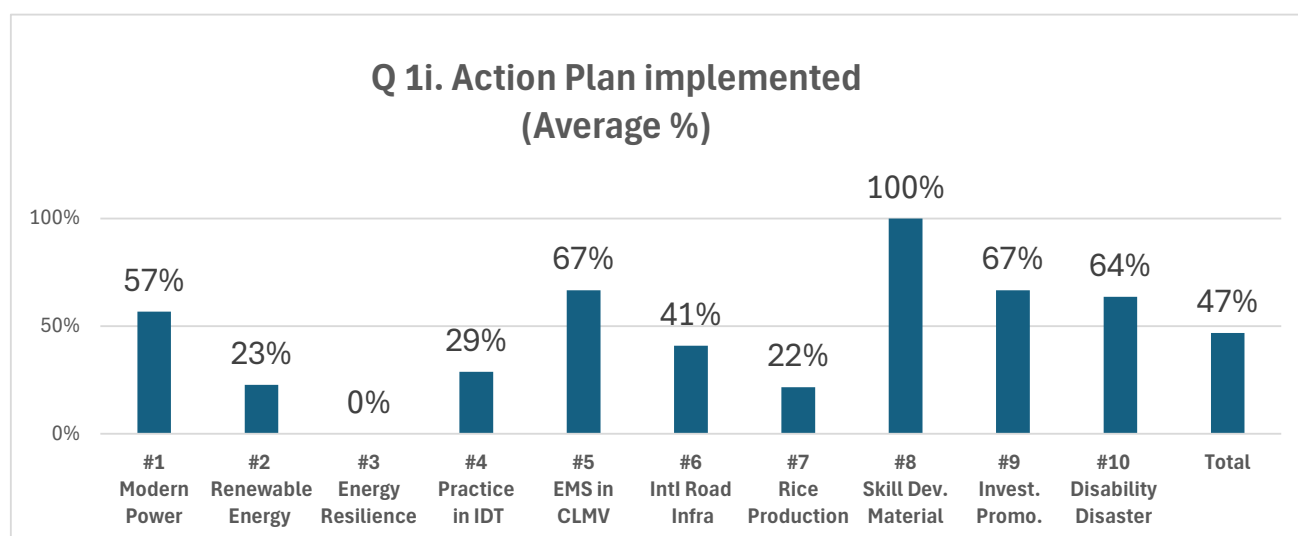
- Definitely use the knowledge that learned from this training course. (#1 Power)
 - Recently, My team are proposing a project with the collaboration with others country related to hydrogen field. The knowledge gained from this TCTP program able to give me more understanding throughout the discussion and proposing a better idea.(#2 Renewable)
 - Currently I am in charge for road and bridge maintenance. A lot of the Japan and Thailand technology introduced during the training program is suitable to be used in our engineering practice such as the seamless toll payment at highway and pavement.(#6 Road)
 - I have been able to train farmers on cost benefit analysis and good agronomical practices for rice production (#7 Rice)
-
- I am able to share it to my bosses to add this knowledge in incorporating for the program planning. (#10 Disability)

Question 1 h. How have you applied the gained knowledge and skills learnt from the training ? (Multiple answers allowed)



- Yes, the knowledge can help in our discussion and brainstorming the idea for the new project. Besides, this program also improves the soft skills in interacting with others. .(#2 Renewable)
- I have organized training programs including rice field managements for local rice farmers (#7 Rice)
- Sharing in general staff meeting and provide input during NDC 3 consultative workshop with ministry of environment (#10 Disability)

Question 1 i. Did you implement your action plan after returning to your country?

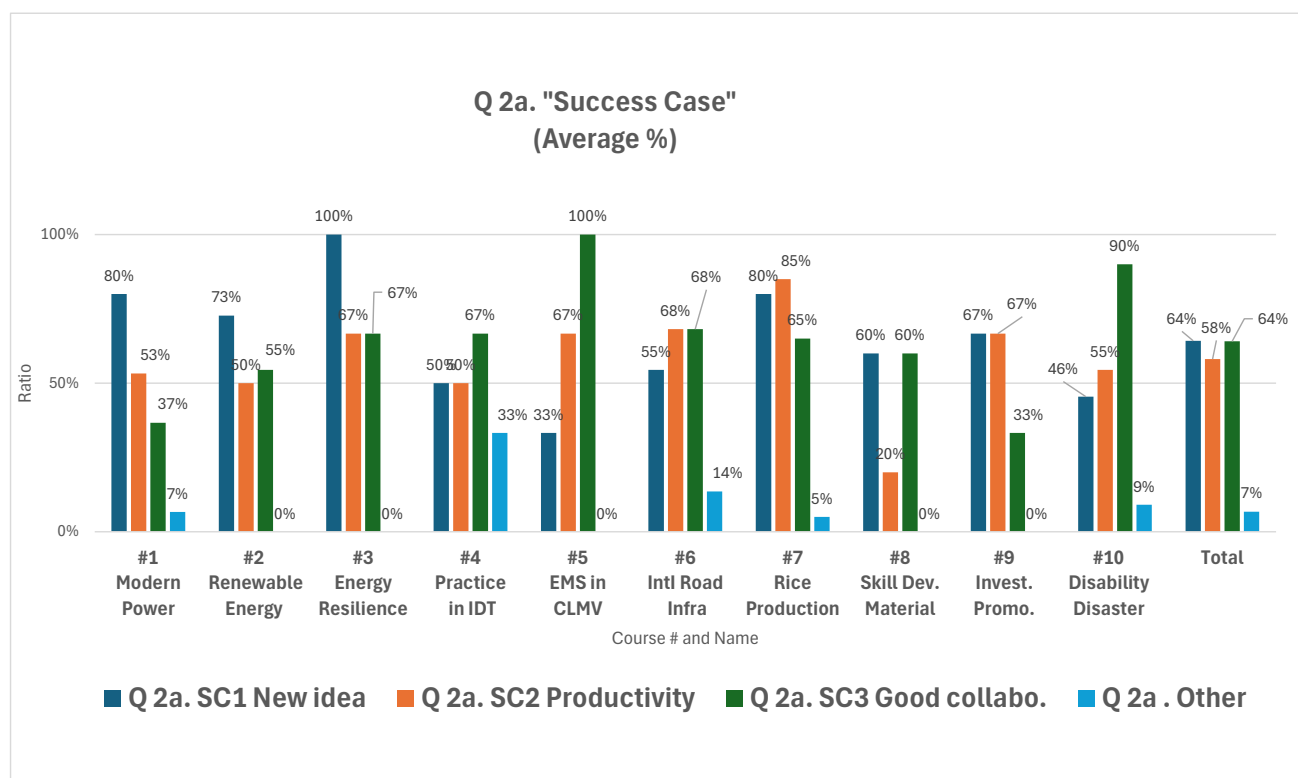


- Limited budget and support from my organization. (#1 Power)
- Lack of equipment and some limit technical skills. (#1 Power)

- We are lack in budget and technical skill for the implementation process, till now the action plan is still not execute yet. (#2 Renewable)
- The reasonable budget is limited to carried out the action plan. (#2 Renewable)
- lack of equipment, limited budget, insufficient technical skills or knowledge, or lack of understanding/support from my organization (#2 Renewable)
- Limited budget and lack of understanding/support from your organization (#3 Resilience)
- We had implemented the knowledge we received from the training awarded by JICA and TICA for our ongoing project. (#6 Road)
- Lack of equipment and budgets (#7 Rice)
- Engage some action plan into the DCA project supported by USAID funding through Save the Children. (#10 Disability)

2. "Success Case" (Good practice)

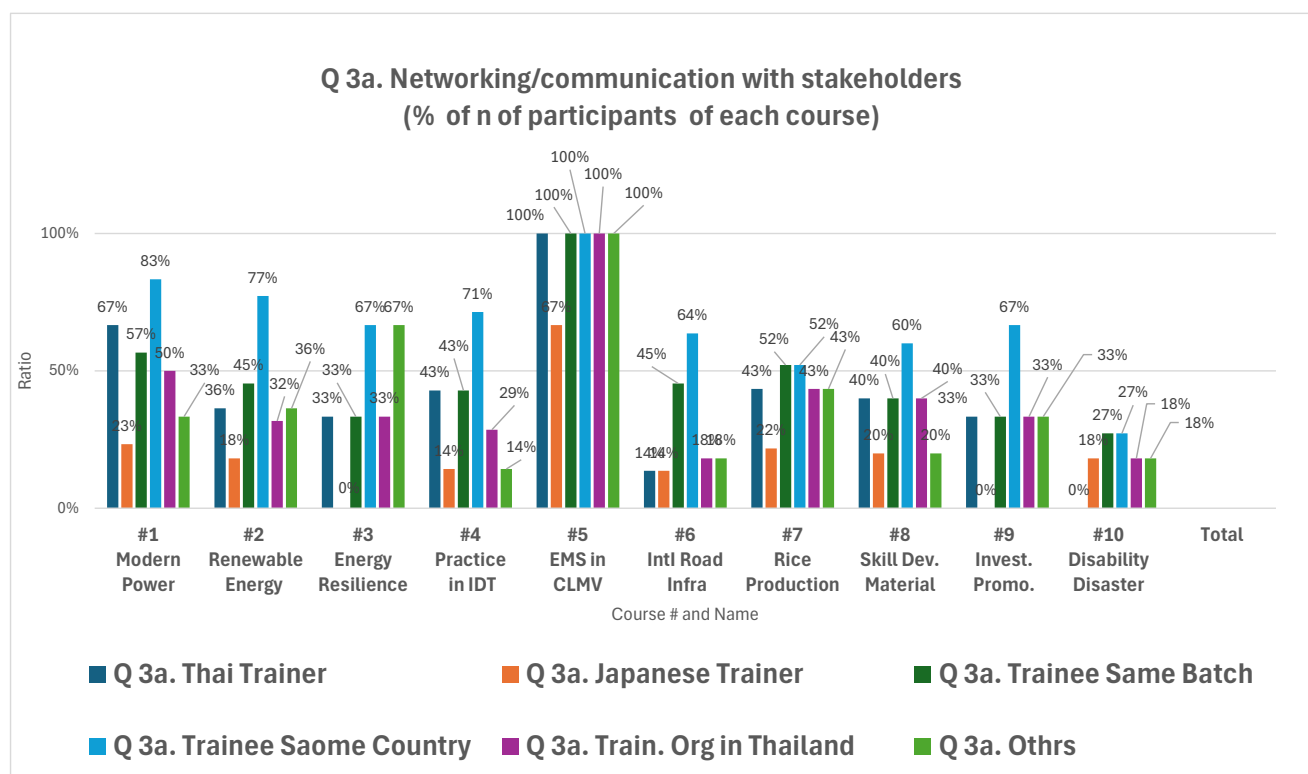
Question 2 a: Please indicate the type of "Success Case" (good practice) in which TCTP contributed to your work. (Multiple choices acceptable)



- I have been able to apply the knowledge gained from the training in my work, which has helped improve coordination with relevant agencies. This has led to smoother communication and more effective collaboration in project implementation. (#1 Power)
- I can share some ideas and information from this training to colleagues. (#2 Renewable)
- Improve decision making various field, to include renewable energy demand in various project and considerations (#2 Renewable)
- The experience and the opportunity boosts my knowledge at new height and the networking created during the training program helps me to see and compare what other countries are doing and what makes them ahead of us at some area. (#6 Road)
- By help us with technology in Rice production to ,and now we are improving the production of productivity in rice production (#7 Rice)
- A success case was the ecology of rice. My district has suffered a lot from floods, and with knowledge, we managed to train producers to choose the varieties (long or short cycle) according to production conditions, which allowed for a reduction in the risk of loss caused by the floods. (#7 Rice)
- This new knowledge acquired has allowed me to position myself as a potential leader in irrigated production and the development of partnerships with the aim of intensifying rice production in Benin. the central state also relies heavily on my skills by involving myself in initiatives to promote the rice sector and in questions of resilience of rice production systems (#7 Rice)
- After returning from training, my organization began efforts to recover the machinery and install a rice processing plant that had been stopped. With the good practice I gained during the training and shared with my colleagues from the technical team who provide Rural Extension services within the communities, they applied it and for some time now we have been registering improvements in production, although we lack specific machinery to increase productivity and production. (#7 Rice)
- I collaborated with local community leaders and the church community in my area to raise awareness and educate them about Disaster Inclusion and Disaster Risk Reduction (DIDRR), especially in preparation for and response to disasters. (#10 Disability)

3. Networking/communication after the training program

Question 3 a: Please indicate the level of your networking/communication with stakeholders of the training program.



- I had the opportunity to meet colleagues from various countries such as Laos, Myanmar, Cambodia, and Vietnam. We continue to stay in touch and communicate online regularly. (#1 Power)
- I am frequently meeting with the trainee from the same country since we are in the same department and conducting the similar project. With the trainee in another country, most of it in online. (#2 Renewable)
- I usually network with others through online communication, such as messaging apps and email. Currently, I maintain regular contact with a fellow participant from the same country, who is also from the same institution and works in the same field. Although our communication is mostly informal, it has been useful for exchanging ideas, discussing academic developments, and staying connected after the training. (#6 Road)
- We normally use to communicate through WhatsApp, and Line calls (#7 Rice)
- I keep in contact with some domestic and international trainees from the same batch, as well as trainees from my country who attended TCTP. (#10 Disability)

Question 3 b: Please explain the reason why you have communicated with other stakeholders after the training program. (n of comments =17)

- To discuss technical issues in the related field (#1 Power)
- Exchange data & information (#1 Power)
- I stayed in touch with stakeholders to share implementation experiences, get feedback, and explore collaboration opportunities. (#2 Renewable)
- During the training, a strong bond was formed with both the participants and the organizers. As a result, we have continued to stay in touch afterward, both professionally and personally, checking in on each other's well-being (#4 Disital_Water)
- We usually discuss when we face challenges at our work place, and initiate the discussion to come up with the solutions. (#6 Road)
- Beside lessons, field trips were very good learning from new experts. (#8 Material)

Question 3 c: Please share the remarkable or good events that happened due to maintaining the communication with other stakeholders (e.g., exchange the new knowledge or experience). (n of comments =16)

- Exchange Good Practices or Troubleshooting. (#1 Power)
- Very nice and friendly (#1 Power)
- Update current works and exchange ideas (#2 Renewable)
- Last year, Malaysia-Thailand have a closed discussion about the upcoming friendship bridge construction at our border and somehow the person in charge from both parties have attended this program. (#6 Road)
- Sharing ideas with other trainees on a social media platform (#7 Rice)
- BOI investment delegation visit at the Council for the Development of Cambodia (#9 Invest)
- Cultural exchange of costumes and cuisine. (#10 Disability)
- Keep us updated and share ideas and updates regarding our activities conducted after the event. Inform them that the shared learning from the training is cascaded and transferred to others. (#10 Disability)

4. Your comments and suggestions

Question 5: To practically improve rice production in your country, please share your comments or suggestions about TCTP.

- This training is a good opportunity to learn about a smart grid implementation in ASEAN and also Japan. (#1 Power)
- The delegation should be more than 5 countries, or it should be all ASEAN member joined this workshop to have broad understanding (#2 Renewable)
- To discuss more about real case studies, participation from industry and policy related inputs. (#2 Renewable)
- Create a TCTP alumni network focused on energy and climate resilience, enabling peer exchange and joint projects. (#3 Resilience)
- Apply AI technology in water treatment plan. (#4 Digital_Water)
- The EMS in my country (Lao PDR) has not been developed as it should, and there are currently many problems, we still lack of financial support, lack of man power and resources. (#5 EMS)
- 1) It is recommended to invite experts from Japan to share knowledge as they are well-known to be the best road engineer in the Asia and the global region. 2) The training may be improved if there is a hands-on session or visit to local quarries where they make special mix. 3) Some of the ASEAN and BIMSTEC countries are Muslim-majority and it is recommended to provide more options on Halal-meal on site. (#6 Road)
- To further promote road infrastructure network development among ASEAN and BIMSTEC countries, I believe the TCTP program should continue strengthening its role as a platform for technical knowledge exchange and regional collaboration. Additionally, incorporating more case-based discussions and cross-country comparative studies could enhance the program's impact by showcasing diverse strategies and challenges in infrastructure development across the region. (#6 Road)
- The training we received from JICA and TICA will have huge impact, if implemented among ASEAN and BIMSTEC. (#6 Road)
- TCTP should add Master's program on rice production (#7 Rice)
- I want that TICA JICA finance the report plan after training (#7 Rice)
- Very good job. (#8 Material)
- Please continue to sponsor such training programmes to exchange views and best practices among ASEAN nations. However, some ASEAN member states were absent. That would be helpful if the programme were to widen the scope to other ASEAN members. (#9 Invest)

- To further promote disability-inclusive disaster risk reduction (DiDRR) in my country, I suggest that TCTP continue to strengthen its focus on practical tools, case studies, and real-life applications of DiDRR at the community and policy levels. It would be highly beneficial to expand the network of alumni engagement through regular follow-ups, collaborative projects, and peer-learning platforms.
(#10 Disability)

Revealing Training Effects and Contributing Factors Using “Success Case Method (SCM)”

As part of this TCTP evaluation study, two key surveys were conducted, namely (i) Ex-trainee tracking survey using Google Forms and (ii) In-depth interview on the “Success Case” identified by the first survey. Survey (i) was conducted for all courses evaluated. In-depth interview on the success case (ii) was conducted by applying the “success case method” to the following two selected courses:

(1) “Rice Production Technologies for Food Security and Sustainability of African Countries”

The evaluation study team first asked all ex-trainees of the TCTP’s course, “Rice Production Technologies for Food Security and Sustainability of African Countries”, to fill and submit the Google Survey Form (n=63 except Myanmar). The team received 23 submissions, and the response rate was 37%, which is relatively high based on the team’s experience. Among them, three “Success Cases” were identified and in-depth face-to-face interview was conducted for each of them at their country (Mozambique) to explore (i) any success factors that contributed to making the case a success and (ii) any advice and recommendation for replicating the Success Case.

(2) “Strengthening Disability Inclusive Risk Reduction in the ASEAN Region”

Similarly to (1), the evaluation study team first asked all ex-trainees of the TCTP’s course, “Strengthening Disability Inclusive Risk Reduction in the ASEAN Region”, to fill and submit the Google Survey Form (n=26 except Myanmar). The team received 11 responses, and the response rate was 42%. Among them, two “Success Cases” were identified from the Philippines and Vietnam. The team conducted in-depth interview with each ex-trainee online to explore (i) any success factors that contributed to making the case a success and (ii) any advice and recommendation for replicating the Success Case.

The results of these in-depth interviews are shown on the following pages.

In-depth Interview 1 :
Field application of technology and 2.5 times increase in rice production

Name: Mrs. Arcénia Cosmo Muambale

Position: Field extensionist, Chibuto District Economic Activities Service

Success Case Description from the survey:

In a practical way, I applied the plan in the best possible way using the resources available on a daily basis, I organized two field meetings where we exchanged ideas on how it is done in Thailand and how it is done in Mozambique, we gave practical demonstrations of results and compared yields, the quality of the rice grain, the height of the plant and the levels of development of the rice crop.

1. Please explain your “success case” in detail.

The ex-trainee made a demonstration of the practice she obtained from TCTP with her 30 colleagues. In addition, she made presentations at many opportunities including the agricultural festival whose latest one will start this October.

Before the ex-trainee joined TCTP, rice production was 200 kg per acre, and after she returned and disseminated the knowledge and experience, rice production increased to 500 kg per acre (2.5 times increase). Her boss, Mr. Milagre Simbine, Director, Chibuto District Economic Activities Service, confirmed it is a big change. The total area covered by her and her 30 colleagues is 180 hectares. Main reasons of this change are (1) new seeds, (2) related knowledge, and (3) effective use of water, according to the ex-trainee.

2. Some officials who received the same training or program do not make the same result. But you made a “success case”. What factor or condition affected making it in your case?

She explained the following factors.

Firstly, she was willing to contribute to the community in this area through rice and other agricultural production. She said it is a “dedication”.

Secondly, she obtained additional knowledge from JICA training she joined after TCTP training, including drainage practices and irrigation practices.

Thirdly, she explained that JICA has frequently come to her region and has provided support for meetings and events (transportation, food, logistical support). This small additional help really contributes to her dissemination of knowledge and holding events to make various kinds of people together in her village (farmers, extensionists and commercial people).

Lastly, her boss added the following point. The problem with rice production in this region is irrigation. The issue here is poor equipment (water pump) for fetching water from the river flow to the rice fields. His organization has experienced difficulty in funding, and if the funds are available for buying pumps and moving extensionist to the rice field, more increase in rice production will be made in this region.

3. What conditions are necessary to replicate your “success case” for other officials /cases?

Firstly, she advised “Dedication” mind is necessary. She has continuously shared her knowledge with her 30 colleagues and has held agricultural event to invite various stakeholders.

Secondly, as the study team observed, support from the boss/supervisor with leadership is necessary. The boss/supervisor should provide financial support and psychological support for the ex-trainee who joined the TCTP training as well as allow her taking a leadership among her colleagues.

Thirdly, she additionally advised that the follow-up support from donors (i.e., JICA and TICA) is necessary in terms of small financial support for ex-trainees and also for the governmental officials for mobilizing them to the field and holding the dissemination events.

Lastly, the boss suggested providing some financial support for buying necessary agricultural machines including water pumps in order to apply her knowledge she learned and experienced at TCTP. However, it is another issue from the TCTP training although that would increase knowledge utilization gained from the TCTP training.

4. Observation from TICA/JICA evaluation study team

The study team confirmed this is a Success Case and could identify some success factors and conditions for replication. If TICA/JICA prepares some budget for each ex-trainee and monitors their use of it for dissemination activities on the ground, the outcomes and further impact might be generated, and it will be a good cost-effective use of money.

Another point for consideration is that TICA/JICA will be able to find a “seed” for a larger-scale project by examining the ex-trainee’s report of application of the knowledge they gained and utilization of this small budget. This might be a good way to search for ideas for ODA projects in agricultural sector.



Picture 1: Interviewee and the evaluation team Picture 2: JICA staff visited her field.



Picture 3: Demonstration activity 1



Picture 4: Demonstration activity 2

In-depth Interview 2: Reputation of TCTP and Leader's Leadership and Strategic Thinking

Name: Mr. Fernando Chaúr Júnior

Position: Senior Technician in Agricultural Extension, National Directorate of Extension

Success Case Description from the survey:

After returning from training, my organization began efforts to recover the machinery and install a rice processing plant that had been stopped. With the good practice I gained during the training and shared with my colleagues from the technical team who provide Rural Extension services within the communities, they applied it and for some time now we have been registering improvements in production, although we lack specific machinery to increase productivity and production.

This case was identified as one of the Success Cases. However, at the field interview, the evaluation team found that the knowledge and skills obtained from TCTP has successfully shared with the ex-trainee's colleagues and some farmers, but the outcomes including rice production and rice processing have been limited due to the current situation of the center from where he dispatched.

1. Please explain your "success case" in detail.

According to Director who covers 23 Districts in his region, this ex-trainee is successful for some small issues. His duty is supporting small-scale farmers. Some of them increased their rice production and the data shows it. He established and maintained his networks with colleagues and farmers.

The ex-trainee explained that he learned much about soil and machinery for agriculture from TCTP training. He shares the knowledge and experience especially about soil and pursue replication with his colleagues during daily conversation, since they know he studied at TCTP in Thailand and respect his knowledge and experience. He achieved promotion and TCTP was one of the reasons (but experience with other training was also a factor).

On the other hand, due to limitation of funds, the center where he works implemented no more rice processing after the processing machine is down. Now farmers process at his/her individual home. A director who was recently assigned is struggling to find new financial resources. Knowledge and skills this ex-trainee obtained are very useful and wanted here but financial resources are another issue.

His boss/supervisor mentioned the following points. Knowledge and experience of soil and machinery were adequately obtained. The TCTP course is very relevant, the director commented. In addition, like the ex-trainee mentioned, funds for implementation are another issue (out of scope of TCTP).

2. Some officials who received the same training or program do not make the same result. But you made a "success case". What factor or condition affected making it in your case?

Firstly, his colleagues and farmers know that he went to Thailand and joined the TCTP training hosted by TICA and JICA. They know he has the current and most updated knowledge and skills on soil and machinery. Thus, they asked him many things by phone and at the field. The first success factor is reputation, and it made him respected.

Secondly, the environmental conditions of Mozambique and Thailand are similar so that skills and knowledge obtained are applicable in Mozambique.

Thirdly, the region where this ex-trainee is assigned is rich in water because the lake exists. However, due to the recent climate change, rain has decreased, and the rice cultivation field gradually moves to the highland.

On the other hand, funds for buying new machinery and rice processing machines are obstructing factors, which are beyond the scope of TCTP. This point affected the impact of the knowledge and skills he obtained from TCTP, and it is inherent constraint for any training programs.

3. What conditions are necessary to replicate your “success case” for other officials /cases?

Firstly, since this TCTP course is about agricultural production (rice production), the natural environment including (i) soil condition and (ii) availability of rich quantity of water is the necessary condition in order to utilize the knowledge and skills equipped by TCTP.

Secondly, funds for obtaining and maintaining agricultural machinery (tractors, rice planting machine, rice cultivation machine, and rice processing machine) are necessary conditions although it is out of the scope of TCTP. However, the knowledge and skills equipped by TCTP include modern techniques such as how to operate those agricultural machines, and thus some scheme for accessing funds should be prepared. If it is not so easy, providing a small amount of funds for ex-trainees to mobilize him/herself, including fuel for motorcycles, would be highly beneficial. Currently, this ex-trainee moves to the rice field by buying fuel by himself.

Thirdly, the leadership of the director is one of the important conditions, including obtaining information on training programs and related events from central governmental ministries. The director explained that he obtained information on opportunities on TCTP from his own network. In addition, he applied his criteria to scrutinize applications for TCTP, which are: (i) age (should be young), (ii) language (should be fluent English) and (iii) applicability after returning (water and soil of the workplace of applicants are adequate for rice production). This strategic thinking of the leader is necessary for replication of the Success Case.

4. Observation from TICA/JICA evaluation study team.

Reputation of TICA/JICA's TCTP is mentioned from the ground, and it is good and should be maintained. Clearly, strong leadership and strategic thinking are enabling conditions for replicating Success Case. On the other hand, as mentioned in the first Success Case, fund availability is another issue and out of the scope of TCTP. However, small funds would really

be helpful for ex-trainees to make the knowledge and skills useful and applicable on the ground.



Picture 1: Interview



Picture 2: ex-trainee on the rice field

In-depth Interview 3:

Change in Rice Farmers' Mindset and Cultivation Practice

Name: Mr. Pedro Artur Vasco

Position: District Supervisor of the Rural Extension Network,
District Service of Economic Activities of Maganja da Costa

Success Case Description from the survey:

A success case was the ecology of rice. My district has suffered a lot from floods, and with knowledge, we managed to train producers to choose the varieties (long or short cycle) according to production conditions, which allowed for a reduction in the risk of loss caused by the floods.

1. Please explain your “success case” in detail.

Mr. Pedro attended the TCTP course of “Rice Production Technologies for Food Security and Sustainability of African Countries” in 2023. The training significantly improved his understanding of the rice production ecosystem, particularly in identifying and categorizing various types of rice fields, such as those suited to specific soil conditions and seed varieties.

The district of Maganja da Costa is one of Mozambique’s main rice-producing districts, where cultivation takes place in both lowland and highland areas. However, most farmers continue to rely on traditional farming methods. For example, they often lack knowledge in selecting rice varieties suited to their land conditions and tend to mix different varieties or just to plant specific seeds as is their practice. After coming back from Thailand, Mr. Pedro has actively applied his acquired knowledge and shared it with colleagues and local farmers.

The district is traversed by multiple rivers and is prone to frequent flooding. Large-scale cyclones have repeatedly struck, causing severe damage to rice cultivation. In this context, Mr. Pedro also adjusted the cultivation calendar to begin planting between February and March—toward the end of the rainy season—to reduce flood risk.

He realizes that the production of farmers in his working areas is increasing. At the district level, in the year 2024/2025, Maganja da Costa produced 90,000 tons of rice, with an 11% increase in yield per hectare compared to the previous year. Mr. João Jaime Alfredo, Director of District Economic Activities, who oversees the work of Mr. Pedro, comments that Mr. Pedro gained the farmers' trust by bringing expertise on selecting suitable varieties and conditions, thereby changing their mindset.

2. Some officials who received the same training or program do not make the same result. But you made a “success case”. What factor or condition affected making it in your case?

Given the challenges facing agricultural production in this district due to its geographical and climatic characteristics, urgent action was required. This created a strong motivation for him to acquire the knowledge to address these challenges. This reflects his firm determination to have connected the information he had informally obtained to his formal application for this training course.

Another important factor of his success was the TCTP course contents, which provided technical knowledge that precisely matched his needs.

Furthermore, the supportive attitude of Mr. João toward Mr. Pedro's actions also contributed to the success. When Mr. Pedro consulted with Mr. João about participating in the training based on the information he had obtained informally, Mr. João actively encouraged him to submit a formal application. Mr. João also noted that Mr. Pedro returned with a deeper understanding of rice production systems and a heightened willingness to share his knowledge with his colleagues and local farmers.

3. What conditions are necessary to replicate your “success case” for other officials /cases?

His response to the previous question suggests that the keys to generating “success cases” are participants having clear needs they expect the training to address, the training adequately meeting those needs, and participants having a strong commitment to applying the training opportunities in their own work. A supportive environment within the organization for training participation is also important.

On the other hand, this evaluation survey revealed challenges regarding the continuation and further extension of Mr. Pedro's success. For example, he planned to establish demonstration farms and conduct experiments for effective rice cultivation tailored to the conditions of each area within the district, utilizing the knowledge he had acquired. However, this has not been realized due to a lack of funding.

While expanding rice production involves numerous issues that must be addressed strategically under comprehensive government policy, it is desirable that training participation be coupled with securing a certain level of funding to support trainees' activities after their return. This would ensure that the “success cases” of participants do not remain isolated incidents.

4. Observation from TICA/JICA evaluation study team

This case suggests that TICA/JICA, which plans and implements the TCTP courses, can increase the chances of success by confirming individual applicants' needs more carefully and ensuring the provision of a training program that meets those needs.

Furthermore, as in the cases described above, securing financial support for ex-trainees to carry out activities in the field could lead to sustained training effects. Key approaches for improvement include additional support schemes by TICA/JICA, as well as indirect methods such as confirming the sending organization's willingness to provide some form of support for the ex-trainee's follow-up activities during the application process.



Picture 1: Interview



Picture 2: Ex-trainee explaining to the evaluation team



Picture 3: Rice field damaged by flooding (before joining TCTP)



Picture 4: Rice field (after returning from TCTP)

In-depth Interview 4: Integrating Disability-Inclusive Disaster Risk Reduction (DIDRR) into Provincial Planning

Name: Ms. Maricel F. De la Vega-Urdas

Position: Project Development Officer, National Commission of Senior Citizens (NCSC)
Cluster Region 3, Philippines

Success Case Description from the survey:

Our Partners developed and localized disaster risk reduction and management preparedness and mitigation plan for person with disability. This is a big win in my part as advocates as a result of my learnings gained in the training provided by TICA, JICA and APCD.

1. Please explain your “success case” in detail.

- Information on the TCTP was obtained through an official invitation received by the participant's organization from JICA, TICA, and APCD, which was internally shared through institutional channels, leading to participation by the disability focal person.
- Localized disaster risk reduction plan became a significant achievement after the knowledge gained from the training in Thailand. Information dissemination was a core post-training activity. Although work was conducted mainly at the national level under a former agency of the Department of Social Welfare, collaboration with community-level partners enabled the practical application of learning at the local level.
- Personal commitment and concern for persons with disabilities were key factors contributing to the success of this case. There was a strong belief that personal experience and learning should be shared with others. Through this process, both disability sector partners and implementers were engaged. While many stakeholders were generally aware of disaster risk reduction, understanding of disability-inclusive disaster risk reduction (DIDRR) remained limited.
- While general disaster risk reduction had been familiar prior to the training, DIDRR was newly acquired knowledge through the TCTP, and this new understanding directly informed post-training actions. After completing the three training courses in Thailand, the knowledge gained was actively shared. Based on this learning, five capacity-building trainings were conducted for approximately 1,000 leaders, implementers, and local planners, and trained participants further disseminated the knowledge at the local level. Financial support from TICA and JICA, together with the opportunity to attend the training, played an important role in strengthening advocacy for inclusion across sectors.
- After completing the courses, the learning was applied through the role of a disability focal person. In the Philippines, each local government has a focal person for disability programmes, supported by national laws. The training also helped share DIDRR programmes and services more widely.
- The importance of disability-inclusive disaster risk reduction became clear after major typhoons in the Philippines, when many persons with disabilities were left behind. Knowledge from the training was shared with co-workers, local governments, and local disaster officers, reaching even the smallest communities.
- The adoption of localized disaster risk reduction plans through official resolutions signed by local leaders serves as clear evidence of success. Such institutional endorsement was essential, as

advocacy alone would not have been sufficient to secure financial or programmatic support from local government units. The localized DIDRR plan is directly utilized by disaster risk reduction officers in 73 local government units and is expected to benefit approximately 300,000 residents in the MIMAROPA Region, including around 18,000 persons with disabilities, ensuring inclusion before, during, and after disasters.

2. Some officials who received the same training or program do not make the same result. But you made a “success case”. What factor or condition affected making it in your case?

- Several factors supported the success of this initiative. First, the training introduced Disability-Inclusive Disaster Risk Reduction (DIDRR) as a new concept, even though general disaster risk reduction was already known. This new knowledge helped highlight the specific needs of persons with disabilities during disasters, especially after typhoons in the Philippines, and encouraged further action.
- Second, a clear vision of DIDRR was shared with stakeholders. The importance of disability-inclusive approaches was explained to local government officials, disaster officers, and disability sector partners. This helped motivate them and created a shared understanding of why DIDRR should be included in disaster preparedness.
- Third, mutual learning approach was used after the training. Knowledge from the TCTP was shared with partners, while local experiences and good practices were also learned and used. This mutual learning built trust, improved cooperation, and made DIDRR measures more practical.
- In addition, existing systems, such as disability focal persons and offices for persons with disabilities in local governments, created a supportive environment for including DIDRR in official plans and decisions.

3. What conditions are necessary to replicate your “success case” for other officials /cases?

- Replication of similar success cases requires strong commitment from training participants and the translation of learning into concrete action. The preparation and implementation of action plans following the training played an important role in maintaining momentum after course completion.
- Despite limited financial resources, resource mobilization and coordination with partners, local leaders, disability organizations, and senior citizen groups enabled training and information dissemination activities to be conducted. Focusing on key leaders and trainers allowed knowledge to cascade to the community level. In addition, post-training follow-up mechanisms, including experience sharing and online communication among participants, were identified as important factors for sustaining and replicating results.



Picture 1: Post-return training in the Philippines 1



Picture 2: Post-return training in the Philippines 2

In-depth Interview 5:

Launching a Disability-Inclusive Disaster Information System in Vietnam after TCTP

Name: Mr. Pham Quang Khoat

Position: Vice President of the Hanoi Association of Persons with Disabilities (DP Hanoi), Vietnam

Success Case Description from the survey:

The relationships with my classmates have created more opportunities for collaboration.

(Additional information from APCD : A project was carried out together with government agencies, expert organizations, and donors to collect and organize data on households with persons with disabilities and disaster facilities that they can use. By using digital tools for data collection, the project helped improve disaster planning and made it easier to provide quick and appropriate support during disasters.)

1. Please explain your “success case” in detail.

- The relationship with my classmates from the training program created many opportunities for collaboration in my work.
- In 2023, through the introduction of a trainee from Thailand, we connected with an international disability organization from the Republic of Korea and established a Vietnamese para team. The team participated in competitions in 2023, 2024, and 2025.
- In 2024, when Vietnam was severely affected by Super Typhoon Yagi, a trainee from Laos introduced us to a Japanese organization that supported businesses run by persons with disabilities affected by the disaster. We have continued this cooperation since then.
- After completing the training, I kept thinking about how to apply the knowledge and models I learned in Thailand to Vietnam. Together with my colleagues at the Hanoi Association of Persons with Disabilities, we collaborated with the Center for Technical and Disaster Prevention Policy under the Ministry of Agriculture and Rural Development to implement a project.
- The project focused on collecting and organizing information on households of persons with disabilities and disaster prevention infrastructure accessible to persons with disabilities in Hanoi. We submitted the proposal and received funding from the Swiss Embassy in Vietnam, and the project was implemented in 2024 and 2025.
- During disasters, persons with disabilities often have to stay in one place and wait for support. Through this project, we developed an information system that helps persons with disabilities identify safe evacuation locations and communicate their situation, while allowing authorities to provide quicker and more appropriate support.
- This initiative has been recognized as a representative and practical model of disability-inclusive disaster risk reduction and was honored with the Zero Project Award 2026. Project representatives attended the award ceremony held in the Republic of Austria, marking international recognition of efforts to promote inclusion and protect the rights of persons with disabilities in disaster risk management.

2. Some officials who received the same training or program do not make the same result. But you made a “success case”. What factor or condition affected making it in your case?

- I observed that many participants achieved certain results after returning to their organizations, but in my case, the outcomes became more visible.
- First, Vietnam currently has a very supportive policy environment for disaster prevention and risk reduction, especially for vulnerable groups such as persons with disabilities. When we proactively raised issues and proposed disability-inclusive disaster prevention activities, we received relatively quick agreement and coordination from government agencies.
- Second, the organization where I work is an organization of persons with disabilities. I am also a person with a disability myself, and I deeply understand the risks and challenges that persons with disabilities face during disasters. This sense of empathy and responsibility strongly motivated me to continue these efforts.
- Third, after the training, I did not work alone. I shared the knowledge within my organization and actively connected with disaster management specialists and development partners. As a result, the initiatives moved beyond awareness-raising and were implemented as concrete projects.
- I consider the training course as the starting point of continuous learning. I adjusted the approaches to fit the Vietnamese context and listened to direct feedback from persons with disabilities.
- In summary, the difference lies not in individual capacity, but in the combination of a supportive policy environment, organizational roles, personal experience, and the ability to translate knowledge into practical action.

3. What conditions are necessary to replicate your “success case” for other officials /cases?
--

- In my opinion, several conditions are necessary for other officials to achieve similar outcomes.
- First, a supportive policy environment and strong institutional backing are essential. Disability-inclusive disaster risk reduction can only be effectively implemented when there is agreement and support from local authorities and relevant agencies, and when coordination mechanisms are clear from the beginning.
- Second, trainees need space to act within their organizations. If officials have sufficient authority to propose and pilot initiatives after the training, the likelihood of successful implementation increases. Training should be linked to clear responsibilities and practical opportunities for action.
- Third, training knowledge must be connected to the real needs of the community. By listening directly to persons with disabilities and understanding local challenges, trainees can adapt what they learned instead of applying it only theoretically.
- In addition, post-training support mechanisms such as alumni networks, technical consultation, experience sharing, or small-scale funding are important.
- Overall, achieving similar outcomes requires not only individual effort, but also a supportive ecosystem in which training programs, organizations, policies, and communities work together.”



A sharing session with the Swiss Embassy in Hanoi on DIDRR conducted by the Hanoi Association of Persons with Disabilities.



I am conducting training on DIDRR in the community.

FY2025 Joint Evaluation of Third Country Training Programme (TCTP) in Thailand

Multivariate Analysis (Multiple Regression Analysis) Based on the Ex-trainees Survey

1. Background and Purpose

The ex-trainees Survey was implemented in 2025 as a part of the joint evaluation on TCTP in Thailand. Using the data collected by the survey, multivariate analysis (multiple regression analysis) was applied to explore factors affecting the outcomes of TCTP.

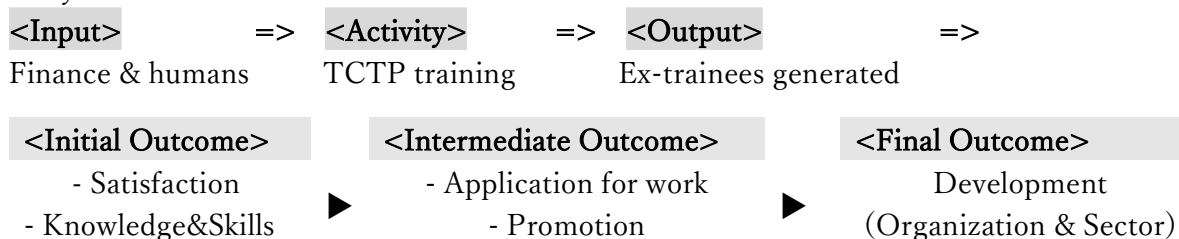
2. Data

A total of 130 ex-trainees of 10 courses responded to the survey, which is 33% of all ex-trainees who were sent the invitation mail of survey. Out of that, the survey results of 109 ex-trainees from five major TCTP courses were selected for this multivariate analysis (multiple regression). The five TCTP courses and number of samples were shown below.

No.	Course Title	# of samples
#1	Modernization of Power Distribution System in ASEAN Countries	30
#2	Renewable Energy Technologies and Knowledge Transfer for Strengthening and Achieving ASEAN's Sustainable Development Goals	22
#6	International Road Infrastructure Development for ASEAN and BIMSTEC Networks (Phase 2)	23
#7	Rice Production Technologies for Food Security and Sustainability of African Countries	23
#10	Strengthening Disability Inclusive Disaster Risk Reduction in the ASEAN Region	11
	Total	109

3. Theory of Change (Logic model)

The following theory of change (logic model) was set as an assumption for analysis.



4. Result of Analysis

4.1. Application for work

First of all, multiple regression analysis was conducted. Y (dependent or outcome variable) and multiple X (Independent or explanatory variable) were set as follows.

Variable	Scale (point)	Question
Y : Application for work	7-point scale (# of application out of 7 sub-categories)	(Q1h)
X1 : Satisfaction (overall) of TCTP training	4-point scale	(Q1f)
X2: Subject-matter or sector knowledge & skills	4-point scale	(Q1c)

The results are as follows. The overall equation is statistically significant, $F=2.8$ ($p=0.06 < 10\%$) and $R^2=0.051$. “Satisfaction (overall)” of TCTP training (X1) is not statistically significant, $t=0.23$ ($p=0.818$) and “Subject-matter or sector knowledge & skills” (X2) is statistically significant, $t=2.19$ ($p=0.031 < 5\%$).

Thus, it is concluded that “Application for work” is explained or influenced by the degree of “Subject-matter or sector knowledge & skills” gained.

Table 1: Regression Analysis Result 1

$F=2.82$ ($p=0.064 < 5\%$) $R^2=0.0515$

Variable name	Coefficient	Std Error	t	p	Judge	Standard coefficient
Q1f_SatisfactionOverall	0.059	0.256	0.23	0.818	n.s.	-
Q1c_SubjectKnowledge	0.654	0.298	2.19	0.031	**	0.22
Constant	0.672	1.168	0.58	0.566	n.s.	-

(significance level) ***1%; **5%; *10%, “<” 15%(tendency of significance)

n.s. (not significant)

4.2. Promotion of organizational status

One more multiple regression analysis was conducted. Y (dependent or outcome variable) and multiple X (Independent or explanatory variable) were set as follows.

Variable	Scale (point)	Question
Y : Promotion of organizational status	5-point scale (more than 2 grades - demoted)	(Q4a)
X1 : Satisfaction (overall) of TCTP training	4-point scale	(Q1f)
X2: Subject-matter or sector knowledge & skills	4-point scale	(Q1c)

The results are as follows. The overall equation is statistically significant, $F=1.77$ ($p=0.176$) and $R^2=0.033$. “Satisfaction (overall)” of TCTP training (X1) is not statistically significant but have a tendency of significance, $t=1.64$ ($p=0.104$, slightly more than 10%). “Subject-matter or sector knowledge & skills” (X2) is not statistically significant, $t=0.39$ ($p=0.694$).

Thus, it is not concluded that “Promotion” of organization status is explained by either both independent variables although one of them has a tendency of significance.

Table 2: Regression Analysis Result 2

$F=1.77$ ($p=0.1760$) $R^2=0.0329$

Variable name	Coefficient	Std Error	t	p	Judge	Standard coefficient
Q1f_SatisfactionOverall	0.096	0.242	0.39	0.694	n.s.	-
Q1c_SubjectKnowledge	0.464	0.282	1.64	0.104	<	0.17
Constant	1.190	1.105	1.08	0.284	n.s.	-

(significance level) ***1%; **5%; *10%, “<” 15%(tendency of significance)

n.s. (not significant)

4.3. Multivariate Analysis

Finally, multivariate analysis was conducted. “Multivariate” means the regression analysis including multiple dependent variable (Y). Multiple Y (dependent or outcome variable) and multiple X (Independent or explanatory variable) were set as follows. Now the coefficients of “Subject-matter or sector knowledge & skills” are statistically significant ($p=0.023 < 5\%$ for “Application for Work” and $0.092 < 10\%$ for “Promotion”).

Table 3: Structural Equation Model (SEM) Analysis

					Standardized coefficient	
Variable name	Coefficient	Std Error	z	p	Judge	Standard coefficient
Y: Q1h_Apply_how						
Q1f_SatisfactionOverall	0.023	0.098	0.23	0.815	n.s.	-
Q1c_SubjectKnowledge	0.219	0.096	2.27	0.023	**	0.22
Constant	0.437	0.076	0.58	0.564	n.s.	-
Y: Promotion						
Q1f_SatisfactionOverall	0.397	0.099	0.40	0.689	n.s.	-
Q1c_SubjectKnowledge	0.166	0.098	1.69	0.092	*	0.17
Constant	0.826	0.772	1.07	0.284	n.s.	-

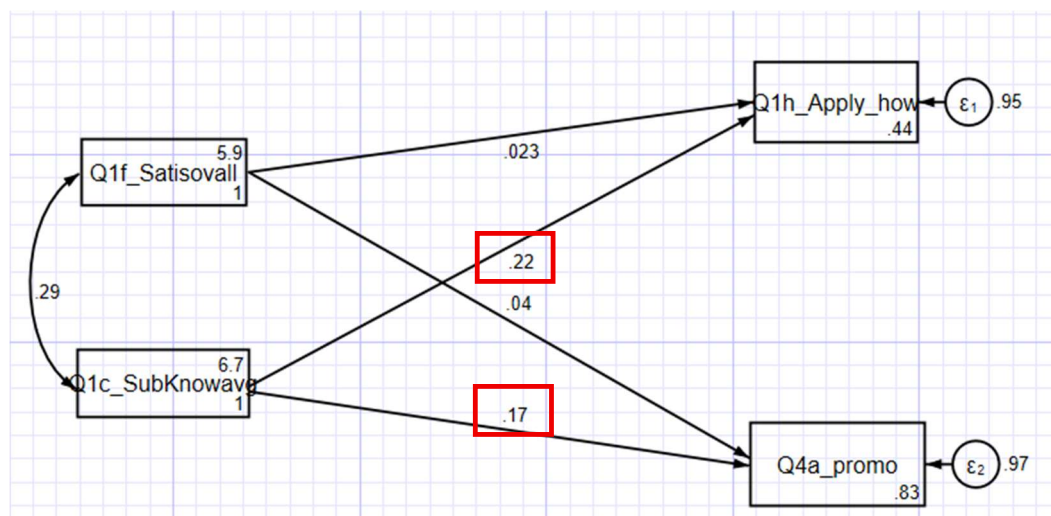
(significance level) ***1%; **5%; *10%, “<” 15%(tendency of significance)

n.s. (not significant)

This indicates the following effect. Both are statistically significant with small ~ medium effect size. Graphical chart is also shown below.

If “Subject-matter or sector knowledge & skills” is improved by one standard deviation, “Application for work” will be improved by 0.22 standard deviation.
If “Subject-matter or sector knowledge & skills” is improved by one standard deviation, “Promotion” will be improved by 0.17 standard deviation.

In addition, “Satisfaction (overall)” is not statistically significant but still slightly positive on both “Application for Work” and “Promotion”.



Standardized coefficients

5. Conclusion

This analysis shows that designing a training programme that ensures participants acquire subject-matter or sector knowledge and skills is important for improving the outcomes of the TCTP.

One limitation is that this analysis uses a small dataset of ex-participant survey. Thus, more in-depth analysis using a large and consolidated dataset specialized for multivariate analysis should be conducted in future.

第三国研修(TCTP) フォローアップ評価ガイドライン

目次

第1章 評価の目的と基本的な考え方	1
1.1 本ガイドライン作成の背景	1
1.2 TCTP 評価の目的	1
1.3 TCTP 評価における留意点	1
第2章 評価の進め方	3
2.1 評価体制と役割分担	3
2.2 フォローアップ評価の基本的なプロセス	4
2.3 データの収集方法	4
第3章 評価項目と判断の考え方	6
3.1 事業評価の視点(DAC 評価 6 基準)	6
3.2 サクセス・ケース・メソッドの活用	8
3.3 サブ・レーティング・総合評価の考え方	8
第4章 評価結果の活用	10
4.1 研修改善に向けたフィードバック	10
4.2 説明責任の確保	10
ツールキット	11

第1章 評価の目的と基本的な考え方

1.1 本ガイドライン作成の背景

本ガイドラインは、第三国研修(Third Country Training Programme:TCTP)に関わる調整機関または実施機関が、研修終了後のフォローアップ評価を行うための基本的な考え方と進め方を整理したものである。

ここでいうフォローアップ評価とは、帰国研修員を主な対象とし、研修実施機関からのコメントも含めながら、研修で得られた知識や技能が帰国後にどのように活用されているか、TCTP をより良くするために何が必要かを検証する評価調査である。

これまで、TCTP においては、研修実施機関による個別のフォローアップ等が実施されてきたものの、こうした取組は各機関の裁量に委ねられており、TCTP 全体として体系的に評価を行い、結果を共有・活用する仕組みにはなっていない。加えて、TCTP 全体として共通の視点や手順に基づくフォローアップ評価のためのガイドラインも整備されてこなかった。

上記の背景を踏まえ、本ガイドラインは、TCTP のフォローアップ評価に関するガイドラインとして今回初めて作成するものであり、今後、評価の実践を通じて得られる知見や経験を踏まえながら、段階的に内容を充実させていくことを想定している。

1.2 TCTP 評価の目的

TCTP では、研修の成果が研修期間中にとどまらず、研修終了後に研修員が研修で得た知識・技能を実務に活用し、所属組織や周囲へと展開していく過程において現れることも想定される。このため、研修終了後のフォローアップ評価を通じて、こうした成果の活用状況やその後の変化を把握し、その結果を研修内容および運営の改善に反映させることを、評価の第一の目的とする。

あわせて、TCTP の評価は、研修の成果および課題を整理・可視化し、研修に関与する関係者だけでなく、広く事業関係者以外に対しても説明責任を果たすことも目的としている。フォローアップ評価を通じて得られた情報を整理し、研修の意義や成果を公開することで、TCTP に対する共通理解を促進する。

1.3 TCTP 評価における留意点

TCTP は、通常の二国間協力とは異なる特有の付加価値があることを踏まえて評価する必要がある。具体的には、日本と研修実施国の比較優位の活用、パートナーシップの強化、相互学習による相乗効果の創出などが挙げられる。したがって、評価においては開発成果のみならず、こうした TCTP 特有の付加価値がどの程度発揮されたかという視点を加えることが望ましい。

加えて、TCTP の制度的・運営上の特性を十分に踏まえた上で、評価調査を設計する必要もある。例えば、TCTP では事前に明確な数値目標や指標が設定されていないケースが多く、計画値と実績を単純に比較することや、定量的な指標のみによって研修成果を把握することは難しい。そのため、アンケート調査やインタビュー調査などを組み合わせ、定性的な情報も収集し、研修成果の内容や変化、研修終了後における知識・技能の活用状況を確認する。また、研修効果の持続性の分析においては、研修員個人レベルの知識・技術の定着のみならず、研修員の所属組織の体制や財務面といった組織レベルでの影響も大きいことから、これらを複合的に分析する必要がある。他方、TCTP は一般に多数の国から研修員が参加することから、帰国研修員の所属組織の状況を網羅的かつ詳細に把握することは必ずしも現実的ではない。評価調査に投入可能な時間や費用も考慮した上で、各評価項目において収集可能な情報の種類・範囲や、実施するフォローアップ評価の具体的目的に沿った評価項目の重点を検討するべきである。

第 2 章 評価の進め方

2.1 評価体制と役割分担

フォローアップ評価は、研修成果の定着状況や帰国研修員の帰国後の取組、研修がもたらした変化を把握し、今後の研修内容および運営改善に活用することを目的とする。このため、評価は単独の機関のみで実施するのではなく、TCTP の運営実施に係る、研修調整機関(ある場合)、研修実施機関、JICA 現地事務所がそれぞれの役割を分担し、相互に連携して実施することが望ましい。

研修調整機関がある場合；

研修調整機関は、複数の研修コースおよび研修実施機関を横断的に把握できる立場から、評価方針の整理、調査項目の設定、調査の実施および結果の取りまとめなど、フォローアップ評価の実施主体と位置付けられる。フォローアップ評価では、研修成果の活用状況や研修後に生じた変化を把握することを目的とし、研修終了後一定期間が経った研修コースを対象とする場合や、特定の国・セクターを対象とする場合など、柔軟な対象設定をTCTP関係者と協議を行い、決定する。最終的に評価結果報告書として取りまとめ、研修実施機関、JICA 現地事務所などに共有する。

研修実施機関は、各研修の実施期間中における評価を担い、研修内容や運営状況、参加者の満足度等について実施報告書や完了報告書に取りまとめ、研修調整機関及び JICA に提出する。フォローアップ調査の実施可能性について、研修員に周知し、帰国後もフォローアップが可能となるようメールアドレス等の連絡先のリストを作成し、上記報告書に添付する。また、調整機関が実施するフォローアップ調査に対し、帰国研修員への連絡、基礎情報の提供、調査結果の解釈に関する助言等、必要に応じて協力する。

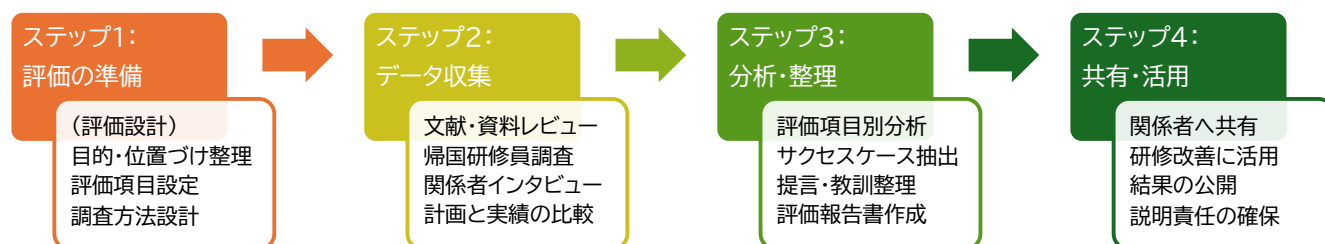
JICA 現地事務所は、TCTP のホスト国事務所と送り出し国事務所がそれぞれ関与することが想定される。ホスト国事務所は、フォローアップ評価の全体プロセスを通じたモニタリングおよび助言を担う。一方、送り出し国事務所は、必要に応じて研修員のコンタクトリストの提供を行うほか、同国において現地調査を実施する場合には、関係機関との連絡・調整を行う。

TCTP 調整機関がない場合；

TCTP 調整機関が設置されていない場合には、各研修実施機関がフォローアップ評価における調査の実施主体となる。研修実施機関は、本ガイドラインに示す評価の考え方や手法を踏まえ、フォローアップ調査の計画、実施および結果の整理を行う。

2.2 フォローアップ評価の基本的なプロセス

第三国研修(TCTP)の評価は、評価設計、データ収集、分析・取りまとめ、結果の共有・活用という段階を経て実施される。評価結果は、研修内容や運営の改善に活用されるとともに、関係者間で共有・公開され、研修事業の質の向上および説明責任の確保につなげられる。基本的なプロセスは以下のとおり。



評価設計を検討する際、評価の目的(改善志向か説明責任志向か)や実施可能な範囲(一か国か複数国か)、利用可能な資源(自己評価か第三者評価か)などを踏まえ、最も適切な評価タイプを選択する。例えば、評価主体の観点からは、実施機関自らが行う自己評価、外部専門家等が実施する第三者評価、複数のパートナーが共同で実施する合同評価などがある。また、評価対象の切り口としては、特定の課題や分野に焦点を当てるテーマ別評価、参加国ごとの成果を検証する国別評価、事業完了年度ごとに実施する完了年度別評価などが考えられる。

区分	タイプ	概要
誰が評価するか	自己評価	研修実施機関または調整機関が自ら実施する評価
	第三者評価	外部コンサルタントなど独立機関が実施する評価
	合同評価	複数パートナー(研修調整・実施機関、研修員送り出し機関、JICA など)が共同で実施する評価
何を評価するか	セクター別評価	特定の課題やセクターに焦点を当てる評価
	国別評価	参加国ごとの成果を検証する評価
	完了年度別評価	事業完了年度単位で実施する評価

2.3 データの収集方法

評価の目的および評価項目に応じて、定量的および定性的データを組み合わせた複数の方法により情報を収集する。主なデータ収集方法は以下のとおりである。



文献・資料レビュー

研修計画書(RD、GI)、年次報告書、完了報告書等の関連資料を対象に、研修の目的、内容、実施状況および成果に関する情報を整理する。あわせて、研修計画と実績を比較し、計画どおりに実施された点や変更・調整が生じた点、その要因について把握する。



研修実施に係る機関に対するインタビュー調査

研修実施機関、研修調整機関、関係するJICA事務所等を対象に半構造化インタビューを実施し、研修の実施体制、運営上の工夫や課題、フォローアップの状況等について詳しく把握する。



帰国研修員/所属機関に対する質問票調査

帰国研修員に対しては、Google Forms等のオンラインツールを活用した質問票調査を実施し、研修内容の有用性、帰国後の活用状況、成果や課題、フォローアップの状況等に関する情報を収集する。オンライン調査とすることで、複数国に所在する帰国研修員から効率的かつ広範にデータを収集することが可能となる(ツールキット1:Google Surveyの進め方)。



帰国研修員に対するインタビュー調査

上記のオンライン質問票調査の結果を踏まえ、帰国後の成功事例については、サクセスケースとして位置づけ、Zoom等のオンライン会議ツールを活用した深掘りインタビューを実施する。インタビューでは、研修内容の具体的な活用状況、成果に至った背景やプロセス、成功要因、ならびに今後の課題等について詳細に把握する。(ツールキット2:サクセス・ケース・メソッド)



特定国における現地調査

特定国を訪問し、帰国研修員に対するインタビュー、所属機関・部門責任者へのインタビュー、複数の帰国研修員を対象としたグループインタビュー、ならびにTCTPの運営プロセス(送出前および帰国後)に関する関係者インタビュー(JICA、研修受入国の関係機関等、大使館など)を行う。加えて、帰国研修員の活動サイト視察を通じて、研修成果の実践状況や現地における変化を確認する。

第3章 評価項目と判断の考え方

3.1 事業評価の視点(DAC 評価 6 基準)

JICA のプロジェクト評価では、価値判断の基準として、「DAC 評価基準」を採用している。「DAC 評価基準」とは 1991 年に経済協力開発機構開発援助委員会(OECD-DAC)で提唱された開発援助の評価基準であり、国際的な基準となっている。このため、TCTP の評価においても、これらの評価基準(妥当性、整合性、有効性、インパクト、効率性、持続性)に基づいて実施することを基本とする。ただし、研修の目的や内容の特性や OECD による三角協力の付加価値¹を踏まえ、評価の主な視点や評価設問は柔軟に取捨選択する。(ツールキット 3:三角協力の付加価値とその指標例)以下に、各評価項目の主な視点、評価設問の例を示す。

評価項目・主な視点・評価設問の例

評価項目	主な視点	主な評価設問
妥当性 介入の目的およびデザインが、受益者のニーズ、政策、優先順位に対応し、状況の変化に応じて対応し続ける度合い。	開発政策との整合性	□研修内容は開発政策・計画と整合しているか(受講生の出身国・地域・セクター等の各レベル)
	開発ニーズとの整合性	□研修は相手国のターゲットグループのニーズに合致していたか
	手段としての適切性	□研修員のニーズに対して研修内容は妥当であったか □アウトカム／事業目的の達成につながるようにインプット、アウトプットのロジックが適切に計画されていたか。 ■効果的な研修内容となるように日本側とタイ側の投入の役割分担が行われていたか。 ■研修ホスト国のオーナーシップを高めるための工夫はあったか
整合性 世界・パートナー／開発協力機関、当該国、セクター、組織における当該介入と他介入との適合性。	日本の援助政策との整合性	□日本の援助政策・外務省の国別援助方針との整合性はあるか
	JICA 内外の事業・機関との連携	□JICA の他事業や日本、他の開発協力機関等との連携は行われたか
	研修ホスト国の援助政策との整合性	□研修ホスト国の援助政策・方針との整合性はあるか
有効性 介入の目的と結果の達成又は達成見込みの度合い。諸集団の異なる帰結を含む。	アウトカムの内容	□研修計画時に立てた目標は達成されたか □研修員は研修内容を習得したか ■現地の状況に合った、効果的で無駄の少ない解決策を提供したか
	研修の満足度	□研修内容にどの程度満足したか
	因果関係	□目標達成にどのような点が貢献/阻害要因となっ

¹ Toolkit for Identifying, Monitoring and Evaluating the Value Added of Triangular Co-operation, OECD

評価項目	主な視点	主な評価設問
インパクト 介入により生じた又は生じると予期される、重要な正又は負の、意図された又は意図されない、高次の効果の度合い。	発現の見込み／因果関係	たか ☐ 事業実施の結果としてインパクトの発現が見られるか、あるいは見込まれるか ☐ 特に他の参加国や他コースの模範・参考になる成功事例が生まれたか(事例数は問わない) ☐ インパクト発現を阻害する要因はあるか ☐ プラスの影響が想定されるか？マイナスの影響についてはそれを軽減するための対策は取られているか ☐ 日本へのインパクト発現が見込まれるか ☐ 研修ホスト国へのインパクト発現が見込まれるか ☐ 受講生の出身国へのインパクト発現が見込まれるか
	その他インパクト	☐ 研修実施機関やインストラクターに与えたインパクトの有無など、想定していなかったインパクトはあるか ■これまで連携の少なかったパートナーをつなぎ、新しい解決策を生み出していたか ■外交関係のない国との橋渡しや多国間機関のネットワーク活用などを通じて、資源を動員し、協力の規模や範囲を広げていたか ■民間企業、学術機関、市民社会、地方自治体など、多様な主体の参画を促進したか ■TCTP の優良事例を広く共有し、国際的な発信につなげていたか。
効率性 経済かつタイムリーな方法で結果を生む又は生むような介入実施の度合い。	事業計画	☐ アウトプットを産出するために必要な量・質の投入が計画されていたか ☐ 参加人数は計画どおりであったか ☐ 事業費は計画どおりであったか、変更があった場合、その理由は適切か
	期間、タイミング	☐ 事業期間は事業計画に見合った設定となっていたか(事業の完了は計画以内であったか) ☐ 前提条件、インプットのタイミング・方法(調達方法を含む)は適切に計画されていたか
	実施プロセス	☐ 募集・選定・研修実施中・帰国後の各プロセスは適切であったか ☐ モニタリング・評価は適切に行われたか ■日本と研修ホスト国の技術面、環境面(制度・文化・経済など)の比較優位性を活かしたか
持続性 介入の純便益が継続する又は継続する可能性の度合い。	体制面	帰国研修員、研修調整機関、研修実施機関、研修講師、JICA のいずれかの間で、 ■ネットワークは構築されたか ■パートナーシップは構築・強化されたか ■パートナーや現物資源、資金を動員し、開発協力の規模や対象範囲を拡大したか
	財政面	☐ 研修の効果の持続性の観点から、予算措置は十分に講じられているか
	技術面	☐ 研修に伴い導入される技術は研修員やその所属先

評価項目	主な視点	主な評価設問
		により受容され、継続的に実行されうるものか ■ 二国間協力で得られた成功事例を共有し、その拡大(スケールアップ)につなげていたか。
	アクションプラン	□ アクションプランを作成した研修員は、それを実施・継続しているか
	促進/阻害要因	□ 研修の成果を持続・波及するにあたってどのような点が促進/阻害要因となったか

注: □: DAC6 項目の基本的な設問案、■: TCTP の付加価値を評価するための設問案

これら DAC 評価 6 基準に基づく評価結果をもとに、提言および教訓を、評価結果表に取りまとめる(ツールキット4: 評価結果表)。提言とは、評価の対象となった研修事業を今後より良いものとするための、具体的な改善案である。評価結果を踏まえ、事業目的の達成や成果の持続を妨げている要因を明らかにし、それらをどのように改善すべきかを整理する。提言は、研修実施機関および JICA が実際に対応できるよう、だが、何を、どのような目的で行うのが明確で、現実的な内容とする。

教訓とは、評価対象事業から得られた経験のうち、将来の研修事業や他の実施中の事業にも応用可能なポイントを整理したものである。教訓は、成功した点だけでなく、課題や改善が必要であった点からも導き出され、事業の企画、実施、モニタリング、運営・維持管理など、さまざまな段階で活用できる内容とする。

3.2 サクセス・ケース・メソッドの活用

TCTP の評価においては、研修を通じて生じた成果の把握手法の一つとして、サクセス・ケース・メソッドの活用を提案する。本手法は、研修内容が効果的に活用され、具体的な変化につながった事例(サクセス・ケース)を効率的に抽出し、その背景や成功要因を分析するものである。

本手法は、評価項目の中でも特に「インパクト」の確認に活用でき、定量評価では捉えにくい研修の効果や波及的な変化を具体的な事例として示すことが可能である。抽出されたサクセス・ケースは、研修の成果を分かりやすく伝えるための広報資料や、研修の成功要因の整理・蓄積、ならびに今後の研修内容や実施方法の改善に活用することが期待される。

3.3 サブ・レーティング・総合評価の考え方

レーティングは、評価結果を分かりやすく示すための手段であると同時に、事業の改善に向けた施策の検討に活用できる重要なツールである。ただし、レーティングは、あくまで事業の成果や実施状況を一定の視点に基づいて測定する指標である点に留意する必要がある。

また、レーティングを行うにあたっては、評価の対象項目、判断基準および判断の目安等について、事前に関係機関と十分に協議し、共通の理解に基づく基準を設定することが重要である。こうしたプロセスを通じて、評価結果の妥当性や透明性、関係者間の納得感を高めることが期待される。

JICA の事後評価では、DAC 評価 6 基準のうち、妥当性・整合性、有効性・インパクト、効率性、持続性の各項目について、評価結果を④～①の 4 段階でサブ・レーティングする。さらに、これらのサブ・レーティングの結果を踏まえ、所定のフローチャートに従って総合評価(A～D の 4 段階)を行っている(ツールキット5: レーティング基準・フローチャート)。

第4章 評価結果の活用

評価結果をもとに提言や教訓を整理し、研修実施機関および JICA 事務所へフィードバックすることにより、将来の TCTP の改善を図る。また、評価結果を関係者間で共有することで、研修事業の成果を可視化するとともに、説明責任の確保に資する。

4.1 研修改善に向けたフィードバック

提言および教訓は、評価結果を踏まえ、研修実施機関や関係する JICA 事務所等、対応が必要な相手先に共有する。提言については、課題の内容や改善の方向性を具体的に説明した上で、改善方法や対応スケジュールについて協議を行い、合意された対応内容の実施状況を確認する。必要に応じて、対応結果をフォローアップし、改善状況を把握する。

一方、教訓については、将来の TCTP や他の研修事業に活用できるよう、関係者間で整理・共有する。これにより、研修内容や研修方法、運営体制等の見直しに反映させ、研修事業全体の質の向上につなげる。

4.2 説明責任の確保

評価結果については、関係者間での共有を行ったうえで、関係者の合意された範囲において対外的に公開する。また、TICA、JICA、研修実施機関等の関係者間で共有し、評価結果報告会、関係機関との協議会、共同セミナー等の機会を通じて、評価結果や得られた知見について意見交換を行うことが望ましい。これにより、評価結果に対する共通理解を深めるとともに、研修内容の改善や今後の TCTP の方向性に関する検討に活用する。

評価結果の公開にあたっては、評価の目的や内容を踏まえ、専門的でない読者にも理解しやすい形で整理することに留意する。原則として研修実施機関や研修調整機関のみならず JICA の公式ウェブサイト等を通じて公表し、TCTP の成果や意義について広く発信することで、TCTP に関する説明責任の確保を図る。

ツールキット

1. Google survey の進め方
2. サクセス・ケース・メソッド
3. OECD による「三角協力の付加価値とその指標例」
4. 評価結果表
5. レーティング基準・フローチャート

Google Survey

1. Purpose of Google Survey

Google Survey will be used for collecting information from the ex-participants. The information collected include both quantitative and qualitative information. The information is stored in MS-Excel format so that various analysis including professional statistical analysis can be applied.

2. Step by Step of Google Survey

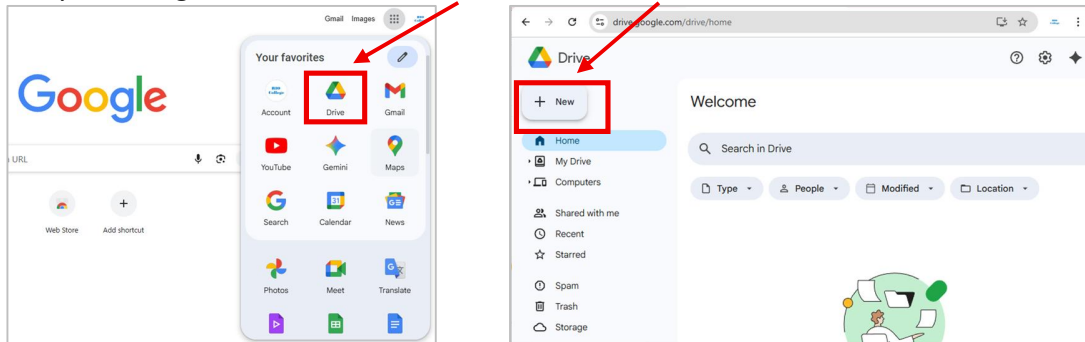
The following steps are the easy-to-use guidance of Google Survey.

Step 1 Planning

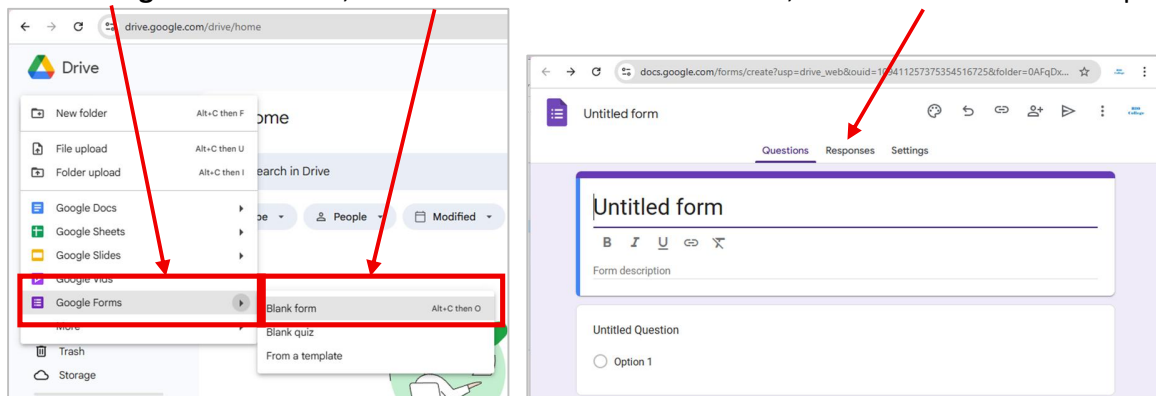
- (1) Identify the purpose/goals of the survey. Make clear what you want.
- (2) Develop a Theor of Change (TOC) (Logic model)
- (3) Spell out questions for each step in TOC (Logic model)

Step2: Open Google Survey Form (blank)

Click your Google account and click “Drive”. Click “+ New”.



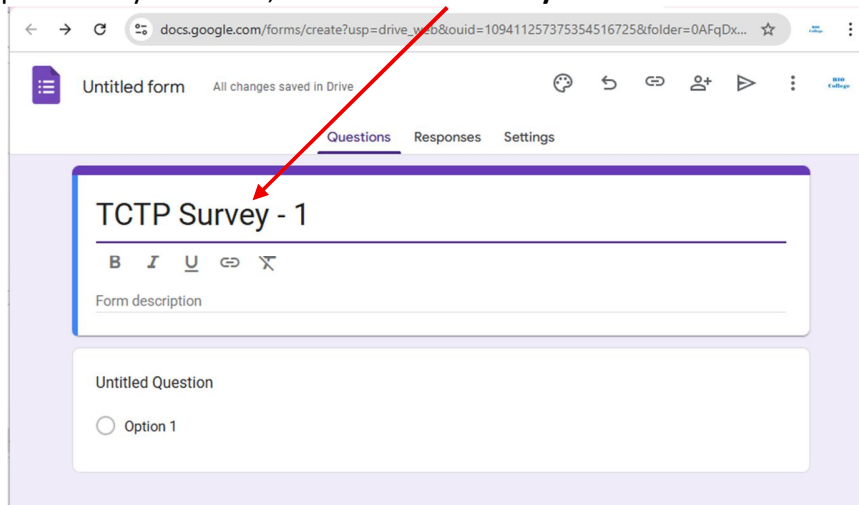
Click “+ Google Form”. Then, click “blank form”. A blank form, “Untitled Form” comes up.



Tool 1_Google Survey

Step3: Give a title of Survey Title

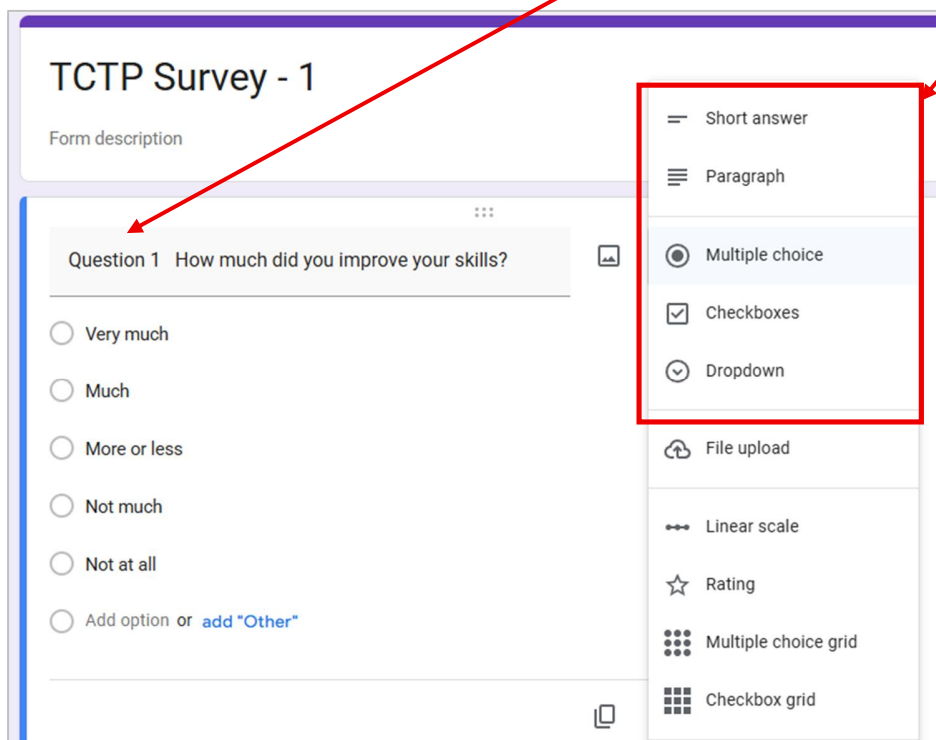
Type a survey title here, such as “TCTP Survey-1”.



The screenshot shows the Google Forms editor interface. At the top, the title 'TCTP Survey - 1' is entered in the title field. Below the title is a 'Form description' field. Underneath, there is an 'Untitled Question' section with a radio button and the text 'Option 1'. A red arrow points from the text 'Type a survey title here, such as “TCTP Survey-1”.' to the title field.

Step 4: Make a survey question

Click “Untitled Question”. Type phrase of **Question 1**. You can choose variety of **question types**.



The screenshot shows the Google Forms editor interface. The title 'TCTP Survey - 1' is at the top. Below it is the 'Form description' field. Underneath, there is a 'Question 1' section with the text 'How much did you improve your skills?'. Below the question text are several radio button options: 'Very much', 'Much', 'More or less', 'Not much', 'Not at all', and 'Add option or add "Other"'. To the right of the question is a list of question types: 'Short answer', 'Paragraph', 'Multiple choice' (selected), 'Checkboxes', 'Dropdown', 'File upload', 'Linear scale', 'Rating', 'Multiple choice grid', and 'Checkbox grid'. A red arrow points from the text 'Click “Untitled Question”.' to the 'Question 1' section. Another red arrow points from the text 'You can choose variety of question types.' to the list of question types.

There are three (3) question types. Each type of question is explained in the next page. You can choose an appropriate question type for your each question.

Tool 1_Google Survey

In this case, click **“Multiple choice”** and type answer choices. It is appropriate for five-point or four-point scales, such as:

Very much (5) – Much (4) – More or less (3) -Not much (2) – Not at all (1), and Other (-)

Question 1 How much did you improve your skills?

☐ Very much

☐ Much

☐ More or less

☐ Not much

☐ Not at all

☐ Add option or [add "Other"](#)

Required ☐

A survey respondent can choose one of multiple answer choices.

Question 1 How much did you improve your skills?

☐ Very much

☒ Much

☐ More or less

☐ Not much

☐ Not at all

[Clear selection](#)

Tip1: If you click here, it is mandatory for an respondent to answer this question.

In another case, click **“Multiple choice grid”** and type **Rows (Question items)** and **Columns (Answer choices)**.

Question 2 How much did you improve your skill in topic?

Rows

Columns

1. Planning ☐ Very much

2. Implementation ☐ Much

3. Finance ☐ More or less

4. Leadership ☐ Not much

5. Add row ☐ Not at all

☐ Add column

Require a response in each row ☐

A survey respondent can choose one of multiple answer choices for each question item.

Question 2 How much did you improve your skills in topic?

	Very much	Much	More or less	Not much	Not at all
Planning	☒	☐	☐	☐	☐
Implementation	☐	☒	☐	☐	☐
Finance	☐	☐	☒	☐	☐
Leadership	☐	☒	☐	☐	☐

[Clear selection](#)

Tip2: you can duplicate this question form and make any change on it by clicking this icon.

In further another case, click **“Paragraph”**. It is good for open-ended questions (**free comment**).

Question 3 Please write you comment.

B I U

Long answer text

Required ☐

A survey respondent can freely write his/her comment by sentence.

Question 3 Please write you comment.

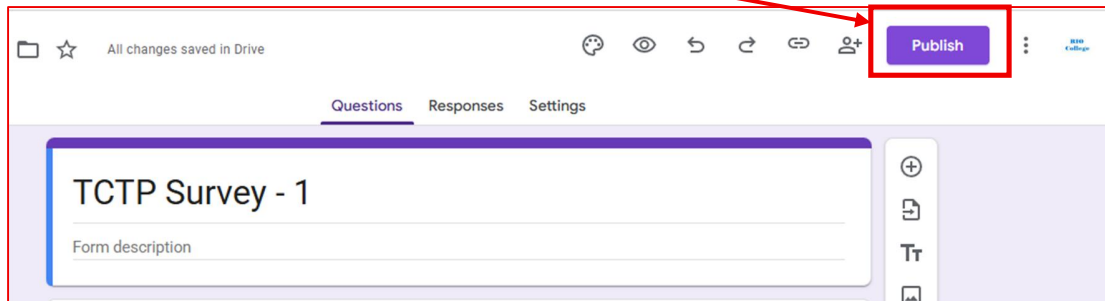
This training program is well organized. I appreciate it and learned a lot of things!

Tool 1_Google Survey

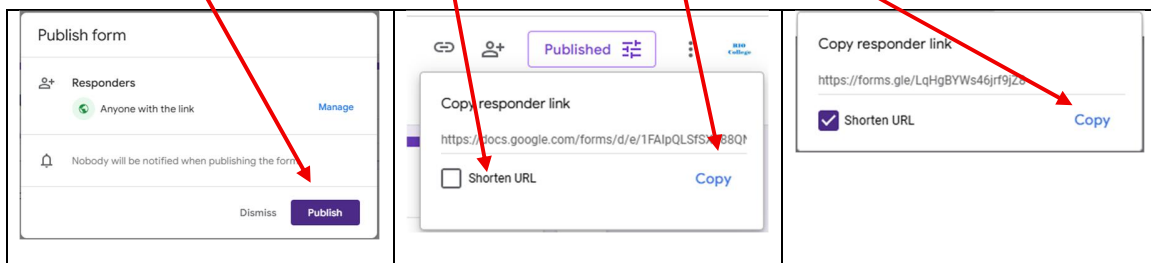
Step 5: Save a survey format, publish and obtain an URL.

Google Drive automatically saves your Google Survey form.

When you complete making a survey format, push “Publish” .



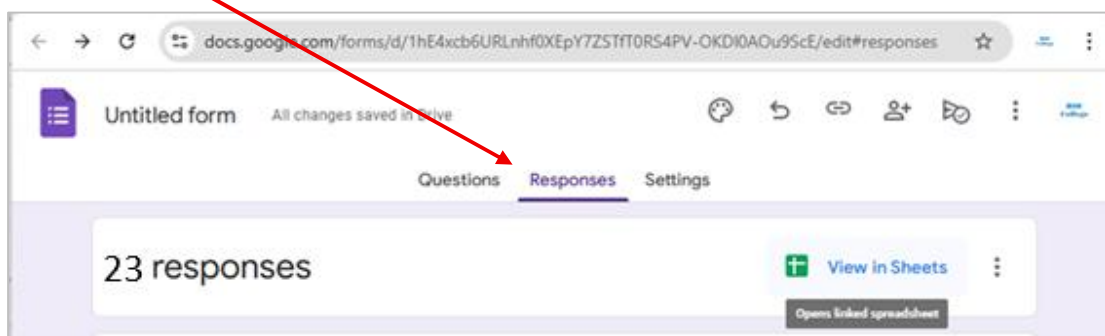
Again, push “Publish” . Click “Shorten URL” and push “Copy” . Push “Copy” so that you can obtain URL.



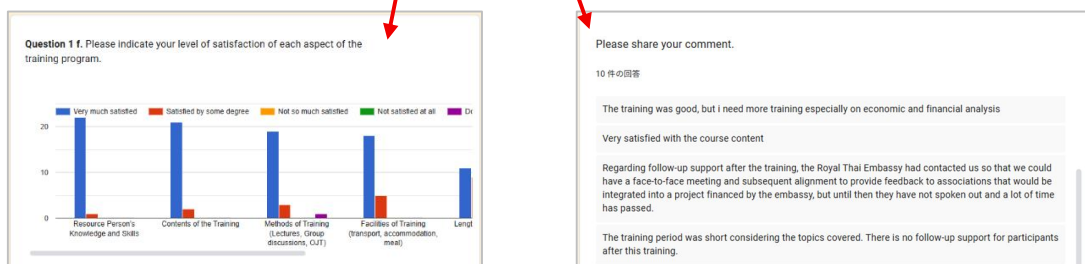
Please use the obtained URL in your **Survey Invitation email** to each your respondent (ex-trainees).

Step 6: Obtain a quick report

Click “Responses” from the menu.



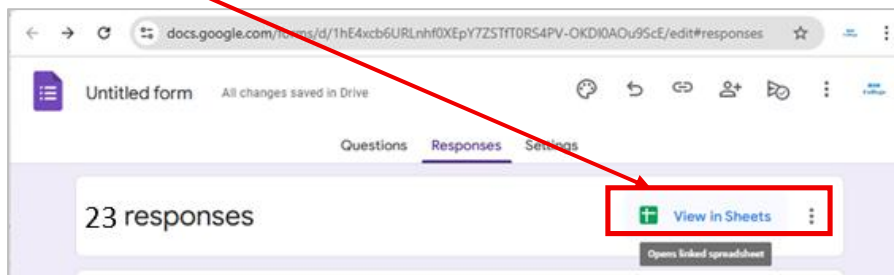
You can see the **aggregated results (Figures & free comments)**. You can copy & paste for reporting.



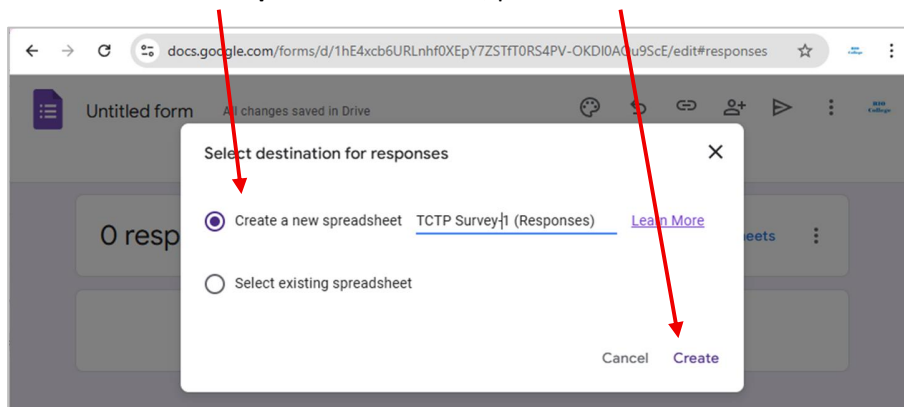
Tool 1_ Google Survey

Step 7: Obtain a MS-Excel format file

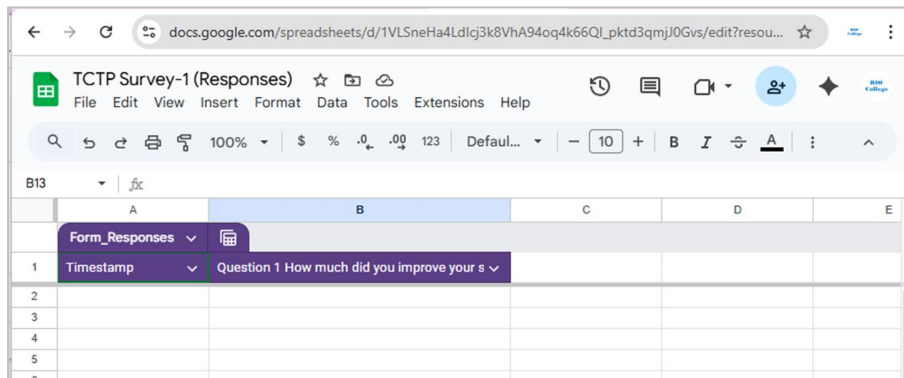
Click “View in Sheets”.



Click “Create a new spreadsheet”. Then, push “Create”.



You can see the result in MS-Excel type spreadsheet. You can save it as an MS-Excel file.



Now you can use it for professional statistical analysis using **SPSS**, **STATA**, **SAS** and other software.

3. Caution

Google Survey is a powerful tool for your survey. You should respect privacy of any respondent. Thus, the following declaration should be added at the end of the survey sheet.

***** Confidentiality is strictly secured. Thank you very much for your cooperation for this survey!! *****

 JICA Agence Japonaise de Coopération Internationale République Démocratique du Congo TICA Thailand International Cooperation Agency	Sample Questionnaire for Trainees JICA's Third Country Training Programme (TCTP) in Thailand Confidential 15 minutes Survey
You can complete this survey within 15 minutes. Confidentiality is strictly secured by an independent study team	

The course number & course title for this survey:	XXX
--	------------

1. Knowledges and skills you obtained and satisfaction

Question 1 a. Please indicate the sessions of the training program you attend.

Question 1 b. "After completion of the training, did you receive a certificate (Certificate of Completion) from the Thai side (TICA, the training implementing agency, or JICA Thailand Office)?"

Question 1 c. Please indicate the progress of your subject-matter or sector knowledge and skills through the training program.

Question 1 d. Please indicate the progress of your general knowledge and skills through the training program.

Question 1 e. To what extent did you find this training relevant to your work?

Question 1 f. Please indicate your level of satisfaction of each aspect of the training program.

Question 1 g. Have you been able to apply the knowledge and skills learnt from the training courses in your work?

Question 1 h. How have you applied the gained knowledge and skills learnt from the training ? (Multiple answers allowed)

Question 1 i. Did you implement your action plan after returning to your country?

2. "Success Case" (Good practice)

Question 2 a: Please indicate "Success Case" (good practice) in which TCTP contributed to your work.

Question 2 b: Please explain your "Success Case" (Good practice) in detail.

3. Networking/communication after the training program

Question 3 a: Please indicate the level of networking/communication with stakeholders of the training program.

Question 3 b: Please explain the reason why you have communicated with other stakeholders after the training program.

Question 3 c: Please share the remarkable or good events that happened due to maintaining the communication with other stakeholders (e.g., exchange the new knowledge or experience).

4. Promotion and contribution of the training program

Question 4 a How much degree have you promoted comparing the position before you joined the TCTP training and the current position?

Question 4 b: What is the degree of contribution of joining the training for your such promotion?

5. Your comments and suggestions

Question 5: [To further promote disability-inclusive disaster risk reduction \(DIDRR\) in your country,](#) please share your comments or suggestions about TCTP.

6. Your positions (at the training and the current)

Question 6 a : Your organization and position at the time you joined the training program

Question 6 b: Your current position

Final question: Your contact information

Please provide your contact information.

 TICA Thailand International Cooperation Agency	Sample Questionnaire for Trainees' Affiliated Organizations JICA's "Third Country Training Programme (TCTP) in Thailand Confidential 15 minutes Survey
You can complete this survey within 15 minutes. Confidentiality is strictly secured by an independent study team	

The course number & course title for this survey:	XXX
--	--

1. Achievement of dispatch of trainees

Question 1 a. Please indicate the number of trainees (= your staff) to the training program.

2. Knowledge and skills learned and applied

Question 2 a. How do you assess the overall degree of returning trainees' subject-matter or sector knowledge and skills utilized in your organization?

Question 2 b. How do you assess the overall degree of returning trainees' new general knowledge and skills utilized in your organization?

Question 2 c. Does your ministry/organization conduct any activity in which the trainees share their obtained skills and knowledge among his/her colleagues after returning from the training?

3. Promotion

Question 3 a: What is the degree of promotion for trainees comparing before and after the training and the degree of contribution of joining the training (You can add additional tables as necessary.)?

4. Your satisfaction of dispatch to the training program

Question 4 a. Please indicate your level of satisfaction of contents of the training program.

Question 4 b. Please indicate your level of satisfaction of the process of the training program.

Question 4 c. Please indicate your overall satisfaction of the training program.

5. Comparison with other training program

Question 5 a. Has your organization dispatched your staff to the similar training programs (by international organizations / foreign governments) other than TCTP in related fields in the past five years?

Question 5 b. If yes, which training program and how many staff were dispatched?

Question 5 c. How much degree is TCTP effective (effect/impact) by comparing with other training programs that your organization has dispatched your staff to?

Question 5 d. How much degree is TCTP efficient (cost-efficient) by comparing with other training programs that your organization has dispatched your staff to?

6. "Success Case" (Good practice) of Organizational level

Question 6 a: Please indicate "Success Case" (good practice) in which TCTP contributed to your organization.

Question 6 b: Please explain "Success Case" (Good practice) of organizational level in detail.

7. Your comments and suggestions

Question 7: To further promote disability-inclusive disaster risk reduction (DIDRR) in your country, please share your comments or suggestions about TCTP.

Tool2: Success Case Method (SCM)

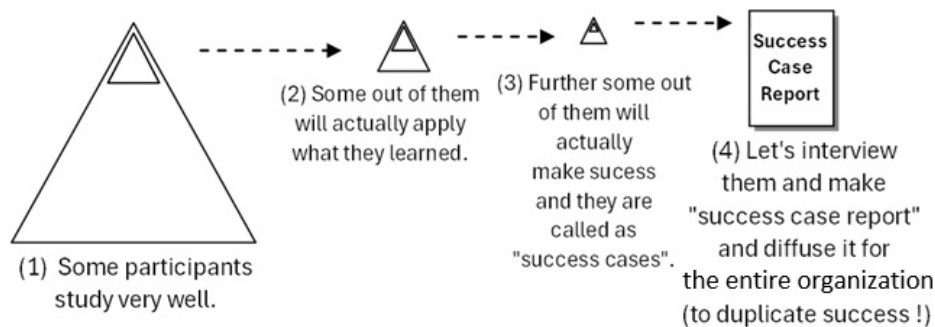
1. Purpose of SCM (Success Case Method)

SCM is a relatively quick and easy method of finding out what is working and what is not, which also provides accurate and trustworthy information that can be used to make timely decisions.

SCM does not try to make a summative judgement about the worth and merit of a change initiative. It is not intended to replace more rigorous and comprehensive evaluation, just offer an alternative and useful tool.

It is not so worthwhile if all (or almost) participants improved their skills equally but a little bit (e.g., an average satisfaction improved from 3.2 to 3.4) every time. On the other hand, it can be said it is highly successful if one (or a few) participants made an extraordinary success that can influence the entire organization under specific conditions.

Thus, SCM search and find such “Success Cases”, and analyze and identify which conditions need to be met for making extraordinary success happens. We can utilize this information to increase the number of Success Cases.



2. Steps of SCM (Success Case Method)

Basic steps of SCM are as follows.

#	Steps
1	Creating an “Theory of Change” (= Logic model) that define what success should look like
2	Designing and implementing a <u>survey for all participants</u> to search for best and worst cases
3	Taking <u>In-depth interviews</u> with Success Case implementers and documenting Success Cases
4	Making a “Success Case Report “including findings, conclusions and recommendations

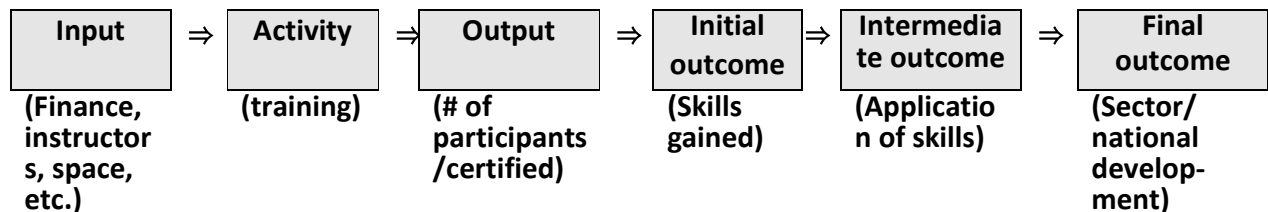
(Source) Brinkerhoff, R.O. (2002). *The Success Case Method: Find out quickly what's working and what's not*. Berrett-Koehler Publishers, Inc. P29. Some words were improved.

3. Brief explanation of each step of SCM

Each step has some specific procedures. Brief explanation of procedures is as follows.

Step 1: “Theory of Change” (=Logic model)

Construct a Theory of Change (a.k.a. Logic model) underlying the training program so that we can define what success should look like. Theory of Change usually consists of four or five cause-effect relationships.

**Step 2: A Survey for all participants**

Construct survey questions along with each component of the Theory of Change. It is recommended to use Google Form Survey or other survey software to prepare a survey form. The survey should target all participants in the training. The survey form should include the questions of the following categories.

1. Knowledge and skills you obtained
2. Satisfaction of the training program
3. “Success Case” you made
4. Recommendation and suggestions
5. Your contact information (email + phone #)

Step 3: In-depth Interviews

After the “Success Cases” identified, contact the participants who reported each “Success Case”. Conduct an in-depth interview by face-to-face or via remote communication tool (Zoom, Teams, Google meet, etc.). The interview should cover the following questions.

1. Success Case in detail
2. Factor or condition affected for making your “Success Case” in addition to joining the training.
3. Recommendations for replicating “Success Case” for other people

Step 4: Making a “Success Case Report”

Write a “Success Case Report” including findings, conclusions and recommendations. The report should consist of the following items.

1. Result of the survey of all participants.
Average and standard deviation with narrative comments.
2. “Success Case”
 - 2-1. Success Case in detail
 - 2-2. Factor or condition affected for making your “Success Case” in addition to joining the training.
 - 3-3. Recommendations for replicating “Success Case” for other people
3. Overall conclusions and recommendations for the organization.

Success
Case
Report
(Narrative)

Tool3: “Value Added of Triangular Co-operation and Examples of Indicators” by the OECD

The table below summarizes the six areas in which triangular co-operation may generate value added, as identified in the OECD Toolkit, together with illustrative examples of indicators. These areas and indicators are intended to provide guidance and inspiration when designing, monitoring, and evaluating triangular co-operation initiatives.

No.	Value Added Area	Examples of Indicators
1	Building ownership and trust	• Proportion of partners feeling valued (%) • Share of partners who felt they could influence the process (%) • Dollar value of contributions (in-kind, staff time, funding) by each partner • Evidence of joint fund/resource administration (yes/no) • Share of project decisions taken jointly (%)
2	Promoting complementarity and increasing co-ordination in development co-operation	• Number of cases showing specific expertise/technology brought by partners • Share of local and international experts (%) • Examples of complementarity between capacities and exchange of experiences • Evidence of adapted development co-operation mechanisms (yes/no) • Examples of triangular activities aligned to national development strategies
3	Sharing knowledge and learning jointly	• Proportion of partners perceiving knowledge sharing (%) • Examples of joint learning applied in the project (yes/no; number) • Share of partners applying newly acquired capacities (%) • Evidence that lessons learned feed into future activities • Examples of institutional changes resulting from joint learning
4	Co-creating solutions and flexibility	• Examples/share of solutions jointly developed (%) • Number of adapted tools, systems or technologies • Examples of policies or regulations changed (yes/no; number) • Evidence of mobilised expertise from fragile or specific contexts • Examples of capturing and applying local knowledge
5	Enhancing volume, scope and sustainability	• Monetary value of additional resources mobilised beyond initial budget • Number of additional partnership agreements • Examples of follow-up activities after project completion • Evidence of continued co-operation beyond project duration • Examples of scaling-up successful experiences
6	Achieving global and regional development goals through strengthened partnerships	• Evidence of alignment with SDG targets (yes/no; number) • Examples of promoting local good practices globally • Number of different stakeholder types engaged • Examples of changes in development policy discourse • Evidence of multi-stakeholder participation

Source : OECD, Toolkit for Identifying, Monitoring and Evaluating the Value Added of Triangular Co-operation

Tool 4: Evaluation Results Table

#	Name of Training Course
---	-------------------------

Evaluation Criteria	Evaluation Questions	Results	Difference and Factor Analysis / Judgment	Resource
Relevance	Consistency with the Development Plan Is the training content consistent with the partner country's development policies and development plans (at the national, regional, and sectoral levels)?			
	Consistency with the Development Needs Was the training consistent with the needs of the target groups in the partner countries?			
	Appropriateness of the Project Plan and Approach - Was the training content appropriate in relation to the needs of the trainees? - Were the roles and responsibilities between the Japanese and XXX appropriately divided to ensure effective training content? - Was the logic between inputs and outputs properly designed to lead to the achievement of the outcomes and overall objectives?			
Coherence	Consistency with Japan's ODA Policy Is the training consistent with Japan's aid policy and the Ministry of Foreign Affairs' country assistance policy?			
	Internal Coherence Was coordination carried out with other JICA projects, as well as with Japan and other development cooperation agencies?			

Evaluation Criteria	Evaluation Questions	Results	Difference and Factor Analysis / Judgment	Resource
	Coherence with XXX Policy Is the training consistent with XXX aid policies and strategies?			
Relevance Sub-Rating : (The justification for this assessment is described) ④ Very High: ③ High: ② Moderately low ① Low Coherence Sub-Rating : (The justification for this assessment is described) ④ Very High: ③ High: ② Moderately low ① Low Relevance and Coherence Rating: Therefore, the rating of relevance and coherence is ④ Very High: ③ High: ② Moderately low ① Low				
Effectiveness	Contents of Outcomes - Were the goals at the time of participation achieved? - Did the trainees acquire the knowledge and skills provided in the training?			
	Satisfaction with TCTP To what extent were the participants satisfied with the training content?			
	Causal Relationship What factors contributed to or hindered the achievement of the training objectives?			
Impact	Prospect of Impact / Causal Relationship - Has any impact been observed or is it expected to occur as a result of the training implementation? - Are there any success cases that can serve as good practices for other countries or other training courses? (The number of cases is not limited.) - Have the external conditions required to achieve from outcomes to impacts been appropriately identified? Is the external condition expected to be met? - Are there any factors that may hinder achieve impacts? - Are positive impacts expected because of the			

Evaluation Criteria	Evaluation Questions	Results	Difference and Factor Analysis / Judgment	Resource
	program? Regarding potential negative impacts, are measures in place to mitigate them? - Are impacts on Japan expected to be achieved? - Are impacts on XXX expected to be achieved? - Are impacts on the target countries expected to be achieved?			
	Other Impact (e.g., impacts on the training institutions or instructors).			
Effectiveness/ Impact Rating : (The justification for this assessment is described) Therefore, the effectiveness and impacts of the project are ④ Very High: ③ High: ② Moderately low ① Low				
Efficiency	Project Plan		●	●
	Were the necessary inputs, in terms of both quantity and quality, appropriately planned to produce the planned outputs?			
	Project Period/Timing		●	●
	- Was the project duration appropriately set in accordance with the project plan? Was the project completed within the planned period? - Were the preconditions, timing, and methods of inputs (including procurement procedures) appropriately planned? - Compared with other training programs implemented by JICA and TICA, did this program demonstrate any advantages in terms of the content or method of input relative to the achieved outputs?			
	Implementation Process			
Efficiency Rating : (The justification for this assessment is described) Therefore, the efficiency of the project is ④ Very High : ③ High: ② Moderately low ① Low				
Sustainability	Institutional Aspect Has a network been established (e.g., between		●	●

Evaluation Criteria	Evaluation Questions	Results	Difference and Factor Analysis / Judgment	Resource
	returned trainees and JICA/TICA or training instructors)? ● Has a network been established among the returned trainees?			
	Financial Aspect ● From the perspective of sustaining the training effects, have adequate budgetary measures been ensured?			
	Technical Aspect ● Are the technologies introduced through the training accepted by the trainees and their organizations, and can they be continuously implemented?			
	Action Plan ● Have the trainees who developed action plans implemented and continued their activities after returning to their home countries?			
	Contributing / Inhibiting Factors ● What factors have contributed to or hindered the sustainability and dissemination of the training outcomes?			
Sustainability Rating: (The justification for this assessment is described)Therefore, the sustainability of the project effects is ④ Very High : ③ High: ② Moderately low ① Low				
Overall Evaluation Results (Sample Sentence) Relevance and Coherence of this course are assessed as very high, and its effectiveness and impact are also assessed as very high. The efficiency of the course is assessed as high, while some challenges remain in terms of sustainability. Overall, the course is rated A (Very High).				
Overall Rating: A(highly satisfactory) : B(satisfactory) : C(partially satisfactory) : D(unsatisfactory)				

Lesson learned :

Suggestions :

Tool JICA's Rating Method for Ex-Post Evaluation

No	Item	Points	Criteria	Notes
(1)	Relevance	Evaluate relevance to/consistency with development policies, needs at appraisal and at present, as well as appropriateness of planning and approach, including considerations for not leaving anyone behind	Not only consistent in all three aspects, but also inspirational for other projects ④ Consistent in all three aspects ③ Partially inconsistent ② Not only inconsistent, but also problematic ①	<u>Overall Relevance/Coherence</u> Merge the Relevance(R) and Coherence (C) sub-ratings together, based on the following combinations: R4-C4, R4-C3, R4-C2, R3-C4..... ④ R3-C3, R3-C2..... ③ R2-C4, R2-C3, R2-C2..... ② R1-C1, R1-C2, R1-C3, R1-C4, R2-C1, R3-C1, R4-C1..... ①
(2)	Coherence	Evaluate 1) consistency with development assistance policies of the Japanese Government and JICA, 2) synergy effects and complementarity with the other JICA projects, and 3) coordination with other assistance from partner organizations.	Consistent with Japanese government/JICA policies, and more coherent than planned in both 2) and 3) with some concrete outcome..... ④ Consistent with Japanese government/JICA, and coherent in 2) or 3) with some concrete outcome..... ③ Consistent with Japanese government/JICA, but not coherent in either 2) or 3) or there is no concrete outcome to be confirmed ② Not consistent, and not coherent ①	
(3)	Effectiveness Impacts	Evaluate the achievement levels in the short-term/direct outcome as well as mid-to long-term outcome, including positive and negative effects, produced by the project.	Exceeding the original plan ④ Between 70 % and 100% of the original plan ③ 50% or more, but less than 70% of the original plan ② Less than 50% of the original plan ①	- Consider multiple indicators and compare planned and actual figures to measure the achievement levels in the effectiveness of the project. - Positive/negative impacts on economy, society, natural environment, social system/norm, people's well-being, human rights, and gender equality.
(4)	Efficiency	Compare planned and actual figures, in terms of project output, period, and cost. Based on the results of each comparison, rate the overall efficiency of the project.	<u>Project Period</u> 100% or less of the original plan 4 points More than 100%, but 125% or less of the original plan 3 points More than 125%, but 150% or less of the original plan 2 points More than 150% of the original plan 1 point <u>Cost (total project cost in foreign currency)</u> Same as above	If there is a decrease in output, the rating for project period and cost should take the change into consideration. <u>Overall Efficiency</u> Rate the overall efficiency based on sum of the two points (sub-ratings of "Project Period" and "Cost"). 8 points "Very high" ④ 6-7 points "High" ③ 4-5 points "Moderately low"..... ② 2-3 points "Low" ①
(5)	Sustainability	Evaluate sustainability based on institutional / organizational, technical, financial, and social & environment aspects, risks, and status of operation & maintenance.	No issue is observed and risks have been mitigated..... ④ There are minor issues, but they are expected to be addressed ③ There are minor issues, and there is no prospect for improvement ② There are serious concerns..... ①	Assign "①" rating to projects with liabilities exceeding assets, chronic negative profits, or severe budget shortages, etc.

Rating Flowchart

